



Research Survey Reports in Information Studies, The University of Tokyo

No.33

2017

CONTENTS

Events of Affect: Interface, Liveness, and Phaticity

| | | |
|------------------|-------------|----------|
| NOZAWA, Shunsuke | NAMBA, Anni | }..... 1 |
| NAMBA, Junya | NIITA, Chie | |
| KONDO, Kazuto | | |

Survey on the Information Behavior of Teenagers during the 2016 House of Councillors Election Campaign

| | | |
|---------------------|---------------------|-----------|
| HASHIMOTO, Yoshiaki | OGASAHARA, Morihiro | }..... 31 |
| KAWAI, Daisuke | NAGAHAMA, Ken | |
| YOSHIDA, Wataru | | |

Survey on the Attitude toward the Provision of Personal Information: Cross-National Comparison among Japan, the United States and Germany

| | | |
|---------------------|----------------|------------|
| HASHIMOTO, Yoshiaki | KAWAI, Daisuke | }..... 113 |
| HASHIDA, Koiti | | |

Survey on Internet Addiction among Junior High Students in Yokohama City

| | | |
|---------------------|------------------|------------|
| HASHIMOTO, Yoshiaki | OHNO, Shiroh | }..... 159 |
| AMANO, Mihoko | HORIKAWA, Yusuke | |

The Problem of Information Dissemination and Evacuation Behavior in Joso City under Kanto-Tohoku Heavy Rainfall Disaster in September 2015

| | | |
|-----------------|-------------------|------------|
| SAKUMA, Atsushi | KASHIWADA, Sumire | }..... 221 |
| ARAKI, Masaya | MATSUO, Iciro | |
| SEKIYA, Naoya | | |

May Disaster Strengthen the Present Bias?: A Case Study of the Kumamoto Earthquake

| | | |
|-----------------|---------------------|------------|
| TANAKA, Atsushi | KOBAYASHI, Hideyuki | }..... 261 |
|-----------------|---------------------|------------|

情報学研究
調査研究編

33

東京大学大学院情報学環

東京大学大学院情報学環

情報学研究 調査研究編

Research Survey Reports in
Information Studies

Interfaculty Initiative in Information Studies
The University of Tokyo

2017 No.

33

東京大学大学院情報学環

東京大学大学院情報学環

情報学研究 調査研究編

Research Survey Reports in
Information Studies

Interfaculty Initiative in Information Studies
The University of Tokyo

2017 No. **33**

東京大学大学院情報学環

Research Survey Reports in Information Studies
The University of Tokyo

No.33 目 次 (Contents)

| | | |
|--|---|-----------|
| 情動の出来事性 —インターフェイス・ライブ性・交感— | (野澤 俊介、難波 阿丹 難波 純也、仁井田千絵 近藤 和都) | …………… 1 |
| 2016 年参議院選挙における投票行動 —選挙年齢引き下げで若者はどう対峙したか— | (橋元 良明、小笠原盛浩 河井 大介、長濱 憲 吉田 航) | …………… 31 |
| 医療・健康情報を中心とする個人情報提供に関する寛容度と不安 —日米独3国国際比較調査— | (橋元 良明、河井 大介 橋田 浩一) | …………… 113 |
| 横浜市中学生ネット依存調査 | (橋元 良明、大野 志郎 天野美穂子、堀川 裕介) | …………… 159 |
| 平成 27 年 9 月関東・東北豪雨における常総市の情報伝達と避難行動 | (作間 敦、柏田すみれ 荒木 優弥、松尾 一郎 関谷 直也) | …………… 221 |
| 地震災害は現在バイアスを強めるか—熊本地震災害を事例として— | (田中 淳、小林 秀行) | …………… 261 |

情動の出来事性

——インターフェイス・ライブ性・交感——

Events of Affect: Interface, Liveness, and Phaticity

野澤俊介 NOZAWA Shunsuke

難波阿丹 NAMBA Anni

難波純也 NAMBA Junya

仁井田千絵 NIITA Chie

近藤和都 KONDO Kazuto

【目次】

1. はじめに（野澤俊介）
2. 情動とインターフェイス（難波阿丹・難波純也）
 - 2.1 「情動（affect）」の理論的背景（難波阿丹）
 - 2.2 Vineの映像をめぐる情動——顔、空間（難波純也）
3. ライブ性と時間—空間（仁井田千絵・近藤和都）
 - 3.1 「ライブ性」の由来（仁井田千絵）
 - 3.2 ライブ性の再帰性（近藤和都）
4. 声、隠匿、交感労働（野澤俊介）
 - 4.1 交感
 - 4.2 二つの声
 - 4.3 「中の人」の労働
5. おわりに（野澤俊介）

キーワード：指標、情動、顔、声、「いま-ここ／あの時-あの場所」

| | |
|--------|----------------------------|
| 野澤 俊介 | 東京大学大学院情報学環 |
| 難波 阿丹 | 上智大学グローバル教育センター・早稲田大学国際学術院 |
| 難波 純也 | 東京大学大学院学際情報学府博士課程 |
| 仁井田 千絵 | 早稲田大学総合研究機構 |
| 近藤 和都 | 日本学術振興会 |

1. はじめに（野澤俊介）

本稿では指標的コミュニケーションの視座から情動の分析を試みる。情動の歴史的・技術的・社会的諸条件をメディア文化やコミュニケーションの実践における出来事のレベルで捉えるにはどのような視点が適当か。より具体的な分析の射程を定めるため、情動に「ライブ性」と「交感」という二つの側面を加えて考察し、出来事としての情動を、その生起の文脈における条件と効果のうちに読み直す実験的論考を展開する。具体的事例の検討を通して、メディア文化における情動の出来事、その指標的媒介の中心的役割を浮き彫りにし、情動理論における指標性の分析的有用性を模索する。

本稿に通底する概念である「指標 (index)」とはチャールズ・サンダース・パース Charles Sanders Peirce による記号分類の用語であり、多様な定義が可能だが、ひとまずはそれを矢印や人差し指 (index finger) が何かを指し示すという記号過程、より一般的に「注意を喚起するもの」として理解してみよう (Peirce 1995: 108; Cray 1999)。この指標性という視座から現代のメディア環境を眺めてみると、日常的メディア空間（特に高度にネットワーク化されたそれ）における指標的コミュニケーションの飽和を垣間見ることができるだろう。

例えば、スマートフォンなどに絶えず現れる「アラート」や「ノーティフィケーション」はデジタルな人差し指であり（そしてそれはユーザーのリアルな人差し指による行動を促す）、グーグル Home などのいわゆるオールウェイズ・オンのデバイスは、デバイスを「起こす」ための「ウェイク・ワード」の発話を要請する。新聞などの見出しは常に指標的であるが、インターネット上の「クリックベイト」(clickbait; 扇動的見出しでクリックを誘発する、往々にして「釣り」的と理解される行為) は日常生活の中に新たな指標性の時空間を浮き彫りにする。「荒らし」的ネットワーク状況においては、反応することそのものが（第 45 代アメリカ合衆国大統領のツイート実践に見られるように）情動の政治力学の可視化に寄与する。

こういった指標性の活性化するメディア環境においては、広告や政治などの制度的文脈のみならず、個人・集団間の多様な調停・媒介行為においても、政治的・経済的・美的介入点としての指標的記号過程——そしてその管理——が重層的な意味を持つことになる。私たちに絶えず向けられた矢印はどのように管理されるか、矢印と化した私たち自身の生はどのように管理されるか。指標的コミュニケーションは、私たちの身体や感覚、概念や感情の多彩な変様、すなわち情動をどのように規定し、要請するのか。

情動を指標性の視点から捉えること、すなわちその出来事性を歴史的・技術的・社会的な文脈に即して検証すること、これを分析の契機として、第 2 章以降具体的事例を通して論を展開する。特に、指標性概念の根幹の意味が近接や継起、共・生起といった関係性その

ものであることを鑑みて、本稿ではその関係性の中に生じる中間性、複数のものの〈間〉という観点を強調する。写真や映画、動画などの記録（あの時-あの場所）とそれを受容する現在の実践（いま-ここ）という2点の接続は、指標的な媒介を必要とし、メディア文化のインフラストラクチャは、コンテンツをその受容者にアクセス・近接させるという意味で、指標性のシステムである。オリジナルとコピーの間、メディア環境に内在する時間空間的非均一性、接続と切断のインターフェイスなど、メディア実践において散見される多様なかたちのギャップ・溝・隔たりが情動の出来事をどう構成するのかを探る。

第2章ではスマートフォンアプリを通じた動画共有の実践における顔の情動を分析し、インターフェイスがもたらすユーザー間の隔たりの変様と、鑑賞という出来事における新たな情動の可視化を考察する。第3章では映画受容における情動が、メディアのインフラ構造における時間空間的ギャップという条件のもと、ライブ性を事後的に見出す再帰性によってどのように規定されるかを検証する。第4章では声優の声の実践をキャラクターと人間の間が生じる中間性に位置づけ、声優の顔の隠匿がもたらす交感性を情動労働との関係において文脈化し、その中間性が媒介する接続と切断の様相を分析する。

2. 情動とインターフェイス（難波阿丹・難波純也）

2.1 「情動（affect）」の理論的背景（難波阿丹）

現代のメディア環境においていとなまれている接触を基軸とした指標的コミュニケーションを考えるうえで補助線となるのが、「情動＝アフェクト（以下「情動」）」の概念である。情動とは、感情とは異なり、身体的な刺激・反射反応に由来し、1970年代以降テキスト・表象分析に偏向していた映像・メディア研究においても、映像の観者に与える「直接的な」影響力を測定する枠組みとして、主要な問題系を形成している。

情動は、認知科学、神経科学、心理学、精神分析学等の関連領域で、多義的な解釈がなされている経緯があるが、メリッサ・グレッグ Melissa Gregg とグレゴリー J. サイワース Gregory J Seigworth はその理論的潮流について、*The Affect Theory Reader*（2010）において分類を試みている。グレッグとサイワースは、同著で情動論の端緒を1995年に刊行された論考、すなわちイヴ・セジウィック Eve Sedgwick とアダム・フランク Adam Frank の“Shame in the Cybernetic Field: Reading Silvan Tomkins”と、ブライアン・マッスミ Brian Massumi の“The Autonomy of Affect”に認めている。同論考は、人文諸科学の2つの動向、シルヴァン・トムキンス Silvan Tomkins の心理生物学とジル・ドゥルーズ Gilles Deleuze のスピノザ主義的生態学を明確化したというのである。

情動解釈の一端に（Gregg and Seigworth eds. 2010: 20-22）、20世紀半ばドゥルーズが『スピノザ——実践の哲学』において、同語の由来を「affectio＝変様」と「affectus＝情動」として定義した経緯が挙げられる。「affectio＝変様」とは、物質的・身体的痕跡であり、情動を触発した外部の身体と、変様する内部の身体を含む像の観念において把握される。一方、「affectus＝情動」とは、動的な概念である。この用語は、状態の推移を指示しており、像の観念の持続的契機、あるいは連続的変移が提起されている。同書において、両概念の相違が述べられている箇所から引用したい。

これまで、変様、変様状態（アフェクチオ[affectio]）は概して直接、身体や物体について言われるが、情動（アフェクトゥス[affectus]）は精神に関係しているといった指摘がなされてきた。しかしこの両者の真の相違はそこにあるのではない。真の相違は、身体の変様やその観念がそれを触発した外部の体の本性を含むのにたいして、情動の方は、その身体や精神のもつ活動力能の増大または減少を含んでいるところにある。アフェクチオは触発された身体の状態を示し、したがってそれを触発した体の現前を必然的にともなうのに対して、アフェクトゥスは、ひとつの状態から他への移行を示し、この場合には相手の触発する体の側の相関的変移が考慮に入れられてい

る。感情という情動が特殊なタイプの観念や変様として提示されることはありうるにしても、変様（像または観念）と情動（感情）とは本性を異にするのである。

(Deleuze 1981=2002: 184)

ドゥルーズは情動を「affectio=変様」、および「affectus=情動」の2つの像=観念で把握している。これらは、映画が投射するイメージの連鎖と並行的に語りうる動的な概念である。情動とは連続的に推移する像としての身体的な痕跡であり、それはテキストや記号によって把捉される対象ではなく、知覚・感覚的に体験され、身体の基層へと働き掛ける機能をもっている。また、情動によって喚起された精神や身体の変化は、強弱という水準の差異をもって語られるのである。

マッサミは、2008年の対談において、情動の多数性に注意を促したうえで、スピノザの解釈として身体の「情動化する能力とされる能力（‘ability to affect or be affected’）」を挙げ、「情動（affectation）」が「中間性（in-betweenness）」において機能することを指摘する（Massumi 2015: 47-48）。また、それが習慣や、習得したスキル、傾向、欲求、意志といった過去に含まれる主観的な要素における受容の型に結び合わされる身体的な状態の変化だと定義づける（Massumi 2015: 49）。マッサミの論じる情動とは、中間性において継起する、すなわち身体と事物とを隔てる「インターフェイス（interface）」において経験される出来事と言えるのである。

メディアム（媒介）としての「インターフェイス」はしばしば、「鏡」や「窓」の比喩で語られ、その「反映性」と「透明性」が問題視される¹。そして、コミュニケーションにおける身体表出的な「インターフェイス」としてしばしば参照されるのが、映像技術においてはクローズアップで拡張される「顔」の平面である。ドゥルーズの情動・身体論において重要な点は、情動が「顔」として発現するとき、それが「個体」性および、「空間性」を失うという指摘である。ドゥルーズは「情動と顔との総体は、[パースの用語で]「類似記号」と呼ばれる」（Deleuze 1983=2008: 172）とし、「顔」がクローズアップ技巧において発現するとき、観者に情動を喚起し、情動は強度をもたらすと論じている。そのとき情動イメージは、イメージが置かれた時空間から切り離され、観者に対して現前する。ドゥルーズはこのような顔・クローズアップの特質を、以下のように述べている。

顔・クローズアップは背景を含むことができるし、とりわけディープフォーカスの場合にはそうである。しかしクローズアップは、以上のどの場合においても、以下のような同じ能力を保持している。すなわち、表現されるかぎりでの純粋な情動を出現させ

¹ インターフェイスにおける「窓」あるいは「鏡」の比喩については Bolter and Gromala (2003) を参照。

るためにイメージを時空座標から引き離すという同じ能力をである。背景のなかにもまた現前している場所ですらおのれの座標を失い、そして「任意空間」へと生成する（エイゼンシュテインの反論を制限するもの）。（Deleuze 1983=2008: 171）

ドゥルーズは、映画において発現する情動イメージを人物の顔面のクローズアップに帰着している。「情動イメージ、それはクローズアップであり、クローズアップ、それは顔である」（Deleuze 1983=2008: 176）。そのような顔とは多層的な平面から構成されているとドゥルーズは主張し、動性と静止性によって強調されているとするのだ。更にドゥルーズは、ベルイマンの映画に登場する顔の形象を例に挙げながら、以下のように情動の分割不可能性と情動の組み合わせにある特異な性質を定義している。

まず、ひとりの登場人物が自分の職業を捨て、自分の社会的役割を放棄した。つぎに、彼はもはや、コミュニケーションをとることができないし、あるいはとりたいとも思わず、ほとんど絶対的に口がきけない状態に襲われる。さらに、彼は自分の個体化さえも失っているのだ、その結果、他者との奇妙な類似を、すなわち欠如ないし不在による他者との類似を帯びてしまう。（Deleuze 1983=2008: 172）

以上の記述には、情動が間主観的に生起すること、そのうえで個々の登場人物の人称が剥奪され、他との区別が消滅し、奇妙な類似性を帯びてしまうことを指摘する。これは群衆行動としての世論における情動の動態と類同的である。情動的な身体とは、他の個体と呼応する身体であり、そこにおいて成立しているのは他との意識を解したコミュニケーションではなく、物理的な接触による「伝播」や「感染」といった集散的な伝達回路である。

では、強度として把握される情動は果たして計測可能なのだろうか。このような疑問に対して、ドゥルーズは、情動の分割不可能性と可能性にも言及する。

情動は非人称的なものであり、個体化された事物状態から区別されるものである。しかしそれでもなお、情動は特異なものであり、他の諸情動との特異な組み合わせもしくは特異な接続に入ることができるものである。情動は、分割不可能であり、諸部分をもたない。しかし、情動が他の諸情動とともに形成する特異な組み合わせの方は、なるほど分割不可能な質を形成するのだが、この分割不可能な質は、本性を変えることによってのみ分割されるだろう（「分割的」なもの）。（Deleuze 1983=2008: 175）

ドゥルーズは以上のように、情動イメージを映画においてクローズアップによって拡大された「顔」という平面に見出し、情動が生起するとき、その「顔」は奇妙にも人称や個

体性を喪失していると指摘する。スピノザの生態論的哲学における情動への言及とも連動するかのよう、ドゥルーズは情動を間主観的に生起し、伝播する強度の強弱の波のように捉えている。次節では、以上のようなドゥルーズの情動に関する解釈を踏まえ、現代的なメディアの事例として、「Vine」によるコミュニケーションの実態を捉えることを目指したい。

2.2. Vine の映像をめぐる情動——顔、空間（難波純也）

前節では、情動の理論的背景に注目し、特にドゥルーズの映画における情動イメージについて整理した。ここからは、ドゥルーズの情動イメージを適用でき、あるいは発展させる最近の事例を考察していく。取り上げるものは、昨今の多くの若者たちに利用されているスマートフォンであり、そのスマートフォン向けのアプリケーションの Vine²である。このメディアはまさに「顔」を重要なキーワードとするインターフェイスであり、情動を生み出すものである。このことを踏まえながら、現代のドゥルーズの情動を捉え直す。

まず、本節で取り上げる Vine について整理すると、このアプリケーションはスマートフォンに搭載されたカメラを使用して短い 6 秒の映像を撮影し、編集を行い、さらにはインターネット上にアップロードし、その映像を主に友人たちと共有しながら見せ合い、コメントといったコミュニケーションを取り合うものである。このようなスマートフォンを用いたメディア遊び（プラクティス）が現在若者たちの中の日常で繰り返されているのだが、この行為が可能となった背景には、カメラというメディアの大衆化が関与している。長谷正人（2014）は映像を「見ること」「撮ること」「撮られること」という三つの位相から映像文化の変遷について考察している。そのなかで長谷は、撮影機材の低価格化や市場化によって一般市民の間に映像を「撮る」ことが広まっていったと論じている。

とりわけ 1990 年代以降、デジタル（スチル）カメラ、デジタルビデオカメラ、カメラ付き携帯電話など、誰もが手軽に使える映像記録機器の大規模な社会的普及によって、私たちはそれ以前のように、プロがとった写真や映画を「見る」ことを楽しみにするだけでなく、自分自身が日常生活のときどきを「撮る」ことで記録・保存するという楽しみを覚えてきた。いわば映像文化における、公的空間から私的空間への拡張が起きたのだ。（長谷 2014: 114-115）

² スマートフォン向けのアプリケーション。2017 年 1 月 17 日にサービス提供を終了した。6 秒の短い映像をスマートフォンのカメラで撮影し、インターネット上にアップロードし、共有する。利用者のなかには、他の利用者から支持を集め、マスメディアにも紹介される一般の若者も登場していた（Reika Oozeki や H!RA など）。

この論点を踏まえると、「撮る」文化の変遷のまさに現在地点に、若者たちによるスマートフォンや携帯電話を使用して映像を「撮る」行為が位置づき、その一つが Vine であると考えることができる。映像を撮るためのカメラが、若者たちが常に所持しているスマートフォンに搭載され、なおかつ気軽に撮影や編集ができるインターフェイスとしての Vine といったアプリケーションの広まりによって、「撮る」文化が若者たちの日常のメディア遊びとして成立したのである³。このことを踏まえると、現代の映像をめぐるメディア状況は、ドゥルーズが情動を考察していた際のメディア状況とは異なっている。ドゥルーズが情動を考える際に参照したものは「映画」という特権的なメディアである。長谷も指摘するように、かつては映像を撮る機材に限られていた。そのため、映画制作者側からの一方的な映像提供による鑑賞者への「情動」作用を生み出していたのだが、現在のメディア状況はスマートフォンの普及を含む撮る機材の広まりによって、「映画」あるいは「映像」は特権的なものではなく、日常的なものとなりつつある。このことを踏まえると、映像がもたらす情動作用は、人々の生活世界に溢れている状況となったと考えることができ、この状況を前提に改めてドゥルーズの情動を捉え直す必要がある。

以上、情動を生み出す映像が日常的なものとなったことを前提に、次はその現在の日常に溢れている映像そのものからドゥルーズの情動を捉え直す。ドゥルーズは映像のなかのクローズアップによって多用される「顔」の平面をコミュニケーションにおけるインターフェイスとして重要視し、そこには「個体」性、ならびに「空間性」の消失が関与していることを指摘する。これらの視点は、まさに現代の Vine における映像にも重なる部分がある。例えば、スマートフォンに搭載されたカメラは、画角が狭く、通常のカメラと比較すると撮影する範囲が限られている。なおかつ、アップロードされた映像を見ると、多くの動画がいわゆる「自撮り」と呼ばれる撮影者を被写体として、スマートフォンを手を持って自らを撮影している手法で撮影されたものである。そのために、カメラと被写体との距離が近くなり、画角が狭くなってしまふ。このことに付随して、顔の接写も多く見られる。つまり、現代の若者たちが制作する多くの映像には、ドゥルーズが情動を考察する上で重要視した「顔」のクローズアップが多用されていること、さらにそのことと並行して、その映像にはクローズアップによる背景の消滅が生じ、映像そのものは「任意空間」を生成している。このような空間性の消失を実行しながら、映像が制作されているのであり、映像が特権的なものでなくなったとはいえ、ドゥルーズが考える映像の特質を、現在生み出されている多くの映像も保持しているのであり、彼の映像に対する考えの有効性は失われていない。また、論点は変わるが、顔のクローズアップ、さらにその顔は極度に喜怒哀

³ 長谷は先述した論考のなかの最後で、今日の映像文化は「自分が社会からこぼれ落ちていないことを確認する」(2014: 128) ための社会的な相互関係を示す手段の一つとして利用されていることを言及している。Vine もその一つとして捉えることは可能であろう。

楽といった感情が誇張された「表情」を映し出しているものも多い。渡邊大輔（2015）が指摘するように、とりわけ Vine で注目を浴びている動画のなかには、顔芸で鑑賞者を笑わせるものがある。

Vine 動画は、おうおうにして撮影者の日常や突飛なパフォーマンスや顔芸などを面白おかしく撮影・編集しただけの、簡素で断片的なイメージのたわ／むれである。そこには、構築的な物語も描写も存在しない。かわりに、撮影対象と鑑賞者の隔たりの感覚が取っ払われ、ただ、映像からダイレクトかつ「ダダ漏れ」的に伝わるノリ（リズム）と笑い、情動の力だけが過剰に露呈している。（渡邊 2015: 38-39）

この言及にもあるように、Vine の動画は物語性というよりは顔の表情による、鑑賞者の感情を揺さぶり、何らかの変化をもたらし、なおかつ、顔のアップに加えて、被撮影者（＝撮影者）と鑑賞者の隔たりがなくなる「任意空間」の生成という、ドゥルーズの映画の考えと共鳴していると考えられる。

このように、Vine を用いて制作された映像には、ドゥルーズが情動を考えるうえで注目した映像の「顔」の平面、あるいは空間性の消失といった特徴が見られることを指摘したが、最後に、再び彼の考えと現代の映像の特質の相違を見出し、そこから今日の映像を用いた情動について考察し直す。とりわけ、ここで再び注視するものは、その映像をとりまく「空間性」である。まず、Vine で制作する動画は 6 秒という極端に短い時間制限がかけられている。その短さゆえ、Vine で何か自己表現や映像を制作しようとする、先述した顔のアップや表情の誇張といった表現が多用され、そこに物語性を表現することは難しい。さらにその短い瞬間的な笑いという知覚を中心とした感覚的体験を鑑賞者に経験させる動画は、Vine のウェブページや Twitter のタイムライン上で共有され、スマートフォンを指でスクロールし、その動画にスマートフォンの画面が合わさると、強制的に再生され、なおかつ、鑑賞者が止める動作をしない限り、永遠とその 6 秒の動画が繰り返し再生されるループ動画となっている。このような、映像の強制的な鑑賞を強いることが Vine の特徴であり、なおかつ鑑賞者が気に入れば、イイネやコメントといった形で共有され、どのくらいの数の人々にその動画が鑑賞され、あるいは共有やコメントといったリアクションを得たかは数値データとして可視化もされる。動画の制作者の手から離れ、動画自身が鑑賞者を巻き込んで、鑑賞データを生み出す労働を生じさせているのだ。

ここまでの議論を踏まえると、Vine における空間性はドゥルーズの指摘通り、映像そのものには顔のクローズアップによる任意空間を生成していることを言及した。一方で、その映像の鑑賞空間は、映像を介して制作者と鑑賞者との間に強制的な鑑賞という労働を生み出していること、（鑑賞者自身の多くは楽しみながら Vine の動画を閲覧していること

から、無意識的な) その労働をもとにした閲覧数やコメントなどといった伝播する強度の強弱の波を数値化・可視化する空間も生み出していることを明らかにした。このような強制的な鑑賞という労働と、可視化されたデータが映像に付随することで、そこでは新たな情動が生じていると捉えることは可能である。そして、この視点は、ドゥルーズの映画を踏まえた情動の考察では抑えきれないところである。

最後に、ドゥルーズが参照した映画と、今回対象とした Vine の映像の大きな違いを考えると、先述したようにその特権性と日常性の違いであるのだが、そこには時間性の違いも関与している。このことを考える際に参考となるものが、映画とテレビとの比較である。映画とは異なるテレビの大きな特徴として、テレビは映画のような物語の一貫性が弱く、番組という単位や CM の挿入による断片的なものであるということや、時間性が写真や映画のような「かつて-あった」ものではなく「いま-ここ」の時間性を志向しているということがしばしば挙げられる⁴。Vine の映像は、まさにこのテレビの特徴を極限にまで前景化したものであると言える。その映像は、6 秒という物語性を排除した断片的な映像である。それと同時に、撮影から編集、公開を即時に行い、さらには制作者自らが鑑賞者として成立する状況はまさに「いま-ここ」という時間性を如実に体現したものである。映像のなか、あるいは映像が生み出す空間性だけでなく、その時間性も、ドゥルーズが参照した映画と、今日の Vine の映像とは大きく異なると考えられるのだ。

以上、今日の映像から情動を考察する際、ドゥルーズの情動の考えは有効性があるものの、彼が参照した映画と、現在の映像をめぐる状況の差異を前提に置きながら、分析していく必要がある。

⁴ この視点は、レイモンド・ウィリアムズ Raymond Williams やウンベルト・エーコ Umberto Eco などの言説をもとにしながらテレビについて論じている西 (2016) の議論を参照。

3. ライブ性と時間－空間（仁井田千絵・近藤和都）

3.1 「ライブ性」の由来（仁井田千絵）

前節で挙げられた Vine の映像は、「撮る」文化の普及によりカメラと被写体との距離が接近する、あるいは撮影者と鑑賞者の隔たりがなくなるといったように、映像をめぐるメディアや人同士の〈間〉が限りなく縮小されていくものであると捉えることができる。こうした空間的な隔たりの消失に加え、映像がそのままに制作され再生されるという、時間的なズレの消失もまた、テレビと共通する特徴として挙げられる。この「いま-ここ」という特性は、ヴァルター・ベンヤミン Walter Benjamin がどんなに完璧な複製においても欠けているものとして挙げた「アウラ」の特性とも重なるが（1936=1995）、今日これを指し示す概念の一つに「ライブ性 (liveness)」があるだろう。メディアの介在が一般的になればなるほど、いわばその対極としてライブ性が前景化され、ライブ・コンサートやライブ・ビューイングといった名称によって「いま-ここ」的的特性が強調される。本節では、このライブ性そのものに内在する時間的、空間的なズレを指摘し、ライブ性がいかに社会的・文化的な条件の中で事後的に規定されるのかを考察したい。

まず、ライブ性という概念はいつ頃から出てきたものなのか。そもそも「ライブ (live)」とは、元来「生きている (alive)」ことを意味する言葉であり、それが録音・録画に対して「生」演奏・放送を指すようになるのには、当然ながら録音・録画を可能とするテクノロジーの存在が必要になる。しかしここで重要なのは、フォノグラフやフィルムといったテクノロジーの到来そのものが、「ライブ」の概念を生み出したわけではないということである。ライブ性に関する理論的・歴史的研究の著作を出しているフィリップ・オースランダー Philip Auslander (1999) は、今日意味する「ライブ」の語法が、19 世紀末のフォノグラフの録音に端を発するのではなく、1920 年代以降のラジオの普及とその慣習によってもたらされたことを指摘している⁵。オリジナルかコピーか、メディアの不在か介在かという二項対立によってライブ性が規定されるのであれば、録音が可能になった時点でライブの概念が生じるはずだが、フォノグラフでレコードを再生する場合、それが生演奏のものではないことは一目瞭然であるため、ライブか否かを明示する必要は生じなかった⁶。逆にラジオにおいては、音源がリスナーに見えないことに加え、ラジオが当初ライブのメディアウムとして制度化され、レコードを使った録音放送が生放送よりも劣っているものとみな

⁵ オースランダーによれば、オックスフォード英語辞典において「ライブ」という言葉がパフォーマンスの形態を意味するのに使われた最も古い例文は、1934 年の英国放送協会 BBC の年鑑からとられている（2012: 4-5）。

⁶ 逆に音源を見せないことを利用したフォノグラフの初期の宣伝攻略として、生の歌手とその歌手の歌声を収めたレコードをカーテンなどで隠し、観客に両者を聴き比べさせレコードの音響の忠実さフィデリティを実証する「トーン・テスト」がある。

されたため、リスナーに放送の形態を告知する必要が生じた。ここからオースランダーは、ライブ性とはメディア自体に規定されるのではなく、社会的な要請によって形成され、歴史的に変化するものであることを指摘する。さらに、我々が今日のメディアを論じる際、常にこの二項対立を疑問視する必要があることを強調する。

初期のラジオ放送で録音された音楽を使うことにネガティブな意味が付きまとったため、ライブと録音の区別は相互補完的というよりも二項対立の様相を持つことになった。こうしたライブ性の概念化やライブと録音された (recorded) / 仲介された (mediatized) ものとの区分はアナログ・テクノロジーの時代に生じたが、これは今日においてもしつこく続いており、我々の現在のライブ性に関する考え方の基本になっている。(Auslander 2012: 5)

こうした前提から、オースランダーをはじめとするパフォーマンス・スタディーズやメディア・スタディーズにおけるライブ性の議論とは、生 (なま) / 録音、オリジナル / コピー、現前 (presentation) / 再現 (re-presentation) といった二項対立をいかに相対化し、特定の社会、文化の事例から歴史的に再構築するかに焦点があてられることになる。例えば、アイドル歌手のライブ・コンサートにおいて、音響の大部分がマイク、ミキシング、プレレコといったメディアの介在によって構築されることは、ライブ性が先に挙げた様々な二項対立の〈間〉に生成するものであることを示している⁷。また、ライブ性の土台となる「いま-ここ」性もまた、今日においては常に時間的、空間的なズレを内合している。例えば、テレビの生放送やインターネット上のライブ・チャットは、時間の同時性を強調することにより空間的な共有の不在を埋めあわせる。一方、空間を共有する競技場でのスポーツ観戦などでは、競技場内に設置された巨大な LED スクリーンを通して、カメラで撮影されたプレーの様子がスローモーションやクロースアップで事後的に提示される。さらに、演劇やコンサートのパフォーマンスを映像に記録し、事後的に映画館で上映するいわゆるライブ・ビューイングに至っては、時間・空間のいずれも観客は演技者と共有しない状態で「ライブ性」が享受される。

このように、今日のメディアを介したパフォーマンスの事例などから、生 / 録音、オリジナル / コピーの境界を限りなく曖昧にし、さらには、録音・録画を使うライブのスポーツ観戦やコンサートを「ライブ」のテレビ化、レコード化として捉え、オリジナルとコピー

⁷ 研究例として、Wurtzler (1992) がある。この論文では、ライブと録音・録画という二者択一に対して、時間的同時性 / 非同時性、空間的現前 / 不在の四つのカテゴリーが提案されている。

一の逆転の構図を指摘する研究がみられる⁸。しかし、今日「ライブ」と名のつく数多くのイベントが示すように、ここまでライブに伴う「アウラ」が損なわれながら、それでもライブが特権化されるとすれば、それはなぜなのか。ここで、ライブ性をめぐる別の視点からのアプローチを検討する必要があるだろう。そこでは、オリジナルのもつ特権を「現前 (presence)」、「指標 (index)」といった言葉によって説明し、その特権の現れをまさにメディアの介在の中に見出そうとするのである。こうした研究において重要な位置を占めると考えられるのが、ロラン・バルト Roland Barthes による写真論である。バルトは、写真を複製技術とみなすのではなく、写真の被写体＝指向対象が「かつてそこにあった」という「現前の証明」になっていると論じる。

絵画の場合は、実際に見たことがなくても、現実をよそおうことができる。言説は記号を組み合わせたものであり、それらの記号はなるほど指向対象をもっているが、しかしその指向対象は、たいていの場合、＜空想されたもの＞でありうるし、また事実そうである。絵画や言説における模倣とちがって、「写真」の場合は、事物がかつてそこにあったということを決して否定できない。そこには、現実のものでありかつ過去のものである、という切り離せない二重の指定がある。(Barthes 1980=1997: 107-108)

バルトはこの写真の特性に着目することで、「写真においては、本物であること (authentication) を証明する力が、表象＝再現 (representation) の力を超える」(Barthes 1980=1997: 107-108) として、写真にみられる指標性を強調する。バルトにとって写真とは、「現実のものでありかつ過去のものである」、つまり不在 (= 死) がいま在るという、二つの矛盾するものの混在であった。これをさらに写真から映像・録音にあてはめて考えるならば、例えば「ライブ・レコーディング」という言葉が含んでいる大きな矛盾——ライブ (= 生) ・レコーディング (= 死) ——も、それが時間的・空間的な「いま-ここ」性がないのにもかかわらず通常のレコーディングと区別される理由も、バルトが指摘する現前性、指標性から説明することが可能になる。そして、今日のスマートフォンにおける Vine 映像が、時間-空間のズレを限りなく縮小・無効化していくというライブ性の方向を提示しているとすれば、もう一方でこのズレを顕在化させているライブ性のあり方を、映画館という場で行われる映画上映から考えることができるだろう。

3.2 ライブ性の再帰性 (近藤和都)

前項ではライブ性の歴史社会性についての指摘を行い、またメディア＝仲介者の存在が

⁸さらにジャン・ボードリヤール Jean Baudrillard (1981=1984) は、オリジナルとコピーの区別そのものが不在となる、「オリジナルなきコピー」の社会を論じている。

逆説的にライブ性を構成する契機に関する議論を確認してきた。このことを踏まえ本項では、ライブ性およびそれを構成するメディアの指標性、すなわち「いま-ここ」「あの時-あの場所」という矛盾する性質が相互規定的に作用することで実現する出来事のあり方に関する問いについて、映画を事例として具体的に考えたい。とりわけその際、映画受容を規定する（した）条件の一つである「モノとしてのフィルム」に焦点を当てていこう。

モノとしてのフィルムを通じて映画製作・配給・興行が構造化されていた時代においては、映画受容のあり方は複数の意味で過去の痕跡＝指標記号に条件づけられていた⁹。写真と同様にデジタル化以前の映画＝フィルムは、対象に反射した光が感光剤と化学反応を起こすことで記録された痕跡によって構成されており、その痕跡を通じてすでに過ぎ去った対象を現前させていた。スクリーン上の表象は対象と文字通り物理的に結びついており、だからこそ文化的コードを通じて構成される絵画とは異なり、そこに映されているのが「かつてあったこと」だと観客たちは信じるのである。他方でその際、時間メディアとしての映画は動きによって「そこにあった」という対象への感覚を「そこにある」へと変換し（Barthes 1964=2005: 32）、写真とは異なる指標的關係を人々に経験させることになる。映画とは、「いま-ここ」と「あの時-あの場所」の〈間〉において、それはすでに過ぎ去ったものであるにもかかわらず、いま眼前において生起しているという独特な時間性の感覚を人々に与えるメディアなのだ¹⁰。

すでに過ぎ去ったものであるにもかかわらず、いま現に生起している、このような時間性を藤井仁子は、「今まさに生起しつつある出来事に間近で立ち会いながら、同時にもはやり取りのつかない事後に位置しているという映画を見ることに固有の時間倒錯^{アナクロニズム}」（藤井 2012: 104 強調は原文ママ）と名付け、映画受容の核に据える。私たちは映画を観るとき、常にすでに幾重もの意味で〈事後〉に立たされており、そのような立場からしか映画を観ることができない。言い換えると、私たちがいま観ている映画からライブ性の感覚を得たとしても、「観ること」は同時にそれが実際に撮られた時間 - 空間的文脈からは決定的に〈遅延〉された行為であり、そのような〈遅延〉の内ではしか映画受容は果たされないのだ。そしてここで重要なのは、映画＝フィルムの指標的關係が与える〈遅延〉の効果は、映画

⁹ デジタル技術が発展し、画面を様々な仕方で操作・調節可能になることで、映画が映し出す対象との関係性は指標記号的なものから対象との類似性に基づく類像記号的なものへと変容していく。他方でデジタル技術を通じて制作される映画は実在する対象との結びつきを完全に放棄したわけではなく、むしろ指標記号と類像記号を重ね合わせる形で展開されていることに注意が必要であろう（藤井 2008；石田 2008）。そういった意味で本節での議論はアナログ時代の映画受容に限定されるものではなく、対象および制作物の複製というアナログ／デジタル双方に関わる二つの複製の次元に焦点を当てたものである。

¹⁰ そもそも「映画を観ること」は、過去の痕跡にこれ以上ないほどに取り囲まれた受容形式である。私たちはスクリーンに正対する無人の椅子を前にすると、かつてそこに座っていた多くの人びとを思わず幻視することがある。開館・改装したての映画館でもない限り、椅子にはほころびやシミなど文字通り無数の痕跡があり、それは「かつて映画を観た人びと」の存在を指し示すことで、そこにはもういない人びとを私たちの眼前に再来させる。

受容を構成する種々の実践や制度、他のメディアとの諸関係に節合されることで、作品それ自体に向けられる視線のあり方を規定するという点だ。

文化的コードに条件づけられた人間の知覚の選択的作用¹¹とは異なり、『『非=文化的』視覚』（長谷 2010: 28）としてのカメラはレンズが向けられた対象を器械的に記録するため、写真や映画においては常に撮影者が意図したもの以上の情報が提示されることになる。マアリー・アン・ドーン Mary Anne Doane が述べるように「そのハイパーインデックス性〔過指標性〕のために、映画は偶有的なものや物質的なものの領域から切り離されることはなかった」（1996=2003: 85）。そしてこのようなフィルムの特性が、観察者に様々な出来事を〈事後的〉に画面上に見出すことを可能にし——そしてそれを正統化するの、それは画面上にこれまでもあったという指標的な事実である——、このことが作品分析を行う研究者や批評家の実践の条件を構成する（藤井 2008: 69-70）。つまり、反復的に受容可能な複製技術であり、かつ「ハイパーインデックス性」を持つ映画は、観察者をその時々文脈において「かつてあったこと」の〈事後〉に置くことで、その多様な〈事後〉の立場から観察者が再帰的に画面上に様々な出来事を読み込んでいくことを可能にするのだ。

そしてこのような再帰的な視線のあり方は、とりわけ VHS が登場して以降の映画受容において顕著になる。まず VHS は、それが元々持っていた製作・配給・興行の時間的文脈から映画を切り離して〈事後〉の文脈を無限とも言える多様性のうちに開き、作品について言及した様々な情報との関連から画面を再帰的に振り返ることを一般的な振る舞いにした¹²。以前であれば、研究者や批評家といった一部の人々に限られていた映画を反復的に享受して画面を再帰的に捉え返す実践が民主化したと言えよう。またローラ・マルヴィ Laura Mulvey が述べるように、VHS 等に実装された「ポーズ」や「コマ送り」といった機能¹³は、それまでは一般には不可能だった映画を「中断 (pose)」させて抽出したイメー

¹¹ バルトが挙げているように、例えば対象を模倣する「デッサン」という実践は、「[対象の]すべてを再現するわけではなく、再現するものはたいていごくわずかである」（1964=2005: 28 強調は原文ママ）。

¹² このような問題は映画に固有のものではない。例えばテレビにおける「再放送」の実践も同様の問いを提示するだろう。「再放送」を通じて最初の放送の際とは異なるどのような意味や細部が〈事後的〉に画面上に見出され、それと関連してどのような文脈が設定されているのか、あるいはよりテレビの番組構成上の特徴に照準すれば、例えば国家的世界的に記憶されている出来事に関する有名なニュース映像等（例えばケネディ暗殺事件や 9.11 のそれ）が様々な番組内で何年にもわたって繰り返し引用される際にどのような再帰的な視線においてそれが文脈化されているのか、そこに見出される「かつてあったこと」には変化があったのか、どのような細部が人々の情動を刺激してきたのか、このようなことを問うことがテレビ受容のあり方を理解するには重要となる。とりわけ、テレビ局がかつて自身が放送した番組資源を用いて新たな番組を構成していくような実践が一般化している現在において、その重要性は一層明白である。テレビの「再放送」が持つ文化的な意味についての議論は、アメリカを事例としながら多角的に論じたデレク・コンペア Derek Kompare (2006) や、「再放送」を通じて形成される集合的な記憶について論じたリン・スピーゲル Lynn Spigel (1995) の議論が参考になる。

¹³ こういった機能が日本の市販用 VHS 機器の初期段階においてから実装されていたのは必然ではない。そこには VHS をめぐる様々な文化的実践があった。この点については永田 (2016) を参照されたい。

ジを反復的に享受するという「フェティッシュな観客 (fetishistic spectator)」のあり方を生み出した (2006: 161-179)。各々の〈事後〉の文脈から行われるこのような受容のあり方は従来の映画のフローな物語秩序を攪乱し、これまで見過ごされてきた画面の細部に人々の視線を向けさせることになった (藤井 2006)。

だがここで注意しなければならないのは、このような「いま-ここ」に生起している出来事に逆説的にも向けられる再帰的な視線のあり方は、映画の所有形式としての VHS が登場する以前から形成されていたという点だ。重要となるのは、映画受容のあり方は、別種の〈遅延〉の関係を導入する制度やメディアのあり方を通じて幾重もの〈事後〉の立場が折り重なる形で展開されてきたということである。

電波を通じてある範囲内に一律に番組を送信するテレビとは異なり、モノとしてのフィルムの具体的な運搬に依存し、また 1 セットのフィルムあたりの観賞可能人数が限られるため資本を回収するためには反復的な上映を行わなければならない映画興行の形式は、構造的に観客のうちそれ自体にも〈遅延〉の関係を導入しその〈間〉に〈時差〉を生じさせる。例えば A 地点で 4 月に上映された映画が B 地点で 8 月に上映された場合、それぞれの地点では同一のテキストが上映されていたとしても、テキストと観客が取り結ぶ〈遅延〉の文脈は異なったものとして現れる。つまり、スクリーン上で具現する対象との関係において形成される「いま-ここ」「あの時-あの場所」の〈間〉で経験される出来事は、観客が映画作品と遭遇する時間-空間の不均等な配分を通じてあらかじめ階層的に構造化されるのだ。映画作品を受容する観客は抽象的・等質的な集合体としてあるのではない。それは様々な社会属性に応じた不均等な諸集団としてあると同時に、様々な組み合わせの時間-空間的な〈間〉で分節された階層的な諸集合の集合として把握されなければならないものとしてあるのだ。

他方でこのような〈間〉は自動的に人々に認識・経験されるわけではない。それぞれの観客が位置する時間-空間的文脈を比較し、それらが〈遅延〉の関係を通じて構造化されていることを可視化するメディアを通じて初めて、〈間〉はそれ自体として人々に独自の質の経験を与えるのである。そして近代とは国民国家の形成と相関しながらマスメディアが高度化し、同時的に情報が流通・消費されることになった時代だったが、このような時代背景において作品と観客との〈遅延〉と〈時差〉の関係は可視的なものとして歴史的かつ継続的に構造化されていったのだった。このことを示すために、とりわけ映画配給の制度的問題から観客間の〈遅延〉が多段的に構造化され、その間の〈時差〉が大きかった戦前の事例を参照しよう¹⁴。

例えば 1921 年の神戸の人物は「何故僕等は東都の諸君よりも一ヶ月も遅れて然かも同

¹⁴ 戦前期日本の映画配給がもたらした〈時差〉の具体的なあり方については拙稿 (近藤 2015) を参照されたい。

じ金で、映画を見なければならぬのだ」(『キネマ旬報』62号、1921: 10)と〈時差〉に対する不満を爆発させながら「東都で発行される小さい雑誌等を見ると屹度『封切映画批評』と云ふ一欄が僕の眼を引く。是だけは神戸でいくら天手古舞ひしても出来ない事だ」(『キネマ旬報』62号、1921: 10)と述べる。つまりここでは、配給の先後関係を通じた〈時差〉が映画以外のメディアを通じて可視化され、また「封切映画批評」等によって映画をめぐる情報環境に大きな差異が生じることで、「いま-ここ」で映画を観る際につねに「あの時-あの場所」での映画観賞が参照され、そこからの〈遅延〉と〈時差〉との関係において〈事後〉の立場が文脈化されているのだ。そしてこのような観客同士の時間-空間的な〈間〉を通じて作品内容の解釈とは自律した形で不満といった情動的経験が喚起されていく。

また、東京よりも「一ヶ月も遅れて」作品に接する神戸の観客は、東京において「封切」の現場に立ち会った人々とは異なる視線を画面に向けざるをえない。というのも神戸の観客は、すでに東京の人々が記した「封切映画批評」に同時代に映画配給よりもはるかに高度化されていた出版流通経路を通じて接しており、そのような「批評」というレンズを通じてでしかスクリーンに視線を向けることができないからだ¹⁵。反復的に同一のテキストを上映していく映画興行の形式は同時性を志向する他のメディアと接続されることで、いま観ている映画はすでにかつて他の人々によって観られたものであるという事実を人々に認識させる。「ハイパーインデックス性」を通じてスクリーン上の出来事の多元性は確保されているが、遡及的にそこに見出される意味や細部は、人々の〈間〉における〈遅延〉を具体的に統御する制度やそれを可視化するメディアのあり方によって条件づけられるのである。

いま眼前で生起している出来事に、それはすでに観られたものでかつてこう観られたという視線を重ね合わせ、そして事実そこにそれを見出す、映画受容にはこのように現在の視線と過去の視線が相互作用的に規定しあう側面があるのだ。指標的關係を通じてライブ性と〈遅延〉や〈事後〉が節合された映画経験のあり方は他のメディアとの関連や映画配給に関する制度的条件によって重層的に構造化され、それを通じて様々な経験が形成される。そのため映画受容の指標的性質を問題化する際には、作品との時間的關係を管理・統

¹⁵ 先の藤井はアーカイブされた映画を現在の視点から観賞するというに固有の問題について議論を行っている。いわく、従来『総集編』(1959年公開)という形でしか観賞が難しかった『佐久間ダム』の『第一部』(1954年公開)が保存プロジェクトを通じて修復されたとしても、「長らく『総集編』しか見られず、最近になって初めて『第一部』を見ることができなかった往時を知らないわれわれは、……意識してかどうかを問わず、絶えず『総集編』との異同を探るといふ詮索好きな視線でしか『第一部』を見ることができない」(藤井 2012: 106-107)。そしてこのような視線の再帰的な構造は、藤井が続けて述べるように「映画を見るという経験に本性的に含まれているものかもしれない」(藤井 2012: 107)。本節の議論は藤井の一連の論考から大きな影響を受けている。

御する流通のあり方¹⁶を視野に入れなければならないと言えよう。

¹⁶ 流通 (distribution) の側面の重要性は映画に限定されるものではない。リサ・パークス Lisa Parks (2015) が述べるように、従来の文化・メディア研究は製作と消費に焦点を当てる一方で、両者を接続しまた下支えする流通が構成する諸問題を捨象してきたのだった。

4. 声、隠匿、交感労働（野澤俊介）

これまでの議論で、メディア実践における顔の前景化や「いま-ここ」と「あの時-あの場所」の指標的關係を分析し、現代のメディア環境の中では情動やライブ性が中間性に深く関わるという視点を提示した。この視点をさらに深化させるため、事例として昨今のアニメやゲームなどのコンテンツ文化を支える一つの柱である声優をとりあげる。「2次元」のキャラクター（非-人間）と「3次元」のファン（人間）を接続するインターフェイスという意味で、または自身が3次元の身体を持ちながら2次元の声を発するという意味で、声優はしばしば「2.5次元」的と呼ばれる。この中間性が声優の規範的な労働条件である顔-身体の隠匿に起因することに着目し、隠匿（effacement）の実践がメディアのインターフェイス性（inter-face）にどのように作用するのかを検証する。まずは、声優が創出する〈間〉と情動の關係をより具体的に記述するために、「交感」という概念を提示したい。

4.1 交感

交感とは接触や切断、測距や保持など、記号過程の出来事における導体（channel）やインフラストラクチャに関わる指標的記号過程であると定義される。元来は、プロニスワフ・マリノフスキー Bronislaw Malinowski による言語論における造語で、この概念によりマリノフスキーは言語を「省察の道具」や「思考伝達的手段」としてではなく、「社会行動の様相」として理解することを提案し、言語の使用が使用者の社会的連帯を形成する効果を強調した（1923: 312）。この連帯の創造という現象、「言葉の単なる交換により連帯の絆を創造する言語実践」をマリノフスキーは「交感的交わり（phatic communion）」と呼んだ（1923: 315）。例えば、挨拶や相槌といった「沈黙を破る・退ける」行為は、指示内容に乏しい一方、発話行為の出来事において間主体的つながりを誘発・維持する機能を持つ。

しかし言語を行為の様相として見る視点は重要であったが、マリノフスキー自身の基本的な言語理論の欠如や、未開／文明の対比に依拠した多分に発展論的な考えなどの問題もあり、以降の人類学において交感概念が理論化されることは無かった。

一方ロマン・ヤコブソン Roman Jakobson は交感概念をコミュニケーションの出来事の実分析に必要な要素として取り出している。ヤコブソンのコミュニケーション分析は、出来事として生起する記号（「メッセージ」と呼ばれる）を中心的要素として捉える。その記号と、共-生起する他の諸要素との〈間〉の關係性に着目し、その指標性の束を調整する「機能」的「設定（Einstellung）」に焦点を当てる（Jakobson 1960）。例えば、メッセージが、その生起において、あるコードを前提的または明示的に指標する場合、この出来事はメタ言語的機能=設定をされている、と分析され、またメッセージがそれ自身（の形式）を指標

する場合はコミュニケーションの詩的機能=設定が強調される、といった具合である¹⁷。

その指標性の束の一つを担うのが、メッセージが出来事の導体またはその導体によって可能になる「接触(contact)」に注意を払う際の機能、交感的機能である。

コミュニケーションの確立、引き伸ばし、切断を主な役割とするメッセージが存在し、そういったメッセージはまた、導体が稼働しているかをチェック（「私の声、聞こえますか？」）したり、受け手の注意を集めその注意の持続を確認（「話、聞いてんの？」、「耳を貸してくれ給え！」）といったシェークスピアの謂い、電話線の向こう側の相槌）したりする役割を担う。（Jakobson 1960: 355）

注目すべきは、具体例として挨拶の類が挙げられる一方、その応用範囲は多様な文脈に拡大可能なことである。特に「電話線」への言及に見られるように、ヤコブソンの交感概念の形式化はコミュニケーションのインフラストラクチャや、その技術的基盤——部屋のノイズは制御されているか、コンセントは接続されているか、道路は混雑しているか、など——の分析を、出来事のレベルで可能にすることを示唆している。さらに「コミュニケーションを開始し保持するという行為は[九官鳥などの]発話する鳥類にも見られる特徴」であり、「言語の交感機能は[そういった動物]が人類と共有する唯一の機能である」（Jakobson 1960: 356）という発言からも見られるように、交感機能が人間中心的言語観を超えて、人間・自然・技術の媒介に寄与することを、暗示的ではあるが、示唆している¹⁸。

このように拡張された交感概念を駆使した論考は、未だ数少ないものの、近年になって散見される¹⁹。特に本稿の文脈に最も関連のあるものは、ジュリア・イライヤチャー Julia Elyachar (2010) の提示した「交感労働 (phatic labor)」である。イライヤチャーは、社会関係を創出し保持する交感的なコミュニケーションを経済的・文化的価値を生み出す労働として捉える。より一般化するならば、この概念は、橋や道、ケーブルなどと同様、コミュニケーションに参加する人間そのものがインフラとして動員・管理される様を記述し、そこで創出・搾取・管理される価値体系を検証するのに有用であろう。インフラが往々にして隠されたもの、裏にあるものとして理解・設置されるのと同様、こういったコミュニケ

¹⁷ 2点注意したい。第一に、コミュニケーションの出来事には複数の機能=設定が同時に読み取れる。ヤコブソンの視点は、パースの記号論と同様、出来事の種類をしているわけではない。したがって、ある記号が、例えばメタ言語的機能を指標していたとしてもそれは他の機能（例えば交感）を排除するわけではない。これに関連して、第二に、ヤコブソンの言う機能とは例えばデュルケムの機能主義や人類学でいう構造機能主義などの「機能」とは異にしている。ヤコブソンの機能が指標性の束であるということを知ると、それは「重点を置く」、「注目を与える」、「前景化する」、「志向する」といった意味で捉えるのが適当である。詳細は小山（2008、特に第2章）を参照。

¹⁸ インフラストラクチャなどについては Kockelman (2010) によるヤコブソン（言語人類学）、クロード・シャノン Claude Shannon（サイバネティクス）、ミシェル・セール Michel Serres（アクター・ネットワーク理論）の記号論的対比を参照。

¹⁹ Lemon (2013)や Nozawa (2015)など参照。

ーションの交感労働も構造的に隠匿される傾向がある。

以下の事例において、声優による声の実践を交感労働として分析するが、その前に、交感労働が示唆する隠匿・後景化を「情動労働」(Hardt 1999 など)との関連において整理したい。特に、ポスト産業主義的社会における情動労働の顕著な側面であるサービス労働に注目する。サービスや「感情労働」に関しては Hochschild (1982) をはじめとした重要な先行研究が数々あるが、ここでの整理は情動労働における声とは何かという点を確認するにとどめる。

4.2 二つの声

サービス労働は資本主義における交換の出来事において必要な仕事でありながら、経済理論や実践においてもその価値が一貫して過小評価される傾向がある。これはつまるところ生産を中心に据えて経済を見る視点に起因する。サービスは価値を直接作り出さないという論理に立脚した「不生産的労働」の概念はアダム・スミス Adam Smith 以降、明示的・暗示的に前提とされてきた (Smith 2007: BkII, ChIII)。この視点では、サービスはそれ自身が仕事であるにもかかわらず、「本来の仕事」つまり生産的労働ではなく、生産の外にありながらそれを内側から可能にする非本質的付随物として見られる。この生産的労働とその外部という構図は、ジャック・デリダ Jacques Derrida 的に言えば (1987=1987)、真の仕事=作品 (ergon) とその額縁 (para-ergon)、建造物とファサード、メインディッシュとオードブル (hors d'oeuvre、「作品の外」というような代補的關係を内包している。サービスは生産の現前を交換の実践においては担保するものでありながら、それ自身は価値の体系においては隠匿・過小評価される。交感労働が看過されやすいという傾向と同じである。

他方でサービス労働は多くの場合 (特に接客業において) 顧客とのインターフェイスそのものであり、マックス・ホルクハイマー Max Horkheimer (1974) が喝破するように、具体的な経済交換の実践において「お客様は王様」であり、サービスは資本主義の中にいる私たちを封建的、貴族的な隷属 (servitude) のスペクタクルに回帰させる。それは矮小化され日常化されたスペクタクルであり、私たちは経済生活のリズムの中で「消費者としては王様役」、「サービス労働者としてはその従者役」という立ち回りを強いられる。そのような王様と従者というキャラクター (persona = 仮面) が情動労働のインターフェイスとして社会の隅々に遍在化することを、ポスト産業社会的状況の一つの特徴として指摘することもできるだろう。

ここで注目したいのは、サービス労働の出来事においては往々にして、様々な「スピーチアクト (言語行為)」——挨拶、感謝、謝罪、説明、伝達など——が労働そのものとして立ち現れる、という点である。スピーチアクトの管理がサービス労働の中心問題になる、

もしくは、あたかもその中心であるように考えられるということは、接客やレジ、事務補佐や受付の仕事に携わったことのある人ならば経験的に実感できるはずである。コンサルタントやアドバイザーなどでも同様だが、そこでは往々にして声による媒介が必要となる(もちろん、身体的所作や服装、声の性質や社会的属性などの記号も重要な要素だが、ここではその分析は割愛する)。つまりサービスの実践では何らかの「声の仕事」が要請される。

ここで2点指摘したい。一方で、サービス労働における情動の強度は、スピーチアクトの「パフォーマンス」として、つまりゴフマン的なドラマツルギーの比喻を通じて管理され、そのパフォーマンスは労働者にある種の顔・身体性=embodiment(特にジェンダー化されたそれ)を要求する。しかし他方でサービスはその実践において、労働するキャラクター、つまり「店員」や「受付」、ディズニーランドの「キャスト」や野球場の「ウグイス嬢」といったようなペルソナ=仮面を喚起し、その仮の顔であるところのキャラの操作・拡張を通してそのキャラに能動性を与えること、テリ・シルヴィオ Teri Silvio (2010)が言うところの「アニメーション」、その仮面の内側への魂(anima)の付与=ensoulmentを要求する。したがって、サービス労働の「声」をパフォーマンスとアニメーションの間において捉えるならば、サービス労働をハイブリッドなスピーチアクト生成装置、(ブルーノ・ラトゥール Bruno Latour などの用語を借りれば)「スピーチアクタント」として仮に呼ぶこともできるであろう²⁰。

ここで、このハイブリッド構造を昨今のポピュラーカルチャーのイディオムに即して考えてみたい。サービスの身体性に帰せられる「3次元」的な声に労働の仮面から発せられる「2次元」的な声を重ねると読み直せば、スピーチアクタントとしてのサービス労働と声優の「声の仕事」との接点が浮き彫りになる。声優はまさにこの2つの声のハイブリッドを司る媒体(medium=霊媒)であり、だからこそ彼ら/彼女らは往々にして「2.5次元」的と描写される²¹。

4.3 「中の人」の労働

声優はしばしば「中の人」と呼ばれる。着ぐるみの演者という意味の転用だが、この表現は、キャラクターを空洞の身体に見立て、声優はそこに魂を注ぎ込みその身体を内側から操作するため「中」に隠れるという構図を示している。アニメ・ゲーム界隈でよく聞かれる「キャラはすでにありき」という表現に示される通り、キャラクターはまさに儀礼的仮面であり、舞台俳優とは若干違い、声優はその仮面に同一化することを強調せず、逆にその他者性・複数性を堅持する。したがって、舞台や実写メディアの俳優にとって自らの

²⁰ Paul Manning and Ilana Gershon (2013)も参照。

²¹ 声優にはしばしば霊媒の比喻が用いられる (Nozawa, 2016)。テクノロジー、霊媒、声の関係については Connor(1999)を参照。

身体の露出、特に顔と声の同一性はその労働の必要条件であり、『雨に唄えば』の結末が示唆するように欲望すべき理想ですらあるが、声優にとっては身体に対する視覚的アクセスの遮断、顔と声の切断がその労働の条件になる。

したがって、アニメ製作発表やプロモーションのイベントなど声優が公の場に出るような仕事に対しては「顔出し」という特別の表現が存在していて、昨今声優のメディア露出が多くなってきたにもかかわらず、このカテゴリーが未だに有徴であることは、隠匿が無徴・デフォルトであることを物語っている。実際、そういった顔出しの仕事の際は、キャラ声を演じることがしばしば要求されるが、そのような時でさえ隠匿の実践を観察することができる。例えば、観客に目を閉じるよう呼びかける、観客に背を向ける、物（台本、キャラクターが描かれたポスターなど）で顔を隠す、といった行為である。「『ここ』——3次元——に現前している声は私自身からではなく『別の場所』——2次元——から発せられている」という指標的關係を成立させるために、ある種の括弧付けを行い、この隠匿行為そのものがキャラクター化の声優的技巧として露出し、ファンはそれを鑑賞し評価する。

もう一つ、声優が自分たちの仕事をする場所や場面を描写するときの表現「マイク前」を紹介する。これは野球のピッチャーにとっての「マウンドの上」や、より一般的な労働の出来事を指標する「現場」という表現と比べることができる。しかしこの「マイク前」は端的には、録音スタジオのことを指す。声優は、一方でキャラの中に、他方ではスタジオの中に、自らを二重に隠す。声優の働く姿を雑誌やウェブサイトなどで紹介する場合には、スタジオの中でヘッドフォンや台本、モニターやマイクといった補佐的なモノの技術的アセンブリに囲まれている声優を確認できる。近代的な規範的言語使用者のイメージ、自らの身体にのみ依存した人間中心的主体とは違い、声優は技術的アセンブリと一体化した話者というイメージを喚起する。ここでも声優の労働は人間・非人間の〈間〉に見出される。

隠匿の実践が可能にするこのような中間性は、メディア文化の流通において特別な意義を持つ。マーク・スタインバーグ Marc Steinberg は日本のメディアミックスにおけるキャラクターを、諸々のメディアを媒介する「接続的テクノロジー」と呼んでいる(2009: 5)。だとするならば、声優とはこのテクノロジーを「中」から操作するオペレーターとも言えるであろう——『マジンガーZ』以降のロボット／メカ漫画・アニメのパイロットのように。

前節で説明した「交感」及び交感労働を鑑みれば、接続的テクノロジーの操作者としての声優は、2次元と3次元との間の導体を供給する交感労働を行っていると理解できる。もちろん、声優の労働のみならず原画・動画やキャラクターデザイン、その他アニメ・ゲーム的生産に必要な工程に携わる労働も往々にして隠匿・看過される。しかし声優に特徴

的なのは、前述の通り——「額縁」が常に露出されているのと同様——声優の顔は別に秘密ではなく、声優の隠匿はそれ自身鑑賞の対象でもある労働であり、すなわち真実の露出の禁忌という制度を要求しない隠匿、いわば誰にでも目に見える隠匿を可能にするという点である。

第2章で考察したように Vine のメディア実践におけるインターフェイスが顔の前景化を促進し、メディア環境に任意空間を生成させるのならば、ここでは、逆説的ではあるが、顔の隠匿によって交感的導体としてのインターフェイスが駆動される。その点で、声優の労働とはメディア文化のインフラの一部であるとも言える。また、第3章での映画受容の出来事をめぐる検証では、流通インフラに内在する時間的空間的隔たりという条件が、事後的・再帰的にライブ性を規定することを見たが、声優の場合、その（「次元」的）隔たりは、隠匿の実践の帰結として能動的に構築されるべき対象であることがわかる。

こういった声優による接続の交感労働は、その指標的コミュニケーションの出来事性において、ポスト産業社会的状況下の情動労働としてのサービスに符合するだろう。ただ、サービスにおいて労働の隠匿が見られるのに対し、声優は隠匿の労働を実践しているという相違はあるが、であるならば、交感労働は情動労働の多様性をより詳細に批判的に検証する上で特に有用な概念ではないか。実際、情動労働とコミュニケーションの関係を語る時にしばしば強調されるのは接触の出来事性である。サービス労働において情動の強度は、笑顔の持続、服装の統一、挙動の速さ、注意の分配などを通して、測距され修復される具体的な対象である。日本語の「接客」という表現にも示されるように、サービスとは接触や近接の労働、すなわち経済的社会的関係性に生ずる様々なギャップ・溝を指標する交感労働であり、交感的指標性の生成や保護を通じた情動の操作と言えるだろう。

5. おわりに（野澤俊介）

以下、事例分析から見えてくる理論的な流れ、思考のパターンを抽出することで結びとしたい。特に、メディアの中間性・インターフェイス性が持つ異なる指向性を3つの事例分析の対比を通して提示したい。

中間性を透過性の程度という軸で考えてみると、第3章と第4章で扱った問題は第2章と対比できるであろう。Vineにおける顔のクローズアップによる新たな情動生成は、インターフェイスがユーザー間の隔たりを取り払うプロセスの効果の一つであることを見た。ここでのインターフェイスは、透過可能な窓または曇りのない鏡として喚起され、それが形成する中間性は、顔の交換が発生する任意空間として生成変化される。一方第3章で見たように、映画受容のインフラ構造は、映画との遭遇という出来事性における時間的・空間的差異をその内に孕んでいる。そういった遭遇・接触の指標性は、流通・配給などインフラの構造的条件によって担保されている。つまり、ここでの中間性は、透明なインターフェイスの同時性に還元されず、時間的・空間的不均一性そのものが情動の生起に寄与する。また同様に第4章では、声優文化における身体の隠匿の実践は「次元」的ギャップをどのように制御するかという問題が中心になる。キャラクターと人間の間には同一性ではなく差異が求められ、その差異の媒介のために声は顔と切断され、それ自身が特別な記号的力能を担うことになる。

また映画受容の文脈において、そのインフラ構造的差異は鑑賞の「いま-ここ」を常に重層的・再帰的レイヤーとして規定すること、ライブ性に「本物」の経験を見る視点（そしてオリジナルとコピーといった二項対立）はそういった重層的な媒介のもと成立することが示された。一方Vineにおけるループ再生という技術的・実践的条件にはライブ性の再帰的投影も関係するが、映画やテレビとの特徴的な違いは、指標的中心点である鑑賞の出来事がループによって常に別の無数の「いま-ここ」へ置換（displacement）されていること、さらにその無数の「いま-ここ」が強制的な鑑賞を創出することを見た。第4章においてはライブ性の置換が別の形で提示された。すなわち、声優の身体性は常にキャラクターの「中」に、裏側に隠匿されると同時に、時によっては（例えば顔出しの仕事において）キャラクターの「外」に置き換え直される。声優の身体性が隠匿されるのにもかかわらず秘匿になりえないのは、声優の交換労働の中心的問題が、キャラクター=仮面の内外への運動、多様な括弧付けの管理にあるからである。

さらに本稿では、コミュニケーションと情動との関係をより具体的に記述するために交感という概念を紹介し、その展開を試みた。交感概念は、コミュニケーションを表象や伝達として捉えるのではなく、その物質的・精神的導体の生成や保持という問題を分析可能にする。特に情動労働との関連で交感という視点が持つ分析的有用性を示した。ネットワ

ーク化やサービス産業の興隆、情報のリスク管理などがポスト産業主義的社会を特徴づける限りにおいて、メディア文化の様々な実践が、情動労働のように／として接触や切断の出来事の組織・管理の問題として顕在化する時、そこに政治経済的な介入点としてのイデオロギー化された交感機能を捉えることができるだろう。

本稿では、現代のメディア環境にコミュニケーションの指標性を情動、ライブ性、交感という3つの関連する側面から考察してきた。指標性の本質を接触や近接、継起や共・生起の関係性に認め、その関係性の中に生じる中間性、複数のものの〈間〉という視点から情動を捉えた。この考察を通して、情動は出来事として生起するという基本的な方法論的命題が確認できた。この命題は情動に関する歴史的・社会的・技術的条件の分析にとって中核をなす。情動を出来事として、生起として取り扱う方法論的メタ言語がなければ、そういった諸条件に文脈化することは不可能だからである。情動を抽象概念として追いかけるのではなく、その抽象性そのものの歴史や社会、文化や技術における条件と効果を探ることが必要であり、その意味で指標性概念の理論的展開は情動の研究に大きく寄与するであろう。

【参考文献】

- Auslander, Philip, 1999, *Liveness: Performance in a Mediatized Culture*, Abingdon: Routledge.
- , 2012, “Digital Liveness: A Historico-Philosophical Perspective,” *PAJ*, 102: 3-11.
- Barthes, Roland, 1964, “Rhétorique de l’image,” *Communications*, (4): 40-51. (=2005, 蓮實重彦・杉本紀子訳「イメージの修辞学——パンザーニの広告について」『映像の修辞学』筑摩書房, 8-47.)
- , 1980, *La Chambre Claire: Note sur la photographie*, Paris: Gallimard. (=1997, 花輪光訳『新装版 明るい部屋——写真についての覚書』みすず書房.)
- Baudrillard, Jean, 1981, *Simulacres et simulation*, Paris: Galilée. (=1984, 竹原あき子訳『シミュラクルとシミュレーション』法政大学出版局.)
- Benjamin, Walter, 1935-6, “Das Kunstwerk im Zeitalter seiner technischen Reproduzierbarkeit.” (=1995, 浅井健二郎編訳「複製技術時代の芸術作品」『ベンヤミン・コレクション 1 近代の意味』筑摩書房, 583-640.)
- Bolter, Jay David and Dian Gromala, 2003, *Windows and Mirrors: Interaction Design, Digital Art, and the Myth of Transparency*, Cambridge: The MIT Press. (=2007, 田畑暁生訳『メディアは透明になるべきか』NTT出版.)
- Clough, Patricia Ticineto and Jean Hally eds., 2007, *The Affective Turn: Theorizing the*

- Social*, Durham&London: Duke University Press.
- Connor, Steven, 1999, "The Machine in the Ghost: Spiritualism, Technology, and the 'Direct Voice'," Peter Buse and Andrew Stott eds., *Ghosts: Deconstruction, Psychoanalysis, History*, London: Macmillan, 203-225.
- Crary, Jonathan, 1999, *Suspensions of Perception: Attention, Spectacle, and Modern Culture*, Massachusetts: The MIT Press.
- Deleuze, Gilles, 1981, *Spinoza: Philosophie pratique Éd. modifiée et augm*, Paris: Éditions de Minuit. (=2002, 鈴木雅大訳『スピノザ——実践の哲学』平凡社.)
- , 1983, *Cinéma 1: L'image-mouvement*, Paris: Editions de Minuit. (=2008, 財津理・斎藤範訳『シネマ 1——運動イメージ』法政大学出版局.)
- Derrida, Jacques, 1978, *La a vérité en peinture*. Paris: Flammarion. (=1987, Geoff Bennington and Ian McLeod, trans, *The Truth in Painting*, Chicago: University of Chicago Press.)
- Doane, Mary Anne, 1996, "Temporality, Storage, Legibility: Freud, Marey, and the Cinema," *Critical Inquiry*, 22(2): 313-343. (=2003, 小倉敏彦訳「フロイト、マレー、そして映画——時間性、保存、読解可能性」長谷正人・中村秀之編『アンチ・スペクタクル——沸騰する映像文化の考古学』東京大学出版会, 45-90.)
- Elyachar, Julia, 2010, "Phatic Labor, Infrastructure, and the Question of Empowerment in Cairo," *American Ethnologist* 37(3): 452-64.
- 藤井仁子, 2006, 「デジタル・メディア時代の映画受容——ビデオ・DVD は映画の見方をどう変えたか?」『InterCommunication』(57): 76-79.
- , 2008, 「デジタル時代の柔らかい肌——『スパイダーマン』シリーズに見る CG と身体」藤井仁子編『入門・現代ハリウッド映画講義』人文書院, 67-94.
- , 2012, 「『ダムをつくる』のか『ダムができる』のか——見いだされた『佐久間ダム 第一部』の時」丹羽美之・吉見俊哉編『記録映画アーカイブ 1 岩波映画の 1 億フレーム』東京大学出版会, 103-121.
- Gregg, Melissa and Gregory J. Seigworth eds., 2010, *The Affect Theory Reader*, Durham & London: Duke University Press.
- Hardt, Michael, 1999, "Affective Labor," *boundary 2*, 26(2): 89-100.
- 長谷正人, 2010, 『映画というテクノロジー経験』青弓社.
- , 2014, 「映像文化の三つの位相——見ること、撮ること、撮られること」井上俊編『現代文化を学ぶ人のために 全訂新版』世界思想社, 114-129.
- Hochschild, Arlie Russell, 1983, *The Managed Heart: Commercialization of Human Feeling*. Berkeley: University of California Press.

- Horkheimer, Max, 1974, “Feudal Lord, Customer, and Specialist: The End of the Fairy Tale of the Customer as King,” *Critique of Instrumental Reason* (Matthew J. O’Connell, trans.), London: Continuum, 124-135.
- 石田美紀, 2008, 「新しい身体と場所——映画史における『ロード・オブ・ザ・リング』三部作」藤井仁子編『入門・現代ハリウッド映画講義』人文書院, 95-119.
- Jakobson, Roman, 1960, “Closing Statements: Linguistics and Poetics,” Thomas A. Sebeok ed., *Styles in Language*, Cambridge: The MIT Press, 350-377.
- Kockelman, Paul, 2010, “Enemies, Parasites, and Noise: How to Take up Residence in a System without Becoming a Term in It,” *Journal of Linguistic Anthropology*, 20(2): 406-21.
- Kompare, Derek, 2006, *Rerun Nation: How Repeats Invented American Television*, New York: Routledge.
- 近藤和都, 2015, 「映画観客の読書実践——1920年代日本における映画館プログラムと『観ること』の再定義」『マス・コミュニケーション研究』(87): 137-155.
- 小山亘, 2008, 『記号の系譜——社会記号論系言語人類学の射程』三元社.
- Lemon, Alaina, 2013, “Touching the Gap: Social Qualia and Cold War Contact.” *Anthropological Theory*, 13(1-2): 67-88.
- Malinowski, Bronisław, 1923, “The Problem of Meaning in Primitive Languages,” Charles K. Ogden and I. A. Richards eds., *The Meaning of Meaning: A Study of the Influence of Language upon Thought and the Science of Symbolism*, New York: Harcourt, Brace & World, 296-336.
- Manning, Paul, and Ilana Gershon, “Animating Interaction,” *HAU*, 3(3): 107-137.
- Massumi, Brian, 2015, *Politics of Affect*, Cambridge: Polity Press.
- Mulvey, Laura, 2006, *Death 24x a Second: Stillness and the Moving Image*, London: Reaktion Books.
- 永田大輔, 2016, 「ビデオにおける『教育の場』と『家庭普及』——1960年代後半 - 70年代の業界紙『ビデオジャーナル』にみる普及戦略」『マス・コミュニケーション研究』(88): 137-155.
- 西兼志, 2016, 『〈顔〉のメディア論——メディアの相貌』法政大学出版局.
- Nozawa, Shunsuke, 2015, “Phatic Traces: Sociality in Contemporary Japan,” *Anthropological Quarterly*, 88(2): 373-400.
- , 2016, “Ensoulment and Effacement in Japanese Voice Acting,” Patrick W. Galbraith and Jason G. Karlin eds., *Media Convergence in Japan*, Tokyo: Kinema Club, 169-199.

- Parks, Lisa, 2015, “Stuff You Can Kick’: Toward a Theory of Media Infrastructures,” Svensson, Patrik and David Theo Goldberg eds., *Between Humanities and the Digital*, Cambridge: The MIT Press, 355-373.
- Peirce, Charles Sanders, 1995, *Philosophical Writings of Peirce* (Justus Buchler, ed.), New York: Dover.
- Silvio, Teri, 2010, “Animation: The New Performance?,” *Journal of Linguistic Anthropology*, 20(2):422-438.
- Smith, Adam, [1776] 2007, *The Wealth of Nations: An Inquiry into the Nature and Causes of the Wealth of Nations* (S. M. Soares ed.), MetaLibri Digital Library.
- Spigel, Lynn, 1995, “From the Dark Ages to the Golden Age: Women’s Memories and Television Reruns,” *Screen*, 36(1): 16-33.
- Steinberg, Marc, 2009, “Anytime, Anywhere: Tetsuwan Atomu Stickers and the Emergence of Character Merchandising,” *Theory, Culture & Society*, 26(2-3): 113-138.
- 渡邊大輔, 2015, 「『可塑性』が駆動するデジタル映像——『生命化』するビジュアルカルチャー」限界研編『ビジュアル・コミュニケーション 動画時代の文化批評』南雲堂, 25-49.
- Wurtzler, Steve, 1992, “She Sang Live, but the Microphone was Turned Off: The Live, the Recorded, and the Subject of Representation,” Rick Altman ed., *Sound Theory Sound Practice*, New York and London: Routledge, 87-105.

【英文要旨】

Events of Affect: Interface, Liveness, and Phaticity

This paper explores the indexicality of communicative events that permeates the contemporary media environment by suturing together three related dimensions of analysis: affect, liveness, and phaticity. In particular, we focus on the “interstitiality” of the interface as it mediates groups and people. While indexical communication through the platform of smartphone applications (like Vine) works to render mediation increasingly transparent while making possible a new metrics of affect, the infrastructural and labor conditions of media circulation (film) and practice (voice acting) produce and conjure up affect and liveness only through retrospective, reflexive projection, keeping the mediating gap intact. We introduce the concept of phaticity to gauge these two orientations – the thinning and the thickening of the interfacial gap – in order to position affect squarely in the realm of eventhood.

Keywords: indexicality, affect, face, voice, here-now/there-then.

2016年参議院選挙における投票行動
—選挙年齢引き下げで若者はどう対峙したか—

Survey on the Information Behavior of Teenagers
during the 2016 House of Councillors Election Campaign

橋元 良明 HASHIMOTO, Yoshiaki 小笠原 盛浩 OGASAHARA, Morihiro
河井 大介 KAWAI, Daisuke 長濱 憲 NAGAHAMA, Ken
吉田 航 YOSHIDA, Wataru

目次

| | | |
|-----|--------------------------------------|--------|
| 0. | 調査の概要 | |
| 0.1 | 調査の目的..... | 橋元 良明 |
| 0.2 | 方法、概要..... | 河井 大介 |
| 0.3 | 頻度ウェイト調整について..... | 河井 大介 |
| 1. | 投票行動 | |
| 1.1 | 投票行動（事前問2、事後問1、2）..... | 河井 大介 |
| 1.2 | 投票政党（事後問3、4）..... | 河井 大介 |
| 1.3 | 投票の基準（事後問16）..... | 長濱 憲 |
| 1.4 | 投票先決定時期（事後問5）..... | 河井 大介 |
| 2. | 選挙期間中のメディア接触 | |
| 2.1 | メディアへの接触（事後問10）..... | 小笠原 盛浩 |
| 2.2 | ソーシャルメディアの利用（事後問9）..... | 小笠原 盛浩 |
| 2.3 | 政党・候補者のサイト・ソーシャルメディアへの接触（事後問11）..... | 小笠原 盛浩 |
| 2.4 | ネットへの書き込み（事後問12、13）..... | 長濱 憲 |
| 3. | 役に立った情報源、信頼できた情報源 | |
| 3.1 | 役に立った情報源（事後問14）..... | 橋元 良明 |
| 3.2 | 信頼できた情報源（事後問15）..... | 橋元 良明 |
| 4. | 争点 | |
| 4.1 | 重要視する争点（事前問9、10、事後問17-19）..... | 長濱 憲 |
| 4.2 | 諸争点に対する態度（事前問11）..... | 吉田 航 |

| | |
|----------------------------------|--------|
| 5. 支持政党と政党イメージ | |
| 5.1 支持政党（事前問 5、6、事後問 6、7） | 長濱 憲 |
| 5.2 各党のイメージ（事前問 7、事後問 8） | 長濱 憲 |
| 6. 選挙年齢引き下げへの評価（事前問 13、事後問 23） | 橋元 良明 |
| 7. メディアの信頼性・公正性・正確性評価（事後問 20-22） | 吉田 航 |
| 8. 年齢層別に見た政治関心と日本社会に対する認識（事前問 4） | 吉田 航 |
| 9. その他の注目すべき説明変数 | |
| 9.1 年齢層別に見た社会争点知識（事前問 12） | 小笠原 盛浩 |
| 9.2 保守革新傾向（事前問 3） | 長濱 憲 |
| <補足資料> | |
| 質問票と単純集計結果 | 河井 大介 |

| | |
|--------|--------------------------------------|
| 橋元 良明 | 東京大学大学院情報学環 |
| 小笠原 盛浩 | 関西大学社会学部 |
| 河井 大介 | 東京大学大学院情報学環 |
| 長濱 憲 | 東京大学大学院学際情報学府博士課程／株式会社電通パブリックリレーションズ |
| 吉田 航 | 東京大学大学院学際情報学府修士課程 |

本報告は、電気通信普及財団平成 27 年度研究調査助成「国政選挙におけるネット選挙運動の効果の比較調査研究」（研究代表者：小笠原 盛浩）の研究成果の一部である。なお、本調査は東京大学情報学環橋元研究室と関西大学小笠原研究室、株式会社電通パブリックリレーションズとの共同研究の一環として実施された。

【主な知見】

1. 投票率

調査対象者（全国 N=1,791）のうち、投票した人 73.6%（全体）、10代 66.2%。

10代は全体平均より低いですが20代より高い。

cf. ネット調査では、実態より投票率が高く出る傾向がある。

投票しなかった理由について10代で多かったのは「時間がなかったから 33.7%（全体 20.9%）」で年齢層別において一番高い。ついで「関心がなかったから 21.4%（同 27.1%）」。

2. 選挙期間中、選挙に関する情報に接したメディア

10代をメディア別にみるとテレビがもっとも高いのは他の年齢層と同じ。

テレビは10代 80.4%（全体 83.0%）、

新聞は10代 34.4%（全体 52.6%）で年齢層別において最低。

「ネット全般※1」は10代 50.9%（全体 37.3%）で年齢層別に見て最高。

そのうち

「2013年以降解禁ネット情報※2」は10代 33.3%（全体 19.0%）で年齢層別に見て最高。

また、ネットの内訳で

政党・候補者のウェブサイトは10代 18.6%（全体 13.4%）で年齢層別に見て最高。

政党・候補者のソーシャルメディアは10代 19.6%（全体 7.9%）で年齢層別に見て最高。

まとめサイトも10代 23.0%（全体 12.6%）も年齢層別で最高。

その他、「家族や友人との会話」も 37.1%（全体 35.1%）で年齢層別に見て60歳代について高い。

※1 「ネット全般」＝事後調査問10の6.～13.。すなわち下記※2に「友人・知人のソーシャルメディア」「インターネットのポータルサイト・ニュースサイト」「まとめサイト」を加えたもの。

※2 「2013年以降解禁ネット情報」＝事後調査問10の6.～10.。（「政党・候補者のウェブサイト」「政党・候補者のソーシャルメディア」「政党・候補者のメール・メールマガジン」「政党・候補者のネット広告」「政党・候補者のネット動画」）

3. ソーシャルメディアでの選挙関連情報への接触※3

種類を問わずソーシャルメディアで10代 52.6%（全体 22.0%）で年齢層別に見て一番高い。

※3 事後調査問9でソーシャルメディアのサービス毎に選挙関連情報への接触頻度を質問しており、その結果から集計。おそらく回答誤差から10代の回答数値は「ネット全般」より数値が高く出ている。

4. 選挙年齢引き下げに対する評価（事後調査）

10代の評価は、概して他の年齢層と大きな違いはない

若い世代の政治的関心の高まりが期待できる 10代 56.7%(全体 57.6%)

若い世代の意見が政治に反映されやすくなった 10代 55.7%(全体 57.1%)

若い世代は投票に行かないから何も変わらない 10代 49.8%(全体 45.8%)

20歳未満は的確な政治的判断ができないから評価できない 10代 36.1%(全体 35.0%)

一般的にみて、選挙権年齢が満18歳以上に引き下げられたことは評価できる

10代 65.6%(全体 64.5%)

5. 役に立ったメディア（母数は各メディアの選挙情報に接触した人）

テレビ 10代 69.2%（全体 64.3%）で年齢層別に見て一番高い。

新聞 10代 73.0%（全体 73.9%）で平均なみ。

政党・候補者のウェブサイトは 10代 50.0%（全体 53.8%）で平均より低い。

政党・候補者のソーシャルメディアは 10代 53.1%（全体 60.4%）で平均より低い。

つまり、10代は、選挙情報をネット経由で接する人が多いが、役に立つという評価は高くない。ある意味でネットに関するリテラシーが高く、冷静に見ている。

「家族や友人との会話」は 10代 70.4%(全体 65.0%) で年齢層別において最も高い。

6. 信頼できたメディア（母数は各メディアの選挙情報に接触した人）

テレビは 10代 67.9%（全体 66.0%）で平均なみ。

新聞は 10代 80.0%（全体 74.1%）で年齢層別に見て最も高い。日頃読んでいないのに信頼している。

政党・候補者のウェブサイトは 10代 63.0%（全体 57.4%）はで平均より高い。

政党・候補者のソーシャルメディアは 10代 51.6%（全体 55.1%）で平均より低い。

7. ネット上への選挙情報の書き込み

10代 19.9%（全体 9.2%）が年齢層別で見ても最も高い。

書き込み内容で見れば、10代は他の年齢層より「政党に関する話題(12.7%)」「候補者に関する話題(6.9%)」の比率が高い。

8. 重視した争点（SA）

10代 1位 景気 29.6%（全体 32.7%）、2位 憲法改正 23.8%（全体 21.5%） 3位 消費税引き上げ 10.7%（全体 6.3%）

消費税引き上げについては、年齢層別で10代が最も高い。あと「年金、医療、介護などの社会保障」は10代6.8%(全体(15.4%))で年齢層別において最低。

9. 支持政党 (SA) (支持政党なしも母数に含む)

10代 自民党 32.6% 民進党 9.6%

全体 自民党 31.7% 民進党 9.9%

10代は他の全体の平均とあまりかわらず。共産党の支持(3.1%)は年齢層別で最も低い。

10. 投票先

<選挙区選挙>

10代 自民党 38.0% 民進党 21.4%

全体 自民党 40.0% 民進党 21.7%

10代は平均的。

<比例代表>

10代 自民党 31.3% 民進党 17.2%

全体 自民党 36.4% 民進党 17.6%

10代は自民党への投票がやや低め。

11. 主な争点への賛否 (事前調査) (「賛成」+「やや賛成」)

TPP (環太平洋パートナーシップ) 協定の推進 10代 29.9% 全体 34.9%

消費税引き上げ 10代 28.9% 全体 24.1%

原子力発電所の稼働 10代 32.3% 全体 22.6%

10代が年齢層別で最高

年金、医療、介護などの社会保障の拡充 10代 55.7% 全体 71.3%

10代が年齢層別で最低

子育て支援策の拡充 10代 69.4% 全体 68.3%

憲法を変えること 10代 26.1% 全体 30.0%

憲法9条を改正すること 10代 24.7% 全体 24.6%

同一労働同一賃金 10代 26.1% 全体 31.1%

米軍基地の撤廃 10代 25.1% 全体 28.9%

政治や社会問題について、若い人たちがデモで意見を表明すること

10代 36.8% 全体 36.0%

安全保障関連法によって、集団的自衛権を使えるようにしたり、自衛隊の海外活動を広げたりすること 10代 27.5% 全体 24.6%

12. 知識度（正答率）

安倍現首相の前の首相の名前は？（苗字だけでかまいません）

10代 43.3% 全体 49.9%

今年5月に先進7カ国首脳会議（G7）の開催地は、日本国内のどこでしたか？

10代 65.4% 全体 81.4%

2016年アメリカ大統領選挙で、共和党の候補指名が確実視されている候補者の名前は？

10代 51.9% 全体 66.3%

今年5月に三菱自動車に2000億円超の出資を行い、事実上の傘下に収めた自動車メーカーの名称は？

10代 33.3% 全体 68.4%

今年5月、安倍首相は消費税を8%から10%に引き上げる時期をいつにすると表明しましたか？

10代 20.3% 全体 34.0%

今年6月に欧州連合（EU）離脱の是非を問う国民投票を実施する国の名前は？

10代 72.5% 全体 66.6%

2016年夏季オリンピックの開催地はどこですか？

10代 91.8% 全体 87.1%

10代は「英国EU離脱」と「2016年夏期オリンピック」を除き、年齢層別で最低。

13. 政治関心

「政治に関心がある」 10代 49.5% 全体 58.4%

20代 30代よりやや高め。

0. 調査の概要

0.1 調査の目的

2015年6月に改正公職選挙法が成立し、選挙権年齢は20歳以上から18歳以上に引き下げられた。そのはじめての適用となる国会議員選挙として、2016年7月の第24回参議院選挙が実施された。選挙権年齢の引き下げの一つの目的は、若年層の声を国政に反映させるためとされるが、アメリカや欧州のほとんど国をはじめ、既に世界の160ヶ国以上が選挙権年齢を18歳以上(一部は16歳または17歳以上)に設定しており、世界の犬勢に合わせた形である。

こうした日本で初めての10代が参加する国会議員選挙に際して、我々は以下のような**問題意識**をもってネットを通じたアンケート調査を実施した。

- (ア)近年の国政選挙では若年層において投票率が低い傾向が見られるが、今回、10代の得票率はいかばかりであるか。
- (イ)若年層(とくに10代、以下同様)ほど、ネットへのアクセス時間が長い傾向が見られるが、選挙情報の取得に関して、彼らはどのような情報源によく接するのか。
- (ウ)若年層において、役に立ったと認識する情報源、信頼する情報源はどのようなものか。
- (エ)若年層において選挙期間中のネットの利用、とくにソーシャルメディアの利用に、他の年齢層と異なった特徴はみられるのか。
- (オ)若年層の投票先政党、政党イメージにどのような傾向がみられるか。
- (カ)若年層が投票に際して、重要視する争点はどのようなものか。
- (キ)結局、今回の「選挙権年齢引き下げ」は、有権者からどの程度評価されたのか。評価に年齢層による差は見られるのか。

なお、本調査は東京大学情報学環橋元研究室と関西大学小笠原研究室、株式会社電通パブリックリレーションズとの共同研究の一環として実施された。

0.2 方法、概要

選挙年齢引き下げで若者が選挙にどう対峙したのかを検証するため、2016年の第24回参議院議員選挙において、同一回答者に参議院議員選挙の公示直前と投票終了直後の2回回答させるインターネット・パネル調査を行った。調査は株式会社マクロミルのモニターで18~69歳の男女に対し、18~19歳、および20歳以上では10歳刻み、男女の12セルで同数となるようにクォーターサンプリングを行った。第1回調査は、参議院議員選挙の公示前(2016年6月20日(月)~21日(火))に実施(以下、事前調査)し2,890サンプルを

回収、第2回調査は、事前調査に回答した人を対象に、参議院議員選挙の投票終了直後(2016年7月10日(日)20時~12日(火))に実施(以下、事後調査)し1,791サンプルを回収した。両方に回答した最終的な有効回答数は1,791サンプルであった(表0.2.1参照)。

表0.2.1 クォータごとの回収数(人)

| | 18-19歳 | 20-29歳 | 30-39歳 | 40-49歳 | 50-59歳 | 60-69歳 | 合計 |
|----|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 男性 | 148 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 898 |
| 女性 | 143 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 893 |
| 合計 | 291 | 300 | 300 | 300 | 300 | 300 | 1,791 |

※18-19歳の男性と女性はそれぞれ150に満たなかった。

事前調査での質問項目は、政治関心、支持政党、ソーシャルメディアの利用、争点重要性、選挙年齢引き下げに対する評価、知識度など合計13問である。また、事後調査の質問項目は、投票の有無、政治関心、支持政党、選挙期間中のメディア(ネットやソーシャルメディアを含む)接触、選挙情報の各メディアへの評価(役に立ったか・信頼性)、争点重要性、選挙年齢引き下げに対する評価など合計24問である。

0.3 頻度ウェイト調整について

本研究では、18歳選挙権にともない、18-19歳の投票時の情報行動を確認することが一つの大きな目的である。したがって、18-19歳のみでの分析を想定し、18-19歳も男女それぞれ150人を割り当てた(結果としては、男性148人、女性143人)。これをそのまま単純に集計した場合、全体の平均値等に18-19歳の影響が強くなる。したがって、今回の調査の分析においては、ウェイト処理をする必要がある。ウェイト処理の方法としては、確率ウェイトと頻度ウェイトに大別される。社会調査におけるウェイトは確率ウェイトを用いるべきであるが、対応している統計分析ソフトが少ないため、本稿では頻度ウェイトを用いる。

ウェイトは、18-19歳と他の年齢層の比率が2:10となり、かつ合計サンプル数が今回の回収サンプル数である1791となるようにした。

$$A : B = 2 : 10$$

$$A \times 291 + B \times 1500 = 1791$$

より、

$$A = 1791 \div 7791 \approx 0.2298806315 \text{ (18-19歳のウェイト)}$$

$$B = 8955 \div 7791 \approx 1.1494031575 \text{ (20歳以上のウェイト)}$$

ウェイト調整後の性別、年齢層ごとの構成比は表 0.3.1 のとおりである。

表 0.3.1 ウェイト調整後のサンプル構成

| | N | 18-19 歳 | 20-29 歳 | 30-39 歳 | 40-49 歳 | 50-59 歳 | 60-69 歳 | 合計 |
|----|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|
| N | | 66.9 | 344.8 | 344.8 | 344.8 | 344.8 | 344.8 | 1,791.0 |
| 女性 | 894.9 | 49.1% | 50.0% | 50.0% | 50.0% | 50.0% | 50.0% | 50.0% |
| 男性 | 896.1 | 50.9% | 50.0% | 50.0% | 50.0% | 50.0% | 50.0% | 50.0% |
| 合計 | 1,791.0 | 3.7% | 19.3% | 19.3% | 19.3% | 19.3% | 19.3% | 100.0% |

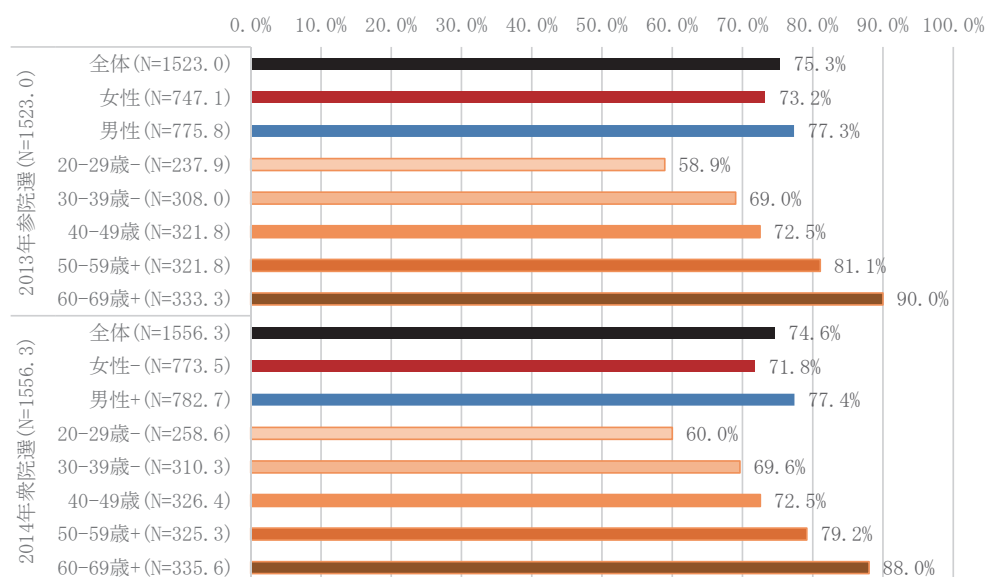
1. 投票行動

1.1 投票行動（事前問2、事後問1、2）

投票行動について、事前調査で2013年7月の参議院議員選挙と2014年12月の衆議院議員選挙の際に投票したか（事前調査問2）、事後調査で投票に行ったか（事後調査問1）と投票しなかった理由（事後調査問2）を質問した。

1.1.1 過去選挙時の投票行動

まず、事前調査から2013年7月の参議院議員選挙と2014年12月の衆議院議員選挙の投票の有無を確認した（事前調査問2、図1.1.1）。性別では女性より男性、年齢層別では年齢層が高いほど投票率が高い傾向であった。総務省が公表した投票率では、2013年参議院議員選挙で52.61%、2014年衆議院議員選挙では52.66%であり（総務省、2016a、70歳以上も含まれる。）、本研究のサンプルは実勢に比べて投票率が高い傾向にある。



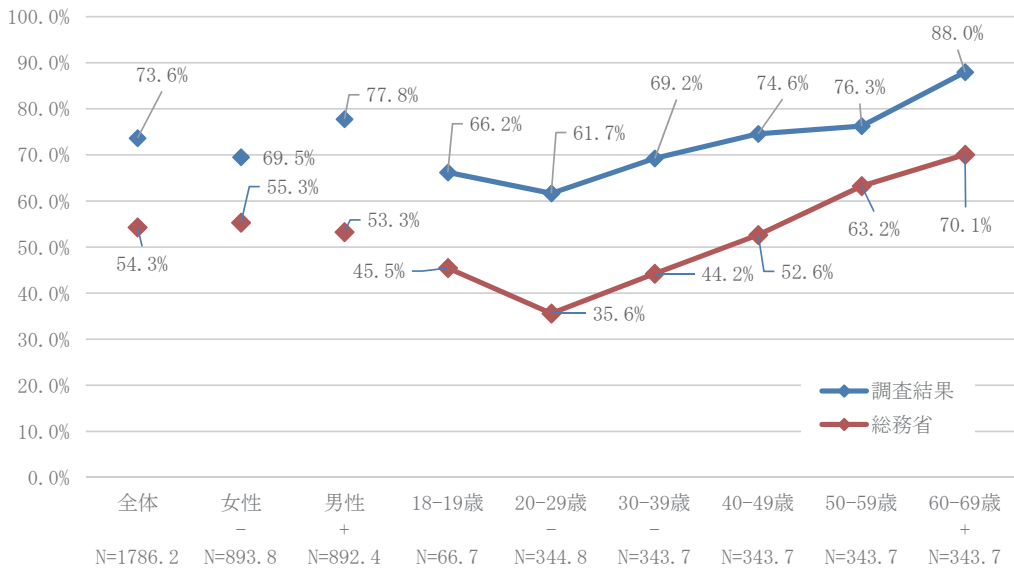
- ※ 「選挙権がなかった」と「覚えていない」は欠損値。
- ※ χ^2 検定の結果、2013参院選の性別で有意な偏りなし（5%水準）、年齢層で有意（0.1%水準）、2014年衆院選の性別で有意（5%水準）、年齢層で有意（0.1%水準）な偏りあり。
- ※ 性別、年齢層別の横の+と-は、残差分析の結果、5%水準で+は高く、-は低いことを示す。
- ※ 18-19歳は過去の選挙時には選挙権がなかったため、除外した。

図 1.1.1 全体・性・年齢層別の過去選挙時の投票率

1.1.2 2016年参議院議員選挙時の投票の有無

選挙権年齢が引き下げられて初めての国政選挙であった2016年7月の参議院議員選挙における投票の有無を確認した（事後調査問1、図1.1.2）。投票率は、全体で73.6%と総務省発表の実際の投票率（総務省、2016b）に比べて高い値を示している。性別で見た場合、男性が女性より高く、年齢層別でみた場合、60代が高く20代・30代が低い傾向が見られた。18-19歳は、全体の平均よりも低い傾向にはあるが、20代よりは高い傾向が見られた。

また、総務省発表の年齢層別の投票率と比べるといずれも高い傾向が見られるが、全体的な傾向は同様であった。



※ 「選挙権がなかった」は欠損値。

※ 性別、年齢層別の下のとーは、本調査において、 χ^2 検定の結果 0.1%水準で有意な偏りがあり、残差分析の結果、5%水準で+は高く、-は低いことを示す。また、Nは本調査結果のサンプル数。

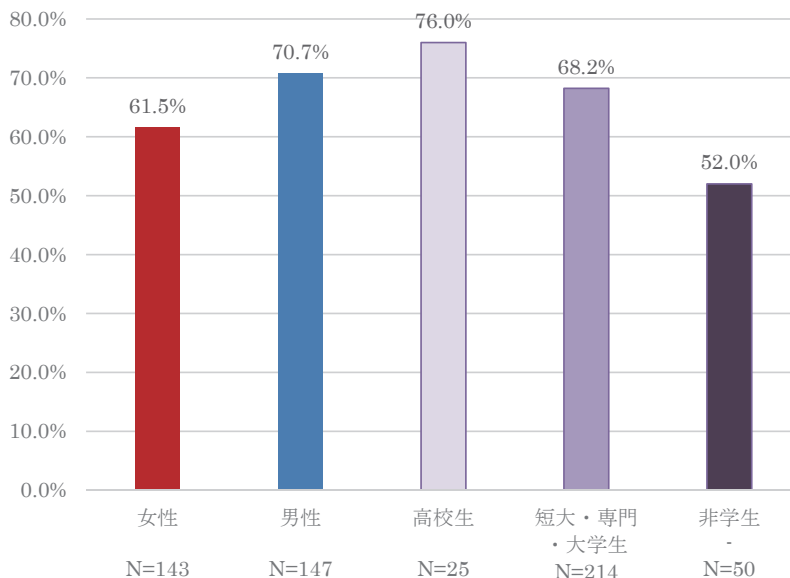
※ 総務省の投票率は総務省（2016b）総務省（2016c）より筆者計算。全体、男性、女性は18～69歳までで集計した。

図 1.1.2 全体・性・年齢層別の投票率と総務省発表の投票率（N=1786.2）

1.1.3 18～19歳の投票の有無

さらに、今回の選挙から選挙権を得た18-19歳の投票行動についてより詳細に確認したい。本項では、18-19歳のみを対象に分析を行うため、ウェイトニングしていない状態で分析を行う。性別および学生（高校生とそれ以外を区別）・非学生別での投票の有無で投票の有無を確認したものが図1.1.3である。 χ^2 検定の結果、性別、学生・非学生別では5%水準で有意差が見られなかったが、学生・非学生別では残差分析の結果、非学生が5%水

準で投票率が低い傾向が見られた。非学生の投票率が低い点は、学生が学校等で選挙権が引き下げられ投票に行くよう伝えられた一方で、非学生ではそのようなことがなかったためではないだろうか。



※ 「選挙権がなかった」は欠損値。

※ 性別、学生・非学生別では、 χ^2 検定の結果、5%水準で有意な偏りは見られなかったが、非学生下のものは、残差分析の結果、5%水準で低いことを示す。

図 1.1.3 18～19 歳の性・学生・非学生別の投票率

1.1.4 選挙期間中のメディア利用の投票行動への影響

次に選挙期間中のメディア利用が投票行動にどのような影響を与えたのか確認した。まず、投票行動に影響を及ぼす項目として、男性ダミー（女性=0、男性=1）、年齢、ふだんの政治的関心（事前調査問 4 (1)、「そう思う」を 5、「ややそう思う」を 4、「どちらともいえない」を 3、「あまりそう思わない」を 2、「そう思わない」を 1）を統制変数、ネットでの選挙情報接触有無（事後調査問 10(6)、(7)、(8)、(9)、(10)、(11)、(12)、(13)のうち1つでも選挙期間中に1回以上接した人を1、そうでない人を0）、テレビでの選挙情報接触有無（事後調査問 10(1)で選挙期間中に1回以上接した人を1、そうでない人を0）、新聞での選挙情報接触有無（事後調査問 10(2)で選挙期間中に1回以上接した人を1、そうでない人を0）、友人・家族との選挙関連会話有無（事後調査問 10 (15)で選挙期間中に1回以上した人を1、そうでない人を0）を説明変数とし、投票の有無を目的変数とし、全年齢層および年齢層ごとのロジスティック回帰分析を行った（表 1.1.1）。

表 1.1.1 メディア接触による投票行動への影響を示すロジスティック回帰分析

| 目的変数：投票有無 | 全年齢層 | 18-19 歳 | 20 代 | 30 代 |
|------------------------|-------------------|-------------------|-----------------|-----------------|
| <i>N</i> | 1786 | 290 | 300 | 299 |
| 男性ダミー | 0.0757 * | 0.0308 | 0.1383 † | 0.2654 ** |
| 年齢 | 0.1372 *** | | | |
| 政治的関心 | 0.2378 *** | 0.1607 * | 0.2499 ** | 0.3854 *** |
| ネットでの選挙情報接触有無 | 0.0621 † | 0.0866 | 0.0779 | 0.0702 |
| テレビでの選挙情報接触有無 | 0.0713 * | 0.1044 | -0.0058 | 0.1688 * |
| 新聞での選挙情報接触有無 | 0.2164 *** | 0.3370 *** | 0.2104 * | 0.0858 |
| 友人・家族との選挙関連会話有無 | 0.1671 *** | -0.0495 | 0.1873 * | 0.2077 * |
| <i>Wald</i> χ^2 値 | 239.89 *** | 31.05 *** | 42.26 *** | 49.52 *** |

| | 40 代 | 50 代 | 60 代 |
|------------------------|------|-----------------|------------------|
| <i>N</i> | 299 | 299 | 299 |
| 男性ダミー | | 0.0055 | 0.0030 |
| 年齢 | | | |
| 政治的関心 | | 0.1996 * | 0.2419 ** |
| ネットでの選挙情報接触有無 | | 0.1184 | 0.0616 |
| テレビでの選挙情報接触有無 | | 0.0568 | 0.0778 |
| 新聞での選挙情報接触有無 | | 0.1777 * | 0.2090 * |
| 友人・家族との選挙関連会話有無 | | 0.0705 | 0.3195 ** |
| <i>Wald</i> χ^2 値 | | 23.08 *** | 36.65 *** |

※数値は標準化推定値。

※標準化推定値横の記号は、***: $p < .001$ 、**: $p < .01$ 、*: $p < .05$ 、†: $p < .10$ を示す。

※全年齢層では年齢を統制変数として投入したため、ウェイティング調整していない。

全年齢層で見た場合、ネットで10%水準、テレビで5%水準、新聞と友人・家族との会話では0.1%水準で有意な正の効果が見られた。18-19歳では、新聞のみが0.1%水準で有意な正の効果が見られたが、ネット、テレビ、友人・家族ではいずれも10%水準でも有意な効果は見られなかった。他方、20代では新聞と友人・家族（いずれも5%水準）、30代では友人・家族とテレビ（いずれも5%水準）、40代では新聞（5%水準）、50代では友人・家族（1%水準）と新聞（5%水準）、60代では友人・家族と新聞（いずれも1%水準）で正の効果が見られた。今回から選挙権を得た18-19歳では、選挙期間中に新聞で選挙情報に接した人ほど投票に行っているが、ネットは投票有無に有意な効果を持たなかった。

さらに、メディア別にみた場合、ネットはいずれの年齢層でも10%水準で有意な効果は見られず、テレビは30代でのみ5%水準で有意な正の効果が見られた。また、新聞は30代を除き5%未満の水準で有意な正の効果が見られ、友人・家族は20代、30代（いずれも5%水準）、50代、60代（いずれも10%水準）で有意な正の効果が見られた。

1.1.5 投票に行かなかった理由

投票に行かなかった人に事後調査問2で投票に行かなかった理由を択一式で質問してい

る。その結果を、全体、性別、年齢層別にまとめたものが表 1.1.2 である。全体では、「1. 関心がなかった」(27.1%)、「2. 時間がなかった」(20.9%)、「3. 選択したい候補者がいなかった」(18.2%) の順が多い。性別で見た場合、順位に差は見られないが、「4. どの政党・候補者に投票するか判断に迷った」と回答した人は女性(9.0%)が男性(2.1%)より高い傾向が見られた。また、年齢層別では、18-19 歳、40-49 歳では、他の年齢層と比べて有意な偏りは見られなかったが、20-29 歳では「2. 時間がなかった」が高く「4. どの政党・候補者に投票するか判断に迷った」が低い傾向が見られ、30-39 歳では「1. 関心がなかった」が高く、「8. その他」が低い傾向が見られ、50-59 歳では「3. 選択したい候補者がいなかった」が高く「2. 時間がなかった」が低い傾向が見られ、60-69 歳では「4. どの政党・候補者に投票するか判断に迷った」が高く、「1. 関心がなかった」が低い傾向が見られた。

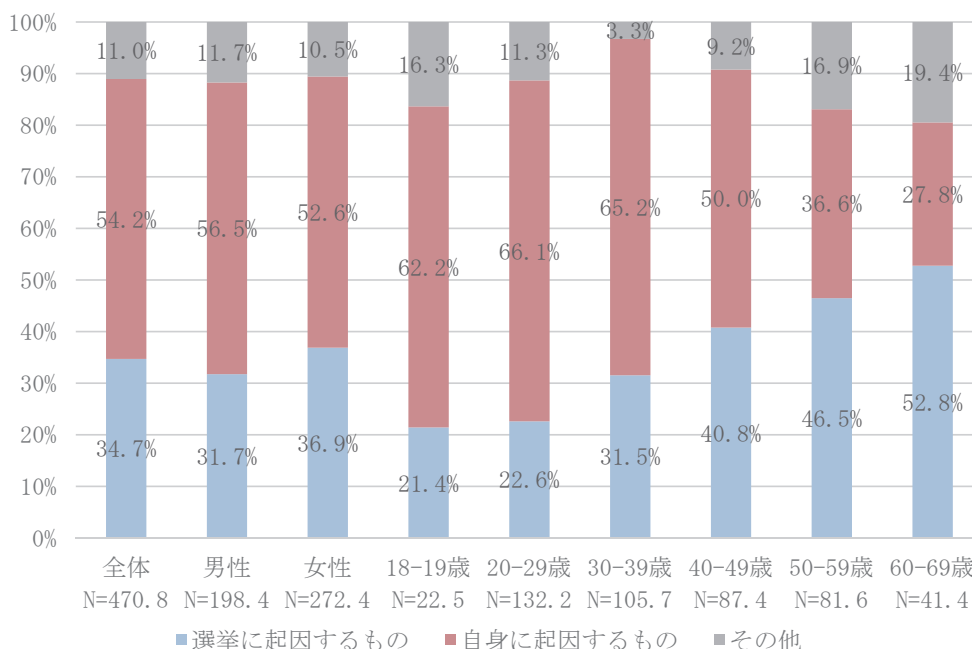
表 1.1.2 全体・性別・年齢層別の選挙に行かなかった理由

| | 全体 | 男性 | 女性 | 18-19 歳 | 20-29 歳 | 30-39 歳 | 40-49 歳 | 50-59 歳 | 60-69 歳 |
|------------------------------|--------------------|--------------------------|--------------------------|------------|---------------------------|---------------------------|------------|---------------------------|---------------------------|
| N | 470.8 | 198.4 | 272.4 | 22.5 | 132.2 | 105.7 | 87.4 | 81.6 | 41.4 |
| 1. 関心がなかった | 27.1% | 29.7% | 25.3% | 21.4% | 30.4% | 38.0% ⁺ | 23.7% | 19.7% | 13.9% ⁻ |
| 2. 時間がなかった | 20.9% | 20.6% | 21.1% | 33.7% | 28.7% ⁺ | 17.4% | 23.7% | 11.3% ⁻ | 11.1% |
| 3. 選択したい候補者がいなかった | 18.2% | 16.7% | 19.3% | 8.2% | 13.0% | 17.4% | 22.4% | 26.8% ⁺ | 16.7% |
| 4. どの政党・候補者に投票するか判断に迷った | 6.1% | 2.1% ⁻ | 9.0% ⁺ | 5.1% | 2.6% ⁻ | 4.3% | 6.6% | 5.6% | 22.2% ⁺ |
| 5. 今回の選挙状況に不満があった | 2.4% | 3.5% | 1.7% | 0.0% | 1.7% | 4.3% | 2.6% | 2.8% | 0.0% |
| 6. 面倒だった | 6.2% | 6.3% | 6.2% | 7.1% | 7.0% | 9.8% | 2.6% | 5.6% | 2.8% |
| 7. 投票しても結果に大きな影響を及ぼすとは思わなかった | 8.0% | 9.5% | 6.8% | 8.2% | 5.2% | 5.4% | 9.2% | 11.3% | 13.9% |
| 8. その他 | 11.0% | 11.7% | 10.5% | 16.3% | 11.3% | 3.3% ⁻ | 9.2% | 16.9% | 19.4% |
| χ^2 値 | 12.99 [†] | | 75.96 ^{***} | | | | | | |

※ χ^2 値は、性別、年齢層別の χ^2 検定の結果、***: $p < .001$ 、†: $p < .10$ で有意な偏り有。

※数値横の記号は、残差分析の結果、5%水準で⁺は高い、⁻は低いことを示す。

さらに、選挙に行かなかった理由を、「3. 選択したい候補者がいなかった」「4. どの政党・候補者に投票するか判断に迷った」「5. 今回の選挙状況に不満があった」「7. 投票しても結果に大きな影響を及ぼすとは思わなかった」の4項目を「選挙に起因するもの」、「1. 関心がなかった」「2. 時間がなかった」「6. 面倒だった」の3項目を「自身に起因するもの」、「8. その他」を「その他」として集計したものが図 1.1.4 である。 χ^2 検定の結果、性別では有意な偏りが見られず、年齢層別では、残差分析の結果、20代30代で自身に起因するものが高く、50代60代では選挙に起因するものが高い傾向が見られた。



※ χ^2 検定の結果、性別では5%水準で有意な偏りがなく、年齢層別では0.1%水準で有意な偏りがある。

図 1.1.4 選挙に行かなかった理由（カテゴリ）

参考文献

総務省（2016a）「国政選挙における投票率の推移」http://www.soumu.go.jp/senkyo/senkyo_s/news/sonota/ritu/（Last Access 2017/1/24）

総務省（2016b）「第24回 参議院議員通常選挙年齢別投票者数調（抽出調査）」
http://www.soumu.go.jp/main_content/000438656.xlsx（Last Access 2017/1/24）

総務省（2016c）「第24回 参議院議員通常選挙年齢別投票者数調（18歳・19歳）（速報）」
http://www.soumu.go.jp/main_content/000429404.xlsx（Last Access 2017/1/24）

1.2 投票政党（事後問3、4）

1.2.1 投票先の傾向

投票に行った人に対して、選挙区選挙、比例区選挙での投票先を質問している。ここでは、選挙区選挙、比例区選挙での投票先について、全体、性別、年齢層別に確認する。

（1）選挙区選挙での投票先

全体、性別、年齢層別の選挙区選挙での投票先（事後調査問3）の結果は、表1.2.1の

通りである。ここで、全体で投票した人が1%以下の政党等は、「その他」としてまとめたもので χ^2 検定を行った。

選挙区選挙で得票率が5%を超えている政党は自由民主党(40.4%)、民進党(21.7%)、日本共産党(8.8%)、おおさか維新の会(8.6%)、公明党(5.2%)であった。性別では有意な偏りが見られず、年齢層別では、20代30代で自由民主党への投票者が多く民進党への投票者の比率が低く、また40代では民進党への投票者が少ない。一方で60代では自由民主党への投票者が少なく、民進党への投票者の比率が高い傾向が見られた。

表 1.2.1 全体・性別・年齢層別の選挙区選挙投票先(%)

| | 全体 | 女性 | 男性 | 18-19歳 | 20-29歳 | 30-39歳 | 40-49歳 | 50-59歳 | 60-69歳 | |
|------------------------|-----------------|-------|--------|---------------|--------|--------|--------|--------|--------|------|
| N | 1,315.4 | 621.4 | 694.0 | 44.1 | 212.6 | 237.9 | 256.3 | 262.1 | 302.3 | |
| 自由民主党 | 40.0% | 38.5% | 41.3% | 38.0% | 54.1% | 46.4% | 37.7% | 35.5% | 41.2% | |
| 民進党 | 21.7% | 21.9% | 21.5% | 21.4% | 13.0% | 16.4% | 17.0% | 24.1% | 33.8% | |
| 公明党 | 5.2% | 6.1% | 4.4% | 6.8% | 4.3% | 5.3% | 7.6% | 3.9% | 4.6% | |
| 日本共産党 | 8.8% | 9.7% | 7.9% | 3.1% | 5.4% | 7.7% | 10.3% | 10.1% | 10.3% | |
| おおさか維新の会 | 8.6% | 7.6% | 9.5% | 6.3% | 5.9% | 6.3% | 11.2% | 9.6% | 9.5% | |
| その他 | 15.8% | 16.2% | 15.4% | 24.5% | 17.3% | 17.9% | 16.1% | 16.7% | 10.6% | |
| χ^2 値 | | 5.249 | 0.3863 | 80.401 <.0001 | | | | | | |
| その 他 の 内 訳 | 社会民主党 | 0.6% | 0.8% | 0.5% | 1.0% | 0.5% | 1.0% | 0.4% | 0.9% | 0.4% |
| | 生活の党と山本太郎となかまたち | 0.6% | 0.6% | 0.5% | 1.6% | 0.5% | 0.5% | 1.3% | 0.4% | 0.0% |
| | 日本のことを大切に作る党 | 1.6% | 1.1% | 2.0% | 0.5% | 2.7% | 1.9% | 1.3% | 1.3% | 1.1% |
| | 日本を元気にする会 | 0.3% | 0.4% | 0.2% | 0.0% | 0.5% | 0.5% | 0.4% | 0.0% | 0.0% |
| | 新党改革 | 0.2% | 0.4% | 0.0% | 0.5% | 0.0% | 1.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| | 沖縄社会大衆党 | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| | その他の政党【 】 | 1.2% | 0.4% | 1.9% | 2.1% | 1.1% | 1.4% | 0.9% | 1.3% | 1.1% |
| | 無所属 | 4.8% | 5.1% | 4.6% | 3.6% | 4.3% | 5.3% | 4.5% | 5.3% | 4.9% |
| | 政党名は覚えていない | 3.6% | 5.1% | 2.2% | 9.9% | 3.8% | 1.9% | 4.9% | 5.3% | 1.1% |
| | 記入していない | 2.9% | 2.2% | 3.5% | 5.2% | 3.8% | 4.3% | 2.2% | 2.2% | 1.9% |

※ χ^2 値は、全体で投票した人の割合が5%以下をその他にまとめて、性別、年齢層別での χ^2 検定の結果。残差分析の結果、5%水準で黒・太字は高く、赤・太字は低いことを示す。

(2) 比例区選挙での投票先

全体、性別、年齢層別の比例区選挙での投票先(事後調査問4)の結果は、表1.2.2の通りである。ここで、全体の投票した人の割合が5%以下の政党等は、「その他」としてまとめたもので χ^2 検定を行った。

分析の結果、選挙区投票先と大きくは変わらないが、選挙区選挙で得票率が5%を超えている政党は自由民主党(36.4%)、民進党(17.6%)、おおさか維新の会(12.5%)、日本共産党(11.5%)、公明党(6.6%)であった。性別では有意な偏りが見られず、年齢層別

では、20代30代で自由民主党への投票者が多く、30代では民進党への投票者の比率が低く、また40代では民進党への投票者が少ない。一方で50代60代では自由民主党への投票者が少なく、60代では民進党や日本共産党への投票者の比率が高い傾向が見られた。

表 1.2.2 全体・性別・年齢層別の比例区選挙投票先（％）

| | 全体 | 女性 | 男性 | 18-19歳 | 20-29歳 | 30-39歳 | 40-49歳 | 50-59歳 | 60-69歳 | |
|------------------------|-----------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|------|
| N | 1,315.4 | 621.4 | 694.0 | 44.1 | 212.6 | 237.9 | 256.3 | 262.1 | 302.3 | |
| 自由民主党 | 36.4% | 37.3% | 35.7% | 31.2% | 47.6% | 43.0% | 39.5% | 29.4% | 27.8% | |
| 民進党 | 17.6% | 16.9% | 18.3% | 17.2% | 14.1% | 13.0% | 12.6% | 19.7% | 26.2% | |
| 公明党 | 6.6% | 7.7% | 5.5% | 7.8% | 4.3% | 6.8% | 5.8% | 9.6% | 5.7% | |
| 日本共産党 | 11.5% | 11.5% | 11.5% | 6.3% | 5.4% | 10.1% | 13.0% | 13.2% | 14.8% | |
| おおさか維新の会 | 12.5% | 10.5% | 14.3% | 9.4% | 9.7% | 10.6% | 12.6% | 14.0% | 15.2% | |
| その他 | 15.4% | 16.1% | 14.7% | 28.1% | 18.9% | 16.4% | 16.6% | 14.0% | 10.3% | |
| χ^2 値 | | 7.172 | 0.2082 | | | 77.648 | <.0001 | | | |
| その 他 の 内 訳 | 社会民主党 | 1.6% | 1.7% | 1.5% | 1.0% | 1.6% | 0.5% | 1.8% | 2.2% | 1.9% |
| | 生活の党と山本太郎となかまたち | 0.8% | 1.1% | 0.6% | 1.0% | 0.0% | 1.9% | 1.3% | 0.9% | 0.0% |
| | 日本のことを大切に作る党 | 2.7% | 2.4% | 2.9% | 2.6% | 4.9% | 1.9% | 2.7% | 1.8% | 2.7% |
| | 日本を元気にする会 | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| | 新党改革 | 0.9% | 0.5% | 1.3% | 3.6% | 1.1% | 1.0% | 0.4% | 0.9% | 0.8% |
| | 沖縄社会大衆党 | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| | その他の政党【 】 | 0.0% | 0.8% | 1.1% | 1.6% | 0.0% | 1.0% | 1.3% | 0.4% | 1.5% |
| | 無所属 | 0.9% | 1.3% | 2.0% | 4.2% | 2.2% | 2.4% | 1.8% | 0.4% | 1.1% |
| | 政党名は覚えていない | 1.6% | 5.0% | 2.2% | 5.2% | 5.9% | 2.9% | 5.4% | 3.5% | 0.4% |
| 記入していない | 3.5% | 3.3% | 3.2% | 8.9% | 3.2% | 4.8% | 1.8% | 3.9% | 1.9% | |

※ χ^2 値は、全体で投票した比率が5%以下をその他にまとめて、性別・年齢層別での χ^2 検定の結果。残差分析の結果、5%水準で黒・太字は高く、赤・太字は低いことを示す。

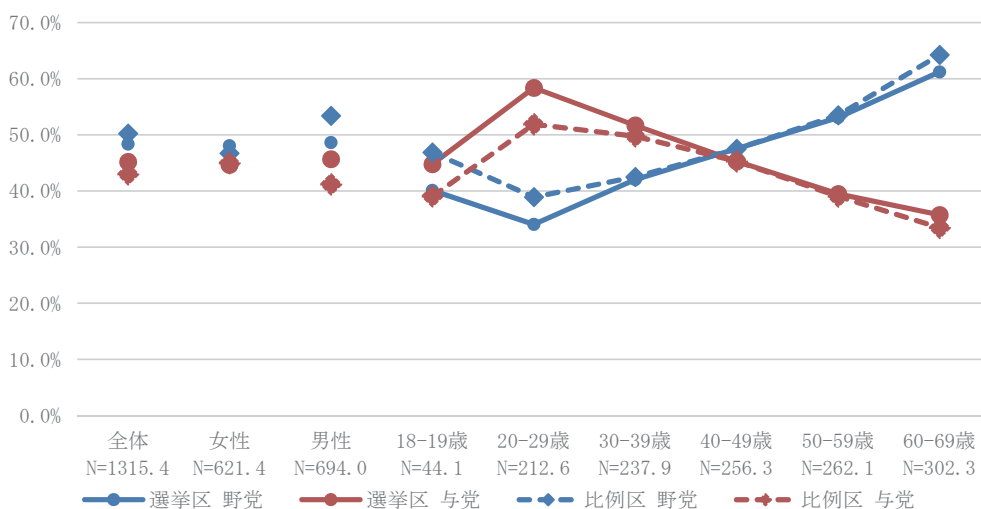
(3) 与党 vs 野党

さらに、与党（自由民主党と公明党）と野党のどちらに投票したのか¹、明らかにしたい。ここでは、選挙区投票先、比例区投票先それぞれで、与党と野党への投票率を、全体・性別・年齢層別で確認した（図 1.2.1）。

全体では、選挙区・比例区いずれも野党が与党よりも多い傾向が見られた。性別でも傾向は同様に野党が与党よりも多い傾向が見られたが、比例区では女性よりも男性で野党への投票が多かった（ χ^2 検定の結果、5%水準で有意）。さらに年齢層別では、選挙区・比例区ともに20代30代では野党よりも与党への投票が多く、60代では逆に与党よりも野党への投票が多く（ χ^2 検定の結果、いずれも0.1%水準で有意）、10代を除けば年齢層が高い

¹ 投票先で「政党名は覚えていない」と「記入していない」は、欠損値とせずその他として計算し、表では省略した。

ほど野党への投票が多い傾向が見られた。10代に着目した場合、選挙区では野党が与党よりも多く、比例区では与党よりも野党が多い傾向が見られた。



| | 選挙区 | | | | 比例区 | | | |
|-----------------|--------------|--------------|------------|----------|--------------|--------------|------------|----------|
| | 野党 | 与党 | χ^2 値 | ρ 値 | 野党 | 与党 | χ^2 値 | ρ 値 |
| 全体(N=1315.4) | 48.4% | 45.2% | | | 50.2% | 43.0% | | |
| 女性(N=621.4) | 48.1% | 44.7% | | | 46.7% | 45.0% | | |
| 男性(N=694.0) | 48.6% | 45.7% | 1.385 | 0.5004 | 53.4% | 41.2% | 8.035 | 0.0180 |
| 18-19歳(N=44.1) | 40.1% | 44.8% | | | 46.9% | 39.1% | | |
| 20-29歳(N=212.6) | 34.1% | 58.4% | | | 38.9% | 51.9% | | |
| 30-39歳(N=237.9) | 42.0% | 51.7% | | | 42.5% | 49.8% | | |
| 40-49歳(N=256.3) | 47.5% | 45.3% | | | 47.5% | 45.3% | | |
| 50-59歳(N=262.1) | 53.1% | 39.5% | | | 53.5% | 39.0% | | |
| 60-69歳(N=302.3) | 61.2% | 35.7% | 53.056 | <.0001 | 64.3% | 33.5% | 50.258 | <.0001 |

※ χ^2 値は、性別・年齢層別での χ^2 検定の結果。残差分析の結果、5%水準で黒・太字は高く、赤・太字は低いことを示す。

図 1.2.1 全体・性別・年齢層別の与党、野党の得票率

1.3 投票の基準

今回の参議院選挙で投票した人 (N=1,315.4) に対して、政党や候補者に投票するとき何を判断の基準にしたか複数回答で選択してもらった。属性等別 (性別・年齢層別・投票有無別) の回答結果を示したものが表 1.3.1 である (事後調査問 16)。

回答者全体の中では、「政党の主張」(44.7%)、「候補者の主張」(38.3%) が重要視されており、「政党のイメージ」(33.7%)、「候補者の人柄やイメージ」(31.6%) が続く。

性別の比較では、「候補者の人柄やイメージ」、「周りの人の意見や評価」は 0.1%水準、

「候補者の主張」は1%水準で女性の方が男性よりも有意に高かった。一方で、「参考にしたものはない」は5%水準で男性の方が女性よりも有意に高かった。また、「政党の主張」も10%水準で男性の方が女性よりも高い有意傾向が認められた。

年齢層別の比較では、0.1%水準で「政党の主張」に有意な違いが認められ、高年齢層の方が高い違いが見られた。一方、「参考にしたものはない」でも1%水準で有意な違いが認められ、高年齢層よりも若年層の方が高い傾向が見られた。

この結果から、投票者は政党と候補者の主張とイメージの両方に基づいて投票しているが、女性の方が候補者の人柄・イメージや、周りの人の意見・評価の影響を受けやすいなど性差による違いが存在することも明らかとなった。

また、高齢者の方が政党の主張を重視するなど、年齢層によっても投票の基準に違いが存在することが明らかとなった。

表 1.3.1 投票の基準（事後問 16） ※複数回答

| 属性等 | 全体 | 男性 | 女性 | 有意水準 | 18-19歳 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 有意水準 |
|-------------|--------|-------|-------|------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|------|
| N | 1315.4 | 694.0 | 621.4 | - | 44.1 | 212.6 | 237.9 | 256.3 | 262.1 | 302.3 | - |
| 候補者の人柄やイメージ | 31.6% | 27.0% | 36.7% | *** | 32.3% | 34.6% | 33.8% | 28.7% | 30.3% | 31.2% | n.s. |
| 候補者の主張 | 38.3% | 34.5% | 42.6% | ** | 30.2% | 35.7% | 43.5% | 37.7% | 41.2% | 35.4% | n.s. |
| 政党のイメージ | 33.7% | 33.0% | 34.6% | n.s. | 26.6% | 36.2% | 35.3% | 29.6% | 30.3% | 38.4% | n.s. |
| 政党の主張 | 44.7% | 47.2% | 41.9% | † | 31.8% | 37.8% | 43.5% | 40.4% | 46.1% | 54.8% | *** |
| 周りの人の意見や評価 | 8.6% | 5.4% | 12.2% | *** | 14.6% | 10.3% | 10.6% | 5.4% | 7.5% | 8.7% | n.s. |
| 運動員からの働きかけ | 2.5% | 1.9% | 3.1% | n.s. | 1.6% | 2.2% | 3.4% | 0.4% | 4.4% | 2.3% | † |
| その他 | 2.1% | 2.2% | 1.9% | n.s. | 1.6% | 1.6% | 2.9% | 1.8% | 2.2% | 1.9% | n.s. |
| 参考にしたものはない | 18.3% | 20.4% | 16.0% | * | 24.5% | 25.9% | 15.9% | 20.6% | 18.0% | 12.2% | ** |

※ χ^2 検定結果 n.s.:no significant, †:p<0.1, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

1.4 投票先決定時期（事後問 5）

選挙区選挙、比例区選挙での投票先の決定時期（事後調査問 5）を質問した。投票先決定時期は、4月以前、5月から選挙公示日の前日である6月21日、選挙公示日である6月22日から投票日の1週間前の前日である7月2日、投票日の1週間前である7月3日から投票日の前日である7月9日、投票日当日の7月10日の5つの区分で選択させている。選挙区・比例区別に、全体、性別、年齢層別の投票先決定時期を確認した結果が表 1.4.1 である。全体では、選挙区・比例区ともに投票日の1週間前（7月3日）から前日（7月9日）が最も多く（選挙区：33.8%、比例区 31.8%）、次いで投票日（7/10）が多く（選挙区 28.1%、比例区 28.2%）、投票日の1週間前以降に投票先を決める人が約6割であった。性別でも傾向としては同様であるが、選挙区・比例区いずれも女性よりも男性の方が4月

以前に投票先を決めている比率が高く、投票日の投票日の1週間前（7月3日）から前日（7月9日）に投票先を決めている人は男性よりも女性の方が多く、傾向としては男性が女性よりも早い時期に投票先を決めている傾向が見られた。さらに年齢層別にみた場合、年齢層が若いほど投票日の近くで投票先を決める傾向が強い傾向が見られた。

表 1.4.1 全体・性別・年齢層別の投票先決定時期

| 選挙区 | 4月以前 | 5月-6/21 | 6/22-7/2 | 7/3-7/9 | 7/10 | χ^2 値 | p 値 |
|----------------------|--------------|-------------|----------|--------------|--------------|------------|--------|
| 全体 (N=1315.4) | 14.6% | 6.2% | 17.4% | 33.8% | 28.1% | | |
| 性別 女性 (N=621.4) | 10.7% | 5.4% | 16.8% | 39.3% | 27.8% | | |
| 男性 (N=694) | 18.1% | 6.8% | 17.8% | 28.9% | 28.4% | 23.90 | <.0001 |
| 年齢 18-19 歳 (N=44.1) | 7.3% | 6.3% | 12.0% | 31.2% | 43.2% | | |
| 層別 20-29 歳 (N=212.6) | 10.3% | 5.9% | 17.3% | 31.9% | 34.6% | | |
| 30-39 歳 (N=237.9) | 10.6% | 4.3% | 17.9% | 33.3% | 33.8% | | |
| 40-49 歳 (N=256.3) | 14.8% | 4.0% | 15.7% | 32.3% | 33.2% | | |
| 50-59 歳 (N=262.1) | 15.8% | 5.7% | 18.9% | 35.5% | 24.1% | | |
| 60-69 歳 (N=302.3) | 20.5% | 9.9% | 17.9% | 35.7% | 16.0% | 56.42 | <.0001 |

| 比例区 | 4月以前 | 5月-6/21 | 6/22-7/2 | 7/3-7/9 | 7/10 | χ^2 値 | p 値 |
|----------------------|--------------|-------------|--------------|--------------|--------------|------------|--------|
| 全体 (N=1315.4) | 17.7% | 5.5% | 16.7% | 31.8% | 28.2% | | |
| 性別 女性 (N=621.4) | 14.2% | 6.3% | 14.5% | 36.7% | 28.4% | | |
| 男性 (N=694) | 20.9% | 4.9% | 18.7% | 27.5% | 28.0% | 21.94 | 0.0002 |
| 年齢 18-19 歳 (N=44.1) | 7.8% | 3.6% | 13.5% | 32.3% | 42.7% | | |
| 層別 20-29 歳 (N=212.6) | 11.4% | 5.9% | 16.8% | 30.3% | 35.7% | | |
| 30-39 歳 (N=237.9) | 15.0% | 3.4% | 16.4% | 32.9% | 32.4% | | |
| 40-49 歳 (N=256.3) | 17.0% | 4.9% | 14.3% | 30.5% | 33.2% | | |
| 50-59 歳 (N=262.1) | 20.6% | 5.3% | 18.0% | 32.0% | 24.1% | | |
| 60-69 歳 (N=302.3) | 24.0% | 8.0% | 18.3% | 33.1% | 16.7% | 51.32 | 0.0001 |

※ χ^2 値は、性別・年齢層別での χ^2 検定の結果。残差分析の結果、5%水準で黒・太字は高く、赤・太字は低いことを示す。

2. 選挙期間中のメディア接触

2.1 メディアへの接触

選挙期間中にどのようなメディアで選挙に関する情報を見聞きしたか、属性等別（性別、年齢層別、投票有無別）の接触率を示したものが表 2.1.1 である（事後調査問 10）。

表 2.1.1 メディア別選挙関連情報の接触率（単位：％）

| 属性等 N | 全体 1791.0 | 男性 896.1 | 女性 894.9 | ※ | 18-19 66.9 | 20代 344.8 | 30代 344.8 | 40代 344.8 | 50代 344.8 | 60代 344.8 | ※ | 投票 1315.4 | 非投票 470.8 | ※ |
|----------------------|--------------|-------------|-------------|------|---------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|------|--------------|--------------|-----|
| テレビ | 83.0 | 80.5 | 85.5 | ** | 80.4 | 82.3 | 82.7 | 81.0 | 82.7 | 86.7 | n.s. | 86.8 | 72.5 | *** |
| 新聞 | 52.6 | 57.4 | 47.8 | *** | 34.4 | 35.7 | 46.7 | 51.3 | 61.3 | 71.7 | *** | 60.9 | 29.8 | *** |
| 政党・候補者の ポスター・パンフ | 60.5 | 58.0 | 63.1 | * | 62.5 | 54.0 | 63.3 | 60.3 | 62.3 | 62.3 | n.s. | 68.2 | 38.7 | *** |
| 政党・候補者の 新聞・TV広告 | 44.9 | 44.7 | 45.1 | n.s. | 40.2 | 35.0 | 42.0 | 46.0 | 51.3 | 51.0 | *** | 51.6 | 26.1 | *** |
| 政党・候補者の 街頭演説・宣伝車 | 41.4 | 38.6 | 44.2 | * | 55.0 | 42.7 | 48.0 | 40.7 | 39.0 | 34.0 | ** | 45.9 | 29.0 | *** |
| 政党・候補者の ウェブサイト | 13.4 | 17.5 | 9.2 | *** | 18.6 | 17.3 | 18.0 | 11.3 | 10.3 | 9.0 | ** | 16.6 | 4.7 | *** |
| 政党・候補者の ソーシャルメディア | 7.9 | 10.3 | 5.6 | *** | 19.6 | 10.3 | 12.7 | 6.7 | 5.3 | 2.3 | *** | 9.9 | 2.6 | *** |
| 政党・候補者の メール・メルマガ | 6.5 | 9.1 | 3.8 | *** | 11.7 | 8.3 | 10.7 | 5.3 | 4.7 | 2.3 | *** | 8.1 | 1.9 | *** |
| 政党・候補者の ネット広告 | 10.7 | 14.9 | 6.5 | *** | 17.9 | 11.7 | 12.3 | 11.3 | 9.7 | 7.0 | † | 12.6 | 5.1 | *** |
| 政党・候補者の ネット動画 | 9.5 | 13.8 | 5.4 | *** | 19.6 | 12.3 | 13.3 | 8.3 | 7.0 | 5.0 | *** | 11.7 | 3.8 | *** |
| 友人・知人の ソーシャルメディア | 9.2 | 10.0 | 8.4 | n.s. | 21.6 | 15.3 | 15.0 | 6.3 | 4.7 | 2.3 | *** | 10.3 | 6.1 | ** |
| ポータルサイト・ ニュースサイト | 29.3 | 33.9 | 24.7 | *** | 38.8 | 38.0 | 32.0 | 27.7 | 24.0 | 23.0 | *** | 32.6 | 19.8 | *** |
| まとめサイト | 12.6 | 15.3 | 9.9 | ** | 23.0 | 19.3 | 17.3 | 11.0 | 9.0 | 4.3 | *** | 14.3 | 8.1 | *** |
| 選挙公報 | 34.1 | 33.9 | 34.3 | n.s. | 29.2 | 22.7 | 29.0 | 30.7 | 41.0 | 48.3 | *** | 42.4 | 11.5 | *** |
| 家族・友人との会話 | 35.1 | 28.6 | 41.6 | *** | 37.1 | 27.3 | 35.7 | 31.7 | 35.7 | 44.7 | *** | 41.3 | 17.4 | *** |
| 政党集会・市民集会 | 7.8 | 9.6 | 5.9 | ** | 13.7 | 9.7 | 8.3 | 7.3 | 6.0 | 6.3 | n.s. | 9.8 | 2.2 | *** |
| 世論調査 | 21.4 | 23.2 | 19.7 | † | 23.0 | 19.0 | 21.0 | 19.3 | 18.0 | 29.7 | ** | 26.5 | 7.6 | *** |
| ネット検索結果 | 15.6 | 18.5 | 12.8 | ** | 24.7 | 18.3 | 21.0 | 14.3 | 10.7 | 12.0 | *** | 19.0 | 6.4 | *** |

※ χ^2 検定結果 n.s.:no significant, †:p<0.1, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

5%水準で有意に他グループより正答率が高いセルはピンク、低いセルはブルーで示している

※今回、投票日の7月10日時点で投票権のなかった人が4.8人、0.3%（ウェイティング調査後）いるため、「投票」「非投票」の合計は1786.2人になる。このことは本報告書全体において共通

全体的にマスメディアを通じて選挙関連情報に接触している率が高い。テレビは83.0%、

新聞は 52.6%、マスメディア上の広告への接触率も 44.9%と高水準である。マスメディア以外で接触率が比較的高いメディアは、ポスター・パンフレット (60.5%)、街頭演説・宣伝車 (41.4%)、選挙公報 (34.1%)、家族・友人との会話 (35.1%)、ポータルサイト・ニュースサイト (29.3%) である。いずれも、当人の政治や選挙への関心の高低に関係なく選挙関連情報が到達しやすいメディアといえる。一方、政党・候補者のネット選挙運動 (ウェブサイト、ソーシャルメディア、メール・メルマガ、ネット広告、ネット動画) は総じて接触率が低い。

性別の比較では大半のメディアで男性の方が接触率が高くなっており、女性の方が有意に接触率が高いメディアは、ポスター・パンフレット、家族・友人との会話のみである。

年齢層別の比較では、テレビ、新聞、テレビ・新聞広告や選挙公報は高年齢層で、インターネット上の情報源は低年齢層で接触率が高くなっている。街頭演説・宣伝車で年齢層が低いほど接触率が高くなっているのは、低年齢層ほど外出の機会が多くなるためと考えられる。

投票有無別では、すべてのメディアで投票有グループの方が投票無グループより接触率が高い。この結果は、回答者がメディアを通じて選挙関連情報に接触したことで投票を行ったというよりも、投票を行った人の方が選挙に対する関心が高く積極的に選挙関連情報に接触する傾向があり、また各種メディア上で選挙関連情報に接触したことを認知・想起しやすかったと解釈するのが自然であろう。

次に、選挙期間中に各メディア上で選挙関連情報に接触した回答者に限定して、事後調査問 10 の回答を頻度に換算し (「ほぼ毎日」: 14 回、「週に数回」: 5 回、「選挙期間中に数回」: 2.5 回、「選挙期間中に 1 回」: 1 回)、属性等別に接触頻度を比較したものが表 2.1.2 である。

全体的にはテレビ、新聞、ポータルサイトの接触頻度が高くなっている。性別による接触頻度の差はほとんど見られない。年齢層別にみるとテレビ、新聞、ポータルサイトは高年齢層で、ポスター・パンフレットや政党集会・市民集会は低年齢層で接触頻度が高くなっている。接触率と同様に、高年齢層はニュースメディアを頻繁に利用し、低年齢層は外出の頻度が高いためと考えられる。投票有無別では投票有グループの接触頻度が高くなっているのはテレビと新聞のみである。言い換えると、他のメディアでは選挙関連情報に接触したことを記憶していた回答者の間では、投票の有無に関わらず接触頻度の差は認められないのである。投票の有無と政治関心 (事前調査問 4) との積率相関係数は .302 であり、0.1 水準で有意に関連することを勘案すると、この点からも表 2.1.1 の投票有無別でみられた接触率の差が、投票有グループの方が選挙関連情報への接触を認知・想起しやすかったことによる差異を反映していると考えられる。

表 2.1.2 メディア別選挙関連情報の接触頻度（接触者限定 単位：回／選挙期間）

| 属性等 | 全体 | 男性 | 女性 ※ | 18-19 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 ※ | 投票 | 非投票 ※ |
|------------------|-----|-----|----------|-------|-----|-----|-----|-----|----------|-----|----------|
| テレビ | 8.5 | 8.3 | 8.7 n.s. | 7.5 | 7.8 | 8.3 | 9.1 | 9.0 | 8.5 * | 8.8 | 7.5 *** |
| 新聞 | 8.1 | 8.2 | 7.9 n.s. | 5.7 | 6.1 | 7.2 | 8.4 | 9.4 | 8.4 *** | 8.3 | 6.6 ** |
| 政党・候補者のポスター・パンフ | 4.4 | 4.2 | 4.5 n.s. | 5.2 | 4.3 | 4.9 | 4.4 | 4.6 | 3.6 ** | 4.4 | 4.6 n.s. |
| 政党・候補者の新聞・TV広告 | 3.8 | 3.8 | 3.8 n.s. | 4.4 | 3.9 | 3.9 | 4.0 | 3.9 | 3.2 n.s. | 3.7 | 4.1 n.s. |
| 政党・候補者の街頭演説・宣伝車 | 3.3 | 3.5 | 3.2 n.s. | 3.4 | 3.5 | 3.5 | 3.4 | 3.4 | 2.7 † | 3.3 | 3.3 n.s. |
| 政党・候補者のウェブサイト | 3.4 | 3.2 | 3.8 n.s. | 3.8 | 3.2 | 3.5 | 3.0 | 3.0 | 4.2 n.s. | 3.5 | 2.6 n.s. |
| 政党・候補者のソーシャルメディア | 3.9 | 3.7 | 4.4 n.s. | 3.5 | 3.5 | 3.9 | 4.3 | 4.8 | 4.1 n.s. | 4.0 | 3.5 n.s. |
| 政党・候補者のメール・メルマガ | 3.7 | 3.7 | 3.8 n.s. | 3.9 | 4.0 | 3.8 | 3.7 | 2.2 | 5.9 † | 3.8 | 3.3 n.s. |
| 政党・候補者のネット広告 | 3.8 | 3.9 | 3.6 n.s. | 3.6 | 3.8 | 3.8 | 3.7 | 2.8 | 5.4 n.s. | 4.0 | 2.7 † |
| 政党・候補者のネット動画 | 3.4 | 3.4 | 3.3 n.s. | 3.3 | 3.4 | 3.4 | 4.0 | 2.2 | 4.1 * | 3.4 | 3.0 n.s. |
| 友人・知人のソーシャルメディア | 4.9 | 5.1 | 4.7 n.s. | 4.2 | 4.8 | 4.5 | 6.4 | 5.8 | 4.9 n.s. | 5.0 | 4.1 n.s. |
| ポータルサイト・ニュースサイト | 6.0 | 6.0 | 6.0 n.s. | 5.1 | 5.3 | 5.4 | 7.1 | 6.2 | 6.8 * | 6.1 | 5.5 n.s. |
| まとめサイト | 4.1 | 4.2 | 4.0 n.s. | 3.6 | 4.0 | 4.2 | 5.2 | 3.2 | 4.4 n.s. | 4.3 | 3.5 n.s. |
| 選挙公報 | 2.4 | 2.4 | 2.4 n.s. | 2.9 | 2.7 | 2.5 | 2.6 | 2.1 | 2.3 † | 2.4 | 2.3 n.s. |
| 家族・友人との会話 | 3.4 | 3.3 | 3.4 n.s. | 3.4 | 3.5 | 3.1 | 3.7 | 3.4 | 3.2 n.s. | 3.4 | 3.3 n.s. |
| 政党集会・市民集会 | 3.2 | 3.5 | 2.7 † | 3.8 | 4.0 | 3.1 | 4.0 | 2.2 | 1.9 ** | 3.1 | 3.9 n.s. |
| 世論調査 | 3.3 | 3.4 | 3.2 n.s. | 4.3 | 3.6 | 3.7 | 3.4 | 2.9 | 2.9 n.s. | 3.3 | 3.0 n.s. |
| ネット検索結果 | 3.3 | 3.6 | 3.0 n.s. | 3.6 | 3.0 | 3.4 | 4.2 | 3.3 | 2.6 n.s. | 3.4 | 2.4 † |

サンプルサイズ N はメディアによって異なる（接触率が異なるため）。

※Welch 検定・分散分析結果 n.s.:no significant, †: p<0.1, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

以上、選挙関連情報の接触状況をメディア別に示してきたが、2013 年以降解禁されたネット選挙活動による情報（ネット選挙解禁情報）接触全般について、2013 年と 2016 年の状況を比較すると、どのような変化が見られるだろうか。

本調査では「政党・候補者のウェブサイト」「政党・候補者のソーシャルメディア」「政党・候補者のメール・メールマガジン」「政党・候補者のネット広告」「政党・候補者のネット動画」のうち、どれか一つでも接触した回答者を「ネット選挙解禁情報」接触者とみなしている。属性別のネット選挙解禁情報接触率を示したものが図 2.1.1 である。

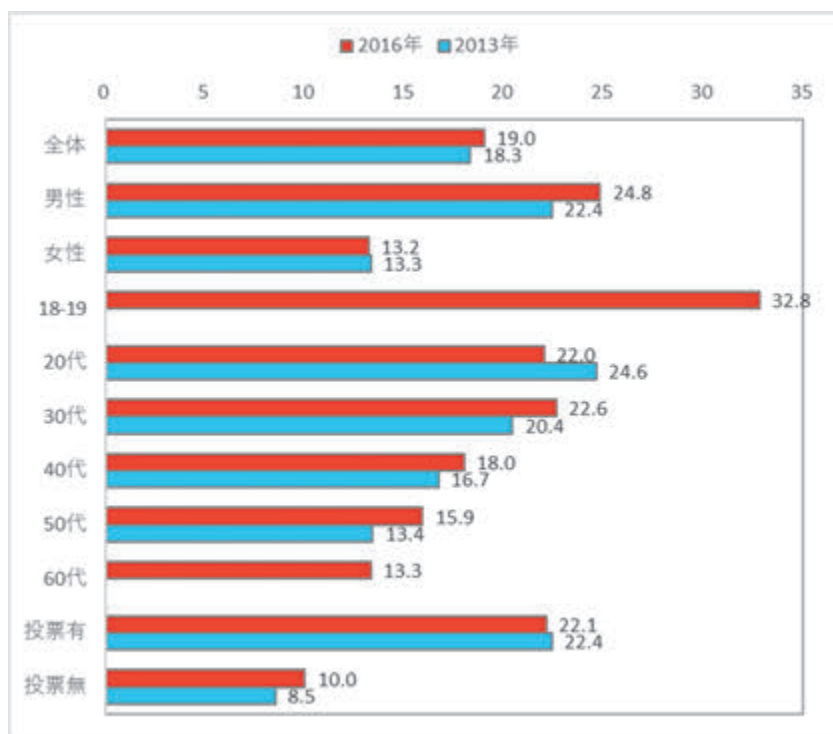


図 2.1.1 ネット選挙解禁情報接触率（単位：％）

N=1791.0(2016年)、1523(2013年)

2016年のネット選挙解禁情報接触率はサンプル全体で19.0%であり、他の大半のメディアと比べて接触率が低かった。ネット選挙運動が解禁された2013年参院選では、マスメディア等で注目された割にネット選挙運動への接触率が低水準であったが、2016年でも状況はあまり変わっていないようである。

属性別にみると、男性が女性よりも ($\chi^2(1)=39.1$, $p<0.001$)、年齢層別では低年齢層が高年齢層よりも ($\chi^2(5)=22.9$, $p<0.001$)、投票有無別では投票有グループが投票無しグループよりもネット選挙解禁情報への接触率が高い ($\chi^2(1)=33.4$, $p<0.001$)。

図では筆者らが2013年参院選時に実施した調査による接触率も参考に併記している。2013年調査は調査対象者の年齢が20～59歳であり2016年調査とは異なるため単純な比較は困難だが、20代～50代に限定して年齢層別の接触率を比較すると、2016年調査では2013年調査と比べて20代の接触率が低く、30代～50代では接触率が高くなっている。

2.2 ソーシャルメディアの利用

米国大統領選挙ではトランプ候補がTwitterで活発に情報発信を行い、Facebook上ではトランプ候補支持層がクリントン候補に関する偽ニュースを共有し選挙結果に影響を与えたと言われている。2016年参院選ではソーシャルメディアがどの程度選挙関連情報の情報源として利用されていたのだろうか。

選挙期間中に各種ソーシャルメディア上で選挙関連情報に接触した率をまとめたものが表2.2.1である（事後調査問9）。なお、同表は表2.1.1と比較するため接触率の分母を標本数計（N=1791.0）としており、選挙関連情報接触率の値は後述の図2.2.1とは異なる。

接触率が5%以上のソーシャルメディアはTwitter（9.9%）、Facebook（8.8%）、YouTube（7.0%）、LINE（6.4%）、いずれか一つのソーシャルメディアで選挙関連情報に接触した率でも22.0%であり、他のメディアと比べて低い水準である（表2.1.1）。ソーシャルメディアは全般的にみてあまり選挙関連情報源になっていないといえる。

ソーシャルメディア種類別・性別に見ると、Google+、YouTube、ニコニコ動画は男性の方が、LINEでは女性の方が接触率が高い。年齢層別では、どのソーシャルメディアでも低年齢層が高年齢層よりも接触率が高い。投票有無別で見ると、ソーシャルメディア非利用者の比率が非投票者で高くなっている（言い換えると、投票者のほうがソーシャルメディア利用率が高い）。

表2.2.1 属性別ソーシャルメディア上での選挙関連情報の接触率（単位：％）

| 属性等 N | 全体 1791.0 | 男性 896.1 | 女性 894.9 | ※ | 18-19 66.9 | 20代 344.8 | 30代 344.8 | 40代 344.8 | 50代 344.8 | 60代 344.8 | ※ | 投票 1315.4 | 非投票 470.8 | ※ |
|------------------------|--------------|-------------|-------------|------|---------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-----|--------------|--------------|------|
| mixi | 1.8 | 1.8 | 1.9 | n.s. | 0.7 | 2.7 | 4.0 | 1.7 | 1.0 | 0.0 | ** | 2.1 | 1.1 | n.s. |
| Facebook | 8.8 | 9.8 | 7.7 | n.s. | 6.5 | 13.7 | 14.0 | 6.7 | 5.7 | 4.0 | *** | 9.4 | 6.8 | n.s. |
| Twitter | 9.9 | 11.0 | 8.8 | n.s. | 39.2 | 18.7 | 11.0 | 6.7 | 5.3 | 2.3 | *** | 10.8 | 7.6 | † |
| Google+ | 1.9 | 2.9 | 0.9 | ** | 3.4 | 2.7 | 3.3 | 1.0 | 0.7 | 1.3 | † | 2.2 | 0.8 | † |
| LINE | 6.4 | 5.0 | 7.8 | * | 17.9 | 13.0 | 9.7 | 4.0 | 2.3 | 0.7 | *** | 5.6 | 8.5 | * |
| YouTube | 7.0 | 9.2 | 4.8 | *** | 16.2 | 8.7 | 11.0 | 6.7 | 3.3 | 3.3 | *** | 7.8 | 4.7 | * |
| ニコニコ動画 | 2.5 | 3.7 | 1.2 | ** | 4.8 | 4.3 | 4.0 | 1.0 | 1.3 | 1.0 | ** | 2.4 | 2.6 | n.s. |
| Instagram | 1.5 | 1.3 | 1.6 | n.s. | 2.7 | 4.0 | 1.7 | 1.0 | 0.3 | 0.0 | *** | 1.4 | 1.5 | n.s. |
| ソーシャルメディア 選挙関連情報接触有 | 22.0 | 23.3 | 20.7 | n.s. | 52.6 | 34.7 | 29.0 | 17.0 | 13.3 | 10.0 | *** | 22.4 | 20.6 | n.s. |
| ソーシャルメディア 非利用 | 39.4 | 40.1 | 38.7 | n.s. | 11.3 | 27.7 | 29.7 | 40.3 | 49.7 | 55.0 | *** | 36.3 | 45.1 | ** |

※ χ^2 検定結果 n.s.:no significant, †:p<0.1, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

5%水準で有意に他グループより正答率が高いセルはピンク、低いセルはブルーで示している

次に、選挙前時点でのソーシャルメディア種類別の利用率（事前調査問 8、N=1791.0）と、同ソーシャルメディア利用者が選挙期間中に同ソーシャルメディア上で選挙関連情報に接触した率（事後調査問 9）をまとめた（図 2.2.1）。事前調査でたずねた 8 種類のソーシャルメディアのいずれか一つでも利用していた回答者の比率は 87.2%、それらの利用者がソーシャルメディア上で選挙関連情報に接触していた比率は 24.7%であった。ソーシャルメディア自体は利用率が高いものの、それらは利用者に選挙関連情報への接触機会をあまり提供していないようである。

選挙関連情報接触率はソーシャルメディアの種類によって異なっている。比較的多数の友人と投稿を共有する傾向がある Twitter（27.5%）と Facebook（22.6%）では、動画共有サイトの YouTube（8.5%）・ニコニコ動画（6.6%）および比較的少数の友人とメッセージをやり取りする LINE（10.8%）と比べて、選挙関連情報に接触する可能性が高くなっている。

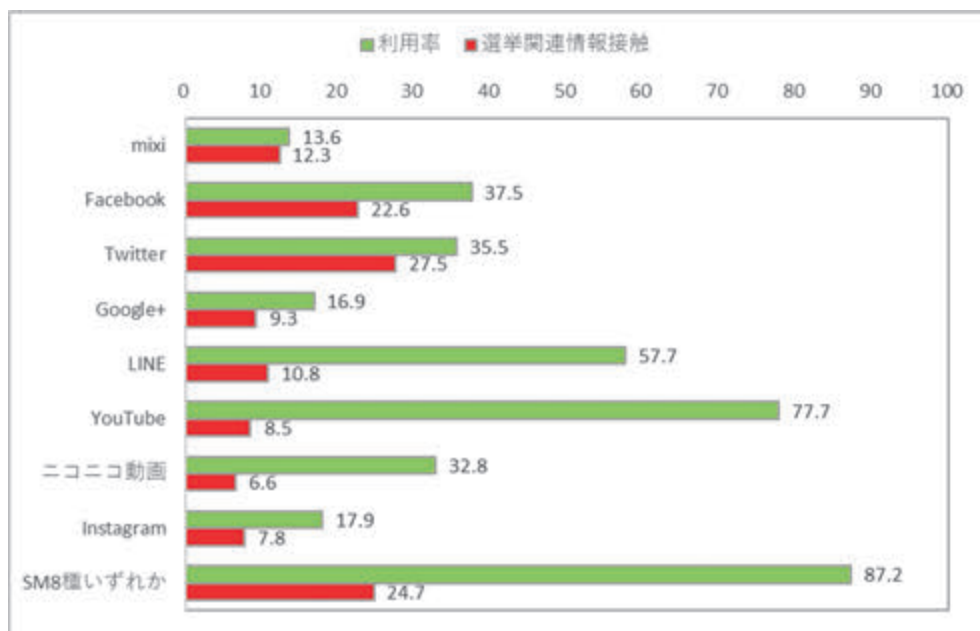


図 2.2.1 ソーシャルメディア利用率・選挙関連情報接触率（単位：%）

※ソーシャルメディア利用率は N=1791、選挙関連情報接触率は各利用者数が分母

2.3 政党・候補者のサイト・ソーシャルメディアへの接触

選挙期間中に政党・候補者のウェブサイト・ソーシャルメディアに接触した比率を政党別にまとめたものが表 2.3.1 である（事後調査問 11）。ただしウェブサイト・ソーシャルメディアへの接触率は全てあわせてもそれぞれ 13.4%、7.9%と低水準であるため、ウェブサイトへの接触率が 1%以上の 6 政党（自由民主党、民進党、公明党、日本共産党、おおさか維新の会、日本のこころを大切に作る党）の結果のみを表に記載している。

どの政党についても、男性の方が女性より、低年齢層の方が高年齢層より、投票有グループの方が投票無グループよりもウェブサイト・ソーシャルメディアへの接触率が高くなっている。

表 2.3.1 政党・候補者サイト・ソーシャルメディアへの接触率（単位：％）

| 属性等 N | 全体 1791.0 | 男性 896.1 | 女性 894.9 | ※ | 18-19 66.9 | 20代 344.8 | 30代 344.8 | 40代 344.8 | 50代 344.8 | 60代 344.8 | ※ | 投票 1315.4 | 非投票 470.8 | ※ |
|-------------|--------------|-------------|-------------|---|---------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|---|--------------|--------------|---|
| 自由民主党(ws) | 6.7 | 9.8 | 3.6*** | | 12.7 | 11.7 | 8.7 | 5.0 | 4.3 | 2.7*** | | 8.4 | 2.1*** | |
| 自由民主党(sm) | 4.4 | 6.3 | 2.5*** | | 13.4 | 7.3 | 6.3 | 2.7 | 3.3 | 0.7*** | | 5.7 | 0.8*** | |
| 民進党(ws) | 3.1 | 4.9 | 1.2*** | | 6.2 | 4.7 | 4.3 | 2.7 | 1.7 | 1.3* | | 4.0 | 0.3*** | |
| 民進党(sm) | 1.9 | 2.5 | 1.2† | | 5.5 | 3.3 | 3.0 | 1.0 | 0.3 | 1.0** | | 2.4 | 0.4** | |
| 公明党(ws) | 1.8 | 2.8 | 0.7** | | 5.2 | 2.0 | 2.7 | 1.3 | 1.7 | 0.7 n.s. | | 2.3 | 0.3** | |
| 公明党(sm) | 0.9 | 1.1 | 0.7 n.s. | | 4.1 | 0.7 | 2.3 | 0.3 | 0.7 | 0.0** | | 1.2 | 0.0* | |
| 日本共産党 (ws) | 1.7 | 2.5 | 1.0* | | 4.8 | 2.3 | 2.0 | 2.3 | 1.3 | 0.0* | | 2.3 | 0.1*** | |
| 日本共産党 (sm) | 1.0 | 1.1 | 0.9 n.s. | | 3.8 | 1.7 | 1.3 | 0.7 | 0.7 | 0.0* | | 1.3 | 0.1* | |
| 維新の会 (ws) | 2.2 | 3.6 | 0.9*** | | 3.4 | 3.0 | 3.3 | 3.0 | 1.0 | 0.7† | | 3.0 | 0.3*** | |
| 維新の会 (sm) | 1.3 | 1.6 | 1.0 n.s. | | 2.7 | 2.3 | 2.7 | 0.3 | 0.3 | 0.3** | | 1.7 | 0.0** | |
| 日本のこころ (ws) | 1.6 | 2.4 | 0.9* | | 2.7 | 3.0 | 1.0 | 2.3 | 1.0 | 0.7† | | 2.0 | 0.5* | |
| 日本のこころ (sm) | 0.8 | 1.0 | 0.5 n.s. | | 1.4 | 1.0 | 1.0 | 1.0 | 0.3 | 0.3 n.s. | | 1.0 | 0.0* | |

※ χ^2 検定結果 n.s.:no significant, †:p<0.1, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

5%水準で有意に他グループより正答率が高いセルはピンク、低いセルはブルーで示している

ws:ウェブサイト、sm:ソーシャルメディア

政党・候補者のウェブサイト・ソーシャルメディアへの接触に関連する変数を調べるため、いずれかの政党・候補者へのウェブサイトまたはソーシャルメディアへの接触を従属変数、属性、ふだんのメディア利用時間、政治関心（事前調査問 4）、社会争点知識量（事前調査問 12、9.1 節参照）を独立変数に投入したロジスティック回帰分析結果が表 2.3.2 である。メディア利用時間については、極端に大きな値の回答（新聞閲読時間が 1 日 20 時間など）が含まれていたため、平均値+3 標準偏差以上の値は外れ値として分析から除外している。

政党・候補者のウェブサイト・ソーシャルメディアともに、年齢が低くなるほど、新聞・インターネットを長時間利用しているほど、政治関心が高いほど接触する可能性が高くな

っている。一方、テレビニュース利用時間や社会争点知識量は政党・候補者のウェブサイト・ソーシャルメディア接触との間に有意な関連がない。

表 2.3.2 政党・候補者ウェブサイト・ソーシャルメディア接触の予測

| 従属変数 | 政党・候補者 サイト接触 | | 政党・候補者 SM接触 | |
|--------------------------|-----------------|--|----------------|--|
| 独立変数 | B | | B | |
| 性別 | 0.452 * | | 0.344 | |
| 年齢 | -0.046 *** | | -0.059 *** | |
| 学歴 | 0.124 | | 0.047 | |
| テレビニュース | -0.004 | | -0.001 | |
| 新聞 | 0.029 *** | | 0.023 *** | |
| PCネット | 0.002 * | | 0.003 ** | |
| モバイルネット | 0.007 *** | | 0.007 *** | |
| 政治関心 | 0.806 *** | | 0.796 *** | |
| 社会争点知識量 | 0.052 | | -0.008 | |
| 定数 | -5.553 *** | | -5.040 *** | |
| NagelkerkeR ² | 0.262 | | 0.256 | |

※*:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

2.4 ネットへの書き込み

選挙期間中に選挙に関連して、ネット上に書き込んだりシェアしたりした話題について、複数回答で選択してもらった。属性等別（性別、年齢層別、投票有無別）の回答結果を示したものが表 2.4.1 である（事後調査問 12）。

全体では、ネット上に書き込んだり、シェアしたりしていない人が 9 割以上（90.8%）を占めた。書き込み・シェアを行っている人の中では、「政党に関する話題」（6.1%）、「候補者に関する話題」（4.2%）、「争点に関する話題」（2.9%）、「党首に関する話題」（2.0%）の順に書き込み・シェアの率が高かった。

性別の比較では、「政党に関する話題」で 0.1%水準、「争点に関する話題」で 5%水準の有意な違いが認められ、男性の方が女性よりも高かった。一方、「ネット上で書き込んだり、シェアしたりしていない」では 1%水準で女性の方が男性よりも高かった。

年齢層別の比較では、「政党に関する話題」について 0.1%水準で有意な違いが認められ、18-19 歳が最も高かった。「党首に関する話題」でも 10%水準で有意傾向があり、18-19 歳が最も高かった。一方で、「ネット上で書き込んだり、シェアしたりしていない」で 0.1%水準の有意な違いが認められ、60 代が最も高い結果となった。

投票有無別では、「政党に関する話題」について 0.1%水準、「候補者に関する話題」と「争点に関する話題」について 1%水準、「党首に関する話題」について 5%水準で投票者の方が非投票者よりも有意に高かった。一方、「ネット上に書き込んだり、シェアしたりしていない」については 0.1%水準で、非投票者の方が投票者よりも有意に高かった。

上記の結果からネット上に選挙関連の書き込み・シェアを行っている人は 1 割以下であり、書き込み・シェアも男性・若年層で行われている傾向が強いことが明らかになった。書き込みの中では政党・候補者に関する話題が多く、投票者でより多くの書き込み・シェアが行われている傾向がある。選挙に関するネット上への書き込みは、まだ限られた人を中心に行われているとはいえ、若年層や男性を中心とその動向を注視していく必要があるだろう。

表 2.4.1 選挙関連のネットへの書き込み・シェア（事後問 12） ※複数回答

| 属性等 | 全体 | 男性 | 女性 | 有意水準 | 18-19歳 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 有意水準 | 投票 | 非投票 | 有意水準 |
|-------------------------|--------|-------|-------|------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|------|--------|-------|------|
| N | 1791.0 | 896.1 | 894.9 | - | 66.9 | 344.8 | 344.8 | 344.8 | 344.8 | 344.8 | - | 1315.4 | 470.8 | - |
| 政党に関する話題 | 6.1% | 8.5% | 3.6% | *** | 12.7% | 8.7% | 8.0% | 3.3% | 6.7% | 2.3% | *** | 7.4% | 2.1% | *** |
| 党首に関する話題 | 2.0% | 2.5% | 1.5% | n.s. | 5.2% | 3.0% | 2.7% | 0.7% | 1.3% | 1.7% | † | 2.5% | 0.6% | * |
| 候補者に関する話題 | 4.2% | 4.6% | 3.8% | n.s. | 6.9% | 5.0% | 5.3% | 3.7% | 4.7% | 1.7% | n.s. | 5.1% | 1.7% | ** |
| 争点に関する話題 | 2.9% | 3.7% | 2.1% | * | 4.5% | 2.3% | 5.0% | 1.7% | 2.7% | 2.7% | n.s. | 3.6% | 0.9% | ** |
| その他の選挙に関する話題 | 0.3% | 0.4% | 0.3% | n.s. | 0.7% | 0.3% | 0.3% | 0.3% | 0.7% | 0.0% | n.s. | 0.5% | 0.0% | n.s. |
| ネット上に書き込んだり、シェアしたりしていない | 90.8% | 88.6% | 92.9% | ** | 80.1% | 88.7% | 87.3% | 94.3% | 90.3% | 95.3% | *** | 89.0% | 95.9% | *** |

※ χ^2 検定結果 n.s.:no significant, †:p<0.1, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

さらに、選挙期間中に選挙に関連した話題をインターネット上に書き込んだりシェアしたりしている人(N=165.1)に対して、内容を引用したり、直接言及している情報源を複数回答で選択してもらった。属性等別（性別、年齢層別、投票有無別）の回答結果を示したものが表 2.4.2 である（事後調査問 13）。

回答全体の中では、選挙関連の書き込み・シェアの情報源として「ネット上のニュースサイト」（52.1%）、「政党や候補者のウェブサイトや動画」（26.3%）、「一般の人（知人・友人を含む）が投稿したソーシャルメディア」（20.9%）、「テレビ局が発信したソーシャルメディア」（19.4%）、「政党や候補者が投稿したソーシャルメディア」（18.8%）の順に多かった。

性別の違いを見ると、「ネット上のニュースサイト」「テレビ局が発信したソーシャルメディア」について男性の方が女性よりも 5%水準で有意に高かった。また、「新聞（ネット以外）」でも男性の方が女性よりも 10%水準で高い有意傾向が認められた。一方で、「引用したり、直接言及したりしていない」は 5%水準で女性の方が男性よりも有意に高かった。

また、「一般の人（知人・友人を含む）が投稿したソーシャルメディア」でも 10%水準で女性の方が男性よりも高い有意傾向が認められた。

年齢層別の比較では、「新聞（ネット以外）」について 1%水準で有意な違いが認められた。その中でも、最も高い結果となったのは 60 代だった。また、「引用したり、直接言及したりしていない」でも 10%水準で有意傾向が認められた。

投票有無別の比較では、「政党や候補者のウェブサイトや動画」について、5%水準で投票者の方が非投票者よりも有意に高かった。

この結果から、インターネット上での書き込み・シェアの情報源としては、インターネット上のニュースが約半分と大きな影響を及ぼしている一方で、政党や候補者のウェブサイトや動画も 26.3%と一定の影響を及ぼしていることが分かる。また、どちらかといえば男性は女性よりもネットニュースを情報源としてネット上で書き込む傾向がある。

表 2.4.2 選挙関連のネットへの書き込み・シェアの情報源（事後問 13） ※複数回答

| 属性等 | 全体 | 男性 | 女性 | 有意水準 | 18-19歳 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 有意水準 | 投票 | 非投票 | 有意水準 |
|------------------------------|-------|-------|-------|------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|------|
| N | 165.1 | 101.8 | 63.2 | - | 13.3 | 39.1 | 43.7 | 19.5 | 33.3 | 16.1 | - | 144.6 | 19.3 | - |
| ネット上のニュースサイト | 52.1% | 58.2% | 42.2% | * | 41.4% | 67.6% | 57.9% | 47.1% | 37.9% | 42.9% | n.s. | 53.7% | 42.9% | n.s. |
| 政党や候補者のウェブサイトや動画 | 26.3% | 28.2% | 23.3% | n.s. | 24.1% | 26.5% | 34.2% | 29.4% | 20.7% | 14.3% | n.s. | 29.3% | 6.0% | * |
| 政党や候補者が投稿したソーシャルメディア | 18.8% | 19.6% | 17.5% | n.s. | 17.2% | 20.6% | 18.4% | 17.6% | 17.2% | 21.4% | n.s. | 20.5% | 7.1% | n.s. |
| テレビ局が発信したソーシャルメディア | 19.4% | 24.4% | 11.3% | * | 24.1% | 20.6% | 26.3% | 11.8% | 10.3% | 21.4% | n.s. | 21.3% | 6.0% | n.s. |
| 新聞社が発信したソーシャルメディア | 12.4% | 13.3% | 10.9% | n.s. | 6.9% | 11.8% | 13.2% | 11.8% | 6.9% | 28.6% | n.s. | 14.0% | 1.2% | n.s. |
| 一般の人（知人・友人を含む）が投稿したソーシャルメディア | 20.9% | 16.7% | 27.6% | † | 8.6% | 17.6% | 31.6% | 29.4% | 13.8% | 14.3% | n.s. | 22.9% | 7.1% | n.s. |
| その他のネット上の情報 | 0.0% | 0.0% | 0.0% | - | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | - | 0.0% | 0.0% | - |
| テレビ（ネット以外） | 12.8% | 14.0% | 10.9% | n.s. | 3.4% | 11.8% | 10.5% | 17.6% | 10.3% | 28.6% | n.s. | 12.9% | 13.1% | n.s. |
| 新聞（ネット以外） | 11.1% | 14.7% | 5.5% | † | 0.0% | 5.9% | 7.9% | 11.8% | 10.3% | 42.9% | ** | 9.5% | 23.8% | † |
| その他（ネット以外） | 0.7% | 0.0% | 1.8% | n.s. | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 3.4% | 0.0% | n.s. | 0.8% | 0.0% | n.s. |
| 引用したり、直接言及したりしていない | 18.0% | 13.3% | 25.5% | * | 24.1% | 11.8% | 10.5% | 17.6% | 34.5% | 14.3% | † | 16.4% | 25.0% | n.s. |

※ χ^2 検定結果 n.s.:no significant, †:p<0.1, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

3. 役に立った情報源、信頼できた情報源

3.1 役に立った情報源

事後調査(問 14) で今回の選挙で利用した情報源がどの程度役に立ったかを 4 件法選択肢で質問した。表 3.1.1 は「役に立った」と「やや役に立った」の回答比率の合計(つまり「役に立った」と答えた比率)を示したものである。

また、男性/女性、年齢層別、投票した/しなかったの各カテゴリと、「役に立った/役に立たなかった」の 2 値とのクロス集計結果および χ^2 自乗検定結果、残差分析の結果を示した。

それぞれの分析母数は、各メディアの選挙情報に接した人である。

表 3.1.1 役に立ったメディア (単位:%、母数は各メディアの選挙情報に接した人)

| | N | 全体 | 男性 | 女性 | ※ | 18-19 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | ※ | 投票 | 非投票 | ※ |
|---------------------------|--------|------|------|------|----|-------|------|------|------|------|------|----|------|------|-----|
| テレビ | 1485.9 | 64.3 | 63.8 | 64.8 | ns | 69.2 | 60.7 | 64.5 | 62.6 | 66.9 | 65.8 | ns | 69.6 | 47.2 | *** |
| 新聞 | 942.5 | 73.9 | 74.4 | 73.2 | ns | 73.0 | 76.6 | 69.8 | 76.0 | 73.4 | 74.4 | ns | 77.6 | 52.8 | *** |
| 政党・候補者の ポスター・パンフレット | 1084.3 | 41.0 | 37.8 | 44.0 | * | 44.0 | 40.1 | 42.6 | 44.2 | 38.0 | 39.6 | ns | 45.5 | 20.1 | *** |
| 政党・候補者の 新聞広告・テレビ広告 | 803.9 | 37.1 | 35.3 | 38.9 | ns | 32.5 | 35.2 | 35.7 | 36.2 | 38.3 | 39.9 | ns | 40.4 | 19.9 | *** |
| 政党・候補者の 街頭演説・宣伝車 | 741.4 | 28.0 | 30.9 | 25.5 | ns | 30.0 | 31.3 | 27.1 | 25.4 | 26.5 | 29.4 | ns | 32.4 | 8.8 | *** |
| 政党・候補者の ウェブサイト(ブログを含む) | 240.0 | 53.8 | 53.1 | 55.3 | ns | 50.0 | 48.1 | 63.0 | 61.8 | 48.4 | 44.4 | ns | 57.4 | 18.6 | *** |
| 政党・候補者の ソーシャルメディア | 197.5 | 60.4 | 58.9 | 63.7 | ns | 53.1 | 56.4 | 58.3 | 67.7 | 65.2 | 61.1 | ns | 63.7 | 29.8 | ** |
| 政党・候補者の メール・マガ | 115.9 | 57.1 | 54.5 | 63.5 | ns | 52.9 | 64.0 | 50.0 | 68.8 | 42.9 | 71.4 | ns | 58.2 | 44.7 | ns |
| 政党・候補者の ネット広告 | 191.3 | 42.1 | 43.9 | 37.9 | ns | 48.1 | 42.9 | 48.6 | 44.1 | 31.0 | 38.1 | ns | 45.0 | 23.8 | * |
| 政党・候補者の ネット動画 | 171.7 | 52.6 | 50.1 | 59.0 | ns | 49.1 | 48.6 | 60.0 | 64.0 | 38.1 | 46.7 | ns | 56.4 | 19.5 | ** |
| 友人・知人の ソーシャルメディア | 235.6 | 51.5 | 53.5 | 49.0 | ns | 54.3 | 37.5 | 61.1 | 62.9 | 48.0 | 53.8 | ns | 55.1 | 36.5 | * |
| インターネットの ホーム・ニュースサイト | 524.8 | 62.5 | 61.3 | 64.2 | ns | 64.6 | 60.5 | 58.3 | 66.3 | 61.1 | 68.1 | ns | 67.7 | 40.5 | *** |
| まとめサイト | 225.7 | 63.6 | 65.4 | 60.9 | ns | 59.7 | 58.6 | 69.2 | 63.6 | 63.0 | 69.2 | ns | 68.3 | 40.6 | *** |
| 選挙公報 | 611.5 | 69.3 | 67.2 | 71.4 | ns | 56.5 | 69.1 | 64.4 | 76.1 | 67.5 | 71.0 | ns | 73.0 | 30.9 | *** |
| 選挙に関連した 家族や友人との会話 | 628.3 | 65.0 | 57.8 | 69.9 | ** | 70.4 | 62.2 | 65.4 | 69.5 | 63.6 | 63.4 | ns | 68.1 | 45.9 | *** |
| 政党集会・市民集会 | 139.1 | 57.7 | 58.0 | 57.1 | ns | 47.5 | 62.1 | 60.0 | 50.0 | 50.0 | 68.4 | ns | 59.3 | 37.8 | ns |
| 世論調査 | 384.4 | 55.1 | 58.5 | 51.1 | ns | 61.2 | 54.4 | 61.9 | 60.3 | 53.7 | 47.2 | ns | 56.6 | 40.4 | ns |
| ネット検索結果 | 279.8 | 67.6 | 67.5 | 67.8 | ns | 73.8 | 63.6 | 71.4 | 69.8 | 71.9 | 58.3 | ns | 70.1 | 47.3 | * |

※各属性×各メディアの[役に立った/役に立たなかった]のクロス集計の χ^2 検定結果

ns:no significant, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

数値が太字のものは、残差分析の結果 5%水準(両側検定) で高い、赤字は低いことを示す。

まず、全体では、最も役に立ったのが「新聞(73.9%)」、ついで「選挙公報(69.3%)」であり、以下「ネット検索結果(67.6%)」「家族や友人との会話(65.0%)」「テレビ(64.3%)」と続く。テレビ、新聞のマスメディアについては、接触率も高く(表 2.1.1 参照)、役に立ったと答えた比率も高い。

ネット関連では、「検索結果」や「まとめサイト」において、接触率は低かったが「役に立った」と答えた人が多かった。政党・候補者のウェブサイト、ソーシャルメディア、メールマガジン・ネット動画も、接触した半数以上の人が「役に立った」と答えている。

男女別では、「政党・候補者のポスター・パンフレット」「選挙に関連した家族や友人と

の会話」の2項目において、有意に男性より女性の方が「役に立った」と答えた人が多かった。

年齢層別には、いずれの項目も有意差は示されなかった。

10代については、接触率において、「政党・候補者の街頭演説・宣伝車」「政党・候補者のソーシャルメディア」「政党・候補者のネット動画」「家族友人との会話」「まとめサイト」などにおいて、有意に接触した人が多かったが（表 2.1.1 参照）、それらの項目で他の年齢層に比べ、とくに「役に立った」と答えた比率が高いわけではない。10代において最も役に立ったと答えた比率が高かったのは「ネット検索(73.6%)」と「新聞(73.0%)」「家族や友人との会話(70.4%)」であり、ネット検索を別にすれば、従来からのオーソドックスな情報源が役に立っていた。10代の「テレビ(69.2%)」「家族や友人との会話(70.4%)」は、有意差はないが、年齢層別にみて最も「役に立った」答えた比率が高い。

20代でも「新聞」や「家族友人との会話」を役に立ったとする比率が高く、「友人や知人のソーシャルメディア」については、他の年齢層より有意に役に立った答えた比率が低かった。また、「政党・候補者のウェブ」「政党・候補者のネット広告」「政党・候補者のネット動画」「ネット検索」についても、他の年齢層と比較して、役に立ったとする比率が低い傾向が見られた。

すなわち、若年層は、政党・候補者のネット発信情報によく接触しているが、それらをあまり役に立ったとは見なしていない。むしろ、他の年齢層との比較で、テレビや家族との会話が役に立ったと答えている。

投票の有無別では、ほとんどの項目で「投票した人」の方が、役に立ったと答えた人の比率が高かった。

3.2 信頼できた情報源

事後調査(問 15)で今回の選挙で利用した情報源がどの程度信頼できたかを4件法選択肢で質問した。表 3.2.1は「信頼できた」と「やや信頼できた」の回答比率の合計（つまり「信頼できた」と答えた比率）を示したものである。

また、男性／女性、年齢層別、投票した／しなかったの各カテゴリーと、「信頼できた／信頼できなかった」の2値とのクロス集計結果および χ^2 自乗検定結果、残差分析の結果を示した。

それぞれの分析母数は、各メディアの選挙情報に接した人である。

表 3.2.1 信頼できたメディア（単位:%、母数は各メディアの選挙情報に接した人）

| | N | 全体 | 男性 | 女性 | ※ | 18-19 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | ※ | 投票 | 非投票 | ※ |
|------------------------|--------|------|------|------|-----|-------|------|------|------|------|------|----|------|------|-----|
| テレビ | 1485.9 | 66.0 | 64.4 | 67.4 | ns | 67.9 | 62.8 | 62.5 | 67.5 | 67.3 | 69.2 | ns | 69.9 | 58.4 | *** |
| 新聞 | 942.5 | 74.1 | 72.1 | 76.6 | ns | 80.0 | 75.7 | 69.3 | 76.6 | 72.8 | 75.3 | ns | 77.1 | 57.7 | *** |
| 政党・候補者のポスター・パンフレット | 1084.3 | 46.8 | 45.2 | 48.2 | ns | 47.8 | 51.9 | 50.0 | 45.9 | 40.6 | 46.0 | ns | 50.4 | 30.2 | *** |
| 政党・候補者の新聞広告・テレビ広告 | 803.9 | 41.9 | 40.6 | 43.1 | ns | 46.2 | 40.0 | 46.0 | 39.9 | 39.6 | 43.1 | ns | 44.7 | 27.0 | *** |
| 政党・候補者の街頭演説・宣伝車 | 741.4 | 37.4 | 39.8 | 35.3 | ns | 34.4 | 43.8 | 41.7 | 32.0 | 27.4 | 42.2 | * | 41.7 | 18.5 | *** |
| 政党・候補者のウェブサイト(ブログを含む) | 240.0 | 57.4 | 55.1 | 61.7 | ns | 63.0 | 57.7 | 64.8 | 58.8 | 45.2 | 51.9 | ns | 59.8 | 36.1 | * |
| 政党・候補者のソーシャルメディア | 197.5 | 55.1 | 52.8 | 59.7 | ns | 51.6 | 51.3 | 58.3 | 54.8 | 47.8 | 66.7 | ns | 57.5 | 32.1 | * |
| 政党・候補者のメールマガジン | 115.9 | 59.5 | 59.0 | 60.8 | ns | 58.8 | 60.0 | 65.6 | 56.3 | 42.9 | 71.4 | ns | 61.8 | 31.6 | ns |
| 政党・候補者のネット広告 | 191.3 | 46.2 | 46.3 | 45.8 | ns | 46.2 | 54.3 | 51.4 | 35.3 | 41.4 | 47.6 | ns | 52.2 | 6.7 | *** |
| 政党・候補者のネット動画 | 171.7 | 53.9 | 51.8 | 59.5 | ns | 57.9 | 48.6 | 65.0 | 52.0 | 38.1 | 60.0 | ns | 57.8 | 20.8 | ** |
| 友人・知人のソーシャルメディア | 235.6 | 56.8 | 54.7 | 59.5 | ns | 45.7 | 43.8 | 64.8 | 68.8 | 56.0 | 69.2 | ns | 59.6 | 45.0 | ns |
| インターネットのホームページ・ニュースサイト | 524.8 | 65.7 | 62.8 | 69.5 | ns | 61.1 | 60.5 | 63.5 | 73.5 | 61.1 | 73.9 | ns | 68.8 | 51.4 | ** |
| まとめサイト | 225.7 | 60.1 | 63.2 | 55.2 | ns | 59.7 | 44.8 | 65.4 | 66.7 | 66.7 | 76.9 | ns | 65.2 | 34.5 | *** |
| 選挙公報 | 611.5 | 72.4 | 71.2 | 73.7 | ns | 55.3 | 70.6 | 66.7 | 83.7 | 65.0 | 77.9 | ** | 75.8 | 37.7 | *** |
| 選挙に関連した家族や友人との会話 | 628.3 | 76.7 | 69.8 | 81.3 | *** | 74.1 | 68.3 | 81.3 | 74.7 | 75.7 | 80.6 | ns | 78.0 | 66.9 | * |
| 政党集会・市民集会 | 139.1 | 55.5 | 56.7 | 53.7 | ns | 40.0 | 58.6 | 60.0 | 59.1 | 38.9 | 63.2 | ns | 58.8 | 15.6 | ** |
| 世論調査 | 384.4 | 60.9 | 63.6 | 57.8 | ns | 65.7 | 57.9 | 65.1 | 56.9 | 57.4 | 64.0 | ns | 62.7 | 43.6 | ** |
| ネット検索結果 | 279.8 | 69.2 | 70.1 | 67.8 | ns | 72.2 | 67.3 | 74.6 | 65.1 | 68.8 | 66.7 | ns | 71.7 | 48.1 | ** |

※各属性×各メディアの[役に立った/役に立たなかった]のクロス集計の χ^2 検定結果

ns:no significant, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

数値が太字のものは、残差分析の結果5%水準(両側検定)で高い、赤字は低いことを示す。

まず、全体では、最も信頼度が高かったのが「家族や友人との会話(76.7%)」、ついで「新聞(74.1%)」、以下「選挙公報(72.4%)」「ネット検索結果(69.2%)」「テレビ(66.0%)」と続く。テレビ、新聞のマスメディアについては、接触率も高く(表 2.1.1 参照)、信頼できたと答えた比率も高い。

ネット関連では、「検索結果」や「まとめサイト」において、接触率は低かったが信頼度が高かった。政党・候補者のウェブサイト、ソーシャルメディア、メールマガジン、ネット動画も接触した半数以上の人が「信頼できた」と答えている。

男女別では、「選挙に関連した家族や友人との会話」において、有意に男性より女性の方が「信頼できた」と答えた人が多かった。

年齢層別には、「政党・候補者の街頭演説・宣伝車」「選挙公報」において有意差が見られ、前者では50代において信頼度が低く、後者では40代において信頼度が高く50代において信頼度が低かった。

10代については、接触率にいて、「政党・候補者の街頭演説・宣伝車」「政党・候補者のソーシャルメディア」「政党・候補者のネット動画」「家族友人との会話」「まとめサイト」などにおいて、有意に接触した人が多かったが(表 2.1.1 参照)、それらの項目で他の年齢層に比べ、とくに「信頼できた」と答えた比率が高いわけではない。10代において最も信頼できたと答えた比率が高かったのは「新聞(80.0%)」でこれは年齢層別では最も比率が高い。ついで「家族や友人との会話(74.1%)」「ネット検索(72.2%)」「テレビ(67.9%)」

であり、ネット検索を別にすれば、従来からのオーソドックスな情報源への信頼度が高かった。

20代でも「新聞」や「家族友人との会話」を信頼できたとする比率が高かった。「政党・候補者のウェブ」「政党・候補者のネット動画」「ネット検索」についても、他の年齢層と比較して、とくに信頼度が高い傾向は見られなかった。

すなわち、若年層は、政党・候補者のネット発信情報によく接触しているが、それらの信頼性を高く評価しているわけではない。

投票の有無別では、ほとんどの項目で「投票した人」の方が、信頼できたと答えた人の比率が高かった。

4. 争点

4.1 重要視する争点

投票の際にどの争点を重視する予定か、選挙前に複数回答で選んでもらった。属性等別（性別、年齢層別、投票有無別）の回答結果を示したものが表 4.1.1 である（事前調査問 9）。

回答全体の中では、重要視する予定の争点としては、「景気」（61.9%）、「年金・医療・介護などの社会保障」（55.4%）、「雇用問題」（34.0%）、「子育て支援」（31.5%）、「憲法改正」（29.4%）、「消費税引き上げ」（28.9%）の順に多かった。

性別の比較では、「TPP（環太平洋パートナーシップ）協定」「東アジア外交問題」「憲法改正」「集団的自衛権」について 0.1%水準で男性の方が女性よりも有意に高かった。一方、「年金、医療、介護などの社会保障」「子育て支援」「震災復興（東日本大震災・熊本地震）」については 0.1%水準で女性の方が男性よりも有意に高かった。また、「沖縄基地問題」については 10%水準で男性の方が女性よりも高い有意傾向が認められた。

表 4.1.1 重要視する予定の争点（事前問 9）※複数回答

| 属性等 | 全体 | 男性 | 女性 | 有意水準 | 18-19歳 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 有意水準 | 投票 | 非投票 | 有意水準 |
|---------------------|--------|-------|-------|------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|------|--------|-------|------|
| N | 1791.0 | 896.1 | 894.9 | - | 66.9 | 344.8 | 344.8 | 344.8 | 344.8 | 344.8 | - | 1315.4 | 470.8 | - |
| 景気 | 61.9% | 64.8% | 59.0% | * | 56.4% | 57.7% | 63.0% | 67.3% | 60.7% | 61.7% | n.s. | 63.9% | 55.9% | ** |
| 雇用問題 | 34.0% | 33.5% | 34.5% | n.s. | 30.9% | 39.3% | 35.7% | 34.3% | 34.7% | 26.7% | * | 34.6% | 32.2% | n.s. |
| 消費税引き上げ | 28.9% | 27.5% | 30.2% | n.s. | 33.7% | 31.3% | 36.3% | 25.3% | 22.7% | 27.7% | ** | 29.1% | 28.6% | n.s. |
| TPP(環太平洋パートナーシップ)協定 | 13.0% | 16.8% | 9.2% | *** | 13.7% | 8.7% | 11.0% | 12.3% | 14.7% | 18.0% | ** | 14.9% | 7.6% | *** |
| 東アジア外交問題 | 11.2% | 15.7% | 6.8% | *** | 8.6% | 6.3% | 10.0% | 15.0% | 8.7% | 16.7% | *** | 13.9% | 3.9% | *** |
| 沖縄基地問題 | 14.2% | 15.6% | 12.7% | † | 12.4% | 10.0% | 12.0% | 13.0% | 13.0% | 23.3% | *** | 16.3% | 8.2% | *** |
| 原子力発電所の稼働 | 23.7% | 24.4% | 23.1% | n.s. | 13.1% | 12.0% | 19.0% | 25.0% | 25.7% | 39.0% | *** | 27.1% | 14.5% | *** |
| 憲法改正 | 29.4% | 35.8% | 23.0% | *** | 28.2% | 18.7% | 20.7% | 28.3% | 36.0% | 43.7% | *** | 35.2% | 13.1% | *** |
| 年金、医療、介護などの社会保障 | 55.4% | 49.6% | 61.2% | *** | 35.1% | 43.7% | 50.7% | 55.3% | 59.3% | 72.0% | *** | 57.7% | 49.1% | ** |
| 子育て支援 | 31.5% | 24.3% | 38.6% | *** | 29.6% | 34.7% | 44.0% | 27.3% | 19.3% | 32.3% | *** | 32.1% | 29.7% | n.s. |
| 震災復興(東日本大震災・熊本地震) | 23.7% | 20.4% | 27.0% | *** | 21.3% | 17.3% | 21.3% | 23.7% | 24.3% | 32.3% | *** | 25.4% | 19.1% | ** |
| 集団的自衛権 | 24.8% | 28.6% | 21.0% | *** | 18.9% | 15.3% | 18.0% | 24.0% | 32.0% | 36.0% | *** | 28.9% | 13.3% | *** |
| あてはまるものはない | 10.5% | 10.3% | 10.6% | n.s. | 15.5% | 20.3% | 12.3% | 8.0% | 7.0% | 3.7% | *** | 7.3% | 19.5% | *** |

※ χ^2 検定結果 n.s.:no significant, †:p<0.1, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

さらに、投票時にいずれかの争点を重視すると回答した人に（N=1,603.6）、最も重視する予定の争点を単一回答で選んでもらった。属性等別（性別、年齢層別、投票有無別）の回答結果を示したものが表 4.1.2 である（事前調査問 10）。

回答全体の中では、重要視する予定の争点としては、やはり「景気」（32.6%）、「年金、

医療、介護などの社会保障」(23.7%)、「子育て支援」(10.0%)の順に多かった。

また、性別、年齢層別、投票有無別について0.1%水準で有意な偏りが認められた。

表 4.1.2 最重要視する争点（事前問10） ※単一回答

| 属性等 | 全体 | 男性 | 女性 | 有意水準 | 18-19歳 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 有意水準 | 投票 | 非投票 | 有意水準 |
|---------------------|--------|-------|-------|------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|------|--------|-------|------|
| N | 1603.6 | 803.7 | 800.0 | - | 56.6 | 274.7 | 302.3 | 317.2 | 320.7 | 332.2 | - | 1219.7 | 379.1 | - |
| 景気 | 32.6% | 38.9% | 26.2% | | 31.7% | 31.0% | 34.2% | 40.6% | 33.0% | 24.6% | | 32.9% | 30.9% | |
| 雇用問題 | 5.0% | 5.5% | 4.4% | | 7.3% | 9.2% | 4.2% | 5.4% | 5.4% | 1.0% | | 5.0% | 5.0% | |
| 消費税引き上げ | 6.9% | 6.6% | 7.2% | | 15.0% | 10.0% | 9.1% | 4.7% | 6.1% | 3.8% | | 5.5% | 11.5% | |
| TPP(環太平洋パートナーシップ)協定 | 0.7% | 1.2% | 0.2% | | 1.6% | 0.4% | 1.5% | 0.7% | 0.0% | 0.7% | | 0.7% | 0.7% | |
| 東アジア外交問題 | 1.4% | 2.1% | 0.6% | | 2.0% | 1.3% | 0.0% | 2.2% | 2.2% | 1.0% | | 1.4% | 1.2% | |
| 沖縄基地問題 | 0.4% | 0.3% | 0.6% | | 0.4% | 0.4% | 0.4% | 0.0% | 1.1% | 0.3% | | 0.5% | 0.3% | |
| 原子力発電所の稼働 | 3.6% | 3.7% | 3.4% | *** | 0.4% | 0.8% | 1.5% | 5.4% | 4.7% | 5.5% | *** | 3.9% | 2.7% | *** |
| 憲法改正 | 9.9% | 11.9% | 8.0% | | 11.8% | 5.0% | 4.2% | 8.3% | 14.0% | 16.6% | | 11.8% | 3.8% | |
| 年金、医療、介護などの社会保障 | 23.7% | 19.5% | 28.0% | | 12.2% | 15.5% | 22.1% | 19.6% | 25.8% | 36.0% | | 23.5% | 24.9% | |
| 子育て支援 | 10.0% | 4.5% | 15.5% | | 9.3% | 20.9% | 17.5% | 9.1% | 1.8% | 3.1% | | 9.0% | 13.5% | |
| 震災復興(東日本大震災・熊本地震) | 1.7% | 1.2% | 2.2% | | 3.7% | 2.5% | 1.5% | 1.8% | 1.8% | 0.7% | | 1.2% | 3.3% | |
| 集団的自衛権 | 4.0% | 4.5% | 3.6% | | 4.5% | 2.9% | 3.8% | 2.2% | 4.3% | 6.6% | | 4.6% | 2.2% | |

※ χ^2 検定結果 n.s.:no significant, †:p<0.1, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

選挙後に、選挙期間中に関連する情報を見た争点を、複数回答で選んでもらった。属性等別（性別、年齢層別、投票有無別）の回答結果が表 4.1.3 である（事後調査問17）。

回答全体の中では、「景気」(46.4%)、「憲法改正」(34.7%)、「年金、医療、介護などの社会保障」(31.9%)、「あてはまるものはない」(30.0%)、「雇用問題」(27.8%)の順に多かった。

性別の違いでは、「景気」「東アジア外交問題」は0.1%水準、「憲法改正」は5%水準で男性の方が女性よりも有意に高かった。また、「沖縄基地問題」も10%水準で男性の方が女性よりも高い有意傾向が認められた。一方、「子育て支援」は0.1%水準、「消費税引き上げ」は1%水準、「年金、医療、介護などの社会保障」は5%水準で女性の方が男性よりも有意に高かった。

年齢層別では、「沖縄基地問題」「原子力発電所の稼働」「年金、医療、介護などの社会保障」「集団的自衛権」「あてはまるものはない」は0.1%水準、「景気」「子育て支援」は1%水準、「東アジア外交問題」「憲法改正」は5%水準で有意な偏りが認められた。「あてはまるものはない」は20代、「子育て支援」は30代が最も高く、それ以外は60代が最も高い結果となった。

投票有無別では、「あてはまるものはない」は非投票者が投票者よりも0.1%水準で有意に高かった。それ以外は投票者の方が非投票者よりも0.1%水準または1%水準で有意に高かった。

表 4.1.3 接触した争点（事後問 17）

| 属性等 | 全体 | 男性 | 女性 | 有意水準 | 18-19歳 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 有意水準 | 投票 | 非投票 | 有意水準 |
|---------------------|--------|-------|-------|------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|------|--------|-------|------|
| N | 1791.0 | 896.1 | 894.9 | - | 66.9 | 344.8 | 344.8 | 344.8 | 344.8 | 344.8 | - | 1315.4 | 470.8 | - |
| 景気 | 46.4% | 52.0% | 40.8% | *** | 34.7% | 39.0% | 45.3% | 47.3% | 48.7% | 54.0% | ** | 51.7% | 31.6% | *** |
| 雇用問題 | 27.8% | 28.8% | 26.8% | n.s. | 20.3% | 24.7% | 29.0% | 26.3% | 28.7% | 32.0% | n.s. | 31.8% | 16.5% | *** |
| 消費税引き上げ | 24.4% | 21.6% | 27.1% | ** | 25.4% | 26.0% | 25.7% | 24.0% | 19.3% | 26.7% | n.s. | 26.9% | 17.7% | *** |
| TPP(環太平洋パートナーシップ)協定 | 15.3% | 16.4% | 14.3% | n.s. | 15.5% | 14.7% | 13.7% | 18.0% | 12.3% | 18.0% | n.s. | 17.3% | 9.7% | *** |
| 東アジア外交問題 | 6.3% | 8.7% | 3.8% | *** | 7.6% | 5.3% | 5.0% | 5.7% | 4.7% | 10.3% | * | 7.8% | 2.0% | *** |
| 沖縄基地問題 | 12.2% | 13.5% | 10.9% | † | 10.7% | 11.0% | 12.3% | 8.7% | 9.3% | 20.0% | *** | 13.6% | 8.4% | ** |
| 原子力発電所の稼働 | 15.7% | 15.3% | 16.0% | n.s. | 12.0% | 11.3% | 14.3% | 16.3% | 12.0% | 25.0% | *** | 18.2% | 8.8% | *** |
| 憲法改正 | 34.7% | 37.1% | 32.3% | * | 35.4% | 30.0% | 32.0% | 34.3% | 34.3% | 42.7% | * | 40.3% | 19.1% | *** |
| 年金、医療、介護などの社会保障 | 31.9% | 29.7% | 34.1% | * | 23.4% | 20.7% | 33.3% | 32.3% | 29.7% | 45.3% | *** | 35.8% | 20.8% | *** |
| 子育て支援 | 26.5% | 20.1% | 33.0% | *** | 21.0% | 22.7% | 32.7% | 27.0% | 21.0% | 30.3% | ** | 28.4% | 21.3% | ** |
| 震災復興(東日本大震災・熊本地震) | 9.6% | 10.0% | 9.1% | n.s. | 10.7% | 9.3% | 9.0% | 7.7% | 8.3% | 13.3% | n.s. | 11.0% | 5.6% | *** |
| 集团的自衛権 | 18.3% | 19.7% | 17.0% | n.s. | 18.2% | 15.3% | 15.0% | 20.0% | 15.3% | 26.0% | *** | 21.3% | 10.1% | *** |
| あてはまるものはない | 30.0% | 28.3% | 31.6% | n.s. | 34.0% | 39.3% | 29.0% | 29.3% | 30.7% | 20.7% | *** | 22.6% | 50.4% | *** |

※ χ^2 検定結果 n.s.:no significant, †:p<0.1, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

また、選挙後に、投票の際に重視した争点を、複数回答で選んでもらった。属性等別（性別、年齢層別、投票有無別）の回答結果が表 4.1.4 である（事後調査問 18）。

回答全体の中では、重要視した争点としては、「景気」（39.3%）、「年金、医療、介護などの社会保障」（29.3%）、「憲法改正」（27.5%）、「あてはまるものはない」（24.8%）、「雇用問題」（20.2%）、「子育て支援」（17.3%）、「消費税引き上げ」（15.4%）の順に多かった。

性別の違いでは、「景気」は 0.1%水準、「雇用問題」「憲法改正」は 1%水準で男性の方が女性よりも有意に高かった。また、「TPP 協定」「東アジア外交問題」も 10%水準で男性の方が女性よりも高い有意傾向が認められた。一方、「消費税引き上げ」「年金、医療、介護などの社会保障」「子育て支援」は 0.1%水準で女性の方が男性よりも有意に高かった。

年齢層別では、「沖縄基地問題」「原子力発電所の稼働」「憲法改正」「年金、医療、介護などの社会保障」「子育て支援」「集团的自衛権」「あてはまるものはない」は 0.1%水準、「景気」は 1%水準、「消費税引き上げ」「TPP」「震災復興」は 5%水準で有意な偏りが認められた。「雇用問題」「あてはまるものはない」は 20代、「消費税引き上げ」「子育て支援」は 30代が最も高く、それ以外は 60代が最も高い結果となった。

投票有無別では、「あてはまるものはない」は非投票者が投票者よりも 0.1%水準で有意に高かった。それ以外は投票者の方が非投票者よりも 0.1%水準、1%水準、5%水準のいずれかで有意に高かった。

表 4.1.4 重要視した争点（事後問 18）

| 属性等 | 全体 | 男性 | 女性 | 有意水準 | 18-19歳 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 有意水準 | 投票 | 非投票 | 有意水準 |
|---------------------|--------|-------|-------|------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|------|--------|-------|------|
| N | 1791.0 | 896.1 | 894.9 | - | 66.9 | 344.8 | 344.8 | 344.8 | 344.8 | 344.8 | - | 1315.4 | 470.8 | - |
| 景気 | 39.3% | 44.3% | 34.3% | *** | 35.1% | 33.7% | 40.0% | 40.7% | 37.7% | 45.3% | ** | 43.5% | 27.7% | *** |
| 雇用問題 | 20.2% | 22.7% | 17.6% | ** | 19.2% | 23.0% | 22.0% | 20.0% | 18.0% | 18.0% | n.s. | 22.8% | 12.7% | *** |
| 消費税引き上げ | 15.4% | 12.3% | 18.5% | *** | 18.9% | 14.3% | 20.3% | 12.7% | 12.3% | 16.7% | * | 16.7% | 11.8% | * |
| TPP(環太平洋パートナーシップ)協定 | 5.6% | 6.6% | 4.6% | † | 7.6% | 6.7% | 4.7% | 3.7% | 3.7% | 9.0% | * | 7.0% | 1.7% | *** |
| 東アジア外交問題 | 4.5% | 5.4% | 3.5% | † | 5.8% | 4.0% | 4.0% | 4.3% | 3.7% | 6.0% | n.s. | 5.7% | 0.9% | *** |
| 沖縄基地問題 | 4.6% | 5.4% | 3.9% | n.s. | 5.8% | 4.3% | 4.0% | 2.3% | 2.7% | 9.7% | *** | 5.3% | 2.8% | * |
| 原子力発電所の稼働 | 11.5% | 12.0% | 11.1% | n.s. | 8.2% | 7.3% | 9.7% | 10.7% | 11.3% | 19.3% | *** | 13.4% | 6.1% | *** |
| 憲法改正 | 27.5% | 30.5% | 24.6% | ** | 28.9% | 21.7% | 16.7% | 28.0% | 33.3% | 37.7% | *** | 33.6% | 10.3% | *** |
| 年金、医療、介護などの社会保障 | 29.3% | 24.8% | 33.9% | *** | 15.8% | 22.0% | 26.3% | 24.0% | 26.3% | 50.7% | *** | 32.4% | 20.8% | *** |
| 子育て支援 | 17.3% | 11.2% | 23.4% | *** | 13.4% | 21.3% | 26.7% | 13.7% | 8.0% | 17.7% | *** | 18.8% | 13.2% | ** |
| 震災復興(東日本大震災・熊本地震) | 7.3% | 6.6% | 7.9% | n.s. | 7.2% | 5.3% | 6.0% | 7.0% | 6.7% | 11.3% | * | 8.5% | 3.6% | *** |
| 集団的自衛権 | 13.8% | 14.7% | 13.0% | n.s. | 13.1% | 10.0% | 10.7% | 12.3% | 14.3% | 22.0% | *** | 17.0% | 5.0% | *** |
| あてはまるものはない | 24.8% | 24.1% | 25.6% | n.s. | 29.2% | 36.3% | 27.0% | 25.7% | 21.3% | 13.0% | *** | 15.7% | 50.4% | *** |

※ χ^2 検定結果 n.s.:no significant, †:p<0.1, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

投票時にいずれかの争点を重視した人(N=1,346.2)に対して、最も重視した争点を一つ選んでもらった。属性等別(性別、年齢層別、投票有無別)の回答結果が表4.1.5である(事後調査問19)。

回答全体の中で、重要視する予定の争点としては、「景気」(32.7%)、「憲法改正」(21.5%)、「年金、医療、介護などの社会保障」(15.4%)、「子育て支援」(8.7%)の順に多かった。

また、性別、年齢層別、投票有無別のいずれについても0.1%水準で有意な偏りが認められた。

表 4.1.5 最重視した争点（事後問 19）

| 属性等 | 全体 | 男性 | 女性 | 有意水準 | 18-19歳 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 有意水準 | 投票 | 非投票 | 有意水準 |
|---------------------|--------|-------|-------|------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|------|--------|-------|------|
| N | 1346.2 | 680.2 | 666.0 | - | 47.4 | 219.5 | 251.7 | 256.3 | 271.3 | 300.0 | - | 1109.4 | 233.3 | - |
| 景気 | 32.7% | 38.7% | 26.6% | | 29.6% | 27.7% | 37.4% | 37.7% | 33.5% | 28.0% | | 32.7% | 32.8% | |
| 雇用問題 | 5.3% | 6.4% | 4.1% | | 6.8% | 10.5% | 2.7% | 6.3% | 6.4% | 1.5% | | 5.2% | 5.6% | |
| 消費税引き上げ | 6.3% | 5.2% | 7.3% | | 10.7% | 8.9% | 8.2% | 4.9% | 5.9% | 3.4% | | 5.6% | 9.5% | |
| TPP(環太平洋パートナーシップ)協定 | 0.4% | 0.3% | 0.5% | | 1.9% | 0.0% | 0.5% | 1.3% | 0.0% | 0.0% | | 0.4% | 0.6% | |
| 東アジア外交問題 | 1.4% | 1.6% | 1.2% | | 1.0% | 1.0% | 0.0% | 2.2% | 2.1% | 1.5% | | 1.7% | 0.0% | |
| 沖縄基地問題 | 0.2% | 0.2% | 0.2% | | 1.0% | 0.5% | 0.5% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | | 0.2% | 0.0% | |
| 原子力発電所の稼働 | 2.8% | 2.7% | 3.0% | *** | 2.9% | 0.5% | 2.3% | 3.6% | 4.7% | 2.7% | *** | 2.9% | 2.1% | *** |
| 憲法改正 | 21.5% | 23.6% | 19.4% | | 23.8% | 18.8% | 11.0% | 19.7% | 23.7% | 31.4% | | 23.8% | 10.4% | |
| 年金、医療、介護などの社会保障 | 15.4% | 12.4% | 18.3% | | 6.8% | 9.4% | 11.4% | 13.0% | 16.5% | 25.3% | | 14.6% | 18.9% | |
| 子育て支援 | 8.7% | 3.5% | 13.9% | | 8.7% | 17.8% | 19.6% | 6.7% | 0.8% | 1.5% | | 7.4% | 15.1% | |
| 震災復興(東日本大震災・熊本地震) | 1.2% | 1.3% | 1.1% | | 2.4% | 1.0% | 0.9% | 1.3% | 1.3% | 1.1% | | 1.1% | 1.6% | |
| 集団的自衛権 | 4.2% | 4.0% | 4.3% | | 4.4% | 3.7% | 5.5% | 3.1% | 5.1% | 3.4% | | 4.3% | 3.4% | |

※ χ^2 検定結果 n.s.:no significant, †:p<0.1, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

上記の結果から、有権者の争点への関心としては「景気」「社会保障」「雇用問題」などのテーマが強いものの、選挙期間中に「憲法改正」を重視する割合が大きく上昇したことが分かる。選挙期間中に「憲法改正」に関して目にした人が多かったことから、選挙期間中の報道が影響を及ぼし、主要争点に浮上したことが推測される。また、「東アジア外交問題」などの外交問題は男性、「社会保障」などの生活に密着した争点は女性の関心がより強い傾向がうかがえる。また、「子育て支援」など世代によって関心の強さが異なる争点も存在することが分かる。

4.2 諸争点に対する態度

本節では、諸争点に対する調査対象者の態度について分析を行う。表 4.2.1 の表側に示した 12 点の争点について、「賛成」から「反対」までの 5 件法で調査対象者の態度を尋ねた（事前問 11）。それぞれの争点について、賛成傾向（「賛成」＋「やや賛成」）を示した人の比率を、性別・投票有無別に示したものが以下の表 4.2.1 である。

表 4.2.1 諸争点に対する態度（「賛成」＋「やや賛成」の比率）〈性別・投票有無別〉

| | 全体 N=1,791.0 | 性別 | | | 投票・非投票 | | |
|--|-----------------|---------------|---------------|------|-----------------|----------------|------|
| | | 男性 N=896.1 | 女性 N=894.9 | 有意差 | 投票 N=1,315.4 | 非投票 N=470.8 | 有意差 |
| | | | | | | | |
| TPP（環太平洋パートナーシップ）協定の推進 | 34.9 | 42.3 | 27.5 | *** | 39.7 | 21.6 | *** |
| 消費税引き上げ | 24.1 | 27.9 | 20.2 | *** | 27.4 | 14.8 | *** |
| 原子力発電所の稼働 | 22.6 | 31.3 | 14.0 | *** | 24.3 | 18.1 | ** |
| 年金、医療、介護などの社会保障の拡充 | 71.3 | 67.6 | 74.9 | *** | 73.5 | 64.9 | *** |
| 子育て支援策の拡充 | 68.3 | 67.1 | 69.4 | n.s. | 71.0 | 60.5 | *** |
| 憲法を変えること | 30.0 | 35.7 | 24.2 | *** | 31.9 | 24.7 | ** |
| 憲法 9 条を改正すること | 24.6 | 32.8 | 16.4 | *** | 27.1 | 17.6 | *** |
| 同一労働同一賃金 | 31.1 | 35.1 | 27.1 | *** | 32.8 | 26.2 | ** |
| 米軍基地の撤廃 | 28.9 | 23.5 | 34.3 | *** | 28.7 | 29.3 | n.s. |
| 政治や社会問題について、若い人たちがデモで意見を表明すること | 36.0 | 37.7 | 34.4 | n.s. | 39.3 | 26.9 | *** |
| 安全保障関連法によって、集団的自衛権を使えるようにしたり、自衛隊の海外活動を広げたりすること | 24.6 | 31.0 | 18.2 | *** | 27.5 | 16.6 | *** |
| 選挙権年齢が満 18 歳に引き下げられたこと | 38.0 | 42.8 | 33.2 | *** | 42.1 | 26.6 | *** |

有意差： χ^2 検定の結果。***:p<.001 **:p<.01 n.s.:有意差なし

他群より 5%水準で有意に大きい値は黒・太字で示している。

賛成傾向を示した比率が 50%を超えた争点は、「社会保障の拡充」「子育て支援策の拡充」

の2点であった。性別で比較すると、多くの争点で、男性の賛成比率が有意に大きい。ただし、「子育て支援策の拡充」「若者の政治的意見表明」については性別間で有意差がなく、「社会保障の拡充」「米軍基地の撤廃」については、女性の方が有意に大きな賛成比率を示している。

次に投票有無別の比較では、「米軍基地の撤廃」以外すべての争点で、投票群の賛成比率が有意に大きい。しかし、この結果をもって、投票群の方が各種争点に対してより賛成寄りの立場をとっていると結論づけることはできない。投票群は非投票群に比べ、賛成にせよ反対にせよ、明確な政治的立場をとる人の比率が大きい可能性も考えられる。そこで、投票有無別の比較については、反対傾向（「反対」＋「やや反対」）を示した人の比率も追加して分析した。結果は以下の表4.2.2に示している。

表 4.2.2 諸争点に対する態度（「反対」＋「やや反対」の比率）〈投票有無別〉

| | 投票・非投票（反対） | | | |
|--|------------|-------------|-------------|------|
| | 全体 | 投票 | 非投票 | 有意差 |
| | N=1,791.0 | N=1,315.4 | N=470.8 | |
| TPP（環太平洋パートナーシップ）協定の推進 | 14.1 | 14.7 | 12.2 | n.s. |
| 消費税引き上げ | 48.4 | 45.5 | 56.0 | *** |
| 原子力発電所の稼働 | 44.2 | 46.4 | 38.0 | ** |
| 年金、医療、介護などの社会保障の拡充 | 5.9 | 5.5 | 6.8 | n.s. |
| 子育て支援策の拡充 | 7.0 | 6.5 | 8.1 | n.s. |
| 憲法を変えること | 30.1 | 32.6 | 23.1 | *** |
| 憲法9条を改正すること | 37.3 | 39.6 | 30.8 | *** |
| 同一労働同一賃金 | 17.1 | 17.8 | 15.3 | n.s. |
| 米軍基地の撤廃 | 26.2 | 29.0 | 18.1 | *** |
| 政治や社会問題について、若い人たちがデモで意見を表明すること | 15.6 | 15.7 | 15.1 | n.s. |
| 安全保障関連法によって、集団的自衛権を使えるようにしたり、自衛隊の海外活動を広げたりすること | 27.8 | 30.1 | 20.8 | *** |
| 選挙権年齢が満18歳に引き下げられたこと | 20.9 | 19.9 | 24.1 | † |

有意差： χ^2 検定の結果。 ***:p<.001 **:p<.01 †:p<.10 n.s.:有意差なし

他群より5%水準で有意に大きい値は黒・太字で示している。

表4.2.1、表4.2.2を比較すると、「原発の稼働」「憲法改正」「憲法9条改正」「安全保障関連法」の4点については、賛成・反対ともに、投票群の比率が有意に大きい。この4点に関しては、賛成にせよ反対にせよ、投票群は非投票群に比べて明確な政治的立場をとる人が多いといえる。次に、「米軍基地の撤廃」は、賛成比率に有意差がなかったものの、反対については投票群の比率が有意に大きかった。残った7争点については、投票群の賛

成比率は有意に大きな値であるのに対し、反対比率は有意差が見られないか有意に小さい値をとっていた。このように、各争点の賛成比率・反対比率を比較することで、争点ごとの態度分布の差異が明らかになった。

上記の性別・投票有無別の分析に加え、10代から60代までの年齢層別の分析も行った。表4.2.1と同じく賛成傾向を示した人の比率を、年齢層別に示したのが表4.2.3である。

表4.2.3 諸争点に対する態度（「賛成」+「やや賛成」の比率）〈年齢層別〉

| | 年齢層 | | | | | | 有意差 |
|--|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|------|
| | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | |
| | N=66.9 | N=344.8 | N=344.8 | N=344.8 | N=344.8 | N=344.8 | |
| TPP（環太平洋パートナーシップ）協定の推進 | 29.9 | 29.0 | 26.0 | 32.7 | 41.3 | 46.3 | *** |
| 消費税引き上げ | 28.9 | 21.7 | 20.0 | 21.3 | 26.0 | 30.3 | * |
| 原子力発電所の稼働 | 32.3 | 25.7 | 22.3 | 23.3 | 20.3 | 19.7 | n.s. |
| 年金、医療、介護などの社会保障の拡充 | 55.7 | 60.0 | 69.7 | 67.7 | 78.7 | 83.3 | *** |
| 子育て支援策の拡充 | 69.4 | 70.3 | 71.3 | 60.3 | 62.0 | 77.0 | *** |
| 憲法を変えること | 26.1 | 29.0 | 32.0 | 34.0 | 26.7 | 29.0 | n.s. |
| 憲法9条を改正すること | 24.7 | 22.7 | 22.3 | 28.7 | 23.3 | 26.0 | n.s. |
| 同一労働同一賃金 | 26.1 | 26.3 | 24.7 | 27.0 | 32.3 | 46.0 | *** |
| 米軍基地の撤廃 | 25.1 | 22.7 | 30.3 | 25.7 | 29.0 | 37.7 | *** |
| 政治や社会問題について、若い人たちがデモで意見を表明すること | 36.8 | 30.0 | 29.3 | 38.0 | 35.7 | 47.0 | *** |
| 安全保障関連法によって、集団的自衛権を使えるようにしたり、自衛隊の海外活動を広げたりすること | 27.5 | 23.0 | 23.7 | 26.0 | 23.3 | 26.7 | n.s. |
| 選挙権年齢が満18歳に引き下げられたこと | 45.0 | 33.0 | 37.3 | 33.7 | 39.7 | 45.0 | ** |

有意差： χ^2 検定の結果。***:p<.001 **:p<.01 *:p<.05 n.s.:有意差なし

残差分析の結果、他群より5%水準で有意に大きい値は黒・太字で、有意に小さい値は赤・太字で示している。

χ^2 検定の結果、「原発稼働」「憲法改正」「憲法9条改正」「安全保障関連法」の4争点は、年齢層別で有意な差が見られなかった。残りの8争点については、全般的に高年齢層の方が賛成傾向を示す比率が有意に高かった。この中で、「子育て支援策の拡充」については、賛成比率が有意に低い年齢層が40,50代であるという点で、他の争点と結果がやや異なる。これは、「子育て支援策の拡充」の恩恵を受ける可能性が高い20,30代の賛成比率が、他の争点と比べ大きくなったからだと考えられる。

5. 支持政党と政党イメージ

5.1 支持政党

選挙前に主要な政党名を提示し、ふだんどの程度支持しているか5件法で質問した（「支持している」「やや支持している」「どちらでもない」「あまり支持していない」「支持していない」「政党名を知らない」の中から回答を一つ選択してもらった）。この結果から、各政党への支持（「支持している」「やや支持している」）の割合を、属性等別（性別、年齢層別、投票有無別）に示したものが表5.1.1である（事前調査問5）。

回答全体では、「自由民主党」（32.7%）、「おおさか維新の会」（14.0%）、「民進党」（8.6%）、「日本共産党」（7.6%）、「公明党」（5.3%）の順に多かった。

性別の違いを見ると、「自由民主党」「おおさか維新の会」「日本のことを大切にする党」について0.1%水準、「沖縄社会大衆党」について1%水準、「民進党」「生活の党と山本太郎となかまたち」「日本を元気にする会」について5%水準で男性の方が女性よりも高かった。

年齢層別の比較では、「民進党」「日本共産党」「社会民主党」「沖縄社会大衆党」について0.1%水準、「おおさか維新の会」「生活の党と山本太郎となかまたち」について5%水準で有意な違いが認められた。いずれも60代が最も高い結果となった。

投票有無別では、回答全体では、「自由民主党」「民進党」「公明党」「日本共産党」「おおさか維新の会」「日本のことを大切にする党」について0.1%水準、「社会民主党」「生活の党と山本太郎となかまたち」「新党改革」「沖縄社会大衆党」について5%水準で投票者の方が非投票者よりも有意に高い結果となった。また、「日本を元気にする会」についても10%水準で投票者の方が非投票者よりも高い有意傾向が認められた。

表 5.1.1 支持する政党（事前問5） ※「支持している」「やや支持している」の回答率

| 属性等 | 全体 | 男性 | 女性 | 有意水準 | 18-19歳 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 有意水準 | 投票 | 非投票 | 有意水準 |
|-----------------|--------|-------|-------|------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|------|--------|-------|------|
| N | 1791.0 | 896.1 | 894.9 | - | 66.9 | 344.8 | 344.8 | 344.8 | 344.8 | 344.8 | - | 1315.4 | 470.8 | - |
| 自由民主党 | 32.7% | 38.0% | 27.3% | *** | 27.8% | 31.3% | 33.0% | 32.0% | 34.0% | 34.0% | n.s. | 36.0% | 23.7% | *** |
| 民進党 | 8.6% | 9.9% | 7.2% | * | 7.6% | 5.3% | 3.7% | 7.7% | 10.0% | 16.3% | *** | 10.5% | 3.3% | *** |
| 公明党 | 5.3% | 5.9% | 4.8% | n.s. | 6.9% | 4.3% | 4.3% | 5.7% | 5.7% | 6.3% | n.s. | 6.7% | 1.6% | *** |
| 日本共産党 | 7.6% | 8.1% | 7.1% | n.s. | 3.4% | 3.3% | 4.7% | 8.0% | 8.3% | 14.7% | *** | 9.4% | 2.2% | *** |
| おおさか維新の会 | 14.0% | 17.6% | 10.4% | *** | 11.3% | 13.3% | 10.3% | 12.7% | 14.7% | 19.7% | * | 16.1% | 8.3% | *** |
| 社会民主党 | 2.8% | 3.1% | 2.5% | n.s. | 1.0% | 1.7% | 0.7% | 1.7% | 4.0% | 6.3% | *** | 3.4% | 1.2% | * |
| 生活の党と山本太郎となかまたち | 2.6% | 3.5% | 1.7% | * | 1.0% | 0.7% | 2.7% | 2.0% | 3.7% | 4.3% | * | 3.1% | 1.2% | * |
| 日本のことを大切にする党 | 3.2% | 5.0% | 1.3% | *** | 4.1% | 3.7% | 2.0% | 4.0% | 4.0% | 2.0% | n.s. | 4.1% | 0.6% | *** |
| 日本を元気にする会 | 1.5% | 2.1% | 0.8% | * | 1.4% | 1.0% | 1.0% | 1.7% | 2.0% | 1.7% | n.s. | 1.8% | 0.5% | † |
| 新党改革 | 1.1% | 1.5% | 0.7% | n.s. | 1.0% | 0.3% | 1.0% | 1.0% | 0.7% | 2.3% | n.s. | 1.4% | 0.2% | * |
| 沖縄社会大衆党 | 1.6% | 2.5% | 0.7% | ** | 1.7% | 0.3% | 1.3% | 0.3% | 1.7% | 4.3% | *** | 2.0% | 0.5% | * |
| その他の政党 | 0.3% | 0.5% | 0.1% | n.s. | 0.3% | 0.3% | 0.3% | 0.0% | 0.3% | 0.7% | n.s. | 0.5% | 0.0% | n.s. |

※ χ^2 検定結果 n.s.:no significant, †:p<0.1, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

また、いずれかの政党を支持している人（「支持している」または「やや支持している」人）（N=907.8）に対して、最も支持する政党を一つ回答してもらった。この回答率を属性等別（性別、年齢層別、投票有無別）に示したものが表 5.1.2 である（事前調査問 6）。

回答全体では、「自由民主党」（55.7%）、「おおさか維新の会」（12.8%）、「民進党」（10.9%）、「日本共産党」（9.3%）、「公明党」（4.5%）の順に多かった。

年齢層別と投票有無別については 1%水準、性別については 5%水準で有意な偏りが認められた。

表 5.1.2 最も支持する政党（事前問 6） ※単一回答

| 属性等 | 全体 | 男性 | 女性 | 有意水準 | 18-19歳 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 有意水準 | 投票 | 非投票 | 有意水準 |
|-------------------|-------|-------|-------|------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|------|
| N | 907.8 | 517.5 | 390.3 | - | 26.2 | 144.8 | 151.7 | 173.6 | 192.0 | 219.5 | - | 752.6 | 152.6 | - |
| 自由民主党 | 55.7% | 56.0% | 55.2% | | 64.0% | 65.1% | 66.7% | 51.7% | 53.3% | 46.1% | | 52.9% | 70.0% | |
| 民進党 | 10.9% | 11.9% | 9.6% | | 9.6% | 4.8% | 4.5% | 8.6% | 14.4% | 18.3% | | 12.3% | 3.9% | |
| 公明党 | 4.5% | 3.2% | 6.2% | | 2.6% | 6.3% | 5.3% | 6.6% | 3.0% | 2.6% | | 5.1% | 1.5% | |
| 日本共産党 | 9.3% | 7.8% | 11.2% | | 5.3% | 4.8% | 6.8% | 12.6% | 9.6% | 11.5% | | 10.1% | 3.8% | |
| おおさか維新の会 | 12.8% | 13.0% | 12.5% | | 13.2% | 13.5% | 11.4% | 13.2% | 12.0% | 13.6% | | 12.5% | 14.6% | |
| 社会民主党 | 1.9% | 1.6% | 2.4% | | 0.9% | 2.4% | 0.0% | 1.3% | 1.8% | 3.7% | | 1.9% | 2.3% | |
| 生活の党と山本太郎となかまたち | 2.4% | 3.1% | 1.5% | * | 0.9% | 0.0% | 2.3% | 3.3% | 3.6% | 2.6% | ** | 2.6% | 1.5% | ** |
| 日本のことを大切に にする党 | 1.2% | 1.8% | 0.4% | | 0.9% | 1.6% | 0.8% | 2.6% | 1.2% | 0.0% | | 1.2% | 0.9% | |
| 日本を元気にする会 | 0.1% | 0.0% | 0.1% | | 1.8% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | | 0.1% | 0.0% | |
| 新党改革 | 0.1% | 0.0% | 0.3% | | 0.0% | 0.0% | 0.8% | 0.0% | 0.0% | 0.0% | | 0.2% | 0.0% | |
| 沖縄社会大衆党 | 0.6% | 0.7% | 0.6% | | 0.0% | 0.8% | 0.8% | 0.0% | 0.6% | 1.0% | | 0.5% | 1.5% | |
| その他の政党 | 0.5% | 0.9% | 0.0% | | 0.9% | 0.8% | 0.8% | 0.0% | 0.6% | 0.5% | | 0.6% | 0.0% | |

※ χ^2 検定結果 n.s.:no significant, †:p<0.1, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

選挙後にも 5 件法で政党の支持について質問した。各政党への支持（「支持している」「やや支持している」）の割合を、属性等別（性別、年齢層別、投票有無別）に示したものが表 5.1.3 である（事後調査問 6）。

回答全体では、「自由民主党」（39.2%）、「おおさか維新の会」（19.2%）、「民進党」（14.9%）、「日本共産党」（11.3%）、「公明党」（7.8%）の順に多かった。

性別の違いを見ると、「おおさか維新の会」「日本のことを大切ににする党」「沖縄社会大衆党」について 0.1%水準、「新党改革」について 1%水準、「自由民主党」「日本を元気にする会」について 5%水準で男性の方が女性よりも高かった。

年齢層別の比較では、「民進党」「日本共産党」「おおさか維新の会」「沖縄社会大衆党」は 0.1%水準、「社会民主党」は 5%水準で有意に偏りが認められた。いずれも 60 代の支持が最も高かった。また、「その他の政党」でも 10%水準の有意傾向が見られた。また、投票の有無では「その他の政党」以外では、いずれも 0.01%、1%、5%のいずれかの水準で統計的に有意な偏りが認められた。

表 5.1.3 支持する政党（事後問 6）

| 属性等 | 全体 | 男性 | 女性 | 有意水準 | 18-19歳 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 有意水準 | 投票 | 非投票 | 有意水準 |
|------------------|--------|-------|-------|------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|------|--------|-------|------|
| N | 1791.0 | 896.1 | 894.9 | - | 66.9 | 344.8 | 344.8 | 344.8 | 344.8 | 344.8 | - | 1315.4 | 470.8 | - |
| 自由民主党 | 39.2% | 42.1% | 36.3% | * | 41.2% | 38.3% | 41.7% | 39.3% | 39.3% | 37.0% | n.s. | 43.6% | 27.4% | *** |
| 民進党 | 14.9% | 15.0% | 14.8% | n.s. | 17.5% | 9.0% | 9.7% | 11.7% | 15.3% | 28.3% | *** | 18.5% | 5.0% | *** |
| 公明党 | 7.8% | 7.6% | 8.0% | n.s. | 11.7% | 7.7% | 6.3% | 7.3% | 9.0% | 8.0% | n.s. | 9.6% | 2.8% | *** |
| 日本共産党 | 11.3% | 10.4% | 12.1% | n.s. | 6.2% | 6.0% | 7.3% | 10.7% | 13.7% | 19.7% | *** | 13.6% | 4.5% | *** |
| おおさか維新の会 | 19.2% | 23.4% | 14.8% | *** | 16.2% | 15.3% | 14.7% | 19.7% | 18.3% | 28.3% | *** | 22.8% | 9.0% | *** |
| 社会民主党 | 4.2% | 4.1% | 4.3% | n.s. | 5.5% | 2.3% | 3.7% | 3.7% | 3.7% | 7.3% | * | 5.5% | 0.6% | *** |
| 生活の党と山本太郎となかまたち | 3.1% | 3.4% | 2.7% | n.s. | 2.1% | 2.0% | 4.7% | 2.3% | 2.3% | 4.3% | n.s. | 3.9% | 0.8% | *** |
| 日本のことを大切に する党 | 5.6% | 7.9% | 3.3% | *** | 6.2% | 7.7% | 4.0% | 5.0% | 5.7% | 5.3% | n.s. | 7.4% | 0.3% | *** |
| 日本を元気にする会 | 1.8% | 2.5% | 1.1% | * | 1.0% | 2.3% | 1.3% | 2.0% | 1.7% | 1.7% | n.s. | 2.3% | 0.2% | ** |
| 新党改革 | 1.8% | 2.8% | 0.8% | ** | 1.7% | 1.0% | 2.0% | 2.3% | 1.0% | 2.7% | n.s. | 2.4% | 0.0% | *** |
| 沖縄社会大衆党 | 1.5% | 2.6% | 0.4% | *** | 1.0% | 0.3% | 1.0% | 0.3% | 1.0% | 5.0% | *** | 1.9% | 0.5% | * |
| その他の政党 | 0.6% | 0.8% | 0.4% | n.s. | 0.7% | 1.0% | 0.7% | 0.0% | 0.3% | 1.0% | † | 0.7% | 0.3% | n.s. |

※ χ^2 検定結果 n.s.:no significant, †:p<0.1, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

また選挙後にも、いずれかの政党を支持している人（「支持している」または「やや支持している」人）（N=1,132.4）に対して、最も支持する政党を一つ回答してもらった。この回答率を属性等別（性別、年齢層別、投票有無別）に示したものが表 5.1.4 である（事後調査問 7）。

回答全体で「自由民主党」（50.1%）、「民進党」（15.6%）、「おおさか維新の会」（14.0%）、「日本共産党」（9.8%）、「公明党」（5.3%）の順に多かった。

また、年齢層別と投票有無別の比較では 0.1%、性別の比較では 5%水準で偏りがみられた。

表 5.1.4 最も支持している政党（事後問 7） ※単一回答

| 属性等 | 全体 | 男性 | 女性 | 有意水準 | 18-19歳 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 有意水準 | 投票 | 非投票 | 有意水準 |
|------------------|--------|-------|-------|------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|------|-------|-------|------|
| N | 1132.4 | 600.7 | 531.7 | - | 39.3 | 187.4 | 194.2 | 210.3 | 229.9 | 271.3 | - | 954.2 | 176.8 | - |
| 自由民主党 | 50.1% | 48.9% | 51.5% | | 55.6% | 59.5% | 60.9% | 50.8% | 46.0% | 38.1% | | 47.1% | 67.0% | |
| 民進党 | 15.6% | 16.0% | 15.1% | | 16.4% | 10.4% | 8.3% | 11.5% | 17.0% | 26.3% | | 17.5% | 5.3% | |
| 公明党 | 5.3% | 4.2% | 6.5% | | 5.3% | 5.5% | 6.5% | 6.0% | 6.5% | 2.5% | | 5.9% | 2.0% | |
| 日本共産党 | 9.8% | 8.4% | 11.4% | | 5.3% | 6.7% | 7.1% | 12.6% | 11.0% | 11.4% | | 10.3% | 6.6% | |
| おおさか維新の会 | 14.0% | 16.3% | 11.4% | | 11.1% | 12.9% | 10.7% | 12.6% | 14.5% | 18.2% | | 13.6% | 16.0% | |
| 社会民主党 | 0.7% | 0.2% | 1.2% | | 1.8% | 0.0% | 1.2% | 0.5% | 1.0% | 0.4% | | 0.8% | 0.0% | |
| 生活の党と山本太郎となかまたち | 1.4% | 2.0% | 0.9% | * | 0.6% | 0.0% | 2.4% | 2.2% | 1.5% | 1.3% | *** | 1.4% | 1.4% | *** |
| 日本のことを大切に する党 | 1.9% | 2.5% | 1.3% | | 3.5% | 3.1% | 1.8% | 2.7% | 1.5% | 0.8% | | 2.1% | 0.9% | |
| 日本を元気にする会 | 0.2% | 0.2% | 0.2% | | 0.0% | 0.6% | 0.0% | 0.5% | 0.0% | 0.0% | | 0.2% | 0.0% | |
| 新党改革 | 0.2% | 0.4% | 0.0% | | 0.0% | 0.0% | 0.0% | 0.5% | 0.5% | 0.0% | | 0.2% | 0.0% | |
| 沖縄社会大衆党 | 0.2% | 0.4% | 0.0% | | 0.0% | 0.0% | 0.6% | 0.0% | 0.0% | 0.4% | | 0.2% | 0.0% | |
| その他の政党 | 0.5% | 0.6% | 0.4% | | 0.6% | 1.2% | 0.6% | 0.0% | 0.5% | 0.4% | | 0.5% | 0.8% | |

※ χ^2 検定結果 n.s.:no significant, †:p<0.1, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

上記の結果から、「自由民主党」が圧倒的に多くの支持を集めている状況にはあるものの、選挙期間を通じて他の政党との支持の差が縮まったことが分かる。この理由としては、選挙期間中にある程度公平に各政党について報道されたため、普段は比較的情報に触れることの少なかった政党への支持が伸びた可能性が考えられる。また、女性よりも男性、若年層よりも高齢者、非投票者よりも投票者で全般的に政党への支持が強くみられる傾向が認められた。

5.2 各党のイメージ

選挙前に、「自由民主党」「民進党」「公明党」「日本共産党」「おおさか維新の会」の5つの政党について、各政党の印象に関する選択肢を提示し、あてはまるものを複数回答で選択してもらった（Nは選挙前に各政党の支持について質問した際に、「政党名を知らない」と回答した人を除いた数）。

また、選挙後にも同様に上記の5つの政党について、各政党の印象に関する選択肢を提示し複数回答で選択してもらった（Nは、選挙後に各政党の支持について質問した際に、「政党名を知らない」と回答した人を除いた数）。

まず、「自由民主党」にあてはまる印象について、選挙前の属性等別（性別、年齢層別、投票有無別）の回答率を示したものが表5.2.1である（事前調査問7）。

全体として、「あてはまる印象がない」（46.6%）の回答が最も多かった。さらに、「党首にリーダーシップがある」（28.0%）、「組織力やチームワークがある」（21.9%）、「行動力がある」（16.2%）、「責任感がある」（13.1%）、「ビジョンがある」（10.8%）が続く結果となった。

性別では、「ビジョンがある」「党首にリーダーシップがある」「好感が持てる」「責任感がある」「政策がよく理解できる」については0.1%水準で男性の方が女性よりも有意に高かった。また、「革新的で新しいことを起こせる」についても、10%水準で男性の方が女性よりも高い有意傾向がみられた。一方で、「あてはまる印象がない」については、1%水準で女性の方が男性よりも高かった。

年代層別で比較すると、「組織力やチームワークがある」で0.1%水準の偏りがみられた。回答率が最も高いのは60代だった。また、「あてはまる印象がない」でも0.1%水準の偏りが見られ、回答率が最も高いのは20代だった。「党首にリーダーシップがある」でも5%水準の偏りが見られ、回答率が最も高いのは50代だった。

投票有無別では、「ビジョンがある」「党首にリーダーシップがある」「組織力やチームワークがある」「行動力がある」「責任感がある」は0.1%水準、「政策がよく理解できる」は1%水準で投票者が非投票者よりも有意に高かった。また、「好感が持てる」「革新的で新し

いことを起こせる」も投票者の方が非投票者よりも10%水準で有意に高かった。また、「あてはまる印象がない」は0.1%水準で非投票者の方が投票者よりも高かった。

表 5.2.1 選挙前／「自由民主党」の印象（事前問7） ※複数回答

| 属性等 | 全体 | 男性 | 女性 | 有意水準 | 18-19歳 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 有意水準 | 投票 | 非投票 | 有意水準 |
|----------------|--------|-------|-------|------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|------|--------|-------|------|
| N | 1782.5 | 893.3 | 889.2 | - | 65.3 | 340.2 | 343.7 | 344.8 | 344.8 | 343.7 | - | 1313.8 | 463.9 | - |
| ビジョンがある | 10.8% | 13.8% | 7.8% | *** | 10.6% | 9.8% | 10.0% | 9.0% | 10.3% | 15.1% | n.s. | 12.9% | 5.1% | *** |
| 党首にリーダーシップがある | 28.0% | 31.9% | 24.0% | *** | 17.6% | 23.3% | 26.1% | 28.0% | 32.7% | 31.8% | * | 31.3% | 18.9% | *** |
| 好感が持てる | 6.8% | 8.8% | 4.8% | *** | 9.9% | 6.8% | 7.4% | 6.3% | 5.7% | 7.4% | n.s. | 7.5% | 5.0% | † |
| 革新的で新しいことを起こせる | 2.9% | 3.6% | 2.1% | † | 5.6% | 2.4% | 2.7% | 3.3% | 1.3% | 4.0% | n.s. | 3.2% | 1.7% | † |
| 市民感覚がある | 3.3% | 3.7% | 2.9% | n.s. | 4.2% | 4.4% | 2.0% | 4.0% | 2.7% | 3.3% | n.s. | 3.7% | 2.3% | n.s. |
| 組織力やチームワークがある | 21.9% | 22.3% | 21.5% | n.s. | 10.9% | 12.8% | 18.1% | 25.3% | 24.3% | 30.8% | *** | 24.7% | 14.1% | *** |
| 行動力がある | 16.2% | 17.3% | 15.2% | n.s. | 16.9% | 15.5% | 15.1% | 15.3% | 14.7% | 20.4% | n.s. | 18.3% | 10.5% | *** |
| 責任感がある | 13.1% | 18.5% | 7.6% | *** | 13.0% | 13.2% | 13.0% | 12.0% | 12.3% | 14.7% | n.s. | 15.7% | 5.6% | *** |
| 政策がよく理解できる | 7.7% | 10.5% | 4.9% | *** | 7.0% | 8.1% | 7.4% | 5.0% | 6.7% | 11.4% | † | 8.7% | 4.8% | ** |
| あてはまる印象がない | 46.6% | 43.0% | 50.2% | ** | 55.3% | 55.7% | 52.2% | 45.7% | 41.3% | 36.5% | *** | 42.3% | 58.1% | *** |

※ χ^2 検定結果 n.s.:no significant, †:p<0.1, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

次に、「自由民主党」にあてはまる印象について、選挙後の属性等別（性別、年齢層別、投票有無別）の回答率を示したものが表 5.2.2 である（事後調査問 8）。

全体の中で、「あてはまる印象がない」（40.7%）の回答が最も多い。さらに、「党首にリーダーシップがある」（31.6%）、「組織力やチームワークがある」（23.1%）、「行動力がある」（22.1%）、「責任感がある」（15.2%）、「ビジョンがある」（12.9%）が続く結果となった。

性別では、「責任感がある」「政策がよく理解できる」については0.1%水準で、「ビジョンがある」「好感が持てる」は1%水準で、「革新的で新しいことを起こせる」については5%水準で男性の方が女性よりも高い有意傾向がみられた。「組織力やチームワークがある」についても、10%水準の有意傾向で男性の方が女性よりも高かった。

年代層別で比較すると、「組織力やチームワークがある」で0.1%水準の有意な偏りがみられた。回答率が最も高いのは60代だった。また、「あてはまる印象がない」では1%水準の偏りが見られ、回答率が最も高いのは20代だった。「革新的で新しいことを起こせる」でも5%水準の偏りが見られ、回答率が最も高いのは30代だった。さらに「市民感覚がある」でも10%水準の有意傾向の偏りが認められ、最も回答率が高いのは30代だった。

投票有無別では、「ビジョンがある」「党首にリーダーシップがある」「組織力やチームワークがある」「行動力がある」「責任感がある」「政策がよく理解できる」は0.1%水準で投票者が非投票者よりも有意に高かった。また、「革新的で新しいことを起こせる」も投票者の方が非投票者よりも1%水準で有意に高かった。また、「あてはまる印象がない」は0.1%

水準で非投票者の方が投票者よりも有意に高かった。

表 5.2.2 選挙後／「自由民主党」の印象（事後問 8） ※複数回答

| 属性等 | 全体 | 男性 | 女性 | 有意水準 | 18-19歳 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 有意水準 | 投票 | 非投票 | 有意水準 |
|----------------|--------|-------|-------|------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|------|--------|-------|------|
| N | 1780.9 | 891.0 | 889.9 | - | 66.0 | 339.1 | 343.7 | 342.5 | 344.8 | 344.8 | - | 1314.0 | 462.1 | - |
| ビジョンがある | 12.9% | 15.3% | 10.6% | ** | 12.9% | 10.5% | 13.4% | 11.7% | 15.3% | 13.7% | n.s. | 15.1% | 6.9% | *** |
| 党首にリーダーシップがある | 31.6% | 32.7% | 30.5% | n.s. | 23.3% | 28.8% | 31.4% | 30.5% | 34.7% | 34.0% | n.s. | 34.1% | 24.7% | *** |
| 好感が持てる | 9.2% | 11.2% | 7.2% | ** | 13.2% | 10.2% | 9.0% | 8.7% | 7.7% | 9.7% | n.s. | 9.8% | 7.5% | n.s. |
| 革新的で新しいことを起こせる | 4.7% | 5.8% | 3.6% | * | 5.6% | 6.1% | 6.4% | 3.4% | 2.0% | 5.3% | * | 5.5% | 2.4% | ** |
| 市民感覚がある | 3.4% | 3.9% | 2.8% | n.s. | 4.2% | 3.4% | 5.4% | 1.0% | 3.3% | 3.7% | † | 3.7% | 2.6% | n.s. |
| 組織力やチームワークがある | 23.1% | 25.0% | 21.3% | † | 15.0% | 15.9% | 21.7% | 23.5% | 26.0% | 30.0% | *** | 26.1% | 15.1% | *** |
| 行動力がある | 22.1% | 23.6% | 20.6% | n.s. | 20.6% | 22.7% | 22.7% | 20.1% | 20.3% | 24.7% | n.s. | 24.8% | 14.5% | *** |
| 責任感がある | 15.2% | 19.8% | 10.7% | *** | 12.5% | 11.9% | 13.4% | 16.1% | 16.3% | 19.0% | n.s. | 17.6% | 8.6% | *** |
| 政策がよく理解できる | 11.3% | 13.8% | 8.7% | *** | 11.1% | 11.9% | 11.7% | 11.4% | 9.0% | 12.3% | n.s. | 13.1% | 6.2% | *** |
| あてはまる印象がない | 40.7% | 39.7% | 41.8% | n.s. | 46.7% | 46.8% | 43.8% | 40.9% | 35.3% | 35.7% | ** | 36.0% | 53.5% | *** |

※ χ^2 検定結果 n.s.:no significant, †:p<0.1, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

「民進党」にあてはまる印象について、選挙前の属性等別（性別、年齢層別、投票有無別）の回答率を示したものが表 5.2.3 である（事前調査問 7）。

全体として、「あてはまる印象がない」（76.8%）の回答が最も多い。さらに、「市民感覚がある」（8.2%）、「革新的で新しいことを起こせる」（4.7%）、「好感が持てる」（3.8%）、「ビジョンがある」（3.6%）、「組織力やチームワークがある」（3.4%）が続いている。

性別では、「ビジョンがある」は1%水準で、女性の方が男性よりも有意に高かった。「好感が持てる」「革新的で新しいことを起こせる」「政策がよく理解できる」については5%水準で男性の方が女性よりも高かった。

年代層別にみると「市民感覚がある」で0.1%水準の有意な偏りがみられ、60代が最も高かった。「あてはまる印象がない」でも0.1%水準の有意な偏りがみとめられ、30代の回答が最も高かった。また、「好感が持てる」「行動力がある」でも10%水準の有意な偏りが認められた。

投票有無別では「好感が持てる」は0.1%水準、「市民感覚がある」は1%水準、「革新的で新しいことを起こせる」は5%水準で投票者が非投票者よりも高かった。また、「責任感がある」でも10%水準で投票者が非投票者よりも高い有意傾向が認められた。また、「あてはまる印象がない」は非投票者の方が投票者よりも1%水準で有意に高かった。

表 5.2.3 選挙前／「民進党」の印象（事前問 7） ※複数回答

| 属性等 | 全体 | 男性 | 女性 | 有意水準 | 18-19歳 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 有意水準 | 投票 | 非投票 | 有意水準 |
|----------------|--------|-------|-------|------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|------|--------|-------|------|
| N | 1735.6 | 877.0 | 858.6 | - | 60.9 | 331.0 | 327.6 | 336.8 | 337.9 | 341.4 | - | 1289.6 | 441.1 | - |
| ビジョンがある | 3.6% | 2.4% | 4.8% | ** | 4.2% | 3.1% | 3.9% | 3.1% | 3.1% | 4.7% | n.s. | 3.7% | 3.3% | n.s. |
| 党首にリーダーシップがある | 1.8% | 1.9% | 1.7% | n.s. | 2.3% | 2.1% | 2.8% | 1.4% | 1.0% | 1.7% | n.s. | 1.7% | 2.1% | n.s. |
| 好感が持てる | 3.8% | 4.7% | 2.9% | * | 1.9% | 3.5% | 1.8% | 3.4% | 4.1% | 6.4% | † | 4.8% | 0.9% | *** |
| 革新的で新しいことを起こせる | 4.7% | 5.9% | 3.5% | * | 4.5% | 3.5% | 4.2% | 4.4% | 5.1% | 6.4% | n.s. | 5.4% | 2.9% | * |
| 市民感覚がある | 8.2% | 8.0% | 8.5% | n.s. | 4.5% | 3.8% | 4.2% | 9.6% | 6.5% | 17.5% | *** | 9.5% | 4.6% | ** |
| 組織力やチームワークがある | 3.4% | 3.0% | 3.7% | n.s. | 1.9% | 4.5% | 3.9% | 4.1% | 1.7% | 3.0% | n.s. | 3.2% | 4.1% | n.s. |
| 行動力がある | 2.8% | 2.4% | 3.2% | n.s. | 7.2% | 2.8% | 2.8% | 4.1% | 1.4% | 2.0% | † | 2.9% | 2.2% | n.s. |
| 責任感がある | 2.0% | 2.1% | 2.0% | n.s. | 4.5% | 1.7% | 1.8% | 2.0% | 0.7% | 3.4% | n.s. | 2.4% | 1.0% | † |
| 政策がよく理解できる | 2.0% | 2.8% | 1.2% | * | 2.3% | 2.1% | 1.4% | 1.4% | 2.4% | 2.7% | n.s. | 2.3% | 1.3% | n.s. |
| あてはまる印象がない | 76.8% | 78.1% | 75.4% | n.s. | 78.5% | 80.6% | 81.4% | 76.1% | 79.3% | 66.7% | *** | 74.9% | 82.1% | ** |

※ χ^2 検定結果 n.s.:no significant, †:p<0.1, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

「民進党」にあてはまる印象について、選挙後の属性等別（性別、年齢層別、投票有無別）の回答率を示したものが表 5.2.4 である（事後調査問 8）。

回答全体で、「あてはまる印象がない」（73.1%）の回答が最も多い結果となった。さらに、「市民感覚がある」（11.1%）、「好感が持てる」（5.6%）、「革新的で新しいことを起こせる」（4.6%）、「組織力やチームワークがある」（4.4%）、「行動力がある」（3.5%）が続く結果となった。

性別では、「あてはまる印象がない」は1%水準で男性の方が女性よりも有意に高かった。一方で、「市民感覚がある」は5%水準で女性の方が男性よりも高かった。また、「党首にリーダーシップがある」「組織力やチームワークがある」についても10%水準で女性の方が男性よりも高い有意傾向が認められた。

年代層別に比較すると、「市民感覚がある」で0.1%水準の有意な偏りがあり60代が最も高かった。「組織力やチームワークがある」も0.1%水準で有意な偏りがあり、30代が最も高い結果となった。「行動力がある」も0.1%水準で有意な偏りがみられ、30代が最も高かった。「あてはまる印象がない」は0.1%水準で有意な偏りがあり、20代が最も高い結果となった。「好感が持てる」も5%水準の偏りがあり、60代が最も高い結果となった。

投票有無別に比較すると、「好感が持てる」「市民感覚がある」は0.1%水準、「革新的で新しいことを起こせる」は1%水準で投票者の方が非投票者よりも高かった。一方で、「あてはまる印象がない」については0.1%水準で非投票者の方が投票者よりも有意に高かった。

表 5.2.4 選挙後／「民進党」の印象（事後問 8） ※複数回答

| 属性等 | 全体 | 男性 | 女性 | 有意水準 | 18-19歳 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 有意水準 | 投票 | 非投票 | 有意水準 |
|----------------|--------|-------|-------|------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|------|--------|-------|------|
| N | 1767.8 | 886.2 | 881.6 | - | 64.4 | 334.5 | 342.5 | 341.4 | 342.5 | 342.5 | - | 1307.8 | 455.2 | - |
| ビジョンがある | 3.3% | 2.9% | 3.7% | n.s. | 6.1% | 3.4% | 4.4% | 2.4% | 2.0% | 3.7% | n.s. | 3.3% | 3.4% | n.s. |
| 党首にリーダーシップがある | 3.1% | 2.3% | 3.8% | † | 3.6% | 3.8% | 4.0% | 2.4% | 2.3% | 2.7% | n.s. | 3.0% | 3.2% | n.s. |
| 好感が持てる | 5.6% | 6.0% | 5.2% | n.s. | 6.1% | 3.4% | 4.4% | 4.0% | 7.0% | 9.1% | * | 6.8% | 2.2% | *** |
| 革新的で新しいことを起こせる | 4.6% | 5.1% | 4.1% | n.s. | 4.6% | 3.4% | 3.0% | 5.1% | 4.7% | 6.7% | n.s. | 5.5% | 2.0% | ** |
| 市民感覚がある | 11.1% | 9.3% | 12.9% | * | 2.9% | 6.5% | 7.4% | 9.8% | 12.1% | 21.1% | *** | 12.9% | 6.1% | *** |
| 組織力やチームワークがある | 4.4% | 3.6% | 5.2% | † | 5.0% | 5.8% | 8.1% | 3.0% | 1.7% | 3.4% | *** | 4.1% | 5.4% | n.s. |
| 行動力がある | 3.5% | 3.2% | 3.8% | n.s. | 5.7% | 3.4% | 6.0% | 2.0% | 0.3% | 5.0% | *** | 3.5% | 3.3% | n.s. |
| 責任感がある | 2.3% | 2.4% | 2.2% | n.s. | 3.9% | 2.4% | 2.7% | 1.7% | 1.0% | 3.4% | n.s. | 2.4% | 1.9% | n.s. |
| 政策がよく理解できる | 3.4% | 3.1% | 3.7% | n.s. | 5.4% | 3.8% | 3.7% | 3.0% | 2.0% | 4.0% | n.s. | 3.7% | 2.6% | n.s. |
| あてはまる印象がない | 73.1% | 76.2% | 70.0% | ** | 70.4% | 77.7% | 77.2% | 75.4% | 72.1% | 63.8% | *** | 70.8% | 79.5% | *** |

※ χ^2 検定結果 n.s.:no significant, †:p<0.1, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

「公明党」にあてはまる印象について、選挙前の属性等別（性別、年齢層別、投票有無別）の回答率を示したものが表 5.2.5 である（事前調査問 7）。

回答全体で、「あてはまる印象がない」（69.5%）の回答が最も多い。「組織力やチームワークがある」（17.2%）、「市民感覚がある」（7.3%）、「ビジョンがある」（4.6%）、「党首にリーダーシップがある」（3.8%）、「行動力がある」（3.7%）が続いている。

性別の比較では統計的に有意な違いはみられなかった。

年代層別の比較では、「組織力やチームワークがある」で 0.1%水準、「市民感覚がある」で 1%水準の偏りがみられた。最も高かったのは 60 代だった。「あてはまる印象がない」も 0.1%水準の偏りがみられた。18-19 歳が最も高い結果となった。

投票有無では「市民感覚がある」「組織力やチームワークがある」は 0.1%水準、「党首にリーダーシップがある」「行動力がある」「責任感がある」は 1%水準、「ビジョンがある」「好感が持てる」「政策がよく理解できる」は 5%水準で投票者の方が非投票者よりも有意に高かった。また、「あてはまる印象がない」は 0.1%水準で非投票者の方が投票者よりも高かった。

表 5.2.5 選挙前／「公明党」の印象（事前問 7） ※複数回答

| 属性等 | 全体 | 男性 | 女性 | 有意水準 | 18-19歳 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 有意水準 | 投票 | 非投票 | 有意水準 |
|----------------|--------|-------|-------|------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|------|--------|-------|------|
| N | 1762.0 | 884.1 | 877.9 | - | 64.4 | 337.9 | 340.2 | 337.9 | 341.4 | 340.2 | - | 1299.5 | 457.7 | - |
| ビジョンがある | 4.6% | 4.6% | 4.6% | n.s. | 2.5% | 5.1% | 4.7% | 3.1% | 5.1% | 5.4% | n.s. | 5.2% | 2.9% | * |
| 党首にリーダーシップがある | 3.8% | 3.9% | 3.6% | n.s. | 2.9% | 3.7% | 3.4% | 2.4% | 5.1% | 4.4% | n.s. | 4.5% | 1.6% | ** |
| 好感が持てる | 2.5% | 2.7% | 2.3% | n.s. | 2.1% | 1.7% | 1.4% | 2.7% | 2.4% | 4.4% | n.s. | 3.1% | 0.9% | * |
| 革新的で新しいことを起こせる | 1.5% | 1.5% | 1.5% | n.s. | 3.2% | 2.7% | 1.7% | 1.0% | 1.0% | 0.7% | n.s. | 1.4% | 1.7% | n.s. |
| 市民感覚がある | 7.3% | 7.3% | 7.4% | n.s. | 2.9% | 4.1% | 5.7% | 9.5% | 6.7% | 11.5% | ** | 8.7% | 3.7% | *** |
| 組織力やチームワークがある | 17.2% | 17.5% | 16.8% | n.s. | 3.9% | 9.9% | 12.5% | 20.1% | 19.9% | 26.0% | *** | 19.8% | 9.9% | *** |
| 行動力がある | 3.7% | 4.0% | 3.5% | n.s. | 5.7% | 3.7% | 4.4% | 4.4% | 1.7% | 4.1% | n.s. | 4.5% | 1.7% | ** |
| 責任感がある | 3.2% | 3.6% | 2.9% | n.s. | 2.9% | 1.7% | 3.0% | 3.4% | 4.0% | 4.1% | n.s. | 4.0% | 1.2% | ** |
| 政策がよく理解できる | 2.8% | 3.2% | 2.5% | n.s. | 2.9% | 2.0% | 3.0% | 2.0% | 2.7% | 4.4% | n.s. | 3.4% | 1.4% | * |
| あてはまる印象がない | 69.5% | 69.2% | 69.8% | n.s. | 78.6% | 77.2% | 76.7% | 65.6% | 66.7% | 59.8% | *** | 65.8% | 79.8% | *** |

※ χ^2 検定結果 n.s.:no significant, †:p<0.1, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

「公明党」にあてはまる印象について、選挙後の属性等別（性別、年齢層別、投票有無別）の回答率を示したものが表 5.2.6 である（事後調査問 8）。

回答全体では、「あてはまる印象がない」（66.2％）の回答が最も多かった。続いて「組織力やチームワークがある」（19.5％）、「市民感覚がある」（6.9％）、「行動力がある」（4.8％）、「ビジョンがある」（4.6％）、「責任感がある」（4.4％）が続いている。

性別の比較では、「好感が持てる」「責任感がある」で男性の方が女性よりも高い 10％水準の有意傾向がみられた。

年代層別の比較では、「組織力やチームワークがある」で 0.1％水準の偏りがみられた。最も高かったのは 60 代だった。「あてはまる印象がない」も 0.1％水準の偏りがみられ、20 代が最も高い結果となった。「ビジョンがある」でも 5％水準の偏りがみとめられた。30 代が最も高かった。「革新的で新しいことが起こせる」でも偏りに 10％の有意傾向がみられた。最も高いのは 18-19 歳だった。

投票有無についてみると、「組織力やチームワークがある」「責任感がある」は 0.1％水準、「市民感覚がある」は 1％水準、「好感が持てる」「行動力がある」は 5％水準で、投票者の方が非投票者よりも高かった。また、「ビジョンがある」「党首にリーダーシップがある」についても、10％水準で投票者の方が非投票者よりも高い有意傾向が認められた。また、「あてはまる印象がない」については、非投票者の方が投票者よりも 0.1％水準で高かった。

表 5.2.6 選挙後／「公明党」の印象（事後問 8） ※複数回答

| 属性等 | 全体 | 男性 | 女性 | 有意水準 | 18-19歳 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 有意水準 | 投票 | 非投票 | 有意水準 |
|----------------|--------|-------|-------|------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|------|--------|-------|------|
| N | 1771.2 | 888.7 | 882.5 | - | 65.5 | 337.9 | 340.2 | 343.7 | 340.2 | 343.7 | - | 1304.3 | 462.1 | - |
| ビジョンがある | 4.6% | 3.8% | 5.3% | n.s. | 5.6% | 2.0% | 7.8% | 4.0% | 4.7% | 4.0% | * | 5.1% | 3.1% | † |
| 党首にリーダーシップがある | 4.0% | 4.1% | 3.9% | n.s. | 3.9% | 3.7% | 6.4% | 2.7% | 3.0% | 4.3% | n.s. | 4.5% | 2.7% | † |
| 好感が持てる | 4.0% | 4.8% | 3.2% | † | 6.3% | 5.4% | 3.4% | 3.0% | 3.4% | 4.3% | n.s. | 4.6% | 2.2% | * |
| 革新的で新しいことを起こせる | 2.3% | 2.6% | 1.9% | n.s. | 4.9% | 3.7% | 3.0% | 1.7% | 1.0% | 1.3% | † | 2.5% | 1.6% | n.s. |
| 市民感覚がある | 6.9% | 7.7% | 6.1% | n.s. | 1.8% | 4.8% | 7.1% | 6.4% | 8.1% | 9.0% | n.s. | 7.9% | 4.0% | ** |
| 組織力やチームワークがある | 19.5% | 19.7% | 19.4% | n.s. | 7.0% | 11.2% | 19.6% | 19.4% | 21.6% | 28.1% | *** | 22.5% | 11.2% | *** |
| 行動力がある | 4.8% | 5.4% | 4.1% | n.s. | 5.6% | 5.8% | 6.1% | 2.7% | 3.0% | 6.0% | n.s. | 5.4% | 2.9% | * |
| 責任感がある | 4.4% | 5.3% | 3.5% | † | 4.6% | 3.7% | 4.1% | 3.0% | 5.4% | 5.7% | n.s. | 5.4% | 1.6% | *** |
| 政策がよく理解できる | 3.6% | 4.3% | 2.9% | n.s. | 2.8% | 3.7% | 4.4% | 3.7% | 3.0% | 3.3% | n.s. | 4.3% | 1.6% | ** |
| あてはまる印象がない | 66.2% | 65.8% | 66.6% | n.s. | 71.9% | 73.8% | 66.6% | 68.6% | 63.9% | 57.2% | *** | 62.3% | 76.9% | *** |

※ χ^2 検定結果 n.s.:no significant, †:p<0.1, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

「日本共産党」にあてはまる印象について、選挙前の属性等別（性別、年齢層別、投票有無別）の回答率を示したものが表 5.2.7 である（事前調査問 7）。

回答全体として、「あてはまる印象がない」（66.6%）の回答が最も多かった。続いて「組織力やチームワークがある」（11.3%）、「市民感覚がある」（9.8%）、「ビジョンがある」（8.4%）、「革新的で新しいことを起こせる」（5.3%）、「政策がよく理解できる」（4.4%）が続いている。

性別で比較すると、「革新的で新しいことを起こせる」は男性の方が女性よりも 5%水準で有意に高かった。一方、「ビジョンがある」については 10%水準で女性の方が男性よりも高い有意傾向がみられた。

年齢層別で比較すると、「ビジョンがある」「革新的で新しいことを起こせる」「市民感覚がある」について 0.1%水準で有意な偏りがみられた。いずれも 60代が最も高かった。また、「組織力やチームワークがある」でも 0.1%水準の有意な偏りがみられ、最も高いのは 50代だった。「あてはまる印象がない」についても 0.1%水準の有意な偏りがみられ、最も高いのは 18-19歳だった。

投票有無で比較すると、「市民感覚がある」は 0.1%、「ビジョンがある」「組織力やチームワークがある」は 1%、「党首にリーダーシップがある」「好感が持てる」「革新的で新しいことを起こせる」「行動力がある」は 5%水準で投票者が非投票者よりも有意に高かった。また、「あてはまる印象がない」は 0.1%水準で非投票者の方が投票者よりも高かった。

表 5.2.7 選挙前／「日本共産党」の印象（事前問7） ※複数回答

| 属性等 | 全体 | 男性 | 女性 | 有意水準 | 18-19歳 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 有意水準 | 投票 | 非投票 | 有意水準 |
|----------------|--------|-------|-------|------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|------|--------|-------|------|
| N | 1748.0 | 875.6 | 872.4 | - | 64.1 | 331.0 | 334.5 | 335.6 | 341.4 | 341.4 | - | 1293.8 | 449.4 | - |
| ビジョンがある | 8.4% | 7.3% | 9.6% | † | 4.3% | 5.9% | 7.2% | 6.5% | 8.8% | 14.5% | *** | 9.6% | 5.1% | ** |
| 党首にリーダーシップがある | 4.1% | 4.6% | 3.6% | n.s. | 4.7% | 3.1% | 3.1% | 4.1% | 4.0% | 6.1% | n.s. | 4.7% | 2.2% | * |
| 好感が持てる | 3.4% | 3.4% | 3.3% | n.s. | 1.8% | 3.1% | 3.1% | 3.4% | 2.0% | 5.4% | n.s. | 3.9% | 1.5% | * |
| 革新的で新しいことを起こせる | 5.3% | 6.5% | 4.1% | * | 4.7% | 3.1% | 2.7% | 5.1% | 5.1% | 10.4% | *** | 5.9% | 3.3% | * |
| 市民感覚がある | 9.8% | 9.5% | 10.1% | n.s. | 4.7% | 4.5% | 6.9% | 9.2% | 12.5% | 16.8% | *** | 11.5% | 4.7% | *** |
| 組織力やチームワークがある | 11.3% | 11.2% | 11.4% | n.s. | 3.6% | 6.2% | 7.2% | 13.0% | 15.8% | 15.5% | *** | 12.7% | 7.1% | ** |
| 行動力がある | 4.2% | 4.7% | 3.7% | n.s. | 2.2% | 4.5% | 3.8% | 3.8% | 3.0% | 6.4% | n.s. | 4.8% | 2.3% | * |
| 責任感がある | 2.8% | 3.1% | 2.6% | n.s. | 3.9% | 3.1% | 2.4% | 2.7% | 3.0% | 2.7% | n.s. | 3.2% | 1.7% | n.s. |
| 政策がよく理解できる | 4.4% | 4.4% | 4.4% | n.s. | 2.9% | 3.5% | 3.8% | 4.1% | 3.7% | 7.1% | n.s. | 4.6% | 3.5% | n.s. |
| あてはまる印象がない | 66.6% | 66.7% | 66.5% | n.s. | 79.2% | 77.4% | 76.6% | 66.1% | 63.3% | 47.8% | *** | 63.0% | 77.2% | *** |

※ χ^2 検定結果 n.s.:no significant, †:p<0.1, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

「日本共産党」にあてはまる印象について、選挙後の属性等別（性別、年齢層別、投票有無別）の回答率を示したものが表 5.2.8 である（事後調査問 8）。

回答全体として、「あてはまる印象がない」（65.0%）の回答が最も多い。「組織力やチームワークがある」（11.7%）、「市民感覚がある」（10.8%）、「ビジョンがある」（7.4%）、「政策がよく理解できる」（6.0%）、「革新的で新しいことを起こせる」（4.8%）が続いている。

性別で比較すると統計的な有意差は認められなかった。

年齢層別で比較すると、「ビジョンがある」「革新的で新しいことを起こせる」「市民感覚がある」「組織力やチームワークがある」で 0.1%水準、「行動力がある」で 1%水準の有意な偏りがみられた。いずれも 60 代が最も高かった。また、「責任感がある」で 10%水準の偏りの有意傾向がみられた。最も高いのは 60 代だった。「あてはまる印象がない」についても 0.1%水準の有意な偏りがみられ、最も高いのは 18-19 歳だった。

投票有無で比較すると、「市民感覚がある」「組織力やチームワークがある」「政策がよく理解できる」は 0.1%、「好感が持てる」「革新的で新しいことを起こせる」「行動力がある」「責任感がある」は 1%、「ビジョンがある」「党首にリーダーシップがある」は 5%水準で投票者が非投票者よりも有意に高かった。また、「あてはまる印象がない」は 0.1%水準で非投票者の方が投票者よりも高かった。

表 5.2.8 選挙後／「日本共産党」の印象（事後問 8） ※複数回答

| 属性等 | 全体 | 男性 | 女性 | 有意水準 | 18-19歳 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 有意水準 | 投票 | 非投票 | 有意水準 |
|----------------|--------|-------|-------|------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|------|--------|-------|------|
| N | 1755.8 | 879.1 | 876.8 | - | 65.1 | 331.0 | 339.1 | 341.4 | 337.9 | 341.4 | - | 1295.8 | 455.2 | - |
| ビジョンがある | 7.4% | 6.5% | 8.4% | n.s. | 3.9% | 2.4% | 6.4% | 7.7% | 9.5% | 11.4% | *** | 8.3% | 4.7% | * |
| 党首にリーダーシップがある | 4.4% | 3.9% | 4.8% | n.s. | 2.8% | 4.5% | 2.4% | 4.7% | 3.7% | 6.7% | n.s. | 5.0% | 2.4% | * |
| 好感が持てる | 4.3% | 5.0% | 3.7% | n.s. | 5.7% | 5.2% | 3.4% | 3.0% | 3.7% | 6.1% | n.s. | 5.2% | 1.7% | ** |
| 革新的で新しいことを起こせる | 4.8% | 5.0% | 4.5% | n.s. | 5.7% | 3.1% | 2.7% | 3.7% | 4.4% | 9.8% | *** | 5.7% | 2.0% | ** |
| 市民感覚がある | 10.8% | 10.4% | 11.3% | n.s. | 2.8% | 4.5% | 10.5% | 9.1% | 11.9% | 19.5% | *** | 12.7% | 5.2% | *** |
| 組織力やチームワークがある | 11.7% | 12.0% | 11.4% | n.s. | 3.9% | 7.3% | 9.8% | 14.8% | 11.6% | 16.2% | *** | 13.2% | 7.2% | *** |
| 行動力がある | 4.0% | 4.6% | 3.3% | n.s. | 2.5% | 3.1% | 3.1% | 2.0% | 4.1% | 7.7% | ** | 4.6% | 1.9% | ** |
| 責任感がある | 3.9% | 3.6% | 4.2% | n.s. | 3.9% | 3.1% | 3.1% | 2.0% | 5.1% | 6.1% | † | 4.6% | 1.5% | ** |
| 政策がよく理解できる | 6.0% | 5.8% | 6.3% | n.s. | 4.2% | 3.5% | 5.8% | 6.7% | 6.5% | 8.1% | n.s. | 7.2% | 2.7% | *** |
| あてはまる印象がない | 65.0% | 66.2% | 63.7% | n.s. | 77.0% | 76.7% | 69.8% | 67.0% | 62.9% | 46.5% | *** | 60.1% | 79.0% | *** |

※ χ^2 検定結果 n.s.:no significant, †:p<0.1, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

「おおさか維新の会」にあてはまる印象について、選挙前の属性等別（性別、年齢層別、投票有無別）の回答率を示したものが表 5.2.9 である（事前調査問 7）。

回答全体では、「あてはまる印象がない」（58.6%）が最も多い。続いて「革新的で新しいことを起こせる」（19.0%）、「行動力がある」（12.5%）、「市民感覚がある」（10.3%）、「ビジョンがある」（8.5%）、「好感が持てる」（6.1%）の順番となった。

性別に比較すると「ビジョンがある」「好感が持てる」は 0.1%水準、「責任感がある」は 1%水準、「政策がよく理解できる」は 5%水準で有意に男性が女性よりも高かった。

年齢層別に比較すると、「革新的で新しいことを起こせる」は 0.1%水準、「市民感覚がある」は 1%水準で有意な偏りが認められた。いずれも 60代が最も高かった。また、「好感が持てる」については 10%水準で偏りに有意傾向が認められ、60代が最も高かった。「責任感がある」は 5%水準で有意な偏りがあり、40代が最も高かった。

投票有無については、「ビジョンがある」「市民感覚がある」は 0.1%水準、「好感が持てる」は 1%水準、「革新的で新しいことを起こせる」「組織力やチームワークがある」は 5%水準で有意に投票者が非投票者よりも高かった。また、「責任感がある」については 10%水準で投票者が非投票者よりも高い有意傾向が認められた。「あてはまる印象がない」については、0.1%水準で非投票者の方が投票者よりも高かった。

表 5.2.9 選挙前／「おおさか維新の会」の印象（事前問7） ※複数回答

| 属性等 | 全体 | 男性 | 女性 | 有意水準 | 18-19歳 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 有意水準 | 投票 | 非投票 | 有意水準 |
|----------------|--------|-------|-------|------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|------|--------|-------|------|
| N | 1737.9 | 878.6 | 859.3 | - | 62.1 | 326.4 | 328.7 | 340.2 | 340.2 | 340.2 | - | 1287.8 | 445.3 | - |
| ビジョンがある | 8.5% | 10.7% | 6.2% | *** | 6.7% | 7.0% | 8.7% | 8.8% | 6.4% | 11.8% | n.s. | 10.0% | 4.2% | *** |
| 党首にリーダーシップがある | 5.5% | 6.1% | 4.9% | n.s. | 7.8% | 5.3% | 4.5% | 7.1% | 4.7% | 5.4% | n.s. | 5.9% | 4.4% | n.s. |
| 好感が持てる | 6.1% | 8.4% | 3.9% | *** | 5.2% | 7.0% | 4.9% | 4.1% | 5.4% | 9.5% | † | 7.1% | 3.5% | ** |
| 革新的で新しいことを起こせる | 19.0% | 19.1% | 18.9% | n.s. | 11.5% | 12.0% | 17.1% | 22.6% | 20.3% | 24.0% | *** | 20.3% | 15.3% | * |
| 市民感覚がある | 10.3% | 11.1% | 9.5% | n.s. | 6.3% | 7.7% | 8.4% | 10.8% | 8.4% | 16.6% | ** | 11.7% | 6.2% | *** |
| 組織力やチームワークがある | 4.0% | 4.7% | 3.3% | n.s. | 4.8% | 3.9% | 2.4% | 5.1% | 3.4% | 5.1% | n.s. | 4.6% | 2.4% | * |
| 行動力がある | 12.5% | 13.8% | 11.2% | n.s. | 10.4% | 14.4% | 10.8% | 9.8% | 12.8% | 14.9% | n.s. | 13.0% | 10.9% | n.s. |
| 責任感がある | 3.2% | 4.4% | 2.0% | ** | 3.0% | 3.9% | 3.1% | 5.7% | 0.7% | 2.7% | * | 3.7% | 1.9% | † |
| 政策がよく理解できる | 3.8% | 4.8% | 2.8% | * | 3.3% | 3.9% | 3.1% | 4.7% | 2.7% | 4.7% | n.s. | 4.1% | 2.9% | n.s. |
| あてはまる印象がない | 58.6% | 58.3% | 59.0% | n.s. | 65.9% | 68.3% | 63.6% | 57.4% | 58.4% | 44.6% | *** | 56.1% | 65.5% | *** |

※ χ^2 検定結果 n.s.:no significant, †:p<0.1, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

「おおさか維新の会」にあてはまる印象について、選挙後の属性等別（性別、年齢層別、投票有無別）の回答率を示したものが表 5.2.10 である（事後調査問 8）。

回答全体で、「あてはまる印象がない」（54.0%）が最も多い結果となった。続いて「革新的で新しいことを起こせる」（20.2%）、「行動力がある」（13.8%）、「市民感覚がある」（12.0%）、「ビジョンがある」（10.8%）、「好感が持てる」（7.3%）の順番となった。

性別に比較すると「ビジョンがある」は 0.1%水準、「政策がよく理解できる」は 1%水準、「好感が持てる」「責任感がある」は 1%水準で有意に男性が女性よりも高かった。また、「組織力やチームワークがある」は 10%水準で男性が女性よりも高い有意傾向がみられた。

年齢層別に比較すると、「革新的で新しいことを起こせる」は 0.1%水準、「好感が持てる」「市民感覚がある」は 1%水準で有意な偏りが認められた。いずれも 60代が最も高かった。また、「あてはまる印象がない」については 0.1%水準で有意な偏りがあり、18-19歳が最も高かった。

投票有無については、「政策がよく理解できる」は 0.1%水準、「好感が持てる」「革新的で新しいことを起こせる」「市民感覚がある」「組織力やチームワークがある」は 1%水準、「ビジョンがある」「党首にリーダーシップがある」「責任感がある」は 5%水準で有意に投票者が非投票者よりも高かった。また、「行動力がある」については 10%水準で投票者が非投票者よりも高い有意傾向が認められた。「あてはまる印象がない」については、0.1%水準で非投票者の方が投票者よりも高かった。

表 5.2.10 選挙後／「おおさか維新の会」の印象（事後問 8） ※複数回答

| 属性等 | 全体 | 男性 | 女性 | 有意水準 | 18-19歳 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 有意水準 | 投票 | 非投票 | 有意水準 |
|----------------|--------|-------|-------|------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|------|--------|-------|------|
| N | 1748.0 | 877.7 | 870.3 | - | 64.1 | 324.1 | 336.8 | 343.7 | 337.9 | 341.4 | - | 1298.6 | 444.6 | - |
| ビジョンがある | 10.8% | 14.2% | 7.3% | *** | 9.0% | 9.6% | 9.9% | 11.0% | 10.5% | 13.1% | n.s. | 11.9% | 7.5% | * |
| 党首にリーダーシップがある | 7.1% | 7.6% | 6.5% | n.s. | 7.9% | 7.4% | 7.5% | 8.0% | 5.1% | 7.1% | n.s. | 7.9% | 4.7% | * |
| 好感が持てる | 7.3% | 8.7% | 5.8% | * | 6.8% | 5.7% | 5.1% | 8.0% | 5.8% | 11.8% | ** | 8.5% | 3.9% | ** |
| 革新的で新しいことを起こせる | 20.2% | 21.0% | 19.5% | n.s. | 12.2% | 14.9% | 15.7% | 24.4% | 21.1% | 26.3% | *** | 22.0% | 15.0% | ** |
| 市民感覚がある | 12.0% | 12.5% | 11.5% | n.s. | 6.8% | 10.6% | 9.6% | 11.7% | 10.5% | 18.5% | ** | 13.3% | 8.4% | ** |
| 組織力やチームワークがある | 4.4% | 5.2% | 3.6% | † | 2.2% | 6.0% | 3.8% | 4.0% | 4.1% | 4.7% | n.s. | 5.3% | 1.9% | ** |
| 行動力がある | 13.8% | 13.5% | 14.1% | n.s. | 12.9% | 12.8% | 13.7% | 13.0% | 12.9% | 16.8% | n.s. | 14.7% | 11.5% | † |
| 責任感がある | 4.3% | 5.3% | 3.2% | * | 5.4% | 6.0% | 2.7% | 5.4% | 2.7% | 4.4% | n.s. | 5.0% | 2.2% | * |
| 政策がよく理解できる | 5.9% | 7.8% | 4.1% | ** | 5.4% | 5.3% | 3.4% | 6.7% | 6.1% | 8.1% | n.s. | 7.2% | 2.1% | *** |
| あてはまる印象がない | 54.0% | 52.2% | 55.7% | n.s. | 62.4% | 62.1% | 61.1% | 49.8% | 52.7% | 43.1% | *** | 50.4% | 64.3% | *** |

※ χ^2 検定結果 n.s.:no significant, †:p<0.1, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

上記から、いずれの政党についても「あてはまる印象がない」と答える回答が多く、明確なイメージを形成出来ていない有権者が多数存在している状況が明らかになった。また、「自由民主党」については「党首のリーダーシップ」、「民進党」は「市民感覚」、「公明党」は「組織力やチームワーク」など政党ごとの特徴が存在するものの、選挙期間を通じてあまり変化していないことも明らかになった。

6. 選挙年齢引き下げへの評価

事前調査(問 13) と事後調査(問 23) で、選挙権連嶺が万 18 歳以下に引き下げられたことについての評価を質問している。表 6.1(事前調査)、表 6.2(事後調査) は、各項目について「そう思う」と「まあそう思う」の回答比率の合計(つまり「そう思う」と答えた比率)を示したものである。

また、男性/女性、年齢層別、投票した/しなかったの各カテゴリーと、「そう思う/そう思わない」の 2 値とのクロス集計結果および χ^2 自乗検定結果、残差分析の結果を示した。

表 6.1 選挙年齢引き下げに対する評価(事前調査、単位:%)

| | N | 全体 | 男性 | 女性 | ※ | 18-19 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | ※ | 投票 | 非投票 | ※ |
|-------------------------------------|------|------|------|------|-----|-------|------|------|------|------|------|-----|------|------|-----|
| 若い世代の政治的関心の高まりが期待できる | 1791 | 54.0 | 55.9 | 52.0 | ns | 49.5 | 44.0 | 50.7 | 52.3 | 58.7 | 65.0 | *** | 58.7 | 40.5 | *** |
| 若い世代の意見が政治に反映されやすくなった | 1791 | 51.6 | 53.7 | 49.5 | ns | 52.9 | 42.3 | 46.0 | 47.3 | 57.3 | 64.7 | *** | 53.7 | 45.8 | ** |
| 若い世代は投票に行かないから何も変わらない | 1791 | 48.8 | 47.7 | 49.9 | ns | 54.6 | 57.0 | 55.7 | 45.7 | 41.7 | 43.0 | *** | 47.2 | 53.3 | * |
| 20歳未満は的確な政治的判断ができないから評価できない | 1791 | 35.6 | 33.1 | 38.1 | * | 36.1 | 39.7 | 36.7 | 34.3 | 31.3 | 36.0 | ns | 33.3 | 42.0 | *** |
| 全般的にみて、選挙権年齢が満18歳以上に引き下げられたことは評価できる | 1791 | 60.0 | 66.0 | 54.0 | *** | 62.9 | 54.0 | 56.0 | 55.7 | 65.0 | 68.7 | *** | 64.5 | 47.1 | *** |

※各属性×[そう思う/そう思わない]のクロス集計の χ^2 検定結果

ns:no significant, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

数値が太字のものは、残差分析の結果 5%水準(両側検定)で高い、赤字は低いことを示す。

表 6.2 選挙年齢引き下げに対する評価(事後調査、単位:%)

| | N | 全体 | 男性 | 女性 | ※ | 18-19 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | ※ | 投票 | 非投票 | ※ |
|-------------------------------------|------|------|------|------|----|-------|------|------|------|------|------|----|------|------|-----|
| 若い世代の政治的関心の高まりが期待できる | 1791 | 57.6 | 57.7 | 57.5 | ns | 56.7 | 52.3 | 52.3 | 59.3 | 63.3 | 61.0 | * | 61.0 | 48.3 | *** |
| 若い世代の意見が政治に反映されやすくなった | 1791 | 57.1 | 55.5 | 58.8 | ns | 55.7 | 51.3 | 52.0 | 58.7 | 62.3 | 61.7 | ** | 59.1 | 51.3 | ** |
| 若い世代は投票に行かないから何も変わらない | 1791 | 45.8 | 47.3 | 44.4 | ns | 49.8 | 52.7 | 47.3 | 43.7 | 41.3 | 43.3 | * | 45.3 | 47.1 | ns |
| 20歳未満は的確な政治的判断ができないから評価できない | 1791 | 35.0 | 35.4 | 34.6 | ns | 36.1 | 37.7 | 35.3 | 39.3 | 29.0 | 33.3 | ns | 33.2 | 40.0 | ** |
| 全般的にみて、選挙権年齢が満18歳以上に引き下げられたことは評価できる | 1791 | 64.4 | 66.1 | 62.8 | ns | 65.6 | 58.0 | 58.3 | 68.3 | 69.0 | 68.3 | ** | 70.2 | 48.5 | *** |

※各属性×[そう思う/そう思わない]のクロス集計の χ^2 検定結果

ns:no significant, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

数値が太字のものは、残差分析の結果 5%水準(両側検定)で高い、赤字は低いことを示す。

全体では、「全般的にみて、選挙権年齢が満 18 歳以上に引き下げられたことは評価できる」に対し、「そう思う」と答えた人が事前調査で 60.0%、事後調査で 64.4%であり、3 分の 2 の人が評価しており、選挙期間を通じて、やや数値が向上している。

「若い世代の政治的関心の高まりが期待できる」「若い世代の意見が政治に反映されやすくなった」についても、過半数の人が「そう思う」と答えており、それぞれ事前の 54.0%、51.6%から事後の 57.6%、57.1%へと数値がやや向上している。

「若い世代は投票に行かないから何も変わらない」「20歳未満は的確な政治的判断ができないから評価できない」というネガティブな項目については、「そう思う」と答えた人の比率は半数以下である。

男女別では、事前調査において「20歳未満は的確な政治的判断ができないから評価できない」と答えた人が女性に多く、また「全般的にみて、選挙権年齢が満18歳以上に引き下げられたことは評価できる」と答えた人は男性の方が有意に多い。事後調査では有意差は消えている。

年齢層別には、事前、事後とも「若い世代の政治的関心の高まりが期待できる」「若い世代の意見が政治に反映されやすくなった」の2項目において、50代60代で「そう思う」と答えた人の比率が高く、20代30代において低い。10代は事後調査で全体平均に近い回答率である。

「若い世代は投票に行かないから何も変わらない」というネガティブな項目については、20代30代が「そう思う」と答える比率が高く、50代60代は「そう思わない」人が多い。10代については、事前調査では54.6%の人が「そう思う」と答えていたが、事後調査ではその比率が49.8%とやや低下している。いずれも20代と並び、10代は比較的批判的な見方をしている。

「全般的にみて、選挙権年齢が満18歳以上に引き下げられたことは評価できる」については、事前事後とも50代60代が肯定的に評価をしており、20代は「そう思う」と答えた人の比率が他の年齢層より低い。10代は事前事後とも全体平均に近い肯定率である。

投票の有無別では、事前事後とも、投票に行った人が肯定的項目について「そう思う」と答える比率が高く、逆に否定的項目では低い。

7. メディアの信頼性・公正性・正確性評価

本章では、各メディアに対する、調査対象者の信頼性・公正性・正確性評価について分析する。表 7.1.1 の表側に示した 4 つのメディアについて、その信頼性・公正性・正確性を、「非常に信頼できる」（「非常に公正である」「非常に正確である」）から「まったく信頼できない」（「まったく公正でない」「まったく正確でない」）までの 5 件法で尋ねた（事後問 20～22）。「信頼できる」（「公正である」「正確である」）と答えた人の比率を、性別・投票有無別に示したのが、以下の表 7.1.1、表 7.1.2、表 7.1.3 である。

表 7.1.1 メディアの信頼性評価（「非常に信頼できる」+「ある程度信頼できる」の比率）
〈性別・投票有無別〉

| | 全体 N=1,791.0 | 性別 | | | 投票・非投票 | | |
|------------------|-----------------|---------------|---------------|------|-----------------|----------------|-----|
| | | 男性 N=896.1 | 女性 N=894.9 | 有意差 | 投票 N=1,315.4 | 非投票 N=470.8 | 有意差 |
| | | | | | | | |
| テレビニュース | 51.3 | 47.1 | 55.5 | *** | 54.5 | 42.6 | *** |
| 新聞 | 51.6 | 48.3 | 54.9 | ** | 55.2 | 41.9 | *** |
| インターネット上のニュースサイト | 32.9 | 33.3 | 32.6 | n.s. | 36.5 | 23.0 | *** |
| ソーシャルメディア上のニュース | 16.9 | 16.6 | 17.2 | n.s. | 19.5 | 9.7 | *** |

有意差： χ^2 検定の結果。***:p<.001 **:p<.01 n.s.:有意差なし

他群より 5%水準で有意に大きい値は黒・太字で示している。

表 7.1.2 メディアの公正性評価（「非常に公正である」+「ある程度公正である」の比率）
〈性別・投票有無別〉

| | 全体 N=1,791.0 | 性別 | | | 投票・非投票 | | |
|------------------|-----------------|---------------|---------------|------|-----------------|----------------|-----|
| | | 男性 N=896.1 | 女性 N=894.9 | 有意差 | 投票 N=1,315.4 | 非投票 N=470.8 | 有意差 |
| | | | | | | | |
| テレビニュース | 37.8 | 35.1 | 40.5 | * | 39.8 | 32.5 | ** |
| 新聞 | 37.7 | 34.9 | 40.6 | * | 40.4 | 30.8 | *** |
| インターネット上のニュースサイト | 24.7 | 25.3 | 24.0 | n.s. | 27.4 | 17.1 | *** |
| ソーシャルメディア上のニュース | 13.9 | 14.2 | 13.7 | n.s. | 15.7 | 9.0 | *** |

有意差： χ^2 検定の結果。***:p<.001 **:p<.01 *:p<.05 n.s.:有意差なし

他群より 5%水準で有意に大きい値は黒・太字で示している。

表 7.1.3 メディアの正確性評価（「非常に正確である」+「ある程度正確である」の比率）
 〈性別・投票有無別〉

| | 全体 N=1,791.0 | 性別 | | | 投票・非投票 | | |
|------------------|-----------------|---------------|---------------|------|-----------------|----------------|-----|
| | | 男性 N=896.1 | 女性 N=894.9 | 有意差 | 投票 N=1,315.4 | 非投票 N=470.8 | 有意差 |
| | | | | | | | |
| テレビニュース | 47.3 | 43.8 | 50.8 | ** | 50.0 | 40.4 | *** |
| 新聞 | 47.9 | 44.4 | 51.4 | ** | 50.7 | 40.7 | *** |
| インターネット上のニュースサイト | 27.5 | 26.6 | 28.4 | n.s. | 30.3 | 19.7 | *** |
| ソーシャルメディア上のニュース | 15.6 | 15.6 | 15.5 | n.s. | 17.1 | 11.3 | ** |

有意差： χ^2 検定の結果。***:p<.001 **:p<.01 n.s.:有意差なし

他群より5%水準で有意に大きい値は黒・太字で示している。

信頼性・公正性・正確性とも、「テレビニュース」「新聞」を評価する比率の方が、「インターネット上のニュースサイト」「ソーシャルメディア上のニュース」よりも大きかった。性別ごとに見ると、「テレビニュース」「新聞」については、女性の方が、その信頼性・公正性・正確性を有意に高く評価していた。一方、「インターネット上のニュースサイト」「ソーシャルメディア上のニュース」については、信頼性・公正性・正確性ともに、男女間で有意差は見られなかった。投票有無別の分析結果を見ると、4つのメディアすべてにおいて、投票群の方が、その信頼性・公正性・正確性を有意に高く評価していた。

次に、年齢層別の分析結果を表7.1.4、表7.1.5、表7.1.6に示す。

表 7.1.4 メディアの信頼性評価（「非常に信頼できる」+「ある程度信頼できる」の比率）
 〈年齢層別〉

| | 年齢層 | | | | | | |
|------------------|---------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|-----|
| | 10代 N=66.9 | 20代 N=344.8 | 30代 N=344.8 | 40代 N=344.8 | 50代 N=344.8 | 60代 N=344.8 | 有意差 |
| | | | | | | | |
| テレビニュース | 49.5 | 44.3 | 45.7 | 52.3 | 52.0 | 62.3 | *** |
| 新聞 | 49.8 | 43.0 | 48.7 | 51.0 | 52.7 | 63.0 | *** |
| インターネット上のニュースサイト | 27.5 | 28.0 | 35.3 | 33.0 | 27.7 | 41.7 | *** |
| ソーシャルメディア上のニュース | 20.3 | 14.0 | 18.0 | 18.7 | 13.0 | 20.0 | † |

有意差： χ^2 検定の結果。***:p<.001 †:p<.10

残差分析の結果、他群より5%水準で有意に大きい値は黒・太字で、有意に小さい値は赤・太字で示している。

表 7.1.5 メディアの公正性評価（「非常に公正である」＋「ある程度公正である」の比率）
 〈年齢層別〉

| | 年齢層 | | | | | | 有意差 |
|------------------|--------|-------------|-------------|---------|---------|-------------|------|
| | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | |
| | N=66.9 | N=344.8 | N=344.8 | N=344.8 | N=344.8 | N=344.8 | |
| テレビニュース | 36.1 | 30.0 | 32.3 | 39.0 | 40.0 | 48.0 | *** |
| 新聞 | 37.8 | 29.3 | 33.3 | 37.7 | 40.0 | 48.3 | *** |
| インターネット上のニュースサイト | 21.0 | 20.7 | 21.3 | 25.3 | 25.7 | 31.0 | * |
| ソーシャルメディア上のニュース | 17.2 | 12.0 | 14.0 | 15.0 | 11.0 | 17.0 | n.s. |

有意差： χ^2 検定の結果。***:p<.001 *:p<.05 n.s.:有意差なし

残差分析の結果、他群より5%水準で有意に大きい値は黒・太字で、有意に小さい値は赤・太字で示している。

表 7.1.6 メディアの正確性評価（「非常に正確である」＋「ある程度正確である」の比率）
 〈年齢層別〉

| | 年齢層 | | | | | | 有意差 |
|------------------|--------|-------------|---------|---------|-------------|-------------|-----|
| | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | |
| | N=66.9 | N=344.8 | N=344.8 | N=344.8 | N=344.8 | N=344.8 | |
| テレビニュース | 47.1 | 40.0 | 42.7 | 45.0 | 49.0 | 60.0 | *** |
| 新聞 | 51.9 | 41.7 | 45.0 | 46.0 | 48.0 | 58.0 | *** |
| インターネット上のニュースサイト | 23.4 | 22.3 | 23.7 | 28.7 | 27.0 | 36.7 | *** |
| ソーシャルメディア上のニュース | 16.2 | 14.7 | 14.7 | 18.7 | 11.0 | 18.7 | † |

有意差： χ^2 検定の結果。***:p<.001 †:p<.10

残差分析の結果、他群より5%水準で有意に大きい値は黒・太字で、有意に小さい値は赤・太字で示している。

χ^2 検定を行った結果、「テレビニュース」「新聞」については、信頼性・公正性・正確性評価すべてにおいて有意な差が見られた。年齢層別では、3つの観点すべてで、60代の評価比率が有意に高く、20代や30代の評価比率が有意に低かった。「インターネット上のニュースサイト」も、信頼性・公正性・正確性すべてで有意な差があった。しかし、残差分析の結果にはやや違いが見られる。信頼性については20代・50代が低比率を示したのに対し、公正性では有意に低比率を示した年齢層はなく、正確性では20代のみ評価比率が有意に低かった。最後に、「ソーシャルメディア上のニュース」については、 χ^2 検定の結果、信頼性・公正性・正確性とも5%水準で有意な差は見られなかった。

8. 年齢層別に見た政治関心と日本社会に対する認識

本章では、調査対象者の政治関心と日本社会に対する認識を分析する。表 8.1.1 の表側にある 12 の項目について、調査対象者の態度を「そう思う」から「そう思わない」までの 5 件法で尋ねた（事前問 4）。以下の表 8.1.1 では、各設問に対して「思う」と答えた人（「そう思う」+「ややそう思う」）の比率を、性別・投票有無別に示している。

表 8.1.1 政治関心と日本社会に対する認識（「そう思う」+「ややそう思う」の比率）〈性別・投票有無別〉

| | 性別 | | | | 投票・非投票 | | |
|--------------------------------|-----------|-------------|-------------|------|-------------|-------------|------|
| | 全体 | 男性 | 女性 | 有意差 | 投票 | 非投票 | 有意差 |
| | N=1,791.0 | N=896.1 | N=894.9 | | N=1,315.4 | N=470.8 | |
| 政治問題に関心がある | 58.4 | 68.2 | 48.5 | *** | 66.4 | 36.0 | *** |
| 政治は難しすぎて理解できない | 35.4 | 21.3 | 49.5 | *** | 31.4 | 46.5 | *** |
| 政治のことに話すより、自分自身のことを充実させた方がいい | 40.1 | 36.0 | 44.1 | *** | 34.7 | 54.6 | *** |
| 政治のことはやりたい人に任せておけばいい | 20.2 | 20.1 | 20.3 | n.s. | 16.3 | 31.1 | *** |
| 我々が少々騒いだところで政治はよくなるものではない | 51.3 | 46.7 | 55.8 | *** | 46.1 | 65.6 | *** |
| 政治が変わったところで日本の方向性が変わるわけではない | 26.5 | 22.8 | 30.2 | *** | 23.2 | 35.6 | *** |
| 現在の国内政治に満足している | 8.4 | 10.2 | 6.6 | ** | 9.5 | 5.6 | * |
| 現在の生活に満足している | 20.6 | 19.5 | 21.6 | n.s. | 22.0 | 16.6 | * |
| 経済格差が広がっている | 69.7 | 69.5 | 69.9 | n.s. | 71.4 | 64.8 | ** |
| 景気が回復している | 9.1 | 11.9 | 6.2 | *** | 10.3 | 5.6 | ** |
| いまの日本の政治家は、若い人たちのことを考えて政治をしている | 5.2 | 4.4 | 6.0 | n.s. | 5.7 | 3.9 | n.s. |
| いまの日本は、努力すれば報われる社会である | 13.7 | 14.1 | 13.3 | n.s. | 15.0 | 10.3 | * |

有意差： χ^2 検定の結果。***:p<.001 **:p<.01 *:p<.05 n. s. :有意差なし

他群より 5%水準で有意に大きい値は黒・太字で示している。

表 8.1.1 の上半分にある 6 つの設問は、調査対象者の政治関心を問うているのに対し、下半分の 6 設問は、日本社会に対する認識を尋ねている。政治関心を問う 6 設問では、「政治問題に関心がある」以外の逆転項目について「そう思う」比率が全般的に低いが、「我々が少々騒いだところで政治はよくなるものではない」のみ 50%を超えている。日本社会に対する認識を問う 6 設問では、「経済格差が広がっている」のみ 50%を超えているのが特徴的である。性別間で比較すると、全体的に男性の方が有意に高い政治関心を示しているといえる。日本社会に対する認識では、「現在の国内政治に満足している」「景気が回復して

いる」では男性の比率が有意に高く、その他の項目では有意差がなかった。

次に、投票有無別で比較すると、政治関心を問う設問については、すべての設問について、投票群が非投票群に比べて、有意に高い政治関心を示していることがわかる。政治関心の高さが投票行動につながると考えられるため、これはリーズナブルな結果であるといえる。日本社会に対する認識では、「政治家の若者への配慮」を除く設問で、投票群のほうが「そう思う」比率が有意に大きかった。しかし、この結果については、一部の争点に対する態度（4.2節を参照）と同じく、投票群の方がより明確な社会認識を持っているがゆえの結果であるという解釈も成立する。そこで4.2節と同じく、日本社会に対する認識について、「思わない」（「そう思わない」＋「あまりそう思わない」）と答えた人の比率を投票有無別に分析した。結果は以下の表 8.1.2 に示している。

表 8.1.2 日本社会に対する認識（「そう思わない」＋「あまりそう思わない」の比率）〈投票有無別〉

| | 投票・非投票（そう思わない） | | | |
|--------------------------------|----------------|-----------|-------------|------|
| | 全体 | 投票 | 非投票 | 有意差 |
| | N=1,791.0 | N=1,315.4 | N=470.8 | |
| 現在の国内政治に満足している | 66.0 | 66.7 | 63.7 | n.s. |
| 現在の生活に満足している | 46.6 | 45.1 | 50.7 | * |
| 経済格差が広がっている | 8.1 | 7.6 | 9.8 | n.s. |
| 景気が回復している | 61.2 | 59.6 | 65.4 | * |
| いまの日本の政治家は、若い人たちのことを考えて政治をしている | 70.6 | 71.6 | 67.5 | † |
| いまの日本は、努力すれば報われる社会である | 53.5 | 52.3 | 56.3 | n.s. |

有意差： χ^2 検定の結果。*： $p < .05$ †： $p < .10$ n.s.：有意差なし

他群より5%水準で有意に大きい値は黒・太字で示している。

6 設問の中で、投票群の方が有意に「そう思う」比率が大きかった「政治家の若者への配慮」以外の5設問を見ると、反対比率に有意差がないか、投票群の反対比率が有意に小さいかのどちらかである。このことから、投票群の方が同意にせよ非同意にせよ明確な社会認識を持っているという解釈は、本調査結果からは成立しないといえる。

次に、各設問に対して「思う」と答えた人（「そう思う」＋「ややそう思う」）の比率を、年齢層別に示した。その結果は、以下の表 8.1.3 に示している。

表 8.1.3 政治関心と日本社会に対する認識（「そう思う」+「ややそう思う」の比率）〈年齢層別〉

| | 年齢層 | | | | | | 有意差 |
|--------------------------------|-------------|-------------|-------------|---------|-------------|-------------|------|
| | 10代 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | |
| | N=66.9 | N=344.8 | N=344.8 | N=344.8 | N=344.8 | N=344.8 | |
| 政治問題に関心がある | 49.5 | 43.3 | 47.3 | 59.3 | 64.3 | 79.3 | *** |
| 政治は難しすぎて理解できない | 54.0 | 50.0 | 45.7 | 32.0 | 26.7 | 19.0 | *** |
| 政治のことに話すより、自分自身のことを充実させた方がいい | 46.4 | 51.0 | 47.3 | 37.7 | 38.0 | 25.0 | *** |
| 政治のことはやりたい人に任せておけばいい | 20.6 | 27.7 | 23.7 | 20.3 | 16.7 | 12.7 | *** |
| 我々が少々騒いだところで政治はよくなるものではない | 60.1 | 58.7 | 61.0 | 52.3 | 45.0 | 37.7 | *** |
| 政治が変わったところで日本の方向性が変わるわけではない | 30.9 | 34.3 | 30.3 | 29.0 | 21.0 | 17.0 | *** |
| 現在の国内政治に満足している | 12.7 | 7.3 | 7.7 | 8.0 | 6.7 | 11.7 | n.s. |
| 現在の生活に満足している | 29.6 | 18.0 | 17.3 | 18.0 | 16.7 | 31.0 | *** |
| 経済格差が広がっている | 55.0 | 57.0 | 69.3 | 70.0 | 74.3 | 80.7 | *** |
| 景気が回復している | 12.0 | 10.7 | 9.3 | 7.7 | 7.0 | 10.0 | n.s. |
| いまの日本の政治家は、若い人たちのことを考えて政治をしている | 5.5 | 6.7 | 5.7 | 4.3 | 4.0 | 5.3 | n.s. |
| いまの日本は、努力すれば報われる社会である | 18.2 | 10.7 | 11.3 | 14.0 | 15.3 | 16.3 | n.s. |

有意差： χ^2 検定の結果。***:p<.001 n.s.:有意差なし

検定分析の結果、他群より5%水準で有意に大きい値は黒・太字で、有意に小さい値は赤・太字で示している。

政治関心を問う設問については、 χ^2 検定の結果、すべて有意な差が見られた。概して高年齢層のほうが、低年齢層に比べて高い政治的関心を示しているといえる。日本社会に対する認識を問う設問については、「現在の生活への満足」「経済格差の拡大」について、 χ^2 検定の結果有意な差が見られた。「経済格差の拡大」は、高年齢層ほどそう思う比率が大きい。「現在の生活への満足」は、60代でそう思う比率が有意に大きい一方、50代の比率が有意に小さく、また10代も有意ではないものの比較的大きい比率を示している。10代、60代とも職に就いていない人の比率が他の年齢層より大きいため、同年代間での生活水準の差を実感する機会が比較的少なく、その結果が表れていると考えられる。

9. その他の注目すべき説明変数

9.1 年齢層別に見た社会争点知識

本調査では日本の政治・経済、国際情勢などさまざまな社会争点について、調査対象者が正確な知識を持っているか否かを質問している（事前調査問 13）。これらの知識を社会争点知識と呼ぶ。

調査で使用した社会争点知識の設問ごとに属性等別の正答率をまとめたものが表 9.1.1 である。安倍首相の前の首相の名前から消費税引き上げ時期までは性別・年齢層別・投票有無別で正答率に有意差があるが、EU 離脱の国民投票を実施した国（Brexit）と五輪開催地では属性等による有意差はみられなかった。有意差があった設問では全般的に、男性の方が女性より、高年齢層の方が低年齢層より、投票有グループの方が投票無グループよりも正答率が高い。

表 9.1.1 社会争点知識設問別正答率（単位：％）

| 属性等 N | 全体 1791.0 | 男性 896.1 | 女性 894.9 | ※ | 18-19 66.9 | 20代 344.8 | 30代 344.8 | 40代 344.8 | 50代 344.8 | 60代 344.8 | ※ | 投票 1315.4 | 非投票 470.8 | ※ |
|---------------------------|--------------|-------------|-------------|------|---------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|------|--------------|--------------|------|
| 安倍首相の前の 首相の名前 | 49.9 | 59.0 | 40.9 | *** | 43.3 | 35.7 | 47.3 | 50.3 | 57.0 | 60.7 | *** | 56.0 | 32.8 | *** |
| 2016年G7開催地 | 81.4 | 85.1 | 77.6 | *** | 65.6 | 66.3 | 77.3 | 86.0 | 88.0 | 92.3 | *** | 86.1 | 68.2 | *** |
| 2016年米大統領選 共和党候補者名 | 66.3 | 74.3 | 58.3 | *** | 51.9 | 57.7 | 62.7 | 68.3 | 70.3 | 75.3 | *** | 71.1 | 52.8 | *** |
| 2016年三菱自を傘下 にした自動車メーカー | 68.4 | 79.0 | 57.9 | *** | 33.3 | 48.0 | 63.7 | 72.7 | 79.3 | 85.3 | *** | 74.1 | 52.8 | *** |
| 消費税引き上げ時期 | 34.0 | 37.7 | 30.2 | ** | 20.3 | 20.7 | 28.3 | 33.1 | 38.0 | 52.3 | *** | 36.5 | 26.6 | *** |
| 2016年にEU離脱の 国民投票実施した国 | 66.6 | 65.2 | 68.1 | n.s. | 72.5 | 65.7 | 65.0 | 66.3 | 66.7 | 68.3 | n.s. | 66.1 | 67.8 | n.s. |
| 2016年五輪開催地 | 87.1 | 87.3 | 86.9 | n.s. | 91.8 | 87.0 | 87.3 | 84.0 | 88.0 | 88.3 | n.s. | 86.5 | 88.8 | n.s. |

表の行見出し 2 行目は標本数 N

※ χ^2 検定結果 n.s.: no significant, †: $p < 0.1$, *: $p < 0.05$, **: $p < 0.01$, ***: $p < 0.001$

5%水準で有意に他グループより正答率が高いセルはピンク、低いセルはブルーで示している

社会争点知識量として、社会争点知識の各設問について正答=1点、誤答=0点とした合計得点を算出し、2016年参院選での投票行動との関連をロジスティック回帰分析で調べたものが表 9.1.2 の左側である。独立変数として属性と政治関心（事前調査問 4）、ふだんのメディア利用時間（事前調査問 1のうち、テレビニュース、新聞、PCインターネット、モバイルインターネット）を投入した。メディア利用時間については、平均値+3標準偏差以上の値は外れ値として分析から除外している。結果は、属性、政治関心、メディア利

用時間を統制しても社会争点知識量が多い回答者ほど投票を行う傾向が有意に強くなっている。

次に、社会争点知識量を従属変数、属性と政治関心・ふだんのメディア利用時間を独立変数に投入して重回帰分析を行った結果が表 9.1.2 の右側である。社会争点知識量は、男性、年齢、学歴、政治関心、テレビニュース利用時間と有意な正の関連があるが、モバイルインターネット利用時間とは負の関連がある。一時点の調査結果から因果関係を検証することはできないが、社会争点知識量とモバイルインターネット利用との負の関連から、LINE のような強い紐帯のソーシャルメディア上のコミュニケーションが社会争点に対する関心の幅を狭め、モバイルインターネット利用が社会争点知識量を減少させている可能性（小笠原 2016）も考えられる。

表 9.1.2 投票行動および政治争点知識の予測結果

| 従属変数 | 投票有無 | | 社会争点知識量 | |
|--------------------------|--------|-----|---------|-----|
| 独立変数 | B | | β | |
| 性別 | 0.026 | | 0.145 | *** |
| 年齢 | 0.007 | | 0.185 | *** |
| 学歴 | 0.233 | *** | 0.068 | ** |
| テレビニュース | 0.002 | | 0.111 | *** |
| 新聞 | 0.022 | *** | 0.012 | |
| PCネット | 0.000 | | 0.037 | |
| モバイルネット | 0.000 | | -0.077 | ** |
| 政治関心 | 0.400 | *** | 0.214 | *** |
| 社会争点知識量 | 0.147 | *** | - | |
| 定数 | -2.321 | *** | - | |
| 調整済みR ² | - | | 0.209 | |
| NagelkerkeR ² | 0.193 | | - | |

※**：p<0.01, ***：p<0.001

小笠原盛浩(2016)「ソーシャルメディアで共有されるニュースシェアやツイートは社会の分断を招くのか」、富田英典（編著）『ポスト・モバイル社会』世界思想社、232-246。

9.2 保守革新傾向

保守革新傾向を知るため、非常に保守的を「1」、中立を「3」、非常に革新的を「5」とした場合に、自分の考えに近いものをひとつ回答してもらった。属性等別（性別、年齢層別、投票有無別）の回答の平均値を示したものが表 9.2.1 である（事前調査問 3）。

回答全体の平均値は 2.92 の結果となった。

性別では統計的な有意差は認められなかった。年齢層別にみると、5%水準の偏りが認められ、60代が 3.02 で最も革新的に近い数値となり、50代が 2.83 で最も保守的に近い数値となった。投票有無で比較すると 1%水準の偏りが認められ、投票者は 2.89、非投票者は 3.00 で投票者の方が保守的な結果となった。

この結果から、年齢層別に保守革新傾向の偏りが存在し、最も 60代で革新度が高いことが明らかになった。また、投票者よりも非投票者で革新傾向が強いことも明らかになった。政治状況から革新度の強い有権者が投票したい政党や候補者が少なく、結果として非投票者の方が革新度が高くなった可能性も考えられる。

表 9.2.1 保守革新度（事前問3） ※単一回答の平均値

| 属性等 | 全体 | 男性 | 女性 | 有意水準 | 18-19歳 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | 有意水準 | 投票 | 非投票 | 有意水準 |
|--------|--------|-------|-------|------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|------|--------|-------|------|
| N | 1791.0 | 896.1 | 894.9 | - | 66.9 | 344.8 | 344.8 | 344.8 | 344.8 | 344.8 | - | 1315.4 | 470.8 | - |
| 保守革新傾向 | 2.92 | 2.91 | 2.94 | n.s. | 2.92 | 2.86 | 2.93 | 2.98 | 2.83 | 3.02 | * | 2.89 | 3.00 | ** |

※Welch 検定・分散分析結果 n.s.:no significant, †: p<0.1, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

【選挙とメディア利用に関するアンケート調査】

N=1,791（ウェイト 18-19 歳：それ以外=1：5 で、ウェイトの合計が 1,791）

【基本属性】

＜回収した年齢層・性別の分布＞

| | 18-19 歳 | 20-29 歳 | 30-39 歳 | 40-49 歳 | 50-59 歳 | 60-69 歳 | 合計 |
|----|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-------|
| 男性 | 148 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 898 |
| 女性 | 143 | 150 | 150 | 150 | 150 | 150 | 893 |
| 合計 | 291 | 300 | 300 | 300 | 300 | 300 | 1,791 |

＜ウェイト調整後の年齢層・性別＞

| | N | 18-19 歳 | 20-29 歳 | 30-39 歳 | 40-49 歳 | 50-59 歳 | 60-69 歳 | 合計 |
|----|-------|---------|---------|---------|---------|---------|---------|--------|
| N | | 66.9 | 344.8 | 344.8 | 344.8 | 344.8 | 344.8 | 1,791 |
| 女性 | 894.9 | 49.1% | 50.0% | 50.0% | 50.0% | 50.0% | 50.0% | 50.0% |
| 男性 | 896.1 | 50.9% | 50.0% | 50.0% | 50.0% | 50.0% | 50.0% | 50.0% |
| 合計 | 1,791 | 3.7% | 19.3% | 19.3% | 19.3% | 19.3% | 19.3% | 100.0% |

| 居住地域 | % |
|------|------|
| 北海道 | 5.1 |
| 東北地方 | 5.7 |
| 関東地方 | 39.1 |
| 中部地方 | 15.2 |
| 近畿地方 | 18.1 |
| 中国地方 | 4.7 |
| 四国地方 | 2.2 |
| 九州地方 | 9.8 |

| 婚姻有無 | % |
|------|------|
| 未婚 | 41.7 |
| 既婚 | 58.3 |

| 子供有無 | % |
|------|------|
| 子供なし | 48.8 |
| 子供あり | 51.2 |

| 職業 | % |
|-----------|------|
| 公務員 | 2.8 |
| 経営者・役員 | 1.5 |
| 会社員(事務系) | 12.1 |
| 会社員(技術系) | 9.9 |
| 会社員(その他) | 10.6 |
| 自営業 | 5.7 |
| 自由業 | 2.1 |
| 専業主婦(主夫) | 21.9 |
| パート・アルバイト | 12.5 |
| 学生 | 6.4 |
| その他 | 4.1 |
| 無職 | 10.3 |

| 世帯収入(N=1558.4) | % | 個人収入(N=1565.3) | % |
|----------------|------|----------------|------|
| 200万未満 | 8.0 | 200万未満 | 45.3 |
| 200～400万未満 | 24.0 | 200～400万未満 | 23.3 |
| 400～600万未満 | 23.4 | 400～600万未満 | 12.9 |
| 600～800万未満 | 13.9 | 600～800万未満 | 5.9 |
| 800～1000万未満 | 9.2 | 800～1000万未満 | 2.9 |
| 1000～1200万未満 | 4.1 | 1000～1200万未満 | 0.9 |
| 1200～1500万未満 | 2.9 | 1200～1500万未満 | 1.0 |
| 1500～2000万未満 | 1.0 | 1500～2000万未満 | 0.1 |
| 2000万円以上 | 0.9 | 2000万円以上 | 0.4 |
| わからない | 12.6 | わからない | 7.4 |

【選挙とメディア利用に関するアンケート調査】(事前調査)

問 1. 以下のメディアについて、ふだん1日平均どのくらい利用していますか。(半角数値)

※利用していない人は、時間、分の欄ともに「0」を入力ください。

※「分」の方は最大「59」までにてお考えください。

| | ふだん(1日平均) |
|---------------------------|---------------------|
| 1. テレビを見る | (185.8)分 (SD=150.3) |
| 2. テレビでニュースなどの報道番組を見る | (64.3)分 (SD=70.8) |
| 3. 新聞を読む(インターネットは含まない) | (18.7)分 (SD=72.6) |
| 4. パソコンやタブレット型端末でのインターネット | (119.3)分 (SD=144.4) |
| 5. 携帯電話やスマートフォンでのインターネット | (60.4)分 (SD=94.5) |

問 2. あなたは、前回の参議院選挙(2013年7月21日投票)、衆議院選挙(2014年12月14日投票)で、投票しましたか。(それぞれひとつだけ)

| | 投票した | 投票しなかった | 選挙権がなかった | 覚えていない |
|------------------------|------|---------|----------|--------|
| 1. 2013年7月21日投票の参議院選挙 | 64.0 | 21.0 | 8.0 | 6.9 |
| 2. 2014年12月14日投票の衆議院選挙 | 64.8 | 22.1 | 7.1 | 6.0 |

問 3. 政治的立場には保守的傾向、革新的傾向があるといわれています。非常に保守的を「1」、中立を「3」、非常に革新的を「5」とした場合に、あなたの考えに近いものをお知らせください。(ひとつだけ)

| | |
|---|----|
| あなたの考え | 中立 |
| 保守的 ← 1 ----- 2 ----- 3 ----- 4 ----- 5 → 革新的 | |
| 6.2 17.3 58.1 15.1 3.4 | |

問 4. 政治や生活に対する以下の項目について、あなたの考えをお知らせください。(それぞれひとつだけ)

| | そう思う | やや そう思う | どちらとも いえない | あまり 思わない | そう 思わない |
|------------------------------------|------|------------|---------------|-------------|------------|
| 1. 政治問題に関心がある | 18.1 | 40.3 | 20.5 | 13.4 | 7.7 |
| 2. 政治は難しすぎて理解できない | 8.0 | 27.4 | 32.3 | 21.6 | 10.7 |
| 3. 政治のことに話すより、自分自身のことを充実させた方がいい | 10.4 | 29.6 | 42.0 | 14.1 | 3.9 |
| 4. 政治のことはやりたい人に任せておけばいい | 5.3 | 15.0 | 35.6 | 30.5 | 13.7 |
| 5. 我々が少々騒いだところで政治はよくなるものではない | 16.9 | 34.3 | 25.6 | 15.6 | 7.5 |
| 6. 政治が変わったところで日本の方向性が変わるわけではない | 8.1 | 18.4 | 32.4 | 27.8 | 13.2 |
| 7. 現在の国内政治に満足している | 1.1 | 7.4 | 25.6 | 34.4 | 31.6 |
| 8. 現在の生活に満足している | 3.1 | 17.5 | 32.9 | 26.6 | 19.9 |
| 9. 経済格差が広がっている | 31.7 | 38.0 | 22.2 | 4.8 | 3.3 |
| 10. 景気が回復している | 1.1 | 7.9 | 29.7 | 34.7 | 26.5 |
| 11. いまの日本の政治家は、若い人たちのことを考えて政治をしている | 1.2 | 4.0 | 24.2 | 35.9 | 34.7 |
| 12. いまの日本は、努力すれば報われる社会である | 1.6 | 12.1 | 32.8 | 28.8 | 24.7 |

問 5. あなたはふだん、以下の政党をどの程度支持していますか。(それぞれひとつだけ)

| | 支持 している | やや支持 している | どちらで もない | あまり 支持していない | 支持 していない | 政党名を 知らない |
|--------------------|------------|--------------|-------------|----------------|-------------|--------------|
| 1. 自由民主党 | 9.7 | 22.9 | 33.1 | 12.3 | 21.5 | 0.5 |
| 2. 民進党 | 1.2 | 7.3 | 35.8 | 17.3 | 35.2 | 3.1 |
| 3. 公明党 | 1.0 | 4.4 | 31.3 | 16.9 | 44.8 | 1.6 |
| 4. 日本共産党 | 1.5 | 6.2 | 33.1 | 15.8 | 41.0 | 2.4 |
| 5. おおさか維新の会 | 2.8 | 11.2 | 38.1 | 15.1 | 29.8 | 3.0 |
| 6. 社会民主党 | 0.3 | 2.5 | 32.9 | 17.8 | 42.3 | 4.2 |
| 7. 生活の党と山本太郎となかまたち | 0.7 | 1.9 | 21.8 | 13.3 | 45.5 | 16.8 |
| 8. 日本のことを大切にする党 | 1.2 | 2.0 | 22.6 | 12.0 | 28.8 | 33.4 |
| 9. 日本を元気にする会 | 0.4 | 1.1 | 22.9 | 11.9 | 30.6 | 33.1 |
| 10. 新党改革 | 0.1 | 0.9 | 24.4 | 13.2 | 35.2 | 26.1 |
| 11. 沖縄社会大衆党 | 0.3 | 1.3 | 21.1 | 9.6 | 25.6 | 42.0 |
| 12. その他の政党 | 0.2 | 0.1 | 20.7 | 6.1 | 17.0 | 55.9 |

<前問で、いずれかの政党に対して、「支持している」または「やや支持している」の人 (N=907.8) >

問 6. あなたが支持している政党のうち、最も支持する政党をお知らせください。(ひとつだけ)

| | | |
|------|----|-----------------|
| 55.7 | 1 | 自由民主党 |
| 10.9 | 2 | 民進党 |
| 4.5 | 3 | 公明党 |
| 9.3 | 4 | 日本共産党 |
| 12.8 | 5 | おおさか維新の会 |
| 1.9 | 6 | 社会民主党 |
| 2.4 | 7 | 生活の党と山本太郎となかまたち |
| 1.2 | 8 | 日本のことを大切にする党 |
| 0.1 | 9 | 日本を元気にする会 |
| 0.1 | 10 | 新党改革 |
| 0.6 | 11 | 沖縄社会大衆党 |
| 0.5 | 12 | その他の政党 |

問 7. あなたは以下の政党について、どのような印象を持っていますか。あてはまるものをすべてお知らせください。(それぞれいくつでも)

| | 1 ある ビジョンが | 2 シ ン プ がある 党首にリーダー | 3 好 感 が 持 て る | 4 革 新 的 で 新 し い こ と を 起 こ せ る | 5 あ る 市 民 感 覚 が | 6 組 織 力 や チ ー ム ワ ー ク が あ る | 7 あ る 行 動 力 が | 8 あ る 責 任 感 が | 9 理 解 で き る 政 策 が よ く | 10 あ て は ま る 印 象 が な い | N |
|-----------------|------------------|------------------------------------|---------------------------------|---|--------------------------------------|--|---------------------------------|---------------------------------|---|--|---------|
| 1. 自由民主党 | 10.8 | 28.0 | 6.8 | 2.9 | 3.3 | 21.9 | 16.2 | 13.1 | 7.7 | 46.6 | 1,782.5 |
| 2. 民進党 | 3.6 | 1.8 | 3.8 | 4.7 | 8.2 | 3.4 | 2.8 | 2.0 | 2.0 | 76.8 | 1,735.6 |
| 3. 公明党 | 4.6 | 3.8 | 2.5 | 1.5 | 7.3 | 17.2 | 3.7 | 3.2 | 2.8 | 69.5 | 1,762.0 |
| 4. 日本共産党 | 8.4 | 4.1 | 3.4 | 5.3 | 9.8 | 11.3 | 4.2 | 2.8 | 4.4 | 66.6 | 1,748.0 |
| 5. おおさか 維新の会 | 8.5 | 5.5 | 6.1 | 19.0 | 10.3 | 4.0 | 12.5 | 3.2 | 3.8 | 58.6 | 1,737.9 |

※Nは問5のそれぞれの政党で「政党名を知らない」を除いた数。

問 8. あなたは、以下のソーシャルメディアを利用していますか。それぞれについてあてはまるものを1つ選んでください。(それぞれひとつだけ)

| ※いずれか利用者：87.2% | 利用している | | | | | 使っていない |
|------------------------|-----------|-------------|----------|----------|------------|--------|
| | 1日に 数回 | 1日に 1回程度 | 週に 数回 | 月に 数回 | 月に 1回以下 | |
| 1. mixi (ミクシイ) | 1.6 | 1.9 | 2.5 | 2.4 | 5.2 | 86.4 |
| 2. Facebook (フェイスブック) | 11.3 | 8.7 | 7.2 | 4.2 | 6.3 | 62.4 |
| 3. Twitter (ツイッター) | 14.1 | 6.6 | 6.6 | 3.5 | 4.8 | 64.5 |
| 4. Google+ (グーグルプラス) | 2.3 | 2.0 | 4.1 | 2.8 | 5.7 | 83.2 |
| 5. LINE (ライン) | 35.0 | 8.1 | 9.3 | 2.7 | 2.6 | 42.3 |
| 6. YouTube (ユーチューブ) | 16.0 | 11.5 | 21.4 | 16.0 | 12.8 | 22.3 |
| 7. ニコニコ動画 | 4.0 | 2.8 | 6.8 | 6.8 | 12.5 | 67.2 |
| 8. Instagram (インスタグラム) | 5.7 | 3.0 | 3.7 | 3.2 | 2.2 | 82.1 |

問 9. あなたは今回の参議院選挙の投票の際、以下の争点のうち、どれを重視する予定ですか。あてはまるものをすべてお知らせください。(いくつでも)

| | | |
|------|----|-------------------------|
| 61.9 | 1 | 景気 |
| 34.0 | 2 | 雇用問題 |
| 28.9 | 3 | 消費税引き上げ |
| 13.0 | 4 | T P P (環太平洋パートナーシップ) 協定 |
| 11.2 | 5 | 東アジア外交問題 |
| 14.2 | 6 | 沖縄基地問題 |
| 23.7 | 7 | 原子力発電所の稼働 |
| 29.4 | 8 | 憲法改正 |
| 55.4 | 9 | 年金、医療、介護などの社会保障 |
| 31.5 | 10 | 子育て支援 |
| 23.7 | 11 | 震災復興(東日本大震災・熊本地震) |
| 24.8 | 12 | 集团的自衛権 |
| 10.5 | 13 | あてはまるものはない |

<前問で、1～12のいずれかに回答があった人(N=1,603.6)>

問 10. あなたが今回の参議院選挙の投票の際、最も重視する予定の争点をお知らせください。(ひとつだけ)

| | | |
|------|----|-------------------------|
| 32.6 | 1 | 景気 |
| 5.0 | 2 | 雇用問題 |
| 6.9 | 3 | 消費税引き上げ |
| 0.7 | 4 | T P P (環太平洋パートナーシップ) 協定 |
| 1.4 | 5 | 東アジア外交問題 |
| 0.4 | 6 | 沖縄基地問題 |
| 3.6 | 7 | 原子力発電所の稼働 |
| 9.9 | 8 | 憲法改正 |
| 23.7 | 9 | 年金、医療、介護などの社会保障 |
| 10.0 | 10 | 子育て支援 |
| 1.7 | 11 | 震災復興(東日本大震災・熊本地震) |
| 4.0 | 12 | 集团的自衛権 |

問 11. あなたは下記のことがらについてどのようにお考えですか。もっともあてはまるものをお答えください。(それぞれひとつだけ)

| | 賛成 | やや賛成 | どちらでもない | やや反対 | 反対 |
|--|------|------|---------|------|------|
| 1. TPP（環太平洋パートナーシップ）協定の推進 | 9.8 | 25.1 | 51.0 | 9.1 | 5.0 |
| 2. 消費税引き上げ | 7.6 | 16.4 | 27.6 | 21.1 | 27.3 |
| 3. 原子力発電所の稼働 | 8.0 | 14.6 | 33.1 | 18.8 | 25.5 |
| 4. 年金、医療、介護などの社会保障の拡充 | 35.9 | 35.4 | 22.9 | 3.9 | 1.9 |
| 5. 子育て支援策の拡充 | 32.4 | 35.8 | 24.8 | 4.7 | 2.3 |
| 6. 憲法を変えること | 12.5 | 17.5 | 39.9 | 13.3 | 16.9 |
| 7. 憲法9条を改正すること | 10.9 | 13.7 | 38.1 | 13.3 | 24.0 |
| 8. 同一労働同一賃金 | 11.3 | 19.8 | 51.8 | 11.2 | 5.9 |
| 9. 米軍基地の撤廃 | 11.6 | 17.3 | 44.9 | 14.0 | 12.2 |
| 10. 政治や社会問題について、若い人たちがデモで意見を表明すること | 13.4 | 22.7 | 48.4 | 8.9 | 6.7 |
| 11. 安全保障関連法によって、集団的自衛権を使えるようにしたり、自衛隊の海外活動を広げたりすること | 9.2 | 15.4 | 47.6 | 13.4 | 14.4 |
| 12. 選挙権年齢が満18歳に引き下げられたこと | 14.7 | 23.3 | 41.1 | 13.2 | 7.8 |

問 12. 次のそれぞれの質問について、あなたが正しいと考える答えを入力してください（正しい答えがわからない場合は、「わからない」と入力してください）。ひらがなでもかまいません。

| | |
|--|------|
| 1. 安倍現首相の前の首相の名前は？（苗字だけでかまいません） | 49.9 |
| 2. 今年5月に先進7カ国首脳会議（G7）の開催地は、日本国内のどこでしたか？ | 81.4 |
| 3. 2016年アメリカ大統領選挙で、共和党の候補指名が確実視されている候補者の名前は？ | 66.3 |
| 4. 今年5月に三菱自動車に2000億円超の出資を行い、事実上の傘下に収めた自動車メーカーの名称は？ | 68.4 |
| 5. 今年5月、安倍首相は消費税を8%から10%に引き上げる時期をいつにすると表明しましたか？ | 34.0 |
| 6. 今年6月に欧州連合（EU）離脱の是非を問う国民投票を実施する国の名前は？ | 66.6 |
| 7. 2016年夏季オリンピックの開催地はどこですか？ | 87.1 |

問 13. あなたは、選挙権年齢が満18歳以上に引き下げられたことについて、どのようにお考えですか。それぞれあてはまるものをひとつ選択してください。

| | そう思う | まあそう思う | あまりそう思わない | まったくそう思わない |
|--|------|--------|-----------|------------|
| 1. 若い世代の政治的関心の高まりが期待できる | 10.0 | 43.9 | 35.8 | 10.2 |
| 2. 若い世代の意見が政治に反映されやすくなった | 7.5 | 44.0 | 37.8 | 10.7 |
| 3. 若い世代は投票に行かないから何も変わらない | 10.5 | 38.4 | 44.0 | 7.2 |
| 4. 20歳未満は的確な政治的判断ができないから評価できない | 8.2 | 27.4 | 50.8 | 13.6 |
| 5. 全般的にみて、選挙権年齢が満18歳以上に引き下げられたことは評価できる | 14.9 | 45.1 | 31.7 | 8.4 |

【選挙とメディア利用に関するアンケート調査】(事後調査)

問 1. あなたは、今回の参議院選挙（2016年7月10日投票）で、投票しましたか。（ひとつだけ）【必須】

| | | | |
|---|----------|----------|-----------|
| 1 | 投票した | (73.4) | (→ 問 3 へ) |
| 2 | 投票しなかった | (26.3) | (→ 問 2 へ) |
| 3 | 選挙権がなかった | (0.3) | (→ 問 6 へ) |

<回答者：問1で2（投票しなかった人）(N=470.8)>

問 2. 今回の参議院選挙で、投票しなかった人におうかがいします。あなたが投票しなかった理由のうち、最もあてはまるものをお知らせください。（ひとつだけ）

| | | |
|------|---|-----------------------------|
| 27.1 | 1 | 関心がなかったから |
| 20.9 | 2 | 時間がなかったから |
| 18.2 | 3 | 選択したい候補者がいなかったから |
| 6.1 | 4 | どの政党・候補者に投票するか判断に迷ったから |
| 2.4 | 5 | 今回の選挙状況に不満があったから |
| 6.2 | 6 | 面倒だったから |
| 8.0 | 7 | 投票しても結果に大きな影響を及ぼすとは思わなかったから |
| 11.0 | 8 | その他(具体的に→) |

<回答者：問1で1（投票した人）(N=1,315.4)>

問 3. 選挙区選挙は個人名での投票ですが、あなたが、投票した候補者の政党名をお知らせください。（ひとつだけ）

| | | |
|------|-----|-----------------|
| 40.0 | 1. | 自由民主党 |
| 21.7 | 2. | 民進党 |
| 5.2 | 3. | 公明党 |
| 8.8 | 4. | 日本共産党 |
| 8.6 | 5. | おおさか維新の会 |
| 0.6 | 6. | 社会民主党 |
| 0.6 | 7. | 生活の党と山本太郎となかまたち |
| 1.6 | 8. | 日本のことを大切にする党 |
| 0.3 | 9. | 日本を元気にする会 |
| 0.2 | 10. | 新党改革 |
| 0.0 | 11. | 沖縄社会大衆党 |
| 1.2 | 12. | その他の政党【 】 |
| 4.8 | 13. | 無所属 |
| 3.6 | 14. | 政党名は覚えていない |
| 2.9 | 15. | 記入していない |

<回答者：問1で1（投票した人）（N=1,315.4）>

問4. 比例代表選挙で、あなたが、投票した政党名をお知らせください。また、個人名で投票した場合でも、個人の政党名をお知らせください。（ひとつだけ）

| | |
|------|--------------------|
| 36.4 | 1. 自由民主党 |
| 17.6 | 2. 民進党 |
| 6.6 | 3. 公明党 |
| 11.5 | 4. 日本共産党 |
| 12.5 | 5. おおさか維新の会 |
| 1.6 | 6. 社会民主党 |
| 0.8 | 7. 生活の党と山本太郎となかまたち |
| 2.7 | 8. 日本のことを大切にする党 |
| 0.0 | 9. 日本を元気にする会 |
| 0.9 | 10. 新党改革 |
| 0.0 | 11. 沖縄社会大衆党 |
| 0.9 | 12. その他の政党 |
| 1.6 | 13. 無所属 |
| 3.5 | 14. 政党名は覚えていない |
| 3.3 | 15. 記入していない |

<回答者：問1で1（投票した人）（N=1,315.4）>

問5. 今回の参議院議員の選挙区選挙・比例代表選挙のうち、あなたが投票した候補者・政党を決めたのはいつ頃ですか。あてはまるものをお知らせください。（それぞれひとつだけ）

| | 4月以前 | 5月 （6月21日 （選挙公示日の前） | 6月 （7月22日 （選挙公示日） | 7月 （7月3日 （投票日の前日） | 7月 （7月10日 （投票日の当日） |
|-----------------------|------|---------------------------|-------------------------|-------------------------|--------------------------|
| 1. 選挙区選挙の候補者選択時期 | 14.6 | 6.2 | 17.4 | 33.8 | 28.1 |
| 2. 比例代表選挙の候補者（政党）選択時期 | 17.7 | 5.5 | 16.7 | 31.8 | 28.2 |

問 6. あなたはふだん、以下の政党をどの程度支持していますか。(それぞれひとつだけ)

| | 支持している | やや支持している | どちらでもない | あまり支持していない | 支持していない | 政党名を知らない |
|-------------------|--------|----------|---------|------------|---------|----------|
| 1. 自由民主党 | 15.0 | 24.2 | 27.3 | 10.3 | 22.5 | 0.6 |
| 2. 民進党 | 2.8 | 12.1 | 33.0 | 16.3 | 34.5 | 1.3 |
| 3. 公明党 | 2.0 | 5.8 | 28.6 | 16.7 | 45.8 | 1.1 |
| 4. 日本共産党 | 2.3 | 9.0 | 29.6 | 13.4 | 43.8 | 2.0 |
| 5. おおさか維新の会 | 4.4 | 14.8 | 36.0 | 14.0 | 28.5 | 2.4 |
| 6. 社会民主党 | 0.6 | 3.6 | 32.3 | 15.1 | 45.0 | 3.5 |
| 7. 生活の党と山本太となかまたち | 0.7 | 2.4 | 22.3 | 14.4 | 48.9 | 11.3 |
| 8. 日本のことを大切にする党 | 1.5 | 4.0 | 25.0 | 13.4 | 35.9 | 20.1 |
| 9. 日本を元気にする会 | 0.4 | 1.4 | 25.0 | 13.1 | 34.9 | 25.2 |
| 10. 新党改革 | 0.3 | 1.5 | 26.5 | 13.6 | 38.1 | 19.9 |
| 11. 沖縄社会大衆党 | 0.4 | 1.1 | 22.2 | 11.0 | 28.3 | 37.1 |
| 12. その他の政党【 】 | 0.3 | 0.3 | 19.3 | 7.4 | 22.7 | 50.1 |

<前問で、いずれかの政党に対して、「支持している」または「やや支持している」の人 (N=1,132.4) >

問 7. あなたが支持している政党のうち、最も支持する政党をお知らせください。(ひとつだけ)

| | |
|------|--------------------|
| 50.1 | 1. 自由民主党 |
| 15.6 | 2. 民進党 |
| 5.3 | 3. 公明党 |
| 9.8 | 4. 日本共産党 |
| 14.0 | 5. おおさか維新の会 |
| 0.7 | 6. 社会民主党 |
| 1.4 | 7. 生活の党と山本太郎となかまたち |
| 1.9 | 8. 日本のことを大切にする党 |
| 0.2 | 9. 日本を元気にする会 |
| 0.2 | 10. 新党改革 |
| 0.2 | 11. 沖縄社会大衆党 |
| 0.5 | 12. その他の政党【 】 |

問 8. あなたは以下の政党について、どのような印象を持っていますか。あてはまるものをすべてお知らせください。(それぞれいくつでも)

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | N |
|-------------|---------|-------------|--------|-------------|---------|------------|--------|--------|------------|-----------|---------|
| | ビジョンがある | シッポにリーダーがある | 好感が持てる | 革新的なことを起こせる | 市民感覚がある | 組織力やチームがある | 行動力がある | 責任感がある | 政策がよく理解できる | あてはまらない印象 | |
| 1. 自由民主党 | 12.9 | 31.6 | 9.2 | 4.7 | 3.4 | 23.1 | 22.1 | 15.2 | 11.3 | 40.7 | 1,780.9 |
| 2. 民進党 | 3.3 | 3.1 | 5.6 | 4.6 | 11.1 | 4.4 | 3.5 | 2.3 | 3.4 | 73.1 | 1,767.8 |
| 3. 公明党 | 4.6 | 4.0 | 4.0 | 2.3 | 6.9 | 19.5 | 4.8 | 4.4 | 3.6 | 66.2 | 1,771.2 |
| 4. 日本共産党 | 7.4 | 4.4 | 4.3 | 4.8 | 10.8 | 11.7 | 4.0 | 3.9 | 6.0 | 65.0 | 1,755.8 |
| 5. おおさか維新の会 | 10.8 | 7.1 | 7.3 | 20.2 | 12.0 | 4.4 | 13.8 | 4.3 | 5.9 | 54.0 | 1,748.0 |

※Nは問6のそれぞれの政党で「政党名を知らない」を除いた数。

問 9. あなたは今回の参議院選挙期間中（6月22日～7月10日）に、以下のソーシャルメディアで選挙に関する情報をみましたか。みたものをすべてお知らせください。（いくつでも）

| | |
|------|-------------------------------|
| 1.8 | 1. mixi（ミクシィ） |
| 8.7 | 2. Facebook（フェイスブック） |
| 9.9 | 3. Twitter（ツイッター） |
| 1.9 | 4. Google+（グーグルプラス） |
| 6.4 | 5. LINE（ライン） |
| 7.0 | 6. YouTube（ユーチューブ） |
| 2.4 | 7. ニコニコ動画 |
| 1.5 | 8. Instagram（インスタグラム） |
| 0.3 | 9. その他のソーシャルメディア【 】 |
| 38.6 | 10. ソーシャルメディアでは選挙に関する情報を見ていない |
| 39.4 | 11. ソーシャルメディアを使っていない |

問 10. あなたは今回の参議院選挙期間中（6月22日～7月10日）、以下のメディアで選挙に関する情報を何回くらい見たり聞いたりしましたか。（それぞれひとつだけ）

| | 1 ほぼ毎日 | 2 週に数回 | 3 選挙期間中に数回 | 4 選挙期間中に1回 | 5 まったく見ていない |
|---------------------------------------|-----------|-----------|---------------|---------------|----------------|
| 1. テレビ | 38.7 | 23.2 | 17.5 | 3.6 | 17.0 |
| 2. 新聞 | 23.4 | 12.2 | 12.2 | 4.8 | 47.4 |
| 3. 政党・候補者のポスター・パンフレット | 8.2 | 14.5 | 26.7 | 11.1 | 39.5 |
| 4. 政党・候補者の新聞広告・テレビ広告 | 3.6 | 10.7 | 23.1 | 7.5 | 55.1 |
| 5. 政党・候補者の街頭演説・宣伝車 | 2.5 | 7.5 | 23.0 | 8.4 | 58.6 |
| 6. 政党・候補者のウェブサイト（ブログを含む） | 1.0 | 2.3 | 6.7 | 3.4 | 86.6 |
| 7. 政党・候補者のソーシャルメディア | 0.7 | 2.2 | 3.6 | 1.5 | 92.1 |
| 8. 政党・候補者のメール・メールマガジン | 0.6 | 1.6 | 2.9 | 1.5 | 93.5 |
| 9. 政党・候補者のネット広告 | 1.0 | 2.3 | 5.2 | 2.2 | 89.3 |
| 10. 政党・候補者のネット動画 | 0.6 | 2.3 | 4.4 | 2.3 | 90.4 |
| 11. 友人・知人のソーシャルメディア | 1.6 | 2.5 | 4.1 | 1.1 | 90.8 |
| 12. インターネットのポータルサイト（Yahoo!など）・ニュースサイト | 7.5 | 8.7 | 10.0 | 3.2 | 70.7 |
| 13. まとめサイト（NAVERまとめなど） | 1.3 | 3.5 | 5.4 | 2.4 | 87.4 |
| 14. 選挙公報 | 0.9 | 4.2 | 12.9 | 16.2 | 65.9 |
| 15. 選挙に関連した家族や友人との会話 | 2.1 | 7.0 | 18.6 | 7.3 | 64.9 |
| 16. 政党集会・市民集会 | 0.4 | 1.9 | 3.1 | 2.4 | 92.2 |
| 17. メディアを問わず世論調査 | 1.0 | 5.5 | 9.9 | 5.1 | 78.5 |
| 18. 選挙についての検索結果（Googleなどで） | 1.0 | 3.2 | 7.5 | 3.9 | 84.4 |

※ウェブサイトのNは問 10(6)、ソーシャルメディアのNは問 10(7)で、それぞれ選挙期間中に1回以上接触した人。

問 11. あなたが、今回の参議院選挙期間中（6月22日～7月10日）に、以下の政党のウェブサイト、ソーシャルメディアを見たことがありますか。あてはまるものをすべて選択してください。（いくつでも）

| | ウェブサイト(ブログを含む) (N=240.0) | ソーシャルメディア (N=141.8) |
|--------------------|-----------------------------|------------------------|
| 1. 自由民主党 | 50.0 | 55.8 |
| 2. 民進党 | 22.8 | 23.7 |
| 3. 公明党 | 13.4 | 11.7 |
| 4. 日本共産党 | 12.8 | 12.3 |
| 5. おおさか維新の会 | 16.8 | 15.9 |
| 6. 社会民主党 | 6.2 | 4.5 |
| 7. 生活の党と山本太郎となかまたち | 7.6 | 7.6 |
| 8. 日本のこころを大切にする党 | 12.3 | 9.6 |
| 9. 日本を元気にする会 | 5.7 | 5.5 |
| 10. 新党改革 | 5.3 | 3.9 |
| 11. 沖縄社会大衆党 | 2.2 | 3.4 |
| 12. その他の政党 | 2.0 | 1.0 |
| 13. この中で見たものはない | 38.2 | 26.9 |

問 12. あなたは今回の参議院選挙期間中（6月22日～7月10日）、選挙に関連して、以下の話題をネット上に書き込んだり、シェアしたりしましたか。あてはまるものをすべて選択してください。（いくつでも）

| | |
|------|----------------------------|
| 6.1 | 1. 政党に関する話題 |
| 2.0 | 2. 党首に関する話題 |
| 4.2 | 3. 候補者に関する話題 |
| 2.9 | 4. 争点に関する話題 |
| 0.3 | 5. その他の選挙に関する話題 |
| 90.8 | 6. ネット上に書き込んだり、シェアしたりしていない |

<前問で、書き込んだりシェアしたりしている人 (N=165.1) >

問 13. あなたは前問でネット上に書き込んだり、シェアしたりした内容で、次の情報源から引用したり、直接言及したりしたことはありますか。あてはまるものをすべて選択してください。（いくつでも）

| | |
|------|---------------------------------|
| 52.1 | 1. ネット上のニュースサイト |
| 26.3 | 2. 政党や候補者のウェブサイトや動画 |
| 18.8 | 3. 政党や候補者が投稿したソーシャルメディア |
| 19.4 | 4. テレビ局が発信したソーシャルメディア |
| 12.4 | 5. 新聞社が発信したソーシャルメディア |
| 20.9 | 6. 一般の人（知人・友人を含む）が投稿したソーシャルメディア |
| 0.0 | 7. その他のネット上の情報【 】 |
| 12.8 | 8. テレビ（ネット以外） |
| 11.1 | 9. 新聞（ネット以外） |
| 0.7 | 10. その他（ネット以外）【 】 |
| 18.0 | 11. 引用したり、直接言及したりしていない |

<Nはそれぞれ問 10 で選挙期間中に 1 回以上接触した人>

問 14. あなたが、今回の参議院選挙で利用した情報源は、どの程度、役に立ちましたか。
(それぞれひとつだけ)

| | 1 役に 立った | 2 た や や 役に 立っ た | 3 た あ な ま り 役 に 立 た | 4 っ 役 に 立 た な か | N |
|---------------------------------------|----------------|-----------------------------------|--|--------------------------------------|---------|
| 1. テレビ | 20.2 | 44.1 | 26.4 | 9.3 | 1,485.9 |
| 2. 新聞 | 22.3 | 51.6 | 19.0 | 7.1 | 942.5 |
| 3. 政党・候補者のポスター・パンフレット | 6.2 | 34.9 | 39.7 | 19.3 | 1,084.3 |
| 4. 政党・候補者の新聞広告・テレビ広告 | 5.9 | 31.2 | 42.4 | 20.4 | 803.9 |
| 5. 政党・候補者の街頭演説・宣伝車 | 6.3 | 21.7 | 45.9 | 26.1 | 741.4 |
| 6. 政党・候補者のウェブサイト（ブログを含む） | 18.3 | 35.5 | 31.3 | 14.8 | 240.0 |
| 7. 政党・候補者のソーシャルメディア | 17.6 | 42.8 | 29.6 | 10.0 | 197.5 |
| 8. 政党・候補者のメール、メールマガジン | 14.9 | 42.3 | 34.5 | 8.3 | 115.9 |
| 9. 政党・候補者のネット広告 | 11.5 | 30.5 | 38.1 | 19.8 | 191.3 |
| 10. 政党・候補者のネット動画 | 16.5 | 36.1 | 31.3 | 16.1 | 171.7 |
| 11. 友人・知人のソーシャルメディア | 8.9 | 42.6 | 33.4 | 15.1 | 235.6 |
| 12. インターネットのポータルサイト（Yahoo!など）・ニュースサイト | 15.8 | 46.8 | 24.4 | 13.0 | 524.8 |
| 13. まとめサイト（NAVERまとめなど） | 15.2 | 48.5 | 21.2 | 15.2 | 225.7 |
| 14. 選挙公報 | 18.6 | 50.7 | 23.0 | 7.7 | 611.5 |
| 15. 選挙に関連した家族や友人との会話 | 13.3 | 51.7 | 27.4 | 7.6 | 628.3 |
| 16. 政党集会・市民集会 | 12.1 | 45.6 | 30.7 | 11.6 | 139.1 |
| 17. メディアを問わず世論調査 | 8.4 | 46.7 | 33.4 | 11.5 | 384.4 |
| 18. 選挙についての検索結果（Googleなどで） | 12.9 | 54.7 | 23.3 | 9.0 | 279.8 |

<Nはそれぞれ問 10 で選挙期間中に 1 回以上接触した人>

問 15. あなたが、今回の参議院選挙で利用した情報源は、どの程度、信頼できましたか。
(それぞれひとつだけ)

| | 1 信 頼 で き た | 2 た や や 信 頼 で き | 3 き あ ま り 信 頼 で な か つ た | 4 信 頼 で き な か | N |
|---------------------------------------|----------------------------|--------------------------------------|--|---------------------------------|---------|
| 1. テレビ | 12.0 | 54.0 | 25.9 | 8.1 | 1,485.9 |
| 2. 新聞 | 16.2 | 57.9 | 19.6 | 6.2 | 942.5 |
| 3. 政党・候補者のポスター・パンフレット | 5.6 | 41.2 | 41.4 | 11.8 | 1,084.3 |
| 4. 政党・候補者の新聞広告・テレビ広告 | 6.2 | 35.7 | 46.2 | 11.9 | 803.9 |
| 5. 政党・候補者の街頭演説・宣伝車 | 6.6 | 30.7 | 45.3 | 17.3 | 741.4 |
| 6. 政党・候補者のウェブサイト（ブログを含む） | 11.1 | 46.3 | 30.7 | 12.0 | 240.0 |
| 7. 政党・候補者のソーシャルメディア | 13.7 | 41.3 | 37.8 | 7.1 | 197.5 |
| 8. 政党・候補者のメール、メールマガジン | 12.9 | 46.6 | 34.1 | 6.3 | 115.9 |
| 9. 政党・候補者のネット広告 | 11.1 | 35.1 | 41.3 | 12.5 | 191.3 |
| 10. 政党・候補者のネット動画 | 16.1 | 37.9 | 36.5 | 9.5 | 171.7 |
| 11. 友人・知人のソーシャルメディア | 8.8 | 48.0 | 32.3 | 10.9 | 235.6 |
| 12. インターネットのポータルサイト（Yahoo!など）・ニュースサイト | 8.3 | 57.3 | 26.6 | 7.7 | 524.8 |
| 13. まとめサイト（NAVERまとめなど） | 8.9 | 51.2 | 30.9 | 9.1 | 225.7 |
| 14. 選挙公報 | 16.8 | 55.6 | 23.0 | 4.5 | 611.5 |
| 15. 選挙に関連した家族や友人との会話 | 14.3 | 62.3 | 20.1 | 3.2 | 628.3 |
| 16. 政党集会・市民集会 | 16.5 | 39.0 | 35.4 | 9.1 | 139.1 |
| 17. メディアを問わず世論調査 | 7.9 | 53.1 | 32.1 | 7.0 | 384.4 |
| 18. 選挙についての検索結果（Googleなどで） | 10.6 | 58.6 | 23.8 | 7.0 | 279.8 |

<問 1 で、1「投票した」を選択した人のみ（N=1,315.4）>

問 16. あなたが政党や候補者に投票するとき何を判断の基準にしましたか。あてはまるものをすべて選択してください。（いくつでも）

| | |
|------|----------------|
| 31.6 | 1. 候補者の人柄やイメージ |
| 38.3 | 2. 候補者の主張 |
| 33.7 | 3. 政党のイメージ |
| 44.7 | 4. 政党の主張 |
| 8.6 | 5. 周りの人の意見や評価 |
| 2.5 | 6. 運動員からの働きかけ |
| 2.1 | 7. その他 |
| 18.3 | 8. 参考にしたものはない |

問 17. あなたは今回の参議院選挙期間中（6月22日～7月10日）、以下の争点に関する情報を見ましたか。あてはまるものをすべてお知らせください。（いくつでも）

| | |
|------|--------------------------|
| 46.4 | 1. 景気 |
| 27.8 | 2. 雇用問題 |
| 24.4 | 3. 消費税引き上げ |
| 15.3 | 4. T P P（環太平洋パートナーシップ）協定 |
| 6.3 | 5. 東アジア外交問題 |
| 12.2 | 6. 沖縄基地問題 |
| 15.7 | 7. 原子力発電所の稼働 |
| 34.7 | 8. 憲法改正 |
| 31.9 | 9. 年金、医療、介護などの社会保障 |
| 26.5 | 10. 子育て支援 |
| 9.6 | 11. 震災復興（東日本大震災・熊本地震） |
| 18.3 | 12. 集団的自衛権 |
| 30.0 | 13. あてはまるものはない |

問 18. あなたが今回の参議院選挙の投票の際、以下の争点のうち、どれを重視しましたか。あてはまるものをすべてお知らせください。（いくつでも）

| | |
|------|--------------------------|
| 39.3 | 1. 景気 |
| 20.2 | 2. 雇用問題 |
| 15.4 | 3. 消費税引き上げ |
| 5.6 | 4. T P P（環太平洋パートナーシップ）協定 |
| 4.5 | 5. 東アジア外交問題 |
| 4.6 | 6. 沖縄基地問題 |
| 11.5 | 7. 原子力発電所の稼働 |
| 27.5 | 8. 憲法改正 |
| 29.3 | 9. 年金、医療、介護などの社会保障 |
| 17.3 | 10. 子育て支援 |
| 7.3 | 11. 震災復興（東日本大震災・熊本地震） |
| 13.8 | 12. 集団的自衛権 |
| 24.8 | 13. あてはまるものはない |

<前問で、1～16のいずれかに回答があった人（N=1,346.2）>

問 19. あなたが今回の参議院選挙の投票の際、最も重視した争点をお知らせください。（ひとつだけ）

| | | |
|------|----|-----------------------|
| 32.7 | 1 | 景気 |
| 5.3 | 2 | 雇用問題 |
| 6.3 | 3 | 消費税引き上げ |
| 0.4 | 4 | T P P（環太平洋パートナーシップ）協定 |
| 1.4 | 5 | 東アジア外交問題 |
| 0.2 | 6 | 沖縄基地問題 |
| 2.8 | 7 | 原子力発電所の稼働 |
| 21.5 | 8 | 憲法改正 |
| 15.4 | 9 | 年金、医療、介護などの社会保障 |
| 8.7 | 10 | 子育て支援 |
| 1.2 | 11 | 震災復興（東日本大震災・熊本地震） |
| 4.2 | 12 | 集団的自衛権 |

問 20. あなたは、次の(1)～(4)のメディアの情報を、どの程度、**信頼**できますか。それぞれについて、1～5の中から1つずつ○をつけてください。なお、利用していないメディアについては、大体の印象でお答えください。(○はそれぞれ1つずつ)

| | 非常に信頼できる | ある程度信頼できる | どちらともいえない | あまり信頼できない | まったく信頼できない |
|--------------------|----------|-----------|-----------|-----------|------------|
| 1. テレビニュース | 5.1 | 46.1 | 27.4 | 13.0 | 8.3 |
| 2. 新聞 | 6.3 | 45.3 | 29.5 | 11.0 | 7.9 |
| 3. インターネットのニュースサイト | 1.9 | 31.0 | 44.9 | 15.7 | 6.5 |
| 4. ソーシャルメディア上のニュース | 1.2 | 15.7 | 50.8 | 21.9 | 10.5 |

問 21. あなたは、次の(1)～(4)のメディアの情報を、どの程度、**公正**だと思いますか。それぞれについて、1～5の中から1つずつ○をつけてください。なお、利用していないメディアについては、大体の印象でお答えください。(○はそれぞれ1つずつ)

| | 非常に公正である | ある程度公正である | どちらともいえない | あまり公正でない | まったく公正でない |
|--------------------|----------|-----------|-----------|----------|-----------|
| 1. テレビニュース | 3.4 | 34.4 | 36.3 | 15.3 | 10.6 |
| 2. 新聞 | 3.6 | 34.1 | 39.0 | 13.4 | 9.9 |
| 3. インターネットのニュースサイト | 1.3 | 23.3 | 51.7 | 17.0 | 6.7 |
| 4. ソーシャルメディア上のニュース | 1.1 | 12.8 | 54.4 | 20.6 | 11.0 |

問 22. あなたは、次の(1)～(4)のメディアの情報を、どの程度、**正確**だと思いますか。それぞれについて、1～5の中から1つずつ○をつけてください。なお、利用していないメディアについては、大体の印象でお答えください。(○はそれぞれ1つずつ)

| | 非常に正確である | ある程度正確である | どちらともいえない | あまり正確でない | まったく正確でない |
|--------------------|----------|-----------|-----------|----------|-----------|
| 1. テレビニュース | 3.9 | 43.4 | 34.1 | 11.4 | 7.1 |
| 2. 新聞 | 5.1 | 42.7 | 36.4 | 9.1 | 6.5 |
| 3. インターネットのニュースサイト | 1.6 | 25.9 | 53.0 | 14.6 | 4.8 |
| 4. ソーシャルメディア上のニュース | 1.0 | 14.6 | 57.7 | 19.2 | 7.5 |

問 23. あなたは、選挙権年齢が満 18 歳以上に引き下げられたことについて、どのようにお考えですか。それぞれあてはまるものをひとつ選択してください。

| | そう思う | まあそう思う | あまりそう思わない | まったくそう思わない |
|--|------|--------|-----------|------------|
| 1. 若い世代の政治的関心の高まりが期待できる | 9.1 | 48.6 | 34.0 | 8.4 |
| 2. 若い世代の意見が政治に反映されやすくなった | 7.9 | 49.2 | 33.1 | 9.7 |
| 3. 若い世代は投票に行かないから何も変わらない | 9.4 | 36.4 | 46.6 | 7.5 |
| 4. 20歳未満は的確な政治的判断ができないから評価できない | 7.1 | 27.9 | 50.4 | 14.6 |
| 5. 全般的にみて、選挙権年齢が満 18 歳以上に引き下げられたことは評価できる | 15.6 | 48.9 | 27.4 | 8.1 |

問 24. あなたが最後に在籍、または現在在学中の学校は、次のどれですか。あてはまるものを1つだけ選択してください。(1つだけ)

| | | |
|------|---|----------------------------|
| 2.1 | 1 | 中学校(旧制尋常小学校、旧制高等小学校を含む) |
| 26.6 | 2 | 高校(旧制中学校、実業学校、師範学校、女学校を含む) |
| 22.3 | 3 | 短大・高専・旧制高校・専門学校 |
| 44.8 | 4 | 大学 |
| 4.2 | 5 | 大学院 |

医療・健康情報を中心とする個人情報提供に関する寛容度と不安
— 日米独 3 国国際比較調査

Survey on the Attitude toward the Provision of Personal Information
: Cross-National Comparison among Japan, the United States and Germany

橋元 良明 HASHIMOTO, Yoshiaki 河井 大介 KAWAI Daisuke

橋田 浩一 HASHIDA, Koiti

目次

| | |
|---|-------|
| 0. 調査の目的と概要 | |
| 0.1 調査の目的..... | 橋元 良明 |
| 0.2 方法、概要..... | 河井 大介 |
| 1. 医療・健康情報の提供..... | 橋元 良明 |
| 1.1 医療・健康情報の取得情報源（問2） | |
| 1.2 医療・健康情報提供に際して重要視する事柄（問13） | |
| 1.3 医療・健康情報提供に 同意するに際して 重要視する事柄（問14） | |
| 1.4 医療・健康情報について抵抗感をもつ事柄（問20） | |
| 1.5 医療分野にかかわるサービス・アプリを利用する場合に考えられる懸念や利用しない理由（問21） | |
| 1.6 医療・健康情報の不安軽減策の効果（問23） | |
| 2. 個人情報の提供..... | 河井 大介 |
| 2.1 テーマ別個人情報の提供意向（問7） | |
| 2.2 テーマ別大規模情報活用のメリット有無認知（問9） | |
| 2.3 テーマ別情報活用のリスクと期待のバランス（問12） | |
| 2.4 個人情報活用と同意・取扱認否（問8） | |
| 2.5 第三者提供への同意（問10）および同意の条件（問11） | |
| 3. 情報公開の許容度、プライバシー侵害に関する不安..... | 河井 大介 |
| 3.1 情報公開の許容度（問15） | |
| 3.2 ネット上のトラブルに関する不安（問16） | |
| 3.3 プライバシー侵害に関する不安（問22） | |

4. その他

| | |
|-------------------------------------|-------|
| 4.1 先進医療サービスの利用意向（問3、問4）..... | 河井 大介 |
| 4.2 健康習慣（問18）..... | 河井 大介 |
| 4.3 医療・健康情報の関する不満等（問19+問17(7)）..... | 橋元 良明 |
| 4.4 クラウドサービスの利用と信頼（問5、問6）..... | 河井 大介 |
| <補足資料> | |
| 質問票と単純集計結果..... | 河井 大介 |

橋元 良明 東京大学大学院情報学環
河井 大介 東京大学大学院情報学環
橋田 浩一 東京大学大学院情報理工学系研究科ソーシャル ICT 研究センター

本報告は JSPS 科研費 15H02517 の助成を受けたものです。2015 年度—2017 年度科学研究費助成研究「個人を中心とするヘルスケアデータの活用に関する研究」（研究代表者：橋田浩一）。

0. 調査の目的と概要

0.1 調査の目的

個人情報保護法制定の世界的潮流やプライバシー意識の向上等を背景として 2003 年 5 月に「個人情報の保護に関する法律（略称：個人情報保護法）」が成立し、2005 年 4 月には全面施行された。さらに「改正個人情報保護法」が 2016 年 12 月に閣議決定され、2017 年 3 月には全面施行となる。

法的にも、国民の意識としても個人情報保護に対して厳格化が進む一方で、産業や医療の様々な領域で、匿名化された個人情報を活用し、社会や生活、学術に生かそうという動きが活発化している。いわゆるビッグデータの活用もその中で重要な課題になる。

科学研究費助成研究「個人を中心とするヘルスケアデータの活用に関する研究」（研究代表者：橋田浩一）では、ヘルスケア等において価値の高いサービスを実現し、現場で運用するシステムの構築に関する研究を進めているが、その前提として、個人データの管理・提供に関する意識の実態、個人データを活用したサービスの社会的受容を高めるための条件を明らかにすることが必要となる。

以上に鑑み、筆者等は、アンケートによる国際比較調査によって下記の項目を明らかにすることを試みた。

- (1) 医療・健康情報の提供に際して何を重要視し、どのような条件下で提供に同意するか。
- (2) 医療・健康情報の取扱いに関して不安をいだくのはどのような事柄か。
- (3) 一般的に自らの個人情報を提供する場合、どのような目的であれば提供に同意するか。
- (4) どのような個人情報なら提供を可とするか。
- (5) どのような領域において個人情報を活用するメリットを感じるか。
- (6) 第三者提供に対して同意する条件はどのようなものか。
- (7) プライバシーの侵害について、どのようなことに不安を感じるか。

さらに付随的に下記についても明らかにしようと試みた。

- (8) ネット利用において、どのようなことに不安を覚えるか。
- (9) 先進医療サービスのいくつかについて、利用意向はあるか。
- (10) 医療・健康に関して一般的に抱く不満はどのようなことか。
- (11) 日頃どのような健康の維持増進行動を行っているか。
- (12) 今後、ヘルスケアに関する情報を授受するにあたって、現状でクラウドサービスをどの程度利用し、またどの程度信頼しているか。

なお、本報告の分析において、選択肢が4択または5択であった場合、日本人の回答は両極の選択肢の選択比率が低く、中間の選択肢に偏る傾向があるため、基本的に、いずれの質問においても、肯定的回答／否定的回答の2値の値で比較し、検定をかけている。

また、標本母集団が異なる異国間データについて、異国間の統計的検定を施すことには様々な意見があるが、本報告では一つの参考情報として、3国間の χ^2 自乗検定および残差分析を行っている。

0.2 方法、概要

医療・健康情報に関する利活用に関する意識を国際比較するため、日本、アメリカ、ドイツでインターネット調査を行った。調査はそれぞれの国で20～69歳の男女に対し、10歳刻み、男女同数の10セルでのクォーターサンプリングを行った。調査は2016年11月15日(火)～20日(日)に実施し、それぞれ1,550サンプル、合計4,650サンプルを回収した(表0.2.1)。質問項目は、医療・健康情報の提供、個人情報の提供、情報公開の許容度、プライバシー侵害に関する不安等、合計28問である。

表0.2.1 クォータごとの回収数(人)

| | | 20-29歳 | 30-39歳 | 40-49歳 | 50-59歳 | 60-69歳 | 合計 |
|------|----|--------|--------|--------|--------|--------|-------|
| 日本 | 男性 | 155 | 155 | 155 | 155 | 155 | 755 |
| | 女性 | 155 | 155 | 155 | 155 | 155 | 755 |
| | 合計 | 310 | 310 | 310 | 310 | 310 | 1,550 |
| アメリカ | 男性 | 155 | 155 | 155 | 155 | 155 | 755 |
| | 女性 | 155 | 155 | 155 | 155 | 155 | 755 |
| | 合計 | 310 | 310 | 310 | 310 | 310 | 1,550 |
| ドイツ | 男性 | 155 | 155 | 155 | 155 | 155 | 755 |
| | 女性 | 155 | 155 | 155 | 155 | 155 | 755 |
| | 合計 | 310 | 310 | 310 | 310 | 310 | 1,550 |
| 合計 | 男性 | 465 | 465 | 465 | 465 | 465 | 2,325 |
| | 女性 | 465 | 465 | 465 | 465 | 465 | 2,325 |
| | 合計 | 930 | 930 | 930 | 930 | 930 | 4,650 |

1. 医療・健康情報の提供

本章では、まず医療・健康情報の取得情報源について結果を見た後（問 2）、医療・健康情報提供に際して重要視する事柄（問 13）、提供に**同意する**にあたって重視する事柄（問 14）、医療健康情報について抵抗感をもつ事柄（問 20）、医療分野にかかわるサービス・アプリを利用する場合に考えられる懸念（問 21）、医療・健康情報の不安軽減策の効果（問 23）について検討する。

※なお、0.1 で述べたように、本報告の分析において、選択肢が 4 択または 5 択であった場合、日本人の回答は両極の選択肢の選択比率が低く、中間の選択肢に偏る傾向があるため、基本的に、いずれの質問においても、肯定的回答／否定的回答の 2 値の値で比較し、検定をかけている。

また、標本母集団が異なる異国間データについて、異国間の統計的検定を施すことには様々な意見があるが、本報告では一つの参考情報として、3 国間の χ 自乗検定および残差分析を行っている。

1.1 医療・健康情報の取得情報源（問 2）

表 1.1.1 は、医療・健康情報の取得情報源先について、「1. (情報を得ることが) よくある」「2. たまにある」を合わせた肯定的回答比率を示したものである（他の選択肢は「3. あまりない」「4. まったくない」）。

表中※印欄に示されたアスタリスクは χ^2 検定の結果（いずれも行、すなわち横での比較）を示し、太字は残差分析で有意に高く、赤字は有意に低いことを表す（以下、アスタリスクの意味は 1 章を通じて共通）。

国別に見た場合、日本はテレビ (75.5%)、パソコン・タブレットからのネット情報 (71.7%) が多く、米国はパソコン・タブレットからのネット情報 (65.9%)、家族 (57.5%)、ドイツはパソコン・タブレットからのネット情報 (65.5%)、家族 (57.6%) が多い。

3 国で比較した場合、**日本はパソコン・タブレット、テレビ**が他国に比べ数値が高く、**アメリカはスマートフォン・従来型携帯電話からのネット情報 (42.5%)** が多い。ドイツは他国との比較で**雑誌 (38.8%)、病院のパンフレット (37.5%)、新聞 (37.4%)** が多い。

日本の回答を性別に見た場合、ラジオを除くほとんどの媒体で有意に男性より女性の方が、その媒体から取得することがよくあると答えており、最も回答率が高いのがテレビ (82.3%) である。

日本の回答を年齢層別に見た場合、**20 代・30 代はスマートフォン・従来型携帯からのネット情報**（それぞれ 63.5%、50.3%）が多い。**40 代は雑誌 (33.5%)、50 代は友人知人 (52.9%)、新聞 (42.3%)** の比率が高いことが特徴的である。**60 代はテレビ (83.5%)、パソコン・タブレットからのネット情報 (78.4%)、家族 (60.6%)、新聞 (60.3%)** の回答比率が高い。

表 1.1.1 医療・健康情報の取得情報源

| | 日本 | | | | 日本 | | | 日本 | | | | | |
|-------------------------|-------|-------|-------|-----|-------|-------|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-----|
| | 日本 | 米 | 独 | ※ | 男性 | 女性 | ※ | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | ※ |
| パソコン・タブレットからのネット情報 | 71.7% | 65.9% | 65.5% | *** | 67.4% | 76.0% | *** | 66.5% | 68.1% | 71.3% | 74.2% | 78.4% | ** |
| スマートフォン・従来型携帯電話からのネット情報 | 40.2% | 42.5% | 37.0% | ** | 35.5% | 44.9% | *** | 63.5% | 50.3% | 39.0% | 31.6% | 16.5% | *** |
| テレビ | 75.5% | 43.3% | 45.9% | *** | 68.8% | 82.3% | *** | 71.6% | 70.0% | 73.5% | 79.0% | 83.5% | *** |
| ラジオ | 15.8% | 29.1% | 28.3% | *** | 17.8% | 13.8% | * | 12.9% | 12.6% | 14.8% | 19.4% | 19.4% | * |
| 新聞 | 36.3% | 32.6% | 37.4% | * | 35.1% | 37.5% | ns | 23.5% | 20.6% | 34.8% | 42.3% | 60.3% | *** |
| 雑誌 | 28.2% | 35.8% | 38.8% | *** | 23.4% | 33.0% | *** | 21.9% | 26.1% | 33.5% | 30.0% | 29.4% | * |
| 家族 | 54.1% | 57.5% | 57.6% | ns | 46.5% | 61.7% | *** | 48.4% | 53.5% | 58.5% | 54.2% | 60.6% | * |
| 友人・知人 | 47.6% | 50.3% | 51.3% | ns | 37.3% | 57.9% | *** | 40.6% | 44.8% | 47.7% | 52.9% | 51.9% | * |
| 病院のパンフレット | 29.3% | 33.9% | 37.5% | *** | 23.2% | 35.4% | *** | 19.7% | 24.2% | 27.4% | 31.6% | 43.5% | *** |
| それ以外のパンフレット | 12.5% | 25.0% | 26.5% | *** | 10.2% | 14.8% | ** | 9.7% | 11.6% | 15.2% | 12.9% | 13.2% | ns |
| フリーペーパー・チラシ | 11.8% | 24.7% | 23.8% | *** | 8.1% | 15.5% | *** | 11.3% | 13.2% | 12.6% | 11.0% | 11.0% | ns |
| 保険会社の外交員 | 5.2% | 29.7% | 14.2% | *** | 5.7% | 4.8% | ns | 5.5% | 5.2% | 5.5% | 5.8% | 4.2% | ns |

※各属性(国、性別、年齢層)×各回答における[よく+たまにある/あまり+まったくない]のクロス集計の χ^2 検定結果

ns:no significant, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

残差分析の結果5%水準(両側検定)で数値が太字のものは「有意に高い」赤字は「有意に低い」ことを示す。

各国のN=1,550。日本の男性、女性ともにN=775。日本の各年齢層N=310。

1.2 医療・健康情報提供に際して重要視する事柄(問13)

表 1.2.1 は医療・健康情報を提供するに際して、重要視する事柄を尋ねた質問に対する結果である。表中の数値は「1.非常に重視する」「2.ある程度重視する」を合わせた「重視する」比率を示したものである(他の選択肢は「3.どちらでもない」「4.あまり重視しない」「5.まったく重視しない」)。

表 1.2.1 医療・健康情報を提供するに際して重視する事柄

| | 日本 | | | | 日本 | | | 日本 | | | | | |
|--------------------------|-------|-------|-------|-----|-------|-------|-----|-------|-------|-------|-------|-------|----|
| | 日本 | 米 | 独 | ※ | 男性 | 女性 | ※ | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | ※ |
| 適切な同意取得 | 76.6% | 80.6% | 78.3% | * | 71.9% | 81.3% | *** | 75.5% | 72.3% | 73.5% | 80.6% | 81.0% | * |
| 適切な情報の取り扱い方法(氏名の削除など) | 75.2% | 79.6% | 76.5% | * | 69.9% | 80.5% | *** | 72.9% | 73.9% | 71.6% | 78.1% | 79.7% | ns |
| 提供する情報の種類 | 72.6% | 75.7% | 73.5% | ns | 66.2% | 79.0% | *** | 69.7% | 71.3% | 70.3% | 74.5% | 77.1% | ns |
| 情報提供先の組織・企業がどこか | 70.9% | 74.4% | 72.3% | * | 64.6% | 76.3% | *** | 70.0% | 67.4% | 69.4% | 71.0% | 74.5% | ns |
| 自分へのメリット還元(ポイントや割引の付与など) | 52.5% | 65.2% | 38.9% | *** | 49.3% | 55.6% | * | 54.8% | 52.9% | 54.2% | 49.7% | 50.6% | ns |
| 利用目的の公共性 | 66.2% | 68.8% | 58.1% | *** | 61.2% | 71.2% | *** | 61.0% | 64.8% | 65.2% | 67.4% | 72.6% | * |

※各属性(国、性別、年齢層)×各回答における[重視する/重視しない]のクロス集計の χ^2 検定結果

ns:no significant, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

残差分析の結果5%水準(両側検定)で数値が太字のものは「有意に高い」赤字は「有意に低い」ことを示す。

各国のN=1,550。日本の男性、女性ともにN=775。日本の各年齢層N=310。

国別に見た場合、いずれの国でも「適切な同意取得」と「適切な情報の取扱方法」の重視度が高い。

「適切な同意取得」はどの国も75%以上の方が重視すると答えているが、とくにアメリカ(80.6%)の比率が高く、日本は他国との比較で重視すると答えた人の比率がやや低い(76.6%)。

「適切な情報の取扱方法(氏名の削除など)」も3国とも75%以上の方が重視すると答え

ている。3国の比較では、前項同様、アメリカの比率が高く(79.6%)、日本の比率がやや低い(75.2%)。

「提供する情報の種類」について3国で有意差がない。

「情報提供先の組織・企業がどこか」については、アメリカの比率が高く(74.4%)、日本の比率がやや低い(70.5%)。

「自分へのメリット還元」については、アメリカの比率が高く(65.2%)、ドイツの比率が低い(38.9%)。

「利用目的の公共性」についても、アメリカの比率が高く(68.8%)、ドイツの比率が低い(58.1%)。

概して、医療・医療健康情報の提供にはアメリカ人において慎重に検討する傾向が見られる。

日本の回答を性別に見た場合、すべての項目で男性より女性の方が重視すると答えた人の比率が高く、女性の方が医療・健康情報の提供に関して慎重に検討することがうかがわれる。

日本の回答を年齢層別に見た場合、「適切な同意取得」「利用目的の公共性」について有意差があり、いずれも60代において重視すると答えた人の比率が高い。概して、年齢が高くなるにつれ、情報提供に関して慎重に検討する様子うかがわれる。

1.3 医療・健康情報提供に同意するに際して重要視する事柄(問14)

表1.3.1は医療・健康情報の提供に同意するに際して、重要視する事柄を尋ねた質問に対する結果である。表中の数値は「1.非常に重視する」「2.ある程度重視する」を合わせた「重視する」比率を示したものである(他の選択肢は「3.どちらでもない」「4.あまり重視しない」「5.まったく重視しない」)。

表 1.3.1 医療・健康情報提供に同意するに際して重視する事柄

| | 日本 | | | | 日本 | | | 日本 | | | | | |
|----------------------------|--------------|--------------|--------------|-----|--------------|--------------|-----|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|-----|
| | 日本 | 米 | 独 | ※ | 男性 | 女性 | ※ | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | ※ |
| 情報の利用目的 | 77.9% | 82.1% | 74.3% | *** | 72.4% | 83.4% | *** | 75.2% | 75.2% | 72.6% | 82.3% | 84.2% | ** |
| 情報の外部送信・第三者提供の有無 | 74.1% | 79.7% | 73.2% | *** | 68.5% | 79.7% | *** | 72.3% | 71.9% | 68.4% | 78.7% | 79.4% | ** |
| 取得する情報項目 | 72.8% | 78.6% | 83.8% | *** | 67.1% | 78.5% | *** | 72.9% | 69.0% | 67.1% | 76.5% | 78.4% | ** |
| 情報取得者の情報 | 72.3% | 77.6% | 89.3% | *** | 65.7% | 79.0% | *** | 70.3% | 68.7% | 66.5% | 77.1% | 79.0% | *** |
| 適切な情報破棄の仕組み | 71.7% | 75.8% | 89.4% | *** | 64.0% | 79.4% | *** | 69.7% | 67.4% | 63.5% | 78.4% | 79.4% | *** |
| 第三者提供を行う場合はその提供先 | 71.7% | 76.9% | 71.0% | *** | 65.0% | 78.3% | *** | 68.7% | 69.0% | 64.2% | 77.4% | 79.0% | *** |
| 一定期間後の情報削除 およびその規定 | 70.1% | 77.4% | 70.6% | *** | 63.2% | 76.9% | *** | 68.4% | 66.1% | 61.0% | 76.8% | 78.1% | *** |
| いつでも情報の収集や使用を無効 にできる | 67.4% | 80.5% | 65.9% | *** | 60.6% | 74.1% | *** | 65.8% | 61.9% | 61.0% | 73.2% | 74.8% | *** |
| プライバシーポリシー変更時の手続き や通知方法 | 69.7% | 77.2% | 68.8% | *** | 63.2% | 76.3% | *** | 67.1% | 64.8% | 62.9% | 77.1% | 76.8% | *** |
| 問い合わせ窓口 | 64.6% | 76.5% | 69.9% | *** | 57.5% | 72.0% | *** | 58.1% | 61.6% | 61.9% | 71.0% | 71.3% | *** |

※各属性(国、性別、年齢層)×各回答における[重視する/重視しない]のクロス集計の χ^2 検定結果

ns:no significant, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001
 残差分析の結果5%水準(両側検定)で数値が太字のものは「有意に高い」赤字は「有意に低い」ことを示す。
 各国のN=1,550。日本の男性、女性ともにN=775。日本の各年齢層N=310。

全般的にどの項目も非常に重視度が高い。いずれの国も「情報の利用目的」が最も重要視されて同意条件になっている。3国を比較すれば、とくにアメリカは、いずれの項目においても最も重視度が高くなっている。

日本の回答を性別に見た場合、すべての項目で男性より女性の方が重視すると答えた人の比率が高く、女性の方が医療・健康情報提供への同意に際し慎重に検討することがうかがわれる。

日本の回答を年齢層別に見た場合、すべての項目で50代、60代において重視すると答えた人の比率が高い。概して、年齢が高くなるにつれ、情報提供への同意に際し慎重に検討する様子が見られるが、40代はほとんど項目で重視度が低くなっている。

1.4 医療・健康情報について抵抗感をもつ事柄(問20)

表1.4.1は医療・健康情報の提供にあたって抵抗感をもつ事柄を尋ねた質問に対する結果である。表中の数値は「1.大いに抵抗がある」「2.やや抵抗がある」を合わせた「抵抗感がある」比率を示したものである(他の選択肢は「3.どちらともいえない」「4.あまり抵抗がない」「5.まったく抵抗がない」)。

表 1.4.1 医療・健康情報について、抵抗感をもつ事柄

| | 日本 | | | | 日本 | | | 日本 | | | | | ※ |
|---------------|-------|-------|-------|-----|-------|-------|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-----|
| | 米 | 独 | ※ | 男性 | 女性 | ※ | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | ※ | |
| 担当の医師以外に閲覧される | 27.9% | 60.5% | 50.0% | *** | 23.2% | 32.5% | *** | 27.4% | 28.7% | 30.3% | 25.8% | 27.1% | ns |
| 収集・蓄積される | 30.5% | 57.2% | 41.3% | *** | 24.0% | 36.9% | *** | 30.3% | 29.0% | 35.2% | 28.4% | 29.4% | ns |
| 公開される | 69.5% | 71.4% | 68.8% | ns | 62.3% | 76.8% | *** | 61.9% | 65.2% | 72.6% | 74.2% | 73.9% | ** |
| 分析される | 37.5% | 49.4% | 30.5% | *** | 31.2% | 43.9% | *** | 36.8% | 35.2% | 39.7% | 37.4% | 38.7% | ns |
| 売買される | 79.5% | 78.3% | 70.8% | *** | 73.7% | 85.3% | *** | 69.7% | 76.1% | 81.0% | 83.2% | 87.4% | *** |

※各属性(国、性別、年齢層)×各回答における[抵抗感あり/抵抗感なし]のクロス集計の χ^2 検定結果

ns:no significant, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001
 残差分析の結果5%水準(両側検定)で数値が太字のものは「有意に高い」赤字は「有意に低い」ことを示す。
 各国のN=1,550。日本の男性、女性ともにN=775。日本の各年齢層N=310。

国別に見た場合、抵抗感の強い順番において、日米独とも「売買される」「公開される」が高い。

3国で比較すれば、「公開される」を除くすべての項目で米国の抵抗感が最も高くなっており、医療・健康情報に関する個人情報を処理することに抵抗感がかなり高い様子が見られる。日本では「担当医師以外に閲覧される」「収集・蓄積される」についての抵抗感是比较的少ない。一方で「売買される」に対する抵抗感は3国中最も高い。

日本の回答を性別に見た場合、すべての項目で男性より女性の方の抵抗感が高い。

日本の回答を年齢層別に見た場合、「公開される」と「売買される」について有意差があり、前者は50代、後者は60代の数値が最も高い。概して40代以上の年齢層において抵抗感が高いという傾向が見られる。

1.5 医療分野にかかわるサービス・アプリを利用する場合に考えられる懸念や利用しない理由(問21)

表1.5.1は医療分野に関わるサービスやアプリケーションを、インターネットを通じて利用する場合に考えられる懸念や利用しない理由の有無を尋ねた質問に対する結果である。表中の数値は「ある」と答えた人の比率を示したものである。

表 1.5.1 5 医療分野にかかわるサービス・アプリを利用する場合に考えられる懸念や利用しない理由

| | 日本 | | | | 日本 | | | | 日本 | | | | |
|---|-------|-------|-------|-----|-------|-------|-----|-------|-------|-------|-------|-------|----|
| | 日本 | 米 | 独 | ※ | 男性 | 女性 | ※ | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | ※ |
| インターネットや端末を使いこなす自信がない | 16.7% | 13.2% | 9.4% | *** | 9.5% | 23.9% | *** | 12.3% | 16.1% | 14.5% | 17.4% | 23.2% | ** |
| ネット回線や必要な端末を用意することができない | 7.6% | 8.9% | 7.0% | ns | 5.2% | 10.1% | *** | 9.0% | 6.1% | 6.5% | 6.8% | 9.7% | ns |
| 利用時の通信費用が負担 | 16.9% | 20.9% | 11.2% | *** | 14.1% | 19.7% | ** | 16.8% | 19.4% | 15.8% | 16.1% | 16.5% | ns |
| 端末の設定や操作することが面倒 | 16.3% | 15.0% | 10.6% | *** | 11.6% | 20.9% | *** | 15.5% | 11.9% | 15.8% | 19.0% | 19.0% | ns |
| 専門家に直接会って診察や指導を受けたい | 29.7% | 45.9% | 41.7% | *** | 24.8% | 34.7% | *** | 28.7% | 24.2% | 26.8% | 31.3% | 37.7% | ** |
| 自分の情報をアップロードすることにセキュリティの面で不安がある | 38.5% | 33.0% | 29.9% | *** | 31.9% | 45.0% | *** | 35.8% | 35.2% | 39.0% | 39.0% | 43.2% | ns |
| 自分の情報をアップロードすることにはプライバシー保護の観点から不安・抵抗がある | 36.1% | 30.3% | 31.5% | ** | 29.2% | 43.0% | *** | 31.6% | 33.2% | 36.8% | 36.8% | 41.9% | ns |
| その他 | 0.5% | 2.2% | 1.7% | *** | 0.6% | 0.3% | ns | 0.3% | 0.6% | 0.3% | 0.3% | 0.6% | ns |
| 懸念や利用しない理由はない | 27.7% | 21.0% | 26.1% | *** | 36.6% | 18.7% | *** | 32.9% | 30.6% | 26.5% | 28.1% | 20.3% | ** |

※各属性(国、性別、年齢層)×各回答における[懸念あり/懸念なし]のクロス集計の χ^2 検定結果

ns:no significant, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

残差分析の結果5%水準(両側検定)で数値が太字のものは「有意に高い」赤字は「有意に低い」ことを示す。

各国のN=1,550。日本の男性、女性ともにN=775。日本の各年齢層N=310。

国別に見た場合、懸念がある、と答えた人の比率において、日本は「自分の情報をアップロードすることにセキュリティの面で不安がある」「アップロードすることにはプライバシー保護の観点から不安・抵抗がある」の回答比率が高く、米国は「専門家に直接会って診察や指導を受けたい」「自分の情報をアップロードすることにセキュリティの面で不安がある」、ドイツは「専門家に直接会って診察や指導を受けたい」「アップロードすることにはプライバシー保護の観点から不安・抵抗がある」の回答比率が高かった。

3国を比較すると日本が「インターネットや端末を使いこなす自信がない」「端末の設定や操作することが面倒」「自分の情報をアップロードすることにセキュリティの面で不安がある」「アップロードすることにはプライバシー保護の観点から不安・抵抗がある」の4項目で懸念ありと答えた人の比率が最も高かったのに対し、米国とドイツは「専門家に直

接会って診察や指導を受けたい」と答えた人の比率が高かった。

日本の回答を性別に見た場合、すべての項目で男性より女性の方において懸念する人の比率が高かった。

日本の回答を年齢層別に見た場合、「インターネットや端末を使いこなす自信がない」「専門家に直接会って診察や指導を受けたい」の2項目で有意差があり、いずれも60代の回答比率が最も高かった。

1.6 医療・健康情報の不安軽減策の効果(問23)

表1.6.1は医療・健康情報について、様々な不安軽減策についてどのくらい効果があるかを尋ねた質問に対する結果である。表中の数値は「1. 不安がなくなる」「2. ほぼ不安がなくなる」「3. やや不安が減る」と答えた人の比率を合計した数値、すなわち「不安がなくなる」と答えた人の比率を示したものである（他の選択肢は「4. 変わらない」）。

表 1.6.1 医療・健康情報の不安軽減策の効果

| | 日本 | | | | 日本 | | | 日本 | | | | | ※ |
|--|-------|-------|-------|-----|-------|-------|----|-------|-------|-------|-------|-------|----|
| | 日本 | 米 | 独 | ※ | 男性 | 女性 | ※ | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | |
| 誰の情報か分からないように医療・健康情報を加工処理することを、医療・健康情報を二次利用する企業などに義務付ける | 80.6% | 80.8% | 63.3% | *** | 80.6% | 80.6% | ns | 84.5% | 79.7% | 73.2% | 82.6% | 83.2% | ** |
| 企業などが不適切に医療・健康情報を二次利用していたことが明らかになった場合に、政府がその企業などに罰金や罰則を科す | 78.2% | 76.4% | 62.9% | *** | 78.1% | 78.3% | ns | 82.9% | 78.1% | 71.0% | 81.3% | 77.7% | ** |
| 企業などが不適切に医療・健康情報を二次利用していると思われる場合に、自身の情報の利用停止、削除などを企業または裁判所に請求できる | 77.8% | 79.4% | 62.2% | *** | 76.9% | 78.7% | ns | 83.2% | 77.1% | 70.0% | 77.4% | 81.3% | ** |
| 情報が外部に漏れないよう安全管理体制をしっかりと整えることを、医療・健康情報を二次利用する企業などに義務付ける | 77.6% | 80.9% | 65.2% | *** | 76.8% | 78.5% | ns | 81.3% | 76.8% | 70.3% | 77.1% | 82.6% | ** |
| 不適切に医療・健康情報が二次利用されていると思われる場合に、政府などの公的な機関が苦情・相談の受付や調査、指導などを行う | 76.0% | 78.1% | 62.0% | *** | 77.4% | 74.6% | ns | 79.7% | 74.5% | 70.6% | 75.8% | 79.4% | ns |

※各属性(国、性別、年齢層)×各回答における[不安低減効果あり/効果なし]のクロス集計の χ^2 検定結果

ns:no significant, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

残差分析の結果5%水準(両側検定)で数値が太字のものは「有意に高い」赤字は「有意に低い」ことを示す。

各国のN=1,550。日本の男性、女性ともにN=775。日本の各年齢層N=310。

国別に見た場合、どの国も質問票に提示された不安低減策で一定の効果をもっている。日本では「誰の情報か分からないように医療・健康情報を加工処理することを、医療・健康情報を二次利用する企業などに義務付ける」が、米国では「情報が外部に漏れないよう安全管理体制をしっかりと整えることを、医療・健康情報を二次利用する企業などに義務付ける」、ドイツではアメリカ同様「情報が外部に漏れないよう安全管理体制をしっかりと

整えることを、医療・健康情報を二次利用する企業などに義務付ける」の項目が最も不安定原効果が見られる。

3 国を比較すれば、すべての項目において、ドイツが最も不安低減効果が少ない。

日本の回答を性別に見た場合、いずれの項目でも男女の有意差は見られない。

日本の回答を年齢層別に見た場合、「企業などが不適切に医療・健康情報を二次利用していたことが明らかになった場合に、政府がその企業などに罰金や罰則を科す」「企業などが不適切に医療・健康情報を二次利用していると思われる場合に、自身の情報の利用停止、削除などを企業または裁判所に請求できる」の2項目で20代の不安低減効果が大きく、「情報が外部に漏れないよう安全管理体制をしっかりと整えることを、医療・健康情報を二次利用する企業などに義務付ける」の項目では60代の効果が大きい。一方で、全項目において、40代の不安低減効果が最も小さい。40代は情報提供に比較的根強い不安を抱えている傾向が見られる。

2. 個人情報の提供

本章では、様々なテーマに関する個人情報の提供について、その提供意向、メリットやリスクに対する認知、同意の条件、第三者提供について比較を行う。

2.1 テーマ別個人情報の提供意向（問7）

まず、テーマ別個人情報の提供意向について、それぞれ「提供してもよい」「条件によっては提供してもよい」「どんな場合でも提供したくない」の3件法で質問した（問7）。「提供してもよい」「条件によっては提供してもよい」を合算した比率を、日本、アメリカ、ドイツの3か国で比較したものが表2.1.1である。 χ^2 検定の結果、いずれも0.1%未満の水準で有意な偏りが見られ、残差分析の結果、(1)防災・緊急時や(2)健康・福祉、(4)公共サービスでは、日本が他の2か国よりも高く、アメリカが低い傾向が見られ、(3)社会課題解決では日本とドイツがアメリカよりも高い傾向が見られ、(5)教育・研究ではドイツが他の2か国よりも高く、アメリカが低い傾向が見られた（残差分析はいずれも5%未満の水準）。このように、個人情報の公共の利用について、日本は比較的寛容であるといえよう。

表 2.1.1 国別 テーマ別個人情報の提供意向（各国のN=1,550）

| | 日本 | 米 | 独 | χ^2 値 | p値 |
|--|--------------|--------------|--------------|------------|--------|
| (1) 防災に関わる内容や大規模災害などの緊急時 | 89.5% | 80.2% | 84.2% | 51.74 | <.0001 |
| (2) 国民の健康・福祉に関わるもの（医療・新薬開発等） | 82.0% | 74.8% | 77.0% | 24.63 | <.0001 |
| (3) 交通渋滞、道路や橋の老朽化対策等の社会課題解決に関わるもの | 73.0% | 64.6% | 73.9% | 38.89 | <.0001 |
| (4) 公共サービスの高品質化、利便性向上（公的手続きの迅速化・公的サービス拡充等）に関わるもの | 76.0% | 67.1% | 72.8% | 31.31 | <.0001 |
| (5) 教育や研究など学問の発展に役立つもの | 74.1% | 68.5% | 78.4% | 39.69 | <.0001 |

※残差分析の結果、5%水準で、黒・太字は有意に高く、赤・太字は有意に低いことを示す。

さらに、回答者を日本に限定して、性別、年齢層別にテーマ別個人情報提供意向を確認した（表2.1.2）。 χ^2 検定の結果、(1)防災・緊急時においてのみ5%の水準で有意な偏りが見られ、男性よりも女性で提供意向が高く、40代の提供意向が低い傾向が見られたが、それ以外に有意な偏りが見られなかった。

表 2.1.2 性別・年齢層別 テーマ別個人情報の提供意向（日本）

| | N | 男性 775 | 女性 775 | χ^2 値 | p値 | 20代 310 | 30代 310 | 40代 310 | 50代 310 | 60代 310 | χ^2 値 | p値 |
|--|---|-----------|-----------|------------|--------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|--------|
| (1) 防災に関わる内容や大規模災害などの緊急時 | | 87.7% | 91.2% | 5.00 | 0.0254 | 90.0% | 88.4% | 85.2% | 92.3% | 91.6% | 10.67 | 0.0306 |
| (2) 国民の健康・福祉に関わるもの（医療・新薬開発等） | | 80.5% | 83.5% | 2.31 | 0.1284 | 83.5% | 82.3% | 79.0% | 82.9% | 82.3% | 2.55 | 0.6352 |
| (3) 交通渋滞、道路や橋の老朽化対策等の社会課題解決に関わるもの | | 73.2% | 72.8% | 0.03 | 0.8638 | 71.6% | 72.9% | 70.6% | 72.3% | 77.4% | 4.33 | 0.3631 |
| (4) 公共サービスの高品質化、利便性向上（公的手続きの迅速化・公的サービス拡充等）に関わるもの | | 76.1% | 75.9% | 0.01 | 0.9053 | 75.2% | 73.9% | 75.5% | 76.8% | 78.7% | 2.28 | 0.6835 |
| (5) 教育や研究など学問の発展に役立つもの | | 74.2% | 74.1% | 0.00 | 0.9537 | 76.1% | 72.9% | 72.9% | 75.5% | 73.2% | 1.56 | 0.8158 |

※残差分析の結果、5%水準で、黒・太字は有意に高く、赤・太字は有意に低いことを示す。

2.2 テーマ別大規模情報活用のメリット有無認知（問9）

次に、テーマ別に大規模情報の活用のメリットの有無について、それぞれ「大きなメリットがあると思う」「ややメリットがあると思う」「どちらともいえない」「あまりメリットがあるとは思わない」「まったくメリットがあるとは思わない」の5件法で質問した（問9）。「大きなメリットがあると思う」「ややメリットがあると思う」を合算した比率を、日本、アメリカ、ドイツの3か国で比較したものが表 2.2.1 である。 χ^2 検定の結果、いずれも0.1%水準で有意な偏りが見られ、残差分析の結果、(1)病気の治療ではアメリカが他の2か国よりもメリット認知が高く、ドイツが低い傾向が見られ、(2)災害・事故の軽減では日本が他の2か国よりもメリット認知が高く、ドイツが低い傾向が見られ、(3)製品・サービスの品質向上(4)ソフトやアプリの品質向上(5)ソフトやアプリの開発では、日本が他の2か国よりも低い傾向が見られ、(6)より良い政策の実行ではアメリカが他の2か国よりも高い傾向が見られた。日本では災害や事故ではメリットを感じる人が多い一方で、ビジネスに関連したものは低いと感じる人が多い。

表 2.2.1 国別 テーマ別大規模情報活用のメリット認知（各国のN=1,550）

| | | 日本 | 米 | 独 | χ^2 値 | p値 |
|------------------|--|-------|-------|-------|------------|--------|
| (1) 病気の治療 | | 59.4% | 63.9% | 56.3% | 18.95 | <.0001 |
| (2) 災害・事故の軽減 | | 57.4% | 52.5% | 50.6% | 15.25 | 0.0005 |
| (3) 製品・サービスの品質向上 | | 41.9% | 53.9% | 52.1% | 52.14 | <.0001 |
| (4) ソフトやアプリの品質向上 | | 33.3% | 46.6% | 46.3% | 73.50 | <.0001 |
| (5) ソフトやアプリの開発 | | 32.3% | 45.7% | 43.6% | 67.58 | <.0001 |
| (6) よりよい政策の実行 | | 32.3% | 48.5% | 37.0% | 90.38 | <.0001 |

※残差分析の結果、5%水準で、黒・太字は有意に高く、赤・太字は有意に低いことを示す。

さらに、回答者を日本に限定して、性別、年齢層別にテーマ別大規模情報活用のメリッ

ト認知を確認した(表 2.2.2)。 χ^2 検定の結果、性別では5%水準で有意な偏りは見られなかったが、年齢層別では、(1)病気の治療(0.1%水準)、(2)災害・事故の軽減(1%水準)、(3)製品・サービスの品質向上(1%水準)で有意な偏りが見られ、残差分析の結果、(1)病気の治療では20代と60代が高く40代が低い、また(2)災害・事故の軽減では60代が高く40代が低い、また(3)製品・サービスの品質向上では20代が高く40代が低いという傾向が見られた(残差分析の結果はいずれも5%未満の水準)。これらのテーマにおいて、40代が低く、20代や60代といった両極が高い傾向が見られた。

表 2.2.2 性別・年齢層別 テーマ別大規模情報活用のメリット認知(日本)

| | N | 男性 | 女性 | χ^2 値 | p値 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | χ^2 値 | p値 |
|------------------|---|-------|-------|------------|--------|--------------|-------|--------------|-------|--------------|------------|--------|
| | | 775 | 775 | | | 310 | 310 | 310 | 310 | 310 | | |
| (1) 病気の治療 | | 58.6% | 60.1% | 0.39 | 0.5349 | 64.5% | 58.7% | 49.4% | 58.7% | 65.5% | 21.21 | 0.0003 |
| (2) 災害・事故の軽減 | | 55.0% | 59.7% | 3.61 | 0.0574 | 59.7% | 56.5% | 48.7% | 57.7% | 64.2% | 16.21 | 0.0028 |
| (3) 製品・サービスの品質向上 | | 41.5% | 42.2% | 0.07 | 0.7969 | 50.3% | 40.6% | 35.8% | 39.7% | 42.9% | 14.72 | 0.0053 |
| (4) ソフトやアプリの品質向上 | | 34.6% | 32.0% | 1.16 | 0.2810 | 39.7% | 33.9% | 30.0% | 30.3% | 32.6% | 8.55 | 0.0733 |
| (5) ソフトやアプリの開発 | | 32.9% | 31.6% | 0.30 | 0.5869 | 36.8% | 32.3% | 30.3% | 29.7% | 32.3% | 4.37 | 0.3583 |
| (6) よりよい政策の実行 | | 32.6% | 32.0% | 0.07 | 0.7860 | 36.8% | 30.6% | 29.4% | 29.7% | 35.2% | 6.59 | 0.1593 |

※残差分析の結果、5%水準で、黒・太字は有意に高く、赤・太字は有意に低いことを示す。

2.3 テーマ別情報活用のリスクと期待のバランス(問12)

次に、テーマ別に情報活用のリスクと期待のバランスについて、それぞれ「活用への期待」は「リスクに対する不安」より大きい、「活用への期待」は「リスクに対する不安」よりやや大きい、同じくらいである、「リスクに対する不安」は「活用への期待」よりやや大きい、「リスクに対する不安」は「活用への期待」より大きい、の5件法で質問した(問12)。「活用への期待」は「リスクに対する不安」より大きい、「活用への期待」は「リスクに対する不安」よりやや大きい、つまり、「期待>不安」を合算した比率を、日本、アメリカ、ドイツの3か国で比較したものが表 2.3.1 である。 χ^2 検定の結果、(1)防災・緊急時のみが1%水準、それ以外は0.1%水準で有意な偏りが見られ、残差分析の結果、(1)防災・緊急時、(2)健康・福祉、(3)社会課題解決、(4)公共サービスで、日本が他の2か国よりも「期待>不安」の比率が低く、アメリカが高い傾向が見られ、(5)教育・研究では同様に日本が他の2か国よりも低い傾向が見られた。

2.1.1 で見た公共目的での情報提供意向では、(5)教育・研究を除き日本が高い提供意向を示していたが、「期待>不安」の比率が低いことから、日本は他の2か国に比べて、漠然とした不安があるにもかかわらず、公共目的での情報提供意向が高いといえる。

表 2.3.1 国別 テーマ別情報活用の「期待>不安」の比率(各国のN=1,550)

| | | 日本 | 米 | 独 | χ^2 値 | p値 |
|-----|--|--------------|--------------|--------------|------------|--------|
| (1) | 防災に関わる内容や大規模災害などの緊急時の情報活用 | 41.1% | 47.5% | 43.0% | 13.87 | 0.0010 |
| (2) | 国民の健康・福祉に関わる（医療・新薬開発等）情報活用 | 33.2% | 43.8% | 38.3% | 36.70 | <.0001 |
| (3) | 交通渋滞、道路や橋の老朽化対策等の社会課題解決に関わる情報活用 | 24.9% | 32.0% | 28.9% | 19.22 | <.0001 |
| (4) | 公共サービスの高品質化、利便性向上（公的手続きの迅速化・公的サービス拡充等）に関わる情報活用 | 24.3% | 35.5% | 27.8% | 49.39 | <.0001 |
| (5) | 教育や研究など学問の発展に役立てるための情報活用 | 24.3% | 36.7% | 34.0% | 61.44 | <.0001 |

※残差分析の結果、5%水準で、黒・太字は有意に高く、赤・太字は有意に低いことを示す。

さらに、回答者を日本に限定して、性別、年齢層別にテーマ別情報活用のリスクと期待のバランスを確認した（表 2.3.2）。 χ^2 検定の結果、性別では(4)公共サービス（5%水準）、(5)教育・研究（1%水準）で男性が女性よりも「期待>不安」の比率が高い傾向が見られたが、年齢層別では5%水準で有意な偏りは見られなかった。

表 2.3.2 性別・年齢層別 テーマ別情報活用の「期待>不安」の比率（日本）

| | N | 男性 | 女性 | χ^2 値 | p値 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | χ^2 値 | p値 |
|-----|--|--------------|--------------|------------|--------|-------|-------|--------------|-------|--------------|------------|--------|
| | | 775 | 775 | | | 310 | 310 | 310 | 310 | 310 | | |
| (1) | 防災に関わる内容や大規模災害などの緊急時の情報活用 | 40.8% | 41.4% | 0.07 | 0.7963 | 43.5% | 41.9% | 38.1% | 38.4% | 43.5% | 3.75 | 0.4413 |
| (2) | 国民の健康・福祉に関わる（医療・新薬開発等）情報活用 | 33.2% | 33.3% | 0.00 | 0.9570 | 35.5% | 31.9% | 28.1% | 34.2% | 36.5% | 6.25 | 0.1811 |
| (3) | 交通渋滞、道路や橋の老朽化対策等の社会課題解決に関わる情報活用 | 26.7% | 23.1% | 2.70 | 0.1001 | 27.7% | 23.2% | 23.2% | 22.3% | 28.1% | 5.09 | 0.2787 |
| (4) | 公共サービスの高品質化、利便性向上（公的手続きの迅速化・公的サービス拡充等）に関わる情報活用 | 27.0% | 21.5% | 6.19 | 0.0128 | 25.2% | 23.5% | 20.0% | 22.9% | 29.7% | 8.55 | 0.0735 |
| (5) | 教育や研究など学問の発展に役立てるための情報活用 | 27.1% | 21.4% | 6.80 | 0.0091 | 26.5% | 24.5% | 21.0% | 21.9% | 27.4% | 5.25 | 0.2630 |

※残差分析の結果、5%水準で、黒・太字は有意に高く、赤・太字は有意に低いことを示す。

2.4 個人情報活用と同意・取扱認否（問8）

次に、情報の種類別に個人情報活用と同意・取扱認否について、それぞれ「どんな目的でも同意無しで取り扱いを認める」「社会的意義のある目的なら同意不要」「どんな目的でも同意した場合のみ取り扱いを認める」「どんな目的でも取り扱いを認めない」「わからない、自分には心あたりや関係がない」の5件法で質問した（問8）。「どんな目的でも同意無しで取り扱いを認める」「社会的意義のある目的なら同意不要」「どんな目的でも同意した場合のみ取り扱いを認める」を合算した比率を、日本、アメリカ、ドイツの3か国で比

較したものが表 2.4.1 である。 χ^2 検定の結果、いずれも 0.1%水準で有意な偏りが見られ、残差分析の結果、(1)健康情報、(2)医療情報、(3)経歴情報については、いずれも日本が他の2か国よりも提供意向高く、アメリカが低い傾向が見られ、(4)生体情報ではアメリカのみが低い傾向が見られた。

表 2.4.1 国別 情報別個人情報活用と同意・取扱認否（各国の $N=1,550$ ）

| | | 日本 | 米 | 独 | χ^2 値 | p 値 |
|-----|---------------------------------|--------------|--------------|--------------|------------|--------|
| (1) | 健康診断の結果、運動や喫煙の習慣、食生活など、健康に関する情報 | 84.3% | 66.8% | 75.2% | 128.01 | <.0001 |
| (2) | 病歴、服薬履歴、妊娠状況など、医療に関する情報 | 80.5% | 65.6% | 74.8% | 89.47 | <.0001 |
| (3) | 学歴、職歴など、経歴に関する情報 | 74.9% | 64.1% | 69.9% | 43.16 | <.0001 |
| (4) | 顔画像、指紋、虹彩、声紋、静脈など、生体的な特徴に関する情報 | 68.8% | 53.4% | 68.2% | 101.73 | <.0001 |

※残差分析の結果、5%水準で、黒・太字は有意に高く、赤・太字は有意に低いことを示す。

さらに、回答者を日本に限定して、性別、年齢層別に情報別個人情報活用と同意・取扱認否を確認した（表 2.4.2）。 χ^2 検定の結果、性別では 5%水準で有意な偏りが見られず、年齢層別では(1)健康情報（0.1%水準）(2)医療情報（5%水準）、(3)経歴情報（5%水準）で有意な偏りが見られ、40代が低い傾向が見られた。

表 2.4.2 性別・年齢層別 情報別個人情報活用と同意・取扱認否（日本）

| | N | 男性 | 女性 | χ^2 値 | p 値 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | χ^2 値 | p 値 |
|-----|---------------------------------|-------|-------|------------|--------|--------------|-------|--------------|--------------|-------|------------|--------|
| | | 775 | 775 | | | 310 | 310 | 310 | 310 | 310 | | |
| (1) | 健康診断の結果、運動や喫煙の習慣、食生活など、健康に関する情報 | 84.1% | 84.5% | 0.04 | 0.8340 | 88.4% | 82.6% | 77.1% | 88.1% | 85.5% | 20.43 | 0.0004 |
| (2) | 病歴、服薬履歴、妊娠状況など、医療に関する情報 | 80.8% | 80.1% | 0.10 | 0.7488 | 84.2% | 78.4% | 75.5% | 82.9% | 81.3% | 9.79 | 0.0442 |
| (3) | 学歴、職歴など、経歴に関する情報 | 75.9% | 73.9% | 0.77 | 0.3795 | 81.3% | 73.5% | 71.0% | 76.8% | 71.9% | 11.61 | 0.0205 |
| (4) | 顔画像、指紋、虹彩、声紋、静脈など、生体的な特徴に関する情報 | 69.4% | 68.3% | 0.24 | 0.6216 | 70.6% | 68.1% | 66.8% | 72.6% | 66.1% | 4.26 | 0.3721 |

※残差分析の結果、5%水準で、黒・太字は有意に高く、赤・太字は有意に低いことを示す。

2.5 第三者提供への同意（問10）および同意の条件（問11）

次に、個人情報等の第三者提供への同意、およびその条件について質問している。

2.5.1 第三者提供への同意

まず、個人情報等の第三者提供の同意について、「どのような条件でも同意する」「一定

の条件が満たされなければ同意しない」「どのような条件でも同意しない」の3件法で確認した（問 10）。「どのような条件でも同意する」「一定の条件が満たされなければ同意しない」、つまり、条件付きを含め同意する人の比率を、日本、アメリカ、ドイツの3か国で比較したものが表 2.5.1 である。 χ^2 検定の結果、0.1%水準で有意な偏りが見られ、日本とアメリカがドイツに比べて高い傾向が見られた。

表 2.5.1 国別 個人情報の第三者提供への同意比率（各国の $N=1,550$ ）

| | 日本 | 米 | 独 | χ^2 値 | p 値 |
|--------|--------------|--------------|--------------|------------|--------|
| 同意する比率 | 78.0% | 76.5% | 63.9% | 93.10 | <.0001 |

※残差分析の結果、5%水準で、黒・太字は有意に高く、赤・太字は有意に低いことを示す。

さらに、回答者を日本に限定して、性別、年齢層別に個人情報の第三者提供への同意について確認した（表 2.5.2）。 χ^2 検定の結果、性別では5%水準で男性が女性よりも高い傾向が見られ、年齢層別では5%水準で有意な偏りが見られ、20代が高く60代が低い傾向が見られた。

表 2.5.2 性別・年齢層別 個人情報の第三者提供への同意比率（日本）

| | 男性 | 女性 | χ^2 値 | p 値 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | χ^2 値 | p 値 |
|--------|--------------|--------------|------------|--------|--------------|-------|-------|-------|--------------|------------|--------|
| N | 775 | 775 | | | 310 | 310 | 310 | 310 | 310 | | |
| 同意する比率 | 80.5% | 75.5% | 5.72 | 0.0168 | 82.9% | 80.6% | 75.8% | 77.7% | 72.9% | 11.18 | 0.0246 |

※残差分析の結果、5%水準で、黒・太字は有意に高く、赤・太字は有意に低いことを示す。

2.5.2 第三者提供への同意の条件

次に、個人情報の第三者提供の同意（問 10）について、「一定の条件が満たされなければ同意しない」と回答した人に対して、どういった条件であれば同意するのか、条件を列挙し、その条件が満たされれば「同意する」か「同意しない」か、確認した（問 11）。ここでは、同意する人の比率を、日本、アメリカ、ドイツの3か国で比較したものが表 2.5.3 である。 χ^2 検定の結果、(1)匿名性の保証で1%水準、それ以外では0.1%水準で有意な偏りが見られた。さらに残差分析の結果、(1)匿名性の保証では、ドイツが高く、アメリカが低い傾向が見られ、(2)提供内容・提供先の明示では、日本が高い傾向が見られ、(3)提供内容・提供先の自己決定、(4)オプトアウトで日本、アメリカが高い傾向が見られ、(5)提供による見返りではアメリカが高い傾向が見られた。

表 2.5.3 国別 個人情報の第三者提供への同意の条件（それぞれ SA）

| | N | 日本 1,160 | 米 908 | 独 790 | χ^2 値 | p値 |
|-----|---|--------------|--------------|--------------|------------|--------|
| (1) | 完全に匿名性が保証されている | 91.6% | 88.5% | 92.7% | 9.63 | 0.0081 |
| (2) | 提供する情報の内容や提供先が明示されている | 83.7% | 72.0% | 74.2% | 46.00 | <.0001 |
| (3) | 提供する情報の内容や提供先の範囲を提供者がある程度設定できる | 75.6% | 80.6% | 56.3% | 136.73 | <.0001 |
| (4) | 提供者の申し出で、後から提供を中止できる (それによる不利益を被らずに) | 78.8% | 83.8% | 62.7% | 112.19 | <.0001 |
| (5) | 提供の見返りに、何らかの特典が得られる | 66.2% | 79.7% | 59.4% | 86.64 | <.0001 |

※残差分析の結果、5%水準で、黒・太字は有意に高く、赤・太字は有意に低いことを示す。

さらに、回答者を日本に限定して、性別・年齢層別に個人情報の第三者提供への同意条件について確認した(表 2.5.4)。 χ^2 検定の結果、性別では(3)提供内容・提供先の明示で、5%水準で女性が男性よりも高く、年齢層別では(2)提供内容・提供先の明示(5%水準)、(3)提供内容・提供先の自己決定(0.1%水準)、(4)オプトアウト(1%水準)、(5)提供による見返り(0.1%水準)で有意な偏りが見られ、年齢層が低いほどそれぞれの条件で同意する傾向が見られた。

表 2.5.4 性別・年齢層別 個人情報の第三者提供への同意の条件(それぞれ SA)

| | N | 男性 587 | 女性 573 | χ^2 値 | p値 | 20代 240 | 30代 241 | 40代 227 | 50代 233 | 60代 219 | χ^2 値 | p値 |
|-----|---|--------------|--------------|------------|--------|--------------|------------|------------|--------------|--------------|------------|--------|
| (1) | 完全に匿名性が保証されている | 92.7% | 90.4% | 1.94 | 0.1640 | 94.6% | 90.9% | 92.1% | 88.4% | 91.8% | 6.06 | 0.1947 |
| (2) | 提供する情報の内容や提供先が明示されている | 84.2% | 83.2% | 0.18 | 0.6746 | 89.2% | 86.3% | 82.8% | 81.5% | 78.1% | 12.45 | 0.0143 |
| (3) | 提供する情報の内容や提供先の範囲を提供者がある程度設定できる | 73.1% | 78.2% | 4.09 | 0.0431 | 80.8% | 78.4% | 79.7% | 73.0% | 65.3% | 20.19 | 0.0005 |
| (4) | 提供者の申し出で、後から提供を中止できる (それによる不利益を被らずに) | 76.8% | 80.8% | 2.74 | 0.0981 | 83.3% | 81.3% | 80.2% | 78.1% | 70.3% | 13.62 | 0.0086 |
| (5) | 提供の見返りに、何らかの特典が得られる | 68.0% | 64.4% | 1.66 | 0.1981 | 73.3% | 71.0% | 70.9% | 57.9% | 57.1% | 25.41 | <.0001 |

※残差分析の結果、5%水準で、黒・太字は有意に高く、赤・太字は有意に低いことを示す。

3. 情報公開の許容度、プライバシー侵害に関する不安

本章では、情報公開の許容度およびプライバシー侵害などのネット上のトラブルに関する不安について比較を行う。

3.1 情報公開の許容度（問15）

まず、内容ごとの情報公開の許容度について、それぞれ「どのような場合でも公開したくない」「どちらかといえば公開したくない」「どちらでもよい」「どちらかといえば公開してもよい」「どのような場合でも公開してもよい」の5件法で質問した（問15）。「どちらかといえば公開してもよい」「どのような場合でも公開してもよい」を合算した比率を、日本、アメリカ、ドイツの3か国で比較したものが表3.1.1である。

χ^2 検定の結果、(6)居住地は1%水準、それ以外はいずれも0.1%未満の水準で有意な偏りが見られた。さらに残差分析の結果、(1)氏名、(3)役職名、(4)メールアドレス、(5)電話番号、(6)居住地では、日本が他の2か国よりも低く、アメリカが高い傾向が見られ、(2)会社名、(7)趣味、(8)病歴・病状、(9)宗教、(10)思想・信条では、アメリカが他の2か国より高い傾向が見られた。

表 3.1.1 国別 テーマ別個人情報の提供意向（各国の $N=1,550$ ）

| | | 日本 | 米 | 独 | χ^2 値 | p 値 |
|------|------------|-------|-------|-------|------------|--------|
| (1) | 氏名 | 3.9% | 19.7% | 11.2% | 189.25 | <.0001 |
| (2) | 会社名 | 4.6% | 22.1% | 10.4% | 225.41 | <.0001 |
| (3) | 会社・組織での役職名 | 6.0% | 26.1% | 10.6% | 281.04 | <.0001 |
| (4) | メールアドレス | 3.5% | 16.6% | 11.2% | 143.18 | <.0001 |
| (5) | 電話番号 | 2.8% | 11.2% | 6.4% | 85.36 | <.0001 |
| (6) | 居住地 | 8.3% | 11.8% | 10.8% | 11.20 | 0.0037 |
| (7) | 趣味 | 21.1% | 31.7% | 16.6% | 103.92 | <.0001 |
| (8) | 病歴・病状 | 12.3% | 18.8% | 12.3% | 35.40 | <.0001 |
| (9) | 宗教 | 14.3% | 30.6% | 15.8% | 156.34 | <.0001 |
| (10) | 思想・信条 | 13.6% | 26.5% | 13.8% | 114.95 | <.0001 |

※残差分析の結果、5%水準で、黒・太字は有意に高く、赤・太字は有意に低いことを示す。

さらに、回答者を日本に限定して、性別、年齢層別に内容ごとの情報公開の許容度を確認した（表3.1.2）。 χ^2 検定の結果、(1)氏名（0.1%水準）、(2)会社名（5%水準）、(4)メールアドレス（1%水準）、(5)電話番号（1%水準）、(6)居住地（1%水準）、(8)病歴・病状（1%水準）で男性が女性よりも高い傾向が見られた。年齢層別では(7)趣味で1%水準で有意な偏りがあり年齢層が低いほど提供意向が高く、(8)病歴・病状では5%水準で有意な

偏りがあり 20代が高い傾向が見られ、(9)宗教では 0.1%水準で有意な偏りがあり 20代が高く 40代が低い傾向が見られ、(10)思想・信条では 0.1%水準で有意な偏りがあり 20代が高く 60代が低い傾向が見られた。

表 3.1.2 性別・年齢層別 テーマ別個人情報の提供意向（日本）

| | N | 男性 | 女性 | χ^2 値 | p値 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | χ^2 値 | p値 |
|----------------|---|-------|-------|------------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|------------|--------|
| | | 775 | 775 | | | 310 | 310 | 310 | 310 | 310 | | |
| (1) 氏名 | | 5.9% | 1.8% | 17.75 | <.0001 | 3.5% | 3.5% | 3.9% | 3.2% | 5.2% | 1.91 | 0.7528 |
| (2) 会社名 | | 5.9% | 3.4% | 5.83 | 0.0158 | 4.2% | 4.5% | 4.8% | 5.2% | 4.5% | 0.38 | 0.9842 |
| (3) 会社・組織での役職名 | | 7.1% | 4.9% | 3.31 | 0.0690 | 7.4% | 6.5% | 5.8% | 6.8% | 3.5% | 4.87 | 0.3006 |
| (4) メールアドレス | | 5.0% | 2.1% | 9.97 | 0.0016 | 4.5% | 3.5% | 3.9% | 2.9% | 2.9% | 1.70 | 0.7913 |
| (5) 電話番号 | | 4.0% | 1.7% | 7.58 | 0.0059 | 2.9% | 2.6% | 2.9% | 2.9% | 2.9% | 0.09 | 0.9989 |
| (6) 居住地 | | 10.5% | 6.1% | 9.84 | 0.0017 | 6.8% | 9.0% | 8.7% | 8.1% | 8.7% | 1.33 | 0.8565 |
| (7) 趣味 | | 22.1% | 20.1% | 0.87 | 0.3504 | 34.5% | 23.2% | 14.8% | 16.8% | 16.1% | 49.75 | <.0001 |
| (8) 病歴・病状 | | 14.8% | 9.8% | 9.08 | 0.0026 | 17.4% | 13.5% | 10.0% | 11.3% | 9.4% | 12.27 | 0.0155 |
| (9) 宗教 | | 14.8% | 13.8% | 0.34 | 0.5619 | 21.3% | 16.1% | 9.4% | 13.5% | 11.3% | 21.80 | 0.0002 |
| (10) 思想・信条 | | 14.5% | 12.8% | 0.93 | 0.3356 | 21.0% | 14.8% | 10.3% | 13.2% | 8.7% | 23.89 | <.0001 |

※残差分析の結果、5%水準で、黒・太字は有意に高く、赤・太字は有意に低いことを示す。

3.2 ネット上のトラブルに関する不安（問16）

次に、ネット上のトラブルに関する不安について、それぞれ「とても不安」「やや不安」「どちらともいえない」「あまり不安ではない」「まったく不安ではない」の5件法で質問した（問16）。「とても不安」「やや不安」を合算した比率を、日本、アメリカ、ドイツの3か国で比較したものが表3.2.1である。

χ^2 検定の結果、「(1)金融機関などを装ったメールで、偽のサイトに誘導され、クレジットカード番号などを入力させられる」「(2)利用した覚えのないネットサービス利用料金を請求される」「(3)ネットショッピングで支払いに利用したクレジットカードの情報が悪用される」「(4)ネットショッピングで購入した商品が届かなかつたり、商品の状態が悪かつたり、思っていたものと違つたりする」「(6)悪戯や不要な広告などの迷惑メールが大量に届く」「(7)ウィルスや悪いソフトウェアの被害に遭う」「(10)他人によって、自宅住所や電話番号を勝手にインターネットに載せられる」「(12)住所や電話番号を登録したインターネットサービス事業者から、それらの情報が流出する」「(14)利用料金がいくらなのかかわからない」では、いずれも日本とアメリカがドイツよりも不安を感じる人の比率が高い傾向が見られた（いずれも 0.1%水準）。また、「(5)メールの宛先を間違えて情報が漏えいする」「(11)自分のIDやパスワードが勝手に使われる」「(13)パスワードを忘れてしまう」では、日本が他の2か国より高くドイツが低い傾向が見られた（いずれも 0.1%水準）。「(8)出会い系サイトを利用して、犯罪の被害に遭う」では、ドイツが他の二か国よりも高く、アメリカが他の2か国よりも低い傾向が見られた（1%水準）。また、「(15)公にしていない健康

状態、知られたくない趣味や嗜好などが推定されてしまう」ではドイツ型の2か国に比べ低い傾向が見られた（残差分析の結果、5%水準で有意）が、 χ^2 検定では5%水準で有意な偏りは見られなかった。「(9)インターネット上で悪口・暴言・挑発的な言葉を書かれる」「(16)自分の行動パターンが分かってしまう」については、5%水準で有意な偏りが見られなかった。総じて、日本やアメリカではネット上のトラブルに関する不安が高く、ドイツでは低い傾向が見られた。

表 3.2.1 国別 ネット上のトラブルに関する不安（各国のN=1,550）

| | | 日本 | 米 | 独 | χ^2 値 | p値 |
|------|---|-------|-------|-------|------------|--------|
| (1) | 金融機関などを装ったメールで、偽のサイトに誘導され、クレジットカード番号などを入力させられる | 77.9% | 78.7% | 68.5% | 53.99 | <.0001 |
| (2) | 利用した覚えのないネットサービス利用料金を請求される | 76.6% | 79.2% | 68.4% | 51.92 | <.0001 |
| (3) | ネットショッピングで支払いに利用したクレジットカードの情報が悪用される | 79.8% | 77.7% | 66.9% | 78.69 | <.0001 |
| (4) | ネットショッピングで購入した商品が届かなかったり、商品の状態が悪かったり、思っていたものと違ったりする | 72.0% | 70.6% | 52.5% | 161.39 | <.0001 |
| (5) | メールの宛先を間違えて情報が漏えいする | 69.3% | 65.0% | 57.4% | 48.61 | <.0001 |
| (6) | 悪戯や不要な広告などの迷惑メールが大量に届く | 73.7% | 71.2% | 58.2% | 98.19 | <.0001 |
| (7) | ウィルスや悪いソフトウェアの被害に遭う | 79.9% | 77.8% | 68.4% | 62.56 | <.0001 |
| (8) | 出会い系サイトを利用して、犯罪の被害に遭う | 55.2% | 53.7% | 59.7% | 12.10 | 0.0024 |
| (9) | インターネット上で悪口・暴言・挑発的な言葉を書かれる | 57.7% | 55.3% | 57.4% | 2.17 | 0.3382 |
| (10) | 他人によって、自宅住所や電話番号を勝手にインターネットに載せられる | 73.4% | 72.6% | 65.7% | 26.86 | <.0001 |
| (11) | 自分のIDやパスワードが勝手に使われる | 80.7% | 75.6% | 66.5% | 84.65 | <.0001 |
| (12) | 住所や電話番号を登録したインターネットサービス事業者から、それらの情報が流出する | 79.2% | 77.0% | 65.4% | 88.09 | <.0001 |
| (13) | パスワードを忘れてしまう | 63.9% | 57.4% | 48.1% | 79.56 | <.0001 |
| (14) | 利用料金がいくらなのかわからない | 66.3% | 69.0% | 57.1% | 52.34 | <.0001 |
| (15) | 公にしていない健康状態、知られたくない趣味や嗜好などが推定されてしまう | 62.9% | 63.5% | 59.9% | 5.08 | 0.0789 |
| (16) | 自分の行動パターンが分かってしまう | 65.6% | 64.8% | 63.6% | 1.38 | 0.5015 |

※残差分析の結果、5%水準で、黒・太字は有意に高く、赤・太字は有意に低いことを示す。

さらに、回答者を日本に限定して、性別・年齢層別にネット上のトラブルに関する不安を確認した（表 3.2.2）。 χ^2 検定の結果、性別ではすべての項目で男性よりも女性が不安に思う人の比率が高い傾向が見られた（いずれも 0.1%水準）。一方、年齢層別で 5%水準で有意な偏りが見られたものは、「(1)金融機関などを装ったメールで、偽のサイトに誘導され、クレジットカード番号などを入力させられる」（1%水準）、「(3)ネットショッピングで支払いに利用したクレジットカードの情報が悪用される」（0.1%水準）、「(5)メールの宛先を間違えて情報が漏えいする」（1%水準）、「(6)悪戯や不要な広告などの迷惑メールが大量に届く」（0.1%水準）、「(7)ウィルスや悪いソフトウェアの被害に遭う」（0.1%水準）、「(11)自分の ID やパスワードが勝手に使われる」（0.1%水準）、「(12)住所や電話番号を登録したインターネットサービス事業者から、それらの情報が流出する」（0.1%水準）、「(13)パスワードを忘れてしまう」（1%水準）、「(14)利用料金がいくらなのかわからない」（5%水準）であり、いずれも 60 代が他の年齢層よりも高い傾向が見られた。

表 3.2.2 性別・年齢層別 ネット上のトラブルに関する不安（日本）

| | N | 男性 | 女性 | χ^2 値 | p値 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | χ^2 値 | p値 |
|---|---|-------|-------|------------|--------|-------|-------|-------|-------|-------|------------|--------|
| | | 775 | 775 | | | 310 | 310 | 310 | 310 | 310 | | |
| (1) 金融機関などを装ったメールで、偽のサイトに誘導され、クレジットカード番号などを入力させられる | | 72.4% | 83.5% | 27.75 | <.0001 | 73.5% | 74.2% | 77.7% | 79.4% | 84.8% | 14.95 | 0.0048 |
| (2) 利用した覚えのないネットサービス利用料金を請求される | | 69.5% | 83.6% | 42.74 | <.0001 | 72.3% | 75.8% | 74.8% | 78.7% | 81.3% | 8.48 | 0.0756 |
| (3) ネットショッピングで支払いに利用したクレジットカードの情報が悪用される | | 72.3% | 87.4% | 54.80 | <.0001 | 72.9% | 77.1% | 77.4% | 81.6% | 90.0% | 32.29 | <.0001 |
| (4) ネットショッピングで購入した商品が届かなかったり、商品の状態が悪かったり、思っていたものと違ったりする | | 64.6% | 79.4% | 41.59 | <.0001 | 71.6% | 68.1% | 71.6% | 70.3% | 78.4% | 9.13 | 0.0579 |
| (5) メール宛先を間違えて情報が漏えいする | | 63.2% | 75.4% | 26.79 | <.0001 | 61.9% | 68.4% | 68.7% | 70.6% | 76.8% | 16.48 | 0.0024 |
| (6) 悪戯や不要な広告などの迷惑メールが大量に届く | | 65.2% | 82.2% | 57.96 | <.0001 | 66.8% | 69.4% | 74.5% | 77.4% | 80.3% | 20.01 | 0.0005 |
| (7) ウィルスや悪いソフトウェアの被害に遭う | | 71.9% | 87.9% | 61.70 | <.0001 | 74.5% | 74.8% | 80.0% | 82.6% | 87.4% | 22.82 | 0.0001 |
| (8) 出会い系サイトを利用して、犯罪の被害に遭う | | 50.2% | 60.1% | 15.47 | <.0001 | 54.5% | 55.2% | 55.2% | 53.5% | 57.4% | 1.02 | 0.9072 |
| (9) インターネット上で悪口・暴言・挑発的な言葉を書かれる | | 50.5% | 64.9% | 33.15 | <.0001 | 54.8% | 55.8% | 60.3% | 55.5% | 61.9% | 5.27 | 0.2607 |
| (10) 他人によって、自宅住所や電話番号を勝手にインターネットに載せられる | | 65.3% | 81.4% | 51.58 | <.0001 | 69.0% | 72.9% | 73.2% | 74.2% | 77.4% | 5.73 | 0.2202 |
| (11) 自分のIDやパスワードが勝手に使われる | | 73.5% | 87.9% | 51.06 | <.0001 | 75.5% | 79.0% | 76.5% | 84.2% | 88.4% | 23.76 | <.0001 |
| (12) 住所や電話番号を登録したインターネットサービス事業者から、それらの情報が流出する | | 71.7% | 86.7% | 52.75 | <.0001 | 73.9% | 76.8% | 74.8% | 82.6% | 88.1% | 26.99 | <.0001 |
| (13) パスワードを忘れてしまう | | 56.9% | 70.8% | 32.61 | <.0001 | 56.1% | 62.3% | 62.9% | 67.7% | 70.3% | 16.13 | 0.0028 |
| (14) 利用料金がいくらなのかわからない | | 59.1% | 73.5% | 36.23 | <.0001 | 61.3% | 63.9% | 63.9% | 69.4% | 73.2% | 13.07 | 0.0109 |
| (15) 公にしていない健康状態、知られたくない趣味や嗜好などが推定されてしまう | | 54.8% | 71.0% | 43.20 | <.0001 | 58.7% | 61.3% | 63.2% | 63.5% | 67.7% | 5.86 | 0.2097 |
| (16) 自分の行動パターンが分かっってしまう | | 55.5% | 75.7% | 70.48 | <.0001 | 61.6% | 64.8% | 67.4% | 64.8% | 69.4% | 4.74 | 0.3156 |

※残差分析の結果、5%水準で、黒・太字は有意に高く、赤・太字は有意に低いことを示す。

3.3 プライバシー侵害に関する不安（問22）

次に、プライバシー侵害に関する不安について、それぞれ「非常に不安である」「ある程度不安である」「どちらでもない」「あまり不安でない」「まったく不安でない」の5件法で質問した（問22）。「非常に不安である」「ある程度不安である」を合算した比率を、日本、アメリカ、ドイツの3か国で比較したものが表3.3.1である。

χ^2 検定の結果、(1)規約と異なる目的の利活用、(4)保護対策への消極性、(6)匿名性の不十分、(8)社会的意義がない、でアメリカが高くドイツが低い傾向が見られ、(2)本人の拒否権なし、(7)得られるメリットがない、で日本とアメリカが高くドイツが低い傾向が見られ、(3)説明が不十分で日本が高くドイツが低い傾向が見られ、(5)様々な情報が収集されていることに対する不安ではアメリカが高く日本とドイツが低い傾向が見られた。

表 3.3.1 国別 プライバシー侵害に関する不安（各国のN=1,550）

| | | 日本 | 米 | 独 | χ^2 値 | p値 |
|-----|--------------------------------|--------------|--------------|--------------|------------|--------|
| (1) | 規約類に書かれているものと異なる目的で利活用される恐れがある | 71.9% | 77.9% | 70.1% | 26.43 | <.0001 |
| (2) | 利活用されたくない場合に、本人に拒否権がない | 72.1% | 73.4% | 64.7% | 32.34 | <.0001 |
| (3) | 利活用の目的や内容の説明が十分でない | 67.7% | 66.4% | 59.4% | 27.44 | <.0001 |
| (4) | 企業などが、プライバシーの保護対策に積極的でない | 64.5% | 69.4% | 59.0% | 36.90 | <.0001 |
| (5) | 企業などが、自分に関するさまざまな情報を収集している | 61.5% | 70.0% | 62.5% | 29.31 | <.0001 |
| (6) | 匿名化などの加工処理が十分に行われていない | 66.0% | 72.2% | 60.6% | 46.33 | <.0001 |
| (7) | 自分が得られるメリットがない | 55.7% | 58.6% | 43.2% | 83.47 | <.0001 |
| (8) | 利活用の目的や成果などに社会的な意義を感じない | 52.5% | 59.1% | 45.3% | 59.24 | <.0001 |

※残差分析の結果、5%水準で、黒・太字は有意に高く、赤・太字は有意に低いことを示す。

さらに、回答者を日本に限定して、性別、年齢層別にプライバシー侵害に関する不安を確認した（表3.3.2）。 χ^2 検定の結果、性別ではすべての項目で女性が男性よりも不安が高い傾向が見られた（いずれも0.1%水準）。年齢層で5%未満の水準で有意な偏りが見られたものは、(1)規約と異なる目的の利活用（5%水準）、(2)本人の拒否権なし（5%水準）、

(3)説明が不十分（0.1%水準）、(4)保護対策への消極性（1%水準）であり、いずれも60代の不安が高い傾向にあった。

表 3.3.2 性別・年齢層別 プライバシー侵害に関する不安（日本）

| | N | 男性 | 女性 | χ^2 値 | p値 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | χ^2 値 | p値 |
|------------------------------------|---|--------------|--------------|------------|--------|--------------|-------|--------------|-------|--------------|------------|--------|
| | | 775 | 775 | | | 310 | 310 | 310 | 310 | 310 | | |
| (1) 規約類に書かれているものと異なる目的で利活用される恐れがある | | 65.5% | 78.2% | 30.65 | <.0001 | 67.1% | 70.6% | 71.3% | 71.6% | 78.7% | 10.96 | 0.0270 |
| (2) 利活用されたくない場合に、本人に拒否権がない | | 66.5% | 77.8% | 24.85 | <.0001 | 68.7% | 68.7% | 70.0% | 74.5% | 78.7% | 11.86 | 0.0184 |
| (3) 利活用の目的や内容の説明が十分でない | | 59.7% | 75.7% | 45.40 | <.0001 | 64.5% | 63.5% | 63.5% | 70.3% | 76.8% | 18.98 | 0.0008 |
| (4) 企業などが、プライバシーの保護対策に積極的でない | | 58.7% | 70.2% | 22.30 | <.0001 | 61.6% | 61.6% | 58.4% | 67.7% | 72.9% | 18.29 | 0.0011 |
| (5) 企業などが、自分に関するさまざまな情報を収集している | | 53.9% | 69.0% | 37.29 | <.0001 | 61.6% | 58.4% | 59.7% | 61.6% | 66.1% | 4.51 | 0.3412 |
| (6) 匿名化などの加工処理が十分に行われていない | | 57.8% | 74.2% | 46.37 | <.0001 | 62.6% | 64.2% | 64.8% | 67.1% | 71.3% | 6.28 | 0.1789 |
| (7) 自分が得られるメリットがない | | 49.7% | 61.8% | 23.11 | <.0001 | 55.8% | 56.5% | 56.8% | 54.8% | 54.8% | 0.40 | 0.9823 |
| (8) 利活用の目的や成果などに社会的な意義を感じない | | 45.9% | 59.0% | 26.39 | <.0001 | 52.3% | 51.3% | 54.2% | 53.2% | 51.3% | 0.79 | 0.9396 |

※残差分析の結果、5%水準で、黒・太字は有意に高く、赤・太字は有意に低いことを示す。

4. その他

4.1 先進医療サービスの利用意向（問3、問4）

まず、先進医療サービスについて、それぞれ回答者自身が「ぜひ使いたい」「どちらかといえば使いたい」「どちらともいえない」「どちらかといえば使いたくない」「まったく使いたくない」の5件法で質問した（問3）。「ぜひ使いたい」「どちらかといえば使いたい」を合算した比率を、日本、アメリカ、ドイツの3か国で比較したものが表4.1.1である。

χ^2 検定の結果、(1)遠隔診断・相談、(6)遠隔手術サポート、(8)体質改善アドバイスでは、アメリカが高く日本とドイツが低い傾向が見られ、(2)健康管理、(3)専門家のアドバイス、(9)食事メニューでは、アメリカが高く日本が低い傾向が見られ、(4)介護ロボット、(5)対話ロボット、(7)遠隔診察、(11)医療機関連携ではアメリカが高くドイツが低い傾向が見られ、(10)監視センサーでは日本が低い傾向が見られた。総じて、日本やドイツの利用意向は低く、アメリカの利用意向が高い傾向が見られた。

表 4.1.1 国別 先進医療サービス利用意向（本人の利用）（各国のN=1,550）

| | | 日本 | 米 | 独 | χ^2 値 | p値 |
|------|---|--------------|--------------|--------------|------------|--------|
| (1) | インターネットと情報端末等を通じて遠隔に医療診断や相談ができるサービス | 36.3% | 48.4% | 34.1% | 76.68 | <.0001 |
| (2) | インターネットと専用機器等を通じて日々の健康管理ができるサービス | 33.6% | 40.4% | 34.3% | 18.63 | <.0001 |
| (3) | 歩数計、血圧計のデータをインターネットを利用して専門家に送ると、専門家から記録やアドバイスなどを受けられるサービス | 33.7% | 39.9% | 34.3% | 15.89 | 0.0004 |
| (4) | 介護施設などで職員の代わりにロボットが介護してくれるサービス | 19.1% | 24.1% | 13.9% | 52.22 | <.0001 |
| (5) | 医療機関や介護施設などで職員が忙しいときなど代わりにロボットが対話してくれるサービス | 19.6% | 25.4% | 16.7% | 36.74 | <.0001 |
| (6) | 近くの病院で、インターネットなどを使って、有名な病院の医師のアドバイスを受けながら手術が受けられるサービス | 25.5% | 33.9% | 27.1% | 30.07 | <.0001 |
| (7) | テレビ電話やインターネットなどを使って、自宅で医師の診察が受けられるサービス | 39.3% | 50.1% | 28.3% | 154.63 | <.0001 |
| (8) | インターネットなどで、自分に合わせた運動メニューが提示され、継続的な体質改善のアドバイスを受けられるサービス | 36.1% | 47.7% | 36.5% | 56.16 | <.0001 |
| (9) | テレビ電話やインターネットなどで、自分の健康状態に合わせた食事メニューが提示され、その材料が注文できるサービス | 29.2% | 43.6% | 35.4% | 70.00 | <.0001 |
| (10) | 家の中にセンサーを設置し、人が倒れた、人の動きがない等の異常時に警備員が駆けつけて安否を確認するサービス | 37.8% | 41.2% | 41.8% | 5.94 | 0.0512 |
| (11) | 個人の医療情報が医療機関で連携され、病状の説明が省けるサービス | 41.0% | 46.5% | 31.2% | 78.49 | <.0001 |

※残差分析の結果、5%水準で、黒・太字は有意に高く、赤・太字は有意に低いことを示す。

さらに、先進医療サービスについて、それぞれ回答者の家族に対して、「ぜひ家族に使ってほしい」「どちらかといえば家族に使ってほしい」「どちらともいえない」「どちらかといえば家族に使ってほしくない」「まったく家族に使ってほしくない」の5件法で質問した(問5)。「ぜひ家族に使ってほしい」「どちらかといえば家族に使ってほしい」を合算した比率を、日本、アメリカ、ドイツの3か国で比較したものが表4.1.2である。

χ^2 検定の結果、(1)遠隔診断・相談、(2)健康管理、(5)対話ロボット、(6)遠隔手術サポート、(8)体質改善アドバイス、(10)監視センサーでは、アメリカで高くドイツで低い傾向が見られ、(3)専門家のアドバイス、(4)介護ロボット、(7)遠隔診察、(11)医療機関連携では日本とアメリカが高くドイツで低い傾向が見られ、(9)食事メニューではアメリカが高く日本とドイツが低い傾向が見られた。総じて、本人の利用と同様にアメリカは高くドイツは低い傾向が見られたが、日本では本人の利用意向は低い傾向が見られたが、家族の利用については肯定的な回答が高いものが見られた。

表 4.1.2 国別 先進医療サービス利用意向（家族の利用）（各国のN=1,550）

| | | 日本 | 米 | 独 | χ^2 値 | p値 |
|------|---|--------------|--------------|--------------|------------|--------|
| (1) | インターネットと情報端末等を通じて遠隔に医療診断や相談ができるサービス | 36.3% | 44.8% | 28.6% | 86.97 | <.0001 |
| (2) | インターネットと専用機器等を通じて日々の健康管理ができるサービス | 36.1% | 41.4% | 30.3% | 41.47 | <.0001 |
| (3) | 歩数計、血圧計のデータをインターネットを利用して専門家に送ると、専門家から記録やアドバイスなどを受けられるサービス | 36.8% | 38.4% | 28.3% | 40.65 | <.0001 |
| (4) | 介護施設などで職員の代わりにロボットが介護してくれるサービス | 21.2% | 23.8% | 12.5% | 69.98 | <.0001 |
| (5) | 医療機関や介護施設などで職員が忙しいときなど代わりにロボットが対話してくれるサービス | 20.5% | 24.6% | 15.4% | 41.08 | <.0001 |
| (6) | 近くの病院で、インターネットなどを使って、有名な病院の医師のアドバイスを受けながら手術が受けられるサービス | 28.1% | 33.8% | 27.2% | 19.14 | <.0001 |
| (7) | テレビ電話やインターネットなどを使って、自宅で医師の診察が受けられるサービス | 40.0% | 46.3% | 24.6% | 166.40 | <.0001 |
| (8) | インターネットなどで、自分に合わせた運動メニューが提示され、継続的な体質改善のアドバイスを受けられるサービス | 36.8% | 43.2% | 32.1% | 41.59 | <.0001 |
| (9) | テレビ電話やインターネットなどで、自分の健康状態に合わせた食事メニューが提示され、その材料が注文できるサービス | 32.2% | 42.9% | 31.8% | 53.61 | <.0001 |
| (10) | 家の中にセンサーを設置し、人が倒れた、人の動きがない等の異常時に警備員が駆けつけて安否を確認するサービス | 42.7% | 44.3% | 39.2% | 8.69 | 0.0130 |
| (11) | 個人の医療情報が医療機関で連携され、病状の説明が省けるサービス | 39.9% | 44.7% | 28.6% | 89.60 | <.0001 |

※残差分析の結果、5%水準で、黒・太字は有意に高く、赤・太字は有意に低いことを示す。

さらに、回答者を日本に限定して、性別・年齢層別に先進医療サービスについて本人の利用意向（表 4.1.3）および家族への利用意向（表 4.1.4）を確認した。

本人の利用意向については、 χ^2 検定の結果、性別で5%未満の水準で有意な偏りが見られたものは、(3)専門家のアドバイス（0.1%水準）、(5)対話ロボット（5%水準）、(7)遠隔診察（1%水準）、(8)体質改善アドバイス（0.1%水準）、(9)食事メニュー（0.1%水準）、(10)監視センサー（0.1%水準）、(11)医療機関連携であり、いずれも女性が男性よりも高い利用意向を示した。一方で、年齢層別で5%未満の水準で有意な偏りが見られたものは、(4)介護ロボット、(5)対話ロボット、(9)食事メニュー（いずれも5%水準）であり、20代の利用意向が高い傾向が見られた。

表 4.1.3 性別・年齢層別 先進医療サービス利用意向（本人の利用）（日本）

| | N | 男性 | 女性 | χ^2 値 | p値 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | χ^2 値 | p値 |
|---|---|--------------|--------------|------------|--------|--------------|-------|-------|--------------|--------------|------------|--------|
| | | 775 | 775 | | | 310 | 310 | 310 | 310 | 310 | | |
| (1) インターネットと情報端末等を通じて遠隔に医療診断や相談ができるサービス | | 33.9% | 38.6% | 3.62 | 0.0572 | 37.7% | 39.0% | 36.5% | 33.2% | 34.8% | 2.84 | 0.5856 |
| (2) インターネットと専用機器等を通じて日々の健康管理ができるサービス | | 31.4% | 35.9% | 3.54 | 0.0598 | 38.7% | 37.1% | 32.6% | 29.7% | 30.0% | 9.41 | 0.0517 |
| (3) 歩数計、血圧計のデータをインターネットを利用して専門家に送ると、専門家から記録やアドバイスなどを受けられるサービス | | 29.7% | 37.8% | 11.45 | 0.0007 | 39.4% | 32.9% | 33.5% | 31.0% | 31.9% | 5.99 | 0.1998 |
| (4) 介護施設などで職員の代わりにロボットが介護してくれるサービス | | 17.5% | 20.6% | 2.41 | 0.1209 | 25.2% | 20.3% | 18.4% | 16.5% | 15.2% | 12.29 | 0.0153 |
| (5) 医療機関や介護施設などで職員が忙しいときなど代わりにロボットが対話してくれるサービス | | 17.4% | 21.8% | 4.73 | 0.0296 | 25.2% | 21.3% | 16.8% | 19.0% | 15.8% | 11.11 | 0.0254 |
| (6) 近くの病院で、インターネットなどを使って、有名な病院の医師のアドバイスを受けながら手術が受けられるサービス | | 24.4% | 26.7% | 1.10 | 0.2945 | 29.7% | 24.5% | 24.8% | 27.1% | 21.6% | 5.95 | 0.2030 |
| (7) テレビ電話やインターネットなどを使って、自宅で医師の診察が受けられるサービス | | 35.7% | 42.8% | 8.18 | 0.0042 | 40.6% | 39.7% | 36.8% | 41.3% | 38.1% | 1.80 | 0.7732 |
| (8) インターネットなどで、自分に合わせた運動メニューが提示され、継続的な体質改善のアドバイスを受けられるサービス | | 30.5% | 41.7% | 21.18 | <.0001 | 38.7% | 38.4% | 35.5% | 34.2% | 33.5% | 3.03 | 0.5523 |
| (9) テレビ電話やインターネットなどで、自分の健康状態に合わせた食事メニューが提示され、その材料が注文できるサービス | | 24.5% | 33.9% | 16.62 | <.0001 | 36.1% | 28.7% | 26.5% | 28.4% | 26.5% | 9.59 | 0.0478 |
| (10) 家の中にセンサーを設置し、人が倒れた、人の動きがない等の異常時に警備員が駆けつけて安否を確認するサービス | | 31.5% | 44.1% | 26.35 | <.0001 | 40.3% | 41.0% | 34.5% | 39.0% | 34.2% | 5.50 | 0.2398 |
| (11) 個人の医療情報が医療機関で連携され、病状の説明が省けるサービス | | 36.0% | 46.1% | 16.22 | <.0001 | 37.7% | 39.7% | 37.7% | 46.8% | 43.2% | 7.85 | 0.0972 |

※残差分析の結果、5%水準で、黒・太字は有意に高く、赤・太字は有意に低いことを示す。

家族への利用意向については、 χ^2 検定の結果、性別で5%未満の水準で有意な偏りが見られたものは、(1)遠隔診断・相談（0.1%水準）、(2)健康管理（0.1%水準）、(3)専門家のアドバイス（0.1%水準）、(4)介護ロボット（5%水準）、(5)対話ロボット（5%水準）、(7)遠隔診察（0.1%水準）、(8)体質改善アドバイス（0.1%水準）、(9)食事メニュー（0.1%水準）、(10)監視センサー（0.1%水準）、(11)医療機関連携（0.1%水準）であり、いずれも女性が男性よりも高い利用意向を示した。一方で、年齢層別で5%未満の水準で有意な偏りが見られたものは、(3)専門家のアドバイス、(4)介護ロボット、(9)食事メニュー、(10)監視センサー（いずれも5%水準）であり、20代の利用意向が高い傾向が見られた。

表 4.1.4 性別・年齢層別 先進医療サービス利用意向（家族の利用）（日本）

| | N | 男性 775 | 女性 775 | χ^2 値 | p値 | 20代 310 | 30代 310 | 40代 310 | 50代 310 | 60代 310 | χ^2 値 | p値 |
|------|--|-----------|-----------|------------|--------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|--------|
| (1) | インターネットと情報端末等を通じて遠隔に医療診断や相談ができるサービス | 30.8% | 41.8% | 20.15 | <.0001 | 37.7% | 40.0% | 33.9% | 34.8% | 35.2% | 3.36 | 0.4989 |
| (2) | インターネットと専用機器等を通じて日々の健康管理ができるサービス | 31.0% | 41.3% | 17.89 | <.0001 | 41.0% | 39.4% | 32.3% | 33.5% | 34.5% | 7.80 | 0.0992 |
| (3) | 歩数計、血圧計のデータをインターネットを利用して専門家に送ると、専門家が記録やアドバイスなどを受けられるサービス | 31.2% | 42.3% | 20.52 | <.0001 | 44.8% | 38.1% | 34.2% | 33.2% | 33.5% | 12.85 | 0.0120 |
| (4) | 介護施設などで職員の代わりにロボットが介護してくれるサービス | 18.8% | 23.6% | 5.28 | 0.0215 | 26.5% | 23.9% | 20.0% | 19.4% | 16.5% | 11.51 | 0.0214 |
| (5) | 医療機関や介護施設などで職員が忙しいときなど代わりにロボットが対話してくれるサービス | 18.1% | 23.0% | 5.71 | 0.0168 | 24.2% | 22.9% | 18.4% | 19.4% | 17.7% | 6.24 | 0.1823 |
| (6) | 近くの病院で、インターネットなどを使って、有名な病院の医師のアドバイスを受けながら手術が受けられるサービス | 26.3% | 29.9% | 2.50 | 0.1137 | 31.6% | 30.6% | 26.8% | 27.1% | 24.5% | 5.28 | 0.2599 |
| (7) | テレビ電話やインターネットなどを使って、自宅で医師の診察が受けられるサービス | 32.9% | 47.1% | 32.53 | <.0001 | 42.3% | 41.3% | 36.8% | 41.9% | 37.7% | 3.36 | 0.4994 |
| (8) | インターネットなどで、自分に合わせた運動メニューが提示され、継続的な体質改善のアドバイスを受けられるサービス | 30.3% | 43.2% | 27.75 | <.0001 | 42.6% | 39.0% | 32.9% | 35.2% | 34.2% | 8.41 | 0.0777 |
| (9) | テレビ電話やインターネットなどで、自分の健康状態に合わせた食事メニューが提示され、その材料が注文できるサービス | 26.7% | 37.7% | 21.35 | <.0001 | 37.1% | 36.1% | 28.4% | 31.9% | 27.4% | 10.92 | 0.0275 |
| (10) | 家の中にセンサーを設置し、人が倒れた。人の動きがない等の異常時に警備員が駆けつけて安否を確認するサービス | 35.0% | 50.5% | 37.97 | <.0001 | 47.7% | 46.1% | 39.7% | 42.9% | 37.1% | 9.85 | 0.0430 |
| (11) | 個人の医療情報が医療機関で連携され、病状の説明が省けるサービス | 33.3% | 46.5% | 28.00 | <.0001 | 39.7% | 40.3% | 35.2% | 43.9% | 40.3% | 4.99 | 0.2878 |

※残差分析の結果、5%水準で、黒・太字は有意に高く、赤・太字は有意に低いことを示す。

4.2 健康習慣（問18）

次に、日ごろの習慣として6項目を列挙し、複数選択させた（問 18）。それぞれの習慣が当てはまる比率を、日本、アメリカ、ドイツの3か国で比較したものが表 4.2.1 である。

χ^2 検定の結果、(1)体重測定で日本とドイツが高くアメリカが低い傾向が見られ、(2)血圧測定、(6)スポーツではドイツが高く日本とアメリカが低い傾向が見られ、(3)歩く、(5)スポーツジムではアメリカとドイツが高く日本が低い傾向が見られ、(4)筋力トレーニングはアメリカが高くドイツが低い傾向が見られた（いずれも 0.1%水準）。6項目について当てはまるものがないと回答した人の比率でみると、日本が高くドイツが低い傾向が見られた（0.1%水準）。

表 4.2.1 国別 健康習慣（各国の N=1,550）

| | 日本 | 米 | 独 | χ^2 値 | p値 |
|----------------------|-------|-------|-------|------------|--------|
| (1) 体重を測定している | 46.0% | 31.0% | 47.0% | 102.04 | <.0001 |
| (2) 血圧を測定している | 15.8% | 13.7% | 23.2% | 53.78 | <.0001 |
| (3) できるだけ歩くようにしている | 42.7% | 57.8% | 54.5% | 78.01 | <.0001 |
| (4) 筋力トレーニングをしている | 15.7% | 20.6% | 14.8% | 21.44 | <.0001 |
| (5) 定期的にスポーツジムに通っている | 6.8% | 16.4% | 13.9% | 71.38 | <.0001 |
| (6) スポーツをしている | 14.5% | 9.5% | 39.6% | 484.47 | <.0001 |
| (7) 上記にあてはまるものはない | 28.2% | 23.9% | 16.6% | 59.77 | <.0001 |

※残差分析の結果、5%水準で、黒・太字は有意に高く、赤・太字は有意に低いことを示す。

さらに、回答者を日本に限定して、性別・年齢層別に健康習慣を確認した（表 4.2.2）。 χ^2 検定の結果、性別では、(1)体重測定（0.1%水準）、(3)歩く（1%水準）で女性が男性よりも高く、(2)血圧測定（5%水準）、(4)筋力トレーニング（1%水準）、(6)スポーツ（0.1%水準）で男性が女性よりも高い傾向が見られ、6項目に当てはまるものがない比率は男性が女性よりも高い傾向が見られた（5%水準）。一方で、年齢層別では(1)体重測定（0.1%水準）では20代が低く60代が高い傾向が見られ、(2)血圧測定（0.1%水準）では20～40代が低く50～60代が高い傾向が見られ、(3)歩く（0.1%水準）では40代が低く60代が高い傾向が見られ、(4)筋力トレーニング（5%水準）では30代が高く40代が低い傾向が見られ、(6)スポーツをしている（5%水準）では50代が低い傾向が見られた。6項目に当てはまるものがない比率では、20～40代で低く60代で高い傾向が見られた（0.1%水準）。

表 4.2.2 性別・年齢層別 健康習慣（日本）

| | N | 男性 | 女性 | χ^2 値 | p値 | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | χ^2 値 | p値 |
|----------------------|---|--------------|--------------|------------|--------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|------------|--------|
| | | 775 | 775 | | | 310 | 310 | 310 | 310 | 310 | | |
| (1) 体重を測定している | | 39.9% | 52.1% | 23.44 | <.0001 | 35.2% | 43.2% | 43.5% | 46.5% | 61.6% | 46.82 | <.0001 |
| (2) 血圧を測定している | | 17.7% | 13.9% | 4.08 | 0.0435 | 3.5% | 6.5% | 7.4% | 21.3% | 40.3% | 218.79 | <.0001 |
| (3) できるだけ歩くようにしている | | 39.0% | 46.5% | 8.87 | 0.0029 | 39.0% | 38.4% | 35.8% | 43.9% | 56.5% | 34.21 | <.0001 |
| (4) 筋力トレーニングをしている | | 18.7% | 12.6% | 10.78 | 0.0010 | 17.4% | 20.3% | 11.0% | 13.5% | 16.1% | 12.08 | 0.0167 |
| (5) 定期的にスポーツジムに通っている | | 6.8% | 6.7% | 0.01 | 0.9195 | 4.5% | 5.8% | 5.8% | 8.4% | 9.4% | 7.97 | 0.0927 |
| (6) スポーツをしている | | 19.1% | 9.8% | 27.05 | <.0001 | 16.5% | 16.5% | 11.0% | 10.6% | 17.7% | 11.40 | 0.0224 |
| (7) 上記にあてはまるものはない | | 30.7% | 25.7% | 4.85 | 0.0277 | 35.5% | 33.2% | 33.9% | 24.2% | 14.2% | 49.41 | <.0001 |

※残差分析の結果、5%水準で、黒・太字は有意に高く、赤・太字は有意に低いことを示す。

4.3 医療・健康情報の関する不満等（問19+問17(7)）

表 4.3.1 は、病院や健康・医療に関して、日常的に不満について質問した結果を示したものである。いずれも「1. あてはまる」「2. ややあてはまる」の合計回答比率、すなわち「あてはまる」人の比率を示した（他の選択肢は「3. どちらともいえない」「4. あまりあてはまらない」「5. あてはまらない」）。

なお、表最下段の☆項目は、「不満」ではなく、むしろ「メリット」を質問しているが、これも同様に数値は「あてはまる」人の比率である。

表中※印欄に示されたアスタリスクは χ^2 検定の結果（いずれも行、すなわち横での比較）を示し、太字は残差分析で有意に高く、赤字は有意に低いことを表す。

表 4.3.1 医療・健康情報の関する不満等

| | 日本 | | | | 日本 | | | 日本 | | | | | ※ |
|-----------------------------------|-------|-------|-------|-----|-------|-------|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-----|
| | 日本 | 米 | 独 | ※ | 男性 | 女性 | ※ | 20代 | 30代 | 40代 | 50代 | 60代 | |
| 病院に行っても待たされてイライラする | 50.8% | 61.4% | 66.7% | *** | 45.8% | 55.7% | *** | 50.6% | 47.1% | 54.8% | 52.3% | 49.0% | ns |
| 近くに病院がない | 14.8% | 22.8% | 20.4% | *** | 13.4% | 16.1% | ns | 14.5% | 17.7% | 14.8% | 11.9% | 14.8% | ns |
| かかりつけの病院がない | 30.6% | 30.3% | 33.3% | ns | 28.6% | 32.5% | ns | 31.9% | 34.5% | 37.4% | 30.0% | 19.0% | *** |
| 複数の病院で、病歴を説明するのが面倒だ | 43.0% | 49.1% | 43.3% | ns | 35.4% | 50.7% | *** | 39.4% | 40.3% | 49.7% | 47.7% | 38.1% | ** |
| 家族の健康が気になる | 61.4% | 56.6% | 78.0% | *** | 50.7% | 72.0% | *** | 56.8% | 60.6% | 62.6% | 66.8% | 60.0% | ns |
| 緊急の際に、病歴を説明できない | 20.8% | 27.2% | 28.2% | *** | 19.7% | 21.8% | ns | 28.4% | 22.9% | 20.6% | 18.1% | 13.9% | *** |
| 病院に行っても、どのくらい費用がかかるかわからないのが不安 | 50.5% | 50.2% | 30.9% | *** | 44.1% | 56.8% | *** | 57.4% | 53.2% | 53.5% | 48.4% | 39.7% | *** |
| 家族に病気のことをうまく伝えられない | 18.7% | 32.3% | 23.2% | *** | 15.9% | 21.5% | ** | 22.6% | 20.6% | 20.0% | 19.7% | 10.6% | ** |
| 病院で説明を受けても分からない | 20.6% | 25.5% | 20.2% | *** | 16.1% | 25.2% | *** | 26.8% | 22.3% | 24.5% | 17.7% | 11.9% | *** |
| 病院をたらいまわしにされるのが不安 | 33.8% | 38.0% | 21.7% | *** | 25.0% | 42.6% | *** | 38.4% | 34.5% | 38.4% | 31.3% | 26.5% | ** |
| ふだんの健康管理ができない | 19.9% | 21.5% | 17.8% | * | 19.2% | 20.5% | ns | 26.1% | 23.2% | 22.6% | 19.0% | 8.4% | *** |
| 複数の病院で同じ検査を受けさせられる | 25.8% | 29.2% | 21.8% | *** | 21.4% | 30.2% | *** | 21.9% | 25.8% | 28.7% | 28.4% | 24.2% | ns |
| 検査の結果の説明が不十分だ | 26.1% | 33.7% | 31.7% | *** | 19.4% | 32.8% | *** | 22.3% | 28.4% | 28.7% | 27.1% | 23.9% | ns |
| ☆病院や診療所に行くことで、他の患者とのコミュニケーションができる | 18.6% | 41.8% | 55.7% | *** | 16.9% | 20.3% | ns | 18.4% | 17.7% | 18.7% | 16.8% | 21.3% | ns |

※各属性(国、性別、年齢層)×各回答における[あてはまる/あてはまらない]のクロス集計の χ^2 検定結果

ns:no significant, *:p<0.05, **:p<0.01, ***:p<0.001

残差分析の結果5%水準(両側検定)で数値が太字のものは「有意に高い」赤字は「有意に低い」ことを示す。

各国のN=1,550。日本の男性、女性ともにN=775。日本の各年齢層N=310。

まず、方向性が逆の「☆病院や診療所に行くことで、他の患者とのコミュニケーションができる」を除いた項目、すなわち主に不満に関する項目で回答分布を見てみる。

国別に見た場合、日本は「家族の健康が気になる」が最も該当率が高く、米国は「病院に行っても待たされてイライラする」、ドイツは、「家族の健康が気になる」の該当率が高い。

3国を比較すれば、日本は「病院に行っても、どのくらい費用がかかるかわからないのが不安」の項目で最も該当率が高く、アメリカは「近くに病院がない」「複数の病院で、病歴を説明するのが面倒」「家族に病気のことをうまく伝えられない」「病院で説明を受けてもわからない」「病院をたらい回しにされるのが不安」「ふだんの健康管理ができない」「複数の病院で同じ検査を受けさせられる」「検査の結果の説明が不十分だ」という多くの項目で3国の中で最も該当率が高い。ドイツは「病院に行っても待たされてイライラする」「かかりつけの病院がない」「家族の健康が気になる」「緊急の際に、病歴を説明できない」の4項目で最も比率が高い。

日本の回答を性別に見た場合、全項目で男性より女性の方が該当率が高い。とりわけ、女性では「家族の健康が気になる」の該当率が高い。

日本の回答を年齢層別に見た場合、有意差のあった項目について、20代は「緊急の際に、病歴を説明できない」「病院に行っても、どのくらい費用がかかるかわからないのが不安」「家族に病気のことをうまく伝えられない」「病院で説明を受けてもわからない」「ふだんの健康管理ができない」の項目で該当率が高く、「かかりつけの病院がない」「複数の病院

で、病歴を説明するのが面倒」の2項目で40代の該当率が高い。

一方、病院のメリットを質問した「病院や診療所に行くことで、他の患者とのコミュニケーションができる(問 17(7))」については、国別に見てドイツの該当率が最も高く、日本の該当率(18.6%)は最も低い。日本の回答を性別に見た場合、男女の有意差は示されなかったが、男性より女性の方の該当率が高い傾向が見られた。年齢層別に見た場合も有意差は示されなかった。

4.4 クラウドサービスの利用と信頼 (問5、問6)

まず、利用しているクラウドサービスについて、代表的な5つのサービスを列挙し、複数選択させた(問5)。それぞれのサービスを利用している人の比率を、日本、アメリカ、ドイツの3か国で比較したものが表4.4.1である。 χ^2 検定の結果、いずれも日本の利用率が低くアメリカの利用率が高い傾向が見られ、ドイツではDropBoxの利用率は高いが、Googleドライブ、iCloudの利用率は低い傾向が見られた(いずれも0.1%水準)。5つのクラウドサービスを利用していない人の比率を比べた場合、日本が高くアメリカとドイツが低い傾向が見られた(0.1%水準)。

表 4.4.1 国別 クラウドサービスの利用 (各国のN=1,550)

| | | 日本 | 米 | 独 | χ^2 値 | p値 |
|-----|--------------------|-------|-------|-------|------------|--------|
| (1) | DropBox | 10.9% | 28.3% | 26.8% | 167.92 | <.0001 |
| (2) | Microsoft OneDrive | 8.1% | 24.5% | 17.2% | 149.78 | <.0001 |
| (3) | Googleドライブ | 16.3% | 37.8% | 23.2% | 196.36 | <.0001 |
| (4) | iCloud | 17.2% | 26.2% | 14.2% | 77.79 | <.0001 |
| (5) | Box (ファイル共有サービス) | 1.2% | 3.9% | 1.7% | 28.54 | <.0001 |
| (6) | 上記に利用しているものはない | 67.0% | 39.4% | 49.9% | 241.09 | <.0001 |

※残差分析の結果、5%水準で、黒・太字は有意に高く、赤・太字は有意に低いことを示す。

さらに、回答者を日本に限定して、性別、年齢層別にクラウドサービスの利用状況を確認した(表4.4.2)。 χ^2 検定の結果、性別では、DropBox(0.1%水準)、Microsoft OneDrive(0.1%水準)、Googleドライブ(0.1%水準)、Box(1%水準)で男性が女性よりも利用率が高く、5項目に対して利用しているものはない人の比率では女性が男性よりも高い(0.1%水準)。年齢層別では、DropBox(0.1%水準)、Microsoft OneDrive(1%水準)、Googleドライブ(0.1%水準)、iCloud(0.1%水準)で有意な偏りが見られ、いずれも若年層の利

用率が高い。5項目に対して利用しているものはない人の比率では20代が低く、40代60代が高い傾向が見られた（0.1%水準）。

表 4.4.2 性別・年齢層別 クラウドサービスの利用（日本）

| | N | 男性 775 | 女性 775 | χ^2 値 | p値 | 20代 310 | 30代 310 | 40代 310 | 50代 310 | 60代 310 | χ^2 値 | p値 |
|------------------------|---|-----------|-----------|------------|--------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|--------|
| (1) DropBox | | 14.5% | 7.4% | 20.09 | <.0001 | 21.0% | 12.6% | 8.4% | 6.1% | 6.5% | 48.84 | <.0001 |
| (2) Microsoft OneDrive | | 11.9% | 4.4% | 29.06 | <.0001 | 13.5% | 6.1% | 5.5% | 9.0% | 6.5% | 18.26 | 0.0011 |
| (3) Googleドライブ | | 19.9% | 12.6% | 14.86 | 0.0001 | 25.8% | 17.7% | 12.3% | 15.2% | 10.3% | 33.20 | <.0001 |
| (4) iCloud | | 18.5% | 16.0% | 1.63 | 0.2012 | 26.5% | 19.0% | 14.2% | 14.8% | 11.6% | 29.30 | <.0001 |
| (5) Box（ファイル共有サービス） | | 2.1% | 0.4% | 9.01 | 0.0027 | 1.6% | 1.6% | 1.0% | 1.3% | 0.6% | 1.81 | 0.7703 |
| (6) 上記に利用しているものはない | | 63.0% | 71.0% | 11.21 | 0.0008 | 48.7% | 64.2% | 73.2% | 69.7% | 79.0% | 74.71 | <.0001 |

※残差分析の結果、5%水準で、黒・太字は有意に高く、赤・太字は有意に低いことを示す。

さらに、クラウドサービスのセキュリティに対する信頼について、「全面的に信頼している」「ある程度信頼している」「どちらともいえない」「あまり信頼していない」「まったく信頼していない」の5件法で質問した（問6）。「全面的に信頼している」「ある程度信頼している」を合算した比率を、日本、アメリカ、ドイツの3か国で比較したものが表 4.4.3 である。 χ^2 検定の結果、アメリカが高く日本とドイツが低い傾向が見られた（0.1%水準）。

表 4.4.3 国別 クラウドサービスのセキュリティに対する信頼（各国のN=1,550）

| | 日本 | 米 | 独 | χ^2 値 | p値 |
|--------|-------|-------|-------|------------|--------|
| 信頼している | 29.9% | 48.1% | 35.4% | 114.66 | <.0001 |

※残差分析の結果、5%水準で、黒・太字は有意に高く、赤・太字は有意に低いことを示す。

さらに、回答者を日本に限定して、性別・年齢層別にクラウドサービスのセキュリティに対する信頼を確認した（表 4.4.4）。 χ^2 検定の結果、性別では男性が女性よりも高く（5%水準）、年齢層別では20代が高い傾向が見られた（1%水準）。

表 4.4.4 性別・年齢層別 クラウドサービスのセキュリティに対する信頼（日本）

| | 男性 775 | 女性 775 | χ^2 値 | p値 | 20代 310 | 30代 310 | 40代 310 | 50代 310 | 60代 310 | χ^2 値 | p値 |
|--------|-----------|-----------|------------|--------|------------|------------|------------|------------|------------|------------|--------|
| 信頼している | 32.6% | 27.1% | 5.69 | 0.0170 | 38.4% | 30.6% | 25.8% | 26.1% | 28.4% | 15.66 | 0.0035 |

※残差分析の結果、5%水準で、黒・太字は有意に高く、赤・太字は有意に低いことを示す。

単純集計表

| | | 全体 | | | | |
|------|--|----------|-------|-------|-------|-------|
| | | 日本 | アメリカ | ドイツ | 全体 | |
| N | | 1,550 | 1,550 | 1,550 | 4,650 | |
| | あなたの性別をお知らせください。 | | | | | |
| | 1 男性 | 50.0% | 50.0% | 50.0% | 50.0% | |
| | 2 女性 | 50.0% | 50.0% | 50.0% | 50.0% | |
| | あなたの年齢をお知らせください。 | | | | | |
| | S3S1N | []歳 | 44.8 | 45 | 44.7 | 44.8 |
| Q1 | あなたは平日（仕事や学校がある日）1日で下記それぞれの時間がどのくらいありますか。 おおよその時間をお答えください。 | | | | | |
| | (1) テレビ視聴時間 | 167.1 | 304.3 | 174.6 | 210.8 | |
| | (2) 新聞を読む時間（紙媒体の新聞） | 18.9 | 49.4 | 27.0 | 77.2 | |
| | (3) ラジオ聴取時間 | 30.9 | 121.7 | 118.3 | 153.2 | |
| | (4) パソコンからのインターネット利用時間 | 156.0 | 296.1 | 221.9 | 221.3 | |
| | (5) タブレット端末からのインターネット利用時間 | 15.6 | 93.4 | 33.8 | 122.9 | |
| | (6) スマートフォンからのインターネット利用時間 | 53.2 | 113.0 | 64.0 | 146.8 | |
| | (7) スマートフォン以外の携帯電話からのインターネット利用時間 | 3.0 | 46.1 | 8.8 | 93.8 | |
| Q2 | あなたの年齢をお知らせください。 | | | | | |
| (1) | パソコン・タブレットからのネット情報 | 1 よくある | 24.6% | 30.7% | 22.6% | 26.0% |
| | | 2 たまにある | 47.0% | 35.2% | 42.8% | 41.7% |
| | | 3 あまりない | 18.8% | 20.3% | 19.2% | 19.5% |
| | | 4 まったくない | 9.5% | 13.8% | 15.3% | 12.9% |
| (2) | スマートフォン・従来型携帯電話からのネット情報 | 1 よくある | 12.6% | 16.9% | 11.6% | 13.7% |
| | | 2 たまにある | 27.5% | 25.5% | 25.4% | 26.2% |
| | | 3 あまりない | 18.6% | 17.6% | 20.5% | 18.9% |
| | | 4 まったくない | 41.2% | 39.9% | 42.5% | 41.2% |
| (3) | テレビ | 1 よくある | 27.6% | 14.9% | 12.5% | 18.3% |
| | | 2 たまにある | 47.9% | 28.4% | 33.4% | 36.6% |
| | | 3 あまりない | 15.0% | 26.9% | 29.5% | 23.8% |
| | | 4 まったくない | 9.5% | 29.8% | 24.6% | 21.3% |
| (4) | ラジオ | 1 よくある | 3.0% | 9.2% | 7.2% | 6.4% |
| | | 2 たまにある | 12.8% | 19.9% | 21.2% | 18.0% |
| | | 3 あまりない | 22.7% | 24.0% | 25.7% | 24.2% |
| | | 4 まったくない | 61.5% | 46.9% | 45.9% | 51.4% |
| (5) | 新聞 | 1 よくある | 7.2% | 10.8% | 8.5% | 8.8% |
| | | 2 たまにある | 29.2% | 21.7% | 28.9% | 26.6% |
| | | 3 あまりない | 22.1% | 26.2% | 26.5% | 24.9% |
| | | 4 まったくない | 41.6% | 41.2% | 36.2% | 39.7% |
| (6) | 雑誌 | 1 よくある | 3.2% | 9.5% | 8.3% | 7.0% |
| | | 2 たまにある | 25.0% | 26.3% | 30.6% | 27.3% |
| | | 3 あまりない | 28.8% | 25.0% | 28.6% | 27.5% |
| | | 4 まったくない | 43.0% | 39.2% | 32.5% | 38.2% |
| (7) | 家族 | 1 よくある | 8.8% | 19.1% | 15.4% | 14.4% |
| | | 2 たまにある | 45.3% | 38.4% | 42.3% | 42.0% |
| | | 3 あまりない | 23.7% | 22.8% | 23.3% | 23.3% |
| | | 4 まったくない | 22.3% | 19.7% | 19.1% | 20.3% |
| (8) | 友人・知人 | 1 よくある | 6.6% | 12.7% | 10.9% | 10.1% |
| | | 2 たまにある | 41.0% | 37.6% | 40.4% | 39.7% |
| | | 3 あまりない | 26.1% | 25.7% | 28.8% | 26.9% |
| | | 4 まったくない | 26.3% | 24.0% | 19.9% | 23.4% |
| (9) | 病院のパンフレット | 1 よくある | 3.1% | 11.3% | 7.2% | 7.2% |
| | | 2 たまにある | 26.2% | 22.6% | 30.4% | 26.4% |
| | | 3 あまりない | 32.3% | 31.9% | 32.0% | 32.0% |
| | | 4 まったくない | 38.5% | 34.3% | 30.5% | 34.4% |
| (10) | それ以外のパンフレット | 1 よくある | 1.4% | 7.4% | 5.3% | 4.7% |
| | | 2 たまにある | 11.1% | 17.6% | 21.2% | 16.6% |
| | | 3 あまりない | 32.8% | 31.0% | 31.4% | 31.7% |
| | | 4 まったくない | 54.7% | 44.1% | 42.1% | 46.9% |
| (11) | フリーペーパー・チラシ | 1 よくある | 1.4% | 8.9% | 5.6% | 5.3% |
| | | 2 たまにある | 10.4% | 15.8% | 18.2% | 14.8% |
| | | 3 あまりない | 30.3% | 25.2% | 27.7% | 27.7% |
| | | 4 まったくない | 57.9% | 50.1% | 48.5% | 52.2% |
| (12) | 保険会社の外交員 | 1 よくある | 0.6% | 8.8% | 3.6% | 4.3% |
| | | 2 たまにある | 4.6% | 21.0% | 10.6% | 12.0% |
| | | 3 あまりない | 22.5% | 25.7% | 18.8% | 22.3% |
| | | 4 まったくない | 72.3% | 44.5% | 67.0% | 61.3% |

| | | 全体 | | | | | |
|--|---|--|------------------|-------|-------|-------|-------|
| | | 日本 | アメリカ | ドイツ | 全体 | | |
| Q3 | 以下のサービスやアプリケーションが提供された場合、あなたは利用したいと思いますか。 | | | | | | |
| | | (1)インターネットと情報端末等を通じて遠隔に医療診断や相談ができるサービス（自宅や外出先等で、テレビ画面やテレビ電話、PCのディスプレイを通じて、医師の診察を受けたり直接相談することができるサービスです。） | 1 ぜひ使いたい | 8.1% | 24.3% | 11.4% | 14.6% |
| | | | 2 どちらかといえば使いたい | 28.1% | 24.1% | 22.8% | 25.0% |
| | | | 3 どちらともいえない | 42.5% | 24.2% | 23.0% | 29.9% |
| | | | 4 どちらかといえば使いたくない | 10.5% | 7.0% | 17.6% | 11.7% |
| | | | 5 まったく使いたくない | 10.8% | 20.4% | 25.2% | 18.8% |
| | | (2)インターネットと専用機器等を通じて日々の健康管理ができるサービス（専用の計測機器等を利用して自分の日々の健康情報を医療機関に自動的に送り、診察結果を基に、病気の予兆通知、薬の処方の確認等が受けられるサービスです。） | 1 ぜひ使いたい | 6.6% | 13.3% | 9.8% | 9.9% |
| | | | 2 どちらかといえば使いたい | 27.0% | 27.1% | 24.5% | 26.2% |
| | | | 3 どちらともいえない | 43.1% | 26.5% | 25.0% | 31.5% |
| | | | 4 どちらかといえば使いたくない | 12.5% | 11.3% | 15.7% | 13.1% |
| | | | 5 まったく使いたくない | 10.8% | 21.8% | 25.0% | 19.2% |
| | | (3)自分で計測した歩数計、血圧計のデータをメールやインターネットを利用して専門家に送ると、専門家から自分の健康状態の記録やアドバイスなどを受けられるサービス | 1 ぜひ使いたい | 7.3% | 15.9% | 9.7% | 11.0% |
| 2 どちらかといえば使いたい | 26.5% | | 24.0% | 24.6% | 25.0% | | |
| 3 どちらともいえない | 40.7% | | 28.1% | 26.3% | 31.7% | | |
| 4 どちらかといえば使いたくない | 14.3% | | 11.0% | 14.5% | 13.2% | | |
| 5 まったく使いたくない | 11.2% | | 21.0% | 25.0% | 19.1% | | |
| (4)介護施設などで職員の代わりにロボットが介護してくれるサービス | 1 ぜひ使いたい | 4.1% | 9.6% | 3.9% | 5.9% | | |
| | 2 どちらかといえば使いたい | 15.0% | 14.5% | 10.0% | 13.2% | | |
| | 3 どちらともいえない | 45.0% | 22.5% | 20.1% | 29.2% | | |
| | 4 どちらかといえば使いたくない | 20.7% | 15.6% | 15.7% | 17.3% | | |
| | 5 まったく使いたくない | 15.2% | 37.8% | 50.3% | 34.4% | | |
| (5)医療機関や介護施設などで職員が忙しいときなどに代わりにロボットが対話してくれるサービス | 1 ぜひ使いたい | 3.4% | 11.0% | 3.9% | 6.1% | | |
| | 2 どちらかといえば使いたい | 16.3% | 14.4% | 12.8% | 14.5% | | |
| | 3 どちらともいえない | 42.8% | 24.2% | 20.8% | 29.2% | | |
| | 4 どちらかといえば使いたくない | 21.0% | 13.2% | 16.2% | 16.8% | | |
| | 5 まったく使いたくない | 16.6% | 37.2% | 46.3% | 33.4% | | |
| (6)家の近くの病院で、テレビ電話やインターネットなどを使って、有名な病院の医師のアドバイスを受けながら手術が受けられるサービス | 1 ぜひ使いたい | 5.0% | 13.9% | 6.3% | 8.4% | | |
| | 2 どちらかといえば使いたい | 20.6% | 20.0% | 20.8% | 20.5% | | |
| | 3 どちらともいえない | 45.9% | 31.5% | 27.4% | 34.9% | | |
| | 4 どちらかといえば使いたくない | 15.3% | 11.8% | 16.7% | 14.6% | | |
| | 5 まったく使いたくない | 13.3% | 22.8% | 28.8% | 21.6% | | |
| (7)テレビ電話やインターネットなどを使って、自宅で医師の診察が受けられるサービス | 1 ぜひ使いたい | 8.6% | 19.2% | 7.5% | 11.8% | | |
| | 2 どちらかといえば使いたい | 30.6% | 30.8% | 20.8% | 27.4% | | |
| | 3 どちらともいえない | 40.4% | 25.0% | 24.6% | 30.0% | | |
| | 4 どちらかといえば使いたくない | 9.6% | 8.3% | 17.2% | 11.7% | | |
| | 5 まったく使いたくない | 10.7% | 16.6% | 29.9% | 19.1% | | |
| (8)インターネットなどで、自分の健康状態に合わせた運動メニューが提示され、継続的な体質改善のアドバイスを受けられるサービス | 1 ぜひ使いたい | 8.5% | 17.6% | 10.6% | 12.2% | | |
| | 2 どちらかといえば使いたい | 27.5% | 30.1% | 25.9% | 27.8% | | |
| | 3 どちらともいえない | 42.6% | 25.8% | 26.3% | 31.6% | | |
| | 4 どちらかといえば使いたくない | 9.9% | 8.6% | 11.8% | 10.1% | | |
| | 5 まったく使いたくない | 11.4% | 17.9% | 25.4% | 18.2% | | |
| (9)テレビ電話やインターネットなどで、自分の健康状態に合わせた食事メニューが提示され、その材料が注文できるサービス | 1 ぜひ使いたい | 6.5% | 17.0% | 9.7% | 11.0% | | |
| | 2 どちらかといえば使いたい | 22.8% | 26.6% | 25.7% | 25.1% | | |
| | 3 どちらともいえない | 46.3% | 25.4% | 25.9% | 32.5% | | |
| | 4 どちらかといえば使いたくない | 12.5% | 9.9% | 12.5% | 11.6% | | |
| | 5 まったく使いたくない | 12.0% | 21.0% | 26.2% | 19.7% | | |
| (10)家の中にセンサーを設置し、人が倒れた、人の動きがない等の異常時に警備員が駆けつけて安否を確認するサービス | 1 ぜひ使いたい | 9.5% | 16.5% | 11.9% | 12.6% | | |
| | 2 どちらかといえば使いたい | 28.3% | 24.7% | 29.9% | 27.6% | | |
| | 3 どちらともいえない | 43.2% | 28.9% | 28.0% | 33.4% | | |
| | 4 どちらかといえば使いたくない | 8.9% | 8.9% | 10.1% | 9.3% | | |
| | 5 まったく使いたくない | 10.1% | 21.0% | 20.1% | 17.1% | | |
| (11)個人の医療情報が医療機関で連携され、病状の説明が省けるサービス | 1 ぜひ使いたい | 9.7% | 18.1% | 7.7% | 11.8% | | |
| | 2 どちらかといえば使いたい | 31.3% | 28.4% | 23.5% | 27.7% | | |
| | 3 どちらともいえない | 40.8% | 27.4% | 30.4% | 32.8% | | |
| | 4 どちらかといえば使いたくない | 8.4% | 7.9% | 12.6% | 9.6% | | |
| | 5 まったく使いたくない | 9.8% | 18.3% | 25.9% | 18.0% | | |

| | | 全体 | | | | |
|----|---|-----------------------|-------|-------|-------|-------|
| | | 日本 | アメリカ | ドイツ | 全体 | |
| Q4 | 以下のサービスやアプリケーションが提供された場合、あなたのご家族に利用させたいと思いますか。 | | | | | |
| | (1)インターネットと情報端末等を通じて遠隔に医療診断や相談ができるサービス（自宅や外出先等で、テレビ画面やテレビ電話、PCのディスプレイを通じて、医師の診察を受けたり直接相談することができるサービスです。） | 1 ぜひ家族に使ってほしい | 8.8% | 22.5% | 8.6% | 13.3% |
| | | 2 どちらかといえば家族に使ってほしい | 27.5% | 22.3% | 20.1% | 23.3% |
| | | 3 どちらともいえない | 49.1% | 28.7% | 30.6% | 36.1% |
| | | 4 どちらかといえば家族に使ってほしくない | 7.4% | 7.0% | 14.8% | 9.7% |
| | | 5 まったく家族に使ってほしくない | 7.2% | 19.5% | 26.0% | 17.6% |
| | (2)インターネットと専用機器等を通じて日々の健康管理ができるサービス（専用の計測機器等を利用して自分の日々の健康情報を医療機関に自動的に送り、診察結果に基づき、病気の予兆通知、薬の処方の確認等が受けられるサービスです。） | 1 ぜひ家族に使ってほしい | 8.6% | 14.9% | 8.1% | 10.5% |
| | | 2 どちらかといえば家族に使ってほしい | 27.5% | 26.5% | 22.3% | 25.4% |
| | | 3 どちらともいえない | 49.9% | 29.9% | 31.0% | 36.9% |
| | | 4 どちらかといえば家族に使ってほしくない | 6.9% | 8.5% | 13.3% | 9.5% |
| | | 5 まったく家族に使ってほしくない | 7.1% | 20.2% | 25.4% | 17.5% |
| | (3)自分で計測した歩数計、血圧計のデータをメールやインターネットを利用して専門家に送ると、専門家から自分の健康状態の記録やアドバイスなどを受けられるサービス | 1 ぜひ家族に使ってほしい | 9.4% | 16.4% | 7.9% | 11.2% |
| | | 2 どちらかといえば家族に使ってほしい | 27.4% | 22.0% | 20.4% | 23.2% |
| | | 3 どちらともいえない | 48.9% | 32.3% | 35.1% | 38.8% |
| | | 4 どちらかといえば家族に使ってほしくない | 7.2% | 8.9% | 12.1% | 9.4% |
| | | 5 まったく家族に使ってほしくない | 7.1% | 20.5% | 24.6% | 17.4% |
| | (4)介護施設などで職員の代わりにロボットが介護してくれるサービス | 1 ぜひ家族に使ってほしい | 5.3% | 9.0% | 3.4% | 5.9% |
| | | 2 どちらかといえば家族に使ってほしい | 15.9% | 14.8% | 9.1% | 13.3% |
| | | 3 どちらともいえない | 50.5% | 26.3% | 27.3% | 34.7% |
| | | 4 どちらかといえば家族に使ってほしくない | 16.2% | 13.9% | 13.7% | 14.6% |
| | | 5 まったく家族に使ってほしくない | 12.1% | 36.0% | 46.5% | 31.5% |
| | (5)医療機関や介護施設などで職員が忙しいときなど代わりにロボットが対話してくれるサービス | 1 ぜひ家族に使ってほしい | 4.5% | 11.2% | 4.4% | 6.7% |
| | | 2 どちらかといえば家族に使ってほしい | 16.1% | 13.4% | 11.0% | 13.5% |
| | | 3 どちらともいえない | 50.7% | 27.5% | 26.7% | 35.0% |
| | | 4 どちらかといえば家族に使ってほしくない | 16.6% | 12.3% | 14.3% | 14.4% |
| | | 5 まったく家族に使ってほしくない | 12.2% | 35.5% | 43.6% | 30.4% |
| | (6)家の近くの病院で、テレビ電話やインターネットなどを使って、有名な病院の医師のアドバイスを受けながら手術が受けられるサービス | 1 ぜひ家族に使ってほしい | 6.3% | 14.9% | 6.8% | 9.3% |
| | | 2 どちらかといえば家族に使ってほしい | 21.8% | 18.9% | 20.4% | 20.4% |
| | | 3 どちらともいえない | 49.9% | 32.3% | 29.9% | 37.4% |
| | | 4 どちらかといえば家族に使ってほしくない | 12.2% | 10.1% | 14.1% | 12.2% |
| | | 5 まったく家族に使ってほしくない | 9.7% | 23.7% | 28.8% | 20.8% |
| | (7)テレビ電話やインターネットなどを使って、自宅で医師の診察を受けられるサービス | 1 ぜひ家族に使ってほしい | 10.2% | 18.2% | 7.2% | 11.8% |
| | | 2 どちらかといえば家族に使ってほしい | 29.8% | 28.1% | 17.4% | 25.1% |
| | | 3 どちらともいえない | 45.4% | 29.5% | 31.5% | 35.5% |
| | | 4 どちらかといえば家族に使ってほしくない | 7.2% | 6.8% | 15.2% | 9.7% |
| | | 5 まったく家族に使ってほしくない | 7.4% | 17.4% | 28.7% | 17.8% |
| | (8)インターネットなどで、自分の健康状態に合わせた運動メニューが提示され、継続的な体質改善のアドバイスを受けられるサービス | 1 ぜひ家族に使ってほしい | 9.1% | 17.5% | 8.8% | 11.8% |
| | | 2 どちらかといえば家族に使ってほしい | 27.7% | 25.7% | 23.3% | 25.6% |
| | | 3 どちらともいえない | 49.0% | 30.2% | 31.7% | 36.9% |
| | | 4 どちらかといえば家族に使ってほしくない | 7.0% | 8.2% | 11.8% | 9.0% |
| | | 5 まったく家族に使ってほしくない | 7.3% | 18.4% | 24.5% | 16.7% |
| | (9)テレビ電話やインターネットなどで、自分の健康状態に合わせた食事メニューが提示され、その材料が注文できるサービス | 1 ぜひ家族に使ってほしい | 8.6% | 16.1% | 9.3% | 11.4% |
| | | 2 どちらかといえば家族に使ってほしい | 23.5% | 26.8% | 22.5% | 24.3% |
| | | 3 どちらともいえない | 51.2% | 28.5% | 31.5% | 37.1% |
| | | 4 どちらかといえば家族に使ってほしくない | 9.2% | 8.8% | 11.4% | 9.8% |
| | | 5 まったく家族に使ってほしくない | 7.4% | 19.8% | 25.3% | 17.5% |
| | (10)家の中にセンサーを設置し、人が倒れた、人の動きがない等の異常時に警備員が駆けつけて安否を確認するサービス | 1 ぜひ家族に使ってほしい | 16.6% | 20.0% | 13.6% | 16.7% |
| | | 2 どちらかといえば家族に使ってほしい | 26.1% | 24.3% | 25.5% | 25.3% |
| | | 3 どちらともいえない | 44.2% | 28.9% | 30.1% | 34.4% |
| | | 4 どちらかといえば家族に使ってほしくない | 6.6% | 7.2% | 9.1% | 7.6% |
| | | 5 まったく家族に使ってほしくない | 6.5% | 19.7% | 21.7% | 15.9% |
| | (11)個人の医療情報が医療機関で連携され、病状の説明が省けるサービス | 1 ぜひ家族に使ってほしい | 11.7% | 19.1% | 7.7% | 12.9% |
| | | 2 どちらかといえば家族に使ってほしい | 28.1% | 25.6% | 20.9% | 24.9% |
| | | 3 どちらともいえない | 45.5% | 30.1% | 34.2% | 36.6% |
| | | 4 どちらかといえば家族に使ってほしくない | 7.5% | 6.5% | 10.9% | 8.3% |
| | | 5 まったく家族に使ってほしくない | 7.0% | 18.6% | 26.3% | 17.3% |
| Q5 | 以下の(1)～(5)のウェブサイトやアプリのリストが挙げられています。この中で、あなたが利用しているものはありますか。あてはまるものをすべて選択してください。 | | | | | |
| | | 1 DropBox | 10.9% | 28.3% | 26.8% | 22.0% |
| | | 2 Microsoft OneDrive | 8.1% | 24.5% | 17.2% | 16.6% |
| | | 3 Googleドライブ | 16.3% | 37.8% | 23.2% | 25.7% |
| | | 4 iCloud | 17.2% | 26.2% | 14.2% | 19.2% |
| | | 5 Box（ファイル共有サービス） | 1.2% | 3.9% | 1.7% | 2.3% |
| | | 6 上記に利用しているものはない | 67.0% | 39.4% | 49.9% | 52.1% |
| Q6 | 前問に挙げたようなクラウドサービスの情報セキュリティについてどの程度信頼していますか？ | | | | | |
| | | 1 全般的に信頼している | 1.7% | 15.0% | 4.4% | 7.0% |
| | | 2 ある程度信頼している | 28.2% | 33.1% | 31.0% | 30.8% |
| | | 3 どちらともいえない | 45.2% | 28.1% | 28.1% | 33.8% |
| | | 4 あまり信頼していない | 19.9% | 15.4% | 21.5% | 18.9% |
| | | 5 まったく信頼していない | 5.1% | 8.5% | 15.0% | 9.5% |

| | | | 全体 | | | |
|----|---|---|---|---|---|--|
| | | | 日本 | アメリカ | ドイツ | 全体 |
| Q7 | あなたは、以下のような場合に、あなたに関する個人情報を提供することに対してどのようにお考えですか。 それぞれもっともあてはまるものを1つ選択してください。 | | | | | |
| | (1) 防災に関わる内容や大規模災害などの緊急時 | 1 提供してもよい 2 条件によっては提供してもよい 3 どんな場合でも提供したくない | 31.5% 57.9% 10.5% | 32.2% 48.0% 19.8% | 36.4% 47.8% 15.8% | 33.4% 51.2% 15.4% |
| | (2) 国民の健康・福祉に関わるもの（医療・新薬開発等） | 1 提供してもよい 2 条件によっては提供してもよい 3 どんな場合でも提供したくない | 16.7% 65.3% 18.0% | 22.9% 51.9% 25.2% | 24.6% 52.5% 23.0% | 21.4% 56.5% 22.1% |
| | (3) 交通渋滞、道路や橋の老朽化対策等の社会課題解決に関わるもの | 1 提供してもよい 2 条件によっては提供してもよい 3 どんな場合でも提供したくない | 12.3% 60.6% 27.0% | 20.6% 44.1% 35.4% | 24.3% 49.7% 26.1% | 19.1% 51.5% 29.5% |
| | (4) 公共サービスの高品質化、利便性向上（公的手続きの迅速化・公的サービス拡充等）に関わるもの | 1 提供してもよい 2 条件によっては提供してもよい 3 どんな場合でも提供したくない | 12.4% 63.6% 24.0% | 20.5% 46.6% 32.9% | 23.3% 49.5% 27.2% | 18.7% 53.3% 28.0% |
| | (5) 教育や研究など学問の発展に役立つもの | 1 提供してもよい 2 条件によっては提供してもよい 3 どんな場合でも提供したくない | 12.1% 62.0% 25.9% | 24.0% 44.5% 31.5% | 26.3% 52.1% 21.6% | 20.8% 52.9% 26.3% |
| Q8 | 次に挙げる情報を活用するにあたっては、どのような取り扱いが望ましいと思いますか。 | | | | | |
| | (1) 健康診断の結果、運動や喫煙の習慣、食生活など、健康に関する情報 | 1 どんな目的でも同意無しで取り扱いを認める 2 社会的意義のある目的なら同意不要 3 どんな目的でも同意した場合のみ取り扱いを認める 4 どんな目的でも取り扱いを認めない 5 わからない、自分には心あたりや関係がない | 4.0% 16.7% 63.6% 8.6% 7.0% | 15.4% 9.0% 42.5% 24.5% 8.7% | 5.9% 13.2% 56.1% 14.7% 10.1% | 8.4% 13.0% 54.1% 15.9% 8.6% |
| | (2) 病歴、服薬履歴、妊娠状況など、医療に関する情報 | 1 どんな目的でも同意無しで取り扱いを認める 2 社会的意義のある目的なら同意不要 3 どんな目的でも同意した場合のみ取り扱いを認める 4 どんな目的でも取り扱いを認めない 5 わからない、自分には心あたりや関係がない | 3.6% 12.5% 64.4% 12.3% 7.3% | 10.3% 13.0% 42.4% 25.9% 8.5% | 5.4% 13.4% 56.0% 15.0% 10.2% | 6.4% 12.9% 54.3% 17.7% 8.7% |
| | (3) 学歴、職歴など、経歴に関する情報 | 1 どんな目的でも同意無しで取り扱いを認める 2 社会的意義のある目的なら同意不要 3 どんな目的でも同意した場合のみ取り扱いを認める 4 どんな目的でも取り扱いを認めない 5 わからない、自分には心あたりや関係がない | 3.3% 10.8% 60.8% 17.7% 7.4% | 9.5% 12.3% 42.2% 26.2% 9.7% | 4.5% 11.9% 53.5% 19.4% 10.6% | 5.8% 11.7% 52.2% 21.1% 9.2% |
| | (4) 顔画像、指紋、虹彩、声紋、静脈など、身体的な特徴に関する情報 | 1 どんな目的でも同意無しで取り扱いを認める 2 社会的意義のある目的なら同意不要 3 どんな目的でも同意した場合のみ取り扱いを認める 4 どんな目的でも取り扱いを認めない 5 わからない、自分には心あたりや関係がない | 2.8% 10.3% 55.7% 23.1% 8.1% | 9.3% 11.0% 33.2% 36.0% 10.6% | 5.4% 10.8% 52.1% 21.2% 10.6% | 5.8% 10.7% 47.0% 26.8% 9.8% |
| Q9 | 生活者に関するさまざまな大規模情報を活用することでさまざまなメリットを得られることが期待されています。あなたは、以下の事柄について、あなた自身にどれくらいメリットがあると思いますか。 | | | | | |
| | (1) 病気の治療 | 1 大きなメリットがあると思う 2 ややメリットがあると思う 3 どちらともいえない 4 あまりメリットがあるとは思わない 5 まったくメリットがあるとは思わない | 16.9% 42.5% 31.2% 6.5% 3.0% | 28.9% 35.0% 23.5% 6.2% 6.4% | 15.1% 41.2% 26.5% 9.3% 7.9% | 20.3% 39.6% 27.1% 7.3% 5.8% |
| | (2) 災害・事故の軽減 | 1 大きなメリットがあると思う 2 ややメリットがあると思う 3 どちらともいえない 4 あまりメリットがあるとは思わない 5 まったくメリットがあるとは思わない | 17.0% 40.3% 33.5% 6.2% 3.0% | 18.9% 33.5% 30.6% 9.2% 7.7% | 14.8% 35.8% 27.7% 13.2% 8.5% | 16.9% 36.6% 30.6% 9.5% 6.4% |
| | (3) 製品・サービスの品質向上 | 1 大きなメリットがあると思う 2 ややメリットがあると思う 3 どちらともいえない 4 あまりメリットがあるとは思わない 5 まったくメリットがあるとは思わない | 8.4% 33.5% 43.6% 10.5% 4.0% | 18.5% 35.4% 30.5% 8.6% 7.1% | 13.9% 38.2% 30.8% 9.5% 7.5% | 13.6% 35.7% 35.0% 9.5% 6.2% |
| | (4) ソフトやアプリの品質向上 | 1 大きなメリットがあると思う 2 ややメリットがあると思う 3 どちらともいえない 4 あまりメリットがあるとは思わない 5 まったくメリットがあるとは思わない | 6.0% 27.3% 47.0% 14.1% 5.5% | 16.2% 30.5% 31.5% 12.0% 9.8% | 11.9% 34.4% 33.2% 10.4% 10.1% | 11.4% 30.7% 37.3% 12.2% 8.5% |
| | (5) ソフトやアプリの開発 | 1 大きなメリットがあると思う 2 ややメリットがあると思う 3 どちらともいえない 4 あまりメリットがあるとは思わない 5 まったくメリットがあるとは思わない | 6.0% 26.3% 47.7% 14.3% 5.7% | 16.6% 29.2% 31.2% 12.6% 10.5% | 10.6% 33.0% 35.1% 11.0% 10.3% | 11.1% 29.5% 38.0% 12.6% 8.8% |
| | (6) よりよい政策の実行 | 1 大きなメリットがあると思う 2 ややメリットがあると思う 3 どちらともいえない 4 あまりメリットがあるとは思わない 5 まったくメリットがあるとは思わない | 5.9% 26.5% 46.5% 14.5% 6.6% | 17.4% 31.1% 32.7% 10.3% 8.5% | 11.6% 25.4% 33.9% 15.1% 14.1% | 11.6% 27.6% 37.7% 13.3% 9.7% |

| | | 全体 | | | | | | | |
|---|--|--|---|------------------------------|-------------------------------|-------|-------|-------|-------|
| | | 日本 | アメリカ | ドイツ | 全体 | | | | |
| Q10 | サービス事業者から、あなたに関する情報を他の事業者第三者提供との申し出があったら、あなたは同意しますか。 | 1 どのような条件でも同意する | 3.2% | 17.9% | 13.0% | 11.3% | | | |
| | | 2 一定の条件が満たされなければ同意しない | 74.8% | 58.6% | 51.0% | 61.5% | | | |
| | | 3 どのような条件でも同意しない | 22.0% | 23.5% | 36.1% | 27.2% | | | |
| | | N | 1,160 | 908 | 790 | 2,858 | | | |
| Q11 | どのような条件があれば、第三者提供に同意しますか。 | (1)完全に匿名性が保証されている | 1 同意する | 91.6% | 88.5% | 92.7% | 90.9% | | |
| | | 2 同意しない | 8.4% | 11.5% | 7.3% | 9.1% | | | |
| | | (2)提供する情報の内容や提供先が明示されている | 1 同意する | 83.7% | 72.0% | 74.2% | 77.4% | | |
| | | 2 同意しない | 16.3% | 28.0% | 25.8% | 22.6% | | | |
| | | (3)提供する情報の内容や提供先の範囲を提供者がある程度設定できる | 1 同意する | 75.6% | 80.6% | 56.3% | 71.9% | | |
| | | 2 同意しない | 24.4% | 19.4% | 43.7% | 28.1% | | | |
| | | (4)提供者の申し出で、後から提供を中止できる（それによる不利益を被らずに） | 1 同意する | 78.8% | 83.8% | 62.7% | 75.9% | | |
| | | 2 同意しない | 21.2% | 16.2% | 37.3% | 24.1% | | | |
| | | (5)提供の見返りに、何らかの特典が得られる | 1 同意する | 66.2% | 79.7% | 59.4% | 68.6% | | |
| | | 2 同意しない | 33.8% | 20.3% | 40.6% | 31.4% | | | |
| | | Q12 | あなたは、以下のような場合の個人情報の活用に対してどのようにお考えですか。「活用への期待」と「リスクに対する不安」のどちらが大きいか、についてお答えください。 | (1)防災に関わる内容や大規模災害などの緊急時の情報活用 | 1 「活用への期待」は「リスクに対する不安」より大きい | 11.7% | 23.8% | 17.5% | 17.7% |
| | | | | | 2 「活用への期待」は「リスクに対する不安」よりやや大きい | 29.4% | 23.7% | 25.4% | 26.2% |
| | | | | | 3 同じくらいである | 44.1% | 30.4% | 37.8% | 37.4% |
| | | | | | 4 「リスクに対する不安」は「活用への期待」よりやや大きい | 10.0% | 10.0% | 9.1% | 9.7% |
| | | | | | 5 「リスクに対する不安」は「活用への期待」より大きい | 4.8% | 12.1% | 10.1% | 9.0% |
| (2)国民の健康・福祉に関わる（医療・新薬開発等）情報活用 | 1 「活用への期待」は「リスクに対する不安」より大きい | | | 7.7% | 15.4% | 10.2% | 11.1% | | |
| | 2 「活用への期待」は「リスクに対する不安」よりやや大きい | | | 25.5% | 28.5% | 28.1% | 27.3% | | |
| | 3 同じくらいである | | | 48.0% | 29.4% | 39.8% | 39.1% | | |
| | 4 「リスクに対する不安」は「活用への期待」よりやや大きい | | | 12.3% | 13.7% | 10.1% | 12.0% | | |
| | 5 「リスクに対する不安」は「活用への期待」より大きい | | | 6.5% | 13.1% | 11.9% | 10.5% | | |
| (3)交通渋滞、道路や橋の老朽化対策等の社会課題解決に関わる情報活用 | 1 「活用への期待」は「リスクに対する不安」より大きい | | | 6.3% | 13.7% | 8.3% | 9.4% | | |
| | 2 「活用への期待」は「リスクに対する不安」よりやや大きい | | | 18.6% | 18.3% | 20.6% | 19.2% | | |
| | 3 同じくらいである | | | 52.5% | 32.8% | 45.5% | 43.6% | | |
| | 4 「リスクに対する不安」は「活用への期待」よりやや大きい | | | 14.9% | 16.5% | 12.3% | 14.6% | | |
| | 5 「リスクに対する不安」は「活用への期待」より大きい | | | 7.7% | 18.8% | 13.2% | 13.2% | | |
| (4)公共サービスの高品質化、利便性向上（公的手続きの迅速化・公的サービス拡充等）に関わる情報活用 | 1 「活用への期待」は「リスクに対する不安」より大きい | | | 5.0% | 12.5% | 7.5% | 8.3% | | |
| | 2 「活用への期待」は「リスクに対する不安」よりやや大きい | | | 19.2% | 23.0% | 20.3% | 20.9% | | |
| | 3 同じくらいである | | | 50.6% | 30.1% | 44.7% | 41.8% | | |
| | 4 「リスクに対する不安」は「活用への期待」よりやや大きい | | | 17.2% | 16.0% | 13.6% | 15.6% | | |
| | 5 「リスクに対する不安」は「活用への期待」より大きい | | | 7.9% | 18.5% | 13.9% | 13.4% | | |
| (5)教育や研究など学問の発展に役立てるための情報活用 | 1 「活用への期待」は「リスクに対する不安」より大きい | 5.5% | 15.8% | 9.7% | 10.3% | | | | |
| | 2 「活用への期待」は「リスクに対する不安」よりやや大きい | 18.8% | 20.9% | 24.3% | 21.3% | | | | |
| | 3 同じくらいである | 51.4% | 32.1% | 43.6% | 42.4% | | | | |
| | 4 「リスクに対する不安」は「活用への期待」よりやや大きい | 15.7% | 13.3% | 10.3% | 13.1% | | | | |
| | 5 「リスクに対する不安」は「活用への期待」より大きい | 8.6% | 17.9% | 12.1% | 12.9% | | | | |
| Q13 | 一般的に医療・健康に関する情報提供に関して、以下の事柄がどの程度重要だと思いますか。 | (1)適切な同意取得 | 1 非常に重視する | 42.8% | 65.4% | 55.0% | 54.4% | | |
| | | | 2 ある程度重視する | 33.8% | 15.2% | 23.2% | 24.1% | | |
| | | | 3 どちらでもない | 20.4% | 14.8% | 17.9% | 17.7% | | |
| | | | 4 あまり重視しない | 1.4% | 2.1% | 1.4% | 1.6% | | |
| | | | 5 まったく重視しない | 1.6% | 2.6% | 2.5% | 2.2% | | |
| | | (2)適切な情報の取り扱い方法（氏名の削除など） | 1 非常に重視する | 44.5% | 59.7% | 53.9% | 52.7% | | |
| | | | 2 ある程度重視する | 30.7% | 19.9% | 22.6% | 24.4% | | |
| | | | 3 どちらでもない | 21.7% | 15.3% | 19.4% | 18.8% | | |
| | | | 4 あまり重視しない | 1.4% | 2.6% | 1.6% | 1.9% | | |
| | | | 5 まったく重視しない | 1.7% | 2.5% | 2.6% | 2.3% | | |
| | | (3)提供する情報の種類 | 1 非常に重視する | 34.6% | 53.2% | 41.1% | 43.0% | | |
| | | | 2 ある程度重視する | 37.9% | 22.5% | 32.4% | 30.9% | | |
| | | | 3 どちらでもない | 24.1% | 19.7% | 22.2% | 22.0% | | |
| | | | 4 あまり重視しない | 1.7% | 2.5% | 1.9% | 2.0% | | |
| | | | 5 まったく重視しない | 1.7% | 2.2% | 2.5% | 2.1% | | |
| | | (4)情報提供先の組織・企業がどこか | 1 非常に重視する | 35.5% | 49.3% | 48.1% | 44.3% | | |
| | | | 2 ある程度重視する | 34.9% | 25.1% | 24.3% | 28.1% | | |
| | | | 3 どちらでもない | 25.7% | 18.8% | 22.5% | 22.3% | | |
| | | | 4 あまり重視しない | 2.1% | 4.3% | 2.6% | 3.0% | | |
| | | | 5 まったく重視しない | 1.7% | 2.5% | 2.6% | 2.3% | | |
| | | (5)自分へのメリット還元（ポイントや割引の付与など） | 1 非常に重視する | 20.3% | 37.0% | 16.5% | 24.6% | | |
| | | | 2 ある程度重視する | 32.1% | 28.2% | 22.5% | 27.6% | | |
| | | | 3 どちらでもない | 37.7% | 24.5% | 35.0% | 32.4% | | |
| | | | 4 あまり重視しない | 6.1% | 5.2% | 12.9% | 8.0% | | |
| 5 まったく重視しない | 3.7% | | 5.2% | 13.2% | 7.4% | | | | |
| (6)利用目的の公共性 | 1 非常に重視する | 28.5% | 42.6% | 32.6% | 34.6% | | | | |
| | 2 ある程度重視する | 37.7% | 26.1% | 25.4% | 29.7% | | | | |
| | 3 どちらでもない | 29.5% | 22.8% | 32.1% | 28.2% | | | | |
| | 4 あまり重視しない | 2.3% | 4.6% | 5.2% | 4.0% | | | | |
| | 5 まったく重視しない | 2.0% | 3.9% | 4.6% | 3.5% | | | | |

| | | 全体 | | | | |
|------|---|-------------|-------|-------|-------|-------|
| | | 日本 | アメリカ | ドイツ | 全体 | |
| Q14 | あなたの医療・健康情報を提供する際、同意するにあたって、以下の事柄をどの程度、重要視しますか。 | | | | | |
| (1) | 情報の利用目的 | 1 非常に重視する | 44.2% | 63.0% | 50.8% | 52.7% |
| | | 2 ある程度重視する | 33.7% | 19.0% | 23.5% | 25.4% |
| | | 3 どちらでもない | 19.4% | 13.6% | 21.5% | 18.2% |
| | | 4 あまり重視しない | 1.5% | 1.9% | 1.7% | 1.7% |
| | | 5 まったく重視しない | 1.2% | 2.5% | 2.4% | 2.0% |
| (2) | 情報の外部送信・第3者提供の有無 | 1 非常に重視する | 42.2% | 58.8% | 52.1% | 50.0% |
| | | 2 ある程度重視する | 31.9% | 23.9% | 21.2% | 25.7% |
| | | 3 どちらでもない | 22.8% | 15.4% | 20.9% | 19.7% |
| | | 4 あまり重視しない | 1.8% | 2.6% | 3.0% | 2.5% |
| | | 5 まったく重視しない | 1.2% | 2.2% | 2.9% | 2.1% |
| (3) | 取得する情報項目 | 1 非常に重視する | 37.4% | 57.7% | 37.9% | 44.3% |
| | | 2 ある程度重視する | 35.4% | 20.9% | 25.9% | 27.4% |
| | | 3 どちらでもない | 24.5% | 17.2% | 27.9% | 23.2% |
| | | 4 あまり重視しない | 1.5% | 1.9% | 4.5% | 2.6% |
| | | 5 まったく重視しない | 1.2% | 2.2% | 3.9% | 2.4% |
| (4) | 情報取得者の情報 | 1 非常に重視する | 37.9% | 53.6% | 44.7% | 45.4% |
| | | 2 ある程度重視する | 34.5% | 24.0% | 24.6% | 27.7% |
| | | 3 どちらでもない | 24.6% | 16.9% | 24.8% | 22.1% |
| | | 4 あまり重視しない | 1.9% | 3.1% | 3.4% | 2.8% |
| | | 5 まったく重視しない | 1.2% | 2.4% | 2.6% | 2.0% |
| (5) | 適切な情報破棄の仕組み | 1 非常に重視する | 38.8% | 53.0% | 44.3% | 45.4% |
| | | 2 ある程度重視する | 32.9% | 22.8% | 25.1% | 26.9% |
| | | 3 どちらでもない | 25.4% | 18.6% | 24.5% | 22.8% |
| | | 4 あまり重視しない | 1.7% | 2.5% | 3.5% | 2.5% |
| | | 5 まったく重視しない | 1.2% | 3.2% | 2.6% | 2.3% |
| (6) | 第3者提供を行う場合はその提供先 | 1 非常に重視する | 42.3% | 52.4% | 51.3% | 48.6% |
| | | 2 ある程度重視する | 29.4% | 24.5% | 19.7% | 24.6% |
| | | 3 どちらでもない | 25.4% | 17.0% | 24.1% | 22.2% |
| | | 4 あまり重視しない | 1.6% | 3.6% | 2.4% | 2.5% |
| | | 5 まったく重視しない | 1.3% | 2.5% | 2.5% | 2.1% |
| (7) | 一定期間後の情報削除およびその規定 | 1 非常に重視する | 36.9% | 55.2% | 49.9% | 47.3% |
| | | 2 ある程度重視する | 33.2% | 22.3% | 20.7% | 25.4% |
| | | 3 どちらでもない | 26.5% | 18.0% | 24.4% | 22.9% |
| | | 4 あまり重視しない | 2.3% | 2.3% | 2.3% | 2.3% |
| | | 5 まったく重視しない | 1.2% | 2.3% | 2.6% | 2.0% |
| (8) | 情報の取得方法 | 1 非常に重視する | 33.0% | 55.3% | 38.8% | 42.4% |
| | | 2 ある程度重視する | 34.3% | 25.2% | 27.2% | 28.9% |
| | | 3 どちらでもない | 29.1% | 15.2% | 27.7% | 24.0% |
| | | 4 あまり重視しない | 2.4% | 2.0% | 4.0% | 2.8% |
| | | 5 まったく重視しない | 1.2% | 2.3% | 2.3% | 1.9% |
| (9) | いつでも情報の収集や使用を無効にできる仕組みの有無 (オプトアウト) | 1 非常に重視する | 35.6% | 61.8% | 44.8% | 47.4% |
| | | 2 ある程度重視する | 33.4% | 18.1% | 23.7% | 25.1% |
| | | 3 どちらでもない | 28.0% | 15.4% | 26.0% | 23.1% |
| | | 4 あまり重視しない | 1.8% | 2.1% | 2.9% | 2.3% |
| | | 5 まったく重視しない | 1.2% | 2.6% | 2.5% | 2.1% |
| (10) | プライバシーポリシー変更時の手続きや通知方法 | 1 非常に重視する | 37.2% | 53.2% | 42.3% | 44.3% |
| | | 2 ある程度重視する | 32.5% | 24.0% | 26.5% | 27.7% |
| | | 3 どちらでもない | 27.0% | 17.2% | 25.9% | 23.4% |
| | | 4 あまり重視しない | 2.0% | 3.0% | 2.9% | 2.6% |
| | | 5 まったく重視しない | 1.2% | 2.6% | 2.4% | 2.1% |
| (11) | 問い合わせ窓口 | 1 非常に重視する | 30.1% | 51.6% | 44.0% | 41.9% |
| | | 2 ある程度重視する | 34.6% | 24.8% | 25.9% | 28.5% |
| | | 3 どちらでもない | 30.1% | 19.0% | 24.7% | 24.6% |
| | | 4 あまり重視しない | 3.6% | 1.9% | 2.8% | 2.8% |
| | | 5 まったく重視しない | 1.5% | 2.6% | 2.6% | 2.3% |

| | | 全体 | | | |
|-------------------|--|-------|-------|-------|-------|
| | | 日本 | アメリカ | ドイツ | 全体 |
| Q15 | あなたに関する以下の情報の公開について、どのようにお考えですか。 それぞれもっともあてはまるものを1つ選択してください。 ※該当しない項目がある場合も、想定してお答えください。 | | | | |
| (1) 氏名 | 1 どのような場合でも公開したくない | 40.0% | 41.1% | 43.3% | 41.5% |
| | 2 どちらかといえば公開したくない | 42.1% | 21.1% | 28.5% | 30.5% |
| | 3 どちらでもよい | 14.1% | 18.1% | 17.0% | 16.4% |
| | 4 どちらかといえば公開してもよい | 2.8% | 13.2% | 9.0% | 8.4% |
| | 5 どのような場合でも公開してもよい | 1.0% | 6.5% | 2.2% | 3.2% |
| (2) 会社名 | 1 どのような場合でも公開したくない | 32.9% | 29.6% | 36.8% | 33.1% |
| | 2 どちらかといえば公開したくない | 37.4% | 21.3% | 25.1% | 27.9% |
| | 3 どちらでもよい | 25.1% | 27.0% | 27.7% | 26.6% |
| | 4 どちらかといえば公開してもよい | 3.5% | 15.1% | 7.6% | 8.8% |
| | 5 どのような場合でも公開してもよい | 1.1% | 7.0% | 2.8% | 3.6% |
| (3) 会社・組織での役職名 | 1 どのような場合でも公開したくない | 29.1% | 27.5% | 34.6% | 30.4% |
| | 2 どちらかといえば公開したくない | 33.9% | 17.9% | 25.1% | 25.7% |
| | 3 どちらでもよい | 31.0% | 28.5% | 29.7% | 29.7% |
| | 4 どちらかといえば公開してもよい | 4.1% | 18.6% | 7.5% | 10.1% |
| | 5 どのような場合でも公開してもよい | 1.9% | 7.5% | 3.0% | 4.1% |
| (4) メールアドレス | 1 どのような場合でも公開したくない | 42.2% | 38.9% | 40.3% | 40.5% |
| | 2 どちらかといえば公開したくない | 37.8% | 24.6% | 30.5% | 31.0% |
| | 3 どちらでもよい | 16.5% | 19.8% | 18.1% | 18.1% |
| | 4 どちらかといえば公開してもよい | 2.6% | 12.5% | 9.1% | 8.1% |
| | 5 どのような場合でも公開してもよい | 0.9% | 4.2% | 2.1% | 2.4% |
| (5) 電話番号 | 1 どのような場合でも公開したくない | 48.5% | 50.1% | 56.6% | 51.8% |
| | 2 どちらかといえば公開したくない | 34.3% | 22.6% | 25.0% | 27.3% |
| | 3 どちらでもよい | 14.3% | 16.1% | 11.9% | 14.1% |
| | 4 どちらかといえば公開してもよい | 1.8% | 6.2% | 4.2% | 4.1% |
| | 5 どのような場合でも公開してもよい | 1.0% | 5.0% | 2.2% | 2.7% |
| (6) 居住地 | 1 どのような場合でも公開したくない | 35.9% | 47.9% | 44.5% | 42.8% |
| | 2 どちらかといえば公開したくない | 33.2% | 24.4% | 26.5% | 28.0% |
| | 3 どちらでもよい | 22.6% | 15.9% | 18.3% | 18.9% |
| | 4 どちらかといえば公開してもよい | 6.7% | 8.2% | 7.6% | 7.5% |
| | 5 どのような場合でも公開してもよい | 1.5% | 3.6% | 3.2% | 2.8% |
| (7) 趣味 | 1 どのような場合でも公開したくない | 15.3% | 22.8% | 28.6% | 22.2% |
| | 2 どちらかといえば公開したくない | 25.3% | 17.0% | 20.8% | 21.0% |
| | 3 どちらでもよい | 38.3% | 28.6% | 33.9% | 33.6% |
| | 4 どちらかといえば公開してもよい | 17.0% | 20.9% | 12.3% | 16.8% |
| | 5 どのような場合でも公開してもよい | 4.1% | 10.8% | 4.3% | 6.4% |
| (8) 病歴・病状 | 1 どのような場合でも公開したくない | 23.4% | 33.0% | 45.7% | 34.0% |
| | 2 どちらかといえば公開したくない | 32.8% | 24.0% | 24.0% | 26.9% |
| | 3 どちらでもよい | 31.5% | 24.1% | 18.0% | 24.5% |
| | 4 どちらかといえば公開してもよい | 10.3% | 13.6% | 8.7% | 10.9% |
| | 5 どのような場合でも公開してもよい | 2.1% | 5.2% | 3.6% | 3.6% |
| (9) 宗教 | 1 どのような場合でも公開したくない | 17.2% | 27.4% | 30.9% | 25.2% |
| | 2 どちらかといえば公開したくない | 21.1% | 16.5% | 17.5% | 18.3% |
| | 3 どちらでもよい | 47.4% | 25.5% | 35.8% | 36.2% |
| | 4 どちらかといえば公開してもよい | 9.1% | 18.1% | 10.2% | 12.5% |
| | 5 どのような場合でも公開してもよい | 5.2% | 12.5% | 5.6% | 7.8% |
| (10) 思想・信条 | 1 どのような場合でも公開したくない | 17.7% | 27.2% | 33.3% | 26.1% |
| | 2 どちらかといえば公開したくない | 23.6% | 20.1% | 19.7% | 21.1% |
| | 3 どちらでもよい | 45.0% | 26.1% | 33.2% | 34.8% |
| | 4 どちらかといえば公開してもよい | 9.5% | 16.8% | 9.1% | 11.8% |
| | 5 どのような場合でも公開してもよい | 4.1% | 9.7% | 4.7% | 6.2% |

| | | 全体 | | | | |
|---|--|--------------|-------|-------|-------|-------|
| | | 日本 | アメリカ | ドイツ | 全体 | |
| Q16 | (パソコン(タブレット端末含む)や携帯電話(スマートフォン、PHS含む)でインターネット(メールを含む)を利用する時に、起こるかもしれない以下のトラブルについて、あなたのお手持ちで最も近いものに1～5の中から1つ選択してください。) | | | | | |
| | (1) 金融機関などを装ったメールで、偽のサイトに誘導され、クレジットカード番号などを入力させられる | 1 とても不安 | 42.7% | 55.4% | 52.1% | 50.0% |
| | | 2 やや不安 | 35.2% | 23.4% | 16.4% | 25.0% |
| | | 3 どちらともいえない | 15.6% | 12.4% | 21.7% | 16.6% |
| | | 4 あまり不安ではない | 4.6% | 5.5% | 6.0% | 5.4% |
| | | 5 まったく不安ではない | 1.9% | 3.4% | 3.8% | 3.0% |
| | (2) 利用した覚えのないネットサービス利用料金を請求される | 1 とても不安 | 41.7% | 52.1% | 49.7% | 47.8% |
| | | 2 やや不安 | 34.8% | 27.1% | 18.6% | 26.9% |
| | | 3 どちらともいえない | 15.9% | 12.6% | 23.0% | 17.2% |
| | | 4 あまり不安ではない | 5.5% | 6.3% | 5.9% | 5.9% |
| | | 5 まったく不安ではない | 2.0% | 1.9% | 2.8% | 2.2% |
| | (3) ネットショッピングで支払いに利用したクレジットカードの情報が悪用される | 1 とても不安 | 49.7% | 53.6% | 46.5% | 50.0% |
| | | 2 やや不安 | 30.1% | 24.1% | 20.4% | 24.8% |
| | | 3 どちらともいえない | 16.2% | 15.2% | 24.2% | 18.5% |
| | | 4 あまり不安ではない | 2.4% | 4.8% | 6.3% | 4.5% |
| | | 5 まったく不安ではない | 1.6% | 2.3% | 2.6% | 2.2% |
| | (4) ネットショッピングで購入した商品が届かなかったり、商品の状態が悪かったり、思っていたものと違ったりする | 1 とても不安 | 33.5% | 40.6% | 26.9% | 33.7% |
| | 2 やや不安 | 38.5% | 30.1% | 25.6% | 31.4% | |
| | 3 どちらともいえない | 21.8% | 16.4% | 29.9% | 22.7% | |
| | 4 あまり不安ではない | 5.4% | 10.4% | 13.9% | 9.9% | |
| | 5 まったく不安ではない | 0.8% | 2.6% | 3.7% | 2.4% | |
| (5) メール宛先を間違えて情報が漏えいする | 1 とても不安 | 35.0% | 38.7% | 31.8% | 35.2% | |
| | 2 やや不安 | 34.3% | 26.3% | 25.6% | 28.8% | |
| | 3 どちらともいえない | 23.2% | 19.5% | 30.7% | 24.5% | |
| | 4 あまり不安ではない | 6.1% | 10.8% | 8.2% | 8.4% | |
| | 5 まったく不安ではない | 1.5% | 4.6% | 3.7% | 3.3% | |
| (6) 悪戯や不要な広告などの迷惑メールが大量に届く | 1 とても不安 | 37.4% | 38.1% | 36.1% | 37.2% | |
| | 2 やや不安 | 36.3% | 33.2% | 22.1% | 30.5% | |
| | 3 どちらともいえない | 20.5% | 16.8% | 28.3% | 21.9% | |
| | 4 あまり不安ではない | 4.1% | 8.8% | 9.4% | 7.5% | |
| | 5 まったく不安ではない | 1.7% | 3.2% | 4.1% | 3.0% | |
| (7) ウィルスや悪いソフトウェアの被害に遭う | 1 とても不安 | 47.7% | 54.5% | 47.0% | 49.7% | |
| | 2 やや不安 | 32.1% | 23.3% | 21.4% | 25.6% | |
| | 3 どちらともいえない | 16.6% | 15.3% | 23.3% | 18.4% | |
| | 4 あまり不安ではない | 2.5% | 4.6% | 6.1% | 4.4% | |
| | 5 まったく不安ではない | 1.0% | 2.3% | 2.2% | 1.8% | |
| (8) 出会い系サイトを利用して、犯罪の被害に遭う | 1 とても不安 | 29.8% | 34.6% | 39.7% | 34.7% | |
| | 2 やや不安 | 25.4% | 19.1% | 20.0% | 21.5% | |
| | 3 どちらともいえない | 24.3% | 19.8% | 30.0% | 24.7% | |
| | 4 あまり不安ではない | 11.7% | 9.2% | 5.9% | 8.9% | |
| | 5 まったく不安ではない | 8.8% | 17.3% | 4.5% | 10.2% | |
| (9) インターネット上で悪口・暴言・挑発的な言葉を書かれる | 1 とても不安 | 28.8% | 34.2% | 35.2% | 32.7% | |
| | 2 やや不安 | 28.8% | 21.1% | 22.3% | 24.1% | |
| | 3 どちらともいえない | 27.7% | 21.6% | 30.3% | 26.5% | |
| | 4 あまり不安ではない | 10.2% | 12.5% | 7.7% | 10.1% | |
| | 5 まったく不安ではない | 4.5% | 10.6% | 4.6% | 6.6% | |
| (10) 他人によって、自宅住所や電話番号を勝手にインターネットに載せられる | 1 とても不安 | 43.4% | 46.2% | 40.7% | 43.4% | |
| | 2 やや不安 | 30.0% | 26.5% | 25.0% | 27.1% | |
| | 3 どちらともいえない | 21.2% | 17.0% | 25.2% | 21.2% | |
| | 4 あまり不安ではない | 4.0% | 6.5% | 6.2% | 5.6% | |
| | 5 まったく不安ではない | 1.4% | 3.8% | 2.9% | 2.7% | |
| (11) 自分のIDやパスワードが勝手に使われる | 1 とても不安 | 51.0% | 53.1% | 46.3% | 50.2% | |
| | 2 やや不安 | 29.7% | 22.5% | 20.1% | 24.1% | |
| | 3 どちらともいえない | 16.5% | 15.2% | 23.5% | 18.4% | |
| | 4 あまり不安ではない | 1.8% | 6.0% | 7.0% | 4.9% | |
| | 5 まったく不安ではない | 1.0% | 3.2% | 3.1% | 2.4% | |
| (12) 住所や電話番号を登録したインターネットサービス事業者から、それらの情報が流出する | 1 とても不安 | 49.1% | 51.0% | 40.8% | 47.0% | |
| | 2 やや不安 | 30.1% | 25.9% | 24.6% | 26.9% | |
| | 3 どちらともいえない | 17.7% | 15.5% | 25.2% | 19.5% | |
| | 4 あまり不安ではない | 2.1% | 4.9% | 6.9% | 4.6% | |
| | 5 まったく不安ではない | 1.0% | 2.6% | 2.5% | 2.0% | |
| (13) パスワードを忘れてしまう | 1 とても不安 | 26.3% | 27.5% | 25.6% | 26.5% | |
| | 2 やや不安 | 37.6% | 29.9% | 22.5% | 30.0% | |
| | 3 どちらともいえない | 26.6% | 21.7% | 33.4% | 27.2% | |
| | 4 あまり不安ではない | 7.0% | 13.5% | 11.7% | 10.7% | |
| | 5 まったく不安ではない | 2.5% | 7.4% | 6.8% | 5.6% | |
| (14) 利用料金がいくらなのかわからない | 1 とても不安 | 31.9% | 41.0% | 34.1% | 35.7% | |
| | 2 やや不安 | 34.5% | 27.9% | 23.0% | 28.5% | |
| | 3 どちらともいえない | 25.6% | 19.1% | 31.0% | 25.2% | |
| | 4 あまり不安ではない | 5.8% | 7.4% | 8.3% | 7.1% | |
| | 5 まったく不安ではない | 2.3% | 4.6% | 3.6% | 3.5% | |
| (15) 公にしている健康状態、知られたくない趣味や嗜好などが推定されてしまう | 1 とても不安 | 30.5% | 38.1% | 36.3% | 34.9% | |
| | 2 やや不安 | 32.5% | 25.5% | 23.5% | 27.2% | |
| | 3 どちらともいえない | 28.5% | 22.7% | 29.4% | 26.9% | |
| | 4 あまり不安ではない | 6.1% | 9.1% | 8.1% | 7.8% | |
| | 5 まったく不安ではない | 2.5% | 4.6% | 2.6% | 3.3% | |
| (16) 自分の行動パターンが分かっってしまう | 1 とても不安 | 33.6% | 35.2% | 36.9% | 35.2% | |
| | 2 やや不安 | 32.0% | 29.7% | 26.7% | 29.5% | |
| | 3 どちらともいえない | 26.5% | 22.1% | 26.3% | 25.0% | |
| | 4 あまり不安ではない | 6.2% | 8.6% | 7.7% | 7.5% | |
| | 5 まったく不安ではない | 1.7% | 4.5% | 2.4% | 2.8% | |

| | | 全体 | | | | |
|-------------|--|--------|-------|-------|-------|-------|
| | | 日本 | アメリカ | ドイツ | 全体 | |
| Q17 | あなたは、以下のような考えについて、自分はあてはまると感じますか？ | | | | | |
| (1) | 世の中の多くの人は基本的に正直である | 1 そう思う | 3.5% | 21.7% | 7.7% | 11.0% |
| 2 ややそう思う | | 25.0% | 33.4% | 28.3% | 28.9% | |
| 3 どちらともいえない | | 39.0% | 24.5% | 29.0% | 30.8% | |
| 4 あまりそう思わない | | 23.6% | 12.6% | 24.2% | 20.2% | |
| 5 そう思わない | | 8.8% | 7.8% | 10.8% | 9.1% | |
| (2) | 世の中の多くの人は信頼できる | 1 そう思う | 2.5% | 15.5% | 6.3% | 8.1% |
| 2 ややそう思う | | 22.1% | 36.1% | 26.5% | 28.2% | |
| 3 どちらともいえない | | 41.4% | 26.6% | 31.5% | 33.2% | |
| 4 あまりそう思わない | | 24.3% | 14.5% | 24.1% | 20.9% | |
| 5 そう思わない | | 9.8% | 7.3% | 11.5% | 9.5% | |
| (3) | 世の中の多くの人は他人を信頼している | 1 そう思う | 2.4% | 15.5% | 5.5% | 7.8% |
| 2 ややそう思う | | 20.5% | 35.0% | 30.3% | 28.6% | |
| 3 どちらともいえない | | 44.6% | 28.9% | 37.7% | 37.1% | |
| 4 あまりそう思わない | | 23.9% | 15.4% | 18.9% | 19.4% | |
| 5 そう思わない | | 8.6% | 5.1% | 7.5% | 7.1% | |
| (4) | ネット上の多くの人は基本的に正直である | 1 そう思う | 1.9% | 11.9% | 4.2% | 6.0% |
| 2 ややそう思う | | 10.4% | 22.7% | 15.9% | 16.3% | |
| 3 どちらともいえない | | 40.8% | 29.4% | 30.3% | 33.5% | |
| 4 あまりそう思わない | | 28.4% | 21.5% | 27.8% | 25.9% | |
| 5 そう思わない | | 18.5% | 14.5% | 21.8% | 18.3% | |
| (5) | ネット上の多くの人は信頼できる | 1 そう思う | 1.2% | 12.1% | 3.7% | 5.7% |
| 2 ややそう思う | | 7.6% | 19.8% | 13.9% | 13.8% | |
| 3 どちらともいえない | | 38.0% | 31.8% | 31.5% | 33.8% | |
| 4 あまりそう思わない | | 31.0% | 21.0% | 29.0% | 27.0% | |
| 5 そう思わない | | 22.2% | 15.3% | 21.8% | 19.8% | |
| (6) | ネット上の多くの人は他人を信頼している | 1 そう思う | 1.6% | 10.6% | 4.1% | 5.4% |
| 2 ややそう思う | | 8.3% | 24.0% | 22.3% | 18.2% | |
| 3 どちらともいえない | | 37.1% | 34.3% | 37.7% | 36.3% | |
| 4 あまりそう思わない | | 31.9% | 19.9% | 24.3% | 25.4% | |
| 5 そう思わない | | 21.0% | 11.2% | 11.7% | 14.6% | |
| (7) | 病院や診療所に行くことで、他の患者とのコミュニケーションができる | 1 そう思う | 2.1% | 15.9% | 18.8% | 12.3% |
| 2 ややそう思う | | 16.5% | 25.9% | 36.8% | 26.4% | |
| 3 どちらともいえない | | 45.1% | 40.3% | 30.7% | 38.7% | |
| 4 あまりそう思わない | | 25.0% | 9.9% | 8.8% | 14.6% | |
| 5 そう思わない | | 11.4% | 8.1% | 4.8% | 8.1% | |
| (8) | 大体において、私の人生は私の理想に近い | 1 そう思う | 2.5% | 16.8% | 12.5% | 10.6% |
| 2 ややそう思う | | 13.2% | 33.1% | 36.1% | 27.5% | |
| 3 どちらともいえない | | 42.0% | 27.4% | 34.3% | 34.6% | |
| 4 あまりそう思わない | | 25.6% | 12.1% | 11.0% | 16.2% | |
| 5 そう思わない | | 16.7% | 10.6% | 6.2% | 11.2% | |
| (9) | 私の人生は、とても素晴らしい状態だ | 1 そう思う | 2.8% | 18.3% | 11.3% | 10.8% |
| 2 ややそう思う | | 15.2% | 30.4% | 31.0% | 25.5% | |
| 3 どちらともいえない | | 43.4% | 28.2% | 37.0% | 36.2% | |
| 4 あまりそう思わない | | 22.8% | 13.8% | 12.8% | 16.5% | |
| 5 そう思わない | | 15.8% | 9.3% | 7.9% | 11.0% | |
| (10) | 私は、自分の人生に満足している | 1 そう思う | 4.3% | 23.7% | 19.5% | 15.8% |
| 2 ややそう思う | | 21.4% | 36.1% | 35.4% | 31.0% | |
| 3 どちらともいえない | | 40.2% | 21.6% | 28.3% | 30.0% | |
| 4 あまりそう思わない | | 19.4% | 11.4% | 11.0% | 13.9% | |
| 5 そう思わない | | 14.8% | 7.2% | 5.8% | 9.3% | |
| (11) | 私はこれまでの人生の中で、こうしたいと思った重要なことはなしと捨ててきた | 1 そう思う | 3.2% | 24.1% | 16.0% | 14.4% |
| 2 ややそう思う | | 15.5% | 34.8% | 33.4% | 27.9% | |
| 3 どちらともいえない | | 41.1% | 24.1% | 31.1% | 32.1% | |
| 4 あまりそう思わない | | 24.8% | 9.9% | 13.9% | 16.2% | |
| 5 そう思わない | | 15.4% | 7.2% | 5.6% | 9.4% | |
| (12) | 人生をもう一度やり直せるとしても、変えたいことはほとんどない | 1 そう思う | 2.6% | 17.5% | 11.5% | 10.6% |
| 2 ややそう思う | | 11.0% | 26.1% | 25.4% | 20.8% | |
| 3 どちらともいえない | | 33.4% | 24.9% | 27.9% | 28.7% | |
| 4 あまりそう思わない | | 29.9% | 18.5% | 23.4% | 23.9% | |
| 5 そう思わない | | 23.2% | 13.0% | 11.8% | 16.0% | |
| Q18 | 日ごろの習慣として次のようなことをしていますか。あてはまるものをすべて選択してください。 | | | | | |
| | 1 体重を測定している | 46.0% | 31.0% | 47.0% | 41.3% | |
| | 2 血圧を測定している | 15.8% | 13.7% | 23.2% | 17.6% | |
| | 3 できるだけ歩くようにしている | 42.7% | 57.8% | 54.5% | 51.7% | |
| | 4 筋力トレーニングをしている | 15.7% | 20.6% | 14.8% | 17.0% | |
| | 5 定期的にスポーツジムに通っている | 6.8% | 16.4% | 13.9% | 12.4% | |
| | 6 スポーツをしている | 14.5% | 9.5% | 39.6% | 21.2% | |
| | 7 上記にあてはまるものはない | 28.2% | 23.9% | 16.6% | 22.9% | |

| | | 全体 | | | | |
|------|--|--------------|-------|-------|-------|-------|
| | | 日本 | アメリカ | ドイツ | 全体 | |
| Q19 | あなたは、病院や健康・医療に関して、以下の事柄があてはまりますか。それぞれあてはまるものを選択してください。 | | | | | |
| (1) | 病院に行っても待たされてイライラする | 1 あてはまる | 14.7% | 28.5% | 29.7% | 24.3% |
| | | 2 ややあてはまる | 36.1% | 32.8% | 37.0% | 35.3% |
| | | 3 どちらともいえない | 26.5% | 22.4% | 23.8% | 24.2% |
| | | 4 あまりあてはまらない | 17.0% | 9.9% | 5.2% | 10.7% |
| | | 5 あてはまらない | 5.7% | 6.4% | 4.3% | 5.5% |
| (2) | 近くに病院がない | 1 あてはまる | 3.8% | 8.5% | 6.3% | 6.2% |
| | | 2 ややあてはまる | 11.0% | 14.3% | 14.1% | 13.1% |
| | | 3 どちらともいえない | 27.2% | 14.5% | 17.2% | 19.6% |
| | | 4 あまりあてはまらない | 33.9% | 18.9% | 23.0% | 25.3% |
| | | 5 あてはまらない | 24.1% | 43.8% | 39.4% | 35.8% |
| (3) | かかりつけの病院がない | 1 あてはまる | 11.5% | 17.4% | 15.5% | 14.8% |
| | | 2 ややあてはまる | 19.1% | 13.0% | 17.7% | 16.6% |
| | | 3 どちらともいえない | 25.6% | 16.0% | 31.8% | 24.5% |
| | | 4 あまりあてはまらない | 24.0% | 10.2% | 15.1% | 16.4% |
| | | 5 あてはまらない | 19.8% | 43.5% | 19.8% | 27.7% |
| (4) | 複数の病院で、病歴を説明するのが面倒だ | 1 あてはまる | 12.6% | 20.4% | 16.2% | 16.4% |
| | | 2 ややあてはまる | 30.5% | 27.7% | 27.1% | 28.4% |
| | | 3 どちらともいえない | 34.9% | 27.7% | 38.1% | 33.6% |
| | | 4 あまりあてはまらない | 14.1% | 12.1% | 10.5% | 12.2% |
| | | 5 あてはまらない | 8.0% | 12.1% | 8.1% | 9.4% |
| (5) | 家族の健康が気になる | 1 あてはまる | 21.9% | 28.5% | 61.6% | 37.4% |
| | | 2 ややあてはまる | 39.4% | 28.1% | 16.4% | 28.0% |
| | | 3 どちらともいえない | 29.5% | 26.1% | 16.6% | 24.1% |
| | | 4 あまりあてはまらない | 5.5% | 9.0% | 2.6% | 5.7% |
| | | 5 あてはまらない | 3.6% | 8.3% | 2.8% | 4.9% |
| (6) | 緊急の際に、病歴を説明できない | 1 あてはまる | 5.2% | 11.5% | 10.3% | 9.0% |
| | | 2 ややあてはまる | 15.5% | 15.7% | 17.9% | 16.4% |
| | | 3 どちらともいえない | 42.3% | 26.8% | 36.8% | 35.3% |
| | | 4 あまりあてはまらない | 24.1% | 18.4% | 17.6% | 20.0% |
| | | 5 あてはまらない | 12.8% | 27.7% | 17.4% | 19.3% |
| (7) | 病院に行っても、どのくらい費用がかかるか分からないのが不安 | 1 あてはまる | 17.3% | 25.4% | 10.9% | 17.8% |
| | | 2 ややあてはまる | 33.2% | 24.8% | 20.0% | 26.0% |
| | | 3 どちらともいえない | 33.4% | 25.8% | 32.4% | 30.5% |
| | | 4 あまりあてはまらない | 11.0% | 10.3% | 18.0% | 13.1% |
| | | 5 あてはまらない | 5.1% | 13.7% | 18.7% | 12.5% |
| (8) | 家族に病気のことをうまく伝えられない | 1 あてはまる | 4.5% | 12.5% | 6.7% | 7.9% |
| | | 2 ややあてはまる | 14.2% | 19.8% | 16.5% | 16.8% |
| | | 3 どちらともいえない | 43.2% | 27.8% | 34.5% | 35.1% |
| | | 4 あまりあてはまらない | 22.9% | 17.7% | 19.6% | 20.1% |
| | | 5 あてはまらない | 15.2% | 22.2% | 22.8% | 20.1% |
| (9) | 病院で説明を受けても分からない | 1 あてはまる | 4.8% | 9.7% | 5.8% | 6.8% |
| | | 2 ややあてはまる | 15.8% | 15.8% | 14.4% | 15.3% |
| | | 3 どちらともいえない | 41.5% | 26.3% | 39.3% | 35.7% |
| | | 4 あまりあてはまらない | 24.0% | 22.3% | 21.7% | 22.6% |
| | | 5 あてはまらない | 13.8% | 25.9% | 18.8% | 19.5% |
| (10) | 病院をたらいまわしにされるのが不安 | 1 あてはまる | 9.4% | 13.9% | 7.2% | 10.2% |
| | | 2 ややあてはまる | 24.5% | 24.1% | 14.5% | 21.0% |
| | | 3 どちらともいえない | 42.8% | 27.5% | 35.9% | 35.4% |
| | | 4 あまりあてはまらない | 16.5% | 15.4% | 19.5% | 17.1% |
| | | 5 あてはまらない | 6.9% | 19.2% | 22.9% | 16.3% |
| (11) | ふだんの健康管理ができない | 1 あてはまる | 4.3% | 8.9% | 5.0% | 6.0% |
| | | 2 ややあてはまる | 15.6% | 12.6% | 12.8% | 13.7% |
| | | 3 どちらともいえない | 46.3% | 22.9% | 39.2% | 36.1% |
| | | 4 あまりあてはまらない | 25.2% | 20.5% | 19.7% | 21.8% |
| | | 5 あてはまらない | 8.6% | 35.2% | 23.4% | 22.4% |
| (12) | 複数の病院で同じ検査を受けさせられる | 1 あてはまる | 7.3% | 11.6% | 5.4% | 8.1% |
| | | 2 ややあてはまる | 18.5% | 17.6% | 16.5% | 17.5% |
| | | 3 どちらともいえない | 45.3% | 29.5% | 35.9% | 36.9% |
| | | 4 あまりあてはまらない | 17.9% | 13.1% | 16.6% | 15.9% |
| | | 5 あてはまらない | 11.0% | 28.2% | 25.6% | 21.6% |
| (13) | 検査の結果の説明が不十分だ | 1 あてはまる | 6.4% | 13.5% | 9.2% | 9.7% |
| | | 2 ややあてはまる | 19.7% | 20.2% | 22.5% | 20.8% |
| | | 3 どちらともいえない | 49.4% | 29.0% | 37.7% | 38.7% |
| | | 4 あまりあてはまらない | 17.0% | 13.3% | 15.9% | 15.4% |
| | | 5 あてはまらない | 7.6% | 23.9% | 14.8% | 15.4% |

| | | 全体 | | | | | |
|---------------------------------------|---|---|-------------|-------|-------|-------|-------|
| | | 日本 | アメリカ | ドイツ | 全体 | | |
| Q20 | あなたに関する医療・健康情報について、以下のことをどのようにお考えですか。 | | | | | | |
| (1) 担当の医師以外に閲覧される | 1 大いに抵抗がある | 1 大いに抵抗がある | 6.6% | 29.5% | 21.3% | 19.1% | |
| | | 2 やや抵抗がある | 21.3% | 31.0% | 28.7% | 27.0% | |
| | | 3 どちらともいえない | 36.4% | 22.0% | 31.0% | 29.8% | |
| | | 4 あまり抵抗がない | 27.9% | 13.0% | 15.7% | 18.9% | |
| | | 5 まったく抵抗がない | 7.8% | 4.5% | 3.3% | 5.2% | |
| | (2) 収集・蓄積される | 1 大いに抵抗がある | 1 大いに抵抗がある | 8.1% | 24.3% | 16.8% | 16.4% |
| | | | 2 やや抵抗がある | 22.3% | 32.9% | 24.5% | 26.6% |
| | | | 3 どちらともいえない | 41.0% | 23.7% | 37.2% | 34.0% |
| | | | 4 あまり抵抗がない | 22.8% | 13.4% | 16.6% | 17.6% |
| | | | 5 まったく抵抗がない | 5.7% | 5.7% | 4.9% | 5.5% |
| | (3) 公開される | 1 大いに抵抗がある | 1 大いに抵抗がある | 35.4% | 44.6% | 50.3% | 43.4% |
| | | | 2 やや抵抗がある | 34.2% | 26.8% | 18.5% | 26.5% |
| | | | 3 どちらともいえない | 22.4% | 20.4% | 24.3% | 22.3% |
| | | | 4 あまり抵抗がない | 5.9% | 5.0% | 5.5% | 5.5% |
| | | | 5 まったく抵抗がない | 2.1% | 3.2% | 1.5% | 2.3% |
| | (4) 分析される | 1 大いに抵抗がある | 1 大いに抵抗がある | 13.2% | 21.3% | 13.3% | 15.9% |
| | | | 2 やや抵抗がある | 24.3% | 27.1% | 17.2% | 22.9% |
| | | | 3 どちらともいえない | 37.4% | 26.5% | 35.9% | 33.2% |
| | | | 4 あまり抵抗がない | 20.5% | 16.5% | 21.9% | 19.6% |
| | | | 5 まったく抵抗がない | 4.6% | 8.6% | 11.8% | 8.3% |
| (5) 売買される | 1 大いに抵抗がある | 1 大いに抵抗がある | 60.3% | 59.8% | 56.5% | 58.9% | |
| | | 2 やや抵抗がある | 19.2% | 18.5% | 14.3% | 17.3% | |
| | | 3 どちらともいえない | 16.4% | 15.1% | 22.4% | 18.0% | |
| | | 4 あまり抵抗がない | 2.7% | 3.5% | 4.6% | 3.6% | |
| | | 5 まったく抵抗がない | 1.4% | 3.1% | 2.1% | 2.2% | |
| Q21 | 医療分野に係るサービスやアプリケーションを、インターネットを通じて利用する場合に考えられる懸念や利用しない理由としてあてはまるものすべてをお答えください。 | | | | | | |
| | 1 インターネットや端末を使いこなす自信がない 2 インターネット回線や必要な端末を用意することができない 3 利用時の通信費用が負担 4 端末を設定や操作することが面倒 5 専門家に直接会って診察や指導を受けたい 6 自分の情報をアップロードすることにセキュリティの面で不安がある 7 自分の情報をアップロードすることにはプライバシー保護の観点から不安・抵抗がある 8 その他 [] 9 懸念や利用しない理由はない | 1 インターネットや端末を使いこなす自信がない | 16.7% | 13.2% | 9.4% | 13.1% | |
| | | 2 インターネット回線や必要な端末を用意することができない | 7.6% | 8.9% | 7.0% | 7.8% | |
| | | 3 利用時の通信費用が負担 | 16.9% | 20.9% | 11.2% | 16.3% | |
| | | 4 端末を設定や操作することが面倒 | 16.3% | 15.0% | 10.6% | 13.9% | |
| | | 5 専門家に直接会って診察や指導を受けたい | 29.7% | 45.9% | 41.7% | 39.1% | |
| | | 6 自分の情報をアップロードすることにセキュリティの面で不安がある | 38.5% | 33.0% | 29.9% | 33.8% | |
| | | 7 自分の情報をアップロードすることにはプライバシー保護の観点から不安・抵抗がある | 36.1% | 30.3% | 31.5% | 32.6% | |
| | | 8 その他 [] | 0.5% | 2.2% | 1.7% | 1.5% | |
| | | 9 懸念や利用しない理由はない | 27.7% | 21.0% | 26.1% | 24.9% | |
| Q22 | 以下の、生活者情報が利活用されることにより、自分のプライバシーが侵害されることに不安を感じる理由について、それぞれあてはまるものを選択してください。 | | | | | | |
| (1) 規約類に書かれているものと異なる目的で利活用される恐れがある | 1 非常に不安である | 1 非常に不安である | 25.9% | 45.7% | 35.2% | 35.6% | |
| | | 2 ある程度不安である | 46.0% | 32.2% | 34.9% | 37.7% | |
| | | 3 どちらでもない | 24.1% | 15.0% | 23.6% | 20.9% | |
| | | 4 あまり不安でない | 3.3% | 5.5% | 4.7% | 4.5% | |
| | | 5 まったく不安でない | 0.7% | 1.7% | 1.6% | 1.3% | |
| | (2) 利活用されたくない場合に、本人に拒否権がない | 1 非常に不安である | 1 非常に不安である | 32.5% | 40.6% | 33.1% | 35.4% |
| | | | 2 ある程度不安である | 39.7% | 32.7% | 31.6% | 34.7% |
| | | | 3 どちらでもない | 25.4% | 19.3% | 26.9% | 23.8% |
| | | | 4 あまり不安でない | 1.7% | 4.6% | 6.5% | 4.2% |
| | | | 5 まったく不安でない | 0.8% | 2.8% | 1.9% | 1.8% |
| | (3) 利活用の目的や内容の説明が十分でない | 1 非常に不安である | 1 非常に不安である | 27.5% | 33.0% | 27.4% | 29.3% |
| | | | 2 ある程度不安である | 40.3% | 33.4% | 32.0% | 35.2% |
| | | | 3 どちらでもない | 29.7% | 25.8% | 31.4% | 28.9% |
| | | | 4 あまり不安でない | 1.7% | 6.0% | 7.2% | 5.0% |
| | | | 5 まったく不安でない | 0.8% | 1.8% | 2.1% | 1.6% |
| | (4) 企業などが、プライバシーの保護対策に積極的でない | 1 非常に不安である | 1 非常に不安である | 29.9% | 37.2% | 31.2% | 32.8% |
| | | | 2 ある程度不安である | 34.5% | 32.2% | 27.8% | 31.5% |
| | | | 3 どちらでもない | 31.4% | 22.1% | 31.7% | 28.4% |
| | | | 4 あまり不安でない | 3.5% | 6.6% | 7.6% | 5.9% |
| | | | 5 まったく不安でない | 0.6% | 1.9% | 1.7% | 1.4% |
| (5) 企業などが、自分に関するさまざまな情報を収集している | 1 非常に不安である | 1 非常に不安である | 26.3% | 37.5% | 33.4% | 32.4% | |
| | | 2 ある程度不安である | 35.2% | 32.5% | 29.1% | 32.3% | |
| | | 3 どちらでもない | 34.6% | 21.4% | 27.2% | 27.7% | |
| | | 4 あまり不安でない | 3.4% | 5.9% | 7.7% | 5.7% | |
| | | 5 まったく不安でない | 0.6% | 2.7% | 2.6% | 2.0% | |
| (6) 匿名化などの加工処理が十分に行われていない | 1 非常に不安である | 1 非常に不安である | 31.0% | 39.3% | 31.7% | 34.0% | |
| | | 2 ある程度不安である | 35.0% | 32.9% | 28.9% | 32.3% | |
| | | 3 どちらでもない | 30.6% | 20.2% | 30.2% | 27.0% | |
| | | 4 あまり不安でない | 2.8% | 5.5% | 7.7% | 5.3% | |
| | | 5 まったく不安でない | 0.6% | 2.1% | 1.5% | 1.4% | |
| (7) 自分が得られるメリットがない | 1 非常に不安である | 1 非常に不安である | 22.5% | 30.6% | 20.3% | 24.4% | |
| | | 2 ある程度不安である | 33.3% | 28.1% | 23.0% | 28.1% | |
| | | 3 どちらでもない | 38.8% | 29.5% | 43.8% | 37.4% | |
| | | 4 あまり不安でない | 4.3% | 8.2% | 8.7% | 7.1% | |
| | | 5 まったく不安でない | 1.1% | 3.6% | 4.3% | 3.0% | |
| (8) 利活用の目的や成果などに社会的な意義を感じない | 1 非常に不安である | 1 非常に不安である | 19.4% | 28.1% | 21.0% | 22.8% | |
| | | 2 ある程度不安である | 33.0% | 31.0% | 24.3% | 29.4% | |
| | | 3 どちらでもない | 42.6% | 31.4% | 43.4% | 39.1% | |
| | | 4 あまり不安でない | 4.2% | 6.8% | 8.8% | 6.6% | |
| | | 5 まったく不安でない | 0.8% | 2.8% | 2.6% | 2.0% | |

| | | 全体 | | | | | | |
|---|---|--|--|----------------|---|----------|-------|-------|
| | | 日本 | アメリカ | ドイツ | 全体 | | | |
| Q23 | あなたの医療・健康情報について、次の取り組みが行われた場合、不安はどれくらい減りますか。 | 不安がなくなる | | | | | | |
| | | 1 不安がなくなる | 9.2% | 25.0% | 11.4% | 15.2% | | |
| | | 2 ほぼ不安がなくなる | 33.9% | 33.9% | 26.5% | 31.4% | | |
| | | 3 やや不安が減る | 37.5% | 22.0% | 25.9% | 28.5% | | |
| | | 4 変わらない | 19.4% | 19.2% | 36.2% | 24.9% | | |
| | | (1) 誰の情報か分からないように医療・健康情報を加工処理することを、医療・健康情報を二次利用する企業などに義務付ける | 1 不安がなくなる | 9.4% | 18.9% | 9.6% | 12.6% | |
| | | | 2 ほぼ不安がなくなる | 30.7% | 35.2% | 26.4% | 30.8% | |
| | | | 3 やや不安が減る | 38.1% | 22.3% | 26.9% | 29.1% | |
| | | | 4 変わらない | 21.8% | 23.6% | 37.1% | 27.5% | |
| | | (2) 企業などが不適切に医療・健康情報を二次利用していたことが明らかになった場合に、政府がその企業などに罰金や罰則を科す | 1 不安がなくなる | 11.2% | 22.2% | 11.0% | 14.8% | |
| | | | 2 ほぼ不安がなくなる | 29.9% | 33.0% | 25.5% | 29.5% | |
| | | | 3 やや不安が減る | 36.7% | 24.2% | 25.6% | 28.8% | |
| | | | 4 変わらない | 22.2% | 20.6% | 37.8% | 26.9% | |
| | | (3) 企業などが不適切に医療・健康情報を二次利用していると思われる場合に、自身の情報の利用停止、削除などを企業または裁判所に請求できる | 1 不安がなくなる | 9.6% | 21.2% | 10.6% | 13.8% | |
| | | | 2 ほぼ不安がなくなる | 31.0% | 36.4% | 26.1% | 31.2% | |
| | | | 3 やや不安が減る | 37.0% | 23.4% | 28.4% | 29.6% | |
| 4 変わらない | 22.4% | | 19.1% | 34.8% | 25.4% | | | |
| (4) 情報が外部に漏れないよう安全管理体制をしっかりと整えることを、医療・健康情報を二次利用する企業などに義務付ける | 1 不安がなくなる | 9.2% | 20.8% | 9.4% | 13.2% | | | |
| | 2 ほぼ不安がなくなる | 28.2% | 32.7% | 26.7% | 29.2% | | | |
| | 3 やや不安が減る | 38.6% | 24.5% | 25.9% | 29.7% | | | |
| | 4 変わらない | 24.0% | 21.9% | 38.0% | 28.0% | | | |
| Q24 | あなたが最後に在籍、または現在在学中の学校は、次のどれですか。あてはまるものを1つだけ選択してください。 | 1 中学校 | 2.3% | 0.8% | 14.3% | 5.8% | | |
| | | 2 高校 | 24.2% | 19.8% | 53.7% | 32.6% | | |
| | | 3 短大・高専・専門学校 | 25.1% | 24.1% | 0.0% | 16.4% | | |
| | | 4 大学 | 44.8% | 38.6% | 21.4% | 34.9% | | |
| | | 5 大学院 | 3.6% | 16.7% | 10.6% | 10.3% | | |
| Q25 | あなたは現在、以下のような人がありますか。また、いる方は、その相手と一緒に生活していますか。それぞれあてはまるものを1つだけ選択してください。 | (1) 配偶者・パートナー | | | | | | |
| | | 1 一緒に生活している | 55.2% | 64.5% | 59.6% | 59.7% | | |
| | | 2 一緒に生活していない | 5.4% | 2.6% | 8.2% | 5.4% | | |
| | | 3 いない | 39.4% | 32.9% | 32.2% | 34.8% | | |
| | | (2) 2歳以下の乳児 | 1 一緒に生活している | 6.5% | 8.8% | 5.8% | 7.0% | |
| | | | 2 一緒に生活していない | 4.0% | 1.6% | 4.1% | 3.2% | |
| | | | 3 いない | 89.5% | 89.6% | 90.1% | 89.8% | |
| | | (3) 介護が必要な人 | 1 一緒に生活している | 3.7% | 3.4% | 2.4% | 3.2% | |
| | | | 2 一緒に生活していない | 10.6% | 3.2% | 9.6% | 7.8% | |
| | | | 3 いない | 85.7% | 93.4% | 88.0% | 89.1% | |
| | | (4) あなたが怪我や病気で介護が必要になったときに、介護してくれそうな人 | 1 一緒に生活している | 33.4% | 23.9% | 21.5% | 26.3% | |
| | | | 2 一緒に生活していない | 8.6% | 6.2% | 14.4% | 9.7% | |
| | | | 3 いない | 58.0% | 69.9% | 64.1% | 64.0% | |
| | | (5) 3歳以上18歳未満の子供 | 1 一緒に生活している | 17.0% | 33.2% | 21.2% | 23.8% | |
| | | | 2 一緒に生活していない | 3.5% | 1.4% | 5.7% | 3.5% | |
| | | | 3 いない | 79.4% | 65.4% | 73.2% | 72.7% | |
| | | (6) 18歳以上の子供 | 1 一緒に生活している | 16.0% | 11.8% | 9.7% | 12.5% | |
| | | | 2 一緒に生活していない | 12.8% | 12.0% | 20.8% | 15.2% | |
| | | | 3 いない | 71.2% | 76.2% | 69.4% | 72.3% | |
| | | (7) 兄弟姉妹 | 1 一緒に生活している | 10.0% | 7.0% | 3.7% | 6.9% | |
| | | | 2 一緒に生活していない | 52.1% | 22.6% | 53.5% | 42.7% | |
| | | | 3 いない | 37.9% | 70.4% | 42.8% | 50.4% | |
| | | (8) 65歳以上の高齢者 | 1 一緒に生活している | 23.2% | 11.5% | 7.7% | 14.1% | |
| | | | 2 一緒に生活していない | 36.1% | 14.5% | 39.6% | 30.1% | |
| | | | 3 いない | 40.7% | 74.0% | 52.7% | 55.8% | |
| | | Q26 | あなたの現在のお仕事についておうちがいます。あなたはふたどりのような仕事をなさっていますか。次のうち、あてはまるものを1つだけ選択してください。 | 1 フルタイムで働いている | 51.2% | 49.5% | 49.3% | 50.0% |
| | | | | 2 パートタイム、アルバイト | 15.2% | 12.9% | 14.3% | 14.1% |
| | | | | 3 専業主婦(夫) | 18.1% | 9.7% | 11.8% | 13.2% |
| | | | | 4 学生・生徒 | 3.7% | 2.1% | 7.0% | 4.3% |
| | | | | 5 無職 | 11.8% | 25.8% | 17.6% | 18.4% |
| | | | | Q27 | あなたは、現在ご自分のことを健康だと思えますか。あてはまるものを1つだけ選択してください。 | 1 健康だと思う | 12.2% | 39.8% |
| | | 2 まあ健康だと思う | 61.9% | | | 45.0% | 47.9% | 51.6% |
| 3 あまり健康ではないと思う | 20.0% | 12.1% | 18.9% | | | 17.0% | | |
| 4 健康ではないと思う | 5.9% | 3.1% | 10.1% | | | 6.4% | | |
| Q28 | あなたは、もしくはあなたのご家族で、以下のような方はいらっしゃいますか。当てはまるものを全て選択してください。 | 1 現在、医師に相談している、あるいは医師に相談する必要があるような持病がある | 16.1% | 23.4% | 27.2% | 22.2% | | |
| | | 2 現在、通院している | 29.5% | 9.7% | 20.6% | 20.0% | | |
| | | 3 医療薬品(サプリメントを除く)を服用している | 15.4% | 37.0% | 33.4% | 28.6% | | |
| | | 4 サプリメントを服用している | 24.1% | 33.9% | 20.7% | 26.2% | | |
| | | 5 現在、医師に相談している、あるいは医師に相談する必要があるような持病がある | 15.2% | 18.5% | 14.3% | 16.0% | | |
| | | 6 現在、通院している | 23.7% | 8.6% | 10.8% | 14.4% | | |
| | | 7 現在、医師に相談している、あるいは医師に相談する必要があるような持病がある | 11.7% | 15.5% | 18.2% | 15.1% | | |
| | | 8 現在、通院している | 15.2% | 7.9% | 15.9% | 13.0% | | |
| | | 9 あてはまるものはない | 34.9% | 32.9% | 34.7% | 34.2% | | |

| Q29 お宅の世帯年収（税込み）は、次のうちどれにあたりますか。次のうち、あてはまるものを1つだけ選択してください。 | | | | | |
|--|----------------------------|-------|-------|-------|---|
| 世帯収入（日本） ※欠損を除くNは、1,174 ※欠損のNは、1,550 | 1 200万円未満 | 11.1% | - | - | - |
| | 2 200万円以上～400万円未満 | 23.9% | - | - | - |
| | 3 400万円以上～600万円未満 | 26.3% | - | - | - |
| | 4 600万円以上～800万円未満 | 19.9% | - | - | - |
| | 5 800万円以上～1,000万円未満 | 9.6% | - | - | - |
| | 6 1,000万円以上～1,200万円未満 | 4.6% | - | - | - |
| | 7 1,200万円以上～1,400万円未満 | 2.4% | - | - | - |
| | 8 1,400万円以上 | 2.1% | - | - | - |
| | 欠損 わからない/答えたくない | 24.3% | - | - | - |
| 世帯収入（アメリカ） ※欠損を除くNは、1,455 ※欠損のNは、1,550 | 1 \$ 9,999 以下 | - | 3.3% | - | - |
| | 2 \$ 10,000 - \$ 19,999 | - | 8.5% | - | - |
| | 3 \$ 20,000 - \$ 29,999 | - | 9.1% | - | - |
| | 4 \$ 30,000 - \$ 39,999 | - | 10.9% | - | - |
| | 5 \$ 40,000 - \$ 49,999 | - | 9.0% | - | - |
| | 6 \$ 50,000 - \$ 59,999 | - | 9.4% | - | - |
| | 7 \$ 60,000 - \$ 69,999 | - | 7.7% | - | - |
| | 8 \$ 70,000 - \$ 79,999 | - | 8.0% | - | - |
| | 9 \$ 80,000 - \$ 89,999 | - | 4.8% | - | - |
| | 10 \$ 90,000 - \$ 99,999 | - | 7.2% | - | - |
| | 11 \$ 100,000 - \$ 119,999 | - | 9.6% | - | - |
| | 12 \$ 120,000 - \$ 139,999 | - | 4.1% | - | - |
| | 13 \$ 140,000 - \$ 159,999 | - | 3.6% | - | - |
| | 14 \$ 160,000 以上 | - | 4.7% | - | - |
| 欠損 わからない/答えたくない | - | 6.1% | - | - | |
| 世帯収入（ドイツ） ※欠損を除くNは、1,380 ※欠損のNは、1,550 | 1 € 9,999 以下 | - | - | 9.0% | - |
| | 2 € 10,000 - € 19,999 | - | - | 12.7% | - |
| | 3 € 20,000 - € 29,999 | - | - | 14.8% | - |
| | 4 € 30,000 - € 39,999 | - | - | 16.8% | - |
| | 5 € 40,000 - € 49,999 | - | - | 13.8% | - |
| | 6 € 50,000 - € 59,999 | - | - | 8.6% | - |
| | 7 € 60,000 - € 69,999 | - | - | 8.3% | - |
| | 8 € 70,000 - € 79,999 | - | - | 5.7% | - |
| | 9 € 80,000 - € 89,999 | - | - | 3.3% | - |
| | 10 € 90,000 - € 99,999 | - | - | 2.8% | - |
| | 11 € 100,000 以上 | - | - | 4.2% | - |
| 欠損 わからない/答えたくない | - | - | 11.0% | - | |

横浜市中学生ネット依存調査

Survey on Internet Addiction among Junior High Students in Yokohama City

橋元良明 HASHIMOTO, Yoshiaki 大野志郎 OHNO, Shiroh
天野美穂子 AMANO, Mihoko 堀川裕介 HORIKAWA, Yusuke

目次

| | |
|-----------------------------|-------|
| 0. 調査の概要 | 橋元良明 |
| 0.1 調査の目的 | |
| 0.2 方法 | |
| 1. ネット依存の定義と依存傾向者の分布 | 堀川裕介 |
| 1.1 依存傾向者の定義 | |
| 1.2 依存傾向者の分布 | |
| 2. ソーシャルメディア利用とネット依存 | 大野志郎 |
| 2.1 ソーシャルメディアの利用者率 | |
| 2.2 ソーシャルメディアの利用時間 | |
| 2.3 代表的なソーシャルメディアの利用時間 | |
| 2.4 ソーシャルメディアによるコミュニケーション人数 | |
| 2.5 ソーシャルメディアの利用目的 | |
| 2.6 ソーシャルメディア利用の負担感 | |
| 2.7 本章のまとめ | |
| 3. モバイル機器の利用と依存 | 堀川裕介 |
| 3.1 モバイル機器でのネット利用者割合 | |
| 3.2 モバイル機器でのネット利用時間 | |
| 3.3 モバイル機器の利用年数 | |
| 3.4 フィルタリングの利用 | |
| 4. 心理特性、対人関係とネット依存 | 天野美穂子 |
| 4.1 心理特性 | |
| 4.2 対人関係・生活満足度 | |
| 4.3 友人関係 | |
| 4.4 保護者との関係 | |
| 4.5 保護者との約束 | |

5. ネット依存に関わる要因の多変量解析

橋元良明

- 5.1 情報機器利用時間と依存
- 5.2 諸サービスの利用時間と依存
- 5.3 ソーシャルメディアの利用時間と依存
- 5.4 「よくやりとりする相手の人数」と依存
- 5.5 「ソーシャルメディアを利用する目的」と依存
- 5.6 「保護者との約束内容」と依存
- 5.7 「使っているフィルタリングサービスの内容」と依存
- 5.8 生活時間と依存
- 5.9 友だち・保護者・学校生活への満足度と依存
- 5.10 保護者に対する気持ちと依存
- 5.11 心理特性と依存
- 5.12 範疇横断的な要因による依存の分析

6. ヤング 20 項目尺度とネット依存関連質問

堀川裕介

- 6.1 本調査におけるネット依存関連質問
- 6.2 ヤング 20 項目への回答状況
- 6.3 コミュニケーション関連項目への回答状況
- 6.4 ネット利用に伴う実害項目への回答状況
- 6.5 ネット依存関連その他の質問の回答状況

単純集計

橋元良明 東京大学大学院情報学環
大野志郎 立教女学院短期大学現代コミュニケーション学科
天野美穂子 東京大学大学院学際情報学府博士課程
堀川裕介 東京大学大学院学際情報学府博士課程

なお、本報告のベースとなる調査は、総務省情報通信政策研究所と東京大学大学院情報学環橋元研究室の共同研究の一環として実施されたものである。

0. 調査の概要

0.1 調査の目的

近年、スマートフォンの普及とも相まって青少年のネット利用時間が増加している。サービス／アプリケーションとしては、動画やゲームの利用に加えて、LINE、Twitter 等のソーシャルメディアの利用頻度が増している。それに伴い、学生においては、学業や生活、家族関係、友人関係に悪影響が及ぶことが懸念されている。

ネットの利用がコントロールできず、様々な実害が生じる現象は一般に「ネット依存」と呼ばれているが、今回は(1)中学生のネット依存の実態を明らかにし、(2)機器利用時間や諸サービスの利用状況、ソーシャルメディアの利用目的、心理特性等、ネット依存に関わる要因を明らかにするため、東京大学大学院情報学環橋元研究室と総務省情報通信政策研究所が共同研究として、中学生のネット依存状況を調査した。その際、横浜市の協力を得て、横浜市内の中学生に調査に参加してもらった。

「ネット依存」の基準としては様々なものがあるが、今回は K.Young の提唱した 20 項目のインターネット依存尺度を参照した。

なお、本調査の単純集計値および学年、性別、ネット依存傾向(高・中・低)と各質問項目のクロス集計結果は、総務省情報通信政策研究所の下記のサイトにも掲載されている。

http://www.soumu.go.jp/iicp/chousakenkyu/data/research/survey/telecom/2016/20160630_02.pdf

0.2 方法

横浜市の協力を得て、市内の公立中学校を対象に紙媒体質問票による配布回収調査を実施した。

(1)調査対象校：横浜市内の公立中学校 148 校（生徒総数 81,279 人）のうち、横浜市教育委員会を通じて調整を行ない、調査への協力を得られた 22 校（同 11,589 人）で調査を実施した。

(2)調査対象者：各中学校における全学年、全クラスの生徒

(3)調査方法：(株)山手情報処理センターから対象の中学校に一括して調査票を郵送し、各中学校で生徒に調査票を配布、無記名で記入されたものを回収し、郵送にて山手情報処理センターに返送した。

(4)有効回答数：10,596 票（1年生：3,550 票、2年生：3,636 票、3年生：3,410 票）

(5)調査期間：2015 年 2 月 18 日～3 月 13 日

1. ネット依存の定義と依存傾向者の分布

1.1 依存傾向者の定義

ネット依存には様々な定義や基準が提案されているが、本稿ではネット依存研究の先駆けであるキンバリー・ヤング氏が考案し、その後の研究にも多用されている 20 項目尺度¹⁾を用いた。本尺度は 20 項目それぞれを 5 段階で回答者に評価させ、その合計得点（最低 20、最高 100 点）が 40 点未満であれば「平均的なオンライン・ユーザー」、40 点以上 70 点未満であれば「インターネットによる問題がある」、70 点以上であれば「インターネットが生活に重大な問題をもたらしている」と判定するものであるが、本稿では 70 点以上を「依存傾向」、70 点未満を「非依存傾向」とする判定基準を採用した。以降では「依存傾向者」とはヤング 20 項目基準で 70 点以上に該当した者を指すものとする。

表 1.1.1 本調査で尋ねたヤング 20 項目尺度

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">(1) 気がつく、思っていたより長い時間ネットをしていることがある(2) ネットを長く利用していたために、家の手伝い(炊事、掃除、洗濯など)をおろそかにすることがある(3) 家族や友だちと過ごすよりも、ネットを利用したいと思うことがある(4) ネットで新しく知り合いを作ることがある(5) 周りの人から、ネットを利用する時間や回数について文句を言われたことがある(6) ネットをしている時間が長くて、学校の成績が下がっている(7) ネットが原因で、勉強の能率に悪影響が出ることがある(8) 他にやらなければならないことがあっても、まず先にソーシャルメディア (LINE、Twitter など)やメールをチェックすることがある(9) 人にネットで何をしているのか聞かれたとき、言い訳をしたり、隠そうとしたりすることがある(10) 日々の生活の問題から気をそらすために、ネットで時間を過ごすことがある(11) 気がつけば、また次のネット利用を楽しみにしていることがある(12) ネットのない生活は、退屈で、むなしく、わびしいだろうと不安に思うことがある(13) ネットをしている最中に誰かに邪魔をされると、イライラしたり、怒ったり、言い返したりすることがある(14) 夜遅くまでネットをすることが原因で、睡眠時間が短くなっている(15) ネットをしていないときでも、ネットのことを考えてぼんやりしたり、ネットをしているところを空想したりすることがある(16) ネットをしているとき「あと数分だけ」と自分で言い訳していることがある(17) ネットをする時間や回数を減らそうとしても、できないことがある(18) ネットをしている時間や回数を、人に隠そうとすることがある(19) 誰かと外出するより、ネットを利用することを選ぶことがある(20) ネットをしている時は何ともないが、ネットをしていない時はイライラしたり、憂うつな気持ちになったりする |
|---|

※Young(1998)の原著と訳書を基に、現代日本の中学生にも理解しやすい文言になるよう考慮しつつ、筆者らが訳出した。実際の調査票では漢字やソーシャルメディアのサービス名にルビを振った。

¹⁾ Young, K S. (1998) "Caught in the Net: How to Recognize the Signs of Internet Addiction and a Winning Strategy for Recovery" (邦訳：キンバリー・ヤング著 小田嶋由美子訳『インターネット中毒まじめな警告です』) による。

1.2 依存傾向者の分布

依存傾向者の判定のためには 20 項目への回答がすべてそろっている必要があるため、20 項目のいずれか 1 つでも欠損値のあるサンプルを除いた 9,475 人を分析対象とした。前述の定義に基づき依存傾向者の割合を求めたところ、5.7%が依存傾向者と判定された。

学年と性別による依存傾向者の割合を見たところ、学年では 1 年生 6.4%、2 年生 5.5%、3 年生 5.1%であり、 χ 二乗検定での有意な偏りは見られなかった。性別では男子 5.1%、女子 6.2%であり、 χ 二乗検定で危険率 5%水準での有意な偏りが見られた。

さらに学年ごとに分けて性別による依存傾向者の割合を見たところ（図 1.2.1）、上の学年ほど男女差が小さいことが明らかとなった。また男子と異なり、女子では上の学年ほど依存傾向者の割合が少ない傾向が見られた。

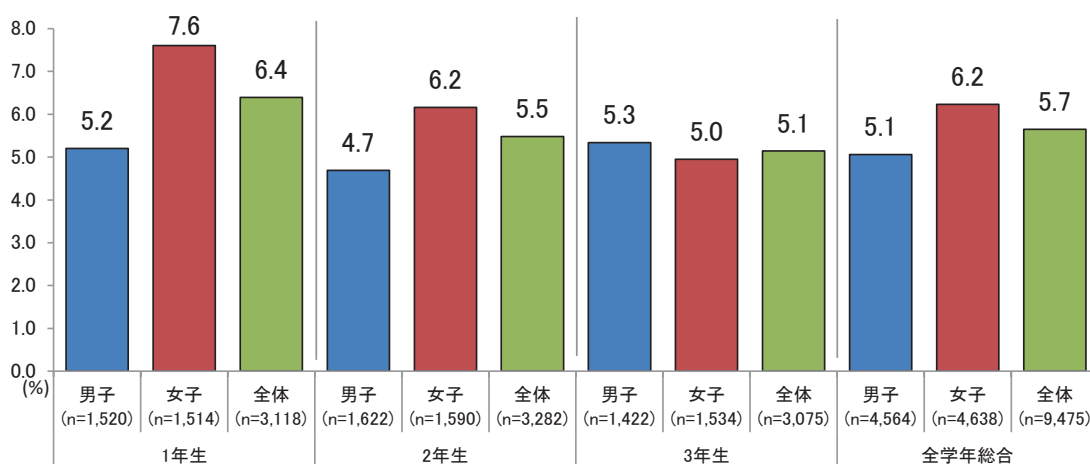


図 1.2.1 学年×性別でみた依存傾向者の割合

※各学年および全学年総合で男女の N 数の合計と全体の N 数が合致しないのは性別不明の回答者が存在するため。

2. 中学生のソーシャルメディア利用とインターネット依存

本章においては、ソーシャルメディアの利用者率および利用時間、ソーシャルメディアによるコミュニケーション人数、ソーシャルメディアの利用目的、ソーシャルメディア利用に伴う負担感について、性別、学年、インターネット依存傾向との関連性について明らかにするため、基本的な分析を行う²。

2.1 ソーシャルメディアの利用者率

ソーシャルメディアの利用状況について、利用している、利用していないの2択で回答を得た。性別、学年別、依存傾向別の利用者率を、表 2.1.1 に示す。ソーシャルメディアの利用率は 80.8%であり、男性の 79.4%に対し、女性は 81.3%と有意に高かった。学年別には1年生の 75.4%に対して3年生が 86.1%と有意に高かった。依存傾向者のソーシャルメディア利用率は 94.9%であり、非依存傾向者の 79.3%に対して非常に高い率であった。

表 2.1.1 ソーシャルメディアの利用者率

| | ソーシャルメディアを利用する | | |
|-----|----------------|-----|------|
| | 該当率 | 検定 | N |
| 全体 | 80.8% | | 9796 |
| 男性 | 79.4% | * | 4672 |
| 女性 | 81.3% | | 4761 |
| 1年生 | 75.4% | *** | 3181 |
| 2年生 | 81.0% | | 3395 |
| 3年生 | 86.1% | | 3220 |
| 依存 | 94.9% | *** | 527 |
| 非依存 | 79.3% | | 8296 |

※母数は有効回答数全体。 * $p < 0.05$, *** $p < 0.001$

ソーシャルメディア利用者と非利用者の依存傾向者率を、表 2.1.2 に示す。全体ではソーシャルメディア利用群の 7.1%が依存傾向を示したのに対し、ソーシャルメディア非利用群ではわずか 1.5%であった。ただし、ソーシャルメディアの非利用者率は 19.2%と少数派であり、インターネットそのものを積極的に利用しない層が多く含まれることに留意すべきである。性別では、女性のソーシャルメディア利用者に占める依存傾向者率が 7.8%、学年では1年生のソーシャルメディア利用者に占める依存傾向者の率が 8.8%であり、比

² 分析に際し、平均値の差の検定には、性別・依存非依存には t 検定を、学年には分散分析を用いた。また、名義尺度間の差の検定にはカイ二乗検定を用いた。なお、本章の全ての分析に際し、DK、NAを除いて集計している。

較的高い率であった。

表 2.1.2 ソーシャルメディア利用と依存傾向

| | ソーシャルメディア利用 | 依存傾向者率 | χ^2 検定 | N |
|-----|-------------|--------|-------------|------|
| 全体 | あり | 7.1% | *** | 7079 |
| | なし | 1.5% | | 1744 |
| 男性 | あり | 6.3% | *** | 3282 |
| | なし | 1.9% | | 894 |
| 女性 | あり | 7.8% | *** | 3559 |
| | なし | 1.1% | | 830 |
| 1年生 | あり | 8.8% | *** | 2102 |
| | なし | 1.7% | | 718 |
| 2年生 | あり | 6.6% | *** | 2473 |
| | なし | 1.8% | | 607 |
| 3年生 | あり | 6.0% | *** | 2504 |
| | なし | 1.0% | | 419 |

※母数は有効回答数全体。 *** $p < 0.001$

2.2 ソーシャルメディアの利用時間

パソコンやタブレット端末、スマートフォンやガラケーを用いた、平日1日の平均的なソーシャルメディアの利用時間を、表 2.2.1 に示す。

パソコンやタブレット端末によるソーシャルメディアの利用時間は、閲覧時間が平均14.4分、書き込み時間が9.3分、通話時間が4.4分であった。性別について有意な差が見られたのは通話時間のみで、男性が5.6分と長く、女性は2.8分と短かった。学年については閲覧、書き込み、通話のいずれも有意な差が見られ、高学年ほど長時間であった。依存傾向については、閲覧、書き込み、通話のいずれも大きな差が見られ、依存傾向者は非依存傾向者に対して、3.5倍から5倍程度の利用時間であった。

スマートフォンやガラケーによるソーシャルメディアの利用時間は、閲覧時間が平均55.5分、書き込み時間が32.5分、通話時間が12.5分であり、パソコンやタブレット端末による利用時間と比較して、3倍から4倍程度長時間であった。端末による利用時間の差については、パソコンはスマートフォンに対して平均ネット利用時間が短いこと³、ソーシャルメディアの利用形態としてモバイル端末の利用が一般的であることが大きく影響している⁴。0分の回答を除く平日の利用者平均時間は、パソコンやタブレット端末によるスマートメディア閲覧が68.4分、書き込みが68.4分、通話が71.7分、スマートフォンやガラケーによるスマートメディア閲覧が95.7分、書き込みが69.1分、通話が46.3分であった。

³ 本調査による端末ごとのネット利用時間は、パソコンが40.2分、タブレット端末が38.1分、スマートフォンが125.7分、ガラケーが15.5分であった。

⁴ 例えば、ソーシャルメディアの閲覧時間について、平日の利用時間が1分以上と回答した人数は、パソコンやタブレット端末の1,678人に対し、スマートフォンやガラケーは5,028人であった。

スマートフォンやガラケーによる利用時間については、性別、学年、依存傾向のいずれにおいても有意な差が見られた。閲覧、書き込み、通話の全てにおいて、男性よりも女性の利用時間が有意に長く、学年では3年生の利用時間が有意に長かった。また、依存傾向者はソーシャルメディアの閲覧時間が約2時間、書き込みの時間が約1時間20分と、いずれも長時間に及んでいた。

表 2.2.1 ソーシャルメディアの利用時間

| | パソコンやタブレット端末で | | | | | | | | |
|-----|---------------|------|------|----------------|------|------|----------------|-----|------|
| | ソーシャルメディアを見る | | | ソーシャルメディアに書き込む | | | ソーシャルメディアで通話する | | |
| | 時間(分) | 検定 | N | 時間(分) | 検定 | N | 時間(分) | 検定 | N |
| 全体 | 14.4 | | 8055 | 9.3 | | 7928 | 4.4 | | 8695 |
| 男性 | 13.4 | n.s. | 3829 | 8.6 | n.s. | 3777 | 5.6 | | 4246 |
| 女性 | 15.0 | | 3978 | 9.4 | | 3913 | 2.8 | *** | 4183 |
| 1年生 | 11.2 | | 2755 | 8.8 | | 2719 | 2.9 | | 2959 |
| 2年生 | 13.2 | *** | 2827 | 7.0 | *** | 2780 | 4.1 | *** | 3071 |
| 3年生 | 19.3 | | 2473 | 12.4 | | 2429 | 6.5 | | 2665 |
| 依存 | 40.4 | *** | 418 | 33.7 | *** | 414 | 17.2 | *** | 437 |
| 非依存 | 12.5 | | 6917 | 7.6 | | 6816 | 3.2 | | 7472 |
| | スマートフォンやガラケーで | | | | | | | | |
| | ソーシャルメディアを見る | | | ソーシャルメディアに書き込む | | | ソーシャルメディアで通話する | | |
| | 時間(分) | 検定 | N | 時間(分) | 検定 | N | 時間(分) | 検定 | N |
| 全体 | 55.5 | | 8671 | 32.5 | | 8578 | 12.5 | | 9290 |
| 男性 | 36.8 | *** | 4029 | 22.7 | *** | 3977 | 9.9 | *** | 4428 |
| 女性 | 70.9 | | 4357 | 40.4 | | 4324 | 13.8 | | 4562 |
| 1年生 | 46.1 | | 2936 | 28.8 | | 2914 | 10.4 | | 3137 |
| 2年生 | 45.9 | *** | 2983 | 27.9 | *** | 2954 | 10.3 | *** | 3227 |
| 3年生 | 75.9 | | 2752 | 41.4 | | 2710 | 17.0 | | 2926 |
| 依存 | 121.1 | *** | 434 | 80.6 | *** | 432 | 36.9 | *** | 461 |
| 非依存 | 50.8 | | 7439 | 28.9 | | 7365 | 10.3 | | 7978 |

※母数は有効回答数全体。利用時間は0分の回答を含む。 *** $p < 0.001$

続いて、依存傾向者の性別、学年別のソーシャルメディア閲覧時間を、表 2.2.2 に示す。パソコンやタブレット端末による利用時間について、性別、学年別共に有意な差は見られなかった。スマートフォンやガラケーによる利用時間については、性別では女性が、学年では3年生が、それぞれ約2時間25分、約2時間31分と長く、有意な差が見られた。

表 2.2.2 依存傾向者のソーシャルメディアの利用時間

| ソーシャルメディアを見る時間 | パソコンやタブレット端末 | | | スマートフォンやガラケー | | |
|----------------|---------------|-------------|-----|---------------|-------------|-----|
| | 依存傾向者の利用時間(分) | χ^2 検定 | N | 依存傾向者の利用時間(分) | χ^2 検定 | N |
| 男性 | 38.8 | n.s. | 173 | 88.6 | *** | 173 |
| 女性 | 43.3 | | 232 | 144.5 | | 247 |
| 1年生 | 37.0 | n.s. | 165 | 122.1 | * | 166 |
| 2年生 | 37.2 | | 141 | 95.2 | | 147 |
| 3年生 | 49.6 | | 112 | 151.3 | | 121 |

* $p<0.05$,*** $p<0.001$

※母数はインターネット依存傾向者。利用時間は0分の回答を含む。

2.3 代表的なソーシャルメディアの利用時間

代表的なソーシャルメディアとして、LINE、Twitter、Facebook、mixi を挙げ、それぞれの平日1日の平均的な利用時間について回答を得た結果を、表 2.3.1 に示す。LINE については87.9分であり、男性(66.2分)より女性(108.6分)が、学年については3年生(102.4分)が、長時間利用していた。また、依存傾向者は約2時間22分と非常に長時間であった。Twitter については69.7分であり、男性(46.2分)より女性(86.5分)が、学年については3年生が88.7分と長時間利用していた。また、依存傾向者は2時間と長時間であった。Facebook と mixi については、性別、学年による有意な差は見られなかった。依存傾向においては、依存傾向者は非依存傾向者の倍程度の利用時間となっていた。

LINE のソーシャルメディア利用時間が他のソーシャルメディアと比較して長時間であることについては、各ソーシャルメディアの利用者のうち、平日に平均1分以上使用する率が高い(平日に全く使用しない率が低い)ことがひとつの要因であろう。利用者のうちの平日利用率は、LINE が99.4%であるのに対し、Twitter は96.7%、Facebook は78.5%、mixi は60.2%であった。ただし、平日平均1分以上の利用者のみを対象として分析した利用者平均時間においても、LINE が88.4分、Twitter が72.1分、Facebook が34.4分、mixi が63.7分であり、LINE の利用時間が最長であった。

表 2.3.1 代表的なソーシャルメディアの利用時間

| | LINE | | | Twitter | | | Facebook | | | mixi | | |
|-----|-------|-----|------|---------|-----|------|----------|------|-----|-------|------|-----|
| | 時間(分) | 検定 | N | 時間(分) | 検定 | N | 時間(分) | 検定 | N | 時間(分) | 検定 | N |
| 全体 | 87.9 | | 6606 | 69.7 | | 3659 | 27.0 | | 917 | 38.4 | | 367 |
| 男性 | 66.2 | *** | 3094 | 46.2 | *** | 1514 | 22.3 | † | 459 | 40.2 | n.s. | 220 |
| 女性 | 108.6 | | 3237 | 86.5 | | 1992 | 29.9 | | 413 | 28.7 | | 127 |
| 1年生 | 84.9 | *** | 2016 | 53.6 | *** | 812 | 25.5 | n.s. | 289 | 45.5 | n.s. | 141 |
| 2年生 | 76.0 | | 2281 | 56.8 | | 1290 | 23.5 | | 302 | 31.6 | | 117 |
| 3年生 | 102.4 | | 2309 | 88.7 | | 1557 | 31.5 | | 326 | 36.4 | | 109 |
| 依存 | 142.1 | *** | 423 | 120.1 | *** | 322 | 47.7 | ** | 97 | 52.3 | * | 47 |
| 非依存 | 83.8 | | 5494 | 68.7 | | 2942 | 21.4 | | 693 | 30.2 | | 266 |

† $p < 0.1$, * $p < 0.05$, ** $p < 0.01$, *** $p < 0.001$

※母数は各ソーシャルメディアの利用者。利用時間は0分の回答を含む。

2.4 ソーシャルメディアによるコミュニケーション人数

ソーシャルメディアでよくやりとりする人数について、表 2.4.1 に示す。家族については平均 2.1 人であり、性別では女性が 2.2 人、学年別では 1 年生が 2.3 人と有意に多かった。依存傾向については有意な差は見られなかった。同じ学校の友だちについては、平均 24.7 人であり、性別では男性が 25.7 人、学年別では 1 年生が 29.2 人、依存傾向別には依存傾向者が 28.6 人と、いずれも有意に多かった。学外の活動を通じて知り合った友だちについては、平均 9.6 人であり、性別では男性が 10.3 人、学年別では 1 年生が 10.6 人、依存傾向別には依存傾向者が 12.0 人と、いずれも有意に多かった。ソーシャルメディア上で知り合い、会ったことのある友だちについては、平均 2.0 人であり、性別、学年で有意な差は見られなかった。依存傾向別には依存傾向者が 4.8 人と、有意に多かった。ソーシャルメディア上のみでの友だちについては、平均 18.6 人であり、性別、学年で有意な差は見られなかった。依存傾向については、依存傾向者は 60.3 人であり、非依存傾向者の 15.2 人と比較して非常に多く、依存傾向者がソーシャルメディア上のみでの友だちを特に多く持つ傾向にあることが分かる。

表 2.4.1 ソーシャルメディアでよくやり取りする人数

| | 家族 | | | 同じ学校の友だち | | | 学校外の活動(学習塾、クラブ活動、趣味の活動など)を通じて知り合った友だち | | | ソーシャルメディア上で始めて知り合い、実際に会ったこともある友だち | | | ソーシャルメディア上でだけでよくやり取りし、実際にはあったことのない友だち | | |
|-----|-------|------|------|----------|-----|------|---------------------------------------|----|------|-----------------------------------|------|------|---------------------------------------|------|------|
| | 人数(人) | 検定 | N | 人数(人) | 検定 | N | 人数(人) | 検定 | N | 人数(人) | 検定 | N | 人数(人) | 検定 | N |
| 全体 | 2.1 | | 7540 | 24.7 | | 7365 | 9.6 | | 7341 | 2.0 | | 7353 | 8.6 | | 7357 |
| 男性 | 2.0 | *** | 3511 | 25.7 | * | 3436 | 10.3 | ** | 3418 | 2.1 | n.s. | 3411 | 16.8 | n.s. | 3420 |
| 女性 | 2.2 | | 3715 | 23.6 | | 3645 | 8.6 | | 3631 | 1.8 | | 3645 | 20.3 | | 3642 |
| 1年生 | 2.3 | | 2276 | 29.2 | | 2230 | 10.6 | | 2234 | 2.1 | | 2212 | 15.7 | | 2215 |
| 2年生 | 2.1 | *** | 2614 | 23.6 | *** | 2577 | 9.3 | * | 2558 | 2.0 | n.s. | 2567 | 17.6 | † | 2566 |
| 3年生 | 2.0 | | 2650 | 21.9 | | 2558 | 9.0 | | 2549 | 1.9 | | 2574 | 22.3 | | 2576 |
| 依存 | 2.0 | n.s. | 484 | 28.6 | * | 473 | 12.0 | * | 478 | 4.8 | *** | 474 | 60.3 | *** | 470 |
| 非依存 | 2.1 | | 6261 | 24.1 | | 6127 | 9.2 | | 6109 | 1.8 | | 6118 | 15.2 | | 6134 |

† $p < 0.1$, * $p < 0.05$, ** $p < 0.01$, *** $p < 0.001$

※母数はソーシャルメディア利用者。人数は0人の回答を含む。

2.5 ソーシャルメディアの利用目的

ソーシャルメディア利用の理由・目的の該当率を表 2.5.1 に示す。全体としては、友だちや知り合いとコミュニケーションをとるため (77.1%)、学校・部活動などの事務的な連絡のため (68.1%)、ひまつぶしのため (61.1%)、情報収集のため (50.6%) の該当率が高かった。性別では全ての項目において女性の該当率が有意に高かった。学年別では、新しく友だちを作るため、事務的な連絡のため、情報収集のため、写真・動画を気軽にシェアできるため、ひまつぶしのため、ストレス解消のため、の6項目で有意な差が見られ、概ね高学年ほど該当率が高かった。ただし、ストレス解消のためについては1年生の該当率が18.3% (2年生16.3%、3年生14.5%) であり、低学年ほど高い傾向であった。依存傾向については、ほとんどの項目で有意な差が見られた。特に、新しく友だちを作るため (依存31.7%、非依存11.9%)、自分の近況や気持ちを知ってもらうため (依存29.3%、非依存10.3%)、ストレス解消のため (依存52.7%、非依存13.3%)、現実から逃れるため (依存47.5%、非依存7.7%) については、非常に大きな差が見られた。





















依存傾向との関連を詳細に見るため、各項目の依存傾向者率を表 2.5.2 に示す。前述の4項目の該当者の中に占める依存傾向者率に注目すると、新しく友だちを作るために該当する利用者の17.2%、自分の近況を知ってもらうために該当する利用者の18.1%、ストレス解消に該当する利用者の23.5%、現実から逃れるために該当する利用者の32.4%であり、非該当者 (4~6%) と比較して非常に高いことが分かる。

表 2.5.1 ソーシャルメディア利用の理由・目的

| | 友だちや知り合いとコミュニケーションをとるため | | 新しく友だちを作るため | | 学校・部活動などの事務的な連絡のため | | 周囲の人も使っているため | | 自分の近況や気持ちを知らせてもらうため | | |
|-----|-------------------------|------|------------------------|-----|--------------------|-----|--------------|------|---------------------|------|------|
| | 該当率 | 検定 | 該当率 | 検定 | 該当率 | 検定 | 該当率 | 検定 | 該当率 | 検定 | |
| 全体 | 77.1% | | 13.4% | | 68.1% | | 35.7% | | 11.6% | | |
| 男性 | 72.8% | *** | 10.5% | *** | 63.9% | *** | 31.8% | *** | 8.6% | *** | |
| 女性 | 81.5% | | 16.1% | | 72.7% | | 40.0% | | 14.2% | | |
| 1年生 | 76.5% | | 14.6% | | 69.9% | | 35.2% | | 12.6% | | |
| 2年生 | 76.8% | n.s. | 11.8% | ** | 69.1% | ** | 34.8% | n.s. | 11.0% | n.s. | |
| 3年生 | 77.8% | | 14.0% | | 65.7% | | 37.1% | | 11.4% | | |
| 依存 | 78.2% | | 31.7% | *** | 56.4% | *** | 48.5% | *** | 29.3% | *** | |
| 非依存 | 77.1% | n.s. | 11.9% | | 69.8% | | 35.4% | | 10.3% | | |
| | 情報収集のため | | 写真・動画などを気軽に投稿・シェアできるため | | ひまつぶしのため | | ストレス解消のため | | 現実から逃れるため | | |
| | 該当率 | 検定 | 該当率 | 検定 | 該当率 | 検定 | 該当率 | 検定 | 該当率 | 検定 | N |
| 全体 | 50.6% | | 30.6% | | 61.1% | | 16.3% | | 10.6% | | 7452 |
| 男性 | 47.4% | *** | 22.5% | *** | 58.5% | *** | 13.2% | *** | 7.0% | *** | 3452 |
| 女性 | 53.9% | | 38.3% | | 63.5% | | 19.2% | | 13.7% | | 3699 |
| 1年生 | 44.6% | | 26.9% | | 57.7% | | 18.3% | | 10.9% | | 2219 |
| 2年生 | 50.7% | *** | 31.3% | *** | 61.5% | *** | 16.3% | ** | 10.8% | n.s. | 2591 |
| 3年生 | 55.6% | | 33.0% | | 63.4% | | 14.5% | | 10.1% | | 2642 |
| 依存 | 62.7% | | 51.9% | *** | 77.8% | *** | 52.7% | *** | 47.5% | *** | 482 |
| 非依存 | 49.9% | *** | 28.7% | *** | 59.8% | *** | 13.3% | *** | 7.7% | *** | 6192 |

※母数はソーシャルメディア利用者。 ** $p < 0.01$, *** $p < 0.001$





















表 2.5.2 ソーシャルメディア利用の理由・目的と依存傾向

| ソーシャルメディア利用の理由・目的 | | 依存 | χ^2 検定 | N |
|-------------------------|-----|---|-------------|------|
| 友だちや知り合いとコミュニケーションをとるため | 該当 |  7.3% | n.s. | 5152 |
| | 非該当 |  6.9% | | |
| 新しく友だちを作るため | 該当 |  17.1% | *** | 887 |
| | 非該当 |  5.7% | | |
| 学校・部活動などの事務的な連絡のため | 該当 |  5.9% | *** | 4591 |
| | 非該当 |  10.1% | | |
| 周囲の人も使っているため | 該当 |  9.6% | *** | 2426 |
| | 非該当 |  5.8% | | |
| 自分の近況や気持ちを知ってもらうため | 該当 |  18.1% | *** | 777 |
| | 非該当 |  5.8% | | |
| 情報収集のため | 該当 |  8.9% | *** | 3394 |
| | 非該当 |  5.8% | | |
| 写真・動画などを気軽に投稿・シェアできるため | 該当 |  12.3% | *** | 2029 |
| | 非該当 |  5.0% | | |
| ひまつぶしのため | 該当 |  9.2% | *** | 4080 |
| | 非該当 |  4.1% | | |
| ストレス解消のため | 該当 |  23.5% | *** | 1079 |
| | 非該当 |  4.1% | | |
| 現実から逃れるため | 該当 |  32.4% | *** | 706 |
| | 非該当 |  4.2% | | |

※母数はソーシャルメディア利用者。 *** $p < 0.001$

この4項目について、性別、学年別の依存傾向者率を表2.5.3に示す。新しく友だちを作るため、自分の近況や気持ちを知ってもらうための2項目については、性別および学年に有意な差は見られなかった。ストレス解消のためについては、男性の21.0%に対し、女性が25.0%と有意に高く、学年については1年生が29.8%と有意に高かった。現実から逃れるためについては、男女に有意な差は見られなかったものの、男性において35.3%とやや高い傾向が見られた。また、学年については1年生が40.8%と非常に高い依存傾向者率であった。

表 2.5.3 性別、学年毎のソーシャルメディア利用目的と依存傾向者率

| 各設問 該当者 | 新しく友だちを作るため | | | 自分の近況や気持ちを知ってもらうため | | | ストレス解消のため | | | 現実から逃れるため | | | | | | |
|------------|---|-------------|-----|---|-------------|-----|---|-------------|-----|--|-------------|-----|---|-----|--|-----|
| | 依存傾向者率 | χ^2 検定 | N | 依存傾向者率 | χ^2 検定 | N | 依存傾向者率 | χ^2 検定 | N | 依存傾向者率 | χ^2 検定 | N | | | | |
| 男性 |  16.1% | n.s. | 316 |  18.0% | n.s. | 267 |  21.0% | *** | 400 |  35.3% | † | 104 | | | | |
| 女性 |  18.0% | | | 538 | | |  18.8% | | | 479 | | |  25.0% | 644 |  31.5% | 461 |
| 1年生 |  20.1% | n.s. | 279 |  17.1% | n.s. | 246 |  29.8% | *** | 349 |  40.8% | ** | 206 | | | | |
| 2年生 |  18.1% | | | 276 | | |  18.7% | | | 262 | | |  20.9% | 383 |  31.5% | 257 |
| 3年生 |  14.2% | | | 332 | | |  18.6% | | | 269 | | |  20.2% | 347 |  26.3% | 243 |

※母数はソーシャルメディア利用者。 † $p < 0.1$, ** $p < 0.01$, *** $p < 0.001$

2.6 ソーシャルメディア利用の負担感

ソーシャルメディア利用の際に、悩んだり負担に感じたりすること（負担感）について、性別、学年別、依存傾向別の該当者率を表 2.6.1 に示す。全体として、ソーシャルメディア内の人間関係（19.0%）、メッセージを読んだことが分かる機能があること（19.4%）、友だちとのやり取りをなかなか終わらせられないこと（24.4%）の該当率が高かった。性別では、女性においてはほとんどの項目で男性より有意に高く、ソーシャルメディア内の人間関係（22.9%）、悪口が書かれていないか気になる（19.1%）、メッセージを読んだことが分かる機能があること（23.4%）、友だちとのやり取りをなかなか終わらせられないこと（30.6%）の該当率が特に高かった。学年別にはいずれの項目においても大きな差は見られなかったが、自分の書いたメッセージに反応がないことについて、1年生のみ 19.3%（2年生 14.7%、3年生 14.3%）と比較的高い該当率であった。依存傾向については全ての項目において、依存傾向者が有意に高い該当率であった。各項目該当者に占める依存傾向者率を、表 2.6.2 に示す。特に、頻繁にメッセージを投稿しなければいけないような気がする（該当者 17.8%、非該当者 7.0%）、悪意のあるコメントや荒らしがくること（該当者 17.8%、非該当者 6.4%）、自分の書いたメッセージに反応がないこと（該当者 15.9%、非該当者 5.9%）については、該当者と非該当者との間に 10 ポイント以上の依存傾向者率の差があり、各負担感と依存傾向との強い関連性が伺える。

表 2.6.1 ソーシャルメディアの負担感

| | ソーシャルメディア内の人間関係 | | 頻りにメッセージを投稿しなければいけないような気がする | | 友だちのメッセージをチェックすること | | 自分の個人情報やプライベートな事柄をどこまで書いてよいのかも悩む | |
|-----|----------------------------------|------|-----------------------------|------|----------------------------|-----|----------------------------------|------|
| | 該当率 | 検定 | 該当率 | 検定 | 該当率 | 検定 | 該当率 | 検定 |
| 全体 | 19.0% | | 4.6% | | 16.8% | | 12.3% | |
| 男性 | 14.2% | *** | 4.5% | n.s. | 14.5% | *** | 9.3% | *** |
| 女性 | 22.9% | | 4.5% | | 18.5% | | 14.8% | |
| 1年生 | 19.3% | | 5.4% | | 18.8% | | 12.8% | |
| 2年生 | 17.2% | * | 4.1% | † | 16.3% | * | 11.5% | n.s. |
| 3年生 | 20.5% | | 4.2% | | 15.7% | | 12.8% | |
| 依存 | 38.5% | *** | 10.7% | *** | 30.4% | *** | 22.9% | *** |
| 非依存 | 17.5% | | 4.0% | | 15.8% | | 11.7% | |
| | 他人の個人情報やプライベートな事柄をどこまで書いてよいものか悩む | | 悪意のあるコメントや荒らしがくること | | 見ていない間に自分の悪口が書かれていないか心配になる | | メッセージを読んだことが分かる機能(既読確認など)があること | |
| | 該当率 | 検定 | 該当率 | 検定 | 該当率 | 検定 | 該当率 | 検定 |
| 全体 | 10.0% | | 9.1% | | 15.4% | | 19.4% | |
| 男性 | 8.1% | *** | 8.4% | n.s. | 11.2% | *** | 14.6% | *** |
| 女性 | 11.4% | | 9.4% | | 19.1% | | 23.4% | |
| 1年生 | 9.8% | | 9.5% | | 17.7% | | 20.5% | |
| 2年生 | 9.9% | n.s. | 8.7% | n.s. | 14.8% | ** | 18.3% | n.s. |
| 3年生 | 10.3% | | 9.2% | | 13.9% | | 19.6% | |
| 依存 | 21.2% | *** | 21.8% | *** | 27.6% | *** | 27.2% | *** |
| 非依存 | 9.0% | | 8.1% | | 14.3% | | 18.9% | |
| | メッセージがきたらすぐに返事を書かなければいけないこと | | 友だちとのやり取りをなかなか終わらせられないこと | | 自分の書いたメッセージに反応がないこと | | | |
| | 該当率 | 検定 | 該当率 | 検定 | 該当率 | 検定 | | N |
| 全体 | 15.3% | | 24.4% | | 16.0% | | | 6942 |
| 男性 | 12.1% | *** | 17.3% | *** | 13.3% | *** | | 3135 |
| 女性 | 18.2% | | 30.6% | | 18.3% | | | 3559 |
| 1年生 | 17.7% | | 25.1% | | 19.3% | | | 2096 |
| 2年生 | 14.0% | ** | 24.6% | n.s. | 14.7% | *** | | 2425 |
| 3年生 | 14.4% | | 23.5% | | 14.3% | | | 2421 |
| 依存 | 25.9% | *** | 40.5% | *** | 34.0% | *** | | 467 |
| 非依存 | 14.5% | | 23.3% | | 14.6% | | | 5793 |

※母数はソーシャルメディア利用者。 † $p < 0.1$, * $p < 0.05$, ** $p < 0.01$, *** $p < 0.001$

表 2.6.2 ソーシャルメディアの負担感と依存傾向

| ソーシャルメディア利用の負担感 | | 依存 | χ^2 検定 | N |
|--------------------------------------|-----|-------|----------------|--------------|
| ソーシャルメディア内の人間関係 | 非該当 | 5.7% | *** | 5069 1191 |
| | 該当 | 15.1% | | |
| 頻繁にメッセージを投稿しなければいけないような気がする こと | 非該当 | 7.0% | *** | 5979 281 |
| | 該当 | 17.8% | | |
| 友だちのメッセージをチェックすることもか悩む | 非該当 | 6.2% | *** | 5205 1055 |
| | 該当 | 13.5% | | |
| 自分の個人情報やプライベートな事柄をどこまで書いてよい のかも悩む | 非該当 | 6.6% | *** | 5477 783 |
| | 該当 | 13.7% | | |
| 他人の個人情報やプライベートな事柄をどこまで書いてよい ものか悩む | 非該当 | 6.5% | *** | 5641 619 |
| | 該当 | 16.0% | | |
| 悪意のあるコメントや荒らしがくること | 非該当 | 6.4% | *** | 5688 572 |
| | 該当 | 17.8% | | |
| 見ていない間に自分の悪口が書かれていないか心配になる | 非該当 | 6.4% | *** | 5302 958 |
| | 該当 | 13.5% | | |
| メッセージを読んだことが分かる機能（既読確認など）があ ること | 非該当 | 6.7% | *** | 5041 1219 |
| | 該当 | 10.4% | | |
| メッセージがきたらすぐに返事を書かなければいけないこと | 非該当 | 6.5% | *** | 5298 962 |
| | 該当 | 12.6% | | |
| 友だちとのやり取りをなかなか終わらせられないこと | 非該当 | 5.9% | *** | 4719 1541 |
| | 該当 | 12.3% | | |
| 自分の書いたメッセージに反応がないこと | 非該当 | 5.9% | *** | 5258 1002 |
| | 該当 | 15.9% | | |

※母数はソーシャルメディア利用者。 *** $p < 0.001$

2.7 本章のまとめ

インターネット依存傾向とソーシャルメディア利用について、ソーシャルメディア利用者のうち、女性および中学1年生において依存傾向者率が高かった。依存傾向者の、スマートフォンやガラケーを用いたソーシャルメディアの閲覧時間は、男性と比較して女性が極めて長く、2時間25分に及んでいた。また学年別には中学3年生が最も長く、2時間半を超えていた。ソーシャルメディア利用の目的として、ストレス解消および現実逃避への該当者はインターネット依存傾向を示す率が高く、特に中学1年生において顕著であった（ストレス解消29.8%、現実逃避40.8%）。これらの結果から、ソーシャルメディア利用とインターネット依存傾向が結びつくリスクは、男性よりも女性において高く、学年別には1年生において高いものと思われる。また、中学3年生の依存傾向者はソーシャルメディアの利用時間が長くなる傾向にあるため、時間管理の失敗による実害の発生に特に注意する必要がある。

本章で概観した各変数がインターネット依存の要因となる程度について、5.2 から 5.5 節において詳細な分析を行う。

3. モバイル機器の利用と依存

3.1 モバイル機器でのネット利用者割合

Q16 への回答によると、モバイル機器（スマートフォンもしくは従来型携帯電話⁵⁾）の利用者は回答者全体（n=10,596）の92.3%を占める。この中で、Q1への回答を基にネットを利用する端末を見ると、スマートフォンのみが42.7%、両方ともが34.2%、従来型携帯電話のみが16.5%であった。スマートフォンの普及に押されて従来型携帯電話のシェアが下がってきたと言われるが、この年代においてはおそらく最初の端末として与えられた子ども向け携帯電話の利用が継続しているためであろう、従来型携帯電話の利用が根強いことがうかがわれる。

属性による比較を見ると、性別では男子の方がスマートフォンのみでの利用が多く、女子の方が両方および従来型携帯電話のみでの利用が多かった。学年別では両方とも割合が3年生だけ特に高いほか、下の学年ほどネット非利用の割合が多い傾向が見られた。依存/非依存では依存傾向者で両方とも割合が多く、非依存傾向者で従来型携帯電話のみの割合が多かった。

表 3.1.1 モバイル機器でのネット利用者割合 機器別×属性別比較（単位：％）

| | | スマート フォンのみ | 両方とも | 従来型 携帯電話のみ | ネット 非利用 | χ^2 検定 |
|-----|----------|---------------|------|---------------|------------|----------------|
| 全体 | n= 9,707 | 42.7 | 34.2 | 16.5 | 6.6 | |
| 男子 | n= 4,564 | 45.3 | 30.9 | 15.6 | 8.2 | *** |
| 女子 | n= 4,776 | 40.2 | 36.6 | 17.9 | 5.3 | |
| 1年生 | n= 3,181 | 43.1 | 31.0 | 17.4 | 8.5 | *** |
| 2年生 | n= 3,345 | 43.6 | 31.5 | 18.6 | 6.3 | |
| 3年生 | n= 3,181 | 41.3 | 40.2 | 13.4 | 5.1 | |
| 依存 | n= 514 | 41.1 | 46.9 | 8.6 | 3.5 | *** |
| 非依存 | n= 8,189 | 42.8 | 32.9 | 17.4 | 6.9 | |

※記号は χ^2 乗検定結果の有意水準を表す：*** p<.001

※分析対象はモバイル機器利用者。N数は欠損値を除いた値。四捨五入により横の合計が100%にならない場合がある。

3.2 モバイル機器でのネット利用時間

Q2 ではスマートフォンと従来型携帯電話それぞれによる1日当たりのネット利用時間を尋ねているが、両者を合算して「モバイル機器でのネット利用時間」として集計したと

5) 質問紙中では従来型携帯電話のことを「ガラケー(スマートフォン以前の型の携帯電話。PHSを含む。スマートフォンは除く)」と教示した。

ころ、スマートフォンのみの利用者は 164.8 分、両方利用者は 203.0 分、従来型携帯電話のみの利用者は 38.9 分となった。両方利用者における機器別の内訳はスマートフォンが 178.6 分、従来型携帯電話が 27.4 分となっており⁶⁾、スマートフォンのみの人と比べてもスマートフォンでのネット利用時間が長い。本調査では動画サイト閲覧、ソーシャルメディア利用といったネット利用の中身について、スマートフォンと従来型携帯電話を分けて尋ねていないため、両方利用者において機器をどのように使い分けているか判然としないが、おそらく従来型携帯電話では携帯電話会社の提供するキャリアメールを主に利用し、それ以外のネット上のサービスについてはスマートフォンで利用するといった使い分けがなされているのではないかと考えられる。

属性による比較を見ると、性別では女子がいずれの利用形態でも利用時間が長く、学年別ではこれもまたすべての利用形態で 3 年生が突出して長かった。依存/非依存では依存傾向者がいずれの利用形態でも利用時間が長く、スマートフォンのみの利用者や両方利用者では 5 時間前後に及んでいた。依存傾向者中の両方利用者における機器別の内訳はスマートフォンが 283.6 分、従来型携帯電話が 36.5 分であった。

表 3.2.1 モバイル機器でのネット利用時間 機器別×属性別比較（単位：分/日）

| | スマートフォンのみ | 両方とも | 従来型携帯電話のみ |
|-----|-----------------|-----------------|----------------|
| 全体 | 164.8 (n=4,097) | 203.0 (n=3,276) | 38.9 (n=1,561) |
| 男子 | 153.9 (n=2,046) | 183.6 (n=1,386) | 31.5 (n=685) |
| 女子 | 173.7 (n=1,907) | 214.3 (n=1,730) | 44.5 (n=843) |
| 1年生 | 147.6 (n=1,356) | 178.6 (n=970) | 36.7 (n=546) |
| 2年生 | 151.3 (n=1,444) | 177.5 (n=1,044) | 34.1 (n=604) |
| 3年生 | 197.9 (n=1,297) | 242.8 (n=1,262) | 48.7 (n=411) |
| 依存 | 291.7 (n=210) | 314.1 (n=238) | 78.9 (n=42) |
| 非依存 | 155.4 (n=3,472) | 189.0 (n=2,669) | 37.2 (n=1,393) |

※分析対象はモバイル機器でのネット利用者。N 数は欠損値を除いた値。

3.3 モバイル機器の利用年数

Q1 ではスマートフォンと従来型携帯電話それぞれのネット利用開始年齢を尋ねており、各サンプルの年齢から差し引くことでネット利用年数を求めることができる。モバイル機器でのネット利用者に限り利用形態ごとに平均を求めたところ、スマートフォンのみの利用者は 2.3 年、両方利用者は 5.0 年、従来型携帯電話のみの利用者は 3.8 年となった。

⁶⁾ 両者の和は 206.0 分となっており「モバイル機器でのネット利用時間」として算出した 203.0 分と異なっているが、これは両者のうちの片方が欠損値になっているサンプルがあり、合計値のサンプル数が合計前のそれぞれと合致しないためである。ちなみに片方欠損値のサンプルについてはもう片方の数値をそのまま合計値として採用している。

両方利用者におけるスマートフォンと従来型携帯電話それぞれの平均利用年数を見ると、従来型携帯電話が 5.2 年、スマートフォンが 2.5 年となっており、どちらの機器でも各々の単独利用者に比べ早くネットを利用し始めたことがわかった。ちなみに両方利用者の（機器の違いを問わない利用年数である）5.0 年という平均年数は学年によって大きく変わらず、1 年生は 4.6 年、2 年生は 4.9 年、3 年生は 5.5 年である。この年数を調査時点の年齢から単純に差し引くと、1 年生は小学校 2～3 年の時点、2 年生は小学校 3～4 年の時点、3 年生は小学校 3～4 年の時点でそれぞれモバイル機器でのネット利用を開始したことになり、1 年生に限って言えば携帯ネット利用の低年齢化の動きが生じている可能性もある。これらのことから、両方利用者は単に両方の端末を利用しているというにとどまらず、子どもの情報機器への接触に対して寛容な家庭環境に育っている可能性が高いことをうかがわせる。

属性による比較を見ると、性別ではほとんど差が見られず、学年別では上の学年ほど利用年数が長い傾向があるが大きな差は見られなかった。依存/非依存では両方利用者と従来型携帯電話のみの利用者において若干の差が見られたが、スマートフォンのみの利用者ではほとんど差が見られなかった。

表 3.3.1 モバイル機器でのネット利用年数 機器別×属性別比較（単位：年）

| | スマートフォンのみ | 両方とも | 従来型携帯電話のみ |
|-----|---------------|---------------|---------------|
| 全体 | 2.3 (n=3,685) | 5.0 (n=2,999) | 3.8 (n=1,068) |
| 男子 | 2.3 (n=1,869) | 4.9 (n=1,318) | 3.8 (n=495) |
| 女子 | 2.4 (n=1,803) | 5.2 (n=1,675) | 3.8 (n=572) |
| 1年生 | 2.0 (n=1,212) | 4.6 (n=893) | 3.3 (n=360) |
| 2年生 | 2.4 (n=1,295) | 4.9 (n=950) | 3.7 (n=424) |
| 3年生 | 2.6 (n=1,178) | 5.5 (n=1,156) | 4.5 (n=284) |
| 依存 | 2.5 (n=184) | 5.9 (n=219) | 4.5 (n=34) |
| 非依存 | 2.3 (n=3,155) | 5.0 (n=2,456) | 3.8 (n=954) |

※分析対象はモバイル機器でのネット利用者。N 数は欠損値を除いた値。

3.4 フィルタリングの利用

Q19 ではフィルタリングの利用について尋ねている⁷⁾。モバイル機器の利用者（ネット非利用者を含む）中、全体では 44.2%が調査時点で利用していた。

属性別による比較を見ると、性別では男子よりも女子の利用比率が高い一方、「利用しているかどうかわからない」の割合も女子の方が高かった。学年別では 2 年生・3 年生にほ

⁷⁾ モバイル機器の利用に関する親子間の約束事を尋ねた Q18 については「4.5 保護者との約束」に掲載した。

とんど差が無いのに対して1年生では「最初から利用していない」の割合が低く「わからない」の割合が高い結果となった。依存/非依存では利用者割合はほとんど差が無いものの、「最初から利用していない」「利用したが解除した」の割合は依存傾向の方が高かった。フィルタリングは青少年にとって有害なサイトへのアクセスを防止するためのものであり使いすぎが主な課題であるネット依存と直接関わるものではないが、フィルタリングをかけないことによって様々なサイトへのアクセスが生じ、結果的に使いすぎにもつながっていく可能性のあることがこの結果から示唆される。

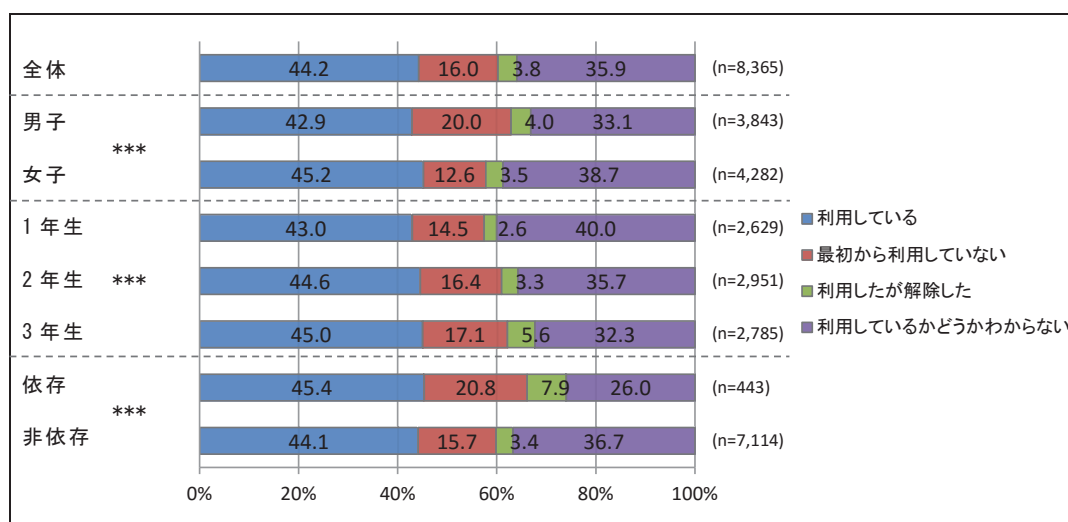


図 3.4.1 フィルタリングの利用 属性別比較 (単位: %)

※記号はχ二乗検定結果の有意水準を表す: *** p<.001

※分析対象はモバイル機器利用者 (ネット非利用者も含む)。N数は欠損値を除いた値。四捨五入により横の合計が100%にならない場合がある。

4. 心理特性、対人関係とネット依存

本章では、心理的特性や日常生活における対人関係（友人・親子）に焦点をあて、これらとインターネット依存傾向との関連について検討する。

分析に際しては、平均値の差の検定はt検定（性別、依存傾向／非依存傾向）および分散分析（学年）を使用し、名義尺度間の差の検定はカイ二乗検定を使用した。なお、DK・NAを除いた有効回答数で分析を行っているため、質問項目によってN数は異なる。

4.1 心理特性

本調査では、「社交性」（問 23(1)～(3))、「抑うつ」（問 23(4)～(6))、「孤独感」（問 26(1)～(3))、「公的自意識」（問 26(5)～(7)、(9)）の4つ心理特性に関する質問を設けた。各特性は、先行研究より抜粋した3～4の質問項目で構成されており、それぞれの項目について「あてはまる」～「あてはまらない」の4件法で回答を求めている。分析に際しては、4つの心理特性に関して、各項目への回答を単純加算し（「あてはまる」4点～「あてはまらない」1点）、項目数で除して算出したスケール（尺度）を使用した。各心理特性の項目と出典は下記のとおりである。

・ 社交性 ※A.H.バス（1991）より

人と一緒にいるのが好きだ
人とのつき合いは自分にとっていつも刺激的だ
人づき合いの機会があれば、よろこんで参加する。

・ 抑うつ ※Zung, W. W. K. (1965)（邦訳は福田・小林(1983)を参考に一部改訂）より

今の生活は充実している（逆転項目）
気分が沈んで憂うつになることがよくある
夜よく眠れない

・ 孤独感 ※改訂版 UCLA 孤独感尺度（邦訳は工藤・西川（1983））より

私は自分の周囲の人たちとうまくいっている（逆転項目）
私には頼りにできる人が誰もいない
私は周りの人たちと興味や考え方があわないと思うことがよくある

・ 公的自意識 ※菅原（1984）より

自分が他人にどう思われているのか気になる
自分についての噂に関心がある
人前で何かするとき、自分の仕草や姿が気になる
他人からの評価を考えながら行動する

表 4.1.1 は、「社交性」、「抑うつ」、「孤独感」、「公的自意識」の各得点を性別、学年別、依存傾向別に示したものである。ここでは、得点が高いほど各心理傾向が強いことを意味している。表に示された通り、回答者全体では、4 つの心理特性の中で社交性 (3.15) の得点が最も高く、以下、公的自意識 (2.64)、孤独感 (2.01)、抑うつ (1.96) と続いている。性別では、統計的な有意差がみられたのは抑うつ、孤独感、公的自意識の3つで、抑うつ (男性 1.92、女性 2.00) と公的自意識は (男性 2.61、女性 2.66) は女性の方が、孤独感 (男性 2.05、女性 1.96) は男性の方が得点が高かった。学年別では、統計的な有意差がみられたのは社交性、孤独感、公的自意識の3つで、社交性と孤独感は3年生の得点以外の学年より高く、公的自意識は1年生の得点が高い結果となった。依存傾向別では、4 つの心理特性すべてにおいて統計的な有意差がみられ、抑うつ、孤独感、公的自意識において依存傾向者は非依存傾向者よりも得点が高く、特に抑うつに関しては非依存傾向者との得点差 (依存 2.52、非依存 1.92、差 0.60) が著しかった。また、社交性のみ、非依存傾向者の方が得点が高い結果となった。つまり、ネット依存傾向者は精神的に不健康な傾向がみられ、また、他者の評価を意識し、社交性が低い傾向もあることが示された。

表 4.1.1 心理特性

| | 社交性 | | | 抑うつ | | | 孤独感 | | | 公的自意識 | | |
|--------|------|-------|-------|------|-----|-------|------|-------|-------|-------|-----|-------|
| | 得点 | 検定 | N | 得点 | 検定 | N | 得点 | 検定 | N | 得点 | 検定 | N |
| 全体 | 3.15 | | 10235 | 1.96 | | 10210 | 2.01 | | 10161 | 2.64 | | 10125 |
| 男性 | 3.16 | † | 5076 | 1.92 | *** | 5052 | 2.05 | *** | 5052 | 2.61 | *** | 5034 |
| 女性 | 3.15 | | 4979 | 2.00 | | 4985 | 1.96 | | 4969 | 2.66 | | 4954 |
| 1年生 | 3.14 | a | 3447 | 1.94 | a | 3433 | 1.98 | a | 3412 | 2.66 | b | 3397 |
| 2年生 | 3.11 | a *** | 3514 | 1.98 | a † | 3517 | 2.01 | ab ** | 3499 | 2.61 | a * | 3492 |
| 3年生 | 3.22 | b | 3274 | 1.97 | a | 3260 | 2.04 | b | 3250 | 2.64 | ab | 3236 |
| 依存傾向者 | 2.95 | *** | 521 | 2.52 | *** | 523 | 2.34 | *** | 520 | 2.93 | *** | 516 |
| 非依存傾向者 | 3.16 | | 8711 | 1.92 | | 8687 | 1.99 | | 8661 | 2.62 | | 8636 |

※分析母数は有効回答数全体 *** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05, †<0.10

※abの記号は Tukey の多重範囲検定の結果同記号間において 5%水準で有意差がないことを示す

表 4.1.2 は、心理特性を構成する項目について、依存傾向別に得点を比較したものである。表 4.1.1 において依存／非依存傾向間で最も得点差が見られた「抑うつ」に注目すると、「夜よく眠れない」(依存 2.64、非依存 1.83、差 0.81)、「気分が沈んで憂鬱になることがよくある」(依存 2.98、非依存 2.27、差 0.71) の依存傾向者の得点が非依存傾向者と比べて顕著に高いことがわかる。ネット依存傾向と日常生活、健康面への負の影響との関連が示唆される。

表 4.1.2 心理特性の各項目得点（ネット依存傾向別）

| 心理尺度 | 項目 | 得点 | | t検定 | N |
|-------|--------------------------------|-------|------|-----|------|
| 社交性 | 人と一緒にいるのが好きだ | 依存傾向 | 3.09 | *** | 526 |
| | | 非依存傾向 | 3.44 | | 8793 |
| | 人とのつき合いは自分にとっていつも刺激的だ | 依存傾向 | 2.95 | † | 523 |
| | | 非依存傾向 | 3.02 | | 8742 |
| | 人づきあいの機会があれば、よろこんで参加する | 依存傾向 | 2.80 | *** | 523 |
| | | 非依存傾向 | 3.04 | | 8756 |
| 抑うつ | 今の生活は充実している(逆転項目) | 依存傾向 | 3.05 | *** | 525 |
| | | 非依存傾向 | 3.33 | | 8730 |
| | 気分が沈んで憂鬱になることがよくある | 依存傾向 | 2.98 | *** | 525 |
| | | 非依存傾向 | 2.27 | | 8730 |
| | 夜よく眠れない | 依存傾向 | 2.64 | *** | 525 |
| | | 非依存傾向 | 1.83 | | 8764 |
| 孤独感 | 私は周りの人たちとうまくいっている(逆転項目) | 依存傾向 | 2.84 | *** | 523 |
| | | 非依存傾向 | 3.14 | | 8715 |
| | 私には頼りにできる人が誰もいない | 依存傾向 | 2.01 | *** | 522 |
| | | 非依存傾向 | 1.66 | | 8715 |
| | 私は周りの人たちと興味や考え方があわないと思うことがよくある | 依存傾向 | 2.85 | *** | 523 |
| | | 非依存傾向 | 2.45 | | 8693 |
| 公的自意識 | 自分が他人にどう思われているのか気になる | 依存傾向 | 3.10 | *** | 522 |
| | | 非依存傾向 | 2.83 | | 8703 |
| | 自分についての噂に関心がある | 依存傾向 | 2.84 | *** | 522 |
| | | 非依存傾向 | 2.50 | | 8703 |
| | 人前で何かをするとき、自分の仕草や姿が気になる | 依存傾向 | 2.98 | *** | 522 |
| | | 非依存傾向 | 2.65 | | 8703 |
| | 他人からの評価を考えながら行動する | 依存傾向 | 2.79 | *** | 520 |
| | | 非依存傾向 | 2.49 | | 8704 |

※分析母数は有効回答数全体 *** p<0.001, †<0.10

表 4.1.3 ネット依存傾向者の心理特性

| | 社交性 | | | 抑うつ | | | 孤独感 | | | 公的自意識 | | | |
|-----|------|------|-----|------|------|-----|------|------|-----|-------|----|-----|-----|
| | 得点 | 検定 | N | 得点 | 検定 | N | 得点 | 検定 | N | 得点 | 検定 | N | |
| 男性 | 2.98 | n.s. | 227 | 2.46 | † | 227 | 2.34 | n.s. | 230 | 2.81 | ** | 226 | |
| 女性 | 2.92 | | 285 | 2.58 | | 287 | 2.33 | | 282 | 3.03 | | 282 | |
| 1年生 | 2.91 | n.s. | 196 | 2.53 | n.s. | 197 | 2.29 | n.s. | 195 | 3.03 | a | 191 | |
| 2年生 | 2.94 | | 172 | 2.54 | | 173 | 2.34 | | 173 | 2.73 | b | ** | 174 |
| 3年生 | 3.00 | | 153 | 2.48 | | 153 | 2.40 | | 152 | 3.04 | a | 151 | |

※分析母数はネット依存傾向者 ** p<0.01, †<0.10, n.s. 有意差なし

※abの記号はTukeyの多重範囲検定の結果同記号間において5%水準で有意差がないことを示す

次に、ネット依存傾向者の心理特性を性別・学年別にまとめた（表 4.1.3）。表に示されたとおり、社交性、抑うつ、孤独感については、性別・学年別共に統計的な有意差はみら

れなかった。公的自意識については、性別では女性、学年別では1年生と3年生において、統計的に有意に公的自意識の得点が高かった。すなわち、女性と1年生、3年生において、他者の目・評価を意識する傾向が強いことが示された。

4.2 対人関係・生活満足度

調査では、友人・保護者との関係や学校生活に対する満足度をたずね、それぞれについて「満足」～「不満」の4件法で回答を求めた(問22)。分析に際しては、各回答を「満足」4点～「不満」1点で得点化し、その平均値を使用した。

表4.2.1は、各満足度得点を性別、学年別、依存傾向別に示したものである。全体の得点では、友人満足度(3.53)、保護者満足度(3.37)、学校生活満足度(3.28)の順に評価が高かった。いずれも4点満点の8割以上の得点となっており、満足度は高い傾向にあると考えられる。性別では、友人満足度と学生生活満足度は男性の方が得点が高く、保護者満足度は女性の方が得点が高かった。学年別では、3年生が友人、保護者、学校生活の全ての満足度において他の学年よりも得点が高く、満足度合いが高い傾向がみられた。依存傾向別でみると、友人、保護者、学校生活の全てにおいて依存傾向者は非依存傾向者よりも満足度が低い結果となった。特に、保護者満足度(依存2.85、非依存3.41、差0.56)と学校生活満足度(依存2.80、非依存3.32、差0.52)において依存傾向者の得点は低く、非依存傾向者との得点差が大きい。以上から、ネット依存傾向者の対人関係や学校生活が充実していない様子がうかがえる。

表 4.2.1 対人関係・生活満足度

| | 友人満足度 | | | 保護者満足度 | | | 学校生活満足度 | | |
|--------|-------|-------|-------|--------|------|-------|---------|-------|-------|
| | 得点 | 検定 | N | 得点 | 検定 | N | 得点 | 検定 | N |
| 全体 | 3.53 | | 10319 | 3.37 | | 10304 | 3.28 | | 10301 |
| 男性 | 3.57 | *** | 5107 | 3.34 | *** | 5096 | 3.31 | ** | 5093 |
| 女性 | 3.49 | | 5022 | 3.40 | | 5018 | 3.26 | | 5017 |
| 1年生 | 3.50 | a | 3473 | 3.35 | a | 3464 | 3.24 | a | 3465 |
| 2年生 | 3.51 | a *** | 3543 | 3.35 | a ** | 3540 | 3.25 | a *** | 3538 |
| 3年生 | 3.58 | b | 3303 | 3.41 | b | 3300 | 3.38 | b | 3298 |
| 依存傾向者 | 3.26 | *** | 524 | 2.85 | *** | 524 | 2.80 | *** | 524 |
| 非依存傾向者 | 3.54 | | 8781 | 3.41 | | 8766 | 3.32 | | 8761 |

※分析母数は有効回答数全体 *** p<0.001, ** p<0.01

※abの記号はTukeyの多重範囲検定の結果同記号間において5%水準で有意差がないことを示す

次に、ネット依存傾向者の対人関係・生活満足度について、性別・学年別にまとめた(表4.2.2)。表に示されたとおり、友人満足度と保護者満足度においては統計的な有意差はみ

られなかった。学校生活満足に関しては統計的な有意差がみられ、1年生が2.66、2年生が2.76、3年生が3.02というように、**学年が低いほど学校生活満足度も低いことが明らかになった。**

表 4.2.2 ネット依存傾向者の対人関係・生活満足度

| | 友人満足度 | | | 保護者満足度 | | | 学校生活満足度 | | |
|-----|-------|------|-----|--------|------|-----|---------|-------|-----|
| | 得点 | 検定 | N | 得点 | 検定 | N | 得点 | 検定 | N |
| 男性 | 3.33 | n.s. | 228 | 2.83 | n.s. | 228 | 2.87 | n.s. | 228 |
| 女性 | 3.21 | | 287 | 2.86 | | 287 | 2.75 | | 287 |
| 1年生 | 3.24 | n.s. | 197 | 2.77 | n.s. | 196 | 2.66 | a | 196 |
| 2年生 | 3.24 | | 173 | 2.82 | | 174 | 2.76 | ab ** | 174 |
| 3年生 | 3.32 | | 154 | 2.99 | | 154 | 3.02 | b | 154 |

※分析母数はネット依存傾向者 ** p<0.01, n. s. 有意差なし

※abの記号はTukeyの多重範囲検定の結果同記号間において5%水準で有意差がないことを示す

4.3 友人関係

調査では、友人関係について詳細に問う項目を設けた（問24）。質問項目には、一部、落合・佐藤（1996）（問24(6)）、杉浦（2000）（問24(8)、(9)）で使用された項目を用いている。調査票では、各項目について、「あてはまる」～「あてはまらない」の4件法で回答を求め、分析に際しては各回答を「あてはまる」4点～「あてはまらない」1点で得点化し、その平均値を使用した。

表4.3.1は、友人関係に関する意識を性別、学年別、依存傾向別に示したものである。全体の得点では、「友だちと一緒にいると楽しい」（3.54）が最も高く、「友だちでもずっと一緒にいたら疲れる」（2.28）が最も低い得点であった。性別で特に得点に差が生じたのは、「友だちなどからいろいろと相談されることが多い」（男性2.37、女性2.89、差0.52）、「友だちによく悩み事を相談する」（男性2.18、女性2.66、差0.48）であった。すなわち、女性は友人と互いに相談しあう傾向がある一方で、男性はそういった関係性ではない傾向が強いことが示唆される。学年別では、充実した友人関係を示す項目（「友だちの数は多い方だ」、「友だちと一緒にいると楽しい」）と、友人関係への気遣いを示す項目（「どんな時でも相手の機嫌を損ねたくない」、「できるだけ敵は作りたくない」）の双方において、統計的に有為に1年生の得点が高かった。1年生においては、友好関係の維持・構築に気を使いながら、多くの友人と交流している様子がうかがえる。依存傾向別では、「友だちでもずっと一緒にいたら疲れる」（依存2.75、非依存2.25、差0.50）で**依存／非依存間の得点差が最も大きく**、充実した友人関係を示す「友だちの数は多い方だ」（依存2.77、非依存2.98）や「不満なことがあった場合に聞いてくれる人がいる」（依存2.95、非依存3.19）の得点

は依存傾向の方が低かった。また、友人関係への気遣いを示す「どんな時でも相手の機嫌を損ねたくない」（依存 2.99、非依存 2.80）の得点は依存傾向の方が高かった。つまり、依存傾向者は、友人関係において負担や気遣いを感じており、満ち足りていない傾向があると推測できる。

表 4.3.1 友人関係

| | 友だちの数は多い方だ | | | 友だちでもずっと一緒にいたら 疲れる | | | 友だちによく悩み事を相談する | | | 男女にかかわらず友だちにな れる | | |
|--------|----------------------------------|-------|-------|-------------------------|-------|-------|----------------------------|-------|-------|------------------------|-------|-------|
| | 得点 | 検定 | N | 得点 | 検定 | N | 得点 | 検定 | N | 得点 | 検定 | N |
| 全体 | 2.97 | | 10288 | 2.28 | | 10300 | 2.42 | | 10250 | 2.88 | | 10263 |
| 男性 | 3.00 | *** | 5108 | 2.25 | ** | 5106 | 2.18 | *** | 5079 | 2.86 | * | 5084 |
| 女性 | 2.93 | | 5007 | 2.31 | | 5022 | 2.66 | | 5000 | 2.90 | | 5007 |
| 1年生 | 3.07 | a | 3469 | 2.19 | a | 3474 | 2.41 | n.s. | 3449 | 2.91 | a | 3458 |
| 2年生 | 2.95 | b *** | 3536 | 2.29 | b *** | 3541 | 2.41 | | 3521 | 2.86 | ab * | 3528 |
| 3年生 | 2.88 | c | 3283 | 2.37 | c | 3285 | 2.44 | | 3280 | 2.85 | b | 3277 |
| 依存傾向者 | 2.77 | *** | 523 | 2.75 | *** | 520 | 2.47 | n.s. | 520 | 2.89 | n.s. | 519 |
| 非依存傾向者 | 2.98 | | 8756 | 2.25 | | 8763 | 2.41 | | 8718 | 2.87 | | 8735 |
| | 友だちと分かりあおうとして、少 しくらい傷ついても構わない | | | どんな友だちとも仲良しいた い | | | 友だちと一緒にいると楽しい | | | どんな時でも相手の機嫌を損 ねたくない | | |
| | 得点 | 検定 | N | 得点 | 検定 | N | 得点 | 検定 | N | 得点 | 検定 | N |
| 全体 | 2.56 | | 10280 | 2.88 | | 10283 | 3.54 | | 10261 | 2.82 | | 10273 |
| 男性 | 2.56 | n.s. | 5095 | 2.91 | ** | 5097 | 3.52 | *** | 5090 | 2.88 | *** | 5099 |
| 女性 | 2.56 | | 5018 | 2.85 | | 5017 | 3.58 | | 5002 | 2.76 | | 5010 |
| 1年生 | 2.58 | n.s. | 3468 | 2.93 | a | 3462 | 3.58 | a | 3456 | 2.87 | a | 3460 |
| 2年生 | 2.55 | | 3537 | 2.86 | b *** | 3539 | 3.53 | b *** | 3525 | 2.80 | b *** | 3529 |
| 3年生 | 2.57 | | 3275 | 2.84 | b | 3282 | 3.52 | b | 3280 | 2.78 | b | 3284 |
| 依存傾向者 | 2.67 | * | 521 | 2.69 | *** | 520 | 3.33 | *** | 521 | 2.99 | *** | 521 |
| 非依存傾向者 | 2.55 | | 8750 | 2.89 | | 8750 | 3.56 | | 8730 | 2.80 | | 8741 |
| | できるだけ敵は作りたくない | | | 不満があった場合に聞 いてくれる人がいる | | | 友だちなどからいろいろと相談 されることが多い | | | | | |
| | 得点 | 検定 | N | 得点 | 検定 | N | 得点 | 検定 | N | | | |
| 全体 | 3.17 | | 10293 | 3.17 | | 10219 | 2.63 | | 10219 | | | |
| 男性 | 3.19 | * | 5107 | 3.00 | *** | 5071 | 2.37 | *** | 5083 | | | |
| 女性 | 3.15 | | 5023 | 3.34 | | 5011 | 2.89 | | 4995 | | | |
| 1年生 | 3.24 | a | 3469 | 3.18 | n.s. | 3443 | 2.61 | n.s. | 3440 | | | |
| 2年生 | 3.15 | b *** | 3539 | 3.17 | | 3516 | 2.63 | | 3517 | | | |
| 3年生 | 3.11 | b | 3285 | 3.16 | | 3260 | 2.65 | | 3262 | | | |
| 依存傾向者 | 3.33 | *** | 522 | 2.95 | *** | 522 | 2.73 | * | 523 | | | |
| 非依存傾向者 | 3.16 | | 8759 | 3.19 | | 8701 | 2.63 | | 8702 | | | |

※分析母数は有効回答数全体 *** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05, n.s. 有意差なし

※abcの記号はTukeyの多重範囲検定の結果同記号間において5%水準で有意差がないことを示す

4.4 保護者との関係

本調査では、中学生と保護者との関係についても詳細にたずねた（問 25）。ここでは、自分が保護者からどのように評価されていると感じているか、また、自分が保護者をどのように評価しているか、の両側面について質問項目を設けている。各項目に関して、「あて

はまる」～「あてはまらない」の4件法で回答を求め、分析に際しては、各回答を「あてはまる」4点～「あてはまらない」1点で得点化し、その平均値を使用した。

表 4.4.1 保護者との関係

| | 普段からあなたの気持ちをよく理解してくれる | | | 日ごろからあなたの実力を評価し、認めてくれる | | | あなたを信頼している | | | あなたが落ち込んでいると、元気づけてくれる | | |
|--------|-----------------------|-------|-------|------------------------|-------|-------|------------|------|-------|-----------------------|-----|-------|
| | 得点 | 検定 | N | 得点 | 検定 | N | 得点 | 検定 | N | 得点 | 検定 | N |
| 全体 | 3.01 | | 10283 | 2.84 | | 10279 | 3.07 | | 10256 | 2.96 | | 10274 |
| 男性 | 3.00 | † | 5100 | 2.78 | *** | 5098 | 3.00 | *** | 5094 | 2.88 | *** | 5099 |
| 女性 | 3.03 | | 5022 | 2.90 | | 5021 | 3.14 | | 5005 | 3.06 | | 5016 |
| 1年生 | 3.02 | n.s. | 3469 | 2.80 | a *** | 3463 | 3.06 | n.s. | 3455 | 2.95 | ab | 3460 |
| 2年生 | 2.99 | | 3530 | 2.81 | | 3533 | 3.05 | | 3527 | 2.94 | | 3531 |
| 3年生 | 3.01 | | 3284 | 2.91 | | 3283 | 3.09 | | 3274 | 3.00 | | 3283 |
| 依存傾向者 | 2.61 | *** | 522 | 2.47 | *** | 523 | 2.71 | *** | 519 | 2.69 | *** | 521 |
| 非依存傾向者 | 3.04 | | 8747 | 2.87 | | 8747 | 3.10 | | 8732 | 2.99 | | 8743 |
| | どんなに困ったことでも助けてくれる | | | 相談しやすい | | | 一緒にいて楽しい | | | しつげに厳しい | | |
| 全体 | 3.03 | | 10269 | 2.75 | | 10272 | 3.05 | | 10254 | 2.65 | | 10249 |
| 男性 | 2.96 | *** | 5103 | 2.69 | *** | 5098 | 2.88 | *** | 5086 | 2.68 | * | 5083 |
| 女性 | 3.10 | | 5011 | 2.82 | | 5017 | 3.22 | | 5012 | 2.63 | | 5008 |
| 1年生 | 3.03 | n.s. | 3462 | 2.76 | n.s. | 3462 | 3.09 | a | 3452 | 2.72 | a | 3458 |
| 2年生 | 3.02 | | 3528 | 2.73 | | 3531 | 3.02 | | 3528 | 2.65 | | 3523 |
| 3年生 | 3.03 | | 3279 | 2.77 | | 3279 | 3.04 | | 3274 | 2.58 | | 3268 |
| 依存傾向者 | 2.77 | *** | 522 | 2.37 | *** | 520 | 2.72 | *** | 521 | 2.79 | ** | 518 |
| 非依存傾向者 | 3.05 | | 8738 | 2.78 | | 8741 | 3.08 | | 8730 | 2.64 | | 8726 |
| | あなたに干渉しすぎる | | | あなたに関心がない | | | あなたを嫌っている | | | | | |
| 全体 | 2.19 | | 10122 | 1.75 | | 10240 | 1.53 | | 10221 | | | |
| 男性 | 2.27 | *** | 5041 | 1.84 | *** | 5091 | 1.62 | *** | 5077 | | | |
| 女性 | 2.11 | | 4930 | 1.64 | | 4994 | 1.43 | | 4990 | | | |
| 1年生 | 2.17 | a *** | 3387 | 1.73 | n.s. | 3450 | 1.49 | a | 3441 | | | |
| 2年生 | 2.17 | | 3481 | 1.74 | | 3517 | 1.54 | | 3518 | | | |
| 3年生 | 2.23 | | 3254 | 1.77 | | 3273 | 1.58 | | 3262 | | | |
| 依存傾向者 | 2.53 | *** | 513 | 2.05 | *** | 521 | 1.82 | *** | 519 | | | |
| 非依存傾向者 | 2.16 | | 8628 | 1.71 | | 8709 | 1.50 | | 8699 | | | |

※分析母数は有効回答数全体 *** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05, †<0.10, n.s. 有意差なし

※abcの記号はTukeyの多重範囲検定の結果同記号間において5%水準で有意差がないことを示す

表 4.4.1 は、保護者との関係に関する意識について、性別、学年別、依存傾向別に示したものである。全体の得点では、「あなたを信頼している」(3.07)、「普段からあなたの気持ちをよく理解してくれる」(3.01)といった保護者からのポジティブな評価を認識している項目や、「一緒にいて楽しい」(3.05)といった保護者に対するポジティブな評価に関する項目の得点が高い傾向がみられた。性別では、保護者からのポジティブな評価(問 25(2)、(3))や保護者に対するポジティブな評価(問 25(4)～(7))に関する項目は概ね女性の方

が得点が高く、保護者に対するネガティブな評価（問 25(8)～(11)）に関する項目は男性の方が得点が高かった。すなわち、女性の方が保護者との関係が良好であると推測できる。学年別では、11 項目中 6 項目で統計的な有意差が確認できたが、項目内容と学年との関係に一貫した傾向はみられなかった。依存傾向別では、保護者からのポジティブな評価（問 25(1)～(3)）や保護者に対するポジティブな評価（問 25(4)～(7)）に関する項目については全て依存傾向者は非依存傾向者よりも得点が低く、保護者に対するネガティブな評価（問 25(8)～(11)）に関する項目はすべて依存傾向者は非依存傾向者よりも得点が高かった。この結果から、依存傾向者は保護者との間に良好な関係性を築けていない傾向にあることが示唆される。

4.5 保護者との約束

調査では、スマートフォン／ガラケーの利用にあたっての保護者との約束事項について確認した（問 18）。調査票では、各項目に関して、約束の有無を複数回答可で回答を求めている。

表 4.5.1 保護者との約束

















| | 「何時以降は利用しない」など利用してよい時間帯を制限している | | | 「何時間以上利用しない」など利用時間の上限を決めている | | | 自分の部屋や寝室ではスマートフォンやガラケーを使わない | | | 食事中はスマートフォンやガラケーを使わない | | |
|--------|--------------------------------|------|------|-----------------------------|------|------|-----------------------------|------|------|-----------------------|------|------|
| | 該当率 | 検定 | N | 該当率 | 検定 | N | 該当率 | 検定 | N | 該当率 | 検定 | N |
| 全体 | 21.4% | | 8711 | 9.1% | | 8711 | 15.5% | | 8711 | 60.0% | | 8711 |
| 男性 | 19.4% | | 4023 | 10.3% | | 4023 | 14.8% | † | 4023 | 54.3% | | 4023 |
| 女性 | 23.2% | *** | 4450 | 7.9% | *** | 4450 | 16.2% | | 4450 | 65.3% | *** | 4450 |
| 1年生 | 29.8% | | 2775 | 14.0% | | 2775 | 20.1% | | 2775 | 65.9% | | 2775 |
| 2年生 | 21.7% | *** | 3057 | 7.9% | *** | 3057 | 15.6% | *** | 3057 | 62.0% | *** | 3057 |
| 3年生 | 12.9% | | 2879 | 5.5% | | 2879 | 10.9% | | 2879 | 52.2% | | 2879 |
| 依存傾向者 | 20.4% | | 465 | 6.9% | | 465 | 11.8% | * | 465 | 55.5% | * | 465 |
| 非依存傾向者 | 21.3% | n.s. | 7405 | 9.1% | n.s. | 7405 | 15.8% | | 7405 | 60.4% | * | 7405 |
| | 利用料金の上限を決めている | | | 成績が下がったら利用を制限する | | | その他 | | | 約束していることはない | | |
| | 該当率 | 検定 | N | 該当率 | 検定 | N | 該当率 | 検定 | N | 該当率 | 検定 | N |
| 全体 | 16.2% | | 8711 | 15.7% | | 8711 | 6.5% | | 8711 | 26.5% | | 8711 |
| 男性 | 14.3% | | 4023 | 16.6% | * | 4023 | 5.1% | | 4023 | 30.5% | | 4023 |
| 女性 | 17.7% | *** | 4450 | 15.0% | | 4450 | 7.8% | *** | 4450 | 22.8% | *** | 4450 |
| 1年生 | 18.1% | | 2775 | 22.2% | | 2775 | 8.4% | | 2775 | 19.5% | | 2775 |
| 2年生 | 15.2% | ** | 3057 | 16.0% | *** | 3057 | 6.8% | *** | 3057 | 25.5% | *** | 3057 |
| 3年生 | 15.5% | | 2879 | 9.2% | | 2879 | 4.5% | | 2879 | 34.4% | | 2879 |
| 依存傾向者 | 18.3% | | 465 | 20.4% | ** | 465 | 7.7% | n.s. | 465 | 29.5% | | 465 |
| 非依存傾向者 | 16.1% | n.s. | 7405 | 15.4% | ** | 7405 | 6.4% | n.s. | 7405 | 26.6% | n.s. | 7405 |

※分析母数はスマートフォン／ガラケー利用者

*** p<0.001, ** p<0.01, * p<0.05, †<0.10, n.s. 有意差なし

表 4.5.1 は、保護者との約束について、各項目への該当率を性別、学年別、依存傾向別に示したものである。表に示された通り、全体の該当率では「**食事中はスマートフォンやガラケーを使わない**」(60.0%)が**顕著に高く、6割**であった。一方で、「**約束していることはない**」(26.5%)も**3割弱**みられた。性別では、一項目を除いて統計的な有意差が確認され、「食事中はスマートフォンやガラケーを使わない」(男性 54.3%、女性 65.3%)は女性の該当率が顕著に高く、「約束していることはない」(男性 30.5%、女性 22.8%)は男性の該当率が顕著に高かった。学年別では、全ての項目で統計的な有意差がみられ、「約束していることはない」のみ学年が高いほど該当率が高く、他の項目については概ね学年が低いほど該当率が高い結果となった(「利用料金の上限を決めている」のみ1年生>3年生>2年生)。依存傾向別でみると、統計的な有意差がみられた3項目の中では、「成績が下がったら利用を制限する」(依存傾向 20.4%、非依存傾向 15.4%)のみ依存傾向の方が該当率が高く、他の2項目である「自分の部屋や寝室ではスマートフォンやガラケーを使わない」(依存傾向 11.8%、非依存傾向 15.8%)、「食事中はスマートフォンやガラケーを使わない」(依存傾向 55.5%、非依存傾向 60.4%)では非依存傾向の方が該当率が高かった。

表 4.5.2 保護者との約束とネット依存傾向

| 保護者との約束 | 依存傾向者率 | χ^2 検定 | N |
|--------------------------------|--|-------------|------|
| 「何時以降は利用しない」など利用してよい時間帯を制限している | 非該当  6.0% | n.s. | 6201 |
| | 該当  5.7% | | |
| 「何時間以上利用しない」など利用時間の上限を決めている | 非該当  6.0% | n.s. | 7166 |
| | 該当  4.5% | | |
| 自分の部屋や寝室ではスマートフォンやガラケーを使わない | 非該当  6.2% | * | 6646 |
| | 該当  4.5% | | |
| 食事中はスマートフォンやガラケーを使わない | 非該当  6.6% | * | 3141 |
| | 該当  5.5% | | |
| 利用料金の上限を決めている | 非該当  5.8% | n.s. | 6596 |
| | 該当  6.7% | | |
| 成績が下がったら利用を制限する | 非該当  5.6% | ** | 6634 |
| | 該当  7.7% | | |
| その他 | 非該当  5.8% | n.s. | 7360 |
| | 該当  7.1% | | |
| 約束していることはない | 非該当  5.7% | n.s. | 5765 |
| | 該当  6.5% | | |

※分析母数はスマートフォン／ガラケー利用者 ** p<0.01, * p<0.05, n.s. 有意差なし

ネット依存傾向と保護者との約束との関連を検討するため、各項目の依存傾向者率を確

認した（表 4.5.2）。表に示された通り、統計的な有意差がみられたのは 3 項目で、「成績が下がったら利用を制限する」該当群において依存傾向者率が 7.7%と高かった。有意差がみられた他の 2 項目（「自分の部屋や寝室ではスマートフォンやガラケーを使わない」、「食事中はスマートフォンやガラケーを使わない」）については、依存傾向者は非該当群に多い、つまり約束していない割合が高かった。したがって、「成績が下がったら利用を制限する」という約束事とネット依存傾向との間に関連があることが推測される。

<参考文献>

- Buss, A. H. (1986) *Social Behavior and Personality*, Lawrence Erlbaum Assoc Inc. (A. H. バス著・大淵憲一監訳『対人行動とパーソナリティ』, 北大路書房, 1991)
- 福田一彦・小林重雄(1983)『日本版自己評価式抑うつ性尺度(SDS)使用手引き』, 三京書房.
- 工藤力・西川正之(1983)「孤独感に関する研究(I)—孤独感尺度の信頼性・妥当性の検討一」, 『実験社会心理学研究』Vol. 22(2), 99-108.
- 落合良行・佐藤有耕(1996)「青年期における友達とのつきあい方の発達的变化」, 『教育心理学研究』, 44(1), 55-65.
- 菅原健介(1984)「自意識尺度(self-consciousness scale)日本語版作成の試み」, 『心理学研究』, 55(3), 184-188.
- 杉浦健(2000)「2つの親和動機と対人的疎外感との関係:その発達的变化」, 『教育心理学研究』, 48(3), 352-360.
- Zung, W. W. K. (1965) A Self-rating Depression Scale. *Archives of General Psychiatry*, 12(1), 63-70.

5. ネット依存に関わる要因の多変量解析

この章では様々な説明変数群ごとに、依存得点および依存傾向者／非依存傾向者との関連を、重回帰分析およびロジスティック回帰分析によって明らかにする。

なお、依存傾向測定尺度（問 4(1)～(12)、問 14(1)～(8)）のうち、1問でも回答がない場合、依存度および依存傾向の有無の計算において欠損値として処理している。また、多変量解析において、説明変数のいずれかにおいて欠損値が生じている場合は、その調査対象者を分析から除外しているため、それぞれの分析において分析対象者(N)は最大 9475 人、実際にはそれをさらに下回る数値になっている。

この章では、すべての多変量解析結果において、単に変数間の相関量の大小を示したに過ぎず、どの要因が最も大きな影響因である、というような**因果の推定はできない**ということに注意すべきである。

5.1 情報機器利用時間と依存

表 5.1.1-5.1.2 は情報機器（パソコン、スマートフォン、ガラケー、タブレット端末）の平日 1 日の平均利用時間（非利用者は 0 として計算）を説明変数とし、「依存度」を目的変数とした重回帰分析結果（表 5.1.1）および「依存傾向者／非傾向者」を目的変数としたロジスティック回帰分析の結果（表 5.1.2）を示したものである。

いずれの分析においても**性、学年を統制変数として説明変数群に加えている**（以下、本章における多変量解析ではすべて同様）。

分析対象者数が多いため、多くの変数が t 検定結果で危険率 0.1%未満の水準で有意になるため、本章では「標準化回帰係数」大小により関連の大きさを比較する。

表 5.1.1 に示される通り、**依存度に最も大きな関連を持つのは「スマートフォン」の利用時間**である。このことは、表 5.1.2 でも同様に該当し、依存傾向者の該当／非該当に最も大きく関わるのはスマートフォンの利用時間である。

表 5.1.1 情報機器の利用時間と依存度の重回帰分析

| 変数 | 回帰係数 | t 値 | Pr > t | 標準化回帰係数 | VIF |
|------------|--------|-------|---------|--------------|---------|
| 切片 | 38.691 | 84.21 | <.0001 | 0.000 | 0 |
| 性(男:1,女:0) | -2.055 | -6.47 | <.0001 | -0.066 | 1.01456 |
| 学年 | -0.976 | -4.92 | <.0001 | -0.051 | 1.02698 |
| パソコン | 0.039 | 18.78 | <.0001 | 0.195 | 1.05153 |
| スマートフォン | 0.038 | 35.40 | <.0001 | 0.365 | 1.03236 |
| ガラケー | -0.004 | -1.21 | 0.2246 | -0.013 | 1.06398 |
| タブレット | 0.031 | 15.53 | <.0001 | 0.160 | 1.03392 |

N=7677 F値:340.9 <0.0001 調整済R二乗:0.2099

表 5.1.2 情報機器の利用時間と依存傾向者の該当／非該当のロジスティック回帰分析

| 変数 | 回帰係数 | Wald | Pr > ChiSq | 標準化回帰係数 | オッズ比 |
|------------|--------|--------|------------|---------|-------|
| | | カイ 2 乗 | | | |
| 切片 | -2.983 | 433.61 | <.0001 | | |
| 性(男:1,女:0) | -0.134 | 1.63 | 0.2017 | -0.037 | 0.875 |
| 学年 | -0.336 | 26.54 | <.0001 | -0.149 | 0.715 |
| パソコン | 0.005 | 95.02 | <.0001 | 0.192 | 1.005 |
| スマートフォン | 0.004 | 224.40 | <.0001 | 0.305 | 1.004 |
| ガラケー | -0.001 | 0.27 | 0.6028 | -0.013 | 1 |
| タブレット | 0.002 | 17.89 | <.0001 | 0.092 | 1.002 |

N=7677 Wald χ^2 乗値: 347.2 <0.0001

5.2 諸サービスの利用時間と依存

表 5.2.1-5.2.2 はネットでの諸サービス（動画サイトを見る、ソーシャルメディアを見る等）の平日 1 日の平均利用時間（非利用者は 0 として計算）を説明変数とし、「依存度」を目的変数とした重回帰分析結果（表 5.2.1）および「依存傾向者／非傾向者」を目的変数としたロジスティック回帰分析の結果（表 5.2.2）を示したものである。質問ではパソコンないしタブレット端末の利用とモバイル（スマートフォンないしガラケー）での利用に分けて時間を聞いており、分析では、説明変数として同時に投入している（【PC】と書かれた欄以下の 7 項目が PC／タブレットでの利用、【モバイル】と書かれた欄以下の 7 項目がスマートフォン／ガラケーでの利用）。

表 5.2.1 諸サービスの利用時間と依存度の重回帰分析

| 変数 | 回帰係数 | t 値 | Pr > t | 標準化回帰係数 | VIF |
|---------------|--------|-------|---------|---------|---------|
| 切片 | 37.562 | 74.44 | <.0001 | 0.000 | 0 |
| 性(男:1,女:0) | -2.836 | -7.77 | <.0001 | -0.091 | 1.11249 |
| 学年 | -0.146 | -0.67 | 0.5053 | -0.008 | 1.023 |
| 【PC】 動画サイト | 0.032 | 10.74 | <.0001 | 0.140 | 1.36729 |
| ソーシャルメディアを見る | 0.051 | 7.65 | <.0001 | 0.137 | 2.57315 |
| ソーシャルメディア書き込み | -0.012 | -1.52 | 0.1276 | -0.027 | 2.54599 |
| ソーシャルメディア通話 | -0.012 | -1.55 | 0.1214 | -0.020 | 1.3323 |
| ゲーム | 0.018 | 5.58 | <.0001 | 0.075 | 1.45447 |
| ニュースサイト | -0.031 | -2.83 | 0.0046 | -0.037 | 1.36382 |
| ブログを見る | 0.004 | 0.31 | 0.7545 | 0.004 | 1.27331 |
| 【モバイル】 動画サイト | 0.044 | 13.92 | <.0001 | 0.178 | 1.3193 |
| ソーシャルメディアを見る | 0.025 | 8.81 | <.0001 | 0.149 | 2.30408 |
| ソーシャルメディア書き込み | 0.010 | 2.71 | 0.0067 | 0.045 | 2.21181 |
| ソーシャルメディア通話 | 0.025 | 4.41 | <.0001 | 0.056 | 1.30865 |
| ゲーム | 0.020 | 7.35 | <.0001 | 0.098 | 1.4167 |
| ニュースサイト | 0.004 | 0.39 | 0.6956 | 0.005 | 1.3008 |
| ブログを見る | 0.009 | 1.20 | 0.2319 | 0.015 | 1.25001 |

N=6337 F値:107.4 <0.0001 調整済R²乗:0.2118

表 5.2.1 に示される通り、依存度に最も大きな関連を持つのは「モバイルによる動画サ

イトの閲覧」の利用時間であり、次いで「モバイルによるソーシャルメディアの閲覧」である。このことは、表 5.2.2 でも同様に該当し、依存傾向者の該当／非該当に最も大きく関わるのはモバイルによる動画サイトの閲覧の利用時間である。PC による動画サイトの閲覧およびソーシャルメディアの閲覧も依存との関係が深い。

表 5.2.2 諸サービスの利用時間と依存傾向者の該当／非該当のロジスティック回帰分析

| 変数 | 回帰係数 | Wald | Pr > ChiSq | 標準化回帰係数 | オッズ比 |
|---------------|--------|--------|------------|---------|-------|
| | | カイ 2 乗 | | | |
| 切片 | -2.973 | 323.57 | <.0001 | | |
| 性(男:1,女:0) | -0.283 | 4.93 | 0.0264 | | 0.753 |
| 学年 | -0.244 | 10.59 | 0.0011 | | 0.783 |
| 【PC】 動画サイト | 0.003 | 12.71 | 0.0004 | 0.097 | 1.003 |
| ソーシャルメディアを見る | 0.002 | 2.34 | 0.1262 | 0.054 | 1.002 |
| ソーシャルメディア書き込み | 0.002 | 1.34 | 0.2478 | 0.040 | 1.002 |
| ソーシャルメディア通話 | 0.000 | 0.02 | 0.8813 | -0.004 | 1 |
| ゲーム | 0.003 | 11.67 | 0.0006 | 0.089 | 1.003 |
| ニュースサイト | -0.007 | 3.22 | 0.0726 | -0.070 | 0.993 |
| ブログを見る | -0.004 | 1.05 | 0.3053 | -0.035 | 0.996 |
| 【モバイル】 動画サイト | 0.004 | 27.85 | <.0001 | 0.128 | 1.004 |
| ソーシャルメディアを見る | 0.002 | 8.56 | 0.0034 | 0.100 | 1.002 |
| ソーシャルメディア書き込み | 0.001 | 0.73 | 0.3918 | 0.027 | 1.001 |
| ソーシャルメディア通話 | 0.004 | 13.59 | 0.0002 | 0.080 | 1.004 |
| ゲーム | 0.002 | 6.09 | 0.0136 | 0.065 | 1.002 |
| ニュースサイト | 0.000 | 0.02 | 0.8981 | 0.004 | 1 |
| ブログを見る | 0.000 | 0.08 | 0.7831 | -0.006 | 1 |

N=6337 Wald χ^2 二乗値: 246.2 < 0.0001

5.3 ソーシャルメディアの利用時間と依存

表 5.3.1-5.3.2 はソーシャルメディア（LINE、Twitter、FaceBook、mixi、それ以外のソーシャルメディア）の平日 1 日の平均利用時間（非利用者は 0 として計算）を説明変数とし、「依存度」を目的変数とした重回帰分析結果（表 5.3.1）および「依存傾向者／非傾向者」を目的変数としたロジスティック回帰分析の結果（表 5.3.2）を示したものである（この質問では「利用していない」にもチェックをいれていない非回答（欠損値）がかなり多い）。

表 5.3.1 に示される通り、**依存度に最も大きな関連を持つのは Twitter の利用時間**である。表 5.3.2 で、依存傾向者の該当／非該当に最も大きく関わるのは「その他のソーシャルメディア」であるが（利用者は調査対象者全体の 17.8%）、「その他」の具体的なサービスは不明である。それを除けば、やはり Twitter との関連が最も大きい。

表 5.3.1 ソーシャルメディアの利用時間と依存度の重回帰分析

| 変数 | 回帰係数 | t 値 | Pr > t | 標準化回帰係数 | VIF |
|------------|--------|-------|---------|---------|---------|
| 切片 | 46.124 | 82.45 | <.0001 | 0.000 | 0 |
| 性(男:1,女:0) | -1.001 | -2.61 | 0.0091 | -0.033 | 1.04562 |
| 学年 | -1.322 | -5.56 | <.0001 | -0.071 | 1.03758 |
| LINE | 0.015 | 7.95 | <.0001 | 0.112 | 1.26401 |
| Twitter | 0.033 | 11.85 | <.0001 | 0.173 | 1.36521 |
| FaceBook | 0.015 | 1.19 | 0.233 | 0.017 | 1.2336 |
| mixi | 0.021 | 1.66 | 0.097 | 0.023 | 1.17883 |
| その他 | 0.046 | 11.04 | <.0001 | 0.144 | 1.09521 |

N=5739 F値: 96.6 < 0.0001 調整済R二乗: 0.1044

表 5.3.2 ソーシャルメディアの利用時間と依存傾向者の該当／非該当のロジスティック回帰分析

| 変数 | 回帰係数 | Wald | Pr > ChiSq | 標準化回帰係数 | オッズ比 |
|------------|--------|--------|------------|---------|-------|
| | | カイ 2 乗 | | | |
| 切片 | -2.381 | 252.06 | <.0001 | | |
| 性(男:1,女:0) | 0.005 | 0.00 | 0.9661 | 0.001 | 1.005 |
| 学年 | -0.303 | 19.95 | <.0001 | -0.134 | 0.738 |
| LINE | 0.001 | 5.03 | 0.025 | 0.057 | 1.001 |
| Twitter | 0.003 | 41.79 | <.0001 | 0.149 | 1.003 |
| FaceBook | 0.007 | 8.85 | 0.0029 | 0.068 | 1.007 |
| mixi | 0.002 | 0.69 | 0.4046 | 0.018 | 1.002 |
| その他 | 0.006 | 67.95 | <.0001 | 0.167 | 1.006 |

N=5739 Wald χ^2 乗値: 193.6 < 0.0001

5.4 「よくやりとりする相手の人数」と依存

表 5.4.1-5.4.2 は「ソーシャルメディアのでよくやりとりする相手の種別毎人数」(家族、同じ学校の友だち、学校外の活動を通じて知り合った友だち、ソーシャルメディア上で初めて知り合い実際に会ったこともある友だち、ソーシャルメディア上だけでよくやり取りし実際には会ったことのない友だち)を説明変数とし、「依存度」を目的変数とした重回帰分析結果(表 5.4.1) および「依存傾向者／非傾向者」を目的変数としたロジスティック回帰分析の結果(表 5.4.2)を示したものである。

表 5.4.1 に示される通り、**依存度に最も大きな関連を持つのは「ソーシャルメディア上だけでよくやり取りし実際には会ったことのない友だちの数」**である。「家族」において負の相関が見られるのが興味深い。すなわち、**家族とソーシャルメディアでよくやり取りする人はネット依存になりにくい**ことが示唆されている。

表 5.4.2 でも同様の傾向が示され、**依存傾向者の該当／非該当に最も大きく関わるのは「ソーシャルメディア上だけでよくやり取りし実際には会ったことのない友だちの数**であり、**家族とは負の相関が示されている**。

表 5.4.1 「よくやりとりする相手の人数」と依存度の重回帰分析

| 変数 | 回帰係数 | t 値 | Pr > t | 標準化回帰係数 | VIF |
|-----------------|--------|-------|---------|---------|---------|
| 切片 | 48.639 | 79.42 | <.0001 | 0.000 | 0 |
| 性(男:1,女:0) | -2.561 | -6.81 | <.0001 | -0.086 | 1.0068 |
| 学年 | -0.848 | -3.62 | 0.0003 | -0.046 | 1.00764 |
| 家族 | -0.463 | -3.95 | <.0001 | -0.051 | 1.07776 |
| 同じ学校の友だち | 0.024 | 3.81 | 0.0001 | 0.054 | 1.28357 |
| 学校外の活動の知り合い | 0.001 | 0.09 | 0.9301 | 0.001 | 1.29568 |
| SM上で知り合い,面会経験あり | 0.153 | 6.57 | <.0001 | 0.086 | 1.098 |
| SM上だけでやりとりする人 | 0.017 | 9.39 | <.0001 | 0.119 | 1.02472 |

N=6123 F値: 36.1 <0.0001 調整済R二乗: 0.0386

表 5.4.2 「よくやりとりする相手の人数」と依存傾向者の該当／非該当のロジスティック回帰分析

| 変数 | 回帰係数 | Wald | Pr > ChiSq | 標準化回帰係数 | オッズ比 |
|-----------------|--------|--------|------------|---------|-------|
| | | カイ 2 乗 | | | |
| 切片 | -2.048 | 171.17 | <.0001 | | |
| 性(男:1,女:0) | -0.234 | 5.22 | 0.0224 | -0.064 | 0.792 |
| 学年 | -0.236 | 13.90 | 0.0002 | -0.104 | 0.79 |
| 家族 | -0.049 | 2.27 | 0.1322 | -0.045 | 0.952 |
| 同じ学校の友だち | 0.001 | 0.91 | 0.3394 | 0.028 | 1.001 |
| 学校外の活動の知り合い | 0.002 | 0.58 | 0.4482 | 0.020 | 1.002 |
| SM上で知り合い,面会経験あり | 0.017 | 17.51 | <.0001 | 0.078 | 1.017 |
| SM上だけでやりとりする人 | 0.002 | 34.00 | <.0001 | 0.094 | 1.002 |

N=6123 Wald χ^2 二乗値: 87.0 <0.0001

5.5 「ソーシャルメディアを利用する目的」と依存

表 5.5.1-5.5.2 は「ソーシャルメディアを利用する目的」(11 項目)を説明変数とし、「依存度」を目的変数とした重回帰分析結果(表 5.5.1) および「依存傾向者／非傾向者」を目的変数としたロジスティック回帰分析の結果(表 5.5.2)を示したものである。この質問は複数回答であるため、該当(○がつけられた場合)を1、非該当を0として計算した。

表 5.5.1 に示される通り、**依存度**に最も大きな関連を持つのは「**現実から逃れるため**」という利用目的である。「**ストレス解消のため**」がそれに次ぐ。

表 5.5.2 でも同様の傾向が示され、依存傾向者の該当／非該当に最も大きく関わるのは「**現実から逃れるため**」、次いで「**ストレス改称のため**」という利用目的である。

表 5.5.1 「ソーシャルメディアを利用する目的」と依存度の重回帰分析

| 変数 | 回帰係数 | t 値 | Pr > t | 標準化回帰係数 | VIF |
|-----------------------|--------|-------|---------|---------|---------|
| 切片 | 42.370 | 68.06 | <.0001 | 0.000 | 0 |
| 性(男:1,女:0) | -0.076 | -0.23 | 0.8149 | -0.003 | 1.04691 |
| 学年 | -1.077 | -5.40 | <.0001 | -0.058 | 1.02103 |
| 1. 友だちや知り合いとコミュニケーション | 0.794 | 1.93 | 0.0535 | 0.022 | 1.18235 |
| 2. 新しく友だちを作るため | 4.539 | 9.16 | <.0001 | 0.103 | 1.12491 |
| 3. 学校・部活動などの事務的な連絡のため | -3.567 | -9.64 | <.0001 | -0.110 | 1.16863 |
| 4. 周囲の人も使っているため | 2.439 | 6.93 | <.0001 | 0.078 | 1.14615 |
| 5. 自分の近況や気持ちを知ってもらうため | 3.108 | 5.80 | <.0001 | 0.066 | 1.17161 |
| 6. 情報収集のため | 0.506 | 1.47 | 0.1413 | 0.017 | 1.18106 |
| 7. 写真・動画などを気軽に投稿・シェア | 4.147 | 10.84 | <.0001 | 0.127 | 1.23479 |
| 8. ひまつぶしのため | 3.857 | 11.11 | <.0001 | 0.126 | 1.14169 |
| 9. ストレス解消のため | 6.179 | 12.24 | <.0001 | 0.152 | 1.3791 |
| 10. 現実から逃れるため | 11.294 | 19.05 | <.0001 | 0.231 | 1.31617 |
| 11. その他 | -0.417 | -0.55 | 0.5816 | -0.006 | 1.03038 |

N=6452 F値:192.3 <0.0001 調整済R二乗:0.2782

表 5.5.2 「ソーシャルメディアを利用する目的」と依存傾向者の該当／非該当のロジスティック回帰分析

| 変数 | 回帰係数 | Wald | Pr > ChiSq | 標準化回帰係数 | オッズ比 |
|-----------------------|--------|--------|------------|---------|-------|
| | | カイ 2 乗 | | | |
| 切片 | -2.916 | 203.80 | <.0001 | | |
| 性(男:1,女:0) | 0.208 | 3.57 | 0.0589 | 0.057 | 1.231 |
| 学年 | -0.243 | 13.26 | 0.0003 | -0.108 | 0.784 |
| 1. 友だちや知り合いとコミュニケーション | 0.060 | 0.18 | 0.6727 | 0.014 | 1.062 |
| 2. 新しく友だちを作るため | 0.543 | 17.33 | <.0001 | 0.102 | 1.722 |
| 3. 学校・部活動などの事務的な連絡のため | -0.751 | 39.67 | <.0001 | -0.192 | 0.472 |
| 4. 周囲の人も使っているため | 0.272 | 5.46 | 0.0194 | 0.072 | 1.313 |
| 5. 自分の近況や気持ちを知ってもらうため | 0.384 | 7.67 | 0.0056 | 0.068 | 1.468 |
| 6. 情報収集のため | -0.174 | 2.04 | 0.1531 | -0.048 | 0.84 |
| 7. 写真・動画などを気軽に投稿・シェア | 0.540 | 20.21 | <.0001 | 0.137 | 1.715 |
| 8. ひまつぶしのため | 0.171 | 1.67 | 0.1956 | 0.046 | 1.186 |
| 9. ストレス解消のため | 0.938 | 52.81 | <.0001 | 0.190 | 2.554 |
| 10. 現実から逃れるため | 1.595 | 153.88 | <.0001 | 0.269 | 4.929 |
| 11. その他 | 0.218 | 1.09 | 0.2957 | 0.026 | 1.243 |

N=6452 Wald χ^2 二乗値:632.9 <0.0001

5.6 「保護者との約束内容」と依存

表 5.6.1-5.6.2 は「スマートフォン、ガラケーの利用について、保護者とどのような約束をしているか」（「時間帯制限」等）を説明変数とし、「依存度」を目的変数とした重回帰分析結果（表 5.6.1）および「依存傾向者／非傾向者」を目的変数としたロジスティック回帰分析の結果（表 5.6.2）を示したものである。この質問は複数回答であるため、該当（○がつけられた場合）を 1、非該当を 0 として計算した。

なお、この分析では、依存度と負の関係をもつ項目が、依存でない傾向が強い、すなわち

依存に対して抑止的に働くことになる。表 5.6.1 に示される通り、依存度に最も大きな負の関連を持つのは「自室・寝室での利用不可」であり、次いで「利用時間上限設定」である。すなわち、「保護者と自室や寝室で利用しない」という約束をしていたり、利用時間に上限を設定していたりいる場合、依存になりにくい。「成績が下がったら利用を制限する」という約束が依存と正の関係をもつのが興味深い。つまり、その種の約束は依存回避にあまり効果的でないことになる。

表 5.6.2 でも同様の傾向が示され、依存傾向者の該当／非該当に最も大きく関わるのは「自室・寝室での利用不可」「食事中的利用不可」という約束であり、すなわちその種の約束は依存回避に効果的であることが示唆されている。「成績が下がったら利用を制限する」という約束は、依存傾向者の当否と正の相関が示されており、依存抑止には役立たないことを示唆している。

表 5.6.1 「保護者との約束内容」と依存度の重回帰分析

| 変数 | 回帰係数 | t 値 | Pr > t | 標準化回帰係数 | VIF |
|-------------|--------|-------|---------|---------|---------|
| 切片 | 44.342 | 74.98 | <.0001 | 0.000 | 0 |
| 性(男:1,女:0) | -2.183 | -6.28 | <.0001 | -0.072 | 1.02381 |
| 学年 | -0.010 | -0.05 | 0.9621 | -0.001 | 1.05684 |
| 時間帯制限 | -0.366 | -0.79 | 0.4274 | -0.010 | 1.21007 |
| 利用時間上限設定 | -2.672 | -4.20 | <.0001 | -0.050 | 1.12316 |
| 自室・寝室での利用不可 | -2.887 | -5.65 | <.0001 | -0.069 | 1.16879 |
| 食事中的利用不可 | 0.515 | 1.38 | 0.1687 | 0.017 | 1.14031 |
| 利用料金の上限定 | 0.837 | 1.75 | 0.0794 | 0.020 | 1.04181 |
| 成績低下で利用不可 | 4.555 | 9.24 | <.0001 | 0.109 | 1.09596 |
| その他 | -1.854 | -2.65 | 0.008 | -0.030 | 1.00953 |

N=7668 F値:20.88 <0.0001 調整済R二乗:0.0228

表 5.6.2 「保護者との約束内容」と依存傾向者の該当／非該当のロジスティック回帰分析

| 変数 | 回帰係数 | Wald | Pr > ChiSq | 標準化回帰係数 | オッズ比 |
|-------------|--------|--------|------------|---------|-------|
| | | カイ 2 乗 | | | |
| 切片 | -2.279 | 201.94 | <.0001 | | |
| 性(男:1,女:0) | -0.186 | 3.51 | 0.0609 | -0.051 | 0.83 |
| 学年 | -0.162 | 6.74 | 0.0094 | -0.072 | 0.851 |
| 時間帯制限 | -0.019 | 0.02 | 0.8845 | -0.004 | 0.981 |
| 利用時間上限設定 | -0.295 | 2.23 | 0.1356 | -0.047 | 0.744 |
| 自室・寝室での利用不可 | -0.364 | 5.18 | 0.0229 | -0.073 | 0.695 |
| 食事中的利用不可 | -0.217 | 4.25 | 0.0392 | -0.059 | 0.805 |
| 利用料金の上限定 | 0.145 | 1.24 | 0.2647 | 0.029 | 1.156 |
| 成績低下で利用不可 | 0.448 | 12.38 | 0.0004 | 0.090 | 1.566 |
| その他 | 0.173 | 0.88 | 0.3479 | 0.024 | 1.188 |

N=7668 Wald χ^2 二乗値:34.8 <0.0001

5.7 「使っているフィルタリングサービスの内容」と依存

問 19 ではフィルタリングサービスを利用しているか否かを尋ね、さらに問 19①で、使っているフィルタリングサービスの内容（機能）に分けて、利用している様相を質問している。

表 5.7.1-5.7.2 は「フィルタリングサービスの内容」を説明変数とし、「依存度」を目的変数とした重回帰分析結果（表 5.6.1）および「依存傾向者／非傾向者」を目的変数としたロジスティック回帰分析の結果（表 5.7.2）を示したものである。ここでは、内容（機能）ごとに、「使っている」場合を 1、「使っていない」場合を 0 として分析した。負の相関は、「そのフィルタリングサービスを使っている場合に依存傾向が小さい」ことを示す。

表 5.7.1 に示される通り、「**アプリの起動を制限する機能**」を使っている場合、**依存度が低く**、次いで「WiFi 接続の閲覧を制限する機能」を使っている場合、依存度が低い。「サイト・アプリの閲覧制限を個別に設定できる機能」「利用時間を制限する機能」は正の相関、すなわち、それを使っている人ほど依存度が高いという結果が示されている。この場合、そうした機能の利用が依存傾向を増幅させるというより、依存度の高い学生に、そうした機能の使用が強制される、と考えた方が適切だろう。

表 5.7.2 でも同様の傾向が示され、依存傾向者の該当／非該当に最も大きく関わるのは「アプリ起動制限機能」である。

表 5.7.1 「使っているフィルタリングサービスの内容」と依存度の重回帰分析

| 変数 | 回帰係数 | t 値 | Pr > t | 標準化回帰係数 | VIF |
|-----------------|--------|-------|---------|---------|---------|
| 切片 | 45.133 | 51.02 | <.0001 | 0.000 | 0 |
| 性(男:1,女:0) | -0.954 | -1.72 | 0.0848 | -0.031 | 1.01029 |
| 学年 | -0.227 | -0.66 | 0.5091 | -0.012 | 1.00428 |
| アプリ起動制限機能 | -2.563 | -4.29 | <.0001 | -0.082 | 1.14077 |
| Wi-Fi接続時間閲覧制限機能 | -1.034 | -1.79 | 0.0728 | -0.034 | 1.09559 |
| 利用時間制限機能 | 1.545 | 1.74 | 0.0819 | 0.033 | 1.10446 |
| サイト・アプリ個別制限機能 | 1.184 | 2.13 | 0.0335 | 0.039 | 1.03283 |

N=3073 F値:5.74 <0.0001 調整済R二乗:0.0092

表 5.7.2 「使っているフィルタリングサービスの内容」と依存傾向者の該当／非該当のロジスティック回帰分析

| 変数 | 回帰係数 | Wald | Pr > ChiSq | 標準化回帰係数 | オッズ比 |
|-----------------|--------|--------|------------|---------|-------|
| | | カイ 2 乗 | | | |
| 切片 | -2.554 | 114.40 | <.0001 | | |
| 性(男:1,女:0) | -0.088 | 0.34 | 0.5618 | -0.024 | 0.916 |
| 学年 | -0.112 | 1.41 | 0.2355 | -0.049 | 0.894 |
| アプリ起動制限機能 | -0.125 | 0.57 | 0.4521 | -0.034 | 0.882 |
| Wi-Fi接続時間閲覧制限機能 | 0.003 | 0.00 | 0.9851 | 0.001 | 1.003 |
| 利用時間制限機能 | 0.257 | 1.29 | 0.2555 | 0.046 | 1.293 |
| サイト・アプリ個別制限機能 | 0.204 | 1.76 | 0.1842 | 0.056 | 1.227 |

N=3073 Wald χ^2 乗値: 5.3 < 0.0001

5.8 生活時間と依存

表 5.8.1～5.8.2 は主な生活行動時間の平日 1 日の平均利用時間(当該の行動をとらない人は 0 として計算)を説明変数とし、「依存度」を目的変数とした重回帰分析結果(表 5.8.1) および「依存傾向者／非傾向者」を目的変数としたロジスティック回帰分析の結果(表 5.8.2) を示したものである。

表 5.8.1 に示される通り、睡眠時間、自宅で勉強する時間、家族と顔を合わせて話をする時間が長い学生ほど依存度が低い。一方、家で過ごす時間が長い学生ほど依存度が高い。

このことは、表 5.8.2 でも同様に該当している。

表 5.8.1 生活時間と依存度の重回帰分析

| 変数 | 回帰係数 | t 値 | Pr > t | 標準化回帰係数 | VIF |
|-------------------|--------|--------|---------|---------|---------|
| 切片 | 65.619 | 49.19 | <.0001 | 0.000 | 0 |
| 性(男:1,女:0) | -2.418 | -7.04 | <.0001 | -0.080 | 1.05234 |
| 学年 | -0.293 | -1.32 | 0.1856 | -0.015 | 1.11468 |
| 1.家で過ごす時間 | 0.007 | 7.24 | <.0001 | 0.084 | 1.10461 |
| 2.通学にかかる時間 | 0.007 | 0.46 | 0.6429 | 0.005 | 1.01112 |
| 3.部活動の時間 | 0.002 | 0.93 | 0.3519 | 0.011 | 1.0706 |
| 4.学習塾や習い事の時間 | -0.001 | -0.45 | 0.6496 | -0.005 | 1.06611 |
| 5.自宅で勉強する時間 | -0.031 | -11.23 | <.0001 | -0.128 | 1.06968 |
| 6.本を読む時間 | -0.013 | -3.41 | 0.0007 | -0.038 | 1.02394 |
| 7.テレビを見る時間 | 0.005 | 2.27 | 0.0233 | 0.026 | 1.09844 |
| 8.睡眠時間 | -0.048 | -20.76 | <.0001 | -0.237 | 1.06821 |
| 9.家族と顔を合わせて話をする時間 | -0.014 | -9.38 | <.0001 | -0.112 | 1.16666 |

N=7432 F値: 73.0 < 0.0001 調整済R二乗: 0.0092

表 5.8.2 生活時間と依存傾向者の該当／非該当のロジスティック回帰分析

| 変数 | 回帰係数 | Wald | Pr > | 標準化回帰係数 | オッズ比 |
|-------------------|--------|--------|--------|---------|-------|
| | | カイ 2 乗 | ChiSq | | |
| 切片 | 2.177 | 31.48 | <.0001 | | |
| 性(男:1,女:0) | -0.218 | 3.99 | 0.0456 | -0.060 | 0.804 |
| 学年 | -0.336 | 22.00 | <.0001 | -0.148 | 0.715 |
| 1.家で過ごす時間 | 0.001 | 17.36 | <.0001 | 0.118 | 1.001 |
| 2.通学にかかる時間 | 0.000 | 0.00 | 0.9518 | -0.002 | 1 |
| 3.部活動の時間 | 0.000 | 0.16 | 0.6855 | -0.013 | 1 |
| 4.学習塾や習い事の時間 | 0.000 | 0.01 | 0.9035 | -0.004 | 1 |
| 5.自宅で勉強する時間 | -0.006 | 24.10 | <.0001 | -0.094 | 0.994 |
| 6.本を読む時間 | -0.002 | 2.07 | 0.1503 | -0.046 | 0.998 |
| 7.テレビを見る時間 | 0.000 | 0.03 | 0.8693 | 0.005 | 1 |
| 8.睡眠時間 | -0.010 | 202.29 | <.0001 | -0.409 | 0.99 |
| 9.家族と顔を合わせて話をする時間 | -0.003 | 18.32 | <.0001 | -0.175 | 0.997 |

N=7432 Wald χ^2 二乗値: 288.2 <0.0001

5.9 友だち・保護者・学校生活への満足度と依存

表 5.9.1-5.9.2 は友だち・保護者・学校生活への満足度を説明変数とし（「満足」を 4、「不満」を 1 として集計）、「依存度」を目的変数とした重回帰分析結果（表 5.9.1）および「依存傾向者／非傾向者」を目的変数としたロジスティック回帰分析の結果（表 5.9.2）を示したものである。

表 5.9.1 に示される通り、依存度に最も大きな関連を持つのは保護者への満足度であり、保護者に満足している学生ほど依存が低い。同様に学校生活に満足している学生ほど依存度が低い。

表 5.9.2 でも同様の傾向が示され、依存傾向者の該当／非該当（依存傾向者にならないこと）に最も大きく関わるのは保護者への満足度であり、満足度が高いほど依存傾向者になる率が低い。

表 5.9.1 友だち・保護者・学校生活への満足度と依存度の重回帰分析

| 変数 | 回帰係数 | t 値 | Pr > t | 標準化回帰係数 | VIF |
|------------|--------|--------|---------|---------|---------|
| 切片 | 60.136 | 64.33 | <.0001 | 0.000 | 0 |
| 性(男:1,女:0) | -2.664 | -8.45 | <.0001 | -0.086 | 1.00884 |
| 学年 | 0.728 | 3.73 | 0.0002 | 0.038 | 1.0054 |
| 友だち | 0.080 | 0.28 | 0.7798 | 0.004 | 1.72091 |
| 保護者 | -3.270 | -15.83 | <.0001 | -0.179 | 1.25199 |
| 学校生活 | -2.104 | -8.86 | <.0001 | -0.119 | 1.76554 |

N=9122 F値: 137.4 <0.0001 調整済R二乗: 0.070

表 5.9.2 友だち・保護者・学校生活への満足度と依存傾向者の該当／非該当のロジスティック回帰分析

| 変数 | 回帰係数 | Wald | Pr > ChiSq | 標準化回帰係数 | オッズ比 |
|------------|--------|--------|------------|---------|-------|
| | | カイ 2 乗 | | | |
| 切片 | -0.107 | 0.23 | 0.6328 | | |
| 性(男:1,女:0) | -0.269 | 8.29 | 0.004 | -0.074 | 0.764 |
| 学年 | -0.075 | 1.67 | 0.1969 | -0.033 | 0.928 |
| 友だち | 0.079 | 1.36 | 0.244 | 0.032 | 1.082 |
| 保護者 | -0.479 | 92.52 | <.0001 | -0.225 | 0.62 |
| 学校生活 | -0.390 | 44.87 | <.0001 | -0.189 | 0.677 |

N=9122 Wald χ^2 乗値: 252.0 <0.0001

5.10 保護者に対する気持ちと依存

表 5.10.1-5.10.2 は保護者に対する気持ち（問 25）を説明変数とし（「あてはまる」を 4、「あてはまらない」を 1 として集計）、「依存度」を目的変数とした重回帰分析結果（表 5.10.1）および「依存傾向者／非傾向者」を目的変数としたロジスティック回帰分析の結果（表 5.10.2）を示したものである。

表 5.10.1 に示される通り、「あなたに干渉しすぎる」「あなたに関心がない」という気持ちをいっている学生において依存度が高く、逆に「相談しやすい」「あなたの気持ちをよく理解してくれる」「あなたの実力を評価し、認めてくれる」という気持ちをいっている学生において依存度が低い。

表 5.10.2 の結果も同様であるが、依存傾向者になりにくいことに関連する項目として「あなたの気持ちをよく理解してくれる」が最も関連が強く、ついで「相談しやすい」が続いている。

表 5.10.1 保護者に対する気持ちと依存度の重回帰分析

| 変数 | 回帰係数 | t 値 | Pr > t | 標準化回帰係数 | VIF |
|----------------------|--------|--------|---------|---------|---------|
| 切片 | 44.849 | 42.38 | <.0001 | 0.000 | 0 |
| 性(男:1,女:0) | -3.641 | -11.06 | <.0001 | -0.117 | 1.06886 |
| 学年 | 0.247 | 1.24 | 0.2143 | 0.013 | 1.01608 |
| 1. あなたの気持ちをよく理解してくれる | -0.951 | -3.16 | 0.0016 | -0.054 | 2.73518 |
| 2. あなたの実力を評価し、認めてくれる | -0.885 | -3.32 | 0.0009 | -0.053 | 2.4398 |
| 3. あなたを信頼している | -0.430 | -1.49 | 0.1364 | -0.025 | 2.64247 |
| 4. 落ち込んでいたら、元気づけてくれる | 0.928 | 3.00 | 0.0027 | 0.058 | 3.47832 |
| 5. どんなに困ったことでも助けてくれる | 0.557 | 1.78 | 0.0751 | 0.033 | 3.28414 |
| 6. 相談しやすい | -1.012 | -4.20 | <.0001 | -0.070 | 2.5997 |
| 7. 一緒にいて楽しい | -0.774 | -2.87 | 0.0041 | -0.047 | 2.49404 |
| 8. しつけに厳しい | -0.525 | -3.00 | 0.0027 | -0.034 | 1.21029 |
| 9. あなたに干渉しすぎる | 1.726 | 8.80 | <.0001 | 0.102 | 1.25921 |
| 10. あなたに関心がない | 1.390 | 5.48 | <.0001 | 0.076 | 1.80858 |
| 11. あなたを嫌っている | 1.109 | 3.80 | 0.0001 | 0.055 | 1.95081 |

N=8831 F値: 50.4 <0.0001 調整済R二乗: 0.0678

表 5.10.2 保護者に対する気持ちと依存傾向者の該当／非該当のロジスティック回帰分析

| 変数 | 回帰係数 | Wald | Pr > ChiSq | 標準化回帰係数 | オッズ比 |
|----------------------|--------|--------|------------|--|-----------------|
| | | カイ 2 乗 | | | |
| 切片 | -2.390 | 68.73 | <.0001 | | |
| 性(男:1,女:0) | -0.392 | 16.05 | <.0001 |  | -0.108 0.675 |
| 学年 | -0.164 | 7.61 | 0.0058 |  | -0.073 0.849 |
| 1. あなたの気持ちをよく理解してくれる | -0.263 | 9.45 | 0.0021 |  | -0.127 0.769 |
| 2. あなたの実力を評価し、認めてくれる | -0.110 | 1.94 | 0.1641 |  | -0.056 0.896 |
| 3. あなたを信頼している | -0.153 | 3.58 | 0.0585 |  | -0.076 0.858 |
| 4. 落ち込んでいると、元気づけてくれる | 0.166 | 3.53 | 0.0604 |  | 0.088 1.18 |
| 5. どんなに困ったことでも助けてくれる | 0.145 | 2.80 | 0.0943 |  | 0.074 1.156 |
| 6. 相談しやすい | -0.172 | 5.86 | 0.0155 |  | -0.101 0.842 |
| 7. 一緒にいて楽しい | -0.069 | 0.84 | 0.3592 |  | -0.036 0.933 |
| 8. しつげに厳しい | -0.037 | 0.48 | 0.4896 |  | -0.020 0.964 |
| 9. あなたに干渉しすぎる | 0.364 | 42.15 | <.0001 |  | 0.183 1.439 |
| 10. あなたに関心がない | 0.165 | 5.75 | 0.0165 |  | 0.077 1.179 |
| 11. あなたを嫌っている | 0.140 | 3.56 | 0.059 |  | 0.059 1.151 |

N=8831 Wald χ 二乗値: 234.0 <0.0001

5.11 心理特性と依存







今回の調査ではネット依存と深く関わりのありそうな心理特性として「社交性(問 23(1)～(3))」「抑うつ(問 23(4)～(6))」「孤独感(問 26(1)～(3))」「公的自意識(問 26(5)～(7)、(9))」とりあげている。それぞれ「あてはまる」を 4、「あてはまらない」を 1 としてリッカート評定加算法で尺度構成した。

表 5.11.1-5.11.2 はそれぞれの心理特性を説明変数とし、「依存度」を目的変数とした重回帰分析結果(表 5.11.1) および「依存傾向者／非傾向者」を目的変数としたロジスティック回帰分析の結果(表 5.11.2)を示したものである。

表 5.11.1 に示される通り、**依存度に最も大きな関連をもつのが「抑うつ性」**であり(抑うつ性が高いほど依存度が高い)、「公的自意識」がそれについている。「社交性」は依存度とほとんど関係が見られない。

表 5.11.2 でも同様の傾向が見られた。

表 5.11.1 心理特性と依存度の重回帰分析

| 変数 | 回帰係数 | t 値 | Pr > t | 標準化回帰係数 | VIF |
|------------|--------|-------|---------|--|-------------------|
| 切片 | 19.074 | 16.70 | <.0001 | 0.000 | 0 |
| 性(男:1,女:0) | -1.940 | -6.33 | <.0001 |  | -0.062 1.01848 |
| 学年 | 0.485 | 2.57 | 0.0102 |  | 0.025 1.00649 |
| 社交性 | -0.169 | -0.74 | 0.4588 |  | -0.008 1.25042 |
| 抑鬱性 | 7.115 | 26.87 | <.0001 |  | 0.298 1.29059 |
| 孤独感 | 1.175 | 3.91 | <.0001 |  | 0.046 1.41661 |
| 公的自意識 | 2.954 | 14.55 | <.0001 |  | 0.152 1.14878 |

N=8813 F値: 275.9 <0.0001 調整済R二乗: 0.1577

表 5.11.2 心理特性と依存傾向者の該当／非該当のロジスティック回帰分析

| 変数 | 推定値 | Wald | Pr > | 標準化した推定値 | オッズ比 |
|------------|--------|--------|--------|----------|-------|
| | | カイ 2 乗 | ChiSq | | |
| 切片 | -6.019 | 280.49 | <.0001 | | |
| 性(男:1,女:0) | -0.120 | 1.54 | 0.2148 | -0.033 | 0.887 |
| 学年 | -0.105 | 3.10 | 0.0784 | -0.047 | 0.9 |
| 社交性 | -0.140 | 4.39 | 0.036 | -0.057 | 0.87 |
| 抑鬱性 | 1.150 | 203.00 | <.0001 | 0.413 | 3.157 |
| 孤独感 | 0.267 | 8.86 | 0.0029 | 0.089 | 1.306 |
| 公的自意識 | 0.277 | 18.28 | <.0001 | 0.122 | 1.319 |

N=8813 Wald χ^2 乗値: 395.6 <0.0001

5.12 範疇横断的な要因による依存の分析

依存に関する多変量解析の最後に範疇横断的に説明変数を取りあげ、依存に影響力のある要因を分析した。

とりあげた変数は、(1)単相関分析において大きな関わりを示し、(2)5.1-5.11の各範疇内で、依存と大きな関わりがあったもの、かつ(3)変数の構成概念的に多重共線性の危険性が低いものを選択した。結果的に投入した説明変数は、統制変数として「性」「学年」のほか、ネットサービスの利用項目から「モバイルで動画を見る」「モバイルでSNSを見る」、ネットを利用する目的から「ストレス解消のため」「現実から逃れるため」、生活・生活満足度から「保護者との満足度」「学校生活満足度」、心理特性から「抑うつ傾向」「公的自意識」の計10変数である。なお、**異範疇の変数を同時に回帰分析に投入することには様々な議論があり、今回の結果はあくまで参考情報**であることに注意されたい。

表 5.12.1-5.12.2 は取り上げた変数を説明変数とし、「依存度」を目的変数とした重回帰分析結果（表 5.12.1）および「依存傾向者／非傾向者」を目的変数としたロジスティック回帰分析の結果（表 5.12.2）を示したものである。

表 5.12.1 に示される通り、**依存度に最も大きな関連をもつのが心理特性の「抑うつ性」**であり、つづいて利用目的の「現実から逃れるため」が高い標準化回帰計数値を示した。

表 5.12.2 においても同様な傾向が見られた。

表 5.12.1 範疇横断的な要因による依存度の重回帰分析

| 変数 | 回帰係数 | t 値 | Pr > t | 標準化回帰係数 | VIF | 単相関係数 |
|--|--------|-------|---------|---------|---------|--------|
| 切片 | 31.918 | 23.35 | <.0001 | 0.000 | 0 | |
| 性(男:1,女:0) | -0.512 | -1.48 | 0.1399 | -0.017 | 1.06079 | 0.083 |
| 学年 | -0.938 | -4.46 | <.0001 | -0.051 | 1.01548 | 0.030 |
| モバイルで動画を見る | 0.026 | 11.03 | <.0001 | 0.131 | 1.08115 | 0.294 |
| モバイルでSNSを見る | 0.018 | 11.80 | <.0001 | 0.142 | 1.10938 | 0.297 |
| ストレス解消のため | 6.331 | 12.19 | <.0001 | 0.159 | 1.30677 | 0.361 |
| 現実から逃れるため | 9.675 | 15.66 | <.0001 | 0.205 | 1.311 | 0.381 |
| 保護者との満足度 | -1.546 | -7.04 | <.0001 | -0.090 | 1.247 | -0.219 |
| 学校生活満足度 | -0.019 | -0.08 | 0.9342 | -0.001 | 1.34947 | -0.189 |
| 抑うつ傾向 | 4.915 | 16.43 | <.0001 | 0.218 | 1.35248 | 0.354 |
| 公的自意識 | 2.845 | 12.97 | <.0001 | 0.154 | 1.07757 | 0.234 |
| N=4995 F値: 269.1 <.0001 調整済R二乗: 0.3493 | | | | | | |

表 5.11.2 範疇横断的な要因による依存傾向者の該当／非該当のロジスティック回帰分析

| 変数 | 回帰係数 | Wald | Pr > ChiSq | 標準化回帰係数 | オッズ比 |
|---------------------------------------|--------|--------|------------|---------|-------|
| | | カイ 2 乗 | | | |
| 切片 | -5.306 | 121.27 | <.0001 | | |
| 性(男:1,女:0) | 0.250 | 3.54 | 0.06 | 0.068 | 1.284 |
| 学年 | -0.236 | 9.15 | 0.0025 | -0.104 | 0.79 |
| モバイルで動画を見る | 0.003 | 28.81 | <.0001 | 0.138 | 1.003 |
| モバイルでSNSを見る | 0.002 | 25.67 | <.0001 | 0.130 | 1.002 |
| ストレス解消のため | 0.913 | 40.85 | <.0001 | 0.185 | 2.491 |
| 現実から逃れるため | 1.433 | 92.10 | <.0001 | 0.245 | 4.19 |
| 保護者との満足度 | -0.220 | 10.78 | 0.001 | -0.103 | 0.803 |
| 学校生活満足度 | 0.033 | 0.21 | 0.6446 | 0.016 | 1.034 |
| 抑うつ傾向 | 0.785 | 56.60 | <.0001 | 0.281 | 2.192 |
| 公的自意識 | 0.330 | 16.22 | <.0001 | 0.144 | 1.391 |
| N=4995 Wald χ^2 乗値: 514.8 <.0001 | | | | | |

6. ヤング 20 項目尺度とネット依存関連質問

6.1 本調査におけるネット依存関連質問

本調査ではヤングの 20 項目尺度を尋ねるとともに、ソーシャルメディアなどを通じたネット上でのコミュニケーションに伴う依存を表す項目（Q14 の項目(9)～(12)）やネット依存に伴う実害を表す項目（Q15 の項目(1)～(7)）、さらにネット依存に関連するその他の質問項目（Q11、Q15 の項目(8)～(12)）を独自に加えた。

依存/非依存の比較は本稿に先立って公開された総務省情報通信政策研究所の報告書⁸⁾に掲載されており、いずれも依存傾向者の該当割合（ないしは肯定的回答の割合）が非依存傾向者よりも高いという当然と言えば当然の結果となっているため、本稿では紹介を省き性別・学年別の比較のみを掲載する。なお 5 件法の質問項目について選択肢すべての割合を掲載するのは煩雑に過ぎるため、「いつもある」「よくある」「ときどきある」の肯定的選択肢 3 つを合わせた割合を示すこととする。分析対象者は依存傾向を判定できる 9,475 人（サンプルの絞り方については「1.2 依存傾向者の分布」を参照）に限定した⁹⁾。

6.2 ヤング 20 項目への回答状況

ヤング 20 項目は Q4 の項目(1)～(12)と Q14 の項目(1)～(8)で尋ねた。分析対象全体での集計結果（表 6.2.1）を見ると、「気がつく、思っていたより長い時間ネットをしていることがある」の 77.6%を始め、該当割合 30%を超える項目は 15 項目に上った。複数項目に重複して該当する人（その最たるものが依存傾向者）こそ少ないものの、一つ一つの項目だけをとればこれらのことが起こるのはさほど珍しいことではないことが分かる。

その一方で、該当割合が比較的低い項目としては「(9) 人にネットで何をしているのか聞かれたとき、言い訳をしたり、隠そうとしたりすることがある」(18.4%)、「(15) ネットをしていないときでも、ネットのことを考えてぼんやりしたり、ネットをしているところを空想したりすることがある」(16.5%)、「(18) ネットをしている時間や回数を、人に隠そうとすることがある」(14.6%)、「(19) 誰かと外出するより、ネットを利用することを選ぶことがある」(18.3%)、「(20) ネットをしている時は何ともないが、ネットをしていない時はイライラしたり、憂うつな気持ちになったりする」(9.8%) といったものがあり、これらに該当する場合には、ネット利用に関して他の人よりも深刻な問題が生じている可能性が考えられる。

性別による比較では 13 項目で男女による有意な偏りが見られたが、その多くで女子の

⁸⁾ 総務省情報通信政策研究所(2016)「中学生のインターネットの利用状況と依存傾向に関する調査」
<http://www.soumu.go.jp/iicp/chousakenkyu/seika/houkoku-since2011.html>

⁹⁾ 本章で扱った質問について、総務省報告書では調査の有効回答者全体 (n=10,596) を対象に集計している。本章の分析対象者とはズレがあるため、集計結果の数値が異なることをお断りしておく。

該当割合の方が高い結果が見られた。男子の方が高かったのは「(18) ネットをしている時間や回数を、人に隠そうとすることがある」や「(19) 誰かと外出するより、ネットを利用することを選ぶことがある」のような、先に紹介した該当割合の比較的低い項目であった。

学年別の比較でも 11 項目に有意な偏りが見られ、項目(1)(4)(8)(9)(14)の 5 項目では上の学年ほど該当割合が高い傾向が見られた。

表 6.2.1 ヤング 20 項目への回答状況 属性別比較 (単位: %)

| | 全体 (n=9,475) | 男子 (n=4,564) | 女子 (n=4,638) | χ^2 検定 | 1年生 (n=3,118) | 2年生 (n=3,282) | 3年生 (n=3,075) | χ^2 検定 |
|--|-----------------|-----------------|-----------------|----------------|------------------|------------------|------------------|----------------|
| (1) 気がつくと、思っていたより長い時間ネットをしていることがある | 77.6 | 72.4 | 82.9 | *** | 73.7 | 79.1 | 80.1 | *** |
| (2) ネットを長く利用していたために、家の手伝い(炊事、掃除、洗濯など)をおろそかにすることがある | 49.1 | 45.2 | 52.7 | *** | 48.2 | 51.0 | 48.1 | * |
| (3) 家族や友達と過ごすよりも、ネットを利用したいと思うことがある | 31.6 | 31.2 | 31.9 | ns | 29.9 | 32.7 | 32.2 | * |
| (4) ネットで新しく知り合いを作ることがある | 31.1 | 25.6 | 36.3 | *** | 26.9 | 30.1 | 36.4 | *** |
| (5) 周りの人から、ネットを利用する時間や回数について文句を言われたことがある | 41.9 | 39.0 | 44.9 | *** | 40.2 | 43.1 | 42.4 | ns |
| (6) ネットをしている時間が長くて、学校の成績が下がっている | 31.1 | 30.7 | 31.0 | ns | 34.8 | 33.2 | 25.0 | *** |
| (7) ネットが原因で、勉強の能率に悪影響が出ることもある | 38.7 | 37.7 | 39.2 | ns | 37.0 | 39.9 | 39.1 | * |
| (8) 他にやらなければならないことがあっても、まず先にソーシャルメディア (LINE、Twitter など) やメールをチェックすることがある | 45.7 | 39.4 | 51.3 | *** | 43.6 | 46.0 | 47.5 | ** |
| (9) 人にネットで何をしているのか聞かれたとき、言い訳をしたり、隠そうとしたりすることがある | 18.4 | 18.7 | 17.8 | ns | 16.7 | 17.9 | 20.5 | *** |
| (10) 日々の生活の問題から気をそらすために、ネットで時間を過ごすことがある | 34.7 | 31.6 | 37.5 | *** | 33.4 | 36.3 | 34.3 | ns |
| (11) 気がつけば、また次のネット利用を楽しみにしていることがある | 45.3 | 42.0 | 48.8 | *** | 42.7 | 47.0 | 46.1 | ** |
| (12) ネットのない生活は、退屈で、むなしく、わびしいだろうと不安に思うことがある | 35.7 | 34.8 | 36.2 | ns | 34.3 | 36.0 | 36.8 | ns |
| (13) ネットをしている最中に誰かに邪魔をされると、イライラしたり、怒ったり、言い返したりすることがある | 31.0 | 29.9 | 32.0 | * | 31.4 | 31.6 | 30.0 | ns |
| (14) 夜遅くまでネットをすることが原因で、睡眠時間が短くなっている | 45.5 | 42.5 | 48.0 | *** | 37.2 | 46.7 | 52.8 | *** |
| (15) ネットをしていないときでも、ネットのことを考えてぼんやりしたり、ネットをしているところを空想したりすることがある | 16.5 | 17.1 | 15.6 | ns | 16.4 | 16.7 | 16.5 | ns |
| (16) ネットをしているとき「あと数分だけ」と自分で言い訳していることがある | 43.1 | 36.7 | 49.2 | *** | 42.5 | 43.9 | 42.8 | ns |
| (17) ネットをする時間や回数を減らそうとしても、できないことがある | 38.1 | 34.6 | 41.3 | *** | 36.1 | 39.4 | 38.8 | * |
| (18) ネットをしている時間や回数を、人に隠そうとすることがある | 14.6 | 15.9 | 13.0 | *** | 14.4 | 14.4 | 15.0 | ns |
| (19) 誰かと外出するより、ネットを利用することを選ぶことがある | 18.3 | 20.1 | 16.4 | *** | 17.3 | 18.5 | 19.2 | ns |
| (20) ネットをしている時は何ともないが、ネットをしていない時はイライラしたり、憂うつな気持ちになったりする | 9.8 | 9.8 | 9.5 | ns | 10.2 | 9.1 | 10.2 | ns |

※記号は χ^2 乗検定結果の有意水準を表す: *** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$, ns 有意な偏り無し

※数値は各項目について「いつもある」「よくある」「ときどきある」の回答を合わせた割合。

※分析対象は依存傾向判定可能な回答者 (n=9,475)。男女の N 数の合計と全体の N 数が合致しないのは性別不明の回答者が存在するため。

6.3 コミュニケーション関連項目への回答状況

Q14 の項目(9)~(12)で尋ねたコミュニケーション関連項目について集計を行った (表 6.3.1)。ソーシャルメディア利用が活発化していく中、友人などとの携帯電話を介したメッセージのやり取りに歯止めがかからない「つながり依存」「きずな依存」が近年指摘されているところであり、これらの項目への該当割合は高いことが予想されたが、分析対象全体では「ネット上のメッセージにはすぐに返信する」以外の 3 項目は該当割合 30% 未満で

あった。本調査のこのような結果だけを見る限りでは、「身近に携帯電話が無かったりメッセージのやり取りが続かないと不安あるいは不満」という心理は、中学生の間ではさほど蔓延しているわけではないことがうかがわれた。

性別による比較では3項目で有意な偏りが見られ、すべて女子の該当割合の方が高かった。学年別の比較でも3項目で有意な偏りが見られたが、学年の高低に従って該当割合が推移している項目は「ネットでやり取りしている時、相手からの返信が遅いとイライラする」の1項目のみであった。

表 6.3.1 コミュニケーション関連項目への回答状況 属性別比較（単位：％）

| | 全体 | 男子 | 女子 | χ^2 検定 |
|------------------------------------|----------------|----------------|----------------|-------------|
| 自分の身近にケータイ(スマートフォンやガラケー)が無いと落ち着かない | 26.0 (n=9,444) | 21.3 (n=4,553) | 30.5 (n=4,620) | *** |
| ネット上のメッセージにはすぐに返信する | 46.5 (n=9,421) | 43.6 (n=4,535) | 49.6 (n=4,617) | *** |
| ネットでやり取りしている時、相手からの返信が遅いとイライラする | 12.2 (n=9,431) | 12.6 (n=4,538) | 12.2 (n=4,624) | ns |
| 友だちからのメッセージが気がかりでネットを常に確認している | 20.2 (n=9,436) | 17.9 (n=4,539) | 22.8 (n=4,627) | *** |
| | 1年生 | 2年生 | 3年生 | χ^2 検定 |
| 自分の身近にケータイ(スマートフォンやガラケー)が無いと落ち着かない | 24.7 (n=3,105) | 24.0 (n=3,270) | 29.5 (n=3,069) | *** |
| ネット上のメッセージにはすぐに返信する | 45.2 (n=3,094) | 46.2 (n=3,265) | 48.2 (n=3,062) | ns |
| ネットでやり取りしている時、相手からの返信が遅いとイライラする | 11.2 (n=3,097) | 11.4 (n=3,270) | 14.0 (n=3,064) | *** |
| 友だちからのメッセージが気がかりでネットを常に確認している | 19.6 (n=3,107) | 19.0 (n=3,267) | 22.2 (n=3,062) | ** |

※記号は χ^2 乗検定結果の有意水準を表す：*** p<.001, ** p<.01, ns 有意な偏り無し

※数値は各項目について「いつもある」「よくある」「ときどきある」の回答を合わせた割合。

※分析対象は依存傾向判定可能な回答者。N数は欠損値を除いた値。

6.4 ネット利用に伴う実害項目への回答状況

Q15のうち、「ネットのしすぎが原因で～したことがある」の形式で尋ねている7つの質問項目について集計を行った(表6.4.1)。学校への遅刻・欠席、心身の健康の阻害、社会的機会や対人関係の喪失など、これまで尋ねた心的傾向や生活習慣と異なり実際に起きれば一定の実害が生じる出来事の有無を扱っていることから、ヤング20項目やコミュニケーション関連項目に比べ該当割合が一段低い値となっている。分析対象全体では「試験に失敗したことがある」(9.9%)、「身体的な健康を損ねたことがある」(7.6%)、「精神的に不安定になったことがある」(6.1%)、「約束事をすっぽかしたことがある」(5.4%)の該当割合が比較的高かった。

性別による比較では4項目に有意な偏りが見られ、3項目で男子の該当割合の方が高かったが、「精神的に不安定になったことがある」では女子の方が高い結果となった。

学年別の比較では4項目に有意な偏りが見られた。過去の経験について尋ねているため上の学年ほど該当割合が高くなるのが自然に思われ、「何度か学校に遅刻したことがある」

「身体的な健康を損ねたことがある」では実際そのようになった。しかし「試験に失敗したことがある」「約束事をすっぽかしたことがある」では3年生よりも1・2年生の方が高く、当初の予想とは逆の結果となった。

表 6.4.1 ネット利用に伴う実害項目への回答状況 属性別比較（単位：％）

| | 全体 | 男子 | 女子 | χ^2 検定 |
|------------------------------|----------------|----------------|---------------|----------------|
| ネットのし過ぎが原因で、何度か学校に遅刻したことがある | 3.4 (n=9,454) | 4.5 (n=4,554) | 2.1 (n=4,633) | *** |
| ネットのし過ぎが原因で、何度か学校を休んだことがある | 1.3 (n=9,454) | 1.6 (n=4,555) | 0.9 (n=4,633) | ** |
| ネットのし過ぎが原因で、身体的な健康を損ねたことがある | 7.6 (n=9,444) | 7.3 (n=4,549) | 7.8 (n=4,628) | ns |
| ネットのし過ぎが原因で、精神的に不安定になったことがある | 6.1 (n=9,443) | 4.1 (n=4,549) | 8.0 (n=4,628) | *** |
| ネットのし過ぎが原因で、試験に失敗したことがある | 9.9 (n=9,437) | 10.0 (n=4,547) | 9.7 (n=4,624) | ns |
| ネットのし過ぎが原因で、約束事をすっぽかしたことがある | 5.4 (n=9,446) | 7.0 (n=4,550) | 3.7 (n=4,630) | *** |
| ネットのし過ぎが原因で、友だちを失ったことがある | 1.8 (n=9,412) | 1.8 (n=4,531) | 1.7 (n=4,615) | ns |
| | 1年生 | 2年生 | 3年生 | χ^2 検定 |
| ネットのし過ぎが原因で、何度か学校に遅刻したことがある | 2.4 (n=3,108) | 3.2 (n=3,277) | 4.8 (n=3,069) | *** |
| ネットのし過ぎが原因で、何度か学校を休んだことがある | 1.0 (n=3,108) | 1.2 (n=3,277) | 1.5 (n=3,069) | ns |
| ネットのし過ぎが原因で、身体的な健康を損ねたことがある | 6.9 (n=3,103) | 7.5 (n=3,275) | 8.6 (n=3,066) | * |
| ネットのし過ぎが原因で、精神的に不安定になったことがある | 6.2 (n=3,105) | 5.9 (n=3,273) | 6.3 (n=3,065) | ns |
| ネットのし過ぎが原因で、試験に失敗したことがある | 10.1 (n=3,105) | 11.5 (n=3,271) | 8.0 (n=3,061) | *** |
| ネットのし過ぎが原因で、約束事をすっぽかしたことがある | 6.7 (n=3,105) | 5.4 (n=3,275) | 4.2 (n=3,066) | *** |
| ネットのし過ぎが原因で、友だちを失ったことがある | 2.0 (n=3,094) | 1.5 (n=3,261) | 2.0 (n=3,057) | ns |

※記号は χ^2 乗検定結果の有意水準を表す：*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$, ns 有意な偏り無し

※数値は各項目（二択）への該当割合。

※分析対象は依存傾向判定可能な回答者。N数は欠損値を除いた値。

6.5 ネット依存関連その他の質問の回答状況

Q15の項目(8)～(12)で尋ねたネット依存関連の質問項目を集計したところ（表 6.5.1）、分析対象全体では66.2%が「今の時代、ネットを使って生活するのは当たり前だと思う」と答え、「暇さえあれば、ネットを利用している」人は49.7%に上った。「お金を払って、ネット上のゲームやコンテンツ（音楽、アプリなど）を買ったことがある」人も33.0%に及んでいる。中学生の意識面・行動面においてネットのある生活がごく当たり前のものとなっていることを表した結果と考えられる。

「自分はネット依存だと思う」と答えた人は分析対象全体の20.4%である。同じ分析対象の中で依存傾向者は5.7%であるから、ヤング基準が唯一絶対の基準ではないにしても、残り15%ほどの人は自身のことを過度に心配しているだけの可能性がある。他方で、興味深いことに依存傾向者の約3割はこの質問に「いいえ」と答えており（図 6.5.1）、自分が

ネット依存に陥っているかもしれないことへの自覚が無い。

性別による比較では「ネットのしすぎが原因で、ひきこもり気味になっている」を除く4項目に有意な偏りが見られ、「お金を払って、ネット上のゲームやコンテンツ（音楽、アプリなど）を買ったことがある」以外の3項目では女子の該当割合の方が高かった。

学年別でも「ネットのしすぎが原因で、ひきこもり気味になっている」を除く4項目で有意な偏りが見られ、いずれも上の学年ほど該当割合が高い結果となった。

表 6.5.1 ネット依存関連その他の質問 属性別比較（単位：％）

| | 全体 | 男子 | 女子 | χ^2 検定 |
|--|----------------|----------------|----------------|-------------|
| お金を払って、ネット上のゲームやコンテンツ（音楽、アプリなど）を買ったことがある | 33.0 (n=9,450) | 42.3 (n=4,551) | 23.6 (n=4,632) | *** |
| 暇さえあれば、ネットを利用している | 49.7 (n=9,439) | 45.4 (n=4,551) | 53.8 (n=4,624) | *** |
| ネットのしすぎが原因で、ひきこもり気味になっている | 7.3 (n=9,437) | 7.0 (n=4,545) | 7.5 (n=4,627) | ns |
| 自分はネット依存だと思う | 20.4 (n=9,416) | 16.9 (n=4,539) | 23.7 (n=4,613) | *** |
| 今の時代、ネットを使って生活するのは当たり前だと思う | 66.2 (n=9,415) | 62.5 (n=4,535) | 70.2 (n=4,616) | *** |
| | 1年生 | 2年生 | 3年生 | χ^2 検定 |
| お金を払って、ネット上のゲームやコンテンツ（音楽、アプリなど）を買ったことがある | 30.8 (n=3,108) | 34.0 (n=3,277) | 34.3 (n=3,065) | ** |
| 暇さえあれば、ネットを利用している | 46.6 (n=3,102) | 50.3 (n=3,273) | 52.2 (n=3,064) | *** |
| ネットのしすぎが原因で、ひきこもり気味になっている | 7.0 (n=3,098) | 7.8 (n=3,274) | 7.2 (n=3,065) | ns |
| 自分はネット依存だと思う | 18.7 (n=3,094) | 20.4 (n=3,266) | 22.0 (n=3,056) | ** |
| 今の時代、ネットを使って生活するのは当たり前だと思う | 62.4 (n=3,094) | 67.2 (n=3,263) | 69.0 (n=3,058) | *** |

※記号は χ^2 乗検定結果の有意水準を表す：*** p<.001, ** p<.01, * p<.05, ns 有意な偏り無し

※数値は各項目（二択）への該当割合。

※分析対象は依存傾向判定可能な回答者。N数は欠損値を除いた値。

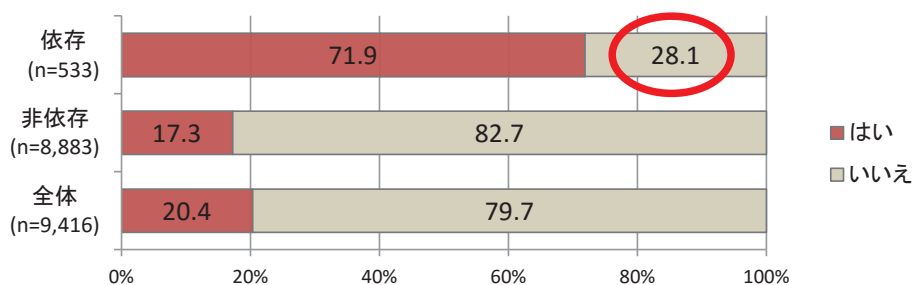


図 6.5.1 「自分はネット依存だと思う」への回答 依存/非依存比較（単位：％）

※分析対象は依存傾向判定可能な回答者。N数は欠損値を除いた値。

Q11ではネットがある生活とない生活のどちらが楽しさや充実を感じることができるか尋ねている。分析対象全体では86.1%がネットのある生活の方が楽しいもしくは充実して

いると回答していた（図 6.5.2）。図 6.5.3 の通り分析対象のネット利用総年数（モバイル機器だけではなく PC やタブレットも含めて、いずれかの機器によるネット利用年数）の平均は 4.9 年、最も早ければ（自己申告ではあるが）生まれた直後からネットを利用している人もいることから、もはや「ネットのない生活」自体が実感も想像もできないものになってしまっている可能性もある。

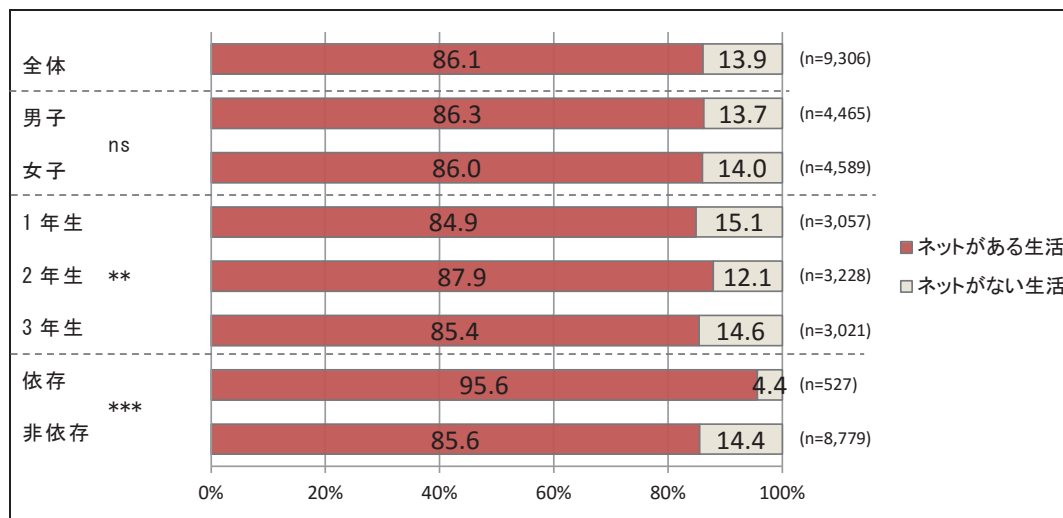


図 6.5.2 ネットのある生活とない生活どちらが楽しい/充実しているか
属性別比較（単位：％）

※記号は χ^2 乗検定結果の有意水準を表す：*** $p < .001$, ** $p < .01$, ns 有意な偏り無し
※分析対象は依存傾向判定可能な回答者。N 数は欠損値を除いた値。

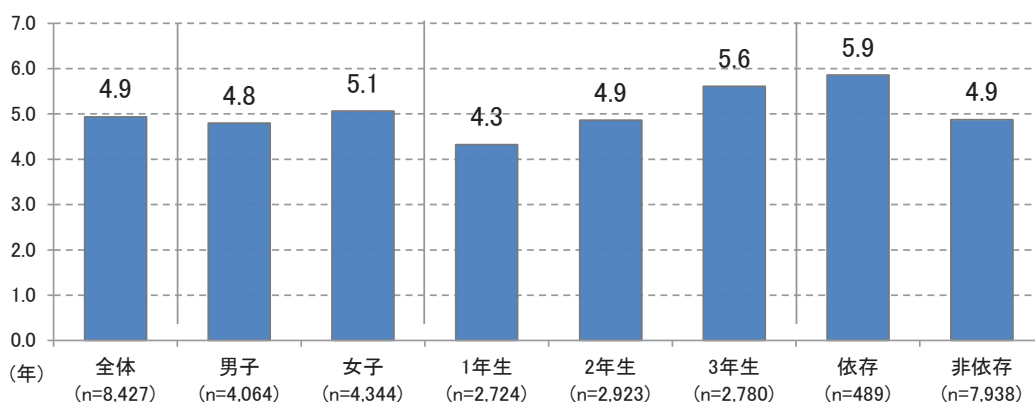


図 6.5.3 ネット利用総年数 属性別比較（単位：年）

※分析対象は依存傾向判定可能な回答者。N 数は欠損値を除いた値。

【 中学生 のインターネットの 利用 に 関 する アンケート 調査 】

【記入にあたってのお願い】

- ・お答えは、あてはまる番号を○で囲むか、()内に具体的に記入してください。
- ・回答に迷う場合は、あなたの気持ち、考えにできるだけ近いものを選んでください。
- ・アンケートの記入が終わったら、記入ミスや記入もれがないか見直してから先生へ提出してください。

アンケート実施：総務省 情報通信政策研究所

問1. あなたは普段、家で次の(1)～(4)の機器を使っていますか。また、それらの機器を使ってネットを利用していますか。次の(1)～(4)のそれぞれについて、

- 「1. 機器を使っており、ネットも利用している」 「2. 機器を使っているが、ネットは利用していない」
 「3. この機器は家にはない」 のいずれか1つに○をつけてください。(○は1つずつ)
 また、「1」に○をつけたものについては、何歳から利用し始めたかも記入してください。

※ネットの利用とは、メール、ソーシャルメディア(LINE(ライン)、Twitter(ツイッター)、Facebook(フェイスブック)、mixi(ミクシィ)など)、動画サイト、ニュース、ブログ、ホームページ、ゲームなど、ネットにつながるあらゆるサービス・アプリの利用を指します。

※「2. 機器を使っているが、ネットは利用していない」は、ネットにつながらない状態で音楽を聴いたり、動画を見たり、ゲームをしたり、文章を書いたりする場合を指します。

| | 機器を使っており、ネットも利用している | ネットを利用し始めた年齢 | 機器を使っているが、ネットは利用していない | この機器は家にはない | NA |
|---|---------------------|--------------|-----------------------|------------|-----|
| (1) パソコン(タブレット端末は除く) | 73.3 | → (9.8)歳 | 13.6 | 8.7 | 4.4 |
| (2) スマートフォン(iPhone、Xperia、AQUOSなど) | 70.4 | → (12.5)歳 | 5.6 | 20.4 | 3.7 |
| (3)ガラケー(スマートフォン以前の型の携帯電話。PHSを含む。スマートフォンは除く) | 46.5 | → (10.1)歳 | 11.7 | 35.2 | 6.6 |
| (4) タブレット端末 (iPad、Xperia Tablet、Nexus 7など) | 44.8 | → (12.3)歳 | 6.8 | 41.9 | 6.4 |

問2. あなたがネットを利用する平日1日の平均時間を、次の(1)～(4)のそれぞれの機器について、お答えください。利用していない場合は「0」を記入してください。

※ネットの利用にはメールも含まれます。

| | 平日1日の平均利用時間 |
|--|---------------------|
| (1) パソコン(タブレット端末を除く)で | ()時間 (40.2)分くらい |
| (2) スマートフォン(iPhone、Xperia、AQUOSなど)で | ()時間 (125.7)分くらい |
| (3)ガラケー(スマートフォン以前の型の携帯電話。PHSを含む。スマートフォンは除く)で | ()時間 (15.5)分くらい |
| (4) タブレット端末 (iPad、Xperia Tablet、Nexus 7など)で | ()時間 (38.1)分くらい |

問3. あなたがネットで、次の(1)～(7)を利用する平日1日の平均時間はどのくらいですか。

- a. パソコンやタブレット端末で利用する時間
 b. スマートフォンやガラケー（スマートフォン以前の型の携帯電話。PHSを含む。スマートフォンは除く）で利用する時間
 それぞれお答えください。利用していない場合は「0」を記入してください。

※(2)～(4)の「ソーシャルメディア」とは、LINE(ライン)、Twitter(ツイッター)、Facebook(フェイスブック)、mixi(ミクシィ)などを指します。

| | 平日1日の平均利用時間 | |
|---------------------------------|------------------------|------------------------|
| | a. パソコンや タブレット端末で利用 | b. スマートフォンや ガラケーで利用 |
| (1) 動画サイトを見る (YouTube、ニコニコ動画など) | 約 () 時間 (41.3) 分 | 約 () 時間 (42.4) 分 |
| (2) ソーシャルメディアを見る | 約 () 時間 (14.4) 分 | 約 () 時間 (55.5) 分 |
| (3) ソーシャルメディアに書き込む | 約 () 時間 (9.3) 分 | 約 () 時間 (32.5) 分 |
| (4) ソーシャルメディアで通話をする | 約 () 時間 (4.4) 分 | 約 () 時間 (12.5) 分 |
| (5) ゲームをする | 約 () 時間 (28.7) 分 | 約 () 時間 (46.5) 分 |
| (6) ニュースサイトを見る | 約 () 時間 (6.0) 分 | 約 () 時間 (8.3) 分 |
| (7) ブログを見る | 約 () 時間 (4.0) 分 | 約 () 時間 (6.6) 分 |

問4. あなたが現在ネットを利用する中で、次のようなことはどの程度ありますか。次の(1)～(12)のそれぞれについて、あてはまるものに1つずつ○をつけてください。(○は1つずつ)

※ネットの利用は、スマートフォン、ガラケー（スマートフォン以前の型の携帯電話。PHSを含む。スマートフォンは除く）、パソコン、タブレット端末など、どんな機器を使う場合でも構いません。

| | いつもある | よくある | ときどきある | めったにない | まったくない | NA |
|---|-------|------|--------|--------|--------|-----|
| (1) 気がつくとき、思っていたより長い時間ネットをしていることがある | 18.4 | 27.5 | 31.3 | 10.9 | 10.9 | 1.1 |
| (2) ネットを長く利用していたために、家の手伝い(炊事、掃除、洗濯など)をおろそかにすることがある | 8.1 | 12.9 | 27.9 | 24.2 | 25.4 | 1.5 |
| (3) 家族や友だちと過ごすよりも、ネットを利用したいと思うことがある | 5.2 | 5.8 | 20.3 | 27.7 | 38.9 | 2.1 |
| (4) ネットで新しく知り合いを作ることがある | 6.6 | 8.0 | 16.5 | 14.8 | 52.2 | 2.0 |
| (5) 周りの人から、ネットを利用する時間や回数について文句を言われたことがある | 6.4 | 10.4 | 25.1 | 19.7 | 37.2 | 1.2 |
| (6) ネットをしている時間が長くて、学校の成績が下がっている | 4.4 | 7.4 | 19.7 | 24.6 | 42.3 | 1.6 |
| (7) ネットが原因で、勉強の能率に悪影響が出ることがある | 5.5 | 9.5 | 23.5 | 22.7 | 36.6 | 2.2 |
| (8) 他にやらなければならないことがあっても、まず先にソーシャルメディア(LINE(ライン)、Twitter(ツイッター)など)やメールをチェックすることがある | 12.1 | 12.9 | 21.0 | 16.9 | 35.9 | 1.2 |
| (9) 人にネットで何をしているのか聞かれたとき、言い訳をしたり、隠そうしたりすることがある | 3.1 | 3.9 | 11.7 | 24.5 | 55.6 | 1.2 |

| | | | | | | |
|--|-------|------|--------|--------|--------|-----|
| | いつもある | よくある | ときどきある | めったにない | まったくない | NA |
| (10) 日々の生活の問題から気をそらすために、ネットで時間を過ごすことがある | 5.9 | 9.0 | 20.0 | 25.3 | 38.5 | 1.3 |
| (11) 気がつけば、また次のネット利用を楽しみにしていることがある | 10.1 | 11.6 | 23.4 | 21.0 | 32.4 | 1.5 |
| (12) ネットのない生活は、退屈で、むなしく、わびしいだろうと不安に思うことがある | 8.3 | 7.9 | 19.8 | 23.7 | 39.0 | 1.4 |

問5. あなたはパソコン、タブレット端末、スマートフォン、ガラケー(スマートフォン以前の型の携帯電話。PHSを含む。スマートフォンは除く)などの機器を問わず、ソーシャルメディアを利用していますか。(○は1つ)

※このアンケートで「ソーシャルメディア」とは、LINE(ライン)、Twitter(ツイッター)、Facebook(フェイスブック)、mixi(ミクシィ)などを指します。

74.7 利用している 17.7 利用していない 7.6 NA

【問6以降も回答してください】 【5ページ問11へお進みください】

問6. あなたは使用する機器を問わず、次の(1)～(5)のようなソーシャルメディアを利用していますか。それぞれについて、「1. 見るだけ」「2. 書込みもする」「3. 利用していない」のいずれか1つに○をつけてください。(○は1つずつ)

また、「見るだけ」「書込みもする」に○をつけたものについては、平日1日の平均利用時間も記入してください。

| | 見るだけ | 書込みもする | 平日1日の平均利用時間 | 利用していない | NA |
|-------------------------|------|--------|------------------|---------|------|
| (1) LINE(ライン) | 16.7 | 61.8 | →約()時間(87.9)分 | 10.1 | 11.5 |
| (2) Twitter(ツイッター) | 16.6 | 27.2 | →約()時間(69.7)分 | 44.6 | 11.6 |
| (3) Facebook(フェイスブック) | 8.1 | 2.6 | →約()時間(27.0)分 | 78.1 | 11.2 |
| (4) mixi(ミクシィ) | 2.4 | 0.8 | →約()時間(38.4)分 | 85.3 | 11.6 |
| (5) (1)～(4)以外のソーシャルメディア | 6.6 | 11.2 | →約()時間(62.2)分 | 68.2 | 14.1 |

問7. あなたがソーシャルメディアでよくやり取りする相手の人数はどのくらいですか。次の(1)～(5)のそれぞれについて、お答えください。よくやり取りする相手がない場合は「0」を記入してください。

| | 人数 |
|---|-----------|
| (1) 家族 | (2.1)人 |
| (2) 同じ学校の友だち | (24.7)人 |
| (3) 学校外の活動(学習塾、クラブ活動、趣味の活動など)を通じて知り合った友だち | (9.6)人 |
| (4) ソーシャルメディア上で初めて知り合い、実際に会ったこともある友だち | (2.0)人 |
| (5) ソーシャルメディア上だけでよくやり取りし、実際には会ったことのない友だち | (18.6)人 |

問8. あなたがソーシャルメディアを利用する理由・目的は何ですか。次の中からあてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでもよい)

| | |
|------------------------------------|----------------------------------|
| 72.5(41.0) 友だちや知り合いとコミュニケーションをとるため | 47.7(8.2) 情報収集のため |
| 12.6(0.7) 新しく友だちを作るため | 28.8(2.2) 写真・動画などを気軽に投稿・シェアできるため |
| 64.1(13.9) 学校・部活動などの事務的な連絡のため | 57.5(15.2) ひまつぶしのため |
| 33.6(2.8) 周囲の人も使っているため | 15.3(1.5) ストレス解消のため |
| 10.9(0.4) 自分の近況や気持ちを知ってもらうため | 10.0(2.4) 現実から逃れるため |
| | 4.6(2.7) その他(具体的に:) |

(9.0) NA ※()は利用する一番の理由・目的の割合

問8-① 上記問8の質問で○をつけた番号のうち、あなたがソーシャルメディアを利用する一番の理由・目的を1つだけ選んで、次の四角の欄に番号を記入してください。

問9. ソーシャルメディアを利用する際に、悩んだり負担に感じたりすることはありますか。次の中からあてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでもよい)

なお、1~11にあてはまるものがなければ「12(1~11であてはまるものはない)」に○をつけてください。

| | |
|------|----------------------------------|
| 16.6 | ソーシャルメディア内の人間関係 |
| 4.0 | 頻繁にメッセージを投稿しなければいけないような気がする |
| 14.8 | 友だちのメッセージをチェックすること |
| 10.8 | 自分の個人情報やプライベートな事柄をどこまで書いてよいものか悩む |
| 8.8 | 他人の個人情報やプライベートな事柄をどこまで書いてよいものか悩む |
| 8.0 | 悪意のあるコメントや荒らしがくる |
| 13.5 | 見ていない間に自分の悪口が書かれていないか心配になる |
| 17.0 | メッセージを読んだことがわかる機能(既読確認など)がある |
| 13.4 | メッセージがきたらすぐに返事を書かなければいけない |
| 21.4 | 友だちとのやり取りをなかなか終わらせられない |
| 14.0 | 自分の書いたメッセージに反応がない |
| 36.4 | 1~11であてはまるものはない |

問10. あなたはソーシャルメディアで友だちとのやり取りが続いている時、どのようにして終わらせますか。次の中からあてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでもよい)

| | |
|------|--|
| 30.4 | 自分がやめようと思った時点で「やめる」と伝える |
| 21.8 | 返事をせず、一方的に終わらせる |
| 54.2 | 勉強・食事・風呂・睡眠などを口実にする |
| 14.0 | 「家族に注意された」「家族に呼ばれた」など、家族を口実にする |
| 25.9 | 「そろそろ出かける時間だから」など、他の予定があることを口実にする |
| 31.0 | 何気ない言葉や絵文字・スタンプなどを使って、それとなくやめたいことをおわせる |
| 14.8 | 「そろそろ眠たくない？」などと気づかうことで、相手から言い出すように仕向ける |
| 8.5 | 相手が「やめよう」と言い出すまで、自分からは何も言い出さない |
| 8.4 | その他(具体的に:) |

【 次の質問には全員お答えください 】

問 11. あなたは「ネットがある生活」と「ネットがない生活」のどちらの生活が、楽しいと感じたり、充実していると思いますか。(○は1つ)

84.3 ネットがある生活

13.3 ネットがない生活

2.3 NA

問 12. あなたはネットを使うようになってから、使い始める前と比べて友だちや保護者との関係に変化を感じますか。次の中からあてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでもよい)

なお、1～15にあてはまるものがなければ「16(1～15であてはまるものはない)」に○をつけてください。

※ネットの利用とは、メール、ソーシャルメディア (LINE(ライン)、Twitter(ツイッター)、Facebook(フェイスブック)、mixi(ミクシィ)など)、動画サイト、ニュース、ブログ、ホームページ、ゲームなど、ネットにつながるあらゆるサービス・アプリの利用を指します。

※ネットの利用は、スマートフォン、ガラケー(スマートフォン以前の型の携帯電話。PHSを含む。スマートフォンは除く)、パソコン、タブレット端末など、どんな機器を使う場合でも構いません。

49.0 友だちとのつき合いが深くなった

42.9 色々な友だちと幅広くつき合うようになった

39.7 友だちの数が増えた

15.7 ネット上で見知らぬ人とやり取りするようになった

22.2 ネット上で同じ趣味の友だちと知り合うようになった

20.3 普段あまり接しないような人(違う地域の人、違う世代の人)と知り合うようになった

22.3 悩みを相談できる相手があった

1.7 友だちに縛られるようになった

13.9 友だちとのやり取りに気がつかうことが多くなった

6.2 友だちとのやり取りが気になって他のことに集中できなくなった

15.1 自分の気持ちについて、より積極的に表現できるようになった

22.9 保護者と頻繁に連絡を取り合うようになった

5.1 保護者と本音で話ができるようになった

3.4 保護者に縛られるようになった

19.9 保護者に注意されることが多くなった

21.7 1～15であてはまるものはない

問 13. あなたはネットを使うようになってから、使い始める前と比べて次のような変化を感じますか。次の中からあてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでもよい)

なお、1～10にあてはまるものがなければ「11(1～10であてはまるものはない)」に○をつけてください。

- 69.7 ネットでわからないことをすぐに調べられるので、時間を効率的に使えるようになった
- 25.2 ネットを通じて友だちに質問したり、質問サイトでわからないことを簡単に尋ねることができるので、勉強がはかどるようになった
- 37.3 ネット上の辞書サイトを使って、英語や国語の勉強がはかどるようになった
- 17.8 ネット上の教材(動画やアプリなど)を使って楽しく勉強できるようになった
- 51.1 いろいろな情報を収集できるので知識が増えた
- 48.4 今まで知らなかったことでも簡単に調べられるので世界が広がった
- 32.4 よくニュースに触れるようになった
- 13.0 情報を受け取るだけでなく、自分からも発信できるようになった
- 36.0 いろいろな情報を知ることができるので、友だちとの話題が増えた
- 42.1 生活が楽しくなった
- 7.4 1～10であてはまるものはない

問 14. あなたが現在ネットを利用する中で、次のようなことはどの程度ありますか。次の(1)～(12)のそれぞれについて、あてはまるものに1つずつ○をつけてください。(○は1つずつ)

※ネットの利用は、スマートフォン、ガラケー(スマートフォン以前の型の携帯電話。PHSを含む。スマートフォンは除く)、パソコン、タブレット端末など、どんな機器を使う場合でも構いません。

| | いつもある | よくある | ときどきある | めったにない | まったくない | NA |
|--|-------|------|--------|--------|--------|-----|
| (1) ネットをしている最中に誰かに邪魔をされると、イライラしたり、怒ったり、言い返したりすることがある | 3.6 | 6.5 | 20.7 | 26.8 | 40.3 | 2.1 |
| (2) 夜遅くまでネットをすることが原因で、睡眠時間が短くなっている | 9.2 | 12.2 | 23.8 | 18.5 | 33.9 | 2.4 |
| (3) ネットをしていないときでも、ネットのことを考えてぼんやりしたり、ネットをしているところを空想したりすることがある | 2.8 | 3.5 | 10.4 | 21.9 | 59.2 | 2.3 |
| (4) ネットをしているとき「あと数分だけ」と自分で言い訳していることがある | 7.6 | 11.5 | 23.6 | 18.7 | 36.4 | 2.3 |
| (5) ネットをする時間や回数を減らそうとしても、できないことがある | 6.8 | 9.8 | 21.0 | 21.7 | 38.0 | 2.7 |
| (6) ネットをしている時間や回数を、人に隠そうとすることがある | 2.5 | 3.2 | 8.9 | 21.5 | 61.3 | 2.7 |
| (7) 誰かと外出するより、ネットを利用することを選ぶことがある | 3.4 | 3.4 | 11.3 | 20.6 | 58.7 | 2.7 |
| (8) ネットをしている時は何ともないが、ネットをしていない時はイライラしたり、憂うつな気持ちになったりする | 2.0 | 1.6 | 6.1 | 18.1 | 70.0 | 2.2 |
| (9) 自分の身近にケータイ(スマートフォンやガラケー)が無いと落ち着かない | 6.0 | 5.7 | 14.2 | 20.1 | 51.5 | 2.5 |
| (10) ネット上のメッセージにはすぐに返信する | 7.4 | 12.7 | 25.9 | 15.4 | 35.9 | 2.8 |
| (11) ネットでやり取りしている時、相手からの返信が遅いとイライラする | 1.4 | 1.8 | 9.0 | 21.7 | 63.4 | 2.6 |
| (12) 友だちからのメッセージが気になりネットで常に確認している | 2.8 | 3.9 | 13.5 | 20.8 | 56.4 | 2.5 |

問 15. あなたがこれまでネットを利用してきた中で、次のような経験をしたり、感じたりしたことがありますか。次の(1)～(12)のそれぞれについて、「はい」か「いいえ」でお答えください。(○は1つずつ)

※ネットの利用は、スマートフォン、ガラケー(スマートフォン以前の型の携帯電話。PHSを含む。スマートフォンは除く)、パソコン、タブレット端末など、どんな機器を使った場合でも構いません。

| | はい | いいえ | NA |
|--|------|------|-----|
| (1) ネットのしすぎが原因で、何度か学校に遅刻したことがある | 3.8 | 94.4 | 1.9 |
| (2) ネットのしすぎが原因で、何度か学校を休んだことがある | 1.4 | 96.7 | 1.9 |
| (3) ネットのしすぎが原因で、身体的な健康を損ねたことがある | 7.7 | 90.3 | 2.0 |
| (4) ネットのしすぎが原因で、精神的に不安定になったことがある | 6.0 | 91.9 | 2.0 |
| (5) ネットのしすぎが原因で、試験に失敗したことがある | 9.7 | 88.2 | 2.1 |
| (6) ネットのしすぎが原因で、約束事をすっぽかしたことがある | 5.7 | 92.3 | 2.0 |
| (7) ネットのしすぎが原因で、友だちを失ったことがある | 1.9 | 95.8 | 2.3 |
| (8) お金を払って、ネット上のゲームやコンテンツ(音楽、アプリなど)を買ったことがある | 33.0 | 65.1 | 1.9 |
| (9) 暇さえあれば、ネットを利用している | 49.3 | 48.6 | 2.1 |
| (10) ネットのしすぎが原因で、ひきこもり気味になっている | 7.2 | 90.7 | 2.1 |
| (11) 自分はネット依存だと思う | 20.0 | 77.7 | 2.3 |
| (12) 今の時代、ネットを使って生活するのは当たり前だと思う | 64.8 | 32.9 | 2.3 |

問 16. あなたはスマートフォンもしくはガラケー(スマートフォン以前の型の携帯電話。PHSを含む。スマートフォンは除く)を利用していますか。(○は1つ)

| | | |
|-------------|-------------|--------|
| 92.3 利用している | 6.4 利用していない | 1.3 NA |
|-------------|-------------|--------|

【問17以降も回答してください】

【9ページ問21へお進みください】

問 17. あなたがスマートフォンやガラケー(スマートフォン以前の型の携帯電話。PHSを含む。スマートフォンは除く)を使い始めたことによって、使い始める前より大幅に減った時間はありますか。次の中からあてはまるものに○をつけてください。(○はいくつでもよい)

なお、あてはまるものがなければ、「15(1～14であてはまるものはない)」に○をつけてください。

※スマートフォンやガラケーを使うことによる影響で、以前よりも時間が減ったものに○をつけてください。生活習慣や生活リズムが変わったことによって以前よりも時間が減ったものについては○をつけないでください。

| | |
|---------------------------|----------------------|
| 29.0 勉強の時間 | 22.0 本を読む時間 |
| 1.9 部活の時間 | 16.4 マンガや雑誌を読む時間 |
| 17.9 外で運動する時間 | 24.5 テレビを見る時間 |
| 3.8 食事の時間 | 13.9 家族と話をする時間 |
| 33.7 睡眠時間 | 5.4 友だちと会う時間 |
| 19.2 家の手伝い(炊事、掃除、洗濯など)の時間 | 1.0 その他(具体的に：) |
| 10.8 外へ遊びに出かける時間 | 24.2 1～14であてはまるものはない |
| 14.5 ネット以外の趣味に使う時間 | |

問 18. スマートフォンやガラケー（スマートフォン以前の型の携帯電話。PHS を含む。スマートフォンは除く）の利用について、あなたは保護者とどのような約束をしていますか。次の中からあてはまるものに○をつけてください。（○はいくつでもよい）

なお、約束をしていなければ「8（約束していることはない）」に○をつけてください。

- 19.0 「何時以降は利用しない」など利用してよい時間帯を制限している
- 8.1 「何時間以上利用しない」など利用時間の上限を決めている
- 13.8 自分の部屋や寝室ではスマートフォンやガラケーを使わない
- 53.4 食事中はスマートフォンやガラケーを使わない
- 14.4 利用料金の上限を決めている
- 14.0 成績が下がったら利用を制限する
- 5.8 その他（具体的に： _____）
- 23.6 約束していることはない

問 19. あなたが現在使っているスマートフォンやガラケー（スマートフォン以前の型の携帯電話。PHS を含む。スマートフォンは除く）では、フィルタリングサービスを利用していますか。次の1～4について、あてはまるものに○をつけてください。（○は1つ）

※フィルタリングサービスとは、スマートフォンやガラケー（スマートフォン以前の型の携帯電話。PHS を含む。スマートフォンは除く）を安心・安全に使えるように、青少年に有害なインターネット上の情報を制限することができる機能です

- 37.8 利用している
- 13.7 最初から利用していない
- 3.3 利用していたが解除した
- 30.7 利用しているかどうか分からない

14.5 NA

問 19-① 上記問 19 の質問で、「1（利用している）」と答えた方に質問します。具体的にどのようなサービスを利用していますか。次の(1)～(4)のそれぞれについて、あてはまるものに1つずつ○をつけてください。（○は1つずつ）

| | つかっている | さいしょからつかっていない | つかっていたが解除した | つかっているかどうか分からない | |
|-------------------------------------|--------|---------------|-------------|-----------------|-----|
| (1) アプリの起動を制限する機能 | 39.1 | 28.5 | 1.8 | 27.3 | 3.2 |
| (2) Wi-Fi 接続時の閲覧を制限する機能 | 44.3 | 22.4 | 1.2 | 28.8 | 3.2 |
| (3) 利用時間を制限する機能 | 11.7 | 52.5 | 2.1 | 28.8 | 4.9 |
| (4) サイト・アプリの閲覧制限を個別に設定(カスタマイズ)できる機能 | 52.9 | 13.8 | 1.1 | 30.3 | 1.9 |

問 20. あなたが利用しているスマートフォンやガラケー（スマートフォン以前の型の携帯電話。PHSを含む。スマートフォンを除く）を購入した際に、お店において、フィルタリングについて説明がありましたか。次の中からあてはまるものに○をつけてください。（○はいくつでもよい）

なお、フィルタリングについて説明がなかった場合⇒「5（フィルタリングについて説明はなかった）」、

覚えていない場合⇒「6（よく覚えていない）」、

保護者などが購入したものを使っているため、購入した時に自分がお店にいなかった場合

⇒「7（購入した時に自分はお店にいなかった）」に○をつけてください。

| | |
|-------|---|
| 13. 3 | フィルタリングの設定方法の説明があり、設定までしてくれた |
| 4. 6 | フィルタリングの設定方法の説明はあったが、設定はしてくれなかった |
| 5. 6 | フィルタリングの解除方法（IDやパスワードの管理を含む）の説明があった |
| 4. 9 | フィルタリングを解除した場合のリスク（有害情報を見ることができる可能性など）の説明があった |
| 2. 6 | フィルタリングについて説明はなかった |
| 42. 6 | よく覚えていない |
| 17. 5 | 購入した時に自分はお店にいなかった |

問 20-① 上記問 20 の質問で、1～4 のいずれかに○をつけた方に質問します。説明の方法はどうでしたか。次の1～3について、あてはまるものに1つ○をつけてください。（○は1つ）

| | | | |
|-------|----------------------|-------|---------------------|
| 76. 5 | 資料を見せて口頭でも説明してくれた | 17. 9 | 資料は見せずに口頭だけで説明してくれた |
| 1. 2 | 資料を見せただけで口頭での説明はなかった | 4. 4 | NA |

【 次の質問から先は全員お答えください 】

問 21. 普段、次の(1)～(9)の時間はどのくらいありますか。また、ネットを使い始める前は、どれくらいでしたか。平日1日の平均時間をそれぞれお答えください。※それぞれ行っていない場合は「0」を記入してください。

| | 平日1日の平均時間 | |
|---------------------------|--------------------|--------------------|
| | 普段（現在） | ネットを使い始める前 |
| (1) 平日、睡眠や食事などを除いて家で過ごす時間 | ()時間(367.6)分くらい | ()時間(353.4)分くらい |
| (2) 通学にかかる時間 | ()時間(17.7)分くらい | ()時間(16.9)分くらい |
| (3) 部活動の時間 | ()時間(109.0)分くらい | ()時間(101.5)分くらい |
| (4) 学習塾や習い事の時間 | ()時間(102.9)分くらい | ()時間(94.7)分くらい |
| (5) 自宅で勉強する時間 | ()時間(59.8)分くらい | ()時間(56.5)分くらい |
| (6) 本を読む時間 | ()時間(26.9)分くらい | ()時間(26.4)分くらい |
| (7) テレビを見る時間 | ()時間(106.1)分くらい | ()時間(114.2)分くらい |
| (8) 睡眠時間 | ()時間(438.1)分くらい | ()時間(460.8)分くらい |
| (9) 家族と顔を合わせて話をする時間 | ()時間(116.9)分くらい | ()時間(116.9)分くらい |

問 22. あなたは今、友だち・保護者との関係や学校生活に満足していますか。次の(1)～(3)のそれぞれについて、あてはまるものに1つずつ○をつけてください。(○は1つずつ)

| | 満足 | やや満足 | やや不満 | 不満 | NA |
|----------|------|------|------|-----|-----|
| (1) 友だち | 62.3 | 26.9 | 5.5 | 2.7 | 2.6 |
| (2) 保護者 | 55.1 | 28.0 | 9.1 | 5.0 | 2.8 |
| (3) 学校生活 | 49.3 | 32.4 | 9.3 | 6.2 | 2.8 |

問 23. あなたには次のことがあてはまりますか。次の(1)～(6)のそれぞれについて、あなたの考えにもっとも近いものに1つずつ○をつけてください。(○は1つずつ)

| | あてはまる | ややあてはまる | あまりあてはまらない | あてはまらない | NA |
|----------------------------|-------|---------|------------|---------|-----|
| (1) 人と一緒にいるのが好きだ | 56.5 | 29.0 | 8.4 | 3.6 | 2.4 |
| (2) 人とのつき合いは自分にとっていつも刺激的だ | 34.7 | 37.4 | 16.9 | 8.0 | 3.0 |
| (3) 人づき合いの機会があれば、よるこんで参加する | 37.0 | 33.1 | 19.9 | 7.1 | 2.9 |
| (4) 今の生活は充実している | 48.4 | 34.3 | 10.1 | 4.1 | 3.1 |
| (5) 気分が沈んで憂うつになることがよくある | 15.1 | 26.0 | 30.1 | 25.7 | 3.2 |
| (6) 夜よく眠れない | 9.3 | 15.8 | 27.0 | 45.2 | 2.8 |

問 24. あなたは現在、友だちとの関係についてどのように考えていますか。次の(1)～(9)のそれぞれについて、あてはまるものに1つずつ○をつけてください。(○は1つずつ)

| | あてはまる | ややあてはまる | あまりあてはまらない | あてはまらない | NA |
|----------------------------------|-------|---------|------------|---------|-----|
| (1) 友だちの数は多い方だ | 29.2 | 42.4 | 18.6 | 6.9 | 2.9 |
| (2) 友だちでもずっと一緒にいたら疲れる | 14.4 | 25.0 | 31.3 | 26.6 | 2.8 |
| (3) 友だちによく悩みごとを相談する | 18.9 | 25.9 | 28.6 | 23.3 | 3.3 |
| (4) 男女にかかわらず友だちになれる | 32.3 | 30.8 | 23.1 | 10.6 | 3.1 |
| (5) 友だちとわかり合おうとして、少しくらい傷ついても構わない | 18.1 | 32.9 | 31.3 | 14.6 | 3.0 |
| (6) どんな友だちとも仲良しでいたい | 33.7 | 30.0 | 21.5 | 11.9 | 3.0 |
| (7) 友だちと一緒にいると楽しい | 62.1 | 27.5 | 4.8 | 2.3 | 3.2 |
| (8) どんな時でも相手の機嫌を損ねたくない | 26.8 | 35.9 | 23.9 | 10.3 | 3.0 |
| (9) できるだけ敵は作りたくない | 46.0 | 30.2 | 12.5 | 8.5 | 2.9 |

問 25. あなたは保護者に対してどのように感じていますか。次の(1)～(11)のそれぞれについて、あてはまるものに1つずつ○をつけてください。(○は1つずつ)

| | あてはまる | ややあてはまる | あまりあてはまらない | あてはまらない | NA |
|----------------------------|-------|---------|------------|---------|-----|
| (1) 普段からあなたの気持ちをよく理解してくれる | 31.3 | 42.3 | 16.5 | 7.0 | 3.0 |
| (2) 日ごろからあなたの実力を評価し、認めてくれる | 26.2 | 38.5 | 22.5 | 9.8 | 3.0 |
| (3) あなたを信頼している | 36.1 | 38.0 | 15.7 | 7.0 | 3.2 |
| (4) あなたが落ち込んでいると、元気づけてくれる | 34.4 | 34.0 | 19.3 | 9.3 | 3.0 |
| (5) どんなに困ったことでも助けてくれる | 35.9 | 35.3 | 18.1 | 7.5 | 3.1 |
| (6) 相談しやすい | 30.6 | 27.5 | 22.8 | 16.0 | 3.1 |
| (7) 一緒にいて楽しい | 37.4 | 34.5 | 17.1 | 7.8 | 3.2 |
| (8) しつめに厳しい | 23.6 | 29.8 | 29.3 | 14.0 | 3.3 |
| (9) あなたに干渉しすぎる | 10.0 | 21.4 | 41.0 | 23.1 | 4.5 |
| (10) あなたに関心がない | 4.9 | 11.6 | 34.0 | 46.1 | 3.4 |
| (11) あなたを嫌っている | 3.6 | 6.6 | 27.4 | 58.8 | 3.5 |

問 26. あなたには次のことがあてはまりますか。次の(1)～(9)のそれぞれについて、あなたの考えにもっとも近いものに1つずつ○をつけてください。(○は1つずつ)

| | あてはまる | ややあてはまる | あまりあてはまらない | あてはまらない | NA |
|------------------------------------|-------|---------|------------|---------|-----|
| (1) 私は周りの人たちとうまくいっている | 30.7 | 51.3 | 10.6 | 4.0 | 3.4 |
| (2) 私には頼りにできる人が誰もいない | 5.8 | 10.1 | 28.9 | 51.8 | 3.4 |
| (3) 私は周りの人たちと興味や考え方があわないと思うことがよくある | 14.7 | 30.1 | 37.3 | 14.3 | 3.6 |
| (4) 不満なことがあった場合に聞いてくれる人がいる | 42.9 | 33.4 | 13.8 | 6.4 | 3.6 |
| (5) 自分が他人にどう思われているのか気になる | 29.8 | 33.5 | 20.9 | 12.3 | 3.5 |
| (6) 自分についての噂に関心がある | 19.8 | 29.3 | 28.9 | 18.4 | 3.5 |
| (7) 人前で何かをするとき、自分の仕事や姿が気になる | 22.5 | 33.8 | 25.9 | 14.2 | 3.6 |
| (8) 友達などから色々和相談されることが多い | 19.4 | 35.0 | 29.2 | 12.8 | 3.6 |
| (9) 他人からの評価を考えながら行動する | 16.6 | 32.5 | 30.5 | 16.9 | 3.6 |

F 1 あなたの年齢、学年、性別を教えてください。(性別：○はどちらか1つ)

| | | | | | | | |
|------|---------|------|--------|------|--------|--------|--------|
| 【年齢】 | 満 () 歳 | 【学年】 | () 年生 | 【性別】 | 48.6 男 | 47.7 女 | 3.7 NA |
|------|---------|------|--------|------|--------|--------|--------|

12歳 3.5 13歳 30.8 14歳 32.0 15歳 27.5 16歳 0.5 NA 5.7 1年 33.5 2年 34.3 3年 32.2

【 以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました 】

平成 27 年 9 月関東・東北豪雨における常総市の情報伝達と避難行動
The Problem of Information Dissemination and Evacuation Behavior
in Joso City under Kanto-Tohoku Heavy Rainfall Disaster in September 2015

作間 敦 Atsushi Sakuma 柏田すみれ Sumire Kashiwada
荒木優弥 Masaya Araki 松尾 一郎 Iciro Matsuo
関谷直也 Naoya Sekiya

目 次

- 1 平成 27 年 9 月関東・東北豪雨について
 - 1.1 気象状況
 - 1.2 鬼怒川流域の被害
 - 1.3 常総市災害対策本部の対応
- 2 調査の目的と方法
 - 2.1 調査の目的
 - 2.2 既往調査・研究
 - 2.2 調査の方法
- 3 被害状況と入手した情報
 - 3.1 避難情報による地域分類
 - 3.1 水害による被害
 - 3.3 水害時に入手した情報
- 4 住民の避難に関する行動
 - 4.1 避難した人の行動
 - 4.2 避難の形態
 - 4.3 避難しなかった人の行動
 - 4.4 孤立の発生状況

キーワード：災害情報、水害情報、河川情報

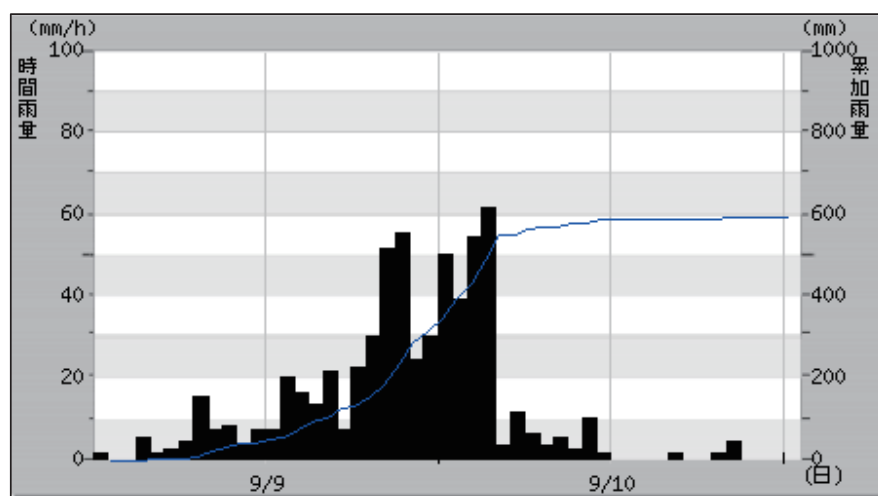
執筆分担：作間 敦（CeMI 環境・防災研究所） 4 .
柏田 すみれ（環境防災総合政策研究機構） 1 . 2 . 3 .
荒木 優弥（環境防災総合政策研究機構）
松尾 一郎（CeMI 環境・防災研究所）
関谷 直也（東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター）

1 平成 27 年 9 月関東・東北豪雨の概要

1.1 気象状況

台風第 18 号や前線および台風 17 号周辺からの南東風を主体とした南よりの風の影響により、多数の線状降水帯が継続して発生、9 月 9 日から 11 日にかけて、関東地方北部と東北地方南部では記録的な大雨となった。

栃木県日光市五十里観測所において、9 月 9 日から 10 日にかけて、観測史上最多 24 時間雨量 551(mm/24h)を記録した(図 1.1)。その他、各地の雨量観測所で観測史上最多雨量(1 時間、3 時間、24 時間、72 時間)を観測する記録的な大雨となった。



※水文水質データベースより [online] <http://www1.river.go.jp/>

図 1.1 五十里雨量観測所のハイエトグラフ

鬼怒川水海道地点(10.95k)において、10 日 7 時から 11 日 2 時までの 19 時間にわたり、はん濫危険水位(5.30m)を超過、さらに 10 日 11 時から 16 時までの 5 時間にわたって計画高水位(7.33m)を超過し、観測史上最高水位 8.06m(10 日 13 時)を記録した。また、平方地点(37.27k)では、10 日 7 時から 15 時までの 8 時間にわたって計画高水位 8.28m を超過し、観測史上最高水位 9.45m(10 時)を記録した(図 1.2)。流量についても、鬼怒川水海道地点において約 4,000(m³/s)(計画高水流量 5,000(m³/s))、平方地点において約 4,200m³/s(計画高水流量 5,400(m³/s))を観測し、観測史上最大流量を記録した。

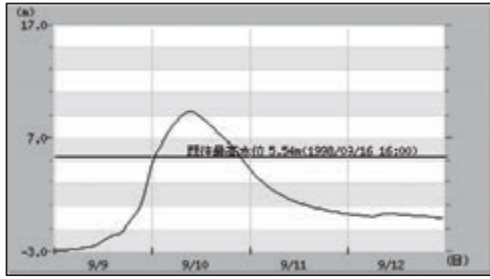
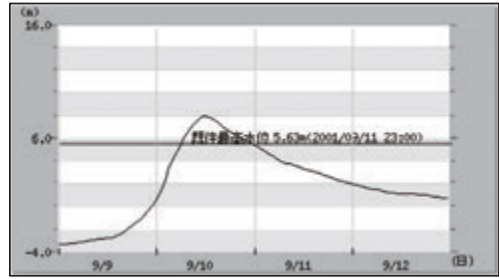


図 1.2 鬼怒川水海道水位観測所の
のヒドログラフ



※ 国土交通省『水文水質データベース』
[online] <http://www1.river.go.jp/>
図 1.3 平方水位観測所
のヒドログラフ



※ 国土交通省『鬼怒川河川維持管理計画』
[online] <http://www.ktr.mlit.go.jp/shimodate/gaiyo10/h23ijikanri%20kinu.pdf>
図 1.4 利根川水系鬼怒川管内図

1.2 鬼怒川流域の被害

平成 27 年 9 月関東・東北豪雨の影響により、鬼怒川流域の常総市においては死者 2 名(常総市)、重症者 3 名を含む負傷者 40 名以上、全半壊家屋が 5,000 棟以上という甚大な被害が生じた(表 1.1)。また、ライフライン等への影響として、関東地方から東北地方の広範囲に渡って断水、停電、電話不通、ガスの供給支障、通信寸断などの被害が発生し、道路通行止め、鉄道運休などの影響が生じた。

表 1.1 常総市および周辺自治体の人的・物的被害

| 10月30日16時現在 | | |
|-------------|----------|---|
| 項目 | 自治体名 | 状況等 |
| 人的被害 | 常総市 | 死亡2名、重症3名、中等症21名、軽症20名 |
| 住家被害 | 常総市 | 全壊53、大規模半壊1,575、半壊3,475、床上浸水148、床下浸水3,072 |
| | 結城市 | 大規模半壊6、半壊44、床上浸水1、床下浸水15 |
| | 筑西市 | 大規模半壊68、半壊3、床下浸水18 |
| | 下妻市 | 全壊1、半壊39、床上浸水16、床下浸水110 |
| | つくばみらい市 | 半壊13、床上浸水1、床下浸水21 |
| 救助者 | | ヘリによる救助者数 1,339人 |
| | | 地上部隊による救助者数 2,919人 |
| 避難に関する情報 | 常総市 | ①避難指示 11,230世帯, 31,398人 |
| | 常総市 | ②避難勧告 990世帯, 2,775人 |
| | 常総市及び下妻市 | 避難所開設等 避難者数 7,032人 |

※常総市『平成 27 年常総市鬼怒川水害対応に関する検証報告書』

[online] http://www.city.joso.lg.jp/ikkrwebBrowse/material/files/group/6/kensyou_houkokusyo.pdf

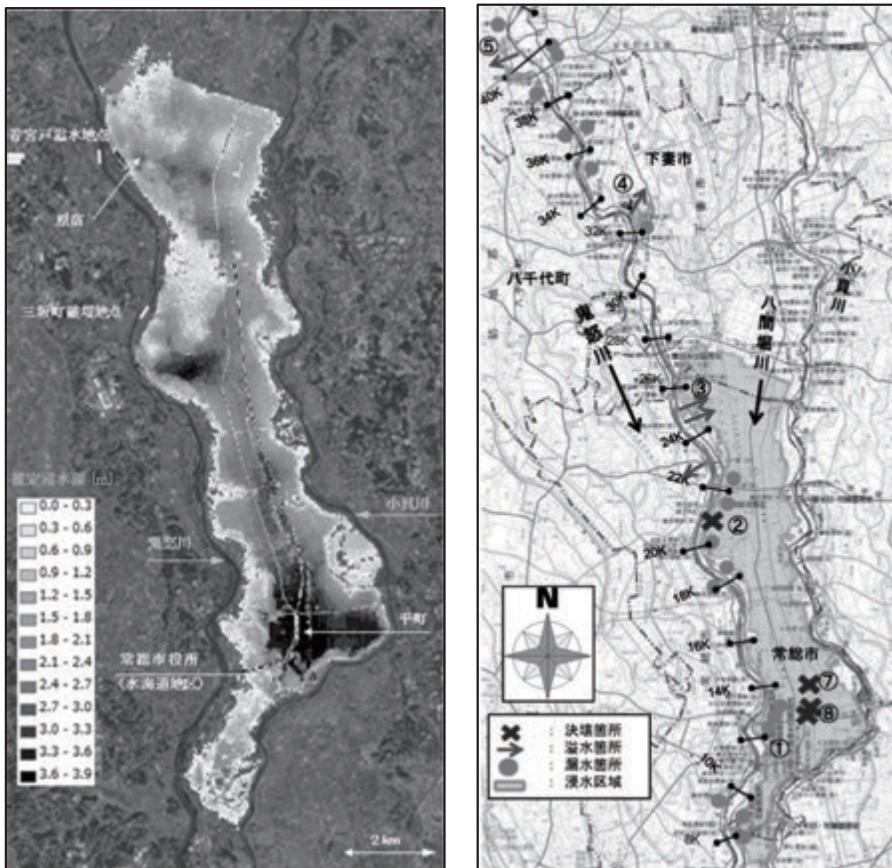
利根川水系鬼怒川において、河川堤防の決壊 1 箇所(鬼怒川左岸 21.0k 付近常総市三坂町地先)、溢水 7 箇所(若宮戸地先ほか)をはじめ、漏水、堤防・河岸洗掘、法崩れ・すべりなど被災が確認された(平成 27 年 9 月 30 日時点)。常総市内の最大浸水範囲は約 40 ㎩に達したものの、排水ポンプ車をはじめとした排水活動の結果、10 日間程度で主な宅地及び公共施設の浸水が概ね解消した(表 1.2、図 1.5)。

また、常総市内には、氾濫の数日前より気象や水文・避難に関する様々な情報が発表されている。8 日 13 時 29 分には大雨注意報、9 日 5 時 00 分には洪水注意報が発表され、9 日 16 時 36 分には、大雨洪水警報に切り替わっている。10 日 0 時 15 分には、はん濫危険情報が発表、1 時 40 分に玉地区、本石下、新石下の一部に避難準備情報が発表されて以降、市内各地域に避難情報が発表されている。最終的には、10 日 12 時 50 分に上三坂地点で堤防が決壊したことを受け、鬼怒川東地区に避難指示が発表されている(図 1.6)。

表 1.2 鬼怒川および八間掘川の被害

| 9月30日9時時点 | | | |
|-----------------------|---------|----------|------------------------|
| 河川名 | 被害 | 箇所数と発生地点 | |
| 鬼怒川 | 決壊 | 1箇所 | 鬼怒川左岸21.0k付近 常総市三坂町地先 |
| | 溢水 | 7箇所 | 鬼怒川左岸45.9k付近 筑西市伊佐山地先 |
| | | | 鬼怒川左岸44.1k付近 筑西市船玉地先 |
| | | | 鬼怒川右岸40.6k付近 結城市上山川地先 |
| | | | 鬼怒川左岸32.8k付近 下妻市前河原地先 |
| | | | 鬼怒川左岸24.75k付近 常総市若宮戸地先 |
| | | | 鬼怒川左岸25.35k付近 常総市若宮戸地先 |
| 鬼怒川右岸23.1k付近 常総市向石下地先 | | | |
| 漏水 | 23箇所 | | |
| 堤防・河岸洗掘 | 31箇所 | | |
| 法崩れ・すべり | 7箇所 | | |
| その他 | 28箇所 | | |
| 八間掘川 | 決壊・護岸崩壊 | 3箇所 | |

※ 国土交通省関東地方整備局『鬼怒川緊急対策プロジェクトの概要』
 [online] http://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000648060.pdf



京都大学防災研究所『平成27年関東・東北水害鬼怒川氾濫による常総市周辺の浸水深分布調査』(第二報) [online] <http://www.dpri.kyoto-u.ac.jp/news/5693/> (左)、国土交通省『「平成27年9月関東・東北豪雨」に係る洪水被害および復旧状況等について』 [online] http://www.ktr.mlit.go.jp/ktr_content/content/000638258.pdf (右)

図 1.5 常総市の最大浸水範囲および浸水深(左)鬼怒川と八間掘川の決壊・溢水状況

| 日付 | 時刻 | 避難に関する情報 | 気象・水文情報 | 対象区域 | 世帯(世帯) | 人口(名) |
|-------|-------|----------|---------------------|--|--------|-------|
| 8日 | 13:29 | | 大雨注意報 | 常総市 | | |
| 9日 | 5:00 | | 洪水注意報 | | | |
| | 16:36 | | 大雨(土砂災害・浸水害)警報、洪水警報 | 常総市 | | |
| 10日 | 0:10 | 災害対策本部設置 | | | | |
| | 0:15 | | はん濫危険情報 | 鬼怒川川島地点 | | |
| | 0:20 | | 大雨特別警報 | 栃木県 | | |
| | 1:40 | 避難準備情報 | | 玉地区、本石下、新石下の一部 | 2,448 | 7,229 |
| | 2:20 | 避難指示 | | 玉地区、本石下、新石下の一部 | 2,448 | 7,229 |
| | 4:00 | 避難勧告 | | 新石下の一部、大房、東野原、山口、平内、収納谷 | 990 | 2,775 |
| | 6:30 | | はん濫発生情報 | 鬼怒川若宮戸地点 | | |
| | 7:45 | | 大雨特別警報 | 茨城県 | | |
| | 8:30 | 避難勧告 | | 坂手地区の一部、内守谷地区の一部、菅生地区の一部 | 62 | 186 |
| | 9:25 | 避難指示 | | 鬼怒川周辺の向石下・篠山 | 935 | 2,516 |
| | 9:50 | 避難指示 | | 国道324号線南側の水海道元町、水海道亀岡町、水海道栄町、水海道高野町、水海道天満町、水海道宝町、水海道川又町、水海道淵頭町、水海道諏訪町、水海道山田町 | 2,661 | 7,138 |
| | 10:10 | 避難指示 | | 向石下 | 424 | 1,090 |
| | 10:30 | 避難指示 | | 三妻地区(中三坂上、中三坂下) | 120 | 390 |
| | 11:40 | 避難指示 | | 大輪町、羽生町 | 343 | 1,072 |
| | 11:55 | 避難指示 | | 坂手地区の一部、内守谷地区の一部、菅生地区の一部 | 62 | 186 |
| | 12:50 | | 堤防決壊の情報 | 鬼怒川上三坂地点 | | |
| 13:08 | 避難指示 | | 鬼怒川東地区 | 4,661 | 12,867 | |



鬼怒川東地区：
水海道本町・水海道橋本町・水海道森下町・三妻地区(三坂町・中妻町)※中三坂を除く・五箇地区(沖新田町・三坂新田町・川崎町・上蛇町・福二町)・大生地区(小山戸町・中山町・相野谷町・新井木町・兵町・長助町・箕輪町・大崎町・十花町・平町・東町)

※平成27年台風第18号による大雨等に係る被害状況等について 消防庁応急策室、水害時における避難・応急対策の今後の在り方について(報告) 内閣府、平成27年9月関東・東北豪雨の情報推定浸水範囲 国土地理院より

図 1.6 常総市に関する避難および気象、水文情報と避難に関する情報と発表地域

1.3 常総市災害対策本部の対応

常総市における住民への避難情報の伝達や、災害対策本部の対応は以下のとおりである（表 1.6）。

表 1.6 常総市役所災害対策本部の対応※

| |
|---|
| <p>■ 災害対策本部の運用について</p> <ul style="list-style-type: none">● 避難所を開設し受入準備が整えるという手順に固執したため、災害の進行に合わせた柔軟な対応がとりにくい状況であった。（Ⅲ.1.(1)）● 全員対応によって局所的・逐次的に避難対策が決定されたため、確実な情報伝達が行われていなかった（Ⅲ.1.(1)）。 <p>■ 避難勧告・避難指示の発表について</p> <ul style="list-style-type: none">● 10日10時30分に中三坂上・下地区に避難指示が発表されるが、災害対策本部からの指示で防災無線の放送原稿を作成する際に上三坂地区が漏れていた（Ⅲ.1.(3)）。● 若宮戸溢水に備えた避難対策は避難指示発表まで時間を要したが、その後は何巡もの広報活動が行われ、市内の鬼怒川上流側の避難の呼びかけには一定の効果があつた（Ⅲ.1.(3)）。なお、報告書内では関係各機関や市民の動向との関係も検討する必要性が指摘されている（Ⅱ.(1)）。● 10日13時8分に鬼怒川東側地域の市民を対象に鬼怒川西側への避難指示を行った際に災害対策本部では、市外への避難という選択肢を初めから除外していた（Ⅲ.1.(3)）。 |
|---|

※平成27年常総市鬼怒川水害対応に関する検証報告書より

2 調査の目的と方法

2.1 調査の目的

平成27年9月10日～11日に発生した平成27年9月関東・東北豪雨災害について、発災前後における住民の避難情報および避難に関する行動を把握するため、市内で発表された情報に対する住民の反応と浸水が長時間に渡って進行し被害が拡大する中で、住民がとった避難行動を明らかにすることに重点を置いてアンケート調査を実施した。

2.2 既往調査・研究

平成 27 年 9 月関東・東北豪雨災害についての既往研究は以下の通り実施されており、各成果を踏まえて調査の方法を検討した(表 2.1)。いずれの研究においても、避難の呼びかけ等の情報に対する住民の意識や水害に対する避難の備えについて回答を得ているものの、住民の情報認識や避難に関する行動時の詳細や地区ごとの情報取得や避難行動の違いは明らかにしていない。

表 2.1 既往研究の詳細

| 調査主体 | 調査方法 | 調査期間 | 対象範囲 | 回答数 |
|--|----------------------------|----------------------------------|---|-------|
| 2015 年関東・東北豪雨災害 土木学会・地盤工学会合同調査 団 関東グループ 中央大学 山田正・吉見和紘・諸岡良優・ 永田喜大・清水雄太 | 自宅訪問 によるヒ アリング 調査 | 2015 年 11 月 21 日 - 23 日 | 常総市内の浸水 区域または避難 勧告・避難指示 が発令された地 区の住民 | 512 戸 |
| NHK メディア研究部 入江さやか | 訪問面接 法 | 2015 年 12 月 5 日 - 20 日 | 避難勧告・避難 指示区域内に居 住していた満 20 歳以上の男女個 人 1,000 人を住 民基本台帳から 無作為抽出 | 686 人 |

※敬称略

2.3 調査の方法

本調査は平成 28 年 4 月 1 日から 30 日に特定非営利活動法人 CeMI 環境・防災研究所と東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センターが共同で実施し、避難勧告・指示が発表され、はん濫の影響を受けた鬼怒川左岸を対象地域とし、集落系統抽出法を用いて選定した 22 地区を対象に平成 28 年 4 月 1 日～30 日までアンケート調査を実施した。調査方法は郵送配布・郵送回収とし、郵便番号から地区を抽出し、鬼怒川左岸の地区の約半数の 6,512 世帯へ調査票を郵送配布した。回収率は 33.0%(2,151/6,512)であった(表 3.4)。

表 2.2 アンケート調査方法

| | |
|-----------|---------------------------|
| 実施期間 | 平成28年4月1日～30日 |
| 調査対象者 | 鬼怒川はん濫の影響を受けた鬼怒川左岸住民 |
| 配布数 | 6,512票 |
| 回答数（有効回答） | 2,151票(2,144票) |
| 回収率 | 33.0% |
| 調査方法 | 郵送配布郵送回収法 |
| 抽出方法 | クラスターシステムサンプリング法(集落系統抽出法) |

表 2.3 アンケートの地区別回答数

| 地区名 | 世帯数 | |
|-------------|------|------|
| | 配布数 | 回答数 |
| 1. 上蛇町 | 180 | 64 |
| 2. 沖新田町 | 48 | 18 |
| 3. 三坂町 | 506 | 200 |
| 4. 若宮戸 | 238 | 93 |
| 5. 小保川 | 228 | 77 |
| 6. 豊田 | 486 | 113 |
| 7. 本石下 | 926 | 300 |
| 8. 曲田 | 68 | 25 |
| 9. 平内 | 124 | 23 |
| 10. 大房 | 249 | 68 |
| 11. 中山町 | 90 | 29 |
| 12. 水海道 橋本町 | 827 | 226 |
| 13. 水海道 森下町 | 715 | 173 |
| 14. 東町 | 52 | 13 |
| 15. 箕輪町 | 33 | 15 |
| 16. 長助町 | 41 | 23 |
| 17. 平町 | 42 | 12 |
| 18. 水海道 諏訪町 | 349 | 104 |
| 19. 水海道 宝町 | 412 | 88 |
| 20. 水海道 亀岡町 | 73 | 17 |
| 21. 水海道 山田町 | 675 | 183 |
| 22. 水海道 高野町 | 150 | 47 |
| その他 | - | 202 |
| 無回答 | - | 31 |
| 合計数 | 6512 | 2144 |

3 被害状況と入手した情報

3.1 避難情報による地域分類

22 地区の回答を分析するにあたり、避難情報(避難指示・勧告)の発表時刻で地域を5 分類した(表 3.1)。1 つ目の分類は、9 月 10 日 4:00 (6:15 鬼怒川若宮戸地点の溢水前) までに避難指示もしくは避難勧告が発表された若宮戸・小保川・本石下・平内・大房の 5 地区。2 つ目は、同日 9:50 までに避難指示が発表された水海道 諏訪町・水海道 宝町・水海道 亀岡町・水海道 山田町・水海道 高野町の 5 地区。3 つ目は、同日 10:30 に避難指示が発表された三妻地区(中三坂上、中三坂下)を含む三坂町の 1 地区。4 つ目は、同日 13:08 (12:50 鬼怒川上三坂地点の堤防決壊後)に避難指示が発表された中山町・水海道 橋本町・水海道 森下町・東町・箕輪町・長助町・平町・上蛇町・沖新田町の 9 地区とした。5 つ目は、避難情報の発表されていない豊田・曲田の 2 地区とした。

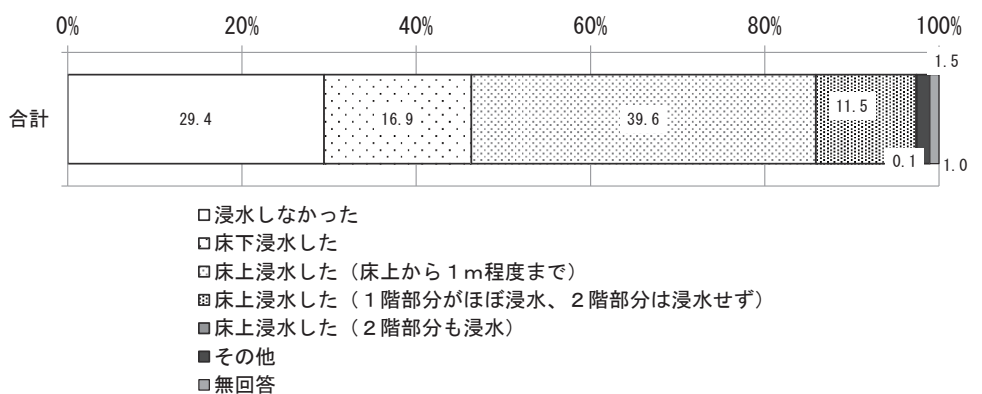
表 3.1 避難情報による地域分類

| No. | 地域名称 | 避難情報 | 地区名 |
|-----|-----------------|-------------------------------------|---|
| 1 | 4:00 までに避難指示・勧告 | 9 月 10 日 4:00 までに避難指示もしくは勧告が発表された区域 | 若宮戸・小保川・本石下(2:20 避難指示発表)、平内・大房(4:00 避難勧告発表) |
| 2 | 9:50 避難指示 | 9 月 10 日 9:50 に避難指示が発表された区域 | 水海道 諏訪町・水海道 宝町・水海道 亀岡町・水海道 山田町・水海道 高野町 |
| 3 | 10:30 避難指示 | 9 月 10 日 10:30 に避難指示が発表された区域 | 三坂町 |
| 4 | 13:08 避難指示 | 9 月 10 日 13:08 に避難指示が発表された区域 | 中山町・水海道 橋本町・水海道 森下町・東町・箕輪町・長助町・平町・上蛇町・沖新田町 |
| 5 | 未発表地域 | 避難情報未発表地域 | 豊田・曲田 |

※6:15 はん濫発生情報(鬼怒川若宮戸地点)、12:50 堤防決壊の情報(鬼怒川上三坂地点)

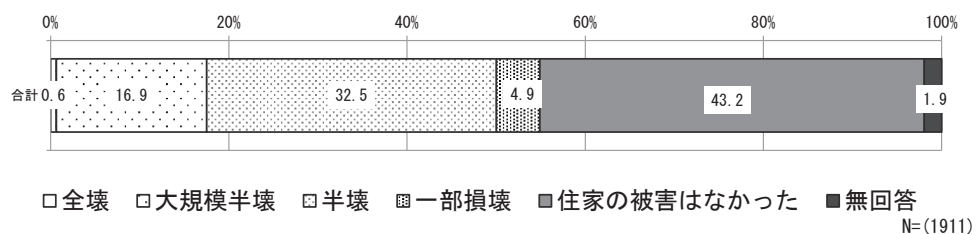
3.2 水害による被害

回答者の大まかな被害状況を把握するため、自宅の浸水状況と内閣府が定める災害の被害認定基準等の損害基準判定に基づき、常総市が判定した被害認定について調査した。回答者の自宅の浸水状況については、床上浸水した（床上から1m程度まで）住家が39.6%と最も多く、次いで浸水しなかった住家が29.4%、床下浸水した住家が16.9%であった（図3.1）。被害認定については、住家の被害はなかったと回答した住民が43.2%と最も多く、次いで半壊32.5%、大規模半壊16.9%であった。全壊と認定された住家は0.6%であった（図3.2）。なお、常総市の検証報告書によると全壊53件、大規模半壊全壊1,581件、半壊3,491件（平成28年6月3日時点）であり、本調査の対象世帯数と回答率を鑑みて、市内の住家被害について概ね傾向をとらえているといえる。



N=(1911)

図 3.1 住家の被害状況



N=(1911)

図 3.2 住家の被害認定

3.3 水害時に入手した情報

(1) 入手した情報の種類と認識

回答者が災害時に入手した情報(雨の状況・河川の情報・避難に関する情報)について、「入手して危機感を感じた」、「入手したが危機感を感じなかった」、「情報を入手しなかった」の3区分で問うた。

注意報・警報などの雨の状況についての情報は、茨城県への大雨特別警報を入手して危機感を感じた回答者の割合が24.7%と大きいものの、雨の状況に関する情報は入手したが危機感を感じなかった回答者の割合が他2つの情報(河川に関する情報・避難に関する情報)と比較して一般的に大きかった。鬼怒川の河川に関する情報について、一番危機感を感じた回答者が多かった情報は上三坂の堤防決壊の情報(45.0%)、次いで鬼怒川がすでに氾濫しているという情報(38.0%)となっており、発災後の現象を直接的な言葉で伝えた情報が最も危機感を与えていた。避難などに関する情報について、避難勧告・避難指示の情報を入手した住民が多く、その情報によって危機感を感じた住民の割合も40.1%と高かった。

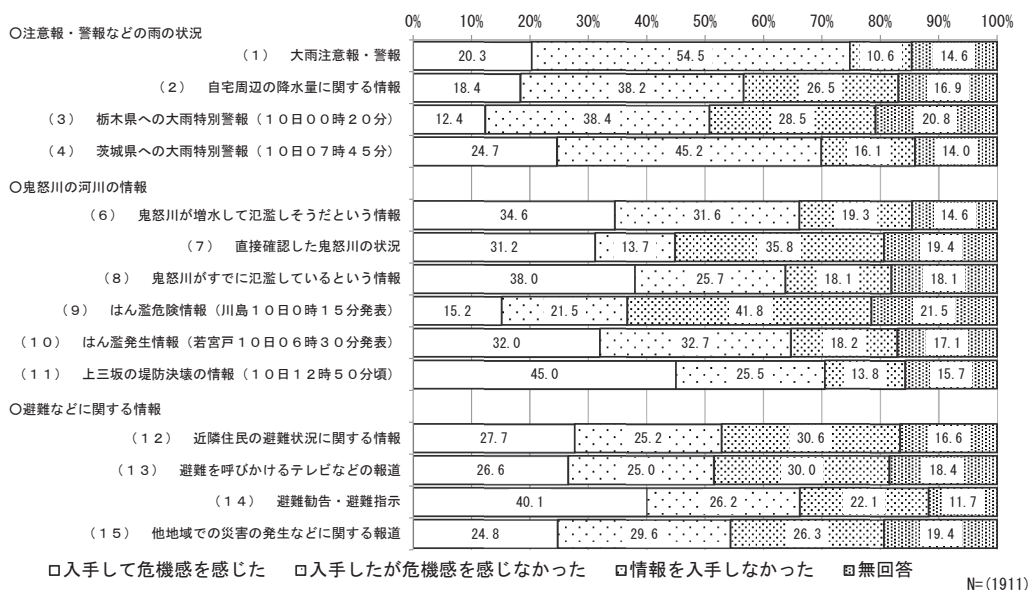


図 3.3 住民が入手した情報と危機感の相対比較

特に情報に関する認知と地域差が顕著に表れたものについて、詳細に分析する。

図 3.4 の「(7) 直接確認した鬼怒川の状況」「(10) はん濫発生情報(若宮戸10日06時30分発表)」「(11) 上三坂の堤防決壊の情報(10日12時50分頃)」について

て、すなわち溢水・決壊に関する情報の伝わり方を分析した。4:00までに避難指示・勧告が発表された地域について、はん濫発生情報、堤防決壊情報は直接確認した情報に対し、同等かそれ以上の危機感を住民に与えているが、その他の地域でははん濫発生情報は入手しても危機感を感じなかった割合が高かった。一方で、全ての地域において上三坂の堤防決壊の情報は直接確認した情報よりも危機感を感じていた住民の割合が大きかった(図 3.4)。

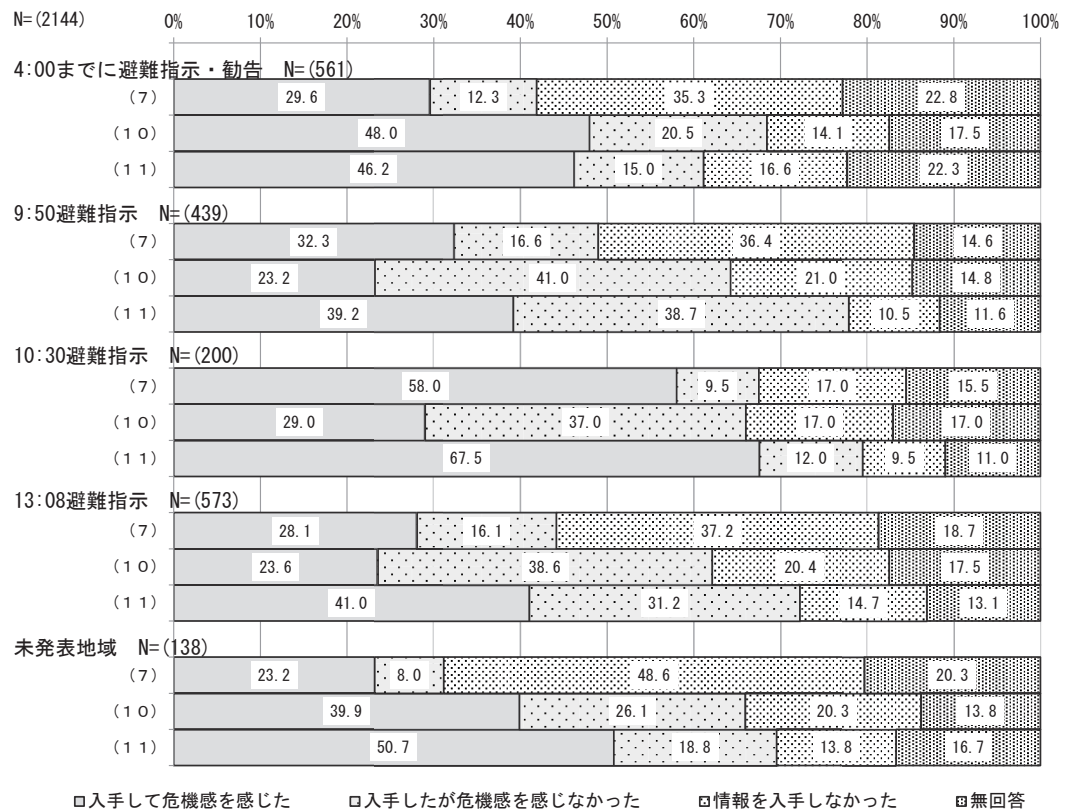


図 3.4 情報と危機感の分析

図 3.5 の「(13) 避難を呼びかけるテレビなどの報道」と「(14) 避難勧告・避難指示」について、避難に関する情報の伝わり方を分析した。避難情報の発表時刻と入手の関係について、時刻が早いほど住民の入手の割合と危機感が高い傾向がみられた。特に 13:08 に避難指示が発表された地域については、未発表地域と同様に危機感が低かった(図 3.5)。

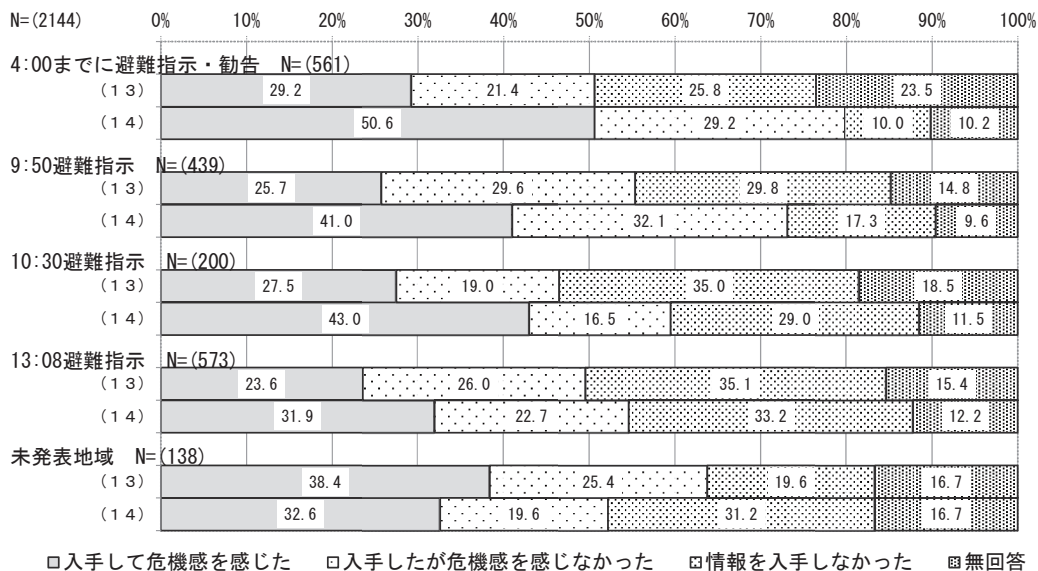


図 3.5 情報と危機感の分析

(2) 情報の入手先

水害時に得た情報の入手先についてテレビやラジオから情報を得た住民が最も多かった(56.9%)。次いで防災行政無線(43.8%)、家族・友人・知人から直接聞いた(34.1%)、直接、浸水してきているのを見た(33.7%)住民が多く、メディアや無線を通じた間接的な呼びかけと直接的な呼びかけや体験の双方から情報を入手していたことが分かった(図 3.6)。

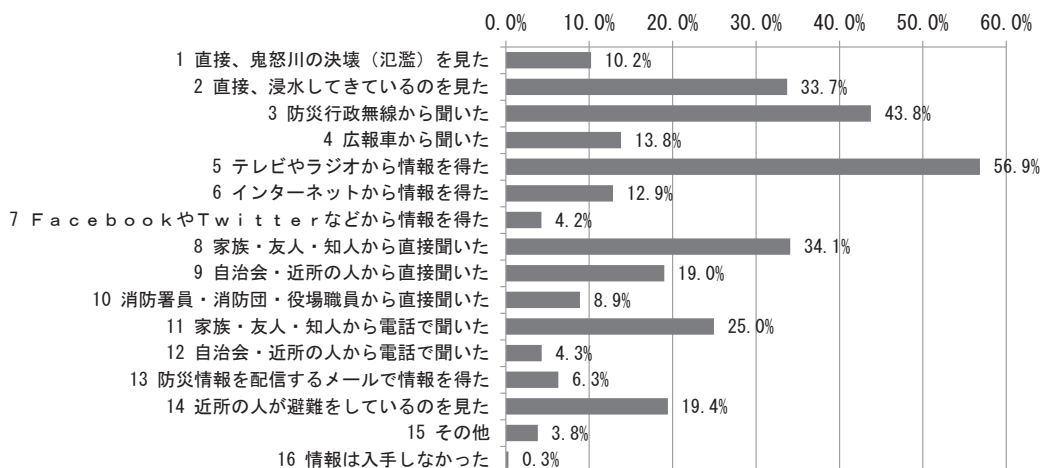


図 3.6 情報の入手先(複数回答)

(3) 浸水への意識

水害に関わる情報を入手した際に、自宅が浸水する可能性があると思った地域は10:30に避難指示がでた地域（50.5%）と、避難情報未発表地域（44.2%）であった（図3.7）。13:08に避難指示が出た地域は自宅が浸水する可能性があるとは思っていなかった人が多かったことが分かった。自宅は浸水しないが、自宅周辺が浸水する可能性は全ての地域において、20%以上の住民があると思ったと回答している。

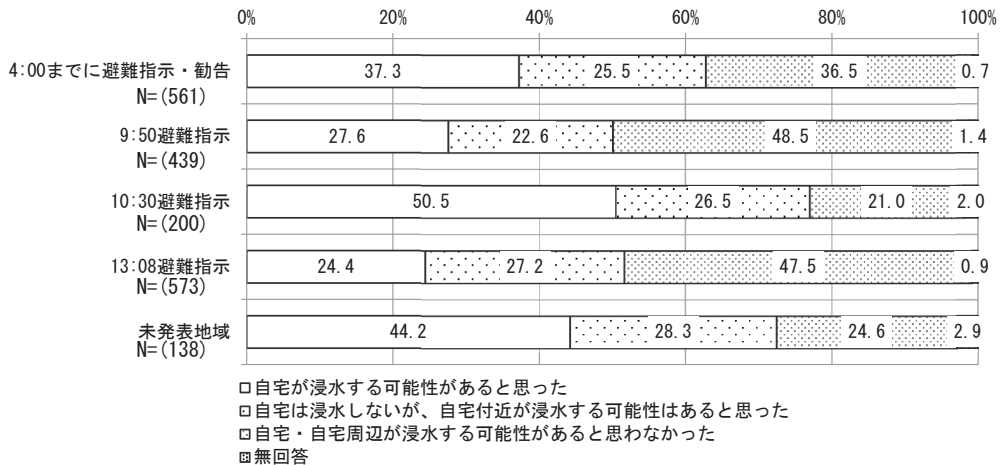


図 3.7 区分ごとの浸水に対する意識比較

(4) 水害に備えた対策

水害に備えた対策について、非常持ち出し品（貴重品など）の準備をした住民は29.0%、次いで水や食料を確保した住民が26.8%いた一方で、何もしなかった住民も31.5%と同程度存在していた（図3.8）。

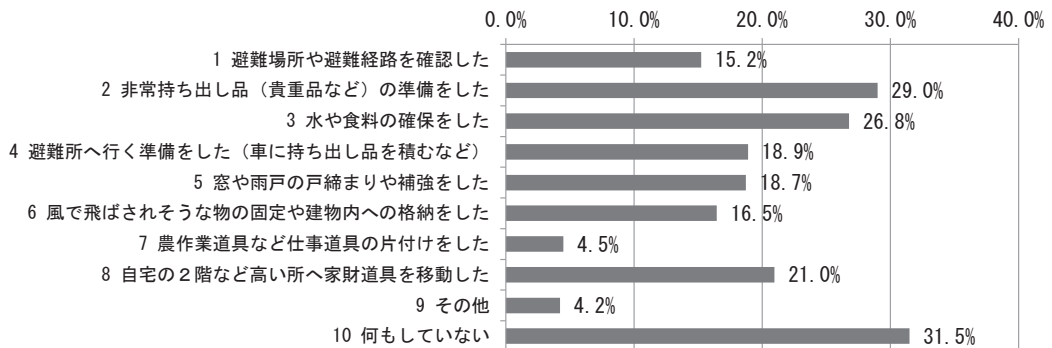


図 3.8 水害への備え（複数回答）

4 住民の避難に関する行動

4.1 避難した人の避難行動

9月9日から12日にかけて、大雨や川の増水のために、避難をしたか尋ねたところ、避難した人は67.5%であり、避難しなかった人は30.5%、無回答2.1%であった。地域別にみると、9時50分に避難指示が発表された地域では、避難をした人は6割に留まっているが、その他の避難勧告・指示が発表された地域では、7割を超える人が避難をしている。また、避難勧告・指示の未発表地域では、3割に留まっている(図4.1)。

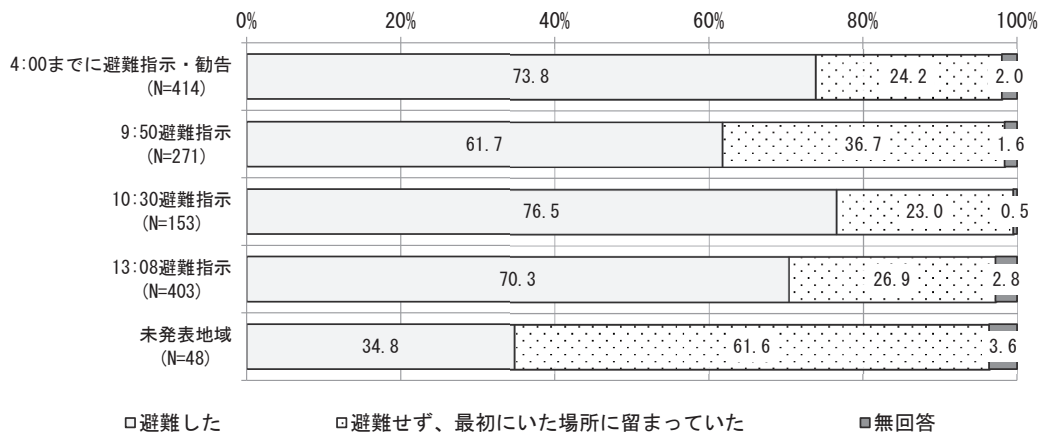


図 4.1 避難勧告・指示発表時刻ごとの避難の割合

避難勧告・指示の発表地域別に避難開始時刻を見ると4時までには避難勧告が発表された地域では、若宮戸地点でのはん濫発生情報が発表された10日6時30分までに5割を超える人が避難を開始している。また10日10時30分に避難指示が発表された三坂町では、10日10時過ぎより避難を開始する人が増え、堤防が決壊するまでに5割の人が避難を開始し、10日18時までには8割を超える人が避難を開始している。また、10日9時50分および13時08分に避難指示が発表された地域では、10日13時以降に避難を開始する人が増え、11日昼頃まで1日かけて避難を開始する人が8割に達している。(図4.2)

また、避難勧告・指示の発表地域別に避難のきっかけを尋ねると、10日9時50分および13時08分に避難指示が発表された地域では、近くまで浸水してきたことがきっかけとなっている人が最も多く、10時30分に避難指示が発表された三坂町では、鬼怒川が決壊したことや決壊しそうだったことがきっかけになっている人が多く災害が迫

ってきていることをきっかけに避難を開始していることが分かった。一方で、10日4時までに避難勧告・避難指示が発表された地域では、避難勧告・指示の発表がきっかけとなっている人が34.9%と最も多く、市上流域に対して常総市が行った避難対応が一定の効果をもたらしたと考えられる。(図4.3)

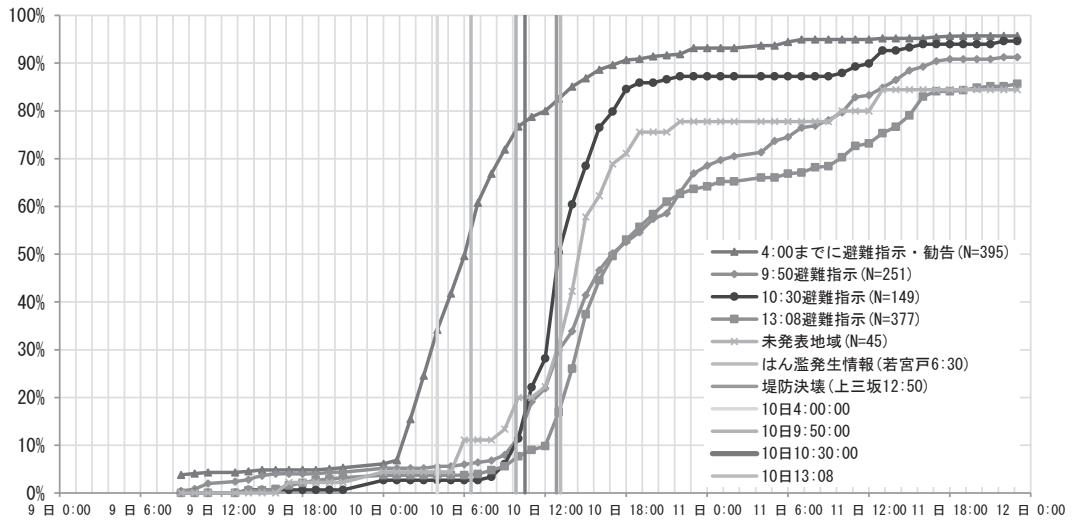


図 4.2 避難勧告指示の発表時刻ごとの避難開始時間

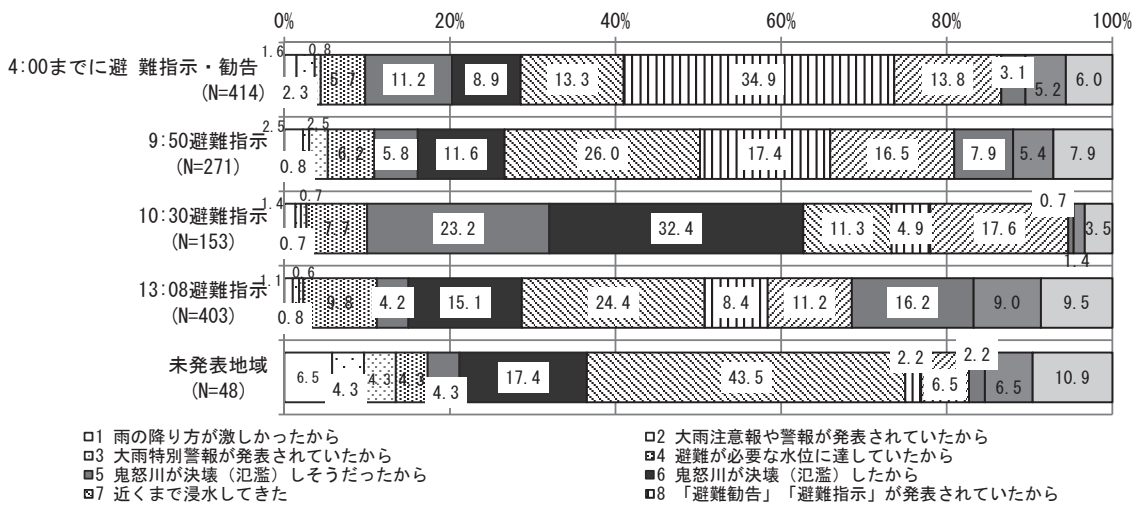


図 4.3 避難勧告指示の発表時刻ごとの避難のきっかけ

4.2 避難の形態

常総市では多くの住民が救助され、その人数は 4,258 名に上っている。避難の形態を避難勧告・指示の発表エリア別に見ると、10 日 13 時 08 分に避難指示が発表されたエリアでは、救助された人が最も多く、24.1%であり、その他の地域では、10%前後となっていた。(図 4.4)

また、避難時の移動手段は、13 時 08 分に避難指示が発表されたエリアでは、ボートやヘリコプターなどの救助に使われる手段で避難した人が多くなっているものの、いずれの地域でも最も多かったのは自動車による移動であった。(図 4.5)

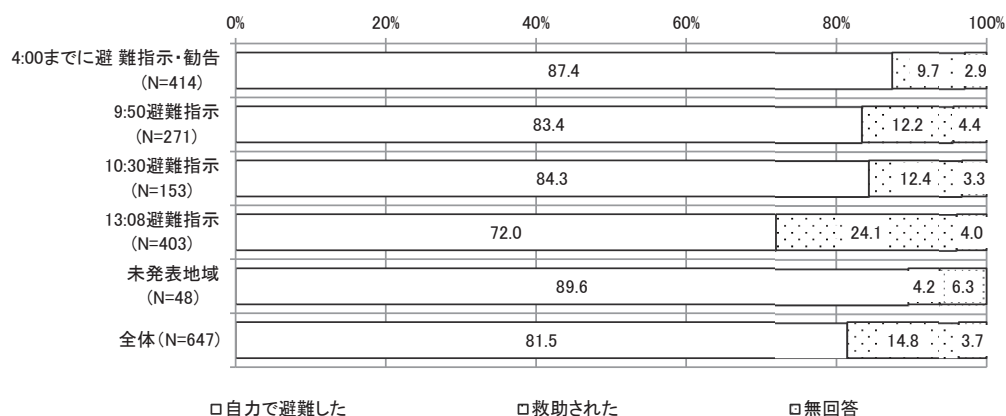


図 4.4 避難勧告指示の発表時刻ごとの避難の形態

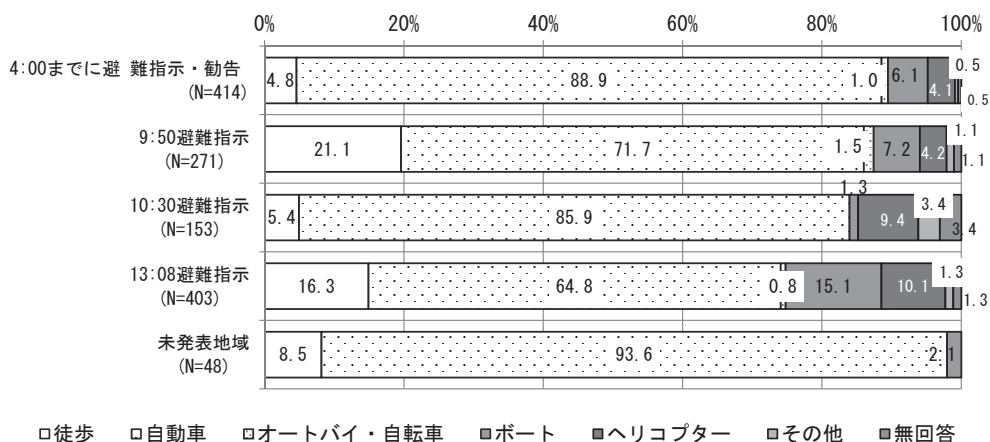


図 4.5 避難勧告指示の発表時刻ごとの避難時の移動手段

また避難時に危険な事はあったか尋ねたところ、54%の人は「危険性はなかった」としているが、19.6%は道路が冠水して足元がわからず、15.6%が「水深が深くて移動が難しかった」と回答するなど、道路が冠水している中で避難した人が一定数いた(図 4.6)。

避難した人のうち、常総市内に避難した人は45.3%に留まり、常総市外の茨城県内に避難した人が49.8%、茨城県外が2.8%と約半数が常総市外に避難している(図 4.7)。また、避難先は、指定避難所に避難した人は40.9%であり、家族・親戚の家に避難した人は48.8%となっていた(図 4.8)。

常総市は、鬼怒川決壊後の13時09分に防災行政無線放送で「鬼怒川が三坂地区において、決壊しました。鬼怒川東側の市民の方は、早急に鬼怒川西側に避難をしてください。」といった避難の方向を呼びかける放送をしている。この放送を聞き、従ったとした人は23.6%であり、聞いたが状況を判断して従わなかったとした人も23.6%と同数いた(図 4.9)。

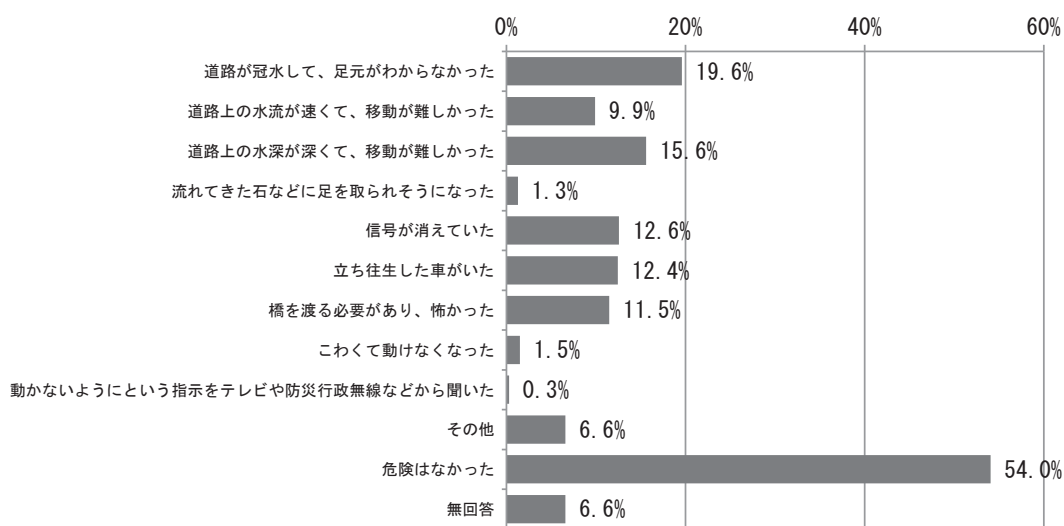


図 4.6 避難の途中で危険なことはあったか (N=1451)

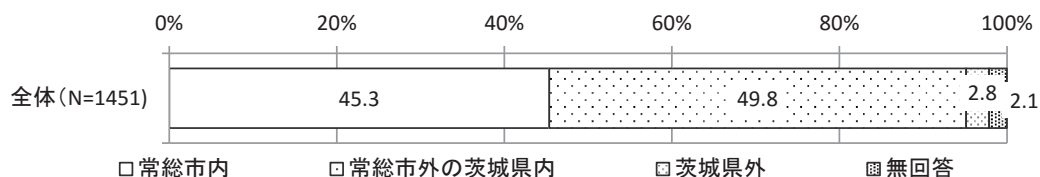


図 4.7 どこへ避難したか

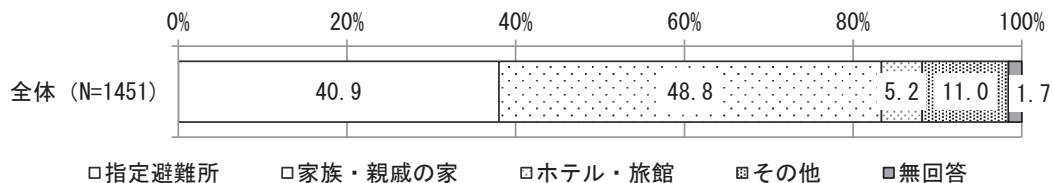
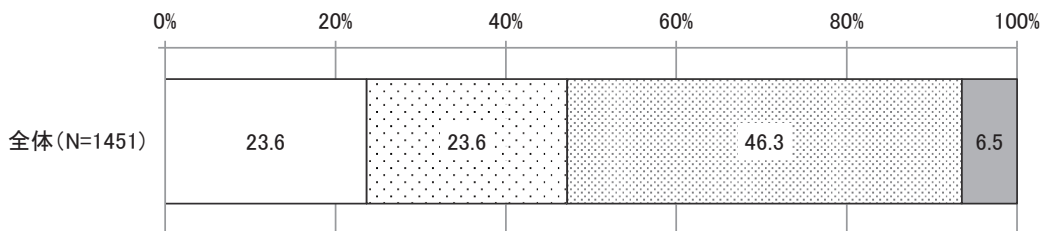


図 4.8 どのような場所に避難したか



- 避難の方向を呼びかける防災無線を聞き、従った
- 避難の方向を呼びかける防災無線を聞いたが、その時の状況から判断して従わなかった
- 避難の方向を呼びかける防災無線は聞かなかった
- 無回答

図 4.9 避難を呼びかける防災無線の放送を聞いたか

また、実際に避難した方向を尋ねると、北方向に避難した人が 11.0%、小貝川を越え東方向に避難した人が 32.7%、南方向に避難した人は 24.4%、鬼怒川を越え西方向に避難した人は 20.1%という結果であった。常総市役所は住民の避難について、市内で完結することを念頭に対応を行っていたが、住民はその時々々の状況を踏まえ、避難先を選択していたことが伺える（図 4.10）。

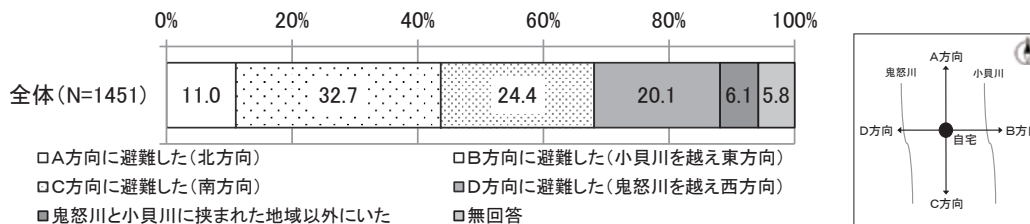


図 4.10 避難した方向

4.3 避難しなかった人の行動

アンケート調査に回答頂いた2,144人のうち避難しなかった30.5%の人に、自宅や職場でとった安全確保行動について尋ねたところ、2階に退避するなどした人は43.9%であり、情報に注意した人は25.5%という結果であった。特に何もしていないと回答した人は、26.6%という結果であった（図4.11）。

また避難しなかった人に、避難しなかった理由を尋ねたところ、浸水しないと思っていた人が50.2%おり、周囲が浸水しても、2階以上に避難すれば安全だと思っていた人が50.4%いるなど、自分のいる場所が安全だと思い避難しなかった人が多かった（図4.12）。

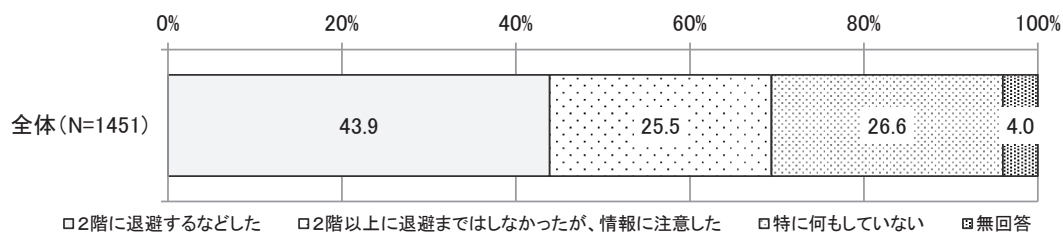


図 4.11 避難しなかった人がとった安全確保行動

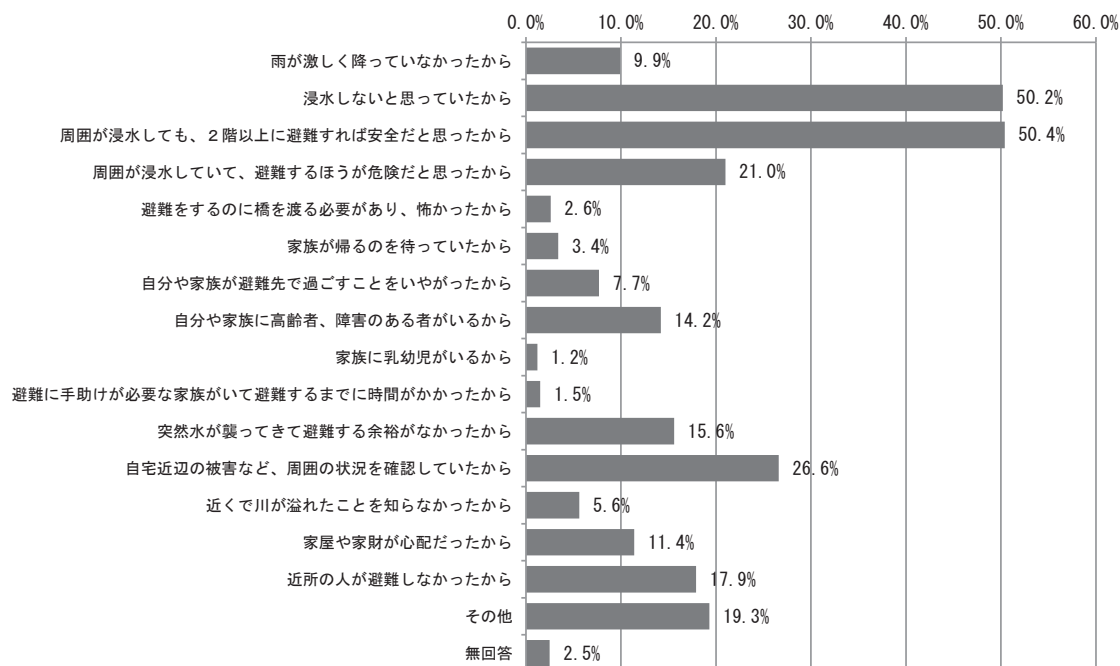


図 4.12 避難しなかった理由

4.4 孤立の発生状況

孤立の発生状況を避難勧告・指示の発表時刻別にみると、13時08分に避難指示が発表されたエリアで、孤立した人が多く、自宅で浸水し孤立した人は30.2%であった。次いで多かったのは、4時までに避難勧告・指示発表された地域であり、19.6%が自宅で浸水し孤立している。堤防決壊地点付近の三坂町では、孤立した人は相対的に少なく、自宅で浸水し孤立した人は10.5%という結果であった（図4.13）。

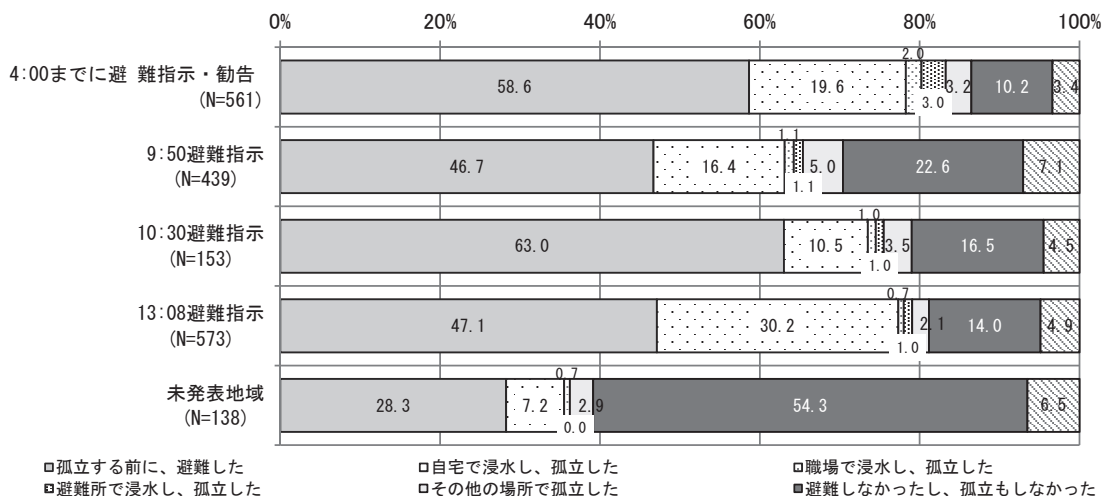


図 4.13 区分ごとの孤立の割合

附属資料 平成 27 年 9 月関東・東北豪雨における避難行動に関する調査
アンケート調査票（単純集計結果）

(N=2144)

平成 27 年 9 月関東・東北豪雨における避難行動に関する調査

A まず、被害についてお伺いします。

問 1 今回の水害で、あなたの自宅は浸水しましたか。あてはまるものに 1つだけ○をつけてください。

| | % |
|-------------------------------|------|
| 浸水しなかった | 27.7 |
| 床下浸水した | 17.2 |
| 床上浸水した(床上から 1 m 程度まで) | 41.0 |
| 床上浸水した(1 階部分がほぼ浸水、2 階部分は浸水せず) | 11.7 |
| 床上浸水した(2 階部分も浸水) | .0 |
| その他 | 1.4 |
| 無回答 | 1.0 |

(N=2144)

問 2 今回の水害で、あなたの住家はどのような被害の認定を受けましたか。あてはまるものに 1つだけ○をつけてください。

| | % |
|------------|------|
| 全壊 | .7 |
| 大規模半壊 | 17.3 |
| 半壊 | 33.5 |
| 一部損壊 | 4.8 |
| 住家の被害はなかった | 41.9 |
| 無回答 | 1.8 |

(N=2144)

問 3 今回の水害で、あなたの資産や財産はどのような被害を受けましたか。あてはまるものに 1つだけ○をつけてください。

| | % |
|--------------------------|------|
| 自家用車が被害を受けた | 28.3 |
| 家財道具が被害を受けた | 31.8 |
| 畳・床が被害を受けた | 29.2 |
| 戸・壁が被害を受けた | 16.7 |
| 庭、塀や生け垣が被害を受けた | 15.7 |
| 金品・カード・有価証券などの貴重品が被害を受けた | 3.9 |
| 農機具などの仕事道具が被害を受けた | 8.6 |
| 農地や田畑などが被害を受けた | 10.6 |
| その他 | 5.7 |
| 被害はなかった | 20.7 |

(N=2144)

B 災害前の情報についてお伺いします。

問 4 あなたは次のような気象情報、河川情報の注意報・警報、避難の呼びかけなどの情報を入手しましたか？（１）～（１５）それぞれについて、あてはまるものに１つだけ○をつけてください。

| | N | 入手して危機感を感じた | 入手したが危機感を感じなかった | 情報を入手しなかった | 無回答 |
|-----------------------------|------|-------------|-----------------|------------|------|
| （１）大雨注意報・警報 | 2144 | 20.3 | 54.5 | 10.6 | 14.6 |
| （２）自宅周辺の降水量に関する情報 | 2144 | 18.4 | 38.2 | 26.5 | 16.9 |
| （３）栃木県への大雨特別警報（１０日００時２０分） | 2144 | 12.4 | 38.4 | 28.5 | 20.8 |
| （４）茨城県への大雨特別警報（１０日０７時４５分） | 2144 | 24.7 | 45.2 | 16.1 | 14.0 |
| （５）鬼怒川上流域の降水量に関する情報 | 2144 | 19.4 | 36.5 | 27.0 | 17.2 |
| （６）鬼怒川が増水して氾濫しそうだという情報 | 2144 | 34.6 | 31.6 | 19.3 | 14.6 |
| （７）直接確認した鬼怒川の状況 | 2144 | 31.2 | 13.7 | 35.8 | 19.4 |
| （８）鬼怒川がすでに氾濫しているという情報 | 2144 | 38.0 | 25.7 | 18.1 | 18.1 |
| （９）はん濫危険情報（川島１０日０時１５分発表） | 2144 | 15.2 | 21.5 | 41.8 | 21.5 |
| （１０）はん濫発生情報（若宮戸１０日０６時３０分発表） | 2144 | 32.0 | 32.7 | 18.2 | 17.1 |
| （１１）上三坂の堤防決壊の情報（１０日１２時５０分頃） | 2144 | 45.0 | 25.5 | 13.8 | 15.7 |
| （１２）近隣住民の避難状況に関する情報 | 2144 | 27.7 | 25.2 | 30.6 | 16.6 |
| （１３）避難を呼びかけるテレビなどの報道 | 2144 | 26.6 | 25.0 | 30.0 | 18.4 |
| （１４）避難勧告・避難指示 | 2144 | 40.1 | 26.2 | 22.1 | 11.7 |
| （１５）他地域での災害の発生などに関する報道 | 2144 | 24.8 | 29.6 | 26.3 | 19.4 |

問5 あなたは、下記の情報をいつごろ入手しましたか？それぞれ、1つだけ○をつけてください。

- (1) 栃木県への大雨特別警報 (10日00時20分)
- (2) 茨城県への大雨特別警報 (10日07時45分)
- (3) はん濫危険情報 (川島10日0時15分発表)
- (4) はん濫発生情報 (若宮戸10日06時30分発表)
- (5) 上三坂の堤防決壊の情報 (10日12時50分頃)

| | (1) | (2) | (3) | (4) | (5) |
|---------|----------|----------|----------|----------|----------|
| | % | % | % | % | % |
| 10日 | 18.5 | 30.6 | 14.1 | 48.6 | 55.8 |
| 11日以降 | 2.4 | 3.1 | 2.4 | 3.4 | 3.8 |
| 覚えていない | 29.0 | 33.8 | 20.7 | 15.9 | 14.2 |
| 入手していない | 39.1 | 22.9 | 51.0 | 23.2 | 18.0 |
| 無回答 | 11.1 | 9.6 | 11.8 | 8.9 | 8.2 |
| | (N=2144) | (N=2144) | (N=2144) | (N=2144) | (N=2144) |

| | (1) | (2) | (3) | (4) | (5) |
|-----------|---------|---------|---------|----------|----------|
| | % | % | % | % | % |
| 10日午前0時台 | 7.1 | - | 5.9 | - | - |
| 10日午前1時台 | 3.3 | - | 3.3 | - | - |
| 10日午前2時台 | 3.3 | - | 6.6 | - | - |
| 10日午前3時台 | 1.3 | - | 2.0 | - | - |
| 10日午前4時台 | 3.8 | - | 3.3 | - | - |
| 10日午前5時台 | 3.3 | - | 1.3 | - | - |
| 10日午前6時台 | 9.6 | - | 5.6 | 14.8 | - |
| 10日午前7時台 | 10.6 | 11.4 | 5.6 | 19.8 | - |
| 10日午前8時台 | 6.3 | 18.0 | 4.0 | 11.8 | - |
| 10日午前9時台 | 2.0 | 6.6 | 4.3 | 5.1 | - |
| 10日午前10時台 | 5.8 | 7.9 | 5.9 | 5.5 | - |
| 10日午前11時台 | 2.0 | 3.5 | 2.3 | 3.4 | - |
| 10日午前 | 12.1 | 14.0 | 15.5 | 9.0 | - |
| 10日午後12時台 | 1.8 | 1.8 | 5.6 | 2.3 | 13.3 |
| 10日午後1時台 | 2.3 | .6 | 4.0 | 1.9 | 39.4 |
| 10日午後2時台 | 1.5 | 1.5 | 1.3 | 1.2 | 10.5 |
| 10日午後3時台 | .5 | .6 | 2.3 | 0.6 | 4.4 |
| 10日午後4時台 | .3 | .5 | .3 | 0.3 | 1.1 |
| 10日午後5時台 | .3 | .6 | .7 | 0.3 | 0.9 |
| 10日午後6時台 | .3 | 1.2 | .3 | 0.2 | 0.7 |
| 10日午後7時台 | 1.0 | .6 | .7 | 0.3 | 0.2 |
| 10日午後8時台 | .3 | .3 | - | 0.3 | 0.4 |
| 10日午後9時台 | .5 | .2 | .3 | - | 0.2 |
| 10日午後10時台 | .8 | .8 | 1.0 | 0.2 | - |
| 10日午後11時台 | .5 | .3 | .3 | 0.2 | 0.3 |
| 10日午後 | 3.8 | 2.4 | 5.3 | 3.1 | 8.5 |
| 無回答 | 15.9 | 27.1 | 12.2 | 19.8 | 20.2 |
| | (N=396) | (N=656) | (N=303) | (N=1041) | (N=1196) |

問6 どこから、気象情報、河川情報の注意報・警報、避難の呼びかけなどの情報を入手しましたか？あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

| | |
|---------------------------|------|
| 直接、鬼怒川の決壊(氾濫)を見た | 9.7 |
| 直接、浸水してきているのを見た | 33.2 |
| 防災行政無線から聞いた | 43.5 |
| 広報車から聞いた | 13.5 |
| テレビやラジオから情報を得た | 57.0 |
| インターネットから情報を得た | 12.9 |
| FacebookやTwitterなどから情報を得た | 4.2 |
| 家族・友人・知人から直接聞いた | 34.3 |
| 自治会・近所の人から直接聞いた | 18.8 |
| 消防署員・消防団・役場職員から直接聞いた | 8.7 |
| 家族・友人・知人から電話で聞いた | 25.3 |
| 自治会・近所の人から電話で聞いた | 4.0 |
| 防災情報を配信するメールで情報を得た | 6.1 |
| 近所の人が避難をしているのを見た | 19.4 |
| その他 | 3.7 |
| 情報は入手しなかった | 0.3 |

(N=2144)

問7 情報を見聞きして、自宅周辺で浸水する可能性があると思いましたか？あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

| | |
|-------------------------------|------|
| | % |
| 自宅が浸水する可能性があると思った | 32.1 |
| 自宅は浸水しないが、自宅付近が浸水する可能性はあると思った | 26.1 |
| 自宅・自宅周辺が浸水する可能性があると思わなかった | 40.7 |
| 無回答 | 1.1 |

(N=2144)

問8 台風や前線が発生した後、水害の発生に備えた対策を行いましたか？あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

| | |
|---------------------------|------|
| | % |
| 避難場所や避難経路を確認した | 15.0 |
| 非常持ち出し品(貴重品など)の準備をした | 28.9 |
| 水や食料の確保をした | 26.3 |
| 避難所へ行く準備をした(車に持ち出し品を積むなど) | 18.8 |
| 窓や雨戸の戸締まりや補強をした | 19.0 |
| 風で飛ばされそうな物の固定や建物内への格納をした | 16.5 |
| 農作業道具など仕事道具の片付けをした | 4.6 |
| 自宅の2階など高い所へ家財道具を移動した | 21.0 |
| その他 | 4.3 |
| 何もしていない | 31.5 |

(N=2144)

問9 あなたは水害の発生直前、次のようなこと考えましたか？それぞれ1つだけ○をつけてください。

| | N | そう 思っ た | つ や や そ う 思 っ た | わ な ま り そ う 思 っ た | あ ま り そ う 思 っ た | か っ た | そ う 思 わ な か っ た | 無 回 答 |
|------------------------------------|------|---------------|--------------------------------------|---|--------------------------------------|-------------|--------------------------------------|-------------|
| (1) 大きな災害につながるかも知れず、注意をしようと思った。 | 2144 | 20.2 | 21.6 | 38.8 | 17.2 | 2.2 | | |
| (2) 鬼怒川から水があふれるかもしれないと思った。 | 2144 | 25.4 | 21.6 | 30.2 | 20.7 | 2.1 | | |
| (3) 氾濫は起きるかもしれないが、自分のいる場所は安全だと思った。 | 2144 | 34.2 | 35.6 | 13.4 | 14.3 | 2.5 | | |
| (4) まさかここまでの大水害はおきないだろうと思った。 | 2144 | 70.2 | 13.4 | 6.8 | 8.1 | 1.4 | | |

C 平成 27 年 9 月 9 日～10 日までの浸水や避難の状況についてお伺いします。

9 月 9 日から 11 日にかけて台風第 17 号と第 18 号の 2 つの台風の影響で、線状降水帯と呼ばれる発達した雨雲が関東にかけられ続け、鬼怒川上流域では記録的な大雨が降りました。その影響により、鬼怒川下流部では 9 日から水位が上昇し始めました。

常総市内では、若宮戸付近で 10 日 6 時 00 分頃からはん濫が始まり、同日 11 時には上三坂ではん濫が発生しています。同地点は、12 時 50 分頃に決壊し、最終的に決壊幅は 200m に達しました。これにより、9 月 10 日から 12 日頃まで、常総市内 鬼怒川左岸側の広い地域では、避難が必要になるほどの水が流入しました。

問 10 あなたは、この水害の間、次のようなことで困りましたか？あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

| | % |
|-------------------|-------|
| 電気が止まった | 74.6 |
| 水道が止まった | 88.9 |
| ガスが止まった | 26.5 |
| トイレが使えなかった | 68.4 |
| テレビがみられなかった | 56.0 |
| パソコンが使えなかった | 24.1 |
| 固定電話が使えなかった | 46.4 |
| 携帯電話が使えなかった | 26.0 |
| 建物に水が入り、危険な状態になった | 35.2 |
| その他 | 7.4 |
| 合計 | 453.6 |

(N=2144)

問 11 あなたはこの水害を通して孤立するようなことはありましたか？1つだけ○をつけてください。

| | % |
|-------------------|-------|
| 孤立する前に、避難した | 50.8 |
| 自宅で浸水し、孤立した | 20.7 |
| 職場で浸水し、孤立した | 1.2 |
| 避難所で浸水し、孤立した | 1.5 |
| その他の場所で孤立した | 3.5 |
| 避難しなかったし、孤立もしなかった | 17.1 |
| 無回答 | 5.1 |
| 合計 | 100.0 |

(N=2144)

問 12 あなたは、孤立したり、避難したりした際に誰かと連絡をとりましたか。

| | % |
|------------------|------|
| 119番に電話した | 5.9 |
| 110番に電話した | 3.0 |
| ヘリコプターに手を振った | 12.2 |
| 家族・友人・知人にメールをした | 21.1 |
| 家族・友人・知人にLINEをした | 16.1 |
| 家族・友人・知人に電話をした | 60.9 |
| その他 | 6.8 |
| 誰かと連絡をとることはなかった | 15.4 |

(N=2144)

問 13 あなたは、9月9日から12日にかけて、大雨や川の増水のために、避難をしましたか？避難された場合は、最後にいらっしやった場所に関してお答えください。1つだけ○をつけてください。

| | % |
|---------------------|----------|
| 避難した | 67.7 |
| 避難せず、最初にいた場所に留まっていた | 30.2 |
| 無回答 | 2.1 |
| | (N=2144) |

C1 避難をした方にお伺いします。

問 14 あなたの避難行動についてお伺いします。複数回避難されている方は、最初の避難についてお答えください。あてはまるものに 1つだけ○ をつけてください。

(1) どこから避難しましたか？

| | % |
|----------------------------------|----------|
| 常総市内の自宅から避難した | 81.7 |
| 常総市内の外出先(職場・学校など)から自宅に戻り、その後避難した | 4.0 |
| 常総市外の外出先(職場・学校など)から自宅に戻り、その後避難した | 5.0 |
| 常総市内の外出先(職場・学校など)から直接避難した | 3.8 |
| 常総市外の外出先(職場・学校など)から直接避難した | 3.5 |
| 無回答 | 2.0 |
| | (N=1451) |

(2) どこに避難しましたか？

| | % |
|-----------|----------|
| 常総市内 | 45.3 |
| 常総市外の茨城県内 | 49.8 |
| 茨城県外 | 2.8 |
| 無回答 | 2.1 |
| | (N=1451) |

(3) どのような場所に避難しましたか？ あてはまるものに いくつでも○ をつけてください。

| | % |
|---------|----------|
| 指定避難所 | 38.6 |
| 家族・親戚の家 | 46.1 |
| ホテル・旅館 | 4.9 |
| その他 | 10.4 |
| | (N=1451) |

(4) 避難を開始したのは、具体的に、いつでしたか？ だいたいで構いませんのでお答えください。

| | % |
|--------------|----------|
| 避難した時間を覚えている | 95.5 |
| 避難した時間は覚えてない | 3.0 |
| 無回答 | 1.5 |
| | (N=1451) |

避難を開始した時間

| | % |
|------------|-----|
| 8日 | .1 |
| 9日午前2時台頃 | .4 |
| 9日午前4時台頃 | .1 |
| 9日午前5時台頃 | .3 |
| 9日午前6時台頃 | .1 |
| 9日午前7時台頃 | .1 |
| 9日午前9時台頃 | .1 |
| 9日午前10時台頃 | .1 |
| 9日午前11時台頃 | .3 |
| 9日午後1時台頃 | .1 |
| 9日午後2時台頃 | .4 |
| 9日午後3時台頃 | .2 |
| 9日午後4時台頃 | .1 |
| 9日午後5時台頃 | .3 |
| 9日午後6時台頃 | .1 |
| 9日午後7時台頃 | .1 |
| 9日午後8時台頃 | .2 |
| 9日午後9時台頃 | .1 |
| 9日午後 | .1 |
| 10日午前0時台頃 | .9 |
| 10日午前1時台頃 | .2 |
| 10日午前2時台頃 | 2.5 |
| 10日午前3時台頃 | 2.7 |
| 10日午前4時台頃 | 2.9 |
| 10日午前5時台頃 | 2.2 |
| 10日午前6時台頃 | 2.7 |
| 10日午前7時台頃 | 3.5 |
| 10日午前8時台頃 | 2.2 |
| 10日午前9時台頃 | 2.5 |
| 10日午前10時台頃 | 4.1 |
| 10日午前11時台頃 | 3.5 |
| 10日午前 | .4 |
| 10日午後12時台頃 | 2.0 |
| 10日午後1時台頃 | 7.0 |
| 10日午後2時台頃 | 5.8 |
| 10日午後3時台頃 | 7.5 |
| 10日午後4時台頃 | 5.8 |
| 10日午後5時台頃 | 3.8 |
| 10日午後6時台頃 | 2.8 |
| 10日午後7時台頃 | 1.7 |
| 10日午後8時台頃 | 1.9 |
| 10日午後9時台頃 | 1.2 |
| 10日午後10時台頃 | 1.7 |
| 10日午後11時台頃 | 1.6 |
| 10日午後 | .4 |
| 11日午前0時台頃 | .5 |

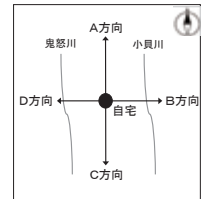
| | |
|-----------------|----------|
| 1 1 日午前 1 時台頃 | . 6 |
| 1 1 日午前 2 時台頃 | . 5 |
| 1 1 日午前 4 時台頃 | . 6 |
| 1 1 日午前 5 時台頃 | . 6 |
| 1 1 日午前 6 時台頃 | . 6 |
| 1 1 日午前 7 時台頃 | . 9 |
| 1 1 日午前 8 時台頃 | . 6 |
| 1 1 日午前 9 時台頃 | . 3 |
| 1 1 日午前 1 0 時台頃 | 1. 2 |
| 1 1 日午前 1 1 時台頃 | 1. 6 |
| 1 1 日午前 | . 1 |
| 1 1 日午後 1 2 時台頃 | . 3 |
| 1 1 日午後 1 時台頃 | 1. 4 |
| 1 1 日午後 2 時台頃 | . 9 |
| 1 1 日午後 3 時台頃 | 1. 2 |
| 1 1 日午後 4 時台頃 | 1. 4 |
| 1 1 日午後 5 時台頃 | . 6 |
| 1 1 日午後 6 時台頃 | . 1 |
| 1 1 日午後 7 時台頃 | . 1 |
| 1 1 日午後 8 時台頃 | . 1 |
| 1 1 日午後 9 時台頃 | . 1 |
| 1 1 日午後 1 0 時台頃 | . 1 |
| 1 1 日午後 1 1 時台頃 | . 1 |
| 1 2 日 | 1. 4 |
| 1 3 日 | . 1 |
| 1 4 日 | . 1 |
| 無回答 | 7. 1 |
| | (N=1385) |

(5) 避難する際に、避難の方向を呼びかける防災行政無線を聞きましたか？また聞いた場合は、その呼びかけに従いましたか？あてはまるものに1つだけ○をつけて下さい。

| | % |
|---|------|
| 避難の方向を呼びかける防災行政無線を聞き、従った | 23.6 |
| 避難の方向を呼びかける防災行政無線を聞いたが、その時の状況から判断して従わなかった | 23.6 |
| 避難の方向を呼びかける防災行政無線は聞かなかった | 46.3 |
| 無回答 | 6.5 |
| (N=1451) | |

(6) どのような方向に避難しましたか？右図を参考にお答えください。
あてはまるものに1つだけ○をつけて下さい。

| | % |
|---------------------|------|
| A方向に避難した(北方向) | 11.0 |
| B方向に避難した(小貝川を越え東方向) | 32.7 |
| C方向に避難した(南方向) | 24.4 |
| D方向に避難した(鬼怒川を越え西方向) | 20.1 |
| 鬼怒川と小貝川に挟まれた地域以外にいた | 6.1 |
| 無回答 | 5.8 |
| (N=1451) | |



(7) どのような形で避難しましたか？

| | % |
|----------|------|
| 自力で避難した | 80.7 |
| 救助された | 15.7 |
| 無回答 | 3.6 |
| (N=1451) | |

(8) あなたは、どのような手段で避難しましたか？あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

| | % |
|-----------|------|
| 徒歩 | 11.6 |
| 自動車 | 76.9 |
| オートバイ・自転車 | 0.8 |
| ボート | 9.2 |
| ヘリコプター | 6.4 |
| その他 | 1.2 |
| (N=1451) | |

(9) 避難した時の道路はどのような状態でしたか？あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

| | % |
|-----------------------------|------|
| 車が通れるくらいの浸水の程度だった(タイヤの高さ以下) | 24.3 |
| 車が通れない浸水だった | 22.8 |
| 浸水はしていなかった | 55.2 |
| (N=1451) | |

(10) 避難の途中で危険なことはありましたか？あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

| | % |
|--------------------------------|----------|
| 道路が冠水して、足元がわからなかった | 19.6 |
| 道路上の水流が速くて、移動が難しかった | 9.9 |
| 道路上の水深が深くて、移動が難しかった | 15.6 |
| 流れてきた石などに足を取られそうになった | 1.3 |
| 信号が消えていた | 12.6 |
| 立ち往生した車がいた | 12.4 |
| 橋を渡る必要があり、怖かった | 11.5 |
| こわくて動けなくなった | 1.5 |
| 動かないようにという指示をテレビや防災行政無線などから聞いた | 0.3 |
| その他 | 6.6 |
| 危険はなかった | 54.0 |
| | (N=1451) |

(11) 避難を決めてからすぐに避難しましたか？

| | % |
|-------------|----------|
| すぐに避難した | 60.7 |
| すぐには避難しなかった | 31.9 |
| 無回答 | 7.4 |
| | (N=1451) |

附問(11) - 1 すぐには避難しなかったのは、どのような理由からでしょうか？あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

| | % |
|---------------------------------|---------|
| 雨が激しく降っていなかったから | 19.7 |
| 浸水しないと思っていたから | 51.8 |
| 周囲が浸水しても、2階以上に避難すれば安全だと思ったから | 29.4 |
| 周囲が浸水していて、避難するほうが危険だと思ったから | 10.7 |
| 避難をするのに橋を渡る必要があり、怖かったから | 1.5 |
| 家族が帰るのを待っていたから | 10.5 |
| 自分や家族が避難先で過ごすことをいやがったから | 6.8 |
| 自分や家族に高齢者、障害のある者がいるから | 11.0 |
| 家族に乳幼児がいるから | 3.5 |
| 避難に手助けが必要な家族がいて避難するまでに時間がかかったから | 3.5 |
| 突然水が襲ってきて避難する余裕がなかったから | 15.8 |
| 自宅近辺の被害など、周囲の状況を確認していたから | 21.5 |
| 近くで川が溢れたことを知らなかったから | 9.0 |
| 家屋や家財が心配だったから | 11.8 |
| 近所の人が避難しなかったから | 21.3 |
| その他 | 13.6 |
| | (N=463) |

(12) あなたはなぜ、避難しようと思ったのですか？あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

| | % |
|------------------------|----------|
| 雨の降り方が激しかったから | 1.7 |
| 大雨注意報や警報が発表されていたから | 1.4 |
| 大雨特別警報が発表されていたから | 1.0 |
| 避難が必要な水位に達していたから | 6.7 |
| 鬼怒川が決壊(氾濫)しそうだったから | 7.6 |
| 鬼怒川が決壊(氾濫)したから | 13.4 |
| 近くまで浸水してきた | 18.8 |
| 「避難勧告」「避難指示」が発表されていたから | 16.1 |
| 避難を呼びかけられたから | 11.8 |
| 自宅で生活できなくなったから | 6.8 |
| その他 | 5.4 |
| 無回答 | 9.4 |
| | (N=1451) |

(13) それは、どこからの情報ですか？あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

| | % |
|---------------------------|----------|
| 直接、鬼怒川の決壊(氾濫)を見た | 6.2 |
| 直接、浸水してきているのを見た | 34.0 |
| 防災行政無線から聞いた | 33.7 |
| 広報車からの放送を聞いた | 10.4 |
| テレビやラジオから情報を得た | 23.7 |
| インターネットから情報を得た | 5.3 |
| FacebookやTwitterなどから情報を得た | 2.7 |
| 家族・友人・知人から直接聞いた | 25.9 |
| 消防署員・消防団・役場職員から直接聞いた | 8.6 |
| 自治会・近所の人から直接聞いた | 9.1 |
| 家族・友人・知人から電話で聞いた | 18.8 |
| 自治会・近所の人から電話で聞いた | 1.8 |
| 防災情報を配信するメールで情報を得た | 2.1 |
| 近所の人が避難をしているのを見た | 11.3 |
| その他 | 5.2 |
| | (N=1451) |

⇒回答後、D(問18)へお進み下さい。

Q2 避難をしなかった方にお伺いします。

問15 あなたは、避難せずどこに留まっていましたか？あてはまるものに1つだけ○をつけてください。

| | % |
|------------------------------------|---------|
| 常総市内の自宅から避難せず、そこに留まっていた | 91.3 |
| 常総市内の自宅以外(職場・学校など)から避難せず、そこに留まっていた | 4.2 |
| 常総市外の自宅以外(職場・学校など)から避難せず、そこに留まっていた | 2.3 |
| 無回答 | 2.2 |
| | (N=647) |

問 16 自宅や職場などで安全を確保しようとしたか？あてはまるものに 1つだけ○をつけてください。

| | % |
|--------------------------|---------|
| 2階に退避するなどした | 43.9 |
| 2階以上に退避まではしなかったが、情報に注意した | 25.5 |
| 特に何もしていない | 26.6 |
| 無回答 | 4.0 |
| | (N=647) |

問 17 あなたは、なぜ避難しなかったのですか？あてはまるものに いくつでも○をつけてください。

| | % |
|---------------------------------|---------|
| 雨が激しく降っていなかったから | 10.1 |
| 浸水しないと思っていたから | 51.5 |
| 周囲が浸水しても、2階以上に避難すれば安全だと思ったから | 51.7 |
| 周囲が浸水していて、避難するほうが危険だと思ったから | 21.6 |
| 避難をするのに橋を渡る必要があり、怖かったから | 2.7 |
| 家族が帰るのを待っていたから | 3.5 |
| 自分や家族が避難先で過ごすことをいやがったから | 7.9 |
| 自分や家族に高齢者、障害のある者がいるから | 14.6 |
| 家族に乳幼児がいるから | 1.3 |
| 避難に手助けが必要な家族がいて避難するまでに時間がかかったから | 1.6 |
| 突然水が襲ってきて避難する余裕がなかったから | 16.0 |
| 自宅近辺の被害など、周囲の状況を確認していたから | 27.3 |
| 近くで川が溢れたことを知らなかったから | 5.7 |
| 家屋や家財が心配だったから | 11.7 |
| 近所の人が避難しなかったから | 18.4 |
| その他 | 19.8 |
| | (N=647) |

D 平成 27 年 9 月関東・東北豪雨が発生する前の防災活動についてお伺いします

問 18 あなたは 1981 年に発生した小貝川の氾濫について知っていますか？またご自宅は、被害を受けましたか？あてはまるものに 1つだけ○をつけてください。

| | % |
|--------------------|----------|
| 氾濫を知っているし、被害を受けた | 4.9 |
| 氾濫を知っているが被害は受けていない | 69.2 |
| 知らない | 23.5 |
| 無回答 | 2.5 |
| | (N=2144) |

問 19 あなたは 1986 年に発生した小貝川の氾濫について知っていますか？また、ご自宅は被害を受けましたか？あてはまるものに 1つだけ○をつけてください。

| | % |
|--------------------|----------|
| 氾濫を知っているし、被害を受けた | 5.2 |
| 氾濫を知っているが被害は受けていない | 81.2 |
| 知らない | 11.8 |
| 無回答 | 1.8 |
| | (N=2144) |

問 20 今回の水害前まで、あなたは次のようなことについてどう思っていましたか？
それぞれ 1つだけ○をつけてください。

| | 調査数 | 危険性があると思 っていた | 危険性は ないと思 っていた | 無回答 |
|--|------|------------------|----------------------|-----|
| 問 20 (1) 自分の住む地域や近隣の 地域が水害による浸水の危険性があること | 2144 | 36.0 | 61.5 | 2.5 |
| 問 20 (2) 鬼怒川上流部での降雨によ り、下流が決壊する危険性があること | 2144 | 32.6 | 64.5 | 2.9 |
| 問 20 (3) 上流で決壊して、下流部 へ大量の水が流入し、被害が生じる危険 性があること | 2144 | 33.9 | 63.1 | 3.0 |
| 問 20 (4) 川から離れていても、浸 水して被害が生じる危険性があること | 2144 | 30.0 | 66.1 | 3.9 |

問 21 今回の水害前に、常総市で作成している洪水ハザードマップで自宅周辺の浸水深
を確認していましたか？あてはまるものに 1つだけ○をつけてください。

| | | |
|---|---|----------|
| 鬼怒川が決壊した場合も、小貝川・利根川が決壊した場合の浸水深も確 認していた | % | 4.6 |
| 鬼怒川が決壊した場合の浸水深だけ確認していた | | 5.5 |
| 小貝川・利根川が決壊した場合の浸水深だけ確認していた | | 2.1 |
| 洪水ハザードマップを見たことはあるが、どこに保管したかわからない | | 15.7 |
| 洪水ハザードマップを見たことはあるが、自宅にはない | | 8.8 |
| 洪水ハザードマップを見たことはなかった | | 47.2 |
| 洪水ハザードマップが何のことか、よくわからない | | 13.4 |
| 無回答 | | 2.9 |
| | | (N=2144) |

問 22 今回の災害が発生するまで、水害に対してどのような対策をしていましたか？あ
てはまるものに いくつでも○をつけてください。

| | | |
|----------------------------------|---|----------|
| 洪水ハザードマップを確認していた | % | 6.1 |
| 降水量や水位などの情報の入手方法を確認していた | | 9.5 |
| 水害時の避難場所を確認していた | | 12.2 |
| 持ち出し品の準備をしていた | | 17.0 |
| 水害の恐れがある場合に避難するタイミングを決めていた | | 6.5 |
| 水害の恐れがある場合の避難方法や決まりごとを家族と話し合っていた | | 5.7 |
| 自治体や国などが開催する水害の勉強会などに参加していた | | 0.4 |
| 水害に対する備えは実施していなかった | | 65.1 |
| | | (N=2144) |

問 23 今回の水害を受けて、避難するために今後どのような情報に気をつけたいと考えていますか？あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

| | % |
|---------------------------|------|
| 避難を呼びかけるテレビなどの報道 | 59.9 |
| 自宅周辺の降水量に関する情報 | 46.1 |
| 鬼怒川流域の降水量に関する情報 | 54.1 |
| 鬼怒川の水位状況に関する情報 | 63.6 |
| 直接確認した鬼怒川の状況 | 27.1 |
| 自宅周辺に発表された避難勧告や避難指示に関する情報 | 72.4 |
| 近隣住民の避難状況に関する情報 | 34.0 |
| 気をつけたいと思う情報はなし | 1.1 |
| (N=2144) | |

問 24 今後の水害対策について、あなたはどのように考えていますか？あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

| | % |
|---------------------------------------|------|
| 川を越えて避難することは避けるべきだ | 13.4 |
| いざというとき市外を含む広域に避難することをきちんと考えるべきだ | 66.1 |
| 今後、災害対策として水害時に取るべき行動を時系列などで整理したものが必要だ | 40.5 |
| 市・水防団・地域住民が、水害の危険が高い区間を共同で点検することが必要だ | 46.4 |
| 住民や市・防災関係機関が集まって、地域の防災対策を話し合い考える場が必要だ | 40.0 |
| 現在よりも高い堤防の整備を進めるべきだ | 57.0 |
| 川沿いの土地利用を規制するべきだ | 36.4 |
| たまにしか起こらないことなので、特別な対策は必要ない | 0.9 |
| (N=2144) | |

問 25 水害について以下の考え方をあなたはどのように思いますか？(A)から(H)までのそれぞれについて、あなたのお考えに最も近いものに1つだけ○をつけてください。

| | 調査数 | 全くそう思う | ややそう思う | あまりそう思わない | 全くそう思わない | 無回答 |
|--|------|--------|--------|-----------|----------|-----|
| (A) 近所の人は、「大雨の後は水害に備えて、必ず避難をするべき」と考えているようだ | 2144 | 13.0 | 32.8 | 41.7 | 6.0 | 6.4 |
| (B) 自分一人では、安全なところまで行くことができない | 2144 | 23.0 | 23.1 | 24.8 | 24.3 | 4.8 |
| (C) 避難所(避難場所)に行くのは面倒だ | 2144 | 9.4 | 35.3 | 22.9 | 26.2 | 6.2 |
| (D) すぐに浸水するので、決壊直後に避難しても間に合わない | 2144 | 25.5 | 23.4 | 28.8 | 15.7 | 6.7 |

| | | | | | | |
|--|------|------|------|------|------|-----|
| (E) 水害に対して、地域の安全は、行政に頼らず自分たちで守らなければならない | 2144 | 32.0 | 38.3 | 15.9 | 8.7 | 5.0 |
| (F) 避難をしても、今後の生活ができないと困るから、家財を守る | 2144 | 13.9 | 28.7 | 31.6 | 19.5 | 6.3 |
| (G) 近くで安全な場所がどこかわからない | 2144 | 25.6 | 31.0 | 19.4 | 18.7 | 5.3 |
| (H) 大きな水害では、指定された避難所(避難場所)に避難をしても、絶対安全とは限らない | 2144 | 49.5 | 35.5 | 6.9 | 3.5 | 4.6 |

問 26 それでは、以下の考え方をあなたはどのように思いますか？(A) から (Q) までのそれぞれについて、あなたのお考えに最も近いものに 1つだけ○ をつけてください。

| | 調査数 | 全くそう思う | ややそう思う | あまりそう思わない | 全くそう思わない | 無回答 |
|---|------|--------|--------|-----------|----------|-----|
| (A) 水害から身を守るためには、家族を置いてでも避難しなければならない | 2144 | 4.2 | 6.4 | 22.4 | 60.9 | 6.1 |
| (B) 避難所(避難場所)に避難すると、周囲の人に迷惑をかけてしまう | 2144 | 5.7 | 21.8 | 35.3 | 30.9 | 6.3 |
| (C) 避難の結果は自己責任だ | 2144 | 26.0 | 36.9 | 18.8 | 11.7 | 6.6 |
| (D) 避難所(避難場所)での集団生活はいやだ | 2144 | 25.4 | 44.5 | 16.9 | 7.3 | 5.8 |
| (E) ひざくらいの水でも、命は危ない | 2144 | 34.7 | 33.2 | 19.4 | 6.9 | 5.7 |
| (F) たいした浸水ではなかったら、避難するのは損だ | 2144 | 6.5 | 22.4 | 38.3 | 26.4 | 6.5 |
| (G) 水害が発生しても自宅にいたほうが、避難するよりも安全である | 2144 | 4.5 | 18.1 | 37.5 | 33.6 | 6.3 |
| (H) 水害による浸水がないと思っていても、周囲や役所の人に迷惑をかけてしまうから避難すべきだ | 2144 | 21.1 | 37.3 | 27.9 | 7.5 | 6.2 |
| (I) 川があふれたり、浸水したりしたのを見てから避難するのは、間に合わない | 2144 | 51.4 | 32.4 | 8.4 | 1.9 | 5.9 |
| (J) 自宅がある場所は、河川氾濫の危険性がある | 2144 | 45.1 | 31.5 | 14.0 | 4.2 | 5.1 |
| (K) 避難をすすめられたら、危険はないと思っていても避難しなければならない | 2144 | 35.7 | 41.1 | 15.4 | 2.5 | 5.4 |
| (L) 避難したときに、泥棒に入られるかもしれないので、家を空けるのは不安だ | 2144 | 29.4 | 41.9 | 16.6 | 6.0 | 6.0 |
| (M) 最寄りの避難所(避難場所)までは遠くて、時間がかかるので、避難には不安がある | 2144 | 12.9 | 33.8 | 34.5 | 12.0 | 6.8 |
| (N) 周りの人がほとんど避難していないくても、避難すべきだ | 2144 | 16.9 | 37.6 | 32.6 | 7.0 | 5.8 |
| (O) 避難勧告・避難指示を待っていては、間に合わない | 2144 | 20.0 | 38.2 | 30.9 | 4.6 | 6.3 |

| | | | | | | |
|--|------|------|------|------|-----|-----|
| (P) 現代の科学技術の水準では、どのような水害が発生するか厳密に予測するのは難しい | 2144 | 35.5 | 41.7 | 12.7 | 4.5 | 5.6 |
| (Q) 行政の水害の浸水想定はあくまで目安にすぎない | 2144 | 38.6 | 44.1 | 9.1 | 2.5 | 5.6 |

E 最後にあなた御自身とご家族のことについてお伺いします

F1 あなたの家の住居について教えてください。1つだけ○をつけてください。

| | |
|---------------------|----------|
| | % |
| 木造平屋建て | 12.3 |
| 木造2階建て以上 | 70.6 |
| 木造のアパートやマンション | 3.9 |
| 鉄筋コンクリート平屋建て | .5 |
| 鉄筋コンクリート2階建て以上 | 5.7 |
| 鉄筋コンクリートのアパートやマンション | 3.5 |
| その他 | 1.9 |
| 無回答 | 1.6 |
| | (N=2144) |

F2 あなたは、常総市内のどちらの町にお住まいですか？ 1つだけ○をつけてください。

| | |
|---------|----------|
| | % |
| 上蛇町 | 3.0 |
| 沖新田町 | .8 |
| 三坂町 | 9.3 |
| 若宮戸 | 4.3 |
| 小保川 | 3.6 |
| 豊田 | 5.3 |
| 本石下 | 14.0 |
| 曲田 | 1.2 |
| 平内 | 1.1 |
| 大房 | 3.2 |
| 中山町 | 1.4 |
| 水海道 橋本町 | 10.5 |
| 水海道 森下町 | 8.1 |
| 東町 | .6 |
| 箕輪町 | .7 |
| 長助町 | 1.1 |
| 平町 | .6 |
| 水海道 諏訪町 | 4.9 |
| 水海道 宝町 | 4.1 |
| 水海道 亀岡町 | .8 |
| 水海道 山田町 | 8.5 |
| 水海道 高野町 | 2.2 |
| その他 | 9.4 |
| 無回答 | 1.4 |
| | (N=2144) |

F3 あなたは、常総市にお住まいになってから、おおよそ何年になりますか。

| | % |
|------------|----------|
| 1年未満 | .4 |
| 1年以上3年未満 | 2.0 |
| 3年以上5年未満 | 1.9 |
| 5年以上10年未満 | 4.9 |
| 10年以上20年未満 | 8.3 |
| 20年以上30年未満 | 8.9 |
| 30年以上50年未満 | 25.5 |
| 50年以上 | 43.6 |
| 無回答 | 4.6 |
| | (N=2144) |

F4 あなたや同居するご家族などに避難時に手助けを必要とする人はいますか？
あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

| | % |
|------------------------|---------|
| 自身が避難時に手助けが必要 | 2.4 |
| 避難時に手助けが必要な家族がいる | 26.3 |
| 自身も同居する家族も避難時に手助けは必要ない | 77.6 |
| | (N=890) |

F5 あなたや同居している方について、以下の項目を教えてください。また、回答者の方は回答者欄に○を付けてください。

(省略)

最後に今回の災害を受けて、防災上の教訓として考えること、ご意見などはありますか。
ご自由にお書きください。

(省略)

ご協力ありがとうございました。

地震災害は現在バイアスを強めるかー熊本地震災害を事例として
May Disaster Strengthen the Present Bias?
～A Case Study of the Kumamoto Earthquake～

田中 淳*1 小林秀行*2
Atsushi Tanaka Hideyuki Kobayashi

目次

1. 目的と調査概要
 - 1.1 災害と心的影響
 - 1.2 調査概要
 - (1)熊本地震災害の特徴と被害
 - (2)調査対象者と調査方法
2. 基礎的な結果
 - 2.1 現在バイアスの規定因ー属性、被害程度ならびにリスク認知
 - (1)回答者の属性
 - (2)災害被害
 - (3)リスク認知
 - 2.2 現在バイアス
 - 2.3 復興観への影響
3. 熊本地震における住民の復興観と現在バイアス
 - 3.1 復興観と現在バイアス
 - 3.2 現在バイアスの影響
 - 3.3 復興観と現在バイアス
 - 3.4 まとめ

本稿は、科学研究費補助金基盤研究(S)課題番号 26220502「グローバル社会変動下のリスクと暮らし：先端ミクロ経済学を用いた実証・政策研究」(研究代表澤田康幸)の成果を取りまとめたものである。

*1 東京大学大学院情報学環(執筆分担 1, 2)

*2 明治大学情報コミュニケーション学部(執筆分担 3)

1. 目的と調査概要

1.1 災害と心的影響

熊本地震では、2回にわたる震度7が発生し、人的ならびに物的な被害とともに、死に直面するような恐怖を与え、また多発した余震は車中泊に代表される強い不安を被災者にもたらした。本稿では、これらの心的な影響のうち、現在バイアスと呼ばれる、長期的なより大きな利得よりも現在の、それも小さな利得を重視する心的傾向が強まるかどうかを確認し、またこの心的傾向が存在するならばその規定因ならびにこの現在バイアスが災害観や復興観に影響をするかどうかを検討するために実施した調査結果を報告する。

災害が被災者の心に大きな影響をもたらすことは、日本においても多くの研究蓄積がなされてきた。災害の人文社会系研究の源流のひとつである安倍北夫はパニック等緊急時の心的特性に実証研究を積み、「災害心理学序説」（1982）として取りまとめている。また、阪神・大震災以降、「心のケア」あるいは「PTSD (Posttraumatic Stress Disorder)」が社会的にも注目され、i) 北海道南西沖では精神状態においてハイリスク層が多いこと（藤森、1998）、ii) 精神的健康状態が生活再建の見通しに規定されること（田中、2007）などが見出されている。このほか、主観的な復興曲線が提唱されるなど、直後から復興段階までにわたる多様な展開がなされてきた。

本稿では、「瞬時割引率が将来に向かうほど小さくなるような時間割引関数のこと」（盛本、2015:pp.53）である現在バイアスに着目する。なお、現在バイアスには、その他、現在志向バイアス、現志向バイアスなどの名称もあり、十分には統一されていないが、本稿では盛本の定義を援用しつつ、現在バイアスという名称を用いることとする。さて、この現在バイアスに関して、Sawada & Kuroishi (2015a,b) は、Ashraf, Karlan and Yin (2006)の尺度に基づき、大規模災害の被害を受けた人々が、被災後に現在バイアスの影響を受けることを東日本大震災における宮城県岩沼市での調査から明らかにしている。また、大竹ら（2014）は大阪大学の『くらしの好みと満足度についてのアンケート』のパネルデータを用いた分析から、「2013年になって津波被害を経験した人の中で有意に上昇している」ことを指摘している。本稿では、質問紙調査法を用いた調査で、熊本地震でもこの現在バイアスの高まりが確認できるかどうかを第1の目的とする。

さらに第2の目的は、現在バイアスが高くなるならば、その規定因を特定することである。災害を経験することで現在バイアスが高まるにせよ、その程度には個人差が想定される。現在バイアスと属性とについては、熟慮性や利那性などが想定される（嶋田、2010）。また、災害体験が現在バイアスを高めるならば、被害の程度が激しいほど効果は大きいはずである。また、心的な脆弱性から見れば、地震発生を予期していた人の方が抵抗力は強いはずであり、災害リスクを高く見ていた人や地震発生の予期が高かった人の方が影響を受けにくく、逆にリスク認知が低かった人や地震発生を予期していなかった人の

方が現在バイアスを高めやすいことが予想される。

第3に、現在バイアスが増加すると災害発生後の判断、つまり復興過程での意思決定については合意形成の容易さに影響しうるのかどうかを確認することを目的とする。具体的には、災害で現在バイアスが高まると、復興過程において長期的な利得よりも短期的な利得を優先することが予測される。また、復興過程では種々の対立軸が想定されるが、現在バイアスに関わるものとしては、迅速な復興と熟慮され調整が取られた復興とが代表的なものである。

本稿で分析した調査の変数群については、図1.1.1に示したように、現在バイアスを中核に、まずはその規定因である属性、被害程度ならびにリスク認知の説明変数群があり、今度は現在バイアスが影響を与え得る復興観や地域合意に関わる変数群が設定されている。



図 1.1.1 調査における概念変数間の関係

1.2 調査概要

(1) 熊本地震災害の特徴と被害

調査地点を選定する前提として、まずは熊本地震災害の特徴と被害とをまとめておくことにする。

2016年熊本地震災害では、いろいろな特徴を指摘することができるだろうが、とりわけ注目された点は、立て続けに2回の最大震度7の強い地震が発生したことであろう。まず4月14日21時26分には、北緯32度44.5分、東経130度48.5分、深さ11km（暫定値）を震源とするマグニチュード6.5（暫定値）が発生し、震度7を熊本県益城町で観測したほか、震度6弱を熊本市東区、西区、南区、玉名市、宇城市、西原村、嘉島町で観測した。

そのわずか28時間後の4月16日1時25分には、北緯32度45.2分、東経130度45.7分、深さ12km（暫定値）を震源とするマグニチュード7.3（暫定値）の地震が発生した。その結果、震度7を益城町で再び観測し、西原村でも震度7を記録した。熊本県南阿蘇村、菊池市、宇土市、大津町、嘉島町、宇城市、合志市、熊本中央区、熊本東区、熊本

西区で震度6強を記録したほか、福岡県福岡市南区でも震度5弱を記録するなど、広い範囲にわたって強い揺れに見舞われた。

この2回の地震に加え、震度6強が2回、震度6弱が3回、震度5強が5回、震度5弱：12回、震度4が116回と強い余震が続き、震度1以上を観測する地震が4,191回発生（12月13日24時現在）するという余震の多さも、また熊本地震災害の大きな特徴といえよう。

この地震の発生状況は地盤の弱さと相まって、人的被害は熊本県で関連死を含め死者が116人、重傷は熊本県の1,068名を中心に、福岡県、佐賀県、大分県、宮崎県にわたる広範囲で発生し、1,087名に達した（12月14日18:00現在）。住宅被害も深刻であり、全壊が熊本県で8,360棟、大分県で9棟の計8,369棟、半壊は32,261棟、一部損壊は7県で146,382棟に達した（12月14日18:00現在）。

(2) 調査対象者と調査方法

調査対象者は、下記表1.2.1に示した震度7を記録した熊本県益城町・西原村ならびに熊本市東区など震度6強を記録した市町村に住むインターネット調査モニターである。また、比較対象として震度5弱を記録した福岡市に住むインターネット調査モニターを対象とした。

調査の目的は母集団の比率を推定することではなく、地域別・性別・年齢別に、地震災害の影響を比較することにあるため、表1.1に示した4グループ毎に性別・年代別に10票ずつ合計100票を目途に回答を得た。

調査方法は調査委会社のモニターを対象としたインターネット調査であり、調査は2016年12月上旬に実施した。

回収数は、グループ③が98票で、残りの3グループは100票の398票であった。このうち、10票は現住所は対象市区町村であるが、地震発生当時は対象市区町村外であった。たとえば、福岡市100票について、現住所は全員が中央区・東区であるものの、発災時には博多区など中央区・東区以外が4票含まれていた。同様に益城町等および熊本市中央区・西区・南区も3票が発災時には該当地区外に住んでいた。このため、地震発生時の地域分類を中心に結果を取りまとめた単純集計および付表1単純集計表からは除いて分析した。他方、3章の現在バイアスの分析部分では、当時の住所の地域別ではなく被害程度や現在

表 1.2.1 対象市区町村と回収数

| | 現住所 | 発災時 | |
|--------------|-----|-------|-------|
| | | 当該地区内 | 当該地区外 |
| 全体 | 398 | 388 | 10 |
| 熊本市中央区・西区・南区 | 100 | 97 | 3 |
| 熊本市東区 | 100 | 100 | 0 |
| 益城町等 | 98 | 95 | 3 |
| 福岡市中央区・東区 | 100 | 96 | 4 |

バイアスの程度といった個々の状況に応じた分析をしており、住所地域の影響が少なく、より多くの回答を含めるため 398 票全体を用いた。

2. 基礎的な結果

現在バイアスの規定因および復興観への影響については次項で述べることにし、本第2章ではその前提となる基礎的な結果について、(1)現在バイアスを規定する可能性のある属性、被害程度ならびにリスク認知に関する単純集計結果、(2)現在バイアスに関する単純集計結果、ならびに(3)復興観に関する単純集計結果を紹介していく。

2.1 現在バイアスの規定因－属性、被害程度ならびにリスク認知

(1)回答者の属性

男性 48.5% (188 名)、女性 51.5% (200 名) とほぼ同比率であり、年代も 20 代 19.3% (79 名)、30 代 19.8% (77 名)、40 代 20.4% (79 名)、50 代 20.4% (79 名)、60 代・70 代 20.1% (78 名) とこれもほぼ同比率となっている。これは、実際の男女比や年齢分布ではなく、性・年齢各層が等しい出現率となるように割りつけたためである。この割り付けは、母集団全体の分布推定よりも、ライフステージによって災害の影響には違いがある可能性を配慮し、比較可能とするために採用した。

住宅については、全体的には持家が多く、一戸建てが 47.9%、集合住宅が 20.9% と 7 割近くが持家であった。なかでも、益城町等では持家比率が 76.8% と高く、戸建てが大半を占めており、逆に福岡市では集合住宅が 40.6% と高く、戸建ての 18.8% を大きく上回っている。民間賃貸住宅は 25.5%、公営住宅が 3.4%、社宅その他 2.3% となっているが、福岡市では民間賃貸住宅が 35.4% と多く、益城町等では 16.8% と少ない。

地域のまとまりをどのように評価しているかについては地域に対する評価であり、必ずしも個人属性ではないが、地域規範の認知という個人的な変数とみることできる。全体的な傾向についてみると、「かなりまとまっている」が 2.8%、「ややまとまっている」が 40.7% となっている。他方、「余りまとまっていない」が 30.7%、「全くまとまっていない」が 6.4% と若干ではあるが、まとまっていると認知している人が多い。その一方で、「わからない」が 19.3% に達しており、これらの人は地域とのつながりが弱い層と考えられる。つまり、まとまっていないと感じている層とまとまりの程度が分からないというつながり

表 2.1.1 地域のまとまり

| | とまか 思っ な うて り いま ると | とまや 思っ や うて ま いと る | いまあ とっ ま 思 て り う いま なと | なとま いま つ と つ た 思 て く う いま | わ か ら な い |
|----------|---------------------------------------|--------------------------------------|--|---|-----------------------|
| 全体 | 2.8 | 40.7 | 30.7 | 6.4 | 19.3 |
| 熊本市中央区ほか | 1.0 | 36.1 | 34.0 | 4.1 | 24.7 |
| 熊本市東区 | 3.0 | 42.0 | 33.0 | 5.0 | 17.0 |
| 益城町等 | 3.2 | 50.5 | 24.2 | 7.4 | 14.7 |
| 福岡市 | 4.2 | 34.4 | 31.3 | 9.4 | 20.8 |

の弱い層と合わせると、過半数を占めている。九州第1の都市福岡と政令市である熊本市、その近郊を中心とする都市化の進んだ地域といえよう。

現在バイアスと関連する性格特性として熟慮性尺度の結果を図 2.1 に示した。図 2.1.1 に示した項目のうち、上の2つの項目の「先の心配よりも今を楽しみたい」や「じっくり考えるのは性に合わない」は逆転項目であり、当てはまらないほど熟慮性が低い傾向を、それ以外の項目は当てはまるほど熟慮性が高い傾向を意味する。熟慮性の高い方を青で塗りつぶし、かつその比率を図中に示した。全般にみると、熟慮性の傾向に「良く」当てはまる人が1割程度、「やや」当てはまる人が4割程度と、合わせると過半数を占める。ただし、「先の心配よりも今を楽しみたい」という項目のみ「良く」あるいは「やや」当てはまるという人が3割を超えている。

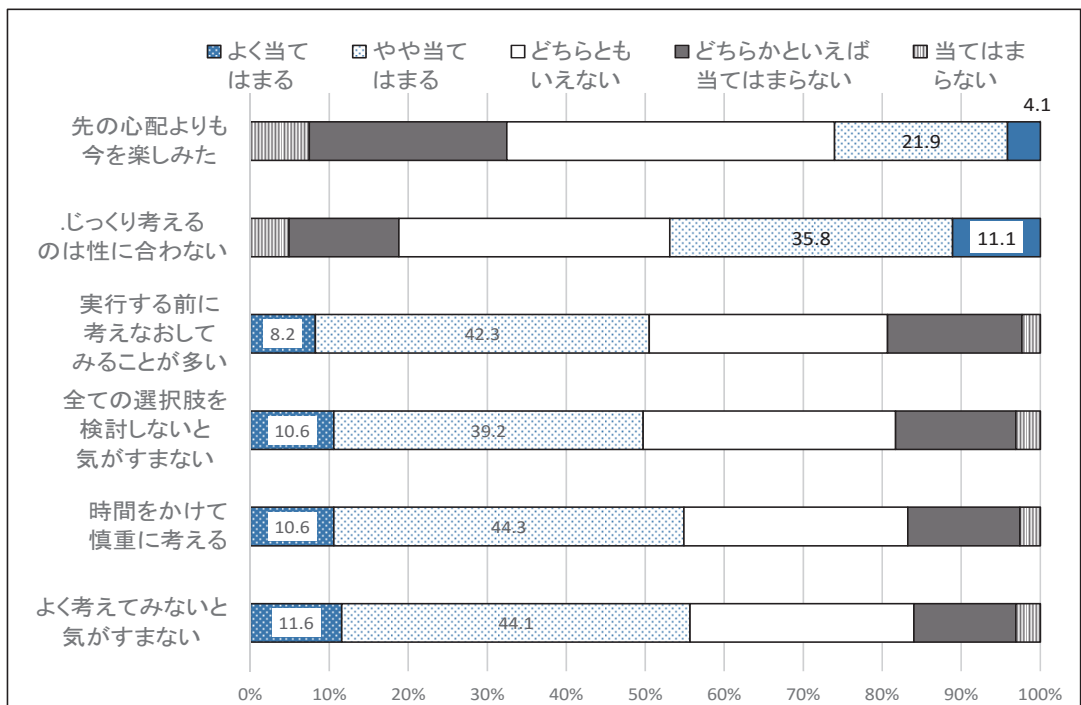


図 2.1.1 熟慮性尺度の個別項目の分布

(2) 災害被害

つぎに、熊本地震による被害を見ると、物的被害は熊本市や益城町等では多く、福岡市では少ない。福岡市では94.8%が被害を受けていないと回答しており、家具の転倒3.1%、壁や瓦の被害が1件あっただけで終わっている。これに対して、図 2.1.2 に示したように、熊本市では9割程度の人が、益城町等では8割強が何らかの被害を受けている。停電や断

水、ガスの供給停止などライフライン被害は熊本市で 77%、益城町等で 54.7%と多い。

なお、既往災害として 2012 年に発生した平成 24 年 7 月九州北部豪雨があるが、今回の回答者の 84%が被害を受けていないとしている。しかし、全壊被害こそ 1 名と少なかったものの、大規模半壊が 11 名、床上浸水 1 名、床下浸水 9 名と直接的な被害を受けている人がいる。このほか、その他の被害を受けた人が 40 名いるが、その内容は半壊 4 件、一部損壊 11 件と甚大な被害も含まれていたほか、雨漏りや車被害、敷地内に浸水、家具に被害などが上げられていた。

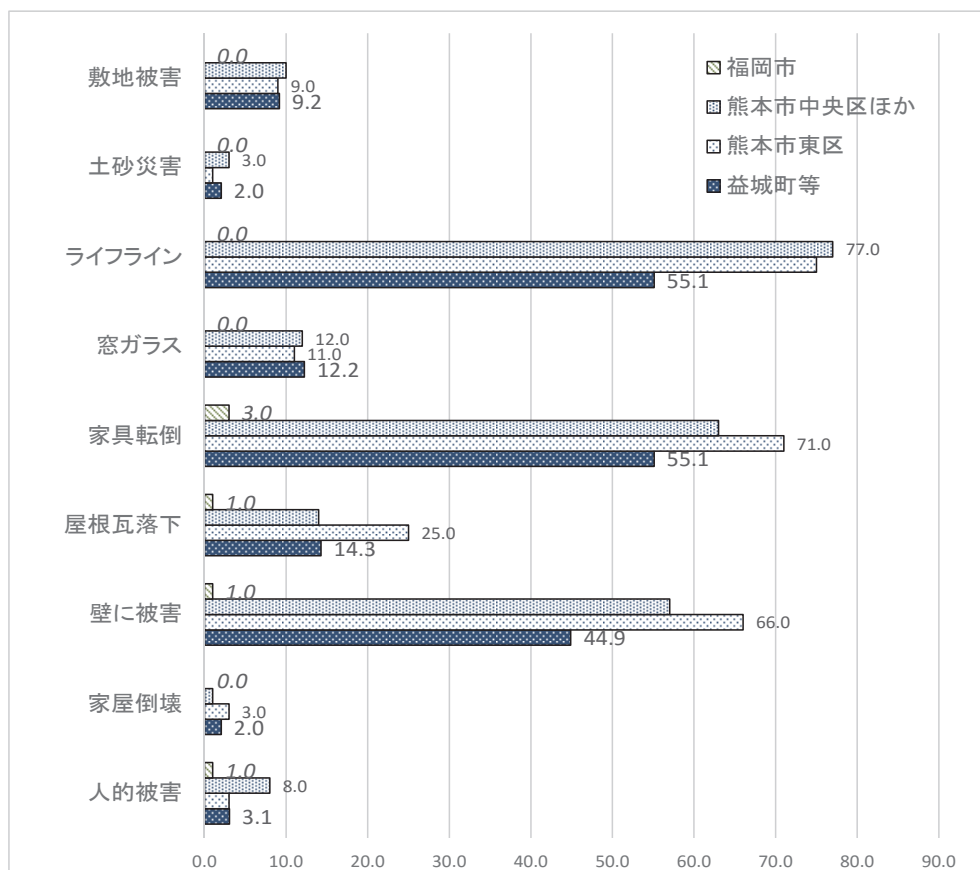


図 2.1.2 被害の内容

これらの物的被害に加えて、地震災害による心的影響も当然予想される。そもそも本研究の枠組み自体、物的被害が社会的関係や心的影響を生み、そのひとつが現在バイアスを仮定していた。このうち、心的影響については、既存の心理尺度から、災害後のストレス症状を評価する外傷後症状尺度（PTSS-10）を参考に 9 項目からなる 5 点尺度の結果を図 2.3 に示した（堀、2001a、pp125-127）。

全体的な傾向を図 2.1.3 左側の a) に示したが、9 項目のいずれにも「当てはまるものは

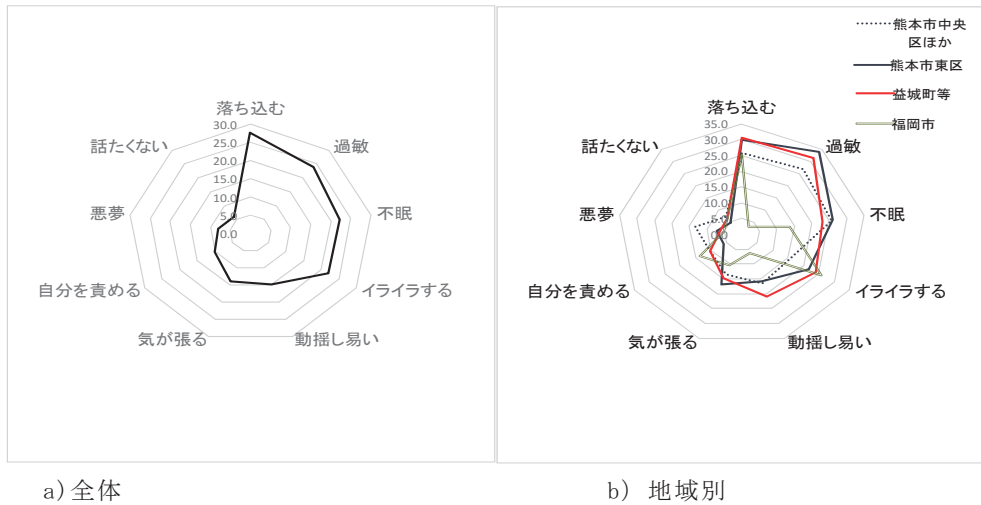


図 2.1.3 ストレス状況

ない」とした人が 39.9%と一番多い。9 項目それぞれの選択率で見ると、「気分が落ち込むことがある」が 27.8%が一番高く、「ちょっとした音や動きにとっても驚いてしまう」が 24.4%、「よく眠れないことがある」22.2%、「イライラすることが多い」21.9%と続いている。逆に、「人と話をする気にならない」(6.2%)や「悪い夢を見てうなされることがある」(8.0%)の選択率が低い。地域別にみると、益城町等および熊本市東区で選択率が高く、福岡市では全般に低い。とくに「ちょっとした音や動きにとっても驚いてしまう」や「気持ちが動揺しやすい」の選択率は福岡市では低い。ただし、イライラするや自分を責めるという項目は福岡市と熊本県の激震地と大きな差はない。多くの項目で、ストレスは熊本県で高い傾向にある。

災害後の心的健康状態が悪化するひとつの原因は、正当世界観が崩れることが指摘されている。正当世界尺度を参考にして、「この世の中では、努力はいつか報われるようになっている」と「この世の中では、悪いことをしたものは必ずその報いを受ける」の2項目を設定した(堀、2001b、pp. 377-379)。その結果は、努力は報われることに対して「そう思う」が 8.3%、「まあそう思う」が 48.7%と過半数を占め、悪いことをすれば罰せられるにはそれぞれ 16.8%と 44.7%であり、賛同は 60%程度に達している。いずれも熊本市中央区ほかで高い傾向があり、福岡市で悪いことをすれば罰せられると考える人が若干少ない傾向にあるが、一貫した大きく差のある結果とは言い難い。

将来に対して楽観的である程度についてみると、図 2.1.4 に示したように、全般的に高くはない。地域別にみても、熊本市東区および益城町等で若干悪い程度であり、地域差あるいは災害の影響に顕著な差はない。

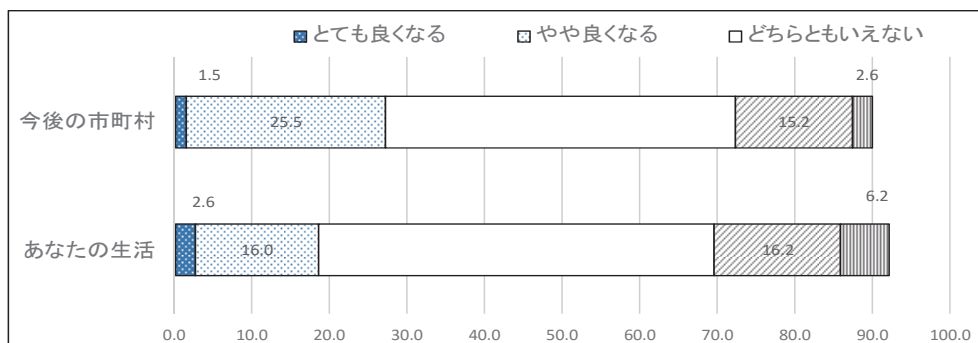


図 2.1.4 将来への楽観性

(3) リスク認知

熊本地域では地震が少ないと思われてきたとされるが、「今回の地震が起こる前に、あなたがお住まいの地域に地震が起こると思って」いたかをみると、図 2.1.5 に示したように、全体でみれば「必ず起こると思って」「おそらく起こると思って」という人は合わせても 2 割程度と少なく、「たぶん起こらないと思っていた」人が 30.7%、「起こらないと思っていた」人が 22.9% と過半数を占める。加えて、「考えたことがなかった」人が 26.5% いることも注目される。熊本市や益城町等と比べると福岡市では 35.4% の人が「おそらく」または「必ず」地震が起こると思っており、地震発生の予期の程度は高かったことになる。地震が起こることを予期していなかった人では、発生を予期していた人と比べて、実際に災害が発生した際により強い影響を受ける可能性を考えると、熊本県の居住者の方が揺れが強かったことと合わせて心的ストレスが高まり、復興観といった価値変化も強くなる可能性を仮定したが、前述したように心的ストレスでは顕著な差は認められなかった。

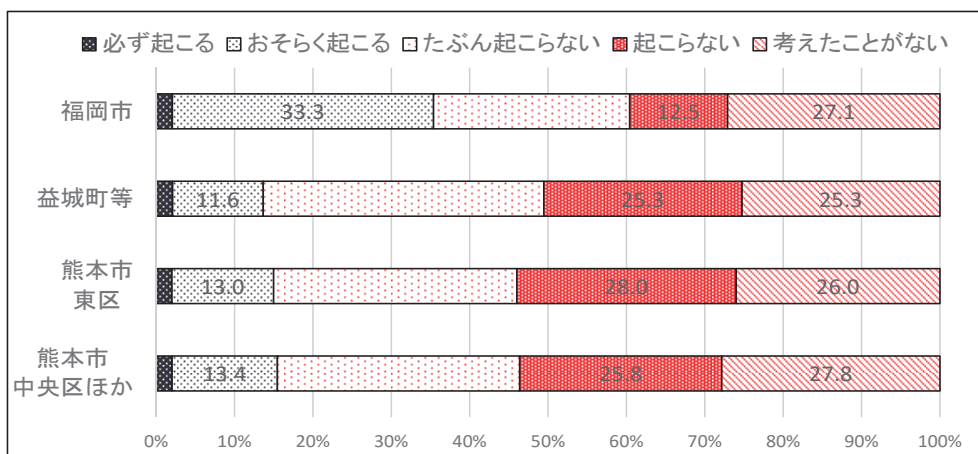


図 2.1.5 災害発生認知

地震が発生するおそれと関連して、今回の熊本地震災害を引き起こした布田川―日奈久断層帯は、政府の地震調査研究推進本部が長期評価結果を事前に発表していた旧知の断層帯であった。しかし、残念ながら直接的な影響を受ける熊本市や益城町等でも、図 2.1.6 に示したように、この評価結果について知らなかったという人が過半数を占める。逆に、「よく知っていた」と回答した人は一番高い益城町等でも 4.2%にとどまり、「ある程度知っていた」と合わせても 2 割に達していない。益城町を対象とした調査ではそれぞれ 16.5%、28.1%という結果もある（SRC、2016）。今回の調査でも益城町に限ると 6 人中 1 人がよく知っていた、2 人がある程度知っていたと回答しているものの対象者数が少なすぎることから、地域差のある可能性を前提としつつも、残念ながら熊本県全体で見れば政府の地震調査研究推進本部の公表結果は高かったとは言えなかったことを示唆する結果である。

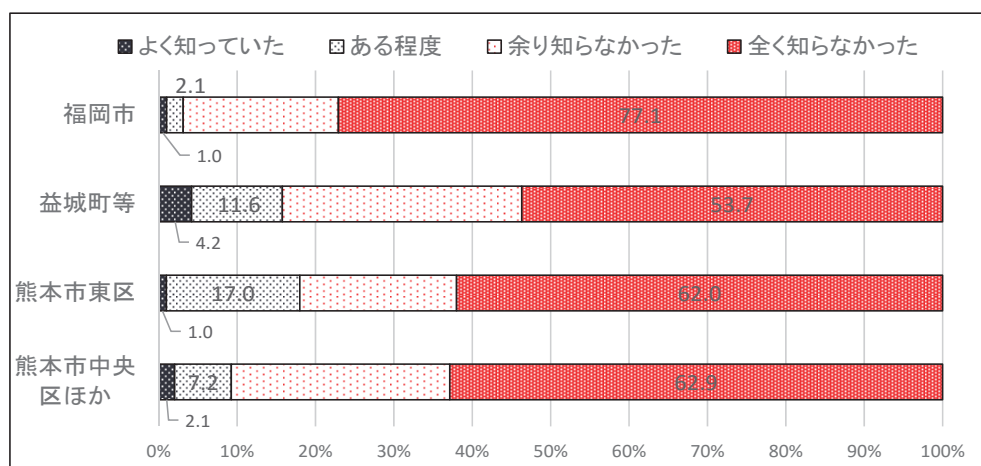


図 2.1.6 地震調査研究推進本部公表の布田川―日奈久断層帯の長期評価結果の認知

地震の発生への予期が全般に低いことを反映して、家庭の地震対策実施率は決して高くはない。図 2.1.7 に示したように、全体で見ると「何もしていなかった」人が 50.3%と過半数を超えている。

対策実施率が一番高かった項目は「地震保険に入っていた」で 30.9%、「家具を固定していた」14.9%、「非常持ち出し品を用意していた」13.7%、「家族の連絡方法や待ち合わせ場所を決めていた」8.2%。「自宅を耐震化していた」人は 5.7%と少なく、「耐震化をする必要のない家に住んでいた」の 4.9%を合わせても 1 割程度にとどまる。

地域別に見ても大きな差はなく、地震発生の予期は福岡市が高かったが、だからといって地震対策の実施率が高かったわけではない。むしろ、地震保険の加入率は 21.9%と熊本市などと比べて低い。

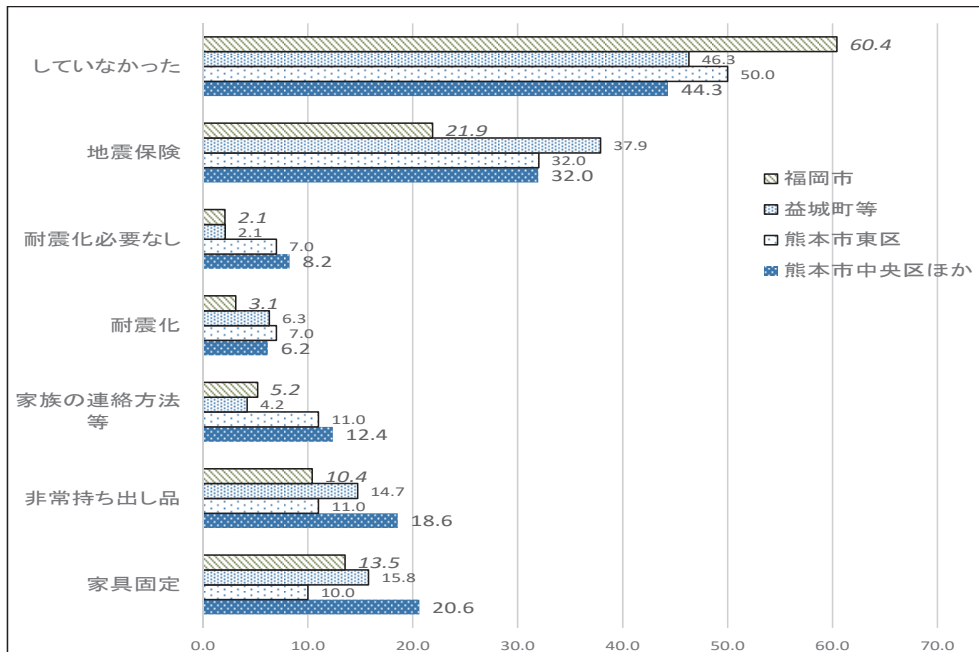


図 2.1.7 地震対策の実施率

2.2 現在バイアス

つづいて、現在バイアスに関する結果を紹介する。図 2.2.1 に全体としての傾向を示した。図中の左側は、「今 2 万円をもらうのと、1 ヶ月後に 2 万 5 千円をもらうのとどちらが良いですか」という問いに対して、86.9%が 1 ヶ月後の 2 万 5 千円を選んでいる。この結果は、現在バイアス傾向の無い人が大半を占めていることになる。逆に 2 万円を選んだ人は 13.1%であり、これらの 2 万円を選んだ人にはさらに「もし、1 ヶ月後に 3 万円もらえるとすればどうですか」と追加質問をしている。それでも 2 万円を選んだ人が 5.7%で、残りの 7.5%は 3 万円を選んだ。つまり、1 ヶ月後の 3 万円と比較しても今の 2 万円を選んだ人は現在バイアスが高い人と分類され、1 ヶ月後の 2 万 5 千円と比べれば今の 2 万円を、しかし、1 ヶ月後に 3 万円になるなら待つという人は弱い現在バイアスの人と見ることができる。

同様に、6 ヶ月後の 2 万円と 7 カ月後の 2 万 5 千円とを比べると、1 ヶ月待つて 2 万 5 千円を選ぶ人が 85.9%と、やはり現在バイアス傾向の無い人が大半を占めていることになる。2 万円を選んだ 13.4%は、3 万円と比べても今の 2 万円を選んだ 3.4%と 3 万円を選んだ 10.1%とに分かれた。今と 1 ヶ月後に対して、6 か月後と 7 カ月後の 1 か月の差は、今と 1 ヶ月後との差よりも小さくなっているようだが、基本的には少しでも多くもらうために 1 カ月程度は待つ傾向にあることがわかる。

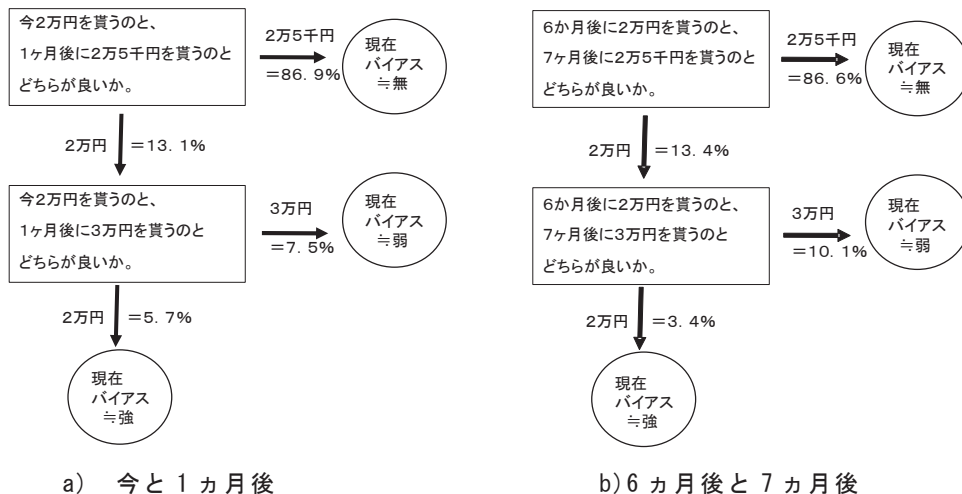


図 2.2.1 現在バイアス

これを地域別に見たのが図 2.2.2 である。図左側の a) に示した、今の 2 万円選んだ現在バイアスの強い人が益城町等で若干多いが、同じ益城町等でも b) の 6 ヶ月後の 2 万円と 7 ヶ月後の 2 万 5 千円とでは選択率は少なく、一貫した傾向を読み取ることはできない。

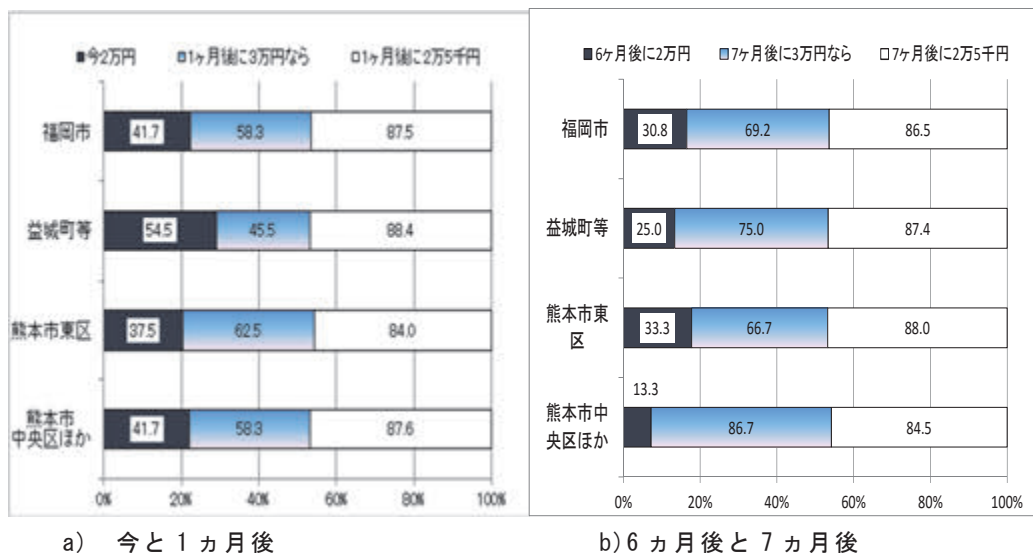


図 2.2.2 地域別に見た現在バイアス

この現在バイアスの直接的な指標に加えて、熊本市および益城町等については、実際に発生した「熊本地震の復興財源として、あなたがお住まいの市町村が地方債を発行」するとしたらどう思うか、また福岡市の居住者に対しては、想定で「あなたがお住まいの地域

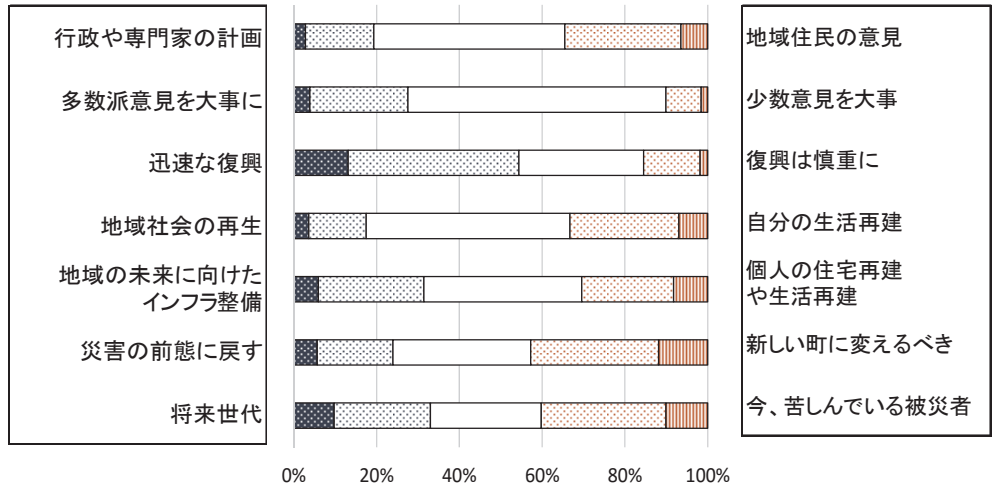


図 2.3.1 復興観

3. 熊本地震における住民の復興観と現在バイアス

3.1 復興観と現在バイアス

本章では、復興観、すなわち調査協力者が復興についてどのような方針で進めるべきかという考え方が、現在バイアスによって影響を受けているのかという点について検討を行っていきたい。

前述した盛本による定義によれば、現在バイアスは、合理的にはできるだけ長期間を待つことで瞬時割引率を下げるのが望ましいにもかかわらず、瞬時割引率が高く、受け取れる利益が少なくなることを甘受してでも短期間のうちに利益を実際に確保しようとする傾向のことをいう。この現在バイアスが、Sawada & Kuroishi (2015a, b) が見出したように災害後に強まることが事実であるとすれば、災害研究における含意はすぐれて大きいものといえることができる。なぜなら、近年の災害復興では、住民主体の復興として住民意見を十分にくみ上げた復興のあり方が重要視されてきているためである。大規模災害の被災地では復興のあり方を規定するため、被災自治体によって復興計画が策定される場合があり、この計画は一般に災害から1年程度の基幹で策定がなされる。計画策定の際には、住民アンケート調査、住民懇談会、住民説明会、パブリック・コメントの募集、計画案の縦覧などの形で被災者である住民の意向を明らかにし、計画へと反映させる過程が踏まれる。

このとき、復興によって新たに作り出される町は、社会情勢や町の状況、すなわち少子高齢化やバリアフリー化などの社会環境の変化に対応したものとなるのが望ましく、そのために計画に十分な検討機関を設けようとする熟慮型復興の重要性が指摘されている(牧, 2013)。

しかし、我が国においては戦後の経済発展における公共事業投資の一部を、防災施設や災害復興として行ってきた経緯から、「基盤整備型近代復興概念」(小泉, 2015:160) と称されるような施設整備を重視した土木事業の展開が称揚されてきた経緯があり、そのために復興計画の策定は迅速化が旨とされてきている。被災者の視点からみても、被害をうけた住宅や都市基盤が迅速に復旧されることに対する異論が出ることはなく、我が国においては現在に至るまで迅速性を重視した復興が行われてきているが、一部ではこうした熟慮型復興に理解を示し、十分な議論を経て住民独自の復興計画を策定しようと取り組む被災者団体の事例も、近年ではみられてきている(小林, 2014)。

このとき、もし被災者が、災害を経験したことによって現在バイアスの影響を受けているとすれば、迅速な災害復興を重視する傾向が維持され、熟慮型復興への転換が十分に進まない原因の1つを、このような現在バイアスから説明できる可能性がある。住民の持つ復興のあり方についての考え方、すなわち復興観が、現在バイアスの影響を受けている場合、住民意見をくみ上げようとする復興計画の策定過程の中で、復興計画に対する迅速性の希求が、むしろ強化されてしまう可能性もある。本章では、このような現在バイアスの

影響によって、被災者の復興観が迅速性を希求する傾向を示しているという仮説を検証するため、調査結果の分析から現在バイアスが復興観に与える影響を検討してみたい。

3.2 現在バイアスの影響

単純集計結果については、すでに見てきたとおりであるが、ここでは現在バイアスを測定するための時間割引率に関する2つの質問を用いて、調査協力者を現在バイアスの強度から分類する。そのうえで、現在バイアスが復興観にどのように影響を与えているのかを明らかにする。

時間割引率に関する質問としては、「今2万円をもらうのと、1ヶ月後に2万5千円をもらうのとどちらが良いですか」および「6ヶ月後に2万円をもらうのと、7ヶ月後に2万5千円をもらうのとどちらが良いですか」の2つの質問を実施した。金額が割引かれても、より短期で利益を確保したいという回答、つまり「今」「6か月後」という回答をした場合は現在バイアスの影響を受けていると捉えられる。逆に、割引かれることを回避しようとする回答、つまり「1か月後」「7か月後」という回答をした場合は、現在バイアスの影響を受けていないと捉えることができる。

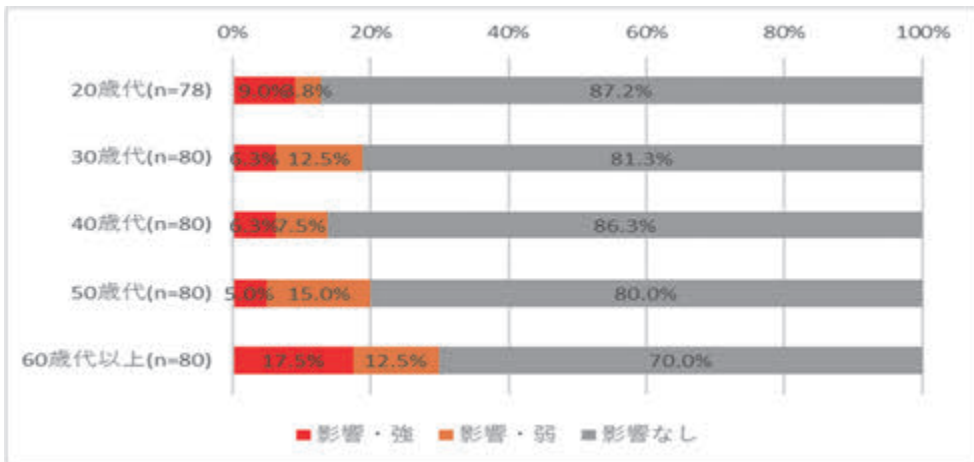
これらの質問に対する回答は、表3.2.1のようになった。「今」「6か月後」の組み合わせで回答した調査協力者は現在バイアスの影響が強く、「1か月後」「7か月後」の組み合わせで回答した調査協力者は、バイアスの影響を受けていないと捉えた。また、片方の質問に対して「今」「6か月後」という回答をしたにもかかわらず、他方の質問で「1か月後」「7か月後」と回答した場合は、現在バイアスの影響をやや受けているものとして捉えた。

この結果から、現在バイアスの影響から調査協力者を3分類したところ、「影響・強」が35(8.8%)、「影響・弱」が41(10.3%)、「影響なし」が322(80.9%)となった。

表 3.2.1 現在バイアスの影響程度

| | 6か月後の2万円 | 7か月後の2万5千円 |
|------------|----------|------------|
| 今の2万円 | 35(8.8%) | 20(5.0%) |
| 1か月後の2万5千円 | 21(5.3%) | 322(80.9%) |

まず、年代についてみると、60歳代以上では、「影響・強」群が17.5%を占めており、他の年代に比べて10ポイント以上高くなっている(図3.2.1)。また、20歳代でも「影響・強」群は9.0%と60歳代以上ほどではないものの、他の年代に比べると3ポイント程度高くなっている。このことから、経済的な基盤が弱体な層ほど、現状維持バイアスの影響を受けており、時間割引があつたとしても、より短期のうちに利益を獲得することを望んでいるとみることができる。

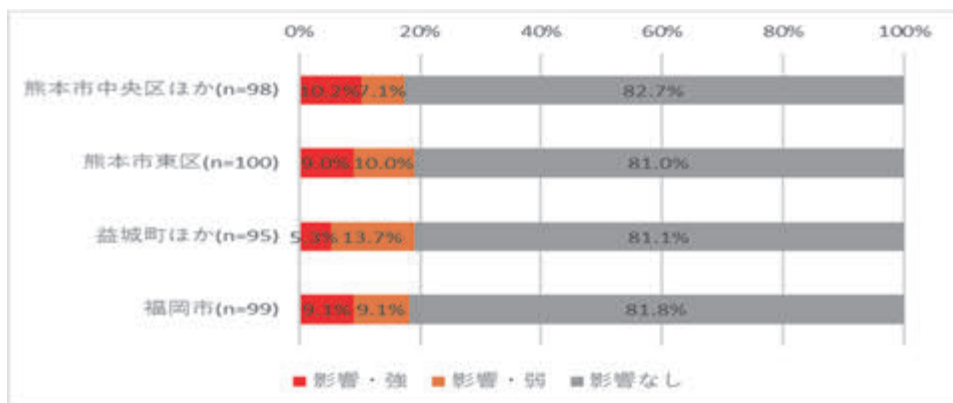


(5%水準で有意)

図 3.2.1 年代（10 歳階級）からみた現在バイアスの傾向

次に、熊本地震の被災経験が調査協力者の現在バイアスを高めたかについて、現在バイアスを調査地点別および被害程度別にみた。

調査地点別では、現在バイアスはいずれの調査地点でも全体の 2 割程度が現在バイアスの影響を受けているという結果となっており、調査地点間での有意差はみられなかった(図 3.2.2)。「影響・強」群にのみ注目してみても、被害の激しい益城町などでは 5.3%と他の地区に比べて低く、逆に被害が軽微であった福岡市が 10.2%と最も高くなっている。



(有意差なし)

図 3.2.2 調査地点別にみた現在バイアスの傾向

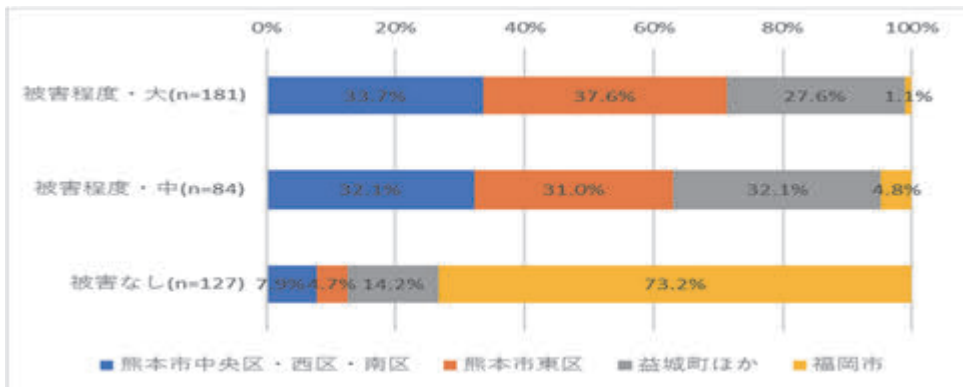
次に、被害程度から現在バイアスの影響をみた。被害については、選択肢を下表 2 の通り用意した。

表 3.2.2 熊本地震の被害に関する質問文

| |
|-----------------------------------|
| Q2.今回の熊本地震で、ご自宅に被害を受けましたか。(いくつでも) |
| 1. けがなどの人的な被害があった |
| 2. 家屋が倒壊した |
| 3. 家の壁にひびが入ったりはがれ落ちた |
| 4. 屋根のかわらが落ちたりずれた |
| 5. 家のタンスや本棚が倒れた |
| 6. 窓ガラスが割れたり外れたりした |
| 7. 停電や断水、ガスの漏れ・停止があった |
| 8. 土砂災害があった |
| 9. 敷地で地くずれがあった |
| 10. 上記のような被害はなかった |

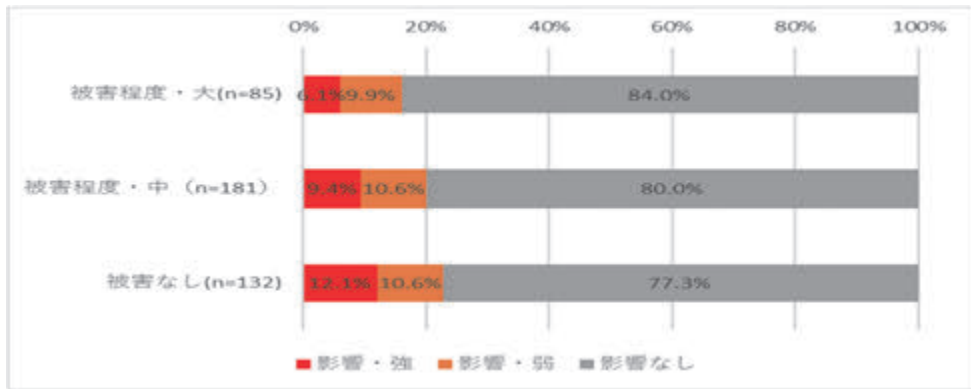
このうち、「けがなどの人的な被害があった」「家屋が倒壊した」「家の壁にひびが入ったりはがれ落ちた」「敷地で地くずれがあった」のいずれかに回答があった調査協力者を「被害程度・大」、「屋根のかわらが落ちたりずれた」「家のタンスや本棚が倒れた」「窓ガラスが割れたり外れたりした」「停電や断水、ガスの漏れ・停止があった」「土砂災害があった」と回答した調査協力者を「被害程度・中」、「上記のような被害はなかった」と回答した調査協力者を「被害なし」に分類したところ、「被害程度・大」が 181 (45.4%)、「被害程度・中」が 85 (21.3%)、「被害なし」が 132 (33.2%)となった。

なお、被害程度を地点別にみた場合、図 3.2.3 のように、被害なしの 73.2%を福岡市が占めており、被害程度・大および中に関しては、熊本市中央区・西区・南区、熊本市東区、益城町ほかという 3 地点でほぼ等分されている結果となっている。この分類について、現在バイアスの傾向を見たところ、図のような結果となった。被害程度による有意差はみら



(有意差なし)

図 3.2.3 地点別にみた被害程度



(有意差なし)

図 3.2.4 被害程度別にみた現在バイアスの傾向

れなかったものの、被害程度の大きい調査協力者ほど、現在バイアスの影響を受けている割合が若干ながら低い傾向がみられた。

このことから、熊本地震の被災経験や被害程度によって調査協力者に現在バイアスの影響が生み出されているということは難しく、本調査から現在バイアスを生み出す要因を明らかとすることは出来なかった。本調査において現在バイアスの影響がみられた調査協力者は、調査協力者が被災によって現在バイアスの影響を受けるようになったというよりも、地震以前の日常生活において、すでに現在バイアスの影響を受けていた調査協力者が、地震後においてもその影響を受け続けている場合が多いものと推察される。

3.3 復興観と現在バイアス

以上のように、本調査の結果からは熊本地震の経験が現在バイアスを生み出したわけではないものと考えられるが、参考として、現在バイアスの影響を受けている調査協力者と影響を受けていない調査協力者の間にみられる復興観の差異についても触れておきたい。

本調査では、現在バイアスが調査協力者の復興観にどのような影響を与えているかを見るために、一対比較法を用いて復興の方針に関する7つの質問を行った。その結果、3つの質問について、現在バイアスの影響による有意差がみられた。なお、行った質問は下表3.3.1のとおりである。

分析に際しては、「影響・強」群と「影響・弱」群を合成して、現在バイアスの「影響あり」群(19.1%)の形に操作し、「影響なし」群(80.9%)との2値変数とした。7つの質問のうち、有意差がみられたのは3つ、「A 将来世代を考えた地域復興を重視すべき - B 今、苦しんでいる被災者の自宅や仕事を重視すべき」「A 地域社会の再生は重要なので、B 自分の生活再建が大きく遅れても取り組むべき - 地域社会の再生は重要だが、自分の生活

再建を遅らせてまで取り組むべきではない」「A 復興は迅速さを優先すべき — B 復興は慎重に進めるべき」であった。

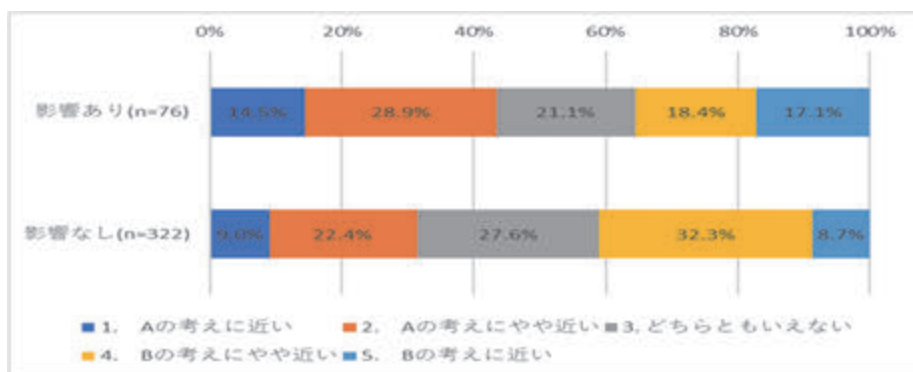
表 3.3.1 復興の方針に関する質問文

| |
|---|
| <p>"復興をどのように進めるかについて、いろいろな意見があります。次の (1) ~ (7) までそれぞれどのように思われますか。あなたの考えに最も近いものを1つお選びください。(それぞれひとつだけ)"</p> <p>1.将来世代を考えた地域復興を重視すべき-今、苦しんでいる被災者の自宅や仕事を重視すべき"</p> <p>2.災害の前の状態に戻すことを優先すべき-災害を契機に新しい町に変えるべき"</p> <p>3.公的支援は地域の未来に向けたインフラ整備を手厚くすべき-公的支援は個人の住宅再建や生活再建を手厚くすべき"</p> <p>4.地域社会の再生は重要なので、自分の生活再建が大きく遅れても取り組むべき-地域社会の再生は重要だが、自分の生活再建を遅らせてまで取り組むべきではない"</p> <p>5.復興は迅速さを優先すべき-復興は慎重に進めるべき"</p> <p>6.多数派の意見を尊重するべき-少数意見を大事にするべき"</p> <p>7.行政や専門家が作成した計画をもとに復興を考えるべき-地域住民の意見を中心に復興を考えるべき"</p> |
|---|

「A 将来世代を考えた地域復興を重視すべき — B 今、苦しんでいる被災者の自宅や仕事を重視すべき」については、図 3.3.1 のような結果となり、5%水準で有意であった。

「影響あり」群の 43.4%が将来世代の復興を重視しているのに対して、「影響なし」群では 23.5%と 19.9 ポイント高くなっており、現在バイアスの影響を受けている調査協力者ほど、復興を長期的な視点で観得るべきだと回答している。

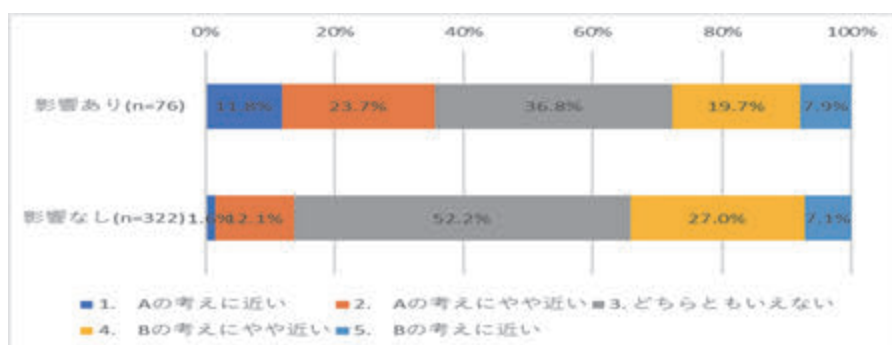
現在バイアスの定義から考えれば、バイアスの影響を受けているのなら、瞬時割引率を甘受しても短期的に利益を確定させようとする傾向を示す、つまり今の被災者である現役世代を重視すべきという回答が選択されるはずであり、この結果は仮説とは異なる結果を示しているといえる。



(5%水準で有意)

図 3.3.1 将来世代を重視すべきか現役世代を重視すべきか

「A 地域社会の再生は重要なので、自分の生活再建が大きく遅れても取り組むべき – B 地域社会の再生は重要だが、自分の生活再建を遅らせてまで取り組むべきではない」については、図 3.3.2 のような結果となり、1%水準で有意であった。「影響あり」群の 35.5% が地域社会の再生を優先すべきと回答しているのに対し、「影響なし」群では 13.7%と 21.8 ポイントの差がみられ、現在バイアスの影響を受けている調査協力者ほど、地域社会の再生が自宅の生活再建よりも重要だと回答している。将来世代か現役世代かを問う質問の結果と同様に、この質問でも「影響あり」群は自分の生活再建を後まわしにしてもかまわないと回答しており、仮説とは異なる結果を示している。

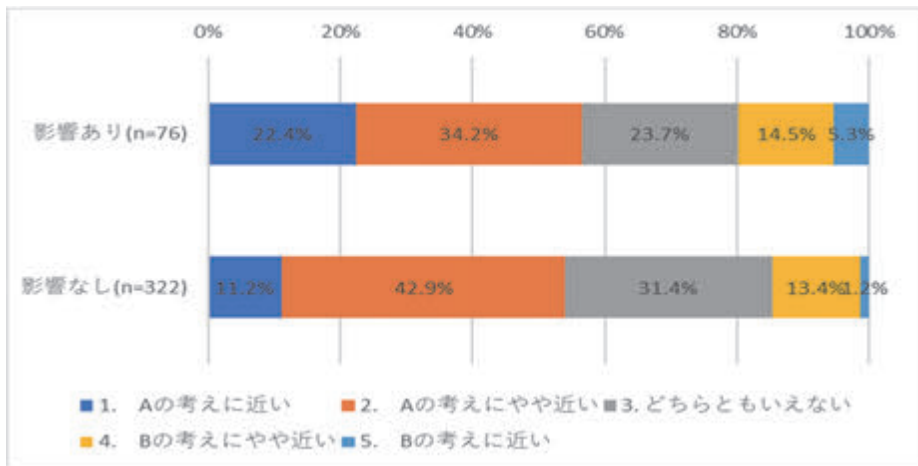


(0.1%水準で有意)

図 3.3.2 地域再生を重視すべきか生活再建を重視すべきか

「A 復興は迅速さを優先すべき – B 復興は慎重に進めるべき」については、図 3.3.3 のような結果となり、5%水準で有意であった。「影響あり」群では 56.6%が迅速さを重視すべきと回答しているのに対して、「影響なし」群では 54.0%とほぼ同様の回答結果となっている。ただし、「A の考えに近い」と迅速性の考えに強く賛成している調査協力者は、「影響あり」群で 22.4%、「影響なし」群で 11.2%と 11.2 ポイントの差となっている。

現在バイアスの影響を受けている調査協力者ほど、迅速性を強く重視しているという結果は、短期的に利益を確定させようとする現在バイアスの傾向に合致していると考えられ、仮説を支持していると考えられる。



(5%水準で有意)

図 3.3.3 迅速性を重視すべきか慎重さを重視すべきか

3. 4 まとめ

以上のように見てきたところ、復興に対する考えにおいても、現在バイアスの影響を受けている回答者は迅速さを望んでいる。したがって、現在バイアスが働いているとき、不確実な未来の利益よりも、割り引かれたものであっても短期的に確定できる利益を 선호するという傾向は、復興観にも影響を与えているものといえる。

ただし、現在バイアスの影響を受けている調査協力者が、反面で「将来世代を重視すべき」「生活再建を遅らせてでも地域再生を進めるべき」など長期的視点に立った復興を重視すべきとも回答しているように、現在バイアスの影響を受けているからといって、調査協力者が単純に迅速性のみが達成されればよいと捉えているというわけではないことも分析からは示された。

この結果を踏まえれば、現在バイアスの影響を受けている被災者は基本的には早期の復興を強く要望しているものの、熟慮型復興の意義を理解できるような場が設けられれば、過度に迅速性を重視した復興へと復興計画が向かっていくことを避けることは十分に可能であるものと考えられる。

もちろん、ここでみてきたのは地震によって現在バイアスの影響を受けるようになった被災者ではなく、被災以前から何らかの要因で現在バイアスの影響をすでに受けている人々についての分析である。被災経験という過酷な体験によって現在バイアスの影響を受けるようになった被災者は、この調査で見られた結果よりも、現在バイアスの影響をより強く受けるようになることも考えられ、その場合には復興に向けて迅速性が強く求められ、熟慮という視点は後置される可能性もある。よって、ここでの分析はあくまで今後の研究に向けた参考としてのものであるということを、最後に改めて明記することとしたい。

参考文献

- 安倍北夫, 1982, 「災害心理学序説」, サイエンス社
- Ashraf, Nava, Kean Karlan, and Wesley Yin (2006), “Tying Odysseus to the Mast: Evidence from a Commitment Savings Product in the Philippines,” *Quarterly Journal of Economics* 121(2), pp. 635-672.
- 藤森立男, 1998, 「長期化する精神健康の問題と自然災害—北海道南西沖地震の被災者、性格心理学研究、第7巻第1号、pp11-21
- 堀洋道監修 『心理測定尺度集Ⅱ』、サイエンス社、2001b, pp. 377-379
- 堀洋道監修 『心理測定尺度集Ⅲ』、サイエンス社、2001a. pp. 125-127
- 小林秀行, 2016, 「復興期のコミュニティ組織における調整機能の維持戦略」『東京大学大学院情報学環紀要 情報学研究』No. 90, pp. 55-69
- 小泉秀樹, 2015, 「復興とコミュニティ論再考 連携協働復興のコミュニティ・デザインにむけて」似田貝香門・吉原直樹編『震災と市民Ⅰ 連帯経済とコミュニティ再生』東京大学出版会, pp. 159-182
- 牧紀夫, 2013, 『復興の防災計画 巨大災害に向けて』鹿島出版会
- 盛本晶子, 2015, 「双曲割引下における家計の消費・貯蓄行動」大阪大学経済学研究科博士学位論文
- 大竹文雄・明坂弥香・齊藤誠, 2014, 「東日本大震災が日本人の経済的選好に与えた影響」『行動経済学』, 第7巻, pp. 92-95
- Sawada, Y. and Y. Kuroishi (2015a), ‘How Does a Natural Disaster Affect People’s Preference? The Case of a Large Scale Flood in the Philippines Using the Convex Time Budget Experiments’, in Sawada, Y. and S. Oum (eds.), *Disaster Risks, Social Preferences, and Policy Effects: Field Experiments in Selected ASEAN and East Asian Countries*, ERIA Research Project Report FY2013, No. 34. Jakarta: ERIA, pp. 27-56.
- Sawada, Y. and Y. Kuroishi (2015b), ‘How to Strengthen Social Capital in Disaster Affected Communities? The Case of the Great East Japan Earthquake’, in Sawada, Y. and S. Oum (eds.), *Disaster Risks, Social Preferences, and Policy Effects: Field Experiments in Selected ASEAN and East Asian Countries*, ERIA Research Project Report FY2013, No. 34. Jakarta: ERIA, pp. 163-199.
- 嶋田美奈, 「現状維持バイアスと心理的特徴の関係—多重債務者の消費行動から—」、パーソナルファイナンス学会年報 (10), 49-59, 2010-09-10

発 行 東京大学大学院情報学環

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1

製 作 株式会社 創志企画

平成29年3月30日